

2016年度(平成28年度)
1・2年次生用

授業計画

履修要項



since 1880

東京薬科大学薬学部

総目次

2016年度(平成28年度)学年暦	6
2016年度(平成28年度)授業日予定表	7
薬学部の教育研究理念	8
三つの方針(薬学部)	9
各科別のカリキュラムポリシー	10
東京薬科大学沿革	11
ラーニングマップ	12
薬学部カリキュラムマップ	14

履修要項	17
------	----

授業計画	33
------	----

薬学教育・モデルコアカリキュラム	235
------------------	-----

五十音順索引	295
--------	-----

I 1年次必修科目

●総合科目

[一般教養]

数学Ⅰ	42
基礎情報学	44
基礎情報学演習Ⅰ	46

[外国語]

英語(講読)Ⅰ	48
英語(コミュニケーション)Ⅰ	49
英語(講読)Ⅱ	51
英語(コミュニケーション)Ⅱ	52

●専門科目

[人間と薬学]

人間と薬学Ⅰ	54
人間と薬学Ⅱ	57

[物理系薬学]

物理学	60
化学平衡論	62
無機化学	64
物理化学Ⅰ	66
分析化学	68
放射化学	70

[化学系薬学]

基礎化学	72
一般化学	74
有機化学Ⅰ	76

[生物系薬学]

機能形態学Ⅰ	78
細胞生物学	80
生物学	82
機能形態学Ⅱ	84
生化学Ⅰ	86

[薬と疾病]

薬と疾病入門	88
--------	----

Ⅱ 2年次必修科目

●総合科目

[一般教養]

基礎統計学 92

[外国語]

薬学英语入門Ⅰ 94

薬学英语入門Ⅱ 95

●専門科目

[人間と薬学]

医療コミュニケーション 96

社会と薬学 98

[物理系薬学]

物理化学Ⅱ 100

臨床分析化学 102

機器分析学 104

物理化学Ⅲ 106

[化学系薬学]

有機化学Ⅱ 108

有機化学Ⅲ 110

[生薬系薬学]

植物薬品学 112

生薬学 114

[生物系薬学]

機能形態学Ⅲ 116

生化学Ⅱ 118

微生物学 120

生化学Ⅲ 122

病原微生物学 124

免疫学 126

[健康と環境]

健康保持と疾病予防 128

生活環境と健康 130

栄養と食品機能 132

[医薬品をつくる]

物理薬剤学 134

[薬と疾病]

薬理学Ⅰ 136

薬理学Ⅱ 139

疾病と薬物治療Ⅰ 141

疾病と薬物治療Ⅱ 143

Ⅲ 一般教養 (選択)

●総合科目

[一般教養]

健康科学 146

地球環境概論 148

障がい論 150

社会学 152

現代経済論 154

国際関係論 155

健康スポーツ 156

数学Ⅱ 157

倫理学 159

哲学概論 161

美術・デザイン 162

文章表現 163

法学 165

基礎情報学演習Ⅱ 167

計算科学 169

基礎栄養学 171

Ⅳ 外国語 (選択)

●総合科目

[外国語]

英語検定Ⅰ 174

英語検定Ⅱ 175

英会話Ⅰ 176

英会話Ⅱ 177

ドイツ語Ⅰ 178

ドイツ語Ⅱ 180

中国語Ⅰ 181

中国語Ⅱ 182

フランス語Ⅰ 183

フランス語Ⅱ 185

総目次

V ゼミナール (選択)

●専門科目

[ゼミナール]

ゼミナールⅠ	188
ゼミナールⅡ	194
ゼミナールⅢ	200

VI 実習科目

●共通実習科目

●生物系実習Ⅰ	
基礎生物学実習	208
●化学系実習Ⅰ	
基礎有機化学実習	210
●化学系実習Ⅱ	
有機化学実習	212
漢方薬物学実習	214
●物理系実習Ⅰ	
分析化学実習	216
●物理系実習Ⅱ	
物理化学・分析化学実習	219
●生物系実習Ⅱ	
微生物・免疫学実習	222

VII 自由科目

基礎分析化学集中講義	226
基礎生物学集中講義	228
基礎物理学集中講義	230
化学入門演習	232

2016年度（平成28年度）学年暦

前期		後期	
平成27年		9月	16日(金) 後期授業開始
4月	4日(月) 前期授業開始(4年) 5日(火) 入学式 6日(水) 前期授業開始(2,3,5,6年) 7日(木) 前期授業開始(1年)	10月	28日(金) } 東葉祭(準備・片付け日含む)(休講)
6月	15日(水) 学生大会(午後休講)	11月	1日(火) } 6日(日) 創立記念日 16日(水) 学生大会(午後休講)
7月	15日(金) 前期授業終了 19日(火) 前期授業予備日 20日(水) } 1~4年 前期試験 29日(金) } (予備日:23日(土)、30日(土))	12月	12月25日(日) } 冬期休暇 1月7日(土) }
	8月1日(月) } 夏期休暇 9月15日(木) }	平成28年	10日(火) 授業再開
8月	下旬 } 前期試験成績配布 30日(火) } 1~4年 前期 追・再試験	1月	19日(木) 後期授業終了 20日(金) 後期授業予備日 23日(月) } 1~3年 後期試験 3日(金) } (予備日:1月28日(土)、2月4日(土))
9月	8日(木) } (予備日:3日(土)、9日(金))	2月	中旬 } 1~3年 後期試験成績配付 24日(金) } 1~3年 後期 追・再試験 3月
		7日(火) } (予備日:2月25日(土)、3月4日(土))	中旬 } 学位配授与式 下旬 } 進級発表、成績配付 各種ガイダンス(詳細は掲示にて通知)

※その他行事は掲示等でお知らせします。

1~4年生・6年生

教務	期 間
前期	4月1日(金)~9月15日(木)
後期	9月16日(金)~3月31日(金)

5年生

教務	実務実習	期 間
ターム1		4月6日(水)~5月6日(金)
ターム2	(第I期)	5月9日(月)~7月24日(日)
ターム3		7月25日(月)~9月4日(日)
ターム4	(第II期)	9月5日(月)~11月20日(日)
ターム5		11月21日(月)~1月6日(金)
ターム6	(第III期)	1月10日(火)~3月27日(月)

※年度及び学年によっては学期の開始、終了時期が異なる場合がある。
教務ガイダンスで確認すること。

2016年度(平成28年度)薬学部アカデミックカレンダー(授業日予定表)

学部：前期：4/1-9/15 後期：9/16-3/31
 大学院：前期：4/1-9/30 後期：10/1-3/31

参考)
 ◆4/5 入学式(府中の森) ◆11/6 創立記念日
 ◆6/15 学生大会(午後休講) ◆11/16 学生大会(午後休講)
 ◆10/28~11/1 東葉祭関連(休講)

■ 授業日 □ 午後休講 ■ 試験日 □ 試験予備日 ⊗ 登校禁止日

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	入学式 5				9
10						16
17						23
24					29	30

※2・3・5・6年次科目は4月6日から開講する。
 1年次科目は4月7日から開講する。
 4年次科目は4月4日から開講する。

日	月	火	水	木	金	土
1						7
8		3	4	5		
15						14
22						21
29						28

※5月の火・木・金の午後は1年次は早期帰床休講(予定)

日	月	火	水	木	金	土
						4
5						11
12			15			18
19						25
26						

※6月16日午後は学生大会のため休講とする。

日	月	火	水	木	金	土
						2
3						9
10						16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

※7月23日、7月30日は試験予備日とする。

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

※8月25日は前期試験成績配布予定(1~6年生)

日	月	火	水	木	金	土
					2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19			22		24
25						

※9月3日、9日は連日試験予備日とする。
 9月12日、13日、14日はCBT体験受験(4年)を予定

日	月	火	水	木	金	土
						⊗
2						8
9	10					15
16						22
23					28	29
30	31					

※10月1日は本学入学試験のため登校禁止
 東葉祭 準備~片付け(10月28日~11月1日)

日	月	火	水	木	金	土
		1		3		5
6						⊗
13			16			⊗
20			23			26
27						

※11月6日 創立記念日
 11月12日、19日は本学入学試験のため登校禁止
 11月16日午後は学生大会のため休講とする。

日	月	火	水	木	金	土
						3
4						10
11						17
18					23	24
25	26	27	28	29	30	31

※12月1日、2日、3日はCBT(4年)を予定
 12月17日、18日はOSCE(4年)を予定

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9					⊗
⊗	16	17			20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	⊗	31				

※1月14日、15日は大学入試センター試験のため登校禁止
 30日は本学入学試験のため登校禁止
 1月28日、2月4日は試験予備日とする

日	月	火	水	木	金	土
			1	⊗	3	4
5	⊗	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28				

※2月2日、6日は本学入学試験のため登校禁止
 2月25日、3月4日は試験予備日とする。

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	⊗	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

※3月9日は本学入学試験のため登校禁止

曜日別授業コマ数 (※大学設置基準：1単位15時間(薬学部では13回)は必ず行わなければならない。)

	月	火	水	木	金
前期	14	13	14(午前) 13(午後)	14	14
後期	12+2	14	14(午前) 13(午後)	14	14
通年 (合計)	28	27	28(午前) 26(午後)	28	28

- (1) 月曜日授業
 11月2日(水)、1月10日(火)
 (2) 授業予備日
 7月19日(火)[予備①] 1月20日(金)[予備②]

※上記は変更する場合もある



薬学部の教育研究理念

薬学は化学、生物学、物理学を基礎とする自然科学であり、さらに医学などと連携する多くの分野を総合した学問である。その成果は疾病の治療・予防新薬の開発のみならず、食品や化粧品などに使用される化学物質の適正な使用、さらに生活環境や地球環境の保全、改善にも役立っている。

1986年および1992年に医療法の改正が行なわれ、我が国の薬剤師が初めて医師や看護師と同様に「医療の担い手」として位置づけられた。従来物質（化合物）を中心に医療に関わる学問体系として発展してきた日本の薬学も、今日では医療現場での医療技術の高度化、医薬分業の進展、さらには国民の医療に対する期待等から、「患者志向」の薬学へと大きく変遷している。

薬科大学・薬学部は薬剤師を養成できる唯一の教育機関である。高い資質を持つ薬剤師、すなわちこれまでの基礎的な薬学に医療薬学が融合した総合科学としての薬学を学んだ薬剤師が必要になってくる。それにはこれまで以上に薬科大学・薬学部での教育の中で、医療薬学の充実、医療現場での実務実習期間の延長、さらには医療倫理教育の充実が叫ばれ、ついに2006年度から6年一貫教育が採用された。

本学は1880年に藤田正方によって創立された東京薬舗学校を起源としている。本学の建学精神である「Flore Pharmacia!」(花咲け薬学)は、どの時代においても「薬学の学問を通じて人類福祉への貢献をしよう!」との先人達の真摯な“精神”を表したものである。すなわち、本学薬学部は人類の福祉への貢献を目指し、ヒューマンイズムに溢れた教育研究を行う事を目標にしている。

本学薬学部における教育理念は、医療と健康に関する分野で自らの使命を強く自覚し、そのリーダーとして積極的に活躍し、社会に貢献できる人材を育てることである。さらに薬学専門領域に精通すると共に、医療の担い手としての科学性と倫理性をバランスよく身につけた薬の専門家を育成することも重要である。本学薬学部学生は卒業後においても、常に社会のニーズを的確に理解し、科学的根拠に基づいて問題点を解決でき、生涯にわたって自己研鑽を続ける事ができる能力を身につけなければならない。

本学薬学部は既に2004年度から新しい3学科を導入し、どの学科からも薬剤師免許が取得できることを基本に、6年制教育を先取りしたカリキュラムをスタートしている。6年制ではこれらのカリキュラムに加えて、5～6年次には約5ヶ月間の実務実習を行い、残りの1年半には卒業研究を行ないながら、各学科に特徴的な講義や演習を受講する事になる。6年制になっても、本学から研究活動が消えてしまう事は無く、これまでと同様に、研究志向をもった学生諸君のために、十分な研究環境を整備している。

医療現場への高い資質を持つ薬剤師の供給は必須であり、さらに医療現場と教育・研究機関との強い連携が、将来の薬の創製（創薬）研究者、基礎研究者の育成にとって必要となっている現状で、今後も研究志向を持った薬剤師の輩出は、本学薬学部の使命の一つと考えている。6年制教育の中で、臨床の現場を学び、高度医療に通じる知識・技能・態度を学んだ薬剤師が、医療現場や創薬の場に進出していく事こそ、社会において活躍できる人材養成を目指した本学の建学の精神に合致するものである。

上記の教育研究理念を実現するために、2006年度よりこれまでの3学科体制を維持しつつ、その学科名は「医療薬学科」、「医療薬物薬学科」、「医療衛生薬学科」と変更された。

本学のカリキュラムポリシー、ディプロマポリシーは次ページの通りである。

三つの方針（薬学部）

学位授与の方針（ディプロマポリシー）「学則 第1章 総則 第1節 目的 第1条」

本学は「ヒューマニズムの精神に基づいて、視野の広い、心豊かな人材を養成し、薬学ならびに生命科学領域において人類の福祉と世界の平和に貢献する」という教育目的を定め、それを実現するためのカリキュラムを編成している。卒業までに学ぶべきこととして、次の能力を備え、所定の単位を修得した学生には卒業を認定し、学位を授与する。

薬学部の学位授与の方針（ディプロマポリシー）学位：学士（薬学）

- 1) カリキュラムの履修を通して、医療人の一人としての薬剤師に必要な知識、技能、態度を習得し、さらに専門領域を超えて問題を探求する能力。
- 2) 所属学科における体系的な学習や、学科共通あるいは学科特異科目を習得し、社会において多様な課題を解決できる能力。
- 3) 「実習」及び「演習」での学習や、卒業論文等の作成を通じて涵養される問題解決能力や問題発見能力。
- 4) 医療チームの一員としての薬剤師として相応しい豊かな人間性と社会的責務を果たすに必要な高い使命感や倫理観。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

薬学部の教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

薬学を志す者は、自然科学はもちろんのこと、人文科学、社会科学、情報科学などすべての学問を総合した学際的な取り組みが必要であり、それらを6年間に亘り体系的に習得することで、医療を担う薬剤師として相応しい豊かな人間性と高い使命感や倫理観が培われる。

薬学部では、低年次において人文・社会・情報科学と外国語を学び、あわせて薬学の基礎となる化学、生物、物理、数学、そして薬学の基盤となる医療人教育、生命科学、有機化学、分析化学、医療（臨床）薬学の基礎などを学ぶ。また、高校での学びから薬学専門科目の学習へスムーズに移行できるように配慮する。これらを基に、高年次においてより高度な医療（臨床）薬学から医薬品の開発研究までを習得させ課題発見解決能力ならびに生涯に亘る自己研鑽能力を身につける。

薬学部の教育課程は、文部科学省と日本薬学会薬学教育モデル・コアカリキュラムを基本として必修科目、選択科目、自由科目の3つの柱から成り立っている。「必修科目」には総合科目、専門科目、学科別専門科目が設置されている。「選択科目」には総合科目、専門科目が置かれ、その中から定められた科目数・単位数以上を選択履修する必要がある。「自由科目」は卒業に必要な科目ではないが、薬学を学ぶ上で必要な基礎知識や社会に対応し得る能力を育成することを目的としている。以上3つの柱により、体系的に薬学の学問を教授するとともに、幅広く深い教養及び問題解決能力を培い、豊かな人間性を有した薬剤師を育てることに組織的・体系的な教育を実施している。



各科別のカリキュラムポリシー

薬剤師に対する社会の多様なニーズに応えるために本学では4年次に、医療薬学科、医療薬物薬学科、医療衛生薬学科の3学科の希望する卒論教室に配属される。それぞれの学科において科別ごとで特色のある科目を開設し、専門性の高い薬剤師の養成を目指している。課題研究においても、実験研究コース、調査研究コースに分かれ、教室の指導に基づく卒論研究を通じて、問題発見・解決能力を育成しながら、卒業論文をまとめあげる。

➤ 医療薬学科

医療チームの一員としての高度な薬剤師の養成を目指す。薬学の広範な基礎知識とともに、医療現場で求められる高度な知識と技能、患者さんや医療チームメンバーに対する適切な態度を身につけた薬剤師の育成に重点を置く。本学科では、科別特論や演習として、臨床で活躍する薬剤師の育成を目指して、臨床医や専門薬剤師、製薬企業などの外来講師も加え、医療現場や医薬品の臨床開発に関する生の声も伝える講義を行う。

➤ 医療薬物薬学科

薬の創製を取り巻く科学と技術の進展に合わせ、疾病の予防、診断、治療のために必須の創薬研究に挑戦できる薬剤師の育成に重点を置く。既存の薬学の基礎および専門教育にとどまらず、薬の創製に関連する専門領域の教育も幅広く行い、この分野の社会的なニーズに応じられる薬剤師を育成する。本学科では科別特論や演習として創薬概論で、有機化学、分析化学、生化学、薬理学、薬剤学などの分野の最先端の研究と創薬の関係に関して学ぶ。

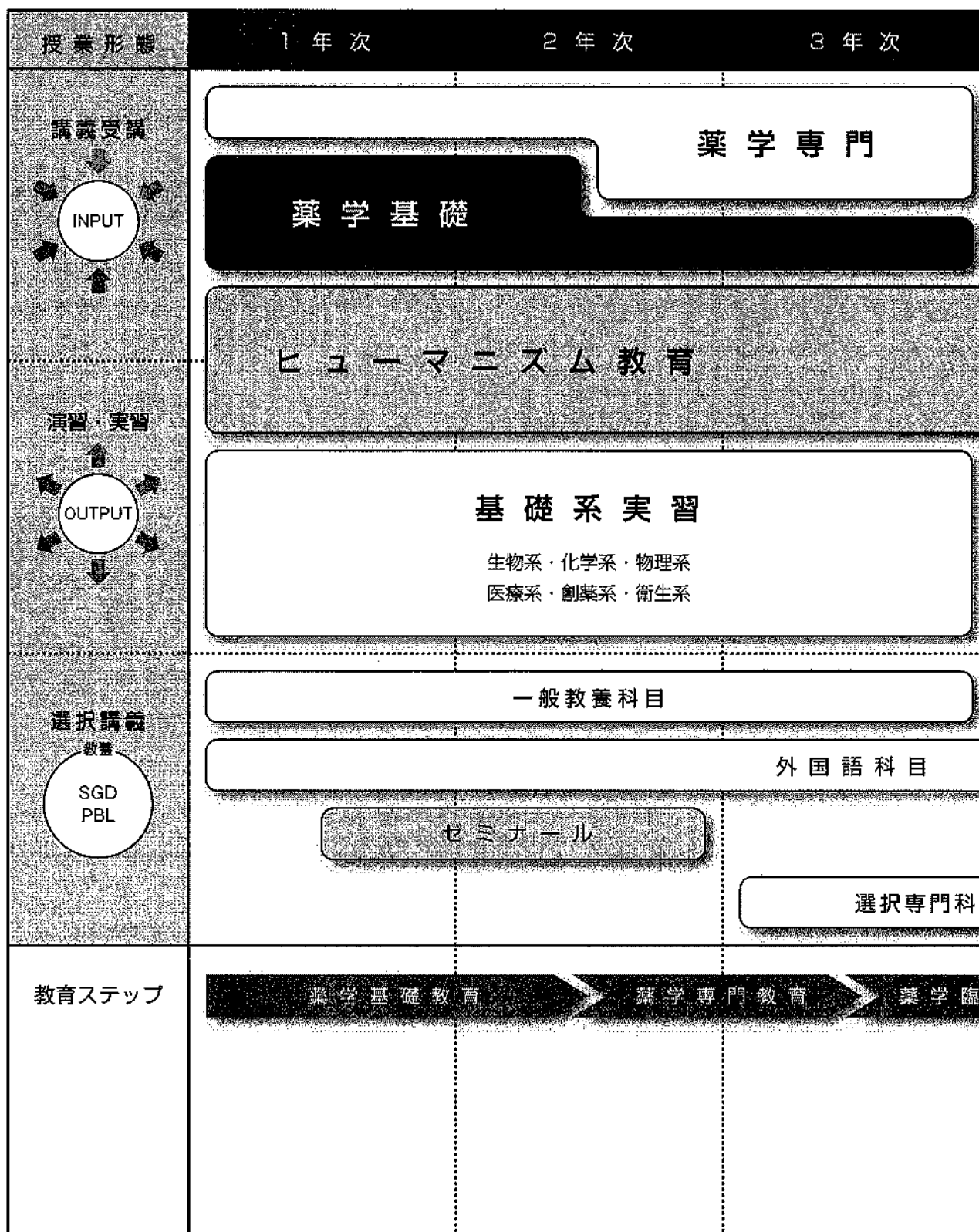
➤ 医療衛生薬学科

社会の高齢化や慢性・難治性疾患の増加に伴い、疾病の予防にも積極的に貢献できる薬剤師が求められている。こうした社会の期待に応えるべく、健康・環境科学、老年期医療、再生医療、予防医療などに関して卓越した知識・技能・態度を身につけた薬剤師の育成に重点を置く。本学科では科別特論や演習として、医療、保健、衛生、行政、食品、化粧品などの分野を更に理解し、将来展望を考えたプランを立案するとともに、セルフメディケーションへの薬剤師のかかわり方に関して、多角的に学ぶ。

東京薬科大学沿革略

年号	内容
1880 (明治13)	医師藤田正方 (文部省属官旧丸岡藩士) が本学の前身・東京薬舗学校を本所区亀沢町 (現墨田区) に創立
1883 (明治16)	神田区岩本町 (現千代田区) に校舎を新築移転。東京薬学校に改称
1886 (明治19)	大河寛之助らによって神田区美土代町 (現千代田区) に薬学講習所 (もう一つの本学の前身) が創立される
1888 (明治21)	東京薬学校と薬学講習所を合併し私立薬学校を設立 下山順一郎初代校長に就任 (11月6日本学創立記念日)
1889 (明治22)	下谷区西町 (現台東区) に校舎を移転
1897 (明治30)	下谷区上野桜木町 (現台東区) に校舎を新築移転
1900 (明治33)	校名を再び (私立) 東京薬学校と改称
1917 (大正6)	専門学校令に基づく東京薬学専門学校を設立。東京薬学校を財団法人化する (私立薬学専門学校第一号) 丹波敬三初代校長兼理事長に就任
1928 (昭和3)	豊多摩郡澁橋町柏木 (現新宿区) に校舎を新築移転
1929 (昭和4)	下谷区上野桜木町の旧校舎に、上野女子薬学校 (本学女子部の前身) を設立、池口慶三、兼職で初代校長に就任
1931 (昭和6)	上野女子薬学校を東京薬学専門学校女子部と改称
1949 (昭和24)	東京薬学専門学校・東京薬学専門学校女子部を併せ、学校教育法に基づく東京薬科大学を設立
1951 (昭和26)	私立学校法による学校法人東京薬科大学設立認可
1963 (昭和38)	大学院薬学研究科薬学専攻博士前期課程を設置
1964 (昭和39)	薬学部製薬学科設置
1965 (昭和40)	大学院薬学研究科薬学専攻博士後期課程を設置、薬学部衛生薬学科設置
1976 (昭和51)	八王子キャンパスに全学移転、専攻科医療薬学専攻 (1年制) 設置
1980 (昭和55)	創立100周年
1981 (昭和56)	大学院薬学研究科医療薬学専攻修士課程を設置
1987 (昭和62)	中国中医科学院との学術交流協定締結
1989 (平成元)	南カリフォルニア大学との学術交流協定締結
1992 (平成4)	東京医科大学と姉妹校協定締結
1994 (平成6)	生命科学部 (分子生命科学科、環境生命科学科) を開設 (日本初の生命科学部)、研究3号館 (生命科学部研究棟) 竣工
1995 (平成7)	カリフォルニア大学サンフランシスコ校と学術交流開始 (大学院研究科)
1996 (平成8)	医療薬学研究棟竣工
1997 (平成9)	ドラッグラショナル研究開発センター竣工
1998 (平成10)	大学院生命科学研究科生命科学専攻博士前期課程を設置
1999 (平成11)	佐藤幸吉記念薬学部寄附講座「一般用医薬品学」開講
2000 (平成12)	大学院生命科学研究科生命科学専攻博士後期課程を設置
2001 (平成13)	教育4号館 (情報処理教育施設) 竣工
2004 (平成16)	薬学部新3学科 (医療薬学科、創薬学科、生命薬学科) を設置、杏林大学との姉妹校協定締結
2006 (平成18)	学校教育法、薬剤師法の改正に基づき薬学部6年制に移行、医療薬学科、医療薬物薬学科、医療衛生薬学科を設置
2007 (平成19)	生命科学部環境生命科学科を環境ゲノム学科に名称変更、大学基準協会「相互評価・認証評価」認定
2008 (平成20)	生命科学部に2学科4コース (生命医科学、分子生物学、生態ゲノム学、環境フロンティア化学) 制を導入、教育5号館 (薬学実務実習教育センター) 竣工、千代田サテライトキャンパス設置 (東京逓信病院内)
2010 (平成22)	大学院薬学研究科薬科学専攻修士課程を設置、学生会館竣工、創立130周年
2011 (平成23)	研究4号館 (130周年記念館) 竣工、檀国大学校との国際交流協定締結
2012 (平成24)	大学院薬学研究科薬学専攻博士課程 (4年制) を設置、瀋陽薬科大学との学術交流協定締結
2013 (平成25)	生命科学部生命医科学科を設置、3学科制 (分子生命科学科、応用生命科学科、生命医科学科) へ移行、長春中医薬大学との学術交流協定締結
2014 (平成26)	2期目の大学基準協会「大学評価 (認証評価)」認定 附属社会医療研究センター開設

ラーニングマップ (卒業までの道のり)



分科・卒論配属

4年次

5年次

6年次

薬学臨床

アドバンス演習

実務実習
(病院、薬局)

総合薬学演習試験

学位記授与

薬剤師国家試験

学科別特論・演習

事前実務実習・学習

課題研究

目 I

選択専門科目 II

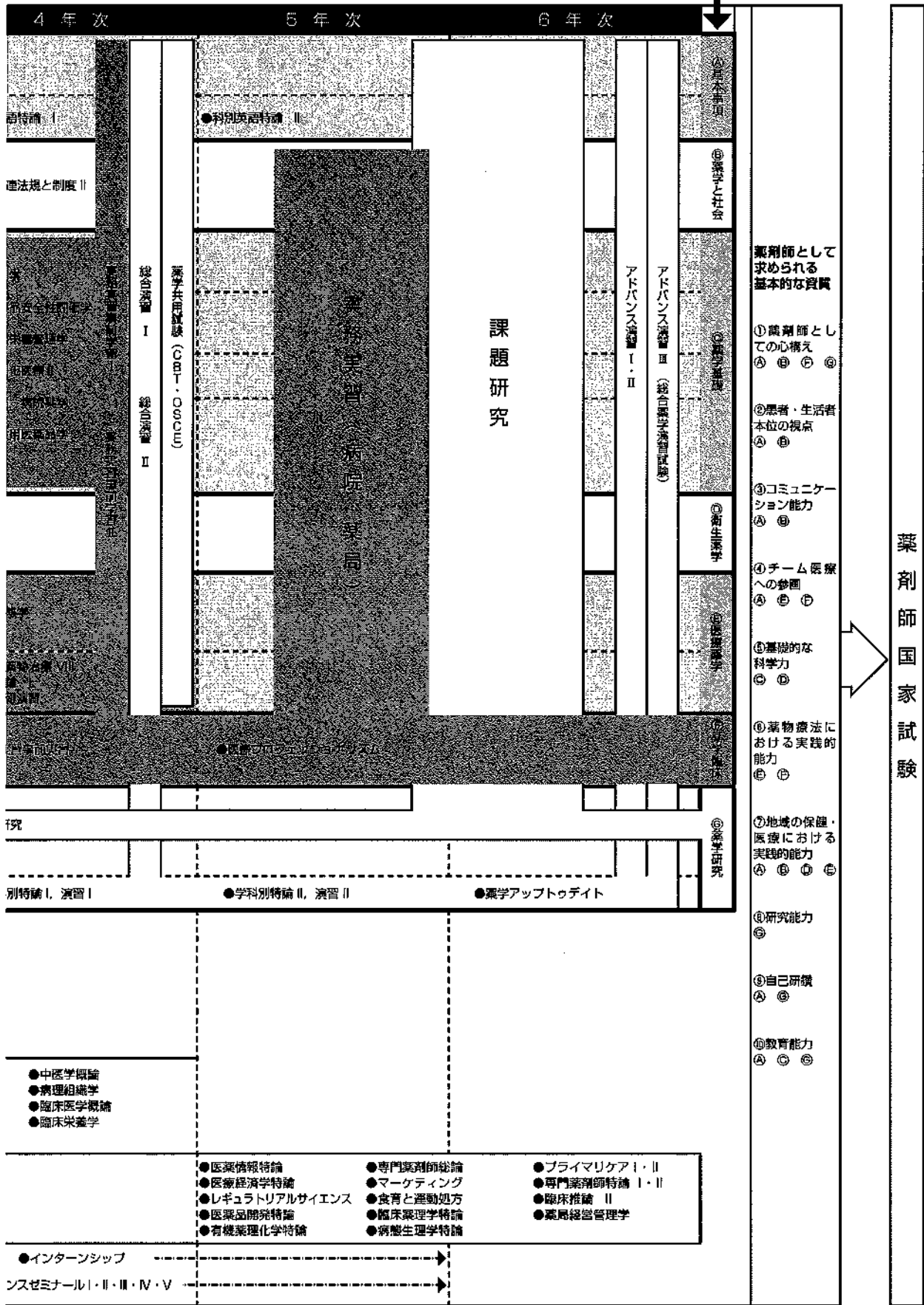
床教育

実務・実践教育

総合教育 (国家試験対策)

薬学部カリキュラムマップ

区分	1年次	2年次	3年次		
必修科目	一般教養	●数学Ⅰ ●基礎情報学 ●基礎情報学実習Ⅰ	●基礎統計学		
	外国語	●英語(基礎)Ⅰ・Ⅱ ●英語(コミュニケーション)Ⅰ	●医学英語入門Ⅰ	●別英語	
	人間と薬学	●人間と薬学Ⅰ ●人間と薬学Ⅱ	●医療コミュニケーション ●社会と薬学	●薬事師法規と制度Ⅰ ●医療倫理学～薬の倫理	●薬事関連
	物理化学	●物理化学 ●化学平衡論 ●物理化学 ●分析化学 ●放射化学	●物理化学Ⅰ・Ⅱ ●臨床分析学 ●基礎分析化学		
	化学系実習	●基礎化学 ●一般化学 ●有機化学Ⅰ	●有機化学Ⅱ・Ⅲ	●有機化学Ⅳ ●生体分子の化学	
	生体化学		●植物薬品学 ●生薬学	●漢方薬物学Ⅰ	
	生物系実習	●植物生理学Ⅰ・Ⅱ ●細胞生物学 ●生化学Ⅰ ●生薬学	●機能形質学Ⅲ ●生化学Ⅱ・Ⅲ ●微生物学 ●病原微生物学 ●免疫学	●バイオ医薬品 ●生薬製剤学 ●臨床免疫学	
	健康と環境		●健康保持と疾病予防 ●生活環境と健康 ●栄養と食品機能	●化学物質と生体影響 ●食品の安全性と管理 ●化学物質の毒性と安全性	
	医薬品をつくる		●物理薬理学	●製剤設計学 ●生物薬理学 ●薬物送達学 ●個別化医療Ⅰ	●薬物設計
	薬と疾病	●薬と疾病入門	●薬理学Ⅰ・Ⅱ ●疾病と薬物治療Ⅰ・Ⅱ	●薬理学Ⅲ・Ⅳ ●疾病と薬物治療Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ ●医療情報Ⅰ・Ⅱ	●薬理 ●薬物治療 ●医療情報
	薬学臨床				●薬学臨床
	実習	●生物系実習Ⅰ ●化学系実習Ⅰ	●化学系実習Ⅱ ●物理系実習Ⅰ・Ⅱ ●生物系実習Ⅱ	●化学系実習Ⅲ ●生物系実習Ⅲ ●健康・環境実習 ●創薬系実習 ●医療系実習Ⅰ・Ⅱ	●課題研究
	薬学関連特論				●学科別
選択科目	ゼミナール	●ゼミナールⅠ	●ゼミナールⅡ・Ⅲ		
	一般教養	●健康科学 ●地球環境概論 ●障がい論 ●社会学	●現代経済論 ●国際関係論 ●健康スポーツ ●数学Ⅱ	●倫理学 ●哲学概論 ●美術・デザイン ●文章表現	●法学 ●基礎情報学実習Ⅱ ●計測科学 ●基礎栄養学
	外国語	●英語検定Ⅰ・Ⅱ ●英会話Ⅰ・Ⅱ	●ドイツ語Ⅰ・Ⅱ ●中国語Ⅰ・Ⅱ	●フランス語Ⅰ・Ⅱ	
	専門Ⅰ			●精選有機化学 ●反応有機化学 ●細胞工学 ●代謝生化学 ●香粧品化学	●アドバンス有機化学 ●薬劑経済学 ●地域保健薬学概論 ●漢方薬物学Ⅱ ●スキンケア入門
	専門Ⅱ				
講義演習	●集中講義(基礎分析化学・生物学・物理学) ●化学入門演習			アドバ	





履修要項



履修要項

① 教育制度

本学部における教育制度は、完全な単位制でなく、学年制を加味した単位制である。すなわち、1年間に修得した単位数が一定の基準に達しない場合は、つぎの年次（学年）に進むことができない。

② 教育課程

本学部の教育課程は必修科目、選択科目、自由科目の3つの柱から成り立っている。「必修科目」には総合科目、共通専門科目、共通実習科目、学科別専門科目が設置されている。「選択科目」には総合科目、専門科目、自由科目が置かれ、総合科目・専門科目についてはその中から学則で定められた科目数・単位数以上を選択履修する必要がある。自由科目は卒業に必要な単位数には含まれないが、薬学を学ぶ上で必要な基礎知識や社会に対応し得る能力を育成することを目的としている。

以上3つの柱は、薬学の学問を教授するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を育てることに配慮したものである。

③ 単位について

本学部においては原則として、講義および演習の1コマを70分とし、週1コマ半期（前期・後期）の講義を1単位、週1コマ通年の講義を2単位とする。

学則 第58条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする*内容をもって構成するものとし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算するものとする。

- (1) 講義、演習は、15時間をもって1単位とする。ただし、授業科目によっては22.5時間をもって1単位とすることがある。
- (2) 実習、実験及び実技は、30時間をもって1単位とする。

*講義・演習・実習の時間に、予習・復習・課題を含めた計45時間が1単位の学修内容となる。

④ 卒業に必要な単位数

学則第54条に定められているように卒業に必要な総単位数は、各学科とも186単位以上である。

この内容を授業科目別に示したものが、表「年次別・学科別授業科目単位配分表」である。

卒業の認定を受けるためには、次頁表の授業科目から以下のように186単位以上を修得しなければならない。

	総合科目	専門科目	学科別専門科目	合計
必修科目	12単位	83単位	73単位	168単位
選択科目	6単位以上	12単位以上		18単位以上
合計	18単位以上	95単位以上	73単位	186単位以上

年次別・学科別授業科目単位配分表

〈必修科目〉

区分	授業科目	学年次・単位数					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
総合科目	一般教養科目	数学Ⅰ	1				
	基礎統計学		1				
	基礎情報学	1					
	基礎情報学演習Ⅰ	1					
	英語(精読)Ⅰ	1					
	英語(精読)Ⅱ	1					
	英語(コミュニケーション)Ⅰ	1					
	英語(コミュニケーション)Ⅱ	1					
	薬学英語入門Ⅰ		1				
	薬学英語入門Ⅱ		1				
	実用薬学英語			1			
	外国語科目						
人間と薬学	人間と薬学Ⅰ	1					
	人間と薬学Ⅱ	1					
	医療コミュニケーション		1				
	社会と薬学		1				
	薬事関連法規と制度Ⅰ			1			
	医療倫理学			1			
	薬事関連法規と制度Ⅱ				1		
物理系薬学	物理学	1					
	化学平衡論	1					
	無機化学	1					
	物理化学Ⅰ	1					
	分析化学	1					
	放射化学	1					
	機器分析学		1				
	臨床分析化学		1				
	物理化学Ⅱ		1				
	物理化学Ⅲ		1				
化学系薬学	基礎化学	1					
	一般化学	1					
	有機化学Ⅰ	1					
	有機化学Ⅱ		1				
	有機化学Ⅲ		1				
	有機化学Ⅳ			1			
	生体分子の化学			1			
生薬系薬学	植物薬品学		1				
	生薬学		1				
生物系薬学	漢方薬物学Ⅰ			1			
	機能形態学Ⅰ	1					
	細胞生物学	1					
	生物学	1					
	機能形態学Ⅱ	1					
	生化学Ⅰ	1					
	機能形態学Ⅲ		1				
	生化学Ⅱ		1				
	生化学Ⅲ		1				
	微生物学		1				
	病原微生物学		1				
	免疫学		1				
	バイオ医薬品			1			
	感染制御学			1			
	臨床免疫学			1			

区分	授業科目	学年次・単位数					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
健康と環境	健康保持と疾病予防		1				
	生活環境と健康		1				
	栄養と食品機能		1				
	化学物質と生体影響			1			
	食品の安全性と管理			1			
	化学物質の毒性と安全性			1			
医薬品をつくる	物理薬剤学		1				
	製剤設計学			1			
	生物薬剤学			1			
	薬物送達学			1			
個別化医療Ⅰ			1				
薬物動態学				1			
薬と疾病	薬と疾病入門	1					
	薬理学Ⅰ		1				
	薬理学Ⅱ		1				
	疾病と薬物治療Ⅰ		1				
	疾病と薬物治療Ⅱ		1				
	薬理学Ⅲ			1			
	薬理学Ⅳ			1			
	疾病と薬物治療Ⅲ			1			
	疾病と薬物治療Ⅳ			1			
	疾病と薬物治療Ⅴ			1			
	疾病と薬物治療Ⅵ			1			
	疾病と薬物治療Ⅶ			1			
	医薬情報Ⅰ			1			
	医薬情報Ⅱ			1			
	疾病と薬物治療Ⅷ				1		
	臨床推論Ⅰ				1		
	医薬情報演習				1		
薬学臨床	調剤学				1		
	医薬品安全性評価学				1		
	病態栄養管理学				1		
	個別化医療Ⅱ				1		
	薬局・病院薬学				1		
	一般用医薬品学				1		
薬学演習・特講	実務実習事前学習Ⅰ				3		
	実務実習事前学習Ⅱ				2		
	総合演習Ⅰ				2		
	総合演習Ⅱ				4		
	薬学アップトゥデート						3
アドバンス演習Ⅰ						3	
アドバンス演習Ⅱ						3	
アドバンス演習Ⅲ						1	

履修要項

〈必修科目〉

区分	授業科目	学年次・単位数					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
共通基盤科目	生物系実習Ⅰ	1.5					
	化学系実習Ⅰ	1.5					
	化学系実習Ⅱ		1.5				
	物理系実習Ⅰ	1.5					
	物理系実習Ⅱ	1.5					
	生物系実習Ⅱ	1.5					
	化学系実習Ⅲ			1.5			
	生物系実習Ⅲ			1.5			
	健康・環境実習			1.5			
	創薬系実習			1.5			
	医療系実習Ⅰ			1.5			
	医療系実習Ⅱ			1.5			
	実務実習事前実習				3		
	実務実習					20	
	学科別専門科目	医療薬学科	薬学演習・特論 医療薬学特論Ⅰ				1
薬学演習・特論 医療薬学特論Ⅱ						1	
薬学演習・特論 医療薬学演習Ⅰ						1	
薬学演習・特論 医療薬学演習Ⅱ						1	
薬学演習・特論 医療薬学英語特論Ⅰ						1	
薬学演習・特論 医療薬学英語特論Ⅱ						1	
医療薬物薬学科		薬学臨床 医療プロフェッショナリズム					1
		薬学臨床 医療薬学課題研究				12	
		薬学演習・特論 医療薬物薬学特論Ⅰ				1	
		薬学演習・特論 医療薬物薬学特論Ⅱ				1	
		薬学演習・特論 医療薬物薬学演習Ⅰ				1	
医療衛生薬学科		薬学演習・特論 医療薬物薬学演習Ⅱ				1	
		薬学演習・特論 医療薬物薬学英語特論Ⅰ				1	
		薬学演習・特論 医療薬物薬学英語特論Ⅱ					1
		薬学臨床 医療プロフェッショナリズム					1
	薬学臨床 医療薬物薬学課題研究				12		
医療衛生薬学科	薬学演習・特論 医療衛生薬学特論Ⅰ				1		
	薬学演習・特論 医療衛生薬学特論Ⅱ				1		
	薬学演習・特論 医療衛生薬学演習Ⅰ				1		
	薬学演習・特論 医療衛生薬学演習Ⅱ				1		
	薬学演習・特論 医療衛生薬学英語特論Ⅰ				1		
薬学演習・特論 医療衛生薬学英語特論Ⅱ					1		
薬学臨床	薬学臨床 医療プロフェッショナリズム					1	
	薬学臨床 医療衛生薬学課題研究				12		

〈選択科目〉

区分	履修科目	学年次 単位数					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
総合科目	健康科学	←	→				
	地球環境学論	←	→				
	障がい論	←	→				
	法学	←	→				
	社会学	←	→				
	倫理学	←	→				
	哲学概論	←	→				
	現代経済論	←	→				
	国際関係論	←	→				
	健康スポーツ	←	→				
	数学Ⅱ	←	→				
	基礎情報学演習Ⅱ	←	→				
	計算科学	←	→				
	基礎栄養学	←	→				
	美術・デザイン	←	→				
	文章表現	←	→				
	英語検定Ⅰ	←	→				
	英語検定Ⅱ	←	→				
	英会話Ⅰ	←	→				
	英会話Ⅱ	←	→				
外国語科目	ドイツ語Ⅰ	←	→				
	ドイツ語Ⅱ	←	→				
	中国語Ⅰ	←	→				
	中国語Ⅱ	←	→				
	フランス語Ⅰ	←	→				
	フランス語Ⅱ	←	→				
	ナゼミ			1			
	ゼミナールⅠ				1		
	ゼミナールⅡ					1	
	ゼミナールⅢ						1
専門科目Ⅰ	反応有機化学				1		
	構造有機化学					1	
	細胞工学						1
	代謝生化学						1
	香粧品科学						1
	アドバンス有機化学						1
	薬剤経済学						1
	地域保健薬学概論						1
	漢方薬物学Ⅱ						1
	スキミング入門						1
	中医学概論						1
	病理組織学						1
	臨床医学概論						1
	臨床栄養学						1
	医療情報特論						1
	医療経済学特論						1
	レギュラトリアルサイエンス						1
	医薬品開発特論						1
	有機薬理化学特論						1
	専門薬剤師総論						1
マーケティング						1	
食育と運動処方						1	
臨床薬理学特論						1	
病態生理学特論						1	
臨床推論Ⅱ						1	
高齢者薬物治療学						1	
プライマリケア						1	
専門薬剤師特論Ⅰ						1	
専門薬剤師特論Ⅱ						1	
薬局経営管理学						1	
自由科目	基礎分析化学集中講義			0.5			
	基礎生物化学集中講義			0.5			
	基礎物理学集中講義			0.5			
	化学入門演習			0.5			
	アドバンスゼミナールⅠ		1				
	アドバンスゼミナールⅡ			1			
	アドバンスゼミナールⅢ				1		
	アドバンスゼミナールⅣ					1	
	アドバンスゼミナールⅤ						1
	インターンシップ				1		

◆選択科目の必要単位数について

(選択科目 必要単位数一覧)

科目	必要単位数	修得学年
一般教養科目	4単位以上	1・2年
外国語科目	2単位以上	1・2年
ゼミナール	3単位	1・2年
専門科目Ⅰ	4単位以上	3・4年
専門科目Ⅱ	5単位以上	5・6年
計	18単位以上	
自由科目	※卒業に必要な単位に含まれず	

※上記単位数は卒業までに修得が必要な単位数である。

【備考】

- ① 選択科目の必要単位数を満たした上で総計18単位以上を修得すること。
※上記修得学年にて履修すること。
- ② 自由科目は卒業に必要な単位数には含まれない。

履修要項

⑤ 履修申請

履修にあたっては、卒業に必要な単位数を考慮して各自で方針を立てること。選択科目については、定められた期日までに「キャンパスライフ支援システム」(Web)上または申請用紙等、大学の指定した方法に従い履修申請をすること。

なお、一度受け付けた申請内容は変更、放棄することはできない。申請する際は慎重に科目を

選び、正確に手続きを行うこと。また、申請を行わなかったり、申請に誤りがあり履修登録がされていない場合は、たとえ授業に出席し、その科目の試験を受験したとしても単位は認定されない。発表後、必ず履修登録できているか確認すること。

〔履修申請について〕

項目	申請の要・不要	注意
必修科目 (再履修科目を含む)	不要	再履修科目については、担当者のもとへ行き、指示を受けること。
選択科目	要	受け付けられた申請は変更を認めない。 履修を放棄すると、原則として次年度以降その科目は履修できない。

※選択科目の履修申請期間は掲示板でよく確認すること。

〔聴講について〕

聴講は(1)聴講科目は単位認定されない (2)講義は全て出席すること

聴講を希望する者は大学の指示に従い、締め切りまでに聴講届けを薬学事務課窓口まで提出すること。その際、講義担当者の了解を得ること。全ての科目の聴講をできるわけではないので注意すること。

⑥ 単位の認定

履修した授業科目については、定期的に試験等を行い学業成績を考査する。合格した授業科目については、所定の単位の修得を認める。

単位の修得は授業出席に加え、課題や予習・復習など自学習も含めて行なわれるのでしっかりと学習すること。

1 授業科目の授業実施時間数の3分の2以上出席し、かつ、試験等により合格の成績を得た時は、その授業科目の単位を修得したものとする。(学則55条)

＜講義・実習等を欠席した場合＞

以下の届出を薬学事務課で受け取り書類提出先に提出すること。

提出書類	提出にあたり注意すること	書類提出先
欠席届 疾病、その他の理由で欠席した場合 (20日未満)	添付書類：疾病等の場合、医師の診断書を添付する。 ○欠席日数が7日未満の場合、速やかに欠席届を提出すること。 ○欠席日数が7日以上の場合、アドバイザーの承諾(署名・捺印)を得て速やかに欠席届を提出すること。 【備考：実習を欠席する場合】 ・事前に実習担当者に連絡し、指示を受けること。	講義担当者 もしくは 実習担当者
忌引届 服喪で欠席した場合	○アドバイザーの承諾(署名・捺印)を得て、速やかに忌引届を提出すること。 【欠席に算入されない服喪日数】 ①父母：7日以内(土日祝日含む連続した日) ②祖父母・兄弟姉妹：5日以内 (土日祝日含む連続した日) ③その他届出により大学が正当と認めた場合 (土日祝日含む連続した日) ※父母が亡くなった場合は、学生サポートセンター(042-676-8978)に連絡すること。	※実習担当者の連絡先は、「時間割表(実習・演習カレンダー)」に記載してあります。
長期欠席届 (20日以上3ヶ月未満)	○やむを得ず、連続して20日以上3ヶ月未満欠席する場合に提出すること。 ○3ヶ月以上欠席する場合は、欠席届ではなく、「休学願」を薬学事務課に提出すること。	

単位認定に関わる試験の欠席は〈単位認定に関わる試験〉を参照すること。

※学校伝染病に罹患した場合は、医師の指示に従いきちんと治してから登校すること。その際、医師による「就学許可証明書」を保健室へ提出すること。

<単位認定・進級判定に関わる試験>

再試験については全ての科目で行われるものではないので注意すること。レポートによる試験も以下に準ずる。

区分	内 容	受 験 資 格	
定期試験	定期試験 (前期・後期)	各期末に行う。通年科目は前・後期の2回受験が必要。	授業科目ごとに、授業実施時間数の3分の2以上の出席が必要。
	追試験	定期試験をやむを得ない理由で欠席した者に行う。	試験欠席届の理由が学部で正当と認められた者。
	再試験	定期試験を受験した結果、不合格となった者に行う。(※実施の場合のみ)	当該科目担当教員の判断により受験を認められた者。
課題による試験	中間試験(小テスト)等：担当者の指示によって実施する。 レポート	定期試験に準ずる。	
薬学共用試験	CBT・OSCE	4年次終了までに事前実務学習以外の全ての単位を取得していること。	
総合薬学演習試験	6年次後期に実施する。	卒業に必要な186単位のうちアドバンス演習Ⅲ(1単位)を除く全ての単位を修得している者。	
その他の試験	実習試験 総合演習試験 アドバンス演習試験	全出席していること。	

受験停止：授業科目ごとに授業実施時間数の3分の2以上出席しなかった者等には定期試験の受験資格を与えないことがある。受験停止者の氏名は試験開始日前までに科目別に学年掲示板にて通知する。

試験欠席届：定期試験を疾病その他やむを得ない理由で欠席した者は、アドバイザーの承諾(署名・捺印)を得て、試験期間終了日より起算し3日以内(土日祝日および登校禁止日は除く)に所定の届出用紙に、診断書等の証明書(注)を添付して薬学事務課へ提出すること。総合演習試験・薬学共用試験・総合薬学演習試験も定期試験に準ずる。(大学で別途掲示する場合を除く。)

可否については、追試験時間割発表等と合わせて学年掲示板にて通知する。

(注) 欠席理由と添付する証明書

理 由	添付する証明書
病 気	医師の診断書
忌 引	関係する書類
就職試験	就職試験受験証明書
災害(台風、水害、火災等)	官公庁による被災証明書
交通関係	交通機関等の証明書
その他	関係機関の証明書等

* 試験時間割表の誤認、寝坊、バスの自然渋滞による遅延、自転車、バイク、自動車の故障等は正当な欠席理由として認められないので注意すること。

日頃より早めの登校を心がけ、試験会場に入室すること。

- ① 追試験・再試験を受験するには、所定の手続き(試験欠席届・試験シール購入等)をしなければならない。レポートにて評価する科目についても同様に所定の手続を行うこと。
- ② なお、追試験の成績は、80%で評価される。
- ③ 追試験・再試験の追試験は実施しない。
- ④ 通年科目の前・後期評価(5~1)は、年度内のみ有効とする。

種 類	手数料(1科目あたり)	販 売
追試験受験料	500円	生協にて受験シールを販売 ※試験受験前に購入すること
再試験受験料	1,000円	

⑦ レポート提出について

科目担当者からレポート提出の指示があったときは次の事項を厳守すること。

- (1) 提出締切日時を厳守の上、指定された提出先へ提出すること。
- (2) 科目名、担当者名及び提出者の学年、組、学生番号、氏名を明記すること。
- (3) 一度提出したレポートの変更、訂正は一切認めない。提出前に十分確認すること。
- (4) 追試験・再試験をレポートにて実施する科目の場合は、定期試験の追試験・再試験を受験する際に必要な手続きと同様に行うこと。
- (5) 他人の著作物にその大部分を依拠するレポートは、剽竊と判断し、評価しない。

⑧ 成績の評価基準と表示

成績の標準的な評価基準を下表に示す。

評価（総括的評価）	合・否	単位修得・単位未修得
A (80%～100%)	合格	当該科目の単位修得
B (65%～79%)		
C (55%～64%)		
D (55%未満)	不合格	当該科目の単位未修得
停	不合格（受験停止）	
E	不合格（履修放棄）	
再試験の成績……………合格の場合はCとする。		

※科目ごとに学習内容・方法・評価項目は異なるので詳細はシラバス、ガイダンスならびに講義等で示す。

※履修放棄は大学が正当と認めた場合にのみ受理する。

※履修放棄した科目は、次年度以降履修することができない。

◆評定平均値の算出方法は以下のとおりである。

必修科目（実習・演習含む）の評価をA＝5点、B＝4点、C＝3点に換算し、その合計点を必修科目数で割って算出する。

＜補足＞

□成績通知書について アドバイザーもしくは卒論指導教員を通じて配付する。

配付時期…詳細については、その都度掲示にて通知するのでよく確認すること。

前期科目の評価	8月下旬（中間）・10月中旬（最終）
後期科目の評価	2月中旬（中間）・3月下旬（最終）
当該年度の最終評価	3月下旬進級判定発表後

□成績序列・評定平均値について

年度末の進級判定時にアドバイザーもしくは卒論指導教員を通じて通知する。

⑨ 進級の判定

年次進級者は3月下旬に学年掲示板にて発表する。該当年度の学費が全て納入済みであり以下の基準を満たしていることが条件である。

〈1～3年次〉以下の基準を満たした場合、次の年次に進級することができる。

講義科目 } 演習科目 }	—必修科目で未修得単位数が累積5単位以内であること。
------------------	----------------------------

実習科目	—当該年度内に行われた実習科目の全てを修得していること。
------	------------------------------

※1年次必修科目「人間と薬学Ⅰ、Ⅱ」は進級基準において実習科目に位置づける。

〈4年次〉次の基準を満たした場合、5年次に進級することができる。

4年次までの科目を全て修得し、共用試験（CBTおよびOSCE）に合格していること。

⑩ 留年

定められた基準に達しないときは、次の年次に進級することができない（基準は「10. 年次進級の判定」参照）。また、同一学年に2年を越えて在籍することはできない（学則第57条）。

⑪ 再履修について（※履修申請は不要）

必修科目で未修得科目（単位）を残して進級した者は、次年度その科目を再び履修し、修得しなければならない。これを「再履修」という。再履修方法については年度初めに掲示するので必ず確認すること。詳細は年度始めに前年度担当した教員に必ず各自確認すること。

⑫ 卒論教室配属と分科

4年次より卒論教室に配属し、分科する。

3年次後期に卒論教室配属と分科に関するガイダンス、教室・研究室・センターによる説明会を実施し、その後卒論教室配属・分科を行う。卒論教室の決定にともない学科が決定する。決定方法の詳細は、ガイダンスにて説明する。一度、提出した申請内容は変更できないので、よく考慮の上、間違いのないよう申請すること。

申請ミス・ルール違反があると、その申請は無効となるので注意すること。

⑬ 伝達の方法

学生への通知や連絡はすべて掲示板への掲示によって行う。

(1) 学年掲示板（薬学事務課前）・実務実習掲示板（実務実習室前）等

学生への公示、告示、修学上必要な事項の伝達は主として掲示にて行う。「掲示の見落としは学生自身の責めに帰する」ので必ず掲示を見る習慣をつけること。

(2) 休講・補講掲示

授業担当者より連絡があり次第、休・補講掲示板に掲示する。体調不良等により直前の通知になることもあるので留意すること。授業開始時刻後30分を過ぎても授業担当者から連絡がない場合は自然休講となることもあるが、念のため薬学事務課へ問い合わせること。

(3) 【東薬学生ポータル】(Web) による通知

補助的サービスとして、【東薬学生ポータル】(Web) にて講義の休・補講や講義室変更の情報、通知・案内および個人連絡を行う。但しあくまでも掲示板に掲示される通知が優先されるので注意すること。

⑭ 公共交通機関の運休、悪天候および災害時の措置

暴風雨・雪などの悪天候および災害、公共交通機関の事故等が発生したときの対応は、学長が次の基準により休講措置を検討する。結果は「学部事務課掲示板」および「東葉学生ポータル」で発表する。自己判断せずに、必ず確認すること。

(1) 災害、事故、ストライキ等

災害、事故、ストライキ等で、JR中央線（東京～高尾）または京王線（本線、相模原線）が運休された場合

- ① 午前6時現在において運休の場合は、午前中開始の講義を休講
- ② 午前10時現在において運休が解除されていない場合は、終日休講

(2) 気象警報発令

東京23区東部・西部および多摩北部・西部・南部のいずれかに気象警報が発令された場合

- ① 午前6時現在において警報が発令されている場合は、午前中開始の講義を休講
- ② 午前10時現在において警報が発令されている場合は、終日休講

(3) 大規模地震の警戒宣言発令

大規模地震の警戒宣言が発令された場合

- ① 午前6時現在において発令が解除されていない場合は、午前中開始の講義を休講
- ② 午前10時現在において発令が解除されていない場合は、終日休講

- ・ 定期試験および追・再試験については、上記規程を準用する。なお、中止となった試験は延期し、後日実施する。
- ・ 上記の各線・各区間を除くJR各線および私鉄が運休した場合は平常どおり講義、定期試験および追・再試験を行う。

受験心得

受験に際しては下記の事項を守らなければならない。

- A. すべて試験監督者の指示に従うこと。
- B. 受験者は指示された場所に着席し、学生証を机上の指定された箇所におくこと。※学生証を忘れた場合は、試験開始前に学生サポートセンターで仮学生証の発行を受けること。
- C. 交通機関の遅れを見込み、早めの登校を心がけること。遅刻者は、試験開始後15分まで入室を認める。
- D. 試験開始後30分間と試験終了10分前からは退室を認めない。途中退室する場合の答案提出については試験監督者の指示に従うこと。
- E. 教科書、参考書、ノート等は鞆に入れ、指示された場所に置き、試験監督の指示があるまで触れてはならない。
- F. 教科書、参考書、ノート、電卓等の使用が許されている場合でも、これらの貸借は禁止する。
- G. 携帯電話、スマートフォン、その他の通信機器等はアラームを解除のうえ電源を切って必ず鞆に入れること。
- H. 撮影及び計算・翻訳・通信機能つきの機器等の使用は禁止する。
- I. 答案に学生番号、氏名のないものは無効とする。
- J. 白紙の答案でも氏名を書き、必ず提出すること。
- K. 退室の際には、答案は試験監督者の指示する方法に従い提出すること。
- L. 受験中不正行為と認められた場合には直ちに答案を没収し、退室を命じ、その期間の試験は無効とする。
- M. 追・再試験を受験するときには、必ず追再シールを貼付すること。貼付されていなかった場合、不正行為とみなされることがある。

不正行為について

- ① 次のことをすると不正行為となる。不正行為を行った場合は、当該科目だけではなく、不正行為を行った期間の科目（実習・演習は除く）は、全て無効となり、追・再試験の受験資格もなくなる。尚、追・再試験中に不正行為を行った場合、当該学期の既取得単位科目も全て無効となる。

1. カンニング（カンニングペーパー・参考書・他の受験者の答案等を見ること、他の人から答えを教わることなど）をすること。
2. 他の受験者に答えを教えたりカンニングの手助けをすること。
3. 試験開始・終了の指示に従わずに解答を行うこと。
4. 試験資料の回収指示に従わないこと。
5. 試験時間中に、携帯電話、スマートフォン、腕時計型端末等の電子機器類や定規、コンパス、電卓等の補助具をかばん等にしまわず、身につけていたり手に持っていること。

- ② 上記①以外にも次のことをすると不正行為となることがある。指示等に従わず、不正行為と認定された場合の取扱いは、①と同様。

1. 試験時間中に携帯電話や時計等の音（着信・アラーム・振動音など。）を長時間鳴らすなど、試験の進行に影響を与えること。
2. 試験に関することについて、自身や他の受験者を利するような虚偽の申出をすること。
3. 試験場において他の受験者の迷惑となる行為をすること。
4. 試験場において試験監督者等の指示に従わないこと。
5. その他、試験の公平・公正性を損なうおそれのある行為をすること。

薬学部カリキュラム表

※科目各横の数字は、単位数を表す

履修要項

区分	1 年		2 年		3 年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
必修科目	総合	●数学Ⅰ ●基礎情報学 ●基礎情報学演習Ⅰ		●基礎統計学		
	外国語	●英語(聴読)Ⅰ ●英語(コミュニケーション)Ⅰ	●英語(聴読)Ⅱ ●英語(コミュニケーション)Ⅱ	●薬学英語入門Ⅰ	●薬学英語入門Ⅱ	●実用薬学英語
	人間と薬学	●人間と薬学Ⅰ	●人間と薬学Ⅱ	●医療コミュニケーション	●社会と薬学	●薬事関連法規と制度Ⅰ ●医療倫理学～薬の倫理
	物理系薬学	●物理学 ●化学平衡論 ●無機化学	●物理化学Ⅰ ●分析化学 ●放射化学	●物理化学Ⅱ ●臨床分析化学 ●機器分析学	●物理化学Ⅲ	
	化学系薬学	●基礎化学	●一般化学 ●有機化学Ⅰ	●有機化学Ⅱ	●有機化学Ⅲ	●有機化学Ⅳ ●生体分子の化学
	生薬系薬学			●植物薬品学	●生薬学	●漢方薬物学Ⅰ
	生物系薬学	●機能形態学Ⅰ ●細胞生物学 ●生物学	●機能形態学Ⅱ ●生化学Ⅰ	●機能形態学Ⅲ ●生化学Ⅱ ●微生物学	●生化学Ⅲ ●病原微生物学 ●免疫学	●バイオ医薬品 ●感染制御学 ●臨床免疫学
	健康と環境			●健康保持と疾病予防	●生活環境と健康 ●栄養と食品機能 ●物理薬理学	●化学物質と生体影響 ●食品の安全性と管理
	医薬品をこぐる				●創薬設計学 ●生物薬理学	●薬物送達学 ●個別化医療Ⅰ
	薬と疾病		●薬と疾病入門	●薬理学Ⅰ	●薬理学Ⅱ ●疾病と薬物治療Ⅰ ●疾病と薬物治療Ⅱ	●薬理学Ⅳ ●疾病と薬物治療Ⅲ ●疾病と薬物治療Ⅳ ●疾病と薬物治療Ⅴ ●疾病と薬物治療Ⅵ ●疾病と薬物治療Ⅶ
	薬学臨床					●医薬情報Ⅰ ●医薬情報Ⅱ
	薬学演習・特演					
	実習		●生物系実習Ⅰ 1.5 ●化学系実習Ⅰ 1.5	●化学系実習Ⅱ 1.5 ●物理系実習Ⅰ 1.5	●物理系実習Ⅱ 1.5 ●生物系実習Ⅱ 1.5	●化学系実習Ⅲ 1.5 ●生物系実習Ⅲ 1.5 ●健康・環境実習 1.5 ●創薬系実習 1.5 ●医療系実習Ⅰ 1.5 ●医療系実習Ⅱ 1.5
単位数		27		33	34	
選択科目	総合	●健康科学 ●地球環境概論 ●障がい論 ●社会学	●現代経済論 ●国際関係論 ●健康スポーツ ●数学Ⅱ	●倫理学 ●哲学概論 ●美術・デザイン ●文章表現	●法学 ●基礎情報学演習Ⅱ ●計算科学 ●基礎栄養学	
	外国語	●英語検定Ⅰ ●英会話Ⅰ ●ドイツ語Ⅰ	●中国語Ⅰ ●フランス語Ⅰ	●英語検定Ⅱ ●英会話Ⅱ ●ドイツ語Ⅱ	●中国語Ⅱ ●フランス語Ⅱ	
	ゼミナール		●ゼミナールⅠ	●ゼミナールⅡ	●ゼミナールⅢ	
	専門Ⅰ					●構造有機化学 ●反応有機化学 ●細胞工学 ●代謝生化学 ●香粧品科学
	専門Ⅱ					●アドバンス有機化学 ●薬理経済学 ●地域保健薬学概論 ●漢方薬物学Ⅱ ●スキンケア入門
講義	●基礎分析化学集中講義 0.5 ●基礎生物学集中講義 0.5 ●基礎物理学集中講義 0.5 ●化学入門演習 0.5					
演習		アドバンスゼミナールⅠ	アドバンスゼミナールⅡ	アドバンスゼミナールⅢ		

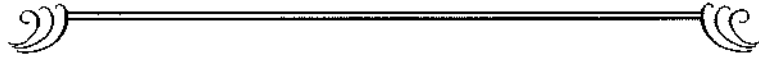
履修要項

4年		5年		6年		単位数
前期	後期	前期	後期	前期	後期	
●科別英語特講Ⅰ 1		●科別英語特講Ⅱ 1				4
●薬事関連法規と特許Ⅱ 1						9
						7
						10
						7
						3
						14
●薬物動態学 1						6
						6
●疾病と薬物治療Ⅳ 1 ●臨床推論Ⅰ 1 ●医薬情報演習 1						17
●調剤学 1 ●医薬品安全性評価学 1 ●病態栄養管理学 1 ●個別化医療Ⅱ 1 ●薬局・病院薬学 1 ●一般用医薬品学 1 ●実務実習事前学習Ⅰ 3		●医療プロフェッショナリズム 1				12
●総合演習Ⅰ 2		●総合演習Ⅱ 4		●薬学アップデート 3		20
		科別特論Ⅰ、科別特論Ⅱ 科別演習Ⅰ、科別演習Ⅱ		●アドバンス演習Ⅰ 2 ●アドバンス演習Ⅱ 3 ●アドバンス演習Ⅲ 1		53
●実務実習事前実習 3		●実務実習 20				12
		●課題研究(4年～6年)				23
26		22		8		168
						4
						2
						3
●中医学概論 1 ●病理組織学 1 ●臨床医学概論 1 ●臨床栄養学 1						4
4(前期)						5
		●医療情報特論 1 ●マーケティング 1 ●専門薬剤師特論Ⅰ 1 ●医療経済学特論 1 ●食育と運動処方 1 ●専門薬剤師特論Ⅱ 1 ●レジュマリアルケインズ 1 ●臨床薬理学特論 1 ●臨床推論Ⅱ 1 ●医薬品開発特論 1 ●病態生理学特論 1 ●薬局経営管理学 1 ●有機薬理化学特論 1 ●プライマリケアⅠ 1 ●専門薬剤師総論 1 ●プライマリケアⅡ 1				6
		卒業の要件: 5単位以上(5年～6年前期)				
アドバンスセミナーⅣ 1 ●インターンシップ(1単位)		アドバンスセミナーⅤ 1				合計 188

総合薬学演習試験

薬剤師国家試験

◎卒論配属、分科 共用試験(CBT・OSCE)



授業計画

履修科目一覧

- | | |
|--------------|----------|
| I 1年次必修科目 | VI 実習科目 |
| II 2年次必修科目 | VII 自由科目 |
| III 選択（一般総合） | |
| IV 選択（外国語） | |
| V 選択（ゼミナール） | |



1 年次必修科目履修一覧

		前 期	単位数	後 期	単位数	
総 合 科 目	一般教養	数学 I	1			
		基礎情報学	1			
		基礎情報学演習 I	1			
	外国語	英語（講読） I	1	英語（講読） II	1	
		英語（コミュニケーション） I	1	英語（コミュニケーション） II	1	
共 通 専 門 科 目	人間と薬学	人間と薬学 I	1	人間と薬学 II	1	
	物理系薬学	物理学	1	物理化学 I	1	
		化学平衡論	1	分析化学	1	
		無機化学	1	放射化学	1	
	化学系薬学	基礎化学	1	一般化学	1	
				有機化学 I	1	
	生物系薬学	機能形態学 I	1	機能形態学 II	1	
		細胞生物学	1	生化学 I	1	
		生物学	1			
	薬と疾病			薬と疾病入門	1	年間総数
履修科目数	13科目		11科目		24科目	
単位認定科目数	13科目		11科目		24科目	
認定単位数	13単位		11単位		24単位	

※平成28年度は本表の科目を開講する。

2 年次 必修科目 履修一覽

授業計画

		前 期	単位数	後 期	単位数
総合科目	一般教養	基礎統計学	1		
	外国語	薬学英語入門Ⅰ	1	薬学英語入門Ⅱ	1
共通専門科目	人間と薬学	医療コミュニケーション	1	社会と薬学	1
	物理系薬学	物理化学Ⅱ	1	物理化学Ⅲ	1
		臨床分析化学	1		
		機器分析学	1		
	化学系薬学	有機化学Ⅱ	1	有機化学Ⅲ	1
		植物薬品学	1	生薬学	1
	生物系薬学	機能形態学Ⅲ	1	生化学Ⅲ	1
		生化学Ⅱ	1	病原微生物学	1
		微生物学	1	免疫学	1
	健康と環境	健康保持と疾病予防	1	生活環境と健康	1
				栄養と食品機能	1
	薬と疾病			物理薬剤学	1
		薬理学Ⅰ	1	薬理学Ⅱ	1
				疾病と薬物治療Ⅰ	1
				疾病と薬物治療Ⅱ	1
履修科目数	13科目		14科目		27科目
単位認定科目数	13科目		14科目		27科目
認定単位数	13単位		14単位		27単位

【備考】再履修科目がある場合には、単位認定科目数に加える。

※平成28年度は本表の科目を開講する。

選 択 科 目 履 修 一 覧

	科 目 名	履 修 学 年						前・後期	単位数
		1年	2年	3年	4年	5年	6年		
一 般 教 養 科 目	健康科学（男子クラス）	○						前	1
	障がい論	○						前	1
	現代経済論	○	○					前	1
	美術・デザイン	○	○					前	1
	倫理学	○	○					前	1
	健康スポーツ	○						前	1
	社会学	○						前	1
	地球環境概論	○						前・後	1
	文章表現	○	○					前・後	1
	法学	○	○					前・後	1
	基礎栄養学	○						前・後	1
	数学Ⅱ	○						後	1
	健康科学（女子クラス）	○						後	1
	計算科学	○	○					後	1
	哲学概論	○	○					後	1
基礎情報学演習Ⅱ	○						後	1	修得単位数
国際関係論	○	○					後	1	4単位以上

【備考】

1. 上記科目より4科目（4単位）以上修得すること。
 2. 「地球環境概論」「文章表現」「法学」「基礎栄養学」については、前期・後期の両学期に同じ講義内容で開講する。なお、後期の履修において、前期に単位修得した同科目を履修することはできない。
 3. 1年次生は選択科目の一般教養科目を前期と後期に各々1科目以上を必ず履修すること。
- ※平成28年度は本表の科目を開講する

	科 目 名	履 修 学 年						前・後期	単位数
		1年	2年	3年	4年	5年	6年		
外 国 語 科 目	英語検定Ⅰ	○	○					前	1
	英会話Ⅰ	○	○					前	1
	ドイツ語Ⅰ	○	○					前	1
	中国語Ⅰ	○	○					前	1
	フランス語Ⅰ	○	○					前	1
	英語検定Ⅱ	○	○					後	1
	英会話Ⅱ	○	○					後	1
	ドイツ語Ⅱ	○	○					後	1
	中国語Ⅱ	○	○					後	1
フランス語Ⅱ	○	○					後	1	2単位以上

【備考】

1. 上記科目より2科目（2単位）以上修得すること。
 2. 英語科目を除く外国語科目はⅠを履修し単位認定された科目のみⅡを履修できる。
- ※平成28年度は本表の科目を開講する

実 習 科 目 一 覧

実 習 科 目	実 習 名	年 次
共通実習科目	生物系実習Ⅰ	基礎生物学実習 1年・後期
	化学系実習Ⅰ	基礎有機化学実習 1年・後期
	化学系実習Ⅱ	有機化学実習 漢方薬物学実習 2年・前期
	物理系実習Ⅰ	分析化学実習 2年・前期
	物理系実習Ⅱ	物理化学・分析化学実習 2年・後期
	生物系実習Ⅱ	微生物・免疫学実習 2年・後期

※平成28年度は本表の科目を開講する

自 由 科 目 履 修 一 覧

科 目 名	履 修 学 年						前・後期	単位数
	1年	2年	3年	4年	5年	6年		
基礎分析化学集中講義	○						前	0.5
基礎物理学集中講義	○						前	0.5
基礎生物学集中講義	○						前	0.5
化学入門演習	○						前	0.5

※平成28年度は本表の科目を開講する

平成28年度薬学部教員一覧

学科	教室、研究室	教授	准教授	講師	助教	助手
医療薬学科	機能形態学教室	馬場 広子	山口 宜秀	林 明子	石橋 智子	
	病原微生物学教室	野口 雅久		中南 秀将	輪島 丈明	中瀬 恵亮
	薬物代謝安全性学教室	平塚 明	小倉 健一郎	西山 貴仁	大沼 友和	
	薬物動態制御学教室	井上 勝央		白坂 善之	岸本 久直	
	病態生理学教室	市田 公美		長谷川 弘	中村 真希子	
				藤田 恭子		
	臨床薬学教室		柴崎 浩美		横川 彰朋	
	臨床薬理学教室	平野 俊彦	杉山 健太郎	恩田 健二	田中 祥子	
	臨床薬効解析学教室	山田 安彦	高柳 理早	横山 晴子		木村 耕二
	一般用医薬品学教室	渡辺 謹三		成井 浩二		
	医療実務薬学教室	畷崎 榮	竹内 裕紀		川口 崇	
	総合医療薬学講座		山田 純司		大友 隆之	
	社会薬学研究室	北垣 邦彦				
	薬学基礎実習教育センター	稲葉 二郎			高橋 浩司	
	薬学実務実習教育センター	井上 みち子		戸張 裕子		
		倉本 敬二		別生 伸太郎	濱田 真向	
				増田 多加子		
薬学教育推進センター	篠原 佳彦					
情報教育研究センター	土橋 朗				倉田 香織	
医療薬物薬学科	生体分析化学教室	柳田 顕郎		東海林 敦		
	天然医薬品化学教室		一柳 幸生		蓮田 知代	朴 炫宣
	薬化学教室	三浦 剛		古石 裕治	平島 翼一	中島 康介
	応用生化学教室	高木 教夫		袁 博		
				林 秀樹		
	分子細胞病態薬理学教室	田野中 浩一			丸ノ内 徹郎	矢野 絵美
	病態生化学教室	野水 基義	吉川 大和	保住 建太郎	片桐 文彦	
	製剤設計学教室	瀬田 康生	高島 由季	金沢 貴憲		茨木 ひさ子
	薬品製造学教室	松本 隆司	矢内 光		藤本 裕貴	山口 悟
	生物分子有機化学教室		宮岡 宏明	釜池 和夫	太田 浩一朗	
	薬事関係法規研究室	益山 光一				
	第2英語研究室	大野 真				
	薬学基礎実習教育センター			佐藤 弘人		
				今田 啓介		
	中央分析センター				佐久間 千勢子	深谷 晴彦
	薬用植物園				三宅 克典	
	薬学実務実習教育センター		勝山 壮	武井 佐和子		
				影山 美穂		
				大山 勝宏		
	薬学教育推進センター	三浦 典子	緒方 正裕		吉田 君成	
		横島 智	片野 修一郎			
	情報教育研究センター					
	中国医学研究室		猪越 英明			山田 哲也
和漢薬物学講座	山田 陽城					

学科	教室、研究室	教授	准教授	講師	助教	助手
医療衛生薬学科	分析化学教室	袴田 秀樹	小谷 明			山本 法央
	薬品化学教室	林 良雄			高山 健太郎	
					田口 晃弘	
	生化学教室	佐藤 隆		水野 晃治	秋元 賀子	
					高田 匠	
	免疫学教室	大野 尚仁	安達 禎之	石橋 健一	山中 大輔	
	衛生化学教室		早川 磨紀男		藤野 智史	
					大嶋 利之	
	薬物送達学教室	新橋 幸彦	根岸 洋一	多田 暉	高橋 葉子	
	内分泌・神経薬理学教室	立川 英一	田村 和広	吉江 幹浩		桑原 直子
	公衆衛生学教室	藤原 泰之		高橋 勉		
				篠田 陽		
	漢方資源応用学教室	三巻 祥浩	黒田 明平	横須賀 章人	松尾 侑希子	
	分子機能解析学教室		青山 洋史		伊集院 良祐	加藤 淳也
	臨床薬剤学教室	下枝 貞彦				
	医薬品安全管理学教室	杉浦 宗敏	中島 由紀		清海 杏奈	
	保健体育研究室	與那 正栄				
	第4英語研究室	森本 信子				
	医療人間関係学研究室	土屋 明美				
	薬学基礎実習教育センター			土橋 保夫		
			安藤 堅			
薬学教育推進センター	森川 勉					
	遠藤 朋宏			榎野 正		

※平成28年3月7日時点（予定）

I 1年次 必修科目

●総合科目	
【一般教養】	
数学 I	42
基礎情報学	44
基礎情報学演習 I	46
【外国語】	
英語（講読） I	48
英語（コミュニケーション） I	49
英語（講読） II	51
英語（コミュニケーション） II	52
●専門科目	
【人間と薬学】	
人間と薬学 I	54
人間と薬学 II	57
【物理系薬学】	
物理学	60
化学平衡論	62
無機化学	64
物理化学 I	66
分析化学	68
放射化学	70
【化学系薬学】	
基礎化学	72
一般化学	74
有機化学 I	76
【生物系薬学】	
機能形態学 I	78
細胞生物学	80
生物学	82
機能形態学 II	84
生化学 I	86
【薬と疾病】	
薬と疾病入門	88

数学 I

Mathematics I

第 1 学年 前期 1 年必修科目 1 単位

片野 修一郎

学習目標 (GIO) 現代社会において、数学の必要性は間違いなく単調に増加しているにもかかわらず、全ての科学の基礎となつて学力のベースを構成する数学のような学問は、目に見える卑近な成果ばかりを追いかける現代日本の風潮の中にあつては軽視されがちである。マンションの杭打ち基礎工事に問題があれば、後になって深刻な影響が出ることは昨年来のニュースで報道されたばかりなので、記憶に新しい人もいよう。当該マンションは結局建て直しになった。薬学を学ぶ上でも、数学は大切な礎石部分を構成するのである。この授業では、薬学にとって最も役立つ道具である「微分積分学」にスポットを当てて、薬学に自在に利用できるようになるまでしっかり理解することを目標として掲げたい。同時に、学問に向き合うときの姿勢をぜひ学んで欲しいとも思う。

- (1) How to を暗記するのではなく、Story を理解する。
- (2) 些細な計算ひとつとっても、工夫したり別の方法を考えたりする習慣を身につける。
- (3) 微積分の（少数の）基本原理を明確に理解する。
- (4) 薬学に必要な微積分の計算能力を身につける。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	関数の基本（表記の仕方や変数・定数の意味などを含む）についてきちんと身につける。指数の基本を徹底的に理解する。巨大な数や微小な数の表記の仕方にも慣れる。	X-7-2-1
2	指数関数の基本性質を心底から理解する。指数関数の際立った特徴を把握したうえで、グラフが描けるようになる。 2^x と 2^x の違いが曖昧、なんていうことが絶対ないように。指数計算に習熟する。	X-7-2-1
3	対数の定義と意味を明確に理解する。対数関数の基本性質を把握したうえで、そのグラフが描けるようになる。対数計算が確実にできる。	X-7-2-1
4	三角関数の基本性質を理解し、そのグラフが描けるようになる。	X-7-2-2
5	極限の意味を直観的に理解し、微分法が何のために考えられたのか、何をするためにあるのかを自分の言葉で説明できる。定義に基づいて簡単な関数の微分が実行できる。化学反応の速度が微分によって捉えられることがわかる。	X-7-3-1 X-7-3-2
6	微分法の基本性質を理解し、それに基づいて多項式や有理式の微分が自在にできる。	X-7-3-2
7	指数関数の微分ができる。その過程で、自然対数の底 e の意味と意義をはっきり知る。この機会に、自然対数と常用対数それぞれの用途および双方の変換について認識を新たにする。	X-7-3-2
8	まず合成関数とは何かを理解する。次に合成関数の微分法の仕組みを理解し、自在に計算できるようになる（微分法学習最大の山場）。	X-7-3-2
9	逆関数の微分法則の応用として、対数関数の微分ができるようになる。	X-7-3-2
10	積分の基本理念について理解する。原始関数の概念を、その表記法と共に理解する。基本になる少数の簡単な原始関数が確実に求められる。	X-7-3-3
11	合成関数微分の逆読みとしての積分（最も初歩的な置換積分）ができるようになる。	X-7-3-3
12	一般の置換積分および部分積分の技術を身につける（時間が不足した場合は、後期の選択科目数学 II に持ち越す）。	X-7-3-3
13	2変数関数とは何か、そのグラフはどんなものかを理解する。偏微分概念を表記法と共に明確に把握し、具体的な関数の偏導関数が計算できる。熱力学で現れる偏微分などについても知る。	X-7-3-5
14	2階の偏導関数までを確実に計算できる。記号等もきちんと使える。	X-7-3-5

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1~3	片野	関数の基本事項、指数関数、対数関数	1, 2, 3
3~4	片野	三角関数	4
5~9	片野	1変数関数の微分法（極限についての簡単な説明を含む）	5, 6, 7, 8, 9
10~12	片野	1変数関数の積分法	10, 11, 12
13~14	片野	偏微分法	13, 14

- [アクティブ・ラーニングの取り組み]
- ・学生が自ら手を動かして演習問題を解く時間をできるだけ設ける。
 - ・黒板で演習問題の解答を発表させることもある。
 - ・Webclass に教科書の演習問題の詳しい解答解説を適宜アップする。場合によっては、自習用にさらなる演習問題と解答解説をアップする。

【授業で行っている工夫】

- ・「これは何なのか」「どうしてこんなことを考えるのか」「なぜそうなるのか」「この式の意味は何か」といった理屈の部分（専門的にならない範囲で）徹底的に解説する。
- ・例や例題をできるだけ多く紹介し、解説している。
- ・演習問題を数多く解いて理解を深める機会を多く設けている。

【成績評価方法】

1) 形成的評価

- a) 知識：言葉の定義や基礎的概念を明確に理解しているかどうかを授業内で常に問う。
- b) 技能：演習問題に取り組んでもらい、その解説を行って、知識や理解を深める。
- c) 態度：演習問題の授業時間内での発表や質問などの主体的な取り組みを評価する。

2) 総括的評価

- a) 知識：定期試験により評価する。
- b) 技能：定期試験により評価する。
- c) 態度：日常の積極的な取り組みを総合的に勘案する。

【教科書】

片野修一郎『微分積分学講義』（DTP 出版 ISBN978-4-86211-355-9）。

ぜひ事前に序文と付録に目を通しておいてください。高等学校数学Ⅱの学習に不安がある人は特に付録を入念に読んでおいてください。本格的な微積分の本が読みたい人は大書店に行けば山ほどあります。授業を理解するだけで手一杯の人は、高等学校数学Ⅲの教科書を手元に置いておくとも良いと思います。とりあえず一通りのことが、この薄さと安さで達成できる本はたぶん他にはありません。下記参考書「わかりやすい〜」は、実際に手に取って中身を見て、自分には必要だと思ったら購入して日頃の計算練習に使うと良いと思います。授業で使うことはありません。

【参考書】

都築稔編『わかりやすい薬学系の数学入門』（講談社）

この本は、中学校で学ぶような四則計算や濃度計算に始まり、線形代数に至るまで、理屈は棚上げにして、とにかく「計算ができる」ことを目標にした計算ドリルみたいな本です。高等学校までの数学をきちんと理解している人には全く必要ありません。授業で使うこともありません。しかし現実には、このような計算でつまづいたり、ものすごく時間がかかる人が結構います。そういう人は、この本で普段から練習するといいです。

とりあえず一通りのことが「できる」ようになるには、高等学校の数学Ⅱおよび数学Ⅲの教科書が一番役に立つように思います。捨てずに取っておいてください。

【オフィスアワー】

火曜午後学習相談を設定してありますが、質問はそれとは無関係に、2109 研究室でいつでも受け付けます。質問するのに遠慮も予約もありません。

【所属教室】

薬学教育推進センター 2109

【準備学習（予習・復習等）】

高等学校の数学Ⅱまではしっかり理解しておくことを強く望みます。高等学校で「ただ履修した」とことと「きちんと理解した」とことは天と地ほどの違いがあることをきちんと感じて下さいね。特に指数・対数は薬学部生にとって命です。6年間ついてまわります。理工系大学に籍を置いているにも拘わらず、指数対数の基本中の基本さえ理解していない学生が非常に目につきます。「理解する」という言葉の意味が実感できなくなっているのではないかと危惧します。掛け算九九と同じくらいはしっかり理解して初めて「理解した」というのです。

この授業では、高等学校数学Ⅲを履修していることを仮定しません。上に書いたように、理解していないのなら、履修していないのと同じことです。数学Ⅲを履修していないことを気に病む学生を毎年相当数見かけますが、そんな暇があったら、数学Ⅱ（それ以前の教科書も含む）の教科書を完全に理解しておくことに全力を注いで下さい。数学Ⅱまでが完全にわかっているならば、この授業に臨むに当たっては何の不足もありません。

【教員からの一言】

試験前に公式を覚えて計算さえできればよい、例題の真似ができればよい、答えさえ合えばよい、そういう風潮が日本全体を覆うようになりました。でも、それはとんでもない間違いです。それは学問ではありません。そういう空気に浸り続けて、それが当たり前だと思ってしまうと、ある程度高度な数学を学ぶのは著しく困難になります。それどころか、濃度計算のようなごく基本的な計算まで上手にできなくなります。計算のとても下手な理科系学生が目立ちますが、それも答えさえ合っていればいいんだ、という態度に原因があるような気がします。

逆に、数学が好きな人・得意な人には易し過ぎて面白くないと思います。そういう人は後期の数学Ⅱを楽しみにしてください。

基礎情報学

Essential Information Science

第1学年 前期 1年必修科目 1単位

土橋 朗

学習目標 (GIO) 情報とは何かを理解し、情報を管理・活用するため、コンピュータを使いこなす能力（コンピュータリテラシー）とインターネットを使いこなす能力（インターネットリテラシー）を理解する。さらにネット社会の成立と社会の情報化がもたらす社会システムの変化および個人の活動への影響を理解する。

行動目標 (SBOs)

番 号	内 容	コアカリとの関連コード
1	情報化社会におけるリテラシーの必要性を社会的背景をふまえて説明できる。	X-2-1-1
2	PCの5大装置の総称とその役割を説明できる。	X-8-1-1
3	コンピュータの取り扱う文字と文字の符号化を説明できる。	X-8-1-3
4	インターネットやLANなどのネットワークを構成する機器およびサーバの名称とその役割を説明できる。	X-8-1-4 X-8-1-5
5	代表的なTCP/IPプロトコルの名称を列挙し、そのプロトコルが提供するインターネットサービスを説明できる。	X-8-1-4
6	検索エンジンのしくみとその利用法を説明できる。	X-8-1-7
7	情報の収集と活用を目的としたデータベースの利用法を説明できる。	X-8-1-8
8	関係データベースにおけるSQLの基本的な記述法を説明できる。	X-8-2-5
9	研究論文、ビジネス文書および電子メールの構成要素を説明できる。	X-8-1-6 X-9-2-1 X-9-2-2
10	医療情報の標準化に関わるコード体系および情報交換プロトコルの名称と特徴を説明できる。	X-8-1-3 X-8-3-5
11	代表的な構造化文書の名称と特徴を説明できる。	X-8-1-3
12	情報化社会における暗号による秘匿と認証の必要性を説明できる。	X-8-3-1
13	共通鍵暗号方式と公開鍵暗号方式の違いとその特徴を説明できる。	X-8-3-4
14	知的財産権を分類し、特許権および著作権を説明できる。	X-8-3-4
15	デジタル情報の特徴とその著作権に関わる問題点を説明できる。	X-8-3-4
16	人と機械を関係づけるインターフェースの特徴を理解し、アフォーダンスとは何かを説明できる。	X-8-1-2
17	人が犯す誤りを分類し、その特徴を説明できる。	
18	情報の視覚化と化学構造の表現法の関連を説明できる。	X-8-2-3 X-8-2-4
19	情報のデジタル化がもたらす社会および個人への影響を説明できる。	X-8-3-6 X-8-3-7 X-8-3-8

授業内容

回 数	担 当	内 容	対 応 (SBOs)
1	土橋	情報の概念	1
2	土橋	PCのしくみと特徴	2
3	土橋	コンピュータにおけるデータ表現と文字コード	3
4	土橋	インターネットのしくみと特徴	4, 5
5	土橋	インターネットにおける情報検索	6
6	土橋	情報検索とデータベース	7, 8
7	土橋	PCによる文書作成	9
8	土橋	医療情報の標準化と構造化文書	10, 11
9	土橋	情報化社会における認証と秘匿	12, 13
10	土橋	情報化社会と法律	14, 15
11	土橋	情報デザインとユーザビリティ	16, 17
12	土橋	情報の可視化と化学構造式	18
13	土橋	情報化社会で得るものと失うもの	19

【アクティブ・ラーニングの取り組み】

講義用 PowerPoint マテリアルを各講義終了後に WebClass に公開する。
各講義回で授業内容に関する質問事項を用意し、講義内で解答シートに解答してもらおう。質問事項への解答結果は次回講義回までに集計し、講義の振り返りに用いる。
各講義回で講義終了時に授業内容に関連する質問項目を用意し、講義後に WebClass に解答してもらおう。

WebClass に会議室を設け、授業内容に関連する質問を受け、解答する。

〔授業で行っている工夫〕

基礎情報学の講義用に教科書「医療情報リテラシー」を編纂し、各章ごとに要点をまとめた PowerPoint マテリアルで講義を行う。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識：各講義回で講義終了時に授業内容に関連する質問項目を用意し、講義後に WebClass に解答してもらう。提出は必須事項とする。

2) 総括的評価

a) 知識：定期試験の成績および出席状況を加味して総合的に評価する。なお、出席不良者（1/3 以上の欠席者）に対しては受験停止の措置を講ずる場合がある。

〔教科書〕

医療情報リテラシー 講義編

（土橋 朗編 著者 土橋 朗／小杉義幸／佐藤弘人／倉田香織、政光プリプラン）

〔参考書〕

医療情報 情報処理技術編／医学医療編／医療情報システム編（日本医療情報学会編）

IT Text 情報リテラシー（オーム社）

〔オフィスアワー〕

土橋 朗 待に設定しませんが、できれば前もって予約をしてください。

〔所属教室〕

土橋 朗 情報教育研究センター DR 棟 4 階 センター長室

〔準備学習（予習・復習等）〕

予習：各講義回の教科書を読むこと。

復習：各講義回後に公開する講義用 PowerPoint マテリアルを通して、講義内容を振り返ること、講義終了時に出される質問項目に解答し、WebClass に提出すること。

〔教員からの一言〕

WebClass の会議室は開講期間中いつでも開いています。直接的な会議室への質問を歓迎します。

基礎情報学演習 I

Essential Information Science Practice I

第 1 学年 前期 1 年必修科目 1 単位

土橋 朗・倉田 香織 (A, C, E, G)

土橋 朗・佐藤 弘人 (B, D, F, H)

学習目標 (GIO) 薬学を学ぶ上で基礎となる情報の収集・評価・加工・提供・管理に必要なデータや情報を有効活用できるようになるために、情報の授受に効果的なコンピュータやインターネットの利用法に関する基本的知識・技能・態度を修得する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	ビジネス文書やレポートなど、文書に定められた一般的なルールを説明できる。(知識)	X-9-2-1 X-9-2-2
2	OS の機能を活用して、電子ファイルの作成および管理ができる。(技能)	X-8-1-3 X-8-3-3
3	ネットワークを活用して、情報の受信・発信ができる。(技能)	X-8-1-7 X-8-1-8
4	ネットワーク利用におけるルール・マナーを遵守する。(態度)	X-8-1-6 X-8-3-2
5	信頼性の高いホームページで公開されている情報を収集できる。(技能)	X-8-1-8
6	ワープロソフト (MS Word) を用いて、レポートを作成することができる。(技能)	X-8-2-2
7	プレゼンテーションソフトウェア (MS PowerPoint) を用いて、ポスターやプレゼンテーションスライドを作成することができる。(技能)	X-8-2-2 X-9-3-1 X-9-3-2 X-9-3-3
8	表計算ソフトウェア (MS Excel) を用いて、表計算処理を行うことができる。(技能)	X-8-2-2
9	表計算ソフトウェア (MS Excel) を用いて、グラフ描画を行うことができる。(技能)	X-8-2-2
10	表計算ソフトウェア (MS Excel) を用いて、データ管理を行うことができる。(技能)	X-8-2-2
11	化学構造式描画ソフトウェア (ChemBioOffice) を用いて、平面構造式および 3 次元構造式を描画することができる。(技能)	X-8-2-3 X-8-2-4
12	身近な医薬品の情報を調査する際に、質の高い医薬品情報を選択することができる (技能)。	X-8-1-8 X-8-3-5
13	インターネットなどを利用して代表的な医薬品情報を収集できる。(技能)	X-8-1-7 X-8-3-7
14	ソフトウェア使用上のルール、マナーを守る。(態度)	X-8-2-1 X-8-3-8

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	土橋、佐藤、倉田	ファイル管理	1~4, 14
2	#	医薬品情報の取得	3~5
3	#	Word によるプリントの作成	1, 2, 6
4	#	Word による医薬品情報提供文書の作成	1~6, 12
5	#	Excel による表計算 1 回目	8
6	#	Excel による表計算 2 回目	8
7	#	Excel による関数の利用 1 回目	8
8	#	Excel による関数の利用 2 回目	8
9	#	Excel によるグラフ描画	1, 9
10	#	データベースを用いたデータ管理	10
11	#	調査・実験レポートの作成	1, 5, 6, 7, 8, 9, 12, 13
12	#	平面構造式を描画	1, 11
13	#	3 次元構造式を描画	3, 5, 11

【アクティブ・ラーニングの取り組み】
演習テーマごとに演習課題 (10 回) を提出してもらう。
提出した課題は e-ポートフォリオとして形成的評価および自己評価を行う。
提出された課題の一部は公開する。

〔授業で行っている工夫〕

入学以前の情報教育で身につけた知識・技能は個人差があるため、TAを教室内に配置し、PCの環境設定や使用ソフトはできるだけ統一している。演習用教材は画面キャプチャ図を多用し、これらはWebClassを介して公開している。確実な技能習得のため、医療関連の素材を活用した演習課題を適宜用意し、提出された課題へのフィードバックを行う。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

- a) 知識：WebClassに提示した演習問題を繰り返し行い、自己評価する。
- b) 技能：示された模範解答例を参考に自己評価する。WebClass、メール等でこまめにフィードバックする。
- c) 態度：課題の作成および提出の際に観察し、WebClass、メール等でフィードバックする

2) 総括的評価

- a) 知識：繰り返しの形成的評価で改善が認められれば合とする。
- b) 技能：最終提出課題の完成度により評価する。受講態度（10%）、データ処理技能（50%）、文書作成技能（40%）として評価する。
- c) 態度：繰り返しの形成的評価で改善が認められれば合とする。

〔教科書〕

医療情報リテラシー 演習編
 (著者 土橋 朗/小杉義幸/佐藤弘人/倉田香織、政光プリプラン)

〔参考書〕

情報リテラシー 総合編 (FOM出版)

〔オフィスアワー〕

全員 特に設定しませんが、できれば前もって電子メール等で予約をしてください。

〔所属教室〕

土橋 朗 情報教育研究センター DR棟4階 センター長室
 佐藤 弘人 薬学基礎実習教育センター 教育2号館2階2206
 倉田 香織 情報教育研究センター DR棟4階 センター教員室

〔準備学習(予習・復習等)〕

授業開始前に各自で授業用のノートPCの準備(ソフトウェアのインストールおよびLANへの接続テスト)が必要である。詳細は掲示等を確認すること。
 WebClassへ資料を配布するので、よく読んで理解に努めること。

〔教員からの一言〕

高校までの「情報」の授業を発展させて、医薬品情報および患者情報を扱うために必要なデータ処理の基礎技術を身につけていただきます。専門の学習はこれからですが、医薬品添付文書や薬用量計算、診療報酬表など、可能な限り専門の学習につながる医療系の題材を選んでいきますので、楽しみにしてください。操作方法等でわからないところは、遠慮せずに質問してください。

〔備考〕

演習テーマによりクラス編成および授業担当者が変更になることがある。

英語（講読）I

English (Reading) I

第1学年 前期 1年必修科目 1単位

神田 玲子 (1・4) 森本 信子 (2・5) 畑江 里美 (3・6)
深松 亮太 (7・10) 大野 真 (8・11) 首藤 理彩子 (9・12)

学習目標 (GIO) 英米人が実際に読んでいる書籍や雑誌を読解するために、科学や医療、時事問題など様々な話題の英文を学習し、それらの構文や文法を理解する。イントロダクションで様々な辞書の使い分け方と使用方法、精読と速読の相違点を理解した上で、具体的なテキストの読解を行う。精読と速読の訓練を通じて、構文と文法の理解、テープの聞き取り能力、文章の正確な発音、パラグラフの要旨把握能力、必須語彙を習得する。また、テキストの内容面（科学や医療、時事問題など）についても理解を深め、自らの意見を発表できるように指導する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	様々な辞書の使い分け方と使用方法を理解する。	X(3) (薬学の基礎としての英語)
2	精読と速読の相違点を理解する。	X-3-1
3	精読において、文章の構文と文法を正確に説明できる。	X-3-1
4	精読において、テープを聞いた後に、文章の要旨を説明できる。	X-3-3
5	精読において、文章を正確に発音できる。	X-3-3
6	速読において、各パラグラフの要旨を説明できる。	X-3-1
7	英検準1級程度に相当する語彙を習得する。	X-3-2
8	テキストの内容面（科学や医療、時事問題など）について理解する。	X-3-1
9	テキストの内容面（科学や医療、時事問題など）について自らの意見を発表できる。	X-3-1

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1		前期授業のイントロダクション	1, 2
2～13		前期テキストの講読	3～9

【アクティブ・ラーニングの取り組み】
課題の提出あるいは小テストを実施している。

【授業で行っている工夫】
科学や医療、時事問題など様々な話題の英文を読み、幅広い英語力を養えるように共通テキストを選定している。速読と精読の両方を訓練する。

【成績評価方法】

- 1) 形成的評価
 - a) 知識：演習問題を繰り返し行う。
 - c) 態度：提出物、受講態度を評価する。なお、出席不良者に対しては定期試験受験停止の措置を講じることがあるので注意すること。
 - d) パフォーマンス：音読やシャドウイング、書き取りなどを行う。
- 2) 総括的評価
 - a) 定期試験、提出物、受講態度を総合的に評価する。
 - c) 態度：繰り返しの形成的評価で改善が認められれば合格とする。
 - d) パフォーマンス：音読やシャドウイング、書き取りなどを行う。

【教科書】

西村 月満他『英語で学ぶ医療と健康 (Health Care Today)』(朝日出版社)
松本 茂 他『速読速聴・英単語 Core 1900 ver.4』(Z会)

【参考書】

リーダーズ英和辞典 (松田編 研究社)

【オフィスアワー】

大野・森本 いつでも可。 但し、要予約。 非常勤講師 薬学事務課にて。 薬学部事務にて要予約。

【所属教室】

大野 真 第2英語研究室 研究2号館207号
森本 信子 第4英語研究室 研究2号館609号

【準備学習 (予習・復習等)】

Health Care Todayの教科書のReadingの部分を十分に予習してから授業に臨んで下さい。復習として、文章をしっかりと音読すると効果的です。

英語（コミュニケーション）Ⅰ

English(Communication)Ⅰ

第1学年 前期 1年必修科目 1単位

ジャック ウィット (3・6) ケネス クラウン (9・12) ドナ マッキニス (2・5・7・10)
セバスチャン ブルック (1・4) リチャード シュルツ (8・11)

学習目標 The general objective of this course is for students to improve all four skills (reading, writing, speaking, and listening) and learn about health and the pharmaceutical sciences at the same time. Over the semester, students will also learn the basics to express themselves more clearly both orally and in written form. Critical thinking skills will also be improved upon.

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	Students will learn proper pronunciation.	
2	Students will learn vocabulary and to distinguish between sounds at the word level.	
3	Students will learn vocabulary and to distinguish between sounds at the sentence level.	
4	Students will learn how spoken English naturally sounds and is produced.	
5	Students will practice listening for everyday conversation.	
6	Students will practice asking and answering questions for everyday conversation.	
7	Students will be better able to comprehend long passages related to science and health.	
8	Students will learn and improve their writing skills in English.	
9	In regard to various themes, students will be asked to think critically and ask questions.	

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1		Class orientation, introduction to four skills, and self-intros.	1, 2, 3, 4, 5, 6, and 7
2-13		Four skills (reading, writing, speaking, and listening) and the health sciences.	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, and 9
14		Final exam	

【アクティブ・ラーニングの取り組み】

Students will be expected to actively participate in class and do any necessary homework.

【授業で行っている工夫】

All of the professors are native-speakers with many years of experience teaching English to student pharmacists in Japan. They will surely be able to help you improve your English whether it is for reading, writing, speaking, or listening. Never hesitate to ask for assistance with your English education needs!

【成績評価方法】

- 1) 形成的評価
 - a) 知識: quizzes and homework
 - b) 技能: participation in class
 - c) 態度: homework preparation
 - d) パフォーマンス: final exam
- 2) 総括的評価
 - a) 知識: quizzes and homework
 - b) 技能: participation in class
 - c) 態度: homework preparation
 - d) パフォーマンス: final exam

【教科書】

Healthtalk (3rd Edition), Bert McBean, Macmillan Languagehouse

【参考書】

Each student is highly recommended to also bring a dictionary to class.

【オフィスアワー】

非常勤講師 薬学事務課にて。ただし薬学事務課にて要予約。

【準備学習（予習・復習等）】

テキストやプリントの予習・復習を行い、授業内容を着実に消化してください。重要語句・構文を英語で正確に書けるようにすること。

授業計画

I
1年次
必修科目

【教員からの一言】

As future healthcare providers, researchers, business people, etc...your knowledge of the sciences will be invaluable. Combining those skills with English ability will surely lead to many other career options.

英語（講読）Ⅱ

English (Reading) Ⅱ

第1学年 後期 1年必修科目 1単位

神田 玲子 (1・4) 森本 信子 (2・5) 畑江 里美 (3・6)
深松 亮太 (7・10) 大野 真 (8・11) 首藤 理彩子 (9・12)

学習目標 (GIO) 英米人が実際に読んでいる書籍や雑誌を読解するために、科学や医療、時事問題など様々な話題の英文を学習し、それらの構文や文法を理解する。イントロダクションで様々な辞書の使い分け方と使用方法、精読と速読の相違点を理解した上で、具体的なテキストの読解を行う。精読と速読の訓練を通じて、構文と文法の理解、テープの聞き取り能力、文章の正確な発音、パラグラフの要旨把握能力、必須語彙を習得する。また、テキストの内容面（科学や医療、時事問題など）についても理解を深め、自らの意見を発表できるように指導する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	様々な辞書の使い分け方と使用方法を理解する。	X(3) (薬学の基礎としての英語)
2	精読と速読の相違点を理解する。	X-3-1
3	精読において、文章の構文と文法を正確に説明できる。	X-3-1
4	精読において、テープを聞いた後に、文章の要旨を説明できる。	X-3-3
5	精読において、文章を正確に発音できる。	X-3-3
6	速読において、各パラグラフの要旨を説明できる。	X-3-1
7	英検準1級程度に相応する語彙を習得する。	X-3-2
8	テキストの内容面（科学や医療、時事問題など）について理解する。	X-3-1
9	テキストの内容面（科学や医療、時事問題など）について自らの意見を発表できる。	X-3-1

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1		後期授業のイントロダクション	1, 2
2～13		後期テキストの講読	3～9

【アクティブ・ラーニングの取り組み】
課題の提出あるいは小テストを実施している。

【授業で行っている工夫】
科学や医療、時事問題など様々な話題の英文を読み、幅広い英語力を養えるように共通テキストを選定している。速読と精読の両方を訓練する。

【成績評価方法】

- 1) 形成的評価
 - a) 知識：演習問題を繰り返し行う。
 - c) 態度：提出物、受講態度を評価する。なお、出席不良者に対しては定期試験受験停止の措置を講じることがあるので注意すること。
 - d) パフォーマンス：音読やシャドウイング、書き取りなどを行う。
- 2) 総括的評価
 - a) 定期試験、提出物、受講態度を総合的に評価する。
 - c) 態度：繰り返しの形成的評価で改善が認められれば合格とする。
 - d) パフォーマンス：音読やシャドウイング、書き取りなどを行う。

【教科書】

西村 月満他『英語で学ぶ医療と健康 (Health Care Today)』(朝日出版社)
松本 茂 他『速読速聴・英単語 Core 1900 ver.4』(Z会)

【参考書】

リーダーズ英和辞典 (松田編 研究社)

【オフィスアワー】

大野・森本 いつでも可。 但し、要予約。 非常勤講師 薬学事務課にて。 薬学事務課にて要予約。

【所属教室】

大野 真 第2英語研究室 研究2号館207号
森本 信子 第4英語研究室 研究2号館609号

【準備学習 (予習・復習等)】

Health Care Todayの教科書のReadingの部分十分に予習してから授業に臨んで下さい。復習として、文章をしっかり音読すると効果的です。

授業計画

I
1年次
必修科目

英語（コミュニケーション）II

English(Communication) II

第1学年 後期 1年必修科目 1単位

ジャック ウィット (3・6) ケネス クラウン (9・12) ドナ マッキニス (2・5・7・10)
セバスチャン ブルック (1・4) リチャード シュルツ (8・11)

学習目標 (GIO) The general objective of this course is for students to improve all four skills (reading, writing, speaking, and listening) and learn about health and the pharmaceutical sciences at the same time. Over the semester, students will also learn the basics to express themselves more clearly both orally and in written form. Critical thinking skills will also be improved upon.

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	Students will learn proper pronunciation.	
2	Students will learn vocabulary and to distinguish between sounds at the word level.	
3	Students will learn vocabulary and to distinguish between sounds at the sentence level.	
4	Students will learn how spoken English naturally sounds and is produced.	
5	Students will practice listening for everyday conversation.	
6	Students will practice asking and answering questions for everyday conversation.	
7	Students will be better able to comprehend long passages related to science and health.	
8	Students will learn and improve their writing skills in English.	
9	In regard to various themes, students will be asked to think critically and ask questions.	

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1		Class orientation, introduction to four skills, and self-intros.	1, 2, 3, 4, 5, 6, and 7
2-13		Four skills (reading, writing, speaking, and listening) and the health sciences.	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, and 9
14		Final exam.	

【アクティブ・ラーニングの取り組み】

Students will be expected to actively participate in class and do any necessary homework.

【授業で行っている工夫】

All of the professors are native-speakers with many years of experience teaching English to student pharmacists in Japan. They will surely be able to help you improve your English whether it is for reading, writing, speaking, or listening. Never hesitate to ask for assistance with your English education needs!

【成績評価方法】

- 1) 形成的評価
 - a) 知識: quizzes and homework
 - b) 技能: participation in class
 - c) 態度: homework preparation
 - d) パフォーマンス: final exam
- 2) 総括的評価
 - a) 知識: quizzes and homework
 - b) 技能: participation in class
 - c) 態度: homework preparation
 - d) パフォーマンス: final exam

【教科書】

Healthtalk (3rd Edition), Bert McBean, Macmillan Languagehouse

【参考書】

Each student is highly recommended to also bring a dictionary to class.

【オフィスアワー】

非常勤講師 薬学事務課にて。ただし薬学事務課にて要予約。

【準備学習 (予習・復習等)】

テキストやプリントの予習・復習を行い、授業内容を着実に消化してください。重要語句・構文を英語で正確に書けるようにすること。

【教員からの一言】

As future healthcare providers, researchers, business people, etc...your knowledge of the sciences will be invaluable. Combining those skills with English ability will surely lead to many other career options.

授業計画

I
1年次
必修科目

人間と薬学I

Human Life and Pharmacy I

第1学年 前期 1年必修科目 1単位

運営：益山光一、佐藤 隆、杉浦宗敏、土屋明美、北垣邦彦、三巻祥浩、山田安彦、與那正栄、渡辺謙三、
柴崎浩美、下枝貞彦、杉山健太郎、竹内裕紀、三浦典子、柳田頭郎、山田純司、吉田君成
倫理学：尾崎恭一、長島 隆

講師：笹津備規（本学学長）、大野尚仁（本学薬学部長）、嶋根卓也（(独)国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所）、坂口真弓（浅草薬剤師会会長）、杉本八郎（同志社大学教授）、林 和彦（東京女子医科大学病院がんセンター長）、増山ゆかり（いしずえサリドマイド福祉センター常務理事）

学習目標 (GIO) 皆さんは、医療を担う薬学人として必要な知識や技術を体系的に学んでいく上で、豊かな人間性や広い視野をも育まねばなりません。そのためには薬剤師や薬学に対する社会のニーズや期待、また医療人としての薬剤師の活動と責務をよく理解しておく必要があります。本講義では、薬剤師に求められる社会的ニーズと期待、医療スタッフとしての倫理観や薬剤師の役割などについて、学内外の専門家の方々に講義して頂きます。また、我が国の医療制度あるいは医療従事者の社会における活動状況と責務の概略を知り、薬学生としての学習に対するモチベーションを高めるために、卒業生の活躍する病院および薬局を訪問し、その体験に基づくグループ討議を行います。本講義を通じて、広い視野から「薬学」を考える力を養い、共感的な態度、能動的な学習態度を身につけてください。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	チーム医療や地域保健・医療・福祉を担う一員としての責任を自覚し行動する。(態度)	A-1-1-3
2	患者・患者家族・生活者が求める医療人について、自らの考えを述べる。(知識・態度)	A-1-1-4
3	生と死を通して、生きる意味や役割について、自らの考えを述べる。(知識・態度)	A-1-1-5
4	一人の人間として、自分が生きている意味や役割を問い直し、自らの考えを述べる。(知識・態度)	A-1-1-6
5	様々な死生観・価値観・信条等を受容することの重要性について、自らの言葉で説明する。(知識・態度)	A-1-1-7
6	患者・生活者のために薬剤師が果たすべき役割を自覚する。(態度)	A-1-2-1
7	薬剤師の活動分野（医療機関、薬局、製薬企業、衛生行政等）と社会における役割について説明できる。	A-1-2-2
8	健康管理、疾病予防、セルフメディケーション及び公衆衛生における薬剤師の役割について説明できる。	A-1-2-6
9	薬物乱用防止、自殺防止における薬剤師の役割について説明できる。	A-1-2-7
10	現代社会が抱える課題（少子・超高齢社会等）に対して、薬剤師が果たすべき役割を提案する。(知識・態度)	A-1-2-8
11	代表的な薬害の例（サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジン等）について、その原因と社会的背景及びその後の対応を説明できる。	A-1-3-6
12	代表的な薬害について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。(知識・態度)	A-1-3-7
13	薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割について説明できる。	A-1-4-1
14	薬物療法の歴史と、人類に与えてきた影響について説明できる。	A-1-4-2
15	薬剤師の誕生から現在までの役割の変遷の歴史（医薬分業を含む）について説明できる。	A-1-4-3
16	将来の薬剤師と薬学が果たす役割について討議する。(知識・態度)	A-1-4-4
17	倫理の基本的な諸概念を十分理解し、具体場面に関係づけて説明できる。	A-2-1-1
18	倫理の基本的な諸原理とその学説を十分理解し、具体場面に関係づけて説明できる。	A-2-1-2
19	科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概説できる。	A-2-1-4
20	適切な聴き方、質問を通じて相手の考えや感情を理解するように努める。(技能・態度)	A-3-1-7
21	適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることができる。(技能・態度)	A-3-1-8
22	他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。(知識・技能・態度)	A-3-1-9
23	「薬剤師として求められる基本的な資質」について、具体例を挙げて説明できる。	A-5-2-1
24	薬学が総合科学であることを認識し、薬剤師の役割と学習内容を関連づける。(知識・態度)	A-5-2-2
25	患者・生活者の視点に立って、様々な薬剤師の業務を見聞し、その体験から薬剤師業務の重要性について討議する。(知識・態度)	F-1-1-1
26	地域の保健・福祉を見聞した具体的体験に基づきその重要性や課題を討議する。(知識・態度)	F-1-1-2

番号	内容	コアカリとの関連コード
27	ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトを用いることができる。(技能)	X-8-2-2
28	著作権、肖像権、引用と転載の違いについて説明できる。	X-8-3-4
29	目的に応じて適切なプレゼンテーションを構成できる。(技能)	X-9-1-2
30	目的、場所、相手に応じた、わかりやすい資料を作成できる。(技能)	X-9-1-3
31	定められた書式、正しい文法に則って文書を作成できる。(知識・技能)	X-9-2-1
32	目的(レポート、論文、説明文書など)に応じて適切な文書を作成できる。(知識・技能)	X-9-2-2
33	課題に関して意見をまとめ、決められた時間内で発表できる。(技能)	X-9-3-2
34	効果的なプレゼンテーションを行う工夫をする。(技能・態度)	X-9-3-3
35	質問に対して的確な応答ができる。(技能)	X-9-3-4
36	他者のプレゼンテーションに対して、優れた点および改良点を指摘できる。(知識・態度)	X-9-3-5
37	医薬品の創製(研究開発、生産等)における薬剤師の役割について説明できる。	A-1-2-5
38	医療に関するリスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を説明できる。	A-1-3-3
39	重篤な副作用の例について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。(知識・態度)	A-1-3-5
40	医療問題の中から倫理的な課題を見出し、解決策を考える態度と判断力を養う。	X-1-1-1, A-1-2-1, B-1-5-1
41	倫理の様々な個人的、社会的な形態について、説明できる。	A-1-1-7, A-2-2-1, A-2-2-2, A-2-2-3, B-1-4-1
42	人権の倫理的根拠を説明できる。	X-1-1-1, A-2-1-1
43	医療において尊重すべき基本価値を理解し、相互の葛藤を説明できる。	A-2-3-1
44	患者の権利(健康権、医療アクセス権、自己決定権、インフォームド・コンセントなど)の重要性と内容を説明し、尊重できる。	X-1-1-5, A-2-3-2, A-2-3-3
45	薬剤師倫理規定の基礎となる考え方を説明できる。	A-2-2-2, A-2-3-4

授業内容

回数	担当	内容	対応(SBOs)
1	アドバイザー	SGD(1) 学習・生活等に関するガイダンス	20, 21, 22, 24
2	笹津 大野 益山	日本の薬学における本学の歴史と教育理念、 新薬学生への期待: 6年間で学ぶこと これから「人間と薬学」で学ぶこと	13, 14, 15, 16, 23, 24
3	嶋根	大学生のための薬物乱用防止	9, 31, 32
4	杉本	薬をつくる苦労と感動	8, 37
5	坂口	薬剤師の社会的使命	6, 7, 10
6	林	次世代の薬剤師に期待するキャリアパス	1, 2, 3, 4, 5, 6, 43
7	増山	薬害被害者の立場から薬剤師に求めること	11, 12, 38, 39
8	アドバイザー	SGD(2) 早期臨床体験に向けて(事前調査発表)	20, 21, 22, 27, 29, 30, 33, 34, 36
9	別に定める	早期臨床体験 直前説明会	1, 6, 20, 22, 23, 25, 26
10~12	別に定める	早期臨床体験	1, 6, 7, 25, 26
13	アドバイザー	SGD(3) 早期臨床体験を終えて(感想文およびレポートの 作成、事後報告発表)	2, 7, 8, 16, 20, 21, 22, 27, 28, 29, 30, 31, 32, 33, 34, 35, 36
14	尾崎, 長島	はじめに 医療者は、なぜ、どう倫理を学ぶべきか ①現場 での倫理問題の気づきと事件報道 ②医療の役割変化 ③ 倫理の問題と解決法	6, 40
15	尾崎, 長島	(1) 倫理的解決の基準 事実と価値・行為規範、自由と責任・ 倫理的自覚、慣習倫理・法令会則・個人道徳、医療倫理: 横 行・医療法令・職能基準・良心、患者の権利と責任	5, 17, 41
16	尾崎, 長島	(2) 倫理の諸原則 規範・原則・体系、原則主義・状況倫理、 義務論・幸福論、自然権・功利主義、完全・不完全義務	17, 18, 42
17	尾崎, 長島	(3) 生命倫理の諸原則 健康概念、個人の尊重・人間の福祉、 ヒポクラテスの誓い、生命倫理4原則、臨床倫理4分割法	6, 18, 30, 43
18	尾崎, 長島	(4) 人権と健康権 死生観、生命の神聖さと人間・個人の尊 厳、人権と特権、自由権と社会権、医療倫理: 自己決定権・ インフォームド・コンセント、健康権、医療アクセス権、薬 剤師倫理規定	6, 17, 18, 19, 40, 42, 43, 44, 45
19	尾崎, 長島	まとめ ①人権としての健康権・医療アクセス権 ②倫理的 関係としての医療者・患者関係 ③倫理の諸原則と生命倫理 4原則 ④事件報道・典型例・理論	6, 17, 18, 40, 42

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

- 1) 講義をより良く理解し、学生同士の話題を活発にするために、講義のワークシートや資料などを事前に配布している。
- 2) 講義で印象に残ったことなど、第三者に理解できる文章表現を目指して感想文を作成させている。
- 3) 教員（アドバイザー）と学生による SGD を 3 回実施している。
- 4) 学生が病院、薬局に自ら出向き、早期臨床体験をしている。
- 5) 学生がレポート（ポスター形式）を作成し、アドバイザーグループ単位で発表をさせている。
- 6) リアクションペーパーへのフィードバックを行い、相互学習を展開させる。

〔授業で行っている工夫〕

- 1) 人間と薬学ポートフォリオを利用します。学習記録や討論記録などを一元的に保存してください。
- 2) 講義時に講義内容などを書き留めるためメモを配布するので、感想文を書く際に活用してください。
- 3) 講義終了後、当日中に感想文を書き、提出してもらいます。
- 4) アドバイザー SGD を早期臨床体験の事前・事後に行います。早期臨床体験の事前調査やフィードバックとして利用します。
- 5) 早期臨床体験のプロダクトとして、感想文とレポート（ポスター形式）を作成します。これらを体験学習の客観的な見直しや自分以外のひととの意見交換に役立ててもらいます。
- 6) 情報リテラシー演習で学習した技術を実践してください。
- 7) PPT とサブノート式資料の併用により、視覚的確認と手作業による学習をすることで習得してもらいます。
- 8) 中間および最終まとめにおいて、模擬試験と解説を行い、自ら習得レベルを確認して学習方法を改善するように援助しています。
- 9) 学生が比較的答えやすく、関心をもつべき事項の発問を心がけるなど、講義への参加意識を高める工夫をしています。

〔成績評価方法〕

- 1) 形成的評価
 - a) 知識： 早期臨床体験に関する SGD を行い、細かにフィードバックする。
 - b) 技能： MS Word や PowerPoint を活用する。
 - c) 態度： 受講態度により評価する。SGD を通して細かにフィードバックする。課題提出など、主体的に授業に参加する機会を多く設定する。
 - d) パフォーマンス： プレゼンテーションやコミュニケーション能力を向上されるための工夫として SGD 記録表を作成させる。
- 2) 総括的評価
 - a) 知識： 感想文、レポート（ポスター形式）や到達度確認試験などにより総合的に評価する。
 - b) 技能： レポート（ポスター形式）やスライドを作成、提出させる。
 - c) 態度： 受講態度により評価する。
 - d) パフォーマンス： リアクションペーパーやポートフォリオを作成、提出させる。

〔教科書〕

人間と薬学ポートフォリオ

〔参考書〕

スタンダード薬学シリーズII 第1巻薬学総論
資料集 生命倫理と法（尾崎恭一，長島隆他編著 太陽出版）

〔オフィスアワー〕

各アドバイザーおよび講師が別に定める。

〔所属教室〕

代表者のみを記載する。
益山光一 薬事関係法規研究室 研究2号館3階
佐藤 隆 生化学教室 研究2号館6階
土屋明美 医療人間関係学研究室 研究2号館4階
杉浦宗敏 医薬品安全管理学教室 DR棟4階2041号室

〔準備学習（予習・復習等）〕

〔時間割〕 第1回から6回の全クラス合同講義（月曜日）は、3401教室で行います。4時限目に受講し、5時限目に講義の感想文を書いて提出します。ワークシートで翌週の講義の予習をして、講師に質問したいことなども準備してください。感想文への教員によるコメントを熟読し、次の感想文を書く時の参考にしてください。考えていること・感じていることを適確に表現する学習となります。マスメディアで報道される薬・薬害・薬剤師などに関する記事について、薬学生としての感想を述べ、問題点を見つけて、社会における薬学の役割や医療人としての倫理感を身につける基礎固めに役立ててください。

〔教員からの一言〕

講義は受動的に聴いているだけでは自分の知識になりません。問題意識を持って受講し疑問点や不明なことは調べたり、質問をしてわかることを増やして行ってください。SGD では仲間やアドバイザーとのコミュニケーションを通して積極的に自己表現して自分らしさを磨き、将来の可能性への扉を開いていくことを期待します。

人間と薬学 II

Human Life and Pharmacy II

第 1 学年 後期 1 年必修科目 1 単位

土屋 明美 與那 正栄 渡辺 謙三 成井 浩二 倉本敬二 勝山 壮 大山 勝宏
 武井 佐和子 戸張 裕子 影山 美穂 益山 光一 北垣 邦彦
 田島 多恵子 喜熨斗 智也 曾根 悦子 御手洗 征子 谷 光子 山下 真穂 井上 由美
 伊東 百合子 東京薬科大学 SP 研究会

授業計画

I
1 年次
必修科目

学習目標 (GIO)

薬剤師は乳幼児から高齢者まで、健康な時も病気になった時も、いつでも、あらゆる人の生活に寄り添う存在です。人間と薬学 II では人間・病者を理解し、信頼される薬剤師になるための基本的態度と人間への共感的態度を体験的に学びます。

病者や同僚との信頼関係をつくる基礎として、基本的な心理・身体的な条件などを学び、人命に関わる最低限の応急処置法、AED の使い方、車いす介助の方法などを習得します。高齢者や障がいを持つ人の役割をとり患者の模擬体験を成立させ、さらに病の体験談を読み・関病談を聴く、などをとおして患者理解を深めます。このように多様な演習により、思いやりをもって相手と関わり、相手への受容・共感的な態度を身につけた信頼される薬剤師を目指します。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	〈救急救命〉緊急に必要な手当てができるように、正しい救急法の知識を習得する (知識・態度)。	F-1-1-3
2	〈救急救命〉標準的な救急救命法 (人工呼吸法・心臓マッサージ・AED) を習得する (態度・技能)。	F-1-1-3
3	〈救急救命〉簡単な止血法や気管内の異物除去法を習得する (態度・技能)。	F-1-1-3
4	〈救急救命〉救急救命法について説明できる (知識・態度)。	F-1-1-3
5	〈救急救命〉医療人として救急救命法を習得することの必要性や問題点を、述べるができる (知識・態度)。	F-1-1-3
6	〈介助 I〉「障がい」に関する基本的知識を習得する (知識・態度)。	A-1-1-1, A-1-2-1, A-2-3-1
7	〈介助 I〉車いすに乗って移動し、その不自由さやどのような介助が必要かを理解する (知識・技能・態度)。	A-1-1-1, A-1-2-1, A-2-3-1, A-3-1-5
8	〈介助 I〉車いすに利用者に対し、介助者として声かけや相手の意思確認などにより積極的にコミュニケーションを取ることができる。(技能・態度)	A-1-1-1, A-1-2-1, A-2-3-1, A-3-1-5, A-3-1-7
9	〈介助 I〉医療人として障がい者、高齢者に対する介助の必要性や、その実施に関する問題点を述べるができる (知識・技能・態度)。	A-1-1-1, A-1-2-1, A-3-1-5
10	〈介助 II〉障がいおよび老化による機能低下について理解する (知識・態度)。	A-1-1-1, A-1-2-1, A-1-2-8
11	〈介助 II〉器具をつけて高齢者模擬体験をし、その不自由さやどのような介助が必要かを理解する (知識・技能・態度)。	A-1-1-1, A-1-2-1, A-1-2-8, A-2-3-1, A-3-1-5, A-3-1-7
12	〈スモールグループディスカッション (SGD)〉演習体験と「やまひの体験談」講義を基にして SGD を行い、医療人としてのあるべき姿を見出す (知識・態度)。	A-3-2-1 A-1-1-6 A-1-1-7
13	〈スモールグループディスカッション (SGD)〉関病記を読み、患者の立場から必要とされる医療人としての態度を学ぶ (知識・態度)。	A-3-2-2 A-4-5-1
14	〈スモールグループディスカッション (SGD)〉SGD のプロダクトのプレゼンテーションを行い、チームワークの重要性、他者に伝える技能を学ぶ。プロダクトについて質疑応答をすすめる。(態度・技能)	A-5-1-4
15	〈特別講義〉関病談を聴き、薬学生として人と社会に関わる薬剤師となることへの自覚をもつ。	A-1-1-1 A-1-1-2
16	〈講義〉人間の心理と行動の基本について学ぶ (知識)	A-1-1-5 A-3-1-2 X-2-2-1~6 X-2-4-1~3 X-2-5-1~3 X-2-6-1~4

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1~2	八王子消防署・東京救急協会・與那・喜熨斗・曾根	救急救命法 (1)	1~5
3~5	與那・喜熨斗・曾根	救急救命法 (2)	1~5
6~7	與那・土屋・渡辺・成井・田島・御手洗・谷・高井・山下・井上・伊東	介助 I・介助 II	6~11

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
8~10	土屋・與那・渡辺・成井・倉本・勝山・大山・武井・影山・戸張・東京薬科大学 SP 研究会	SGD(闘病記・病の体験談)	12~14
11	土屋・與那・渡辺・成井	特別講義	15
12	土屋	講義一人間の心理と行動 1. 健康とは	16
13	土屋	講義一人間の心理と行動 2. 人間の行動とその成り立ち	16
14	土屋	講義一人間の心理と行動 3. パーソナリティと自己理解	16
15	土屋	講義一人間の心理と行動 4. 対人行動の特徴	16
16.	土屋	講義一人間の心理と行動 5. 生涯発達 乳児期から青年期	16
17.	土屋	講義一人間の心理と行動 6. 生涯発達 成人前期から高齢期	16

【アクティブ・ラーニングの取り組み】

- 1) 「やまいの体験談」講演者との質疑応答を行い問題意識を共有し、学びを深める。
- 2) 「闘病記」の感想文を発表して SGD のテーマを学生自らが設定する。
- 3) 演習シートを用いた小演習、SGD などにより課題発見的思考を身につける。

【授業で行っている工夫】

- 1) 人間と薬学ポートフォリオを利用します。学習記録や討論記録などを一元的に保存して下さい。
- 2) AED やレスサランを用いて救命救命法(心肺蘇生法)を習得します。緊急の事態に遭遇した場合に、積極的に人命救助が出来るようにしておいて下さい。
- 3) 夏休み中に闘病記を読み感想文にまとめます。この感想文と模擬患者(SP)さんのやまいの体験談に基づいて SGD を行い、医療人としての受容的・共感的な態度を身につけます。
- 4) 質疑応答が活発に展開するように、演習や SGD を取り入れます。

【成績評価方法】

- 1) 形成的評価
 - a) 知識：各授業の前後において講義を行ない、細やかにフィードバックする。
 - b) 技術：車いす・高齢者模擬体験グッズ・AED を活用する。
 - c) 態度：各授業を通して細やかにフィードバックする。
 - d) パフォーマンス：
- 2) 総括的評価
 - a) 知識：出席・態度・レポート・リアクションペーパーなどを総合的に評価する。
 - b) 技術：AED・心肺蘇生法や介助技能を習得する。
 - c) 態度：演習と講義すべてに出席し、レポートを提出することを合格条件とする。やむをえず欠席した場合は、欠席届を提出し、担当者の指示に従うこととする。
 - d) パフォーマンス：演習後にポストアンケートを実施して体験的变化を自己評価する。SGD 参加についてループリック評価を行う。

【教科書】

- 人間と薬学ポートフォリオ(平成 28 年度版)
- 身につけよう応急手当て-普通救命講習テキスト-東京救急協会(配布資料)
- 医療心理とコミュニケーション(東京薬科大学出版会)
講義「人間の心理と行動」で使います。*後期に販売予定。

【参考書】

闘病記ライブラリーの闘病記(図書館・情報センター)
ベーシック健康心理学 山蔦圭輔 ナカニシヤ出版 2015

【オフィスアワー】

土屋 明美 いつでも可。メールで予約してください。
医療人間関係学研究室 研究 2 号館 4 階 407
與那 正栄 いつでも可。保健体育学研究室 体育館 3 階
渡辺 謹三 いつでも可。メールなどで事前連絡してから来て下さい。
一般用医薬品学教室 ドラッグラショナル(DR) 研究開発センター 3 階
成井 浩二 いつでも可。
一般用医薬品学教室 ドラッグラショナル(DR) 研究開発センター 3 階

【準備学習(予習・復習等)】

予習：ポートフォリオの該当箇所を読み、実習の留意点を把握する。
復習：実習レポートを作成し、所定の期日までにコピーを提出する。原版はポートフォリオに保管し、自学習に役立てる。

【教員からの一言】

実施時期に関する補足：救命救命法と介助 I・介助 II・SGD の実施時期、日程は別に連絡する。
夏休みには患者・患者家族の理解のために闘病記を読み、読書レポートを作成し夏休み明け(SGD 前)に提出してください。

演習についての決まりごとや時間を厳守することは、医療人教育の基本中の基本です。少なくとも開始5分前には何時でも始められるように心がけること。
演習には協動的・積極的に参加して、感じたことや考えたことを自分のものとし、医療人としての自覚・責任と命への真摯な態度を身につけらるるよう自分を律して臨んでください。

授業計画

I
1年次
必修科目

物理学

Physics

第1学年 前期 1年必修科目 1単位

横島 智

学習目標 (GIO) 物理学における自然現象のとらえ方、考え方は、素学を含め自然科学諸分野の基礎となるものであり、第2学年以降の専門科目を有効に学習するための基礎である。初めに、「運動と力(力学)」を典型例として、自然科学的な考察方法を理解・修得する。次に、葉がはたらくミクロな世界で大事になる「量子力学」について、基本となる法則を理解し、簡単な具体例の取り扱いを学習する。その際、ある程度の数式は補助手段として用いるが、あくまで考え方の理解・修得に力点を置く。
気体の分子運動と温度の関係や電場、磁場、電磁波としての光と電荷との相互作用などにも言及する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	物理学の重要性を説明できる。	
2	運動の法則について理解し、力、質量、加速度の関係について説明できる。	X-4-2-1
3	落下運動のモデル化を説明できる。	X-4-2-1, X-4-2-2
4	円運動、単振動を数式を用いて説明できる。	X-4-2-2
5	微小振動の持つ共通性を単振り子や連成振り子を例として説明できる。	X-4-2-2
6	仕事、エネルギー、運動量、角運動量とはどのようなものか例をあげながら説明できる。	X-4-2-3, X-4-3-1
7	保存則について説明できる。	X-4-3-2
8	熱と温度について巨視的に説明できる。	X-4-3-2, C1-2-1-2, C1-2-1-3
9	気体の分子運動とエネルギーの関係について説明できる。	C1-2-1-2, C1-2-1-3
10	気体の温度、圧力について微視的に説明できる。	C1-2-1-2, C1-2-1-3
11	電荷間に働くクーロンの法則について説明できる。	C1-1-2-2
12	電場と磁場について説明できる。	X-4-7-1
13	ローレンツ力について説明できる。	X-4-7-2
14	電場、磁場の中の荷電粒子の運動を説明できる。	X-4-7-2
15	光が電磁波であること、およびその性質について説明できる。	X-4-7-1
16	光の粒子性と波動性について概説できる。	X-4-8-2
17	電子の粒子性と波動性について概説できる。	X-4-8-3
18	原子のボーアモデルと電子雲モデルの違いについて概説できる。	X-4-8-1
19	原子の軌道を説明できる。	X-5-1-3
20	原子の電子配置について説明できる。	X-5-1-3
21	分子軌道の基本概念を説明できる。	C1-1-1-2
22	エネルギーの量子化とボルツマン分布について説明できる。	C1-2-1-3
23	分子軌道の混成について説明できる。	C1-1-1-2
24	共役や共鳴の概念を説明できる。	C1-1-1-3

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	横島	自然科学における物理学の位置づけ	1
2	#	運動の3法則と落下運動	2, 3
3	#	様々な力、円運動	4, 11, 13
4	#	単振動、単振り子と連成振り子	4, 5
5	#	仕事	6
6	#	エネルギー、運動量、角運動量	6, 7
7	#	気体の温度、圧力の微視的説明とエネルギーとの関係	7, 8, 9, 10
8	#	物質と電場、磁場の相互作用	11, 12, 13, 14
9	#	光の性質	12, 15, 16
10	#	電子の性質	11, 13, 17
11	#	エネルギーの量子化とボルツマン分布、原子の軌道	18, 19, 20, 22
12	#	分子軌道の意味	21
13	#	軌道の混成と共役、共鳴	23, 24

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕
WebClassを使った小テストやクイズにより、授業で学んだ内容がきちんと理解できているかその場で確認する。

〔授業で行っている工夫〕

簡単な実験が可能なものについてはデモおこない、そうでないものについては動画などを使って、物理現象や法則を直感的かつ身近に感じられるようにする。また、薬学と関係した内容を出来る限り取り上げていく。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

知識、技能:小テストを繰り返しおこなう。

2) 総括的評価

a) 知識:定期試験に加えて小テスト、出席を加味して決定する。

〔教科書〕

薬学のための物理学 (宇野正宏著 愛智出版)

〔参考書〕

より深く学びたいという人には以下の本を薦める。力学については

「物理学序論としての力学 (藤原邦男 東京大学出版会)」

「ファインマン物理学Ⅰ力学 (ファインマン、レイトン、サンズ 坪井忠二訳 岩波書店)」

が、物理学入門の役割も持つ良書である。ファインマン物理学シリーズは他の巻も良い。特に

「ファインマン物理学Ⅱ光 熱 波動 (ファインマン、レイトン、サンズ 富山小太郎訳 岩波書店)」

は本講義の力学以外の多くの範囲が含まれている。量子力学については、やや高度だが

「身につくシュレーディンガー方程式 (牟田淳著 技術評論社)」

は段階を踏んで学べる内容になっている。量子化学なら

「量子化学入門(上)、(下) (米沢貞次郎、他著 化学同人)」

が定番の名著だが、難しいかもしれない。

より幅広く物理学の基礎については

「第4版 物理学基礎 (原康夫著 学術図書出版社)」

が良いかもしれない。本講義では物理学全般について取り上げるが、特に、物理化学の教科書を独力で読むことが出来るようになることを意識して講義を構成している。その意味では

「アトキンス 物理化学要論 第5版 (Peter Atkins・Julio de Paula 著 千原秀昭・稲葉章訳 東京化学同人)」

を参考書として学ぶと、より効果的である。

〔オフィスアワー〕

いつでも可。

〔所属教室〕

薬学教育推進センター (研究1号館1階1105)

普段、医療薬学研究棟2階の一番奥の部屋にいます。

〔準備学習(予習・復習等)〕

小テストなどでコンピュータを使います。必ず、毎授業コンピュータを持参してきて下さい。また、WebClassに授業で使うスライドを載せますので、予習、復習のために活用して下さい。

〔教員からの一言〕

物理はとかく敷居が高いと言われ、実際にそのような側面もありますが、学んだ内容ばかりでなく、学ぼうとするプロセスからも多くのことを得ることができます。先入観をすてて取り組みれば、こんなことも薬学と関係しているのかと、新鮮な驚きがあると思います。

化学平衡論

Chemical Equilibrium

第1学年 前期 1年必修科目 1単位

柳田 顕郎 (E・F、G・H)

小谷 明 (A・B、C・D)

学習目標 (GIO) 化学平衡論は化学物質の性質、化学反応、化学組成などにおける量的関係を解析するための基礎理論である。特に、物質の定性、定量を扱う分析化学において不可欠の概念である。ここでは、分析化学に関係の深い種々の化学平衡、特に溶液内化学反応を通して、化学平衡の基礎概念を理解し、それらの量的な解析的取り扱いに習熟することを目標とする。この化学平衡の概念が、分析化学の基本であるばかりでなく、薬学分野における様々な反応、薬剤の溶解と吸収、生体における薬物動態などの理解に重要であることを会得する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	化学ポテンシャルについて説明できる。	C1-2-4-1
2	化学平衡と自由エネルギーの関係を説明できる。	C1-2-4-2
3	活量と活量係数、電解質の活量係数の濃度依存性について説明できる。	C1-2-6-2
4	イオン強度について説明できる。	C1-2-6-4
5	起電力とギブズエネルギーの関係について説明できる。	C1-2-7-1
6	電極電位 (酸化還元電位) について説明できる。	C1-2-7-2
7	水溶液中の種々の反応の平衡定数を列挙できる。	C2-2-1-1, C2-2-2-1, C2-2-2-2, C2-2-2-3, C2-2-2-4
8	酸・塩基平衡を説明できる。	C2-2-1-1
9	溶液の pH を計算できる。	C2-2-1-3
10	緩衝作用について具体例をあげて説明できる。	C2-1-1-4
11	錯体・キレート生成平衡について説明できる。	C2-2-2-1
12	沈殿平衡 (溶解度と溶解度積) について説明できる。	C2-2-2-2
13	酸化還元平衡について説明できる。	C2-2-2-3
14	分配平衡について説明できる。	C2-2-2-4
15	代表的な無機イオンの定性反応を説明できる。	C2-3-1-1
16	原子量、分子量を説明できる。	X-5-1-2
17	酸と塩基の基本的な性質および強弱の指標を説明できる。	X-5-3-4
18	酸化と還元について電子の授受を含めて説明できる。	X-5-3-5
19	Nernst の式が誘導できる。	Y-3-4-1
20	代表的な緩衝液の特徴とその調製法を説明できる。	Y-3-8-1

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	柳田、小谷	化学平衡論総論、溶液の性質	1, 3, 4, 16
2	#	溶液の性質と化学平衡	2, 3, 7
3	#	酸と塩基	8, 9, 17
4	#	酸塩基平衡	7, 8, 9, 17
5	#	pH 緩衝作用と緩衝液	7, 9, 10, 20
6	#	多塩基酸と両性電解質の電離	7, 9, 10, 20
7	#	沈殿平衡	7, 12
8	#	沈殿平衡	12, 15
9	#	錯体生成反応	7, 11
10	#	錯体・キレート生成平衡	11, 15
11	#	酸化還元電位と化学平衡	5, 6, 7, 18, 19
12	#	酸化還元平衡	7, 13, 18, 19
13	#	分配平衡	14

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

柳田： 毎回、オリジナル演習問題を出題し、講義時間内に各自解答させ、解説を加える時間を設けている。

小谷： 毎講義時間の最初の5分間に小テストを行い、問題を解くことを通じて理解を深めるようにしている。

〔授業で行っている工夫〕

柳田： 講義のねらいや予定、他教科との関連について、講義初回に概説する。講義は毎回、板書とス

クリーン投影を併用して行う。容量分析の原理や仕組みを視覚的に理解させながら、計算演習（主に板書）をくり返すことで学習効果を高めている。スクリーンで解説する説明内容はPDF資料にして前週までにWebClassに掲載し、授業の予習や復習ができるようにしている。

小谷： 初回の授業で、授業内容や小テストの課題の範囲を明示した予定表を配布し、予習と復習に役立てるようにしている。毎講義時間で習熟すべき点を、「本日のキーワード」として明示して目標を明確にしている。デモ実験を行い、反応や呈色変化を直に観察させることで、定性反応などの理解が進むように工夫している。WebClassによる課題や質問の提出を通じて、学生の理解が及ばぬ点をモニターしながら講義の展開を図っている。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

- a) 知識： 講義期間中を通じて演習問題や小テストを繰り返し行う。
- c) 態度： 受講態度により評価する。
- d) パフォーマンス： 講義中に演習問題や小テストを行い、習熟度を確認する。

2) 総括的評価

- a) 知識： 定期試験の結果に、演習問題や小テストを加味して評価する。
- c) 態度： 受講態度により評価する。出席不良者に対しては受験停止の措置を講ずることがある。
- d) パフォーマンス： 形成的評価により判断する。

〔教科書〕

薬学生のための分析化学 第3版（楠文代／渋澤庸一編集 廣川書店）

なるほど分析化学-数字となかよくする本（楠文代／渋澤庸一編集 廣川書店）

（小谷はさらにプリントも配布）

〔参考書〕

第十六改正日本薬局方解説書（廣川書店）

CBT 対策と演習 分析化学 第2版（廣川書店）

〔オフィスアワー〕

柳田 顕郎： いつでも可

小谷 明： いつでも可

〔所属教室〕

柳田 顕郎： 薬物生体分析学教室 研究2号館4階405

小谷 明： 分析化学教室 研究2号館4階406

〔準備学習（予習・復習等）〕

1年自由科目「基礎分析化学集中講義」で学習した内容を十分に復習し、理解した上で講義に臨んで下さい。

柳田： 授業開始前にWebClassに掲載した資料を予習し、印刷して持参して下さい。さらに授業の板書ノートとあわせて復習して下さい。

小谷： 予定表に記載した授業内容の範囲を予習して講義に臨んで下さい。WebClassに掲載した小テストは予習で内容を理解し、印刷して持参してください。教科書、ノート、小テストを活用して復習を必ず行って下さい。

無機化学

Inorganic Chemistry

第1学年 前期 1年必修科目 1単位

森川 勉 (C・D、G・H)

吉田 君成 (A・B、E・F)

学習目標 (GIO) 物質の物理的性質、化学的性質を理解するために、物質を構成する原子・分子の構造、および化学結合に関する基本的事項を修得する。さらに、代表的な無機化合物・錯体（医薬品を含む）の構造、性質に関する基本的事項を知識を修得する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	化学結合の様式について説明できる。	C1-1-1-1
2	分子軌道の基本概念および軌道の混成について説明できる。	C1-1-1-2
3	共役や共鳴の概念を説明できる。	C1-1-1-3
4	代表的な無機イオンの定性反応を説明できる。	C2-3-1-1
5	日本薬局方収載の代表的な医薬品の確認試験を列挙し、その内容を説明できる。	C2-3-1-2
6	日本薬局方収載の代表的な医薬品の純度試験を列挙し、その内容を説明できる。	C2-3-2-6
7	代表的な典型元素と遷移元素を列挙できる。	C3-5-1-1
8	代表的な無機化合物、オキシ化合物の名称、構造、性質を列挙できる。	C3-5-1-2
9	活性酸素と窒素酸化物の名称、構造、性質を列挙できる。	C3-5-1-3
10	錯体・キレート生成平衡について説明できる。	C2-2-2-1
11	代表的な錯体の名称、構造、基本的な性質を列挙できる。	C3-5-1-4
12	医薬品として用いられる代表的な無機化合物、および錯体を列挙できる。	C3-5-1-5
13	活性酸素、一酸化窒素の構造に基づく生体内反応を化学的に説明できる。	C4-1-2-3
14	生体内に存在する代表的な金属イオンおよび錯体の機能を化学的に説明できる。	C4-1-2-4

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	森川、吉田	原子の構造	1
2	森川、吉田	原子価結合法	1、2
3	森川、吉田	混成軌道 1	1、2
4	森川、吉田	混成軌道 2	1、2
5	森川、吉田	典型元素の酸化物とオキシ酸 1	3、4、5、6、7、8、9
6	森川、吉田	典型元素の酸化物とオキシ酸 2	3、4、5、6、7、8、9
7	森川、吉田	分子軌道法の基礎及び活性酸素の電子配置と性質	1、2、9、13
8	森川、吉田	遷移元素の性質と電子配置の関係 1	4、5、6、7、8、9
9	森川、吉田	遷移元素の性質と電子配置の関係 2	4、5、6、7、8、9
10	森川、吉田	錯体の構造と性質 1：遷移金属の配位数と電子配置	10、11
11	森川、吉田	錯体の構造と性質 2：錯体の結合理論と配位子の種類	10、11
12	森川、吉田	錯体と生体との関わり	14
13	森川、吉田	医薬品として用いられる無機化合物と錯体	4、5、6、12

【アクティブ・ラーニングの取り組み】

講義内で適宜演習問題を課してその解説も行う事で、学生の理解を促す。

【授業で行っている工夫】

あらかじめ目標とするキーワードを提示し、目標を明確にしている。授業は基本的に板書とし、集中できるように努めている。講義の進捗状況に合わせて、演習とその解説を行い、学生が理解を深めるよう努めている。

【成績評価方法】

- 1) 形成的評価
 - a) 知識：演習、演習問題とその解説を行う。
 - c) 態度：受講状況（出欠等）を記録する。
- 2) 総括的評価
 - a) 知識：定期試験の結果を評価する。

c) 態度：受講状況（出欠等）を総合的に評価する。出席不良者に対しては、定期試験について受験停止の措置を講ずることがある。

【教科書】

無機化合物・錯体 一生物無機化学の基礎一 第2版（梶 英輔 編 廣川書店）

【参考書】

基本無機化学 第2版（荻野 博、飛田博実、岡崎雅明 著 東京化学同人）

リー 無機化学（J. D. Lee 著 浜口 博、菅野 等 訳 東京化学同人）

ベーシック薬学教科書シリーズ4 無機化学（青木 伸 編 化学同人）

薬学のための無機化学（桜井 弘 編 化学同人）

【オフィスアワー】

原則として、いつでも可。

【所属教室】

森川 勉 薬学教育推進センター 教育2号館1階2110（一番奥）

吉田 君成 薬学教育推進センター 教育2号館1階2109

【準備学習（予習・復習等）】

高校で学習した『化学基礎』の「物質の構成と化学結合」、『化学』の「無機物質」「有機化合物」の項目が、本講義の基礎になりますので、良く復習をしてください。また、講義の内容と順番を公開しているので、必ず教科書で予習をしてから講義を受けてください。

授業計画

I
1年次
必修科目

物理化学 I

Physical Chemistry I

第 1 学年 後期 1 年必修科目 1 単位

分子機能解析学教室 青山 洋史

学習目標 (GIO) 物質の存在状態は分子間相互作用に依存する。分子間相互作用を理解するために、分子の双極子モーメントとその分子論的意味、ファンデルワールスの状態方程式、気体の分子運動とエネルギーなどについて学習する。また、物質と電磁波との相互作用および分子の内部エネルギーとの関連についても学習する。さらに自然界で起こっている諸現象において、エネルギーと呼ばれる状態量の変化に関する熱化学も学習する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	ファンデルワールス力について説明できる。	C1-1-2-1
2	静電相互作用について例を挙げて説明できる。	C1-1-2-2
3	双極子間相互作用について例を挙げて説明できる。	C1-1-2-3
4	分散力について例を挙げて説明できる。	C1-1-2-4
5	水素結合について例を挙げて説明できる。	C1-1-2-5
6	電荷移動相互作用について例を挙げて説明できる。	C1-1-2-6
7	疎水性相互作用について例を挙げて説明できる。	C1-1-2-7
8	電磁波の性質および物質との相互作用を説明できる。	C1-1-3-1
9	分子の振動、回転、電子遷移について説明できる。	C1-1-3-2
10	電子や核のスピンとその磁気共鳴について説明できる。	C1-1-3-3
11	光の屈折、偏光、および旋光性について説明できる。	C1-1-3-4
12	光の散乱および干渉について説明できる。	C1-1-3-5
13	結晶構造と回折現象について概説できる。	C1-1-3-6
14	ファンデルワールスの状態方程式について説明できる。	C1-2-1-1
15	熱力学における系、外界、境界について説明できる。	C1-2-2-1
16	熱力学第一法則を説明できる。	C1-2-2-2
17	状態関数と経路関数の違いを説明できる。	C1-2-2-3
18	定容熱容量および定圧熱容量について説明できる。	C1-2-2-5
19	エンタルピーについて説明できる。	C1-2-2-6
20	化学変化に伴うエンタルピー変化について説明できる。	C1-2-2-7

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	青山	分子の分極と双極子モーメントについて	2, 3
2	#	ファンデルワールス力について	2, 3, 4
3	#	双極子間相互作用、分散力について	4, 5
4	#	水素結合について	5
5	#	電荷移動、疎水性相互作用について	1, 6, 7
6	#	電磁波の性質および物質との相互作用	8
7	#	分子の振動、回転および電子遷移について	9
8	#	電子や核のスピンとその磁気共鳴について	10
9	#	光の偏光、および旋光性について	11
10	#	光の屈折、散乱、干渉および結晶構造と回折現象について	11, 12, 13
11	#	物質の存在状態と気体分子の運動エネルギーについて	14
12	#	熱力学第一法則と状態関数および経路関数について	15, 16, 17
13	#	熱力学第一法則と熱化学について	16, 18, 19, 20

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕
小テストにおける不完全解答を例示し、講義中に完全回答になるように受講者に考える機会を設ける。

- 〔授業で行っている工夫〕
- それぞれの講義開講日までに web class に講義資料をダウンロードできるようにすることで、受講者が講義の予習を十分に行えるようにしている。
 - それぞれの講義のはじめに、目標とするキーワードを示し、当日の講義に集中できるようにしている。
 - それぞれの講義中に、CBT や国家試験との関連を示し、要点を明確にしている。
 - 抜き打ちで小テストを行い、受講者の緊張感を保つようにしている。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識:演習問題にて評価する

b) 技能:

c) 態度:受講態度で評価する

d) パフォーマンス:

2) 総合的評価

a) 知識:定期試験

b) 技能:

c) 態度:1)-c)に加え、定期試験の答案内容(やる気や準備状況)も加味して総合的に評価する。

d) パフォーマンス:

〔教科書〕

物理化学要論 第5版(アトキンス著、千原秀昭・稲葉 章訳 東京化学同人)

〔参考書〕

ポール物理化学 上下巻(D.W.Ball 著、田中一義、阿竹 徹監訳 化学同人)

日本薬学会編 物理系薬学Ⅰ、物質の物理的性質(東京化学同人、スタンダード薬学シリーズ2)

薬学領域の物理化学(渋谷 皓編集、横松 力、湯浅洋子他著 廣川書店)

〔オフィスアワー〕

青山 洋史 事前予約をとればいつでも可。

〔所属教室〕

青山 洋史 分子機能解析学教室 研究1号館3階303

〔準備学習(予習・復習等)〕

Web Classのプリントを講義日までに一度は学習してください。

〔教員からの一言〕

「高校で物理を履修していない」≠「大学の物理化学の講義内容が理解できない」です。

国家試験には物理化学も必須科目です。それでもあきらめますか？

薬剤師をめざす大学生ならば最初からできないと決めつけず、理解するように努力すべきです。

分析化学

Analytical Chemistry

第1学年 後期 1年必修科目 1単位

柳田 顕郎 (A・B、C・D)

小谷 明 (E・F、G・H)

学習目標 (GIO) 試料中に存在する物質の種類および濃度を正確に知るために、代表的な医薬品、その他の化学物質の滴定を含む各種の定量分析法の基本的知識と技能を習得する。化学平衡論で身につけた知識を活用して、化学量論に基づいた化学分析法である各種の容量分析法を習得する。更に、日本薬局方収載医薬品の定量法に基づいて測定した定量値の取り扱いや、分析法のバリデーションなどの基本的知識を習得し、それらを活用する技術を身につける。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	酸化還元電位について説明できる。	C1-2-7-2
2	測定値を適切に取り扱うことができる。	C2-1-1-2
3	分析法のバリデーションについて説明できる。	C2-1-1-3
4	日本薬局方収載の代表的な医薬品の確認試験を列挙し、その内容を説明できる。	C2-3-1-2
5	中和滴定（非水滴定を含む）の原理、操作法および応用例を説明できる。	C2-3-2-1
6	キレート滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。	C2-3-2-2
7	沈殿滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。	C2-3-2-3
8	酸化還元滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。	C2-3-2-4
9	日本薬局方収載の代表的な医薬品の容量分析を実施できる。	C2-3-2-5
10	日本薬局方収載の代表的な純度試験を列挙し、その内容を説明できる。	C2-3-2-6
11	日本薬局方収載の重量分析法の原理および操作法を説明できる。	C2-3-2-7
12	電位差滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。	
13	有効数字の概念を説明し、有効数字を含む値の計算ができる。	X-7-1-2

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	柳田、小谷	容量分析総論	4, 9, 10, 13
2	#	1) 酸塩基滴定 滴定曲線	5
3	#	酸塩基指示薬とその選択	5
4	#	多価の酸塩基、混合酸塩基	5
5	#	非水溶液における酸塩基滴定、電位差滴定	1, 5, 12
6	#	2) 沈殿滴定 沈殿の生成	7
7	#	滴定曲線と指示薬、沈殿滴定各論、重量分析	7, 11
8	#	3) 錯生成滴定 金属錯体の生成	6
9	#	単座配位子による錯生成滴定	6
10	#	金属指示薬、キレート滴定各論	6, 9
11	#	4) 酸化還元滴定 酸化還元電位	8
12	#	滴定曲線、酸化還元指示薬、電位差滴定、ジアゾ化滴定	1, 8, 12
13	#	5) 医薬品分析法のバリデーション	2, 3, 13

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

柳田： 毎回、オリジナル演習問題を出題し、講義時間内に各自解答させ、解説を加える時間を設けている。

小谷： 毎講義時間の最初の5分間に小テストを行い、問題を解くことを通じて理解を深めるようにしている。

〔授業で行っている工夫〕

柳田： 講義のねらいや予定、他教科との関連について、講義初回に概説する。講義は毎回、板書とスクリーン投影を併用して行う。容量分析の原理や仕組みを視覚的に理解させながら、計算演習（主に板書）をくり返すことで学習効果を高めている。スクリーンで解説する説明内容はPDF資料にして前週までにWebClassに掲載し、授業の予習や復習ができるようにしている。

小谷： 初回の授業で、授業内容や小テストの課題の範囲を明示した予定表を配布し、予習と復習に役立てるようにしている。毎講義時間で習熟すべき点を、「本日のキーワード」として明示して目標を明確にしている。デモ実験を行い、反応や呈色変化を直に観察させることで、滴定反応などの理解が進むように工夫している。WebClassによる課題や質問の提出を通じて、学生の理解が及ばぬ点などをモニターしながら講義の展開を図っている。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

- a) 知識：講義期間中を通じて演習問題や小テストを繰り返し行う。
- c) 態度：受講態度により評価する。
- d) パフォーマンス：講義中に演習問題や小テストを行い、習熟度を確認する。

2) 総括的評価

- a) 知識：定期試験の結果に、演習問題や小テストを加味して評価する。
- c) 態度：受講態度により評価する。出席不良者に対しては受験停止の措置を講ずることがある。
- d) パフォーマンス：形成的評価により判断する。

【教科書】

薬学生のための分析化学 第3版 (楠文代/渋澤庸一編集 廣川書店)
 演習を中心とした薬学生の分析化学 第5版 (嶋田健次編集 廣川書店)

【参考書】

第十六改正日本薬局方解説書 (廣川書店)
 なるほど分析化学-数字となかよくする本 (楠文代/渋澤庸一編集 廣川書店)

【オフィスアワー】

柳田 顕郎 いつでも可。
 小谷 明 いつでも可。

【所属教室】

柳田 顕郎：薬物生体分析学教室 研究2号館4階405
 小谷 明：分析化学教室 研究2号館4階406

【準備学習 (予習・復習等)】

1年必修科目「化学平衡論」で学習した内容を十分に復習し、理解した上で講義に臨んで下さい。
 柳田：授業開始前にWebClassに掲載した資料を予習し、印刷して持参して下さい。さらに授業の板書ノートとあわせて復習して下さい。

小谷：予定表に記載した授業内容の範囲を予習して講義に臨んで下さい。WebClassに掲載した小テストは予習で内容を理解し、印刷して持参してください。教科書、ノート、小テストを活用して復習を必ず行なってください。

【備考】

C2 化学物質の分析 (1) 化学平衡、(2) 化学物質の検出と定量

放射化学

Radiochemistry

第1学年 後期 1年必修科目 1単位

遠藤 朋宏

学習目標 (GIO) 放射性同位元素と放射線の利用は、基礎研究から医薬品の開発に至るまで必須となっている。また、医療現場では診断や治療に日々使用されている。以上のことから、医薬品の開発研究に携わる者および薬剤師には、放射線と放射性同位元素等を取り扱う専門的知識の修得が要求される。本講義では、放射性同位元素および放射線の性質、放射線の生物への影響ならびに医学・薬学への応用について学び、放射線や放射性同位元素等を取り扱う基礎的知識の修得を目指す。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	原子の構造と放射壊変について説明できる。	C1-1-4-1
2	電離放射線の種類を列挙し、それらの性質および物質との相互作用について説明できる。	C1-1-4-2
3	代表的な放射性核種の物理的性質について説明できる。	C1-1-4-3
4	核反応および放射平衡について説明できる。	C1-1-4-4
5	放射線測定の実理と利用について概説できる。	C1-1-4-5
6	電離放射線を列挙し、生体への影響を説明できる。	D2-1-4-1
7	代表的な放射性核種（天然、人工）と生体との相互作用を説明できる。	D2-1-4-2
8	電離放射線を防御する方法について概説できる。	D2-1-4-3
9	代表的な放射性医薬品の種類と用途、保管管理方法を説明できる。	F-2-5-5

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	遠藤	イントロダクション：(1)放射線・放射能とは何か、(2)放射線・放射性物質の医学・薬学での利用概況、(3)なぜ薬剤師が放射線・放射能の知識を持たねばならないのか	1, 9
2	遠藤	原子核、放射性壊変の形式、壊変図	1, 2
3	遠藤	壊変速度、放射平衡	3, 4
4	遠藤	天然放射性核種と人工放射性核種、核反応、加速器と原子炉、放射性核種の分離精製	3, 4
5	遠藤	放射線と物質の相互作用	2, 8
6	遠藤	放射線に関する量と単位	2, 5
7	遠藤	測定法の実理と測定器	2, 5
8	遠藤	標識化合物、アイソトープの研究への利用、放射線化学	9
9	遠藤	放射線の生物学的作用、放射線障害	6, 7
10	遠藤	細胞および組織の放射線感受性	6, 7
11	遠藤	遺伝的影響、体内被曝と体外被曝	6, 7
12	遠藤	医療用放射性核種の条件、放射性医薬品と臓器特異性、放射性診断薬と治療薬	2, 6, 7, 9
13	遠藤	放射線治療に使用される機器および適用	2, 6, 7, 9
14	遠藤	放射性同位元素等および放射線管理、放射線の安全取扱	2, 3, 8, 9

【アクティブ・ラーニングの取り組み】

各章毎に補助プリントを配布し、講義中に空欄部分を記入させるようにしている。また、講義に使用したスライドを、講義終了後に WebClass から閲覧できるようにしている。

【授業で行っている工夫】

百聞は一見に如かずであり、測定機器等については、その写真や動画を見ることによって現実感を得られるようにしていく。

薬剤師あるいは医薬品開発研究者として携わる可能性がある放射性物質および放射線の利用 [がんの放射線治療 (重粒子線治療、中性子補足療法 (BNCT) を含めて) や医薬品開発時の薬物動態試験] を実例を交えて、紹介していく。

【成績評価方法】

1) 形成的評価

a) 知識: 演習問題を提示し、繰り返し知識の到達レベルを確認させている。

2) 総括的評価

a) 知識: 定期試験にて評価する。

【教科書】

放射化学・放射薬品学 第2版 (五郎丸毅、堀江正信編、廣川書店)

【参考書】

放射線概論 第8版（柴田徳思編、通商産業研究社）
 スタandard薬学シリーズII 2物理系薬学I. 物質の物理的性質（日本薬学会編、東京化学同人）
 スタandard薬学シリーズII 5衛生薬学（日本薬学会編、東京化学同人）

【オフィスアワー】

授業の前後の時間帯

【準備学習（予習・復習等）】

配布資料、WebClass、教科書・参考書を活用するとともに、担当教員へ積極的に質問をすることで、疑問点を残さず、かつ知識を確固たるものにするよう事後学習を行うことが望ましい。

【教員からの一言】

日本では「核」や「放射線」というものに拒絶的な反応を示す人が少なくない。しかし、「放射線」は医学・薬学の分野では非常に多く利用されているのも事実である。本講義から「放射線はなぜ危険なのか？ 防御できるのか？ なぜよく利用されるのか？」を科学的な見地から理解してほしい。

基礎化学

Basic Chemistry

第1学年 前期 1年必修科目 1単位

宮岡 宏明 (C・D、G・H)

釜池 和太 (A・B、E・F)

学習目標 化学物質を理解できるようになるために、基本的な有機化合物の命名法、電子配置、化学結合、酸塩基 (GIO) などに関する基本的事項を修得する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	基本的な化合物をルイス構造式、ケクレ構造式、骨格構造式で書くことができる。	C3-1-1-3
2	代表的な官能基を列挙することができる。	C3-3-1-1
3	アルカンの構造異性体を図示することができる。(技能)	C3-2-1-2
4	代表的な化合物をIUPAC規則に基づいて命名することができる。	C3-1-1-1
5	薬学領域で用いられる代表的な化合物を慣用名で記述できる。	C3-1-1-2
6	極性共有結合について説明できる。	C3-3-6-1
7	分子中の原子に形式電荷を付けることができる。	C1-1-1-3、C3-1-1-3
8	代表的な化合物やイオンの共鳴構造と電子の移動を示す矢印を書くことができる。	C1-1-1-3
9	ブレンステッド酸・塩基を定義することができる。	C3-1-1-5
10	酸性度定数、pKa値から酸、塩基の強さを判断することができる。	C3-3-7-1、C3-3-7-2
11	誘起効果と酸・塩基の強さの関係を説明することができる。	C3-3-6-1
12	pKa値から酸塩基反応を予測することができる。	C3-3-7-1、C3-3-7-2
13	ルイス酸・塩基を定義することができる。	C3-1-1-5
14	非共有結合性相互作用について概説できる。	C1-1-2-1、C1-1-2-3、C1-1-2-4、C1-1-2-5
15	周期表に基づいて原子の電気陰性度を説明できる。	X-5-1-4
16	分子の極性について概説できる。	X-5-2-2
17	代表的な化合物の名称と構造を列挙できる。	X-5-2-5
18	酸と塩基の基本的な性質および強弱の指標を説明できる。	X-5-3-4

授業内容

回数	担当	内容	対応(SBOs)
1	宮岡、釜池	有機化合物の構造式の書き方と官能基	1、2、17
2	宮岡、釜池	アルカン、シクロアルカンの命名法	3、4
3	宮岡、釜池	ハロゲン化アルキル、アルケン、アルキンの命名法	4、5
4	宮岡、釜池	アルコール、アルデヒド、ケトン、カルボン酸の命名法	4、5
5	宮岡、釜池	極性共有結合	6、15、16
6	宮岡、釜池	形式電荷	7
7	宮岡、釜池	共鳴構造と電子の移動を示す矢印	8
8	宮岡、釜池	ブレンステッド・ローリーの定義	9
9	宮岡、釜池	酸と塩基の強さ	10、11、18
10	宮岡、釜池	pKa値を用いる酸塩基反応の予測	10、11、12
11	宮岡、釜池	有機酸と有機塩基	10、11
12	宮岡、釜池	ルイス酸とルイス塩基	13
13	宮岡、釜池	非共有結合性相互作用	14

【アクティブ・ラーニングの取り組み】
小テストを実施する。

【授業で行っている工夫】
あらかじめ目標とするキーワードを提示し、目標を明確にしている。講義の進捗に合わせて、小テスト等による演習、解説を行い、理解を深めるよう努めている。

【成績評価方法】

- 1) 形成的評価
 - a) 知識：演習、小テスト等を行う。
 - c) 態度：受講状況（出欠等）を記録する。
- 2) 総括的評価

- a) 知識：定期試験
c) 態度：受講態度（出欠等）を総合的に評価する。出席不良者に対しては、定期試験について受験停止の措置を講ずることがある。

〔教科書〕

マクマリー有機化学 第8版（上、中、下）（J. McMurry 著 伊東ら訳 東京化学同人）

〔参考書〕

化合物命名法 —IUPAC 勧告に準拠—（日本化学会 命名法専門委員会 編 東京化学同人）

電子の動きでみる有機反応のしくみ（奥山 格、杉村高志 著 東京化学同人）

困ったときの有機化学（D.R. クライン 著 竹内敬人、山口和夫 訳 化学同人）

ウォーレン 有機化学（W. Warren 著、野依ら 監訳、東京化学同人）

ポルハルト・ショアー 現代有機化学（K. P. C. Vollhardt, N. E. Schore 著 古賀ら 監訳 化学同人）

〔オフィスアワー〕

いつでも可。 但し、要予約。

〔所属教室〕

宮岡 宏明 生物分子有機化学教室 研究2号館2階205

釜池 和大 生物分子有機化学教室 研究2号館2階205

〔準備学習（予習・復習等）〕

高校で学習した『化学基礎』の「物質の構成と化学結合」、「物質の変化」、『化学』の「有機化合物」の項目が、本講義の基礎になりますので、良く復習をしてから、講義に臨んでください。

〔教員からの一言〕

本科目の学習内容は、以後の有機化学系科目を理解するための基礎となりますので、十分に習得して下さい。

〔備考〕

フィードバック講義を実施する。

一般化学

General Chemistry

第1学年 後期 1年必修科目 1単位

宮岡 宏明 (C・D、G・H)

釜池 和夫 (A・B、E・F)

学習目標 (GIO) 化学物質を理解できるようになるために、有機化合物の基本骨格となる脂肪族化合物の構造、性質などに関する基本的事項と基本的な有機化合物の立体構造などに関する基本的事項を修得する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	アルカンの基本的な性質について説明できる。	C3-2-1-1
2	分子模型を用いて化学物質の立体構造をシミュレートすることができる。(知識・技能)	C3-1-2-1~5、C3-1-2-7~8、Y-3-20-1
3	フィッシャー投影式とニューマン投影式を用いて有機化合物の構造を書くことができる。(技能)	C3-1-2-7
4	エタン、ブタンなどの立体配座とその安定性について説明できる。	C3-1-2-8
5	構造異性体と立体異性体の違いについて説明できる。	C3-1-2-1
6	シクロアルカンのシス-トランス異性について説明できる。	C3-1-2-1
7	シクロアルカンの環のひずみを決定する要因について説明できる。	C3-2-1-3
8	シクロヘキサンのいす型配座における水素の結合方向(アキシアル、エクアトリアル)を図示できる。(技能)	C3-2-1-4
9	置換シクロヘキサンの安定な立体配座を決定する要因について説明できる。	C3-2-1-5
10	多環式分子の立体配座について説明することができる。	C3-2-1-5
11	キラリティーと光学活性の関係を概説できる。	C3-1-2-2
12	絶対配置の表示法を説明し、キラル化合物の構造を書くことができる。(知識、技能)	C3-1-2-5
13	エナンチオマーとジアステレオマーについて説明できる。	C3-1-2-3
14	ラセミ体とメソ化合物について説明できる。	C3-1-2-4
15	旋光度測定法の原理および応用例を説明できる。	C2-4-1-5
16	炭素-炭素二重結合の立体異性(cis, transならびにE, Z異性)について説明できる。	C3-1-2-6
17	比旋光度測定による光学純度決定法を説明できる。	Y-3-27-1
18	比旋光度と絶対配置の関係を説明できる。	Y-3-27-2
19	光学活性化合物を得るための代表的な手法である光学分割を説明できる。	Y-3-31-4

授業内容

回数	担当	内容	対応(SBOs)
1	宮岡、釜池	アルカンの性質、エタンの立体配座	1、2、3、4
2	宮岡、釜池	その他のアルカンの立体配座	2、3、4、5
3	宮岡、釜池	シクロアルカンのシス-トランス異性	2、5、6
4	宮岡、釜池	シクロアルカンの安定性	2、7
5	宮岡、釜池	シクロプロパン、シクロブタン、シクロペンタンの立体配座	2、7
6	宮岡、釜池	シクロヘキサンの立体配座	2、8
7	宮岡、釜池	置換シクロヘキサンの立体配座	2、9
8	宮岡、釜池	多環式分子の立体配座	2、10
9	宮岡、釜池	キラリティーと光学活性	11、15、17、18
10	宮岡、釜池	CIP則、絶対配置の表示法(R, S)、アルケンの立体異性(E, Z)	2、12、16
11	宮岡、釜池	ジアステレオマーとメソ化合物	2、13、14
12	宮岡、釜池	ラセミ体と鏡像異性体の分割	2、14、16
13	宮岡、釜池	異性現象のまとめ	11~19

【アクティブ・ラーニングの取り組み】

小テストを実施する。
各自で分子構造模型を組み立てさせ、分子の立体構造の理解を深めさせる。

【授業で行っている工夫】

あらかじめ目標とするキーワードを提示し、目標を明確にしている。講義の進捗に合わせて、小テスト等による演習、解説を行い、理解を深めるよう努めている。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

- a) 知識：演習、小テスト等を行う。
c) 態度：受講状況（出欠等）を記録する。

2) 総括的評価

- a) 知識：定期試験
c) 態度：受講態度（出欠等）を総合的に評価する。出席不良者に対しては、定期試験について受験停止の措置を講ずることがある。

〔教科書〕

マクマリー有機化学 第8版（上、中、下）（J. McMurry 著 伊東ら訳 東京化学同人）

教材：分子構造模型

〔参考書〕

困ったときの有機化学（D.R. クライン 著 竹内敬人、山口和夫 訳 化学同人）

ウォーレン 有機化学（W. Warren 著 野依ら 監訳 東京化学同人）

ポルハルト・ショアー 現代有機化学（K. P. C. Vollhardt, N. E. Schore 著 古賀ら 監訳 化学同人）

〔オフィスアワー〕

いつでも可。 但し、要予約。

〔所属教室〕

宮岡 宏明 生物分子有機化学教室 研究2号館2階205

釜池 和太 生物分子有機化学教室 研究2号館2階205

〔準備学習（予習・復習等）〕

前期に学習した『無機化学』の「混成軌道」、『基礎化学』の「アルカン」「シクロアルケン」「アルケン」の項目が、本講義の基礎になりますので、良く復習をしてから、講義に臨んでください。

〔教員からの一言〕

本科目の学習内容は、以後の有機化学系科目を理解するための基礎となりますので、十分に習得して下さい。

〔備考〕

フィードバック講義を実施する。

有機化学 I

Organic Chemistry I

第 1 学年 後期 1 年必修科目 1 単位

古石 裕治 (C・D・E・F)

三浦 剛 (A・B・G・H)

学習目標 (GIO) 有機反応全般に関する基礎事項 (反応の分類, 反応に伴うエネルギー変化と平衡定数および反応速度, 反応エネルギー図, 曲がり矢印による反応機構の記述方法など) について理解する。アルケンの基本構造, 物理的性質, 合成法の概略, 炭素-炭素二重結合の関わる反応について理解する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	有機反応の基本的分類を理解し、説明できる。	C3-1-1-6
2	平衡定数および反応速度とそれらを定める各因子との関連、反応エネルギー図の意味を理解し、説明できる。	C3-1-1-8
3	曲がり矢印による反応機構の記述方法を理解している。	C3-1-1-9
4	アルケンの構造および性質を、その構成原子の構造、電子配置、結合の形態等に基づいて説明できる。	C1-1-1-1, C1-1-1-2
5	Cahn-Ingold-Prelog 則に従って、アルケンの E/Z を決定できる。	C3-1-2-6
6	アルケンに対するハロゲン化水素の付加反応の反応機構を記述し、論理的に説明できる。また、中間体および遷移状態の構造、反応エネルギー図を記述し、説明できる。	C3-1-1-8, C3-2-2-1
7	カルボカチオンの構造と安定性との関連とその理由を説明できる。	C3-1-1-7, C3-2-2-1
8	アルケンに対するハロゲン化水素の付加反応の位置選択性を、反応機構、カルボカチオンの構造と安定性の関連、および Hammond の仮説に基づいて説明できる。	C3-1-1-7, C3-1-1-8, C3-2-2-1
9	カルボカチオンの骨格転位反応の反応機構を記述し、説明できる。	C3-1-1-7, C3-2-2-1
10	アルケンに対するハロゲンの付加反応の反応機構を記述し、その立体化学を説明できる。	C3-1-2-4, C3-2-2-1
11	アルケンの求電子付加反応によるハロヒドリンおよびハロエーテル生成の反応機構を記述し、立体化学および位置選択性を説明できる。	C3-1-1-7, C3-2-2-1
12	アルケンのオキシ水銀化反応やヒドロホウ素化を経るアルコールおよびエーテル生成法の各反応段階の反応機構を記述し、立体化学および位置選択性を説明できる。	C3-2-2-1, C3-3-3-1
13	アルケンの接触水素化反応、過酸によるエポキシ化反応、ハロヒドリンと塩基との反応によるエポキシド生成反応について、それぞれ反応機構を記述し、立体化学を説明できる。	C3-2-2-2, C3-3-3-2
14	酸性および塩基性条件それぞれにおけるエポキシドの開裂反応について、反応機構を記述し、立体化学および位置選択性を説明できる。	C3-3-3-2
15	四酸化オスミウムによる酸化を経るアルケンのジヒドロキシ化反応の反応機構を記述し、立体化学を説明できる。	C3-2-2-2
16	オゾン分解の各反応段階、過ヨウ素酸による 1,2-ジオールの酸化開裂反応、および、過マンガン酸塩によるアルケンの酸化開裂反応の反応機構を記述し、説明できる。	C3-2-2-2
17	アルケンの代表的な位置選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。	C3-1-1-7, C3-2-2-1
18	アルケンの反応について、立体化学との関連を理解し、説明できる。	C3-2-2-1, C3-1-2-3, C3-1-2-4

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	古石, 三浦	有機反応の概観: 有機反応の分類, 平衡定数, 反応速度	1
2	古石, 三浦	有機反応の概観: 反応中間体, 遷移状態, 反応エネルギー図, 曲がり矢印	2, 3
3	古石, 三浦	アルケンの構造, 性質	4, 5
4	古石, 三浦	アルケンに対するハロゲン化水素の付加反応: 反応機構, カルボカチオン中間体の構造と安定性, Hammond の仮説, 位置選択性	6, 8
5	古石, 三浦	カルボカチオンの骨格転位反応: 反応機構	7, 9
6	古石, 三浦	アルケンに対するハロゲンの付加反応: 反応機構, 立体化学	10
7	古石, 三浦	ハロヒドリン, ハロエーテルの生成: 反応機構, 立体化学, 位置選択性	11
8	古石, 三浦	アルケンのオキシ水銀化反応を経るアルコール生成法: 反応機構, 立体化学, 位置選択性	12, 17, 18
9	古石, 三浦	アルケンのヒドロホウ素化反応を経るアルコール生成法: 反応機構, 立体化学, 位置選択性	12, 17, 18

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
10	古石, 三浦	アルケンの接触水素化反応: 反応機構、立体化学 過酸によるエポキシ化反応: 反応機構、立体化学	13, 18
11	古石, 三浦	ハロヒドリンからのエポキシド生成反応: 反応機構、立体化学 エポキシドの開裂反応: 反応機構、立体化学、位置選択性	13, 14
12	古石, 三浦	四酸化オスmiumによる酸化を経るアルケンのジヒドロキシ化反応: 反応機構、立体化学 オゾン分解: 反応機構	15, 16
13	古石, 三浦	過ヨウ素酸による1,2-ジオールの酸化開裂反応: 反応機構; 過マンガン酸塩によるアルケンの酸化開裂反応: 反応機構	16
14	古石, 三浦	アルケンへのカルベンの付加反応: 反応機構、立体化学; アルケンへの水の付加反応における立体化学	18

【アクティブ・ラーニングの取り組み】

講義した内容に関する演習問題や薬剤師国家試験問題を実際に聞いてもらってから、解説し、知識の定着に役立てている。

【授業で行っている工夫】

種々の性質、現象、反応等をもたらす「根本原理」を理解するため、常に、その分子の構成原子の性質、結合形態にまで立ち返り考察することに努めている。また、立体化学を理解するために、分子模型を活用した視覚的に分かり易い講義を実施している。また、新たに学ぶ反応については、反応機構を深く理解し、記述できるようになることに重点をおいている。

【成績評価方法】

1) 形成的評価

- a) 知識: 適宜レポートを課す。
- b) 技能:
- c) 態度: 受講状況(出欠等)を記録する。
- d) パフォーマンス: 講義中に小テストを行い修熟度を確認する。

2) 総括的評価

- a) 知識: 定期試験にて評価する。再試験を1回実施する。
- b) 技能:
- c) 態度: 受講状況(提出物等)を加味して総合評価する。
- d) パフォーマンス:

【教科書】

マクマリー有機化学 第8版(上, 中, 下)(J. McMurry 著, 伊藤ら 訳, 東京化学同人)

【参考書】

「有機化学」ワークブック(奥山格 著, 丸善)
有機反応機構(P. Sykes 著, 久保田尚志 訳, 東京化学同人)
ウォーレン 有機化学(W. Warren 著, 野依ら 監訳, 東京化学同人)
有機化学(奥山格 著, 丸善)
ポルハルト・ショアー 現代有機化学(K. P. C. Vollhardt, N. E. Schore 著, 古賀ら 監訳, 化学同人)
有機化学 基礎の基礎(山本嘉則 編著, 化学同人)

【オフィスアワー】

いつでも可。但し、要予約。

【所属教室】

古石 裕治 薬化学教室 研究2号館3階306

三浦 剛 薬化学教室 研究2号館3階306

【準備学習(予習・復習等)】

演習問題を課し、予習復習に役立てる。
事前に講義プリントをWebクラスから配布するので、予習に復習に利用する。

【教員からの一言】

無機化学、基礎化学、一般化学の学習内容が前提となるので、よく復習し、修得しておくこと。

【備考】

フィードバック講義は実施する。

機能形態学 I

Human Anatomy and Physiology I

第1学年 前期 1年必修科目 1単位

馬場 広子、山口 宜秀、林 明子、石橋 智子

学習目標 (GIO) ヒトの成り立ちを個体、器官、細胞レベルで理解し、ホメオスタシス (恒常性) の維持機構を理解するために、機能形態学 I (1年前期)、II (1年後期)、III (2年前期) によって生命体の構造とダイナミックな機能調節機構に関する基本的知識を修得する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	ヒトの身体を構成する各臓器の役割分担について概説できる。	C7-1-3-1
2	ホメオスタシスについて概説できる。	C7-2-1-3
3	ヒトの身体を構成する臓器の名称、形態および体内での位置を説明できる。	C7-1-3-1
4	ヒトにおける主な骨と関節の名称を挙げ、位置を示すことができる。	C7-1-5-2
5	ヒトにおける主な骨格筋の名称を挙げ、位置を示すことができる。	C7-1-5-2
6	生命現象に関わる細胞膜を介した物質輸送について説明できる。	C6-1-1-1, C6-1-1-2
7	生命現象に関わる細胞の電氣的性質を説明できる。	C6-1-1-1
8	生命現象に関わる細胞間コミュニケーションについて説明できる。	C6-6-1-1
9	心臓、血管系について機能と構造を関連づけて説明できる。	C7-1-7-1, C7-2-1-3
10	心電図を理解できる。	C7-1-7-1, C7-2-1-3
11	血圧の調節機構を説明できる。	C7-2-5-1, C7-2-1-3
12	リンパ系について機能と構造を関連づけて説明できる。	C7-1-7-3
13	胃、小腸、大腸などの消化管について機能と構造を関連づけて説明できる。	C7-1-9-1
14	消化、吸収における神経の役割について説明できる。	C7-1-9-1, C7-2-1-3
15	消化、吸収における消化管ホルモンの役割について説明できる。	C7-1-9-1, C7-2-2-1
16	肝臓、膵臓、胆嚢について機能と構造を関連づけて説明できる。	C7-1-9-2

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	馬場	機能形態学について -身体の構造とホメオスタシス-	1, 2
2	山口	身体の構造 (1)	3, 4, 5
3	#	身体の構造 (2)	3, 4, 5
4	馬場、山口、林、石橋	中間試験 (身体の構造)	3, 4, 5
5	馬場	生理学総論 (1)	6, 7, 8
6	#	生理学総論 (2)	6, 7, 8
7	#	循環器系・リンパ系 (1)	9, 10, 11, 12
8	#	循環器系・リンパ系 (2)	9, 10, 11, 12
9	#	循環器系・リンパ系 (3)	9, 10, 11, 12
10	林	消化器系 (1)	13, 14, 15
11	#	消化器系 (2)	13, 14, 15
12	#	肝・胆道系	15, 16
13	#	肝・胆道系	15, 16

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕
補助プリントを使用し、スライドの内容を確認させながら講義を実施している。
リアクションペーパー (アンケート) を実施している。

〔授業で行っている工夫〕
あらかじめ目標とするキーワードを提示し、目標を明確にしている。予習や復習に役立つ補助プリントを作成している。

〔成績評価方法〕

- 1) 形成的評価
 - a. 知識：中間試験を実施し、フィードバックを行う。成績不良者には課題を課す。
 - b. 技能：
 - c. 態度：出席や受講態度を評価し、必要により注意を行う。
- 2) 総合的評価
 - a. 知識：定期試験にて評価する。再試験を1回実施する。
 - b. 技能：

c. 態度：

注) 出席不良者あるいは中間試験の未受験者と成績不良者に対しては受験停止の措置を講ずることがあるので注意すること。また、定期試験の結果が極めて悪い場合には、再試験の受験を認めないことがある。

【教科書】

グラフィカル機能形態学 (馬場編 京都廣川書店)
入門人体解剖学 (藤田著 南江堂)

【参考書】

標準生理学 (本郷、広重編 医学書院)
人体の正常構造と機能 (坂井、河原編 日本医事新報社)

【オフィスアワー】

いつでも可。但し、あらかじめ教室を訪問し、予約すること。

【所属教室】

馬場、山口、林、石橋 機能形態学教室 研究1号館202号室

【準備学習 (予習・復習等)】

講義前に必ず、グラフィカル機能形態学の講義関連部分を読み、予習すること。講義中に補助プリントなどにメモしたものを利用し、再度、教科書を読みながら講義内容を復習すること。

【教員からの一言】

ここで得られる知識は薬理学や病態生理学などに直結します。予習・復習をするだけで講義のおもしろさは変わりますので、必ず実行してください。また講義中は、自分が重要だと思ったことや疑問に思ったことを必ずメモしながら受講し、復習に役立ててください。

細胞生物学

Cell Biology

第1学年 前期 1年必修科目 1単位

野水 基義	病態生化学教室	(A・B、C・D、E・F、G・H)
吉川 大和	病態生化学教室	(A・B、C・D、E・F、G・H)
保住 建太郎	病態生化学教室	(A・B、C・D、E・F、G・H)
片桐 文彦	病態生化学教室	(A・B、C・D、E・F、G・H)

学習目標 (GIO) 多細胞生物の成り立ちを細胞レベルで理解するために、細胞の構造と機能および組織構築に関する基本的知識を修得する。さらに、細胞を構成する基本分子としてのタンパク質、糖質および脂質について、それらの分子構造および性状について基本的知識を習得する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	代表的な生体高分子を構成する小分子（アミノ酸、糖、脂質、ヌクレオチドなど）の構造に基づく化学的性質を説明できる。	C4-1-1-1
2	代表的な脂質の種類、構造、性質、役割を説明できる。	C6-2-1-1
3	代表的な単糖、二糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。	C6-2-2-1
4	アミノ酸を列挙し、その構造に基づいて性質を説明できる。	C6-2-3-1
5	タンパク質の構造（一次、二次、三次、四次構造）と性質を説明できる。	C6-2-4-1
6	多彩な機能をもつタンパク質（酵素、受容体、シグナル分子、膜輸送体、運搬・輸送タンパク質、貯蔵タンパク質、構造タンパク質、接着タンパク質、防御タンパク質、調節タンパク質）を列挙し概説できる。	C6-3-1-1
7	ヌクレオチドと核酸（DNA、RNA）の種類、構造、性質を説明できる。	C6-2-5-1
8	染色体の構造（ヌクレオソーム、クロマチン、セントロメア、テロメアなど）を説明できる。	C6-4-2-1
9	細胞小器官（核、ミトコンドリア、小胞体、リソソーム、ゴルジ体、ペルオキシソームなど）やリボソームの構造と機能を説明できる。	C6-1-2-1
10	細胞骨格の構造と機能を説明できる。	C6-1-3-1
11	タンパク質の翻訳後の成熟過程（細胞小器官間の輸送や翻訳後修飾）について説明できる。	C6-3-2-1
12	細胞膜を構成する代表的な生体成分を列挙し、その機能を分子レベルで説明できる。	C6-1-1-1
13	エンドサイトーシスとエキソサイトーシスについて説明できる。	C6-1-1-2
14	膜輸送体の種類、構造、機能を説明できる。	C6-3-4-1
15	細胞間コミュニケーションにおける情報伝達様式を説明できる。	C6-6-1-1
16	細胞周期とその制御機構について説明できる。	C6-7-1-1
17	細胞死（アポトーシスとネクローシス）について説明できる。	C6-7-2-1
18	細胞間の接着構造、主な細胞接着分子の種類と特徴を説明できる。	C6-6-3-1
19	主な細胞外マトリックス分子の種類と特徴を説明できる。	C6-6-3-2
20	個体発生について概説できる。	C7-1-2-1
21	細胞の分化における幹細胞、前駆細胞の役割について概説できる。	C7-1-2-2
22	人体を構成する器官、器官系の名称、形態、体内での位置および機能を説明できる。	C7-1-3-1
23	組織、器官を構成する代表的な細胞の種類（上皮、内皮、間葉系など）を列挙し、形態的および機能的特徴を説明できる。	C7-1-3-2

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	野水	はじめに、講義の到達目標、細胞の基本構造	1
2	野水	生体構成物質 (1)	2~6
3	野水	生体構成物質 (2)	6~8
4	野水	細胞内小器官の構造と性質 (1)	9
5	野水	細胞内小器官の構造と性質 (2)	9~11
6	片桐	細胞膜の構造、性質と細胞膜を介した物質輸送	12~14
7	保住	細胞間の情報伝達	15
8	保住	細胞周期	16, 17
9	吉川	細胞間結合	18
10	吉川	細胞外マトリックス	19
11	吉川	組織の構築	20, 21
12	吉川	組織の形態と細胞の種類 (1)	20, 21
13	吉川	組織の形態と細胞の種類 (2)	22, 23

【アクティブ・ラーニングの取り組み】

- ・授業中に書き込む形式になってるプリントを作成し、授業で活用している。
- ・練習問題を提供して、各自で自習できるように工夫している。
- ・Web Classに授業資料を up し、学生自ら学ぶことができるように工夫している。

【授業で行っている工夫】

1. 1年生前期の「生物学」および「細胞生物学」、1年生後期の「生化学Ⅰ」、2年生の「生化学Ⅱ」および「生化学Ⅲ」、さらに3年生の「バイオ医薬品」を生物系の関連科目、すなわち基礎から応用までステップアップする講義と捉え、一貫性を重視して講義の理解度を上げることを工夫している。一方、限られた講義時間を効率よく利用するために講義の重複部分についても必要・不要等の調整をおこなっている。
2. 当該講義科目履修後にも継続して講義に関する理解度チェック・復習ができるように Web クラスを開設している。
3. 本講義は生物学導入教育の一環として行うもので、最後の時間に小テストの解説と授業のまとめを行い、重要項目の再確認をする。

【成績評価方法】

- 1) 形成的評価
 - a) 知識：
 - b) 技能：
 - c) 態度：授業時間中を通じて観察を行い、その場でフィードバックする。
- 2) 総括的評価
 - a) 知識：定期試験、出席点、提出物を総合的に評価する。
 - c) 態度：改善が認められれば合点とする。

【教科書】

自作プリント

薬学領域の生化学（伊東、藤木編 廣川書店）

【参考書】

エッセンシャル細胞生物学（中村ら監訳 南江堂）
基礎から学ぶ生物学・細胞生物学（和田著 羊土社）
FUNDAMENTAL 細胞生物学（坂口著 京都廣川書店）
illustrated 基礎生命科学（竹島、柿澤著 京都廣川書店）
生物系薬学 1. 生命現象の基礎（東京化学同人）
入門人体解剖学（藤田著 南江堂）

【オフィスアワー】

いつでも可。ただし、要予約

【所属教室】

病態生化学教室（研究2号館5階508号）

【準備学習（予習・復習等）】

- ・高校で学習した『生物基礎』の「生物と遺伝子」の項目が、本講義の基礎になりますので、良く復習をしてから、講義に臨んでください。
- ・講義は主にプリントも使用しますので、しっかり読んで授業に臨んでください。（生協で事前に購入すること）

【備考】

連絡先 042-676-5662

野水 nomizu@toyaku.ac.jp

吉川 kikkawa@toyaku.ac.jp

保住 hozumi@toyaku.ac.jp

片桐 katagiri@toyaku.ac.jp

生物学

Biology

第1学年 前期 1年必修科目 1単位

高木 教夫 (A・B、C・D、E・F、G・H)
三浦 典子 (A・B、C・D、E・F、G・H)
林 秀樹 (A・B、C・D、E・F、G・H)

学習目標 (GIO) 薬学を学ぶうえで必要な生物学の知識を身に付けるために、生物を構成する成分、ならびに生物にとって重要な現象を学習し、ヒトの誕生から成長、老化、死への過程に関する基本的知識を修得する。最も重要な点は、将来、薬学的臨床現場の知識として必須であること認識することである。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	薬学を学ぶ上で必要な生物学の基礎力を身につけるために、細胞、組織、器官、個体レベルでの生命現象と、誕生から死への過程に関する基本的事項を概説できる。	X-6-1-1 X-6-1-3 X-6-2-1
2	代表的な単糖、二糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。	C6-2-2-1
3	代表的な多糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。	C6-2-2-2
4	アミノ酸を列挙し、その構造に基づいて性質を説明できる。	C6-2-3-1
5	代表的な脂質の種類、構造、性質、役割を説明できる。	C6-2-1-1
6	代表的な生体高分子を構成する小分子(アミノ酸、糖、脂質、ヌクレオチドなど)の構造に基づく化学的性質を説明できる。	C4-1-1-1
7	代表的なビタミンの種類、構造、性質、役割を説明できる。	C6-2-6-1
8	代表的な必須微量元素の種類、役割を説明できる。	C6-2-7-1
9	タンパク質の構造(一次、二次、三次、四次構造)と性質を説明できる。	C6-2-4-1
10	ヌクレオチドと核酸(DNA、RNA)の種類、構造、性質を説明できる。	C6-2-5-1
11	細胞死(アポトーシスとネクローシス)について説明できる。	C6-7-2-1
12	遺伝子と遺伝のしくみについて概説できる。	C7-1-1-1
13	遺伝子多型について概説できる。	C7-1-1-2

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	高木、三浦、林	薬学における生物学について	1
2	三浦	糖質の種類と構造	2
3	#	糖質の性質と役割	3
4	#	アミノ酸の構造と性質	4
5	林	脂質の構造・性質・役割	5
6	#	生体高分子の化学的性質	6
7	#	ビタミンの構造・役割	7
8	#	必須微量元素の種類と役割	8
9	高木	タンパク質の構造と性質	9
10	#	ヌクレオチドと核酸	10
11	#	細胞死(アポトーシスとネクローシス)	11
12	#	遺伝子と遺伝のしくみ	12
13	#	遺伝子多型について	13

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

- ・授業中に書き込む形式になっているプリントを作成し、授業で活用している。
- ・練習問題を提供して、各自で自習できるように工夫している。

〔授業で行っている工夫〕

1. 1年生の「細胞生物学」、「生化学Ⅰ」、2年生の「生化学Ⅱ」および「生化学Ⅲ」、さらに3年生の「バイオ医薬品」を生物系の関連科目、すなわち基礎から応用までステップアップするための講義と捉え、一貫性を重視し、講義の理解度を上げることを工夫している。一方、限られた講義時間を効率よく利用するために講義の重複部分についても必要・不要等の調整をおこなっている。
2. 本講義は、生物学導入教育の側面も十分考慮して行う。ただし、臨床的な意義を把握できるようにトピックスを紹介している。

〔成績評価方法〕

- 1) 形成的評価
 - a) 知識：課題、演習問題を行い、解説にてフィードバックする。
 - b) 技能：

c) 態度：授業時間中を通じて観察、質疑応答などを行い、その場でフィードバックする。

2) 総括的評価

a) 知識：定期試験にて評価する。再試験を1回実施する。

c) 態度：受講態度により評価する。

〔教科書〕

自作プリント

〔参考書〕

基礎生命科学（竹島浩 京都廣川書店）

薬学領域の生化学 第2版（伊東 晃編集 廣川書店）

新しい機能形態学：ヒトの成り立ちとその働き（小林ら著 廣川書店）

フォトサイエンス生物図録（鈴木孝仁 監修）数研出版

〔オフィスアワー〕

高木 いつでも可。但し、要予約。

三浦 いつでも可。但し、要予約。

林 いつでも可。但し、要予約。

〔所属教室〕

高木・林 応用生化学教室 研究2号館6階606号室

三浦 薬学教育推進センター 教育1号館1階1105号室

〔準備学習（予習・復習等）〕

・講義はプリントも使用しますので、しっかり読んで授業に臨んでください。

・授業後の復習は極めて重要です。判らないことは、教科書および参考書で必ず調べてください。自分で教科書を使って調べることがとても大切です。日常の学習は、内容を理解することを中心に進めてください。

〔教員からの一言〕

高校で生物を履修しなかった学生はWeb Classを参考にして、忘れずに予習をして下さい。

〔備考〕

新入生実力チェックテスト（生物学）で成績が振るわなかった学生は、補講（詳しくは学年掲示板を見てください）を行いますので、必ず参加してください。

機能形態学 II

Human Anatomy and Physiology II

第 1 学年 後期 1 年必修科目 1 単位

馬場 広子、山口 宜秀、林 明子、石橋 智子（機能形態学教室）

稲葉 二郎（薬学基礎実習教育センター）

学習目標 (GIO) ヒトの成り立ちを個体、器官、細胞レベルで理解し、ホメオスタシス（恒常性）の維持機構を理解するために、機能形態学 I（1 年前期）、II（1 年後期）、III（2 年前期）によって生命体の構造とダイナミックな機能調節機構に関する基本的知識を修得する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	細胞膜の電気的性質と興奮について説明できる。	C6-1-1-1, C7-2-1-1
2	神経系の興奮と伝導の調節機構を説明できる。	C7-2-1-1
3	シナプス伝達の調節機構を説明できる。	C4-1-2-1, C6-6-2-1 C6-6-2-5, C7-2-1-1 C7-2-1-3
4	中枢神経系の構成と機能の概要を説明できる。	C7-1-4-1, C7-2-1-3
5	末梢神経系（体性神経系、自律神経系）の構成と機能の概要を説明できる。	C6-6-2-1 C6-6-2-5, C7-1-4-2, C7-2-1-3
6	眼、耳、鼻などの感覚器について機能と構造を関連づけて説明できる。	C7-1-13-1, C7-2-1-3
7	運動神経による骨格筋支配を説明できる。	C7-2-1-4
8	骨格筋の興奮収縮連関について説明できる。	C7-1-5-1, C7-2-1-4
9	骨格筋、心筋、平滑筋それぞれの収縮調節機構を比較し、説明できる。	C7-1-5-1, C7-2-1-4
10	肺、気管支について機能と構造を関連づけて説明できる。	C7-1-8-1, C7-2-1-3
11	肺および組織におけるガス交換を説明できる。	C7-1-8-1, C7-2-1-3
12	血液凝固・線溶系の機構を説明できる。	C7-2-9-1
13	血液成分について説明できる。	C7-1-14-1
14	骨髄、脾臓、胸腺などの血液・造血系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。	C7-1-14-1

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	山口	神経系総論	1, 2, 3
2	#	神経系 (1)	4
3	#	神経系 (2)	4
4	#	神経系 (3)	4
5	稲葉	神経系 (4)	5
6	#	感覚器	6
7	林	運動器 (1)	7, 8
8	#	運動器 (2)	7, 8
9	#	骨格筋、心筋、平滑筋の収縮機構	9
10	石橋	呼吸器系 (1)	10, 11
11	#	呼吸器系 (2)	10, 11
12	馬場	血液・血液凝固・線溶系 (1)	12, 13, 14
13	#	血液・血液凝固・線溶系 (2)	12, 13, 14
14	#	血液・血液凝固・線溶系 (3)	12, 13, 14

【アクティブ・ラーニングの取り組み】
補助プリントを使用し、スライドの内容を確認させながら講義を実施している。
リアクションペーパー（アンケート）を実施している ija

【授業で行っている工夫】
あらかじめ目標とするキーワードを提示し、目標を明確にしている。予習や復習に役立つ講義資料を作成している。

【成績評価方法】

- 1) 形成的評価
 - a. 知識：
 - b. 技能：
 - c. 態度：出席や受講態度を評価し、必要により注意を行う。
- 2) 総合的評価

- a. 知識：定期試験にて評価する。再試験を1回実施する。
- b. 技能：
- c. 態度：

注) 出席や受講態度の不良者に対しては受験停止の措置を講ずることがあるので注意すること。また、定期試験の結果が極めて悪い場合には、再試験の受験を認めないことがある。

〔教科書〕

グラフィカル機能形態学 (馬場編 京都廣川書店)
入門人体解剖学 (藤田著 南江堂)

〔参考書〕

標準生理学 (本郷、広重編 医学書院)
人体の正常構造と機能 (坂井、河原編 日本医事新報社)

〔オフィスアワー〕

いつでも可。但し、あらかじめ教室を訪問し、予約すること。

〔所属教室〕

馬場、山口、林、石橋 機能形態学教室 研究1号館202号室
稲葉 薬学基礎実習教育センター 教育2号館3階2306号室

〔準備学習 (予習・復習等)〕

講義前に必ず、グラフィカル機能形態学の講義関連部分を読み、予習すること。講義中に補助プリントなどにメモしたものを利用し、再度、教科書を読みながら講義内容を復習すること。

〔教員からの一言〕

ここで得られる知識は薬理学や病態生理学などに直結します。予習・復習をするだけで講義のおもしろさは変わりますので、必ず実行してください。また講義中は、自分が重要だと思ったことや疑問に思ったことを必ずメモしながら受講し、復習に役立ててください。

生化学I

Biochemistry I

第1学年 後期 1年必修科目 1単位

野水 基範	病態生化学教室	(A・B、C・D、E・F、G・H)
吉川 大和	病態生化学教室	(A・B、C・D、E・F、G・H)
保住 建太郎	病態生化学教室	(A・B、C・D、E・F、G・H)
片桐 文彦	病態生化学教室	(A・B、C・D、E・F、G・H)

学習目標 (GIO) 生化学は、生体内の各種の分子を研究し、それらによって引き起こされる化学反応を解析する科学である。したがって、生化学は生命科学全体の基本言語であり、医学や薬学をはじめとする健康科学を合理的に理解し遂行するために、その正確な知識が欠かせない。本演習では、生体のダイナミックな情報ネットワーク機構を物質や細胞レベルで理解するために、代表的な情報伝達物質の種類、作用発現機構などに関する基本的な知識を修得する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	代表的な生体高分子を構成する小分子（アミノ酸、糖、脂質、ヌクレオチドなど）の構造に基づく化学的性質を説明できる。	C4-1-1-1
2	代表的な脂質の種類、構造、性質、役割を説明できる。	C6-2-2-1
3	アミノ酸を列挙し、その構造に基づいて性質を説明できる。	C6-2-3-1
4	多彩な機能をもつタンパク質（酵素、受容体、シグナル分子、膜輸送体、運搬・輸送タンパク質、貯蔵タンパク質、構造タンパク質、接着タンパク質、防御タンパク質、調節タンパク質）を列挙し概説できる。	C6-3-1-1
5	代表的なホルモンを挙げ、その産生器官、生理活性および作用機構について概説できる。	C7-2-2-1
6	血糖の調節機構について概説できる。	C7-2-6-1
7	血圧の調節機構について概説できる。	C7-2-5-1
8	代表的なオータコイドを挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。	C7-2-3-1
9	代表的なサイトカイン、増殖因子を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。	C7-2-4-1
10	細胞膜チャネル内蔵型受容体を介する細胞内情報伝達について説明できる。	C6-6-2-1
11	細胞膜受容体から G タンパク系を介する細胞内情報伝達について説明できる。	C6-6-2-2
12	細胞膜受容体タンパク質などのリン酸化を介する細胞内情報伝達について説明できる。	C6-6-2-3
13	細胞内情報伝達におけるセカンドメッセンジャーについて説明できる。	C6-6-2-4
14	細胞内（核内）受容体を介する細胞内情報伝達について説明できる。	C6-6-2-5
15	酵素反応の特性と反応速度論を説明できる。	C6-3-3-1
16	酵素反応における補酵素、微量金属の役割を説明できる。	C6-3-3-2
17	代表的な酵素活性調節機構を説明できる。	C6-3-3-3

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	野水	はじめに、講義の到達目標、生化学概論	1
2	野水	生理活性物質概論	2~4
3	野水	ペプチドホルモン	5~9
4	野水	アミノ酸誘導体ホルモン	5~9
5	野水	ステロイドホルモン	5~9
6	吉川	エイコサノイド	5~9
7	吉川	生理活性アミン（セロトニン、ヒスタミンなど）	5~9
8	吉川	生理活性ペプチド（アンギオテンシンなど） 神経伝達物質	5~9
9	吉川	酵素の反応速度論	5~9
10	片桐	サイトカイン、増殖因子、ケモカイン	5~9
11	片桐	一酸化窒素の生合成経路と生体内での役割	5~9
12	保住	受容体と細胞内情報伝達機構	10~14
13	保住	酵素の種類と特性	15~17

【アクティブ・ラーニングの取り組み】

・授業中に書き込む形式になっているプリントを作成し、授業で活用している。

- ・練習問題を提供して、各自で自習できるように工夫している。
- ・Web Classsに授業資料を up し、学生自ら学ぶことができるように工夫している。

〔授業で行っている工夫〕

1. 1年生前期の「生物学」および「細胞生物学」、1年生後期の「生化学Ⅰ」、2年生の「生化学Ⅱ」および「生化学Ⅲ」、さらに3年生の「バイオ医薬品」を生物系の関連科目、すなわち基礎から応用までステップアップする講義と捉え、一貫性を重視して講義の理解度を上げることを工夫している。一方、限られた講義時間を効率よく利用するために講義の重複部分についても必要・不要等の調整をおこなっている。
2. 当該講義科目履修後にも継続して講義に関する理解度チェック・復習ができるように Web クラスを開設している。
3. 本講義は生物学導入教育の一環として行うもので、最後の時間に小テストの解説と授業のまとめを行い、重要項目の再確認をする。

〔成績評価方法〕

- 1) 形成的評価
 - a) 知識:
 - b) 技能:
 - c) 態度: 授業時間中を通じて観察を行い、その場でフィードバックする。
- 2) 総括的評価
 - a) 知識: 定期試験, 出席点, 提出物を総合的に評価する。
 - c) 態度: 改善が認められれば合点とする。

〔教科書〕

自作プリント
薬学領域の生化学 (伊東、藤木編 廣川書店)

〔参考書〕

illustrated 基礎生命科学 (竹島、柿澤著 京都廣川書店)
基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 (和田著 羊土社)
生物系薬学 II. 人体の成り立ちと生体機能の調節 (東京化学同人)

〔オフィスアワー〕

いつでも可。ただし、要予約。

〔所属教室〕

病態生化学教室 (研究2号館5階508号)

〔準備学習 (予習・復習等)〕

- ・高校で学習した『生物基礎』の「生物の体内環境の維持」の項目が、本講義の基礎になりますので、良く復習をしてから、講義に臨んでください。
- ・講義はプリントを主に使用しますので、しっかり読んで授業に臨んでください。(生協で事前に購入すること)

〔備考〕

連絡先 042-676-5662
野水 nomizu@toyaku.ac.jp
吉川 kikkawa@toyaku.ac.jp
保住 hozumi@toyaku.ac.jp
片桐 katagiri@toyaku.ac.jp

薬と疾病入門

Introduction of Pharmacology

第1学年 後期 1年必修科目 1単位

立川 英一 (A・B、C・D、E・F、G・H)

吉江 幹浩 (A・B、C・D、E・F、G・H)

学習目標 (GIO) 薬物療法は、疾病を治療する上で極めて重要な手段である。'なぜ薬がさまざまな疾患の治療に用いられるのか' これを理解するため、薬物の生体への作用、及び生体の薬への作用、すなわち薬と生体の相互作用を明らかにする「薬理学」を修得することが必須である。ここでは、神経伝達物質、サイトカイン及びオートコイドなどの"生理活性物質"の作用とそれに関連する疾患とその治療法を学び、2学年前期からスタートする「薬理学」への学習基盤を築き、薬物療法の基礎を確立する。また、生理活性物質の受容体、作用、作用発現機序、医療への応用についての基本的な知識も習得し、薬理学的な考え方を身につける。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	薬物の用量と作用の関係を説明できる。特に薬物の拮抗作用について薬物と拮抗部位を挙げて解説できる。	E1-1-1-1
2	薬物の固有活性、アゴニスト、アンタゴニストについて説明できる。	C4-2-3-1, E1-1-1-2, E1-1-1-4
3	薬物の興奮効果、抑制効果についてアセチルコリン (ACh) を例に挙げて解説できる。	E1-1-1-1
4	薬物の作用点である薬物受容体について受容体、酵素、イオンチャネル及びトランスポーターを具体的な例に挙げて説明できる。	E1-1-1-3
5	薬理作用の種類と薬理作用に影響をおよぼす要因について、また薬物連用について例を挙げて概説できる。	E1-1-1-7, E1-1-1-8, E1-1-1-9, E1-4-1-1, E1-4-2-1, E3-3-1-1, E3-3-1-2, E4-1-1-1, E4-1-2-1, E4-1-2-2, E4-1-2-3, E4-1-2-4, E4-1-2-5, E4-1-3-1, E4-1-3-4, E4-1-4-1, E4-1-4-3, E4-1-5-1, E4-2-2-1
6	受容体の種類とその特徴について概説できる。	C4-1-2-1, E1-1-1-4
7	細胞膜受容体と主要な G タンパク質の機能を解説できる。	C6-6-2-2
8	受容体と細胞内情報伝達系との連関を説明できる。	C6-6-2-1, C6-6-2-2, C6-6-2-3, C6-6-2-4, C6-6-2-5, E1-1-1-5
9	細胞内 Ca^{2+} レベルの調節と細胞応答について概説できる。	C6-6-2-4
10	神経伝達物質、オートコイド、サイトカイン、ホルモンの定義と生体での役割を概説できる。	C7-2-1-2, C7-2-2-1, C7-2-3-1, C7-2-4-1
11	末梢神経系 (自律神経系並びに体性神経系) の分類およびその形態と機能を説明できる。	C7-1-4-2
12	代表的な神経伝達物質の合成と分解経路を解説できる。	Y-3-60-1
13	アドレナリン (Ad) 受容体 ($\alpha_{1, 2}$, β_{1-3}) 並びにムスカリン性とニコチン性 ACh 受容体 (M_{1-3} , N_N , と N_M) を解説できる。	E2-1-1-1, E2-1-1-2
14	末梢神経系の主な支配臓器 (眼、気管支、血管、心臓、消化管、骨格筋、肝臓等) における神経伝達物質 (ノルアドレナリン (NA) と ACh) の受容体刺激効果を解説できる。	C7-1-4-2, E2-1-1-1, E2-1-1-2
15	NA, Ad 並びにイソプレナリンの構造活性相関を解説できる。	C4-3-5-1, E2-1-4-1
16	Ad 反転や ACh のニコチン様作用の薬理学的観察法を解説できる。	E2-1-1-1, E2-1-1-2
17	アンギオテンシンの生成と代謝、生理作用、疾患との関連、さらに、アンギオテンシン II 合成阻害薬と受容体拮抗薬の臨床応用を理解している。	C7-2-3-1, E2-3-1-4
18	ヒスタミンの生成経路、受容体とその刺激効果 (生理、薬理作用) とヒスタミン受容体拮抗薬の臨床適用と薬物の特徴を概説できる。	C7-2-3-1, E2-2-2-1, E2-2-2-3, E2-4-2-1, Y-3-59-1
19	セロトニンの生成経路、受容体とその刺激効果 (生理、薬理作用) とセロトニン受容体作動薬・拮抗薬の臨床適用と薬物の特徴を概説できる。	C7-2-3-1, E2-1-3-4, E2-1-3-5, E2-1-3-6, E2-1-3-11, E2-4-2-1, E2-4-2-8, Y-3-59-1
20	エイコサノイド (プロスタグランジン (PG)、ロイコトリエン (LT)) の生成過程と生理作用を知っている。	C7-2-3-1
21	PG 受容体作動薬と合成抑制薬並びに LT 受容体拮抗薬の臨床適用を説明できる。	E2-2-1-1, E2-2-2-1, E2-3-3-7, E2-4-1-1, E2-4-2-1, E2-6-1-1
22	消化性潰瘍とパーキンソン病の病態とその治療薬を説明できる。	E2-1-3-9, E2-4-2-1

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1~3	吉江 幹浩	1. アゴニスト、アンタゴニストの概念、薬物の興奮・抑制効果、細胞膜受容体と細胞内受容体 2. 薬物の用量と作用の関係、特に薬理学的拮抗作用並びに薬理作用に影響をおよぼす要因	1~5
4、5	吉江 幹浩	3. 細胞膜受容体と G タンパク質との関連および代表的薬物受容体 4. 細胞内情報伝達系、細胞内 Ca^{2+} レベルの調節と細胞応答	6~10
6、7	立川 英一	(自律神経系に作用する薬物の基礎) 5. 末梢神経系の形態的特徴と機能 6. 神経伝達物質の生成と分解経路	11、12
8~10	立川 英一	7. アドレナリン (Ad) 受容体、ムスカリン性とニコチン性アセチルコリン (ACh) 受容体の特徴と機能 8. ノルアドレナリン (NA)、ACh の受容体刺激効果 9. NA、Ad、イソプレナリンの構造活性相関と薬理学的作用の相違、Ad 反転と ACh のニコチン様作用	13~16
11	立川 英一	10. 神経伝達物質、オータコイド、サイトカインおよびホルモンの概念とオータコイド関連系 (レニン-アンジオテンシン-アルドステロン系)	17
12	立川 英一	オータコイド関連系 (ヒスタミン、セロトニン、エイコサノイド) 11. ヒスタミンの作用と受容体、ヒスタミン受容体拮抗薬の臨床応用	18
13	立川 英一	12. セロトニンの作用と受容体、セロトニン受容体作動薬・拮抗薬の臨床応用	19
14	立川 英一	13. プロスタグランジン (PG) とロイコトリエン (LT) の作用、PG 受容体作動薬と合成抑制薬並びに LT 受容体拮抗薬の臨床応用	20、21

【アクティブ・ラーニングの取り組み】

補助プリント (資料) を WebClass にアップし、講義を進行しながら、資料の余白に話したことで重要なポイントを記入させている。

学生を指名して質問し、他の教科で習った基本的な重要事項を復習させている。

【授業で行っている工夫】

本科目は、機能形態学、生化学並びに有機化学などの基礎薬学と病態学の知識を必要とするため、それら教科と関連づけながら授業をおこなう。単元ごとに SBO を明示し、講義終了後に過去の国家試験問題を解かせ、その単元の復習をする。自学自習を促すため、講義の予習と復習項目に関する簡単なレポート課題を提出してもらった場合もある。また、単元のまとめとして、小試験をおこなうこともある。

【成績評価方法】

1) 形成的評価

- a) 知識:必要に応じて演習問題をおこない、解説しフィードバックする。
- b) 技能:演習問題をおこない、実習に必要な技能を習熟する。
- c) 態度:受講態度で評価する。
- d) パフォーマンス:小試験を行い、修熟度を確認する。

2) 総括的評価

- a) 知識:小試験と定期試験の結果で評価する。再試験を 1 回実施する。
- b) 技能:該当しない。
- c) 態度:受講態度により評価する。
- d) パフォーマンス:形成的評価により判断する。

【教科書】

最新薬の効き方 (立川・田野中 編、愛智出版) 及び資料

【参考書】

最新薬理学 (赤池・石井 編、廣川書店)

新しい機能形態学 -ヒトの成り立ちとその働き- (小林・馬場・平井 編、廣川書店)

医薬必修 生化学 (伊東・畑山 編、廣川書店)

薬学生のための新臨床医学 (市田・細山田 編、廣川書店)

New 薬理学 (第 5 版) (加藤・田中 編、南江堂)

Goodman & Gilman's the Pharmacological Basis of Therapeutics 12th Edition (Ed. L.L. Brunton, B.A. Chabner, B.C.Knollman, McGraw Hill)

【オフィスアワー】

立川 英一 都合がよければ、いつでも可。事前にメールで連絡があれば確実です (etachika@toyaku.ac.jp)。

吉江 幹浩 都合がよければ、いつでも可。事前にメールで連絡があれば確実です (yoshie@toyaku.ac.jp)。

【所属教室】

立川 英一 内分泌・神経薬理学教室 研究 2 号館 402 号室

吉江 幹浩 内分泌・神経薬理学教室 研究 2 号館 404 号室

【準備学習 (予習・復習等)】

授業を受ける前に講義予定項目の SBO を確認し、教科書の該当範囲を読んでから講義に臨む。WebClass に予め講義資料をアップしておくので、有効に利用する。また、講義後の復習を必ずおこなう。

【教員からの一言】

本講義は単なる暗記科目ではないので、講義に関連する科目を系統づけて学習し、生体の様々な生理機能と病態を理解しておく必要がある。

〔備考〕
フィードバック講義を実施している。

Ⅱ

2年次 必修科目

●総合科目	
【一般教養】	
基礎統計学	92
【外国語】	
薬学英语入門Ⅰ	94
薬学英语入門Ⅱ	95
●専門科目	
【人間と薬学】	
医療コミュニケーション	96
社会と薬学	98
【物理系薬学】	
物理化学Ⅱ	100
臨床分析化学	102
機器分析学	104
物理化学Ⅲ	106
【化学系薬学】	
有機化学Ⅱ	108
有機化学Ⅲ	110
【生薬系薬学】	
植物薬品学	112
生薬学	114
【生物系薬学】	
機能形態学Ⅲ	116
生化学Ⅱ	118
微生物学	120
生化学Ⅲ	122
病原微生物学	124
免疫学	126
【健康と環境】	
健康保持と疾病予防	128
生活環境と健康	130
栄養と食品機能	132
【医薬品をつくる】	
物理薬剤学	134
【薬と疾病】	
薬理学Ⅰ	136
薬理学Ⅱ	139
疾病と薬物治療Ⅰ	141
疾病と薬物治療Ⅱ	143

基礎統計学

Basic Statistics

第2学年 前期 2年必修科目 1単位

片野 修一郎 (A・B、C・D、E・F、G・H)

学習目標 (GIO) 薬学を学び、さらに薬学データの解析をする上で必要なデータ処理の基礎概念と統計データの解析方法を学ぶ。方法論の羅列とその丸暗記というありがちな事態に陥らないように、基本概念をしっかりと理解することをまず目標とした上で、薬学で実践できる統計的手法を我がものとする。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	母集団と標本の関係を説明でき、乱数表を用いて無作為抽出を実行できる。	X-7-5-5
2	変数の尺度(名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比尺度)に応じて、データを度数分布表などの表にまとめ、ヒストグラムなどのグラフに表現できる。	X-7-5-1
3	間隔尺度または比尺度のデータのと、累積度数分布を求め、折れ線グラフで表現できる。	X-7-5-1 X-7-5-2
4	分布の型について説明できる。代表値(平均値、中央値、最頻値など)、散布度(範囲、4分偏差、分散、標準偏差など)について説明でき、それらをデータから求められる。	X-7-5-3 E3-1-5-1
5	表やグラフからデータの様子を理解でき、代表値や散布度を求められる。	X-7-5-3 E3-1-5-1
6	母平均、母分散、母標準偏差を、標本からそれぞれ点推定できる。標本の分散、不偏分散、標準偏差、不偏標準偏差の定義を説明でき、それらの関係式を用いて具体的に求められる。	X-7-5-3 E3-1-5-1
7	標本平均の分布の特徴を、中心極限定理などを用いて説明できる。	X-7-5-5 E3-1-5-3
8	母平均を、正規分布やt分布を正しく使い分けて、標本から区間推定できる。	X-7-4-2 X-7-5-5 Y-5-5-3
9	母比率の分布の特徴を説明できる。	X-7-4-2 E3-1-5-3
10	母比率を、標本から区間推定できる。	Y-5-5-3 X-7-5-5
11	母分散を、カイ2乗分布を用いて、標本から区間推定できる。	X-7-4-2 Y-5-5-3 X-7-5-5
12	検定における基本的な考え方を、帰無仮説と対立仮説、第1種と第2種の誤り、第1種の誤りと有意水準(危険率)などに関連させて説明できる。	E3-1-5-2 X-7-5-6
13	2つのグループの平均値や比率の違いを、正規分布やt分布を正しく使い分けて、検定できる。	E3-1-5-2 X-7-5-6
14	2つのグループの分散の違いを、F分布を用いて検定できる。	E3-1-5-3
15	散布図(相関図)を作成でき、相関係数や回帰直線を求め、それらの意味を説明できる。	X-7-5-4 E3-1-5-6
16	データの独立性や適合度を、カイ2乗分布を用いて検定できる。	E3-1-5-3
17	パラメトリック検定、ノンパラメトリック検定について、それぞれの特徴と違いを説明でき、ウイルクソンの2標本検定・1標本検定、スピアマンの順位相関係数による検定の初歩を実行できる。	E3-1-5-4

授業内容

回数	担当	内容	対応(SBOs)
1, 2	片野	母集団からの標本の抽出と、標本をわかりやすく伝え表現する方法(分布の型、位置、ひろがり)	1, 2, 3, 4, 5
3	片野	母集団の平均値、分散、標準偏差を標本から点推定する。標本平均はどのような分布になるか。	6, 7
4~6	片野	母集団の平均値、比率、分散を、標本から区間推定する。	8, 9, 10, 11
7~10	片野	平均値、比率の差の検定	12, 13, 14
11	片野	相関と回帰	15
12, 13	片野	独立性、適合度の検定	16
14	片野	母集団の分布が不明なときの検定法(ノンパラメトリック検定法)	17

[アクティブ・ラーニングの取り組み]

- ・授業中に学生自ら手を動かして演習問題を解く機会をできるだけ沢山設ける予定である。
- ・Webclass上に、自習用の演習問題を、解答解説と共に適宜アップする予定である。
- ・可能ならば、授業中に演習問題の発表機会も与えたい。

〔授業で行っている工夫〕

・「これは何なのか」「どうしてこんなものを考えるのか」「なぜそんなことがわかるのか」といった、現代の学生がとかく軽視しがちな理屈もしくはストーリー一部分を、腹の底から納得できるように丁寧に解説している。

・例や例題を可能な限り多く紹介し、実践的な理解が深まるように配慮している。

・学生自身が手を動かして演習問題を考えることができる時間をとるように心がけている。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

- a) 知識：統計用語の定義や基本概念を明確に理解しているかどうかを授業内で常に問う。
- b) 技能：演習問題になるべく多く取り組んでもらい、その解説を行って知識や理解を深める。
- c) 態度：演習問題の授業時間内での発表や質問などの主体的な取り組みを評価する。

2) 総括的評価

- a) 知識：定期試験により評価する。
- b) 技能：提起試験により評価する。
- c) 態度：日常の主体的な取り組みを総合的に勘案する。

〔教科書〕

片野修一郎『統計学の基礎（仮題）』（ムイスリ出版、4月出版予定）

〔参考書〕

統計初歩の教科書はどれも大同小異です。必要なら適宜紹介します。

〔オフィスアワー〕

毎週火曜午後に学習相談の時間が設定してありますが、それとは関係なく、質問は2109研究室にていつでも受け付けます。予約と遠慮は不要。

〔所属教室〕

薬学教育推進センター 2109

〔準備学習（予習・復習等）〕

特定の分野を前提とするというより、中学・高校・大学1年で学んできた数学全般の基礎学力がものをいいます。以下の項目については常識的に知っていること、慣れていることを要請します。

- ・高等学校で学んだ確率の基本事項
- ・関数概念、和記号 Σ 、数式の計算などの基本的な数学の運用能力
- ・微積分で学んだこと。特に自然対数 e を底とする指数関数や定積分が面積を表すこと

〔教員からの一言〕

統計学を組織的に学ぶのは生まれて初めてという人が殆どでしょう。「統計」という言葉から世間の大多数の人は、データを表やグラフにしてまとめる、という程度の認識しか連想しないと思われませんが、当講義の主目的である推測統計学はそれらとは違う世界の、数学に基づく数理統計学が基礎になったそれなりに高度な学問です。しかし、数学という強力な学問を基礎にしているからこそ、複雑なデータを分析するための極めて強力な武器になります。そんな素敵な統計学を、可能な限り丁寧に説明していこうと思います。馴染みやすい話から入って、次第に本格的な統計学に移行する予定です。学生の皆さんも主体的に取り組む姿勢を持っていただきたいと思います。

〔備考〕

現在は表計算ソフト Excel や統計ソフト R により、煩瑣な統計計算は簡単にできるようになっています。それらを用いた実習授業を取り入れることも考えたのですが、人数的に無理があって断念しました。代わりに関数電卓または普通の電卓（ただルートの計算ができるもの）を持ってきてもらうといいですね。関数電卓は使いこなせれば非常に便利ですが、ただ持っているだけで使い方のわからない人を多く見かけます。宝の持ち腐れですよ。前期試験のときには電卓を使わないと計算できない問題ばかりが出題されますから、メモリー計算には今のうちから慣れておくといいです。

薬学英语入門I

Introduction to English for PharmacyI

第2学年 前期 2年必修科目 1単位

大野 真 (1・4)	野崎 直之 (2・5)	内藤 容成 (3・6)
今井 亮一 (7・10)	森本 信子 (8・11)	桐山 大介 (9・12)

学習目標 (GIO) 将来、薬学者として専門文献や科学記事を読解するために、科学的な文章を学習し、それらの構文や文法を理解しかつ基礎的な専門語彙を習得する。また、それらの構文や文法・語彙を用いて英文を書くことを目標とした基礎的訓練を行う。さらに平行して速読の訓練を行い、パラグラフのすばやい要旨把握能力を習得する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	様々な辞書の使い分け方と使用方法を理解する。	X (3) 薬学の基礎としての英語
2	精読と速読の相違点を理解する。	X-3-1
3	精読において、文章の構文と文法を正確に説明できる。	X-3-1
4	精読において、基礎的な専門的語彙を習得する。	X-3-2
5	精読において、テープを聞き取り、文章を正確に発音できる。	X-3-3
6	速読において、各パラグラフの要旨をすばやく把握できる。	X-3-1
7	学習した構文と文法・語彙を用いた練習問題が解ける。	X-3-1,2
8	学習した構文と文法・語彙を用いて簡単な英文が書ける。	X-3-2

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1		前期授業のイントロダクション	1, 2
2~14		前期テキストの講読	3~8

【アクティブ・ラーニングの取り組み】
課題の提出あるいは小テストを実施している。

【授業で行っている工夫】
医学・薬学的な話題を中心として、幅広い英語力を養えるように共通テキストを選定している。速読と精読の両方を訓練する。

【成績評価方法】

- 1) 形成的評価
 - a) 知識：演習問題を繰り返し行う。
 - c) 態度：提出物、受講態度を評価する。なお、出席不良者に対しては定期試験受験停止の措置を講じることがあるので注意すること。
 - d) パフォーマンス：課題レポートを作成させ、提出させている。
- 2) 総括的評価
 - a) 知識：定期試験、提出物、受講態度を総合的に評価する。
 - c) 態度：繰り返しの形成的評価で改善が認められれば合点とする。
 - d) パフォーマンス：課題レポートを作成させ、提出させている。

【教科書】

瀬谷幸男他『医学・薬学系学生のための総合英語 (The Wonders of Medicine)』(南雲堂)
大野真・森本信子編著『英語で読む レイチェル・カーソン 「サイレント・スプリング」』(東京薬科大学出版会)

【参考書】

リーダーズ英和辞典 (松田編 研究社)

【オフィスアワー】

大野 真 いつでも可。 但し、要予約。
森本 信子 いつでも可。 但し、要予約。
非常勤講師 講師控室にて。 薬学部事務にて要予約。

【所属教室】

大野 真 第2英語研究室 研究2号館207号
森本 信子 第4英語研究室 研究2号館609号

【準備学習 (予習・復習等)】

教科書の本文を十分に予習してから授業に臨んでください。復習として、文章をしっかりと音読すると効果的です。

薬学英語入門Ⅱ

Introduction to English for PharmacyII

第2学年 後期 2年必修科目 1単位

大野 真 (1・4) 野崎 直之 (2・5) 内藤 容成 (3・6)
 今井 亮一 (7・10) 森本 信子 (8・11) 桐山 大介 (9・12)

授業計画

学習目標 (GIO) 将来、薬学者として専門文献や科学記事を読解するために、科学的な文章を学習し、それらの構文や文法を理解しかつ基礎的な専門語彙を習得する。また、それらの構文や文法・語彙を用いて英文を書くことを目標とした基礎的訓練を行う。さらに平行して速読の訓練を行い、パラグラフのすばやい要旨把握能力を習得する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	様々な辞書の使い分け方と使用方法を理解する。	X(3) 薬学の基礎としての英語
2	精読と速読の相違点を理解する。	X-3-1
3	精読において、文章の構文と文法を正確に説明できる。	X-3-1
4	精読において、基礎的な専門的語彙を習得する。	X-3-2
5	精読において、テープを聞き取り、文章を正確に発音できる。	X-3-3
6	速読において、各パラグラフの要旨をすばやく把握できる。	X-3-1
7	学習した構文と文法・語彙を用いた練習問題が解ける。	X-3-1,2
8	学習した構文と文法・語彙を用いて簡単な英文が書ける。	X-3-2

Ⅱ
2年次
必修科目

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1		後期授業のイントロダクション	1, 2
2~14		後期テキストの講読	3~8

【アクティブ・ラーニングの取り組み】
 課題の提出あるいは小テストを実施している。

【授業で行っている工夫】
 医学・薬学的な話題を中心として、幅広い英語力を養えるように共通テキストを選定している。速読と精読の両方を訓練する。

【成績評価方法】

- 1) 形成的評価
 - a) 知識：演習問題を繰り返し行う。
 - b) 態度：提出物、受講態度を評価する。なお、出席不良者に対しては定期試験受験停止の措置を講じることがあるので注意すること。
 - c) パフォーマンス：課題レポートを作成させ、提出させている。
- 2) 総括的評価
 - a) 知識：定期試験、提出物、受講態度を総合的に評価する。
 - b) 態度：繰り返しの形成的評価で改善が認められれば合とする。
 - c) パフォーマンス：課題レポートを作成させ、提出させている。

【教科書】

瀬谷幸男他『医学・薬学系学生のための総合英語 (The Wonders of Medicine)』(南雲堂)
 大野真・森本信子編著『英語で読む レイチェル・カーソン 「サイレント・スプリング」』(東京薬科大学出版会)

【参考書】

リーダーズ英和辞典 (松田編 研究社)

【オフィスアワー】

大野 真 いつでも可。 但し、要予約。
 森本 信子 いつでも可。 但し、要予約。
 非常勤講師 講師控室にて。 薬学部事務にて要予約。

【所属教室】

大野 真 第2英語研究室 研究2号館207号
 森本 信子 第4英語研究室 研究2号館609号

【準備学習 (予習・復習等)】

教科書の本文を十分に予習してから授業に臨んでください。復習として、文章をしっかりと音読すると効果的です。

医療コミュニケーション

Medical Communication

第2学年 前期 2年必修科目 1単位

土屋 明美 高梨 朋美 小粥 宏美

学習目標 (GIO) 人間は「関係的」に生きています。医療現場においては、病者（自己）と医療従事者（人）と物（薬、ほか）が関わり合いながら十分に機能して、病者の「人としての生活」が発展することが求められています。この講義では、1年時の「人間と薬学II講義-人間の心理と行動」で学んだ臨床心理学の基礎知識をもとにして、患者・家族・同僚との信頼関係の確立を目指す基本的知識と実践的コミュニケーションスキルを修得します。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	人間の一生についての多様な価値観を知る。	A-1-1-5 A-1-1-6 A-1-1-7
2	患者・患者家族が医療人に期待することを知り、医療の担い手にふさわしい態度を示すに際しての基本的理論と態度を学ぶ。	A-1-1-1,A-1-1-2,A-1-1-3,A-1-1-4
3	病気が患者に及ぼす心理的影響について説明できる。	A-3-2-1
4	患者の病の解釈モデルを傾聴し、心理状態を把握し、配慮することができる。	A-3-1-5
5	患者家族の心理状態を把握し、配慮することができる。	A-3-1-5 A-4-3-1
6	患者やその家族の持つ価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応する。	A-3-1-3
7	相手の心理状態とその変化に配慮し、受容・共感的に関わることが出来る。	A-3-1-5 A-3-1-6
8	対人関係に影響を及ぼす心理的要因を概説できる。	A-3-1-4 A-3-1-6
9	人間関係と健康心理について概説できる。	A-3-2-1
10	意思、情報の伝達に必要な要素を列挙し、言語的および非言語的コミュニケーションの方法を概説できる。	A-3-1-1 A-3-1-2
11	相手の立場、文化、習慣などによって、コミュニケーションのあり方が異なることを例示できる。	A-3-1-3 A-3-1-4
12	基本的なコミュニケーションスキルを習得し、相手と円滑に対応することができる。	A-3-1-7 A-3-1-8
13	対立意見を尊重し、協力してよりよい解決方法を見出すことができる。	A-3-1-9
14	チームワークの重要性を例示して説明できる。チームに参加し、協働的態度で役割を果たす意義について概説できる。	A-4-1-1 A-4-3-1 A-4-4-1 A-4-5-1

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	土屋	医療の行動科学	3,8,9
2	土屋	病者行動の理解	2,4,6
3	土屋	人間関係とストレス	5,8,9
4	土屋	日常生活における生と死	1,3,8
5	土屋	病者理解と対応 その1 生活習慣病患者 認知症高齢者	5,7
6	土屋	病者理解と対応 その2 がん患者・家族	5,7
7	土屋	病者理解と対応 その3 精神疾患患者・家族	5,7
8	土屋	日常生活におけるコミュニケーションとディスコミュニケーション	10,11
9	土屋	医療の場におけるコミュニケーションとディスコミュニケーション	7,11
10	土屋 高梨 小粥	コミュニケーションスキルの実際1 共感と傾聴	7,12
11	土屋 高梨 小粥	コミュニケーションスキルの実際2 質問の仕方	7,12
12	土屋 高梨 小粥	コミュニケーションスキルの実際3 基本的傾聴の連続	7,12
13	土屋	医療者としての適性・資質・セルフケア	1,2,13,14

【アクティブ・ラーニングの取り組み】
 体験談のビデオ視聴によりレポートを提出する。
 ロール・プレイングによりカウンセリングスキルを習得する。
 さらに、シナリオロール・プレイングにより体験的理解を促す。
 演習シートを活用したロール・プレイングを導入し、体験的理解を促す。

【授業で行っている工夫】

生と死に関する文芸作品などの視聴覚教材を用いて「気づき」を意識化する。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

- a) 知識：レポート提出により理解を確認する。
 - b) 技能：演習目的を理解して関与する。レポートをフィードバック、コメントして理解を促す。
 - c) 態度：他者と協調して演習に臨む受講態度により評価する。。
- d) パフォーマンス：講義の半ばに確認テストを行い修熟度を確認する。

2) 総括的評価

- a) 知識：定期試験、レポートにて評価する。
- b) 技能：課題提出により評価する。演習体験の形成的評価の向上を確認する。
- c) 態度：演習への参加態度による。
- d) パフォーマンス：カウンセリングスキルの到達度についてルーブリック評価法を用いる。

〔教科書〕

ファーマシューティカルケアのための医療コミュニケーション 南山堂 2014

監修 日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会

編集 後藤恵子 井手口直子

必要に応じて Web Class に補助資料を掲載する。

〔参考書〕

講義内で紹介する。

〔オフィスアワー〕

何時でも可、ただし前もって予約をしてください。

〔所属教室〕

医療人間関係学研究室 研究2号館4階407

〔準備学習（予習・復習等）〕

予習 教科書の該当箇所、並びに Web Class の補助教材をプリントして熟読する。

復習 演習を振り返り、出来たこと・出来なかったこと、苦手なことなどを整理する。

教科書を熟読して、疑問点は教員に質問する。

〔教員からの一言〕

講義を聴きながら感じたり・考えたことをメモする習慣をつけてください。そのことにより、自分の問題意識が明確になり、実務実習で患者さんに対応をする際のヒントをつかむことが出来ます。10回、11回、12回はクラス毎にコミュニケーション演習を行い実務実習に備えます。積極的かつ協動的に参加して基本的スキルを身につけることで、将来患者さんにゆとりをもって対応することが出来るでしょう。

社会と薬学

Social Pharmaceutical Science

第2学年 後期 2年必修科目 1単位

北垣 邦彦 (A・B、C・D、E・F、G・H)

五十嵐 中 (A・B、C・D、E・F、G・H)

学習目標 (GIO) 薬剤師として調剤、医薬品等の供給その他薬事衛生に係る任務を遂行し、人と社会に関わっていくために薬剤師・医薬品等を取り巻く法律、制度、及び倫理を理解し、義務及び法令を遵守する態度を身につける。また、医薬品の開発から承認までのプロセスや流通後の安全対策、医療保険制度や地域薬局の在り方を学び、これらの社会環境とその変化を理解する能力をつける。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	人・社会の視点から薬剤師を取り巻く様々な現状及び仕組みや規制について概説できる。	A-1-2-2, A-5-2-1, B-1-3-1
2	医薬品の定義及び販売、販売後の流れを概説できる。	B-2-2-1, B-4-1-3
3	薬剤師が倫理規範や法令を守ることの重要性について概説できる。	A-2-2-1, A-2-2-2, B-1-4-1
4	医薬分業の歴史と仕組みや意義を説明できる。	A-1-4-3, B-4-1-2
5	医療に関するリスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を説明できる。	A-1-3-3, A-1-3-4, B-4-1-2
6	医薬品の開発から承認までのプロセスと法規制について概説できる。	B-2-2-2
7	治験の意義と仕組みについて概説できる。	B-2-2-3
8	製造販売後調査制度及び製造販売後安全対策について説明できる。	B-2-2-5, B-2-2-10
9	セルフメディケーションにおける薬局の役割について説明できる。	B-4-1-4
10	薬物乱用防止における薬剤師の役割について説明できる。	A-1-2-7
11	学校薬剤師の役割について説明できる。	B-4-2-3
12	社会保障制度における医療保障の仕組みと特徴、医療保険制度について説明できる。	B-3-1-1, B-3-1-2
13	薬価基準制度、調剤報酬、診療報酬及び介護報酬の仕組みについて概説できる。	B-3-1-6, B-3-1-7
14	薬物療法の経済評価手法について概説できる。	B-3-2-4
15	代表的な薬害の例（サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジン等）について、その原因と社会的背景及びその後の対応を説明できる。	A-1-3-6, E1-4-2-1
16	重篤な副作用の例について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段について考えを述べるができる。	A-1-3-5

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	北垣	薬剤師を取り巻く環境の変化、薬剤師の役割	1, 2
2	北垣	薬剤師のコンプライアンス	3
3	北垣	医薬分業の意義と医療におけるリスクマネジメント	4, 5
4	北垣	医薬品の承認制度	6
5	北垣	治験の意義と仕組み	7
6	北垣	医薬品の適正使用：医薬品等の安全対策における轄制度	8
7	北垣	医薬品の適正使用：セルフメディケーション	9
8	北垣	薬物乱用の現状と対策	10
9	北垣	地域で活躍する薬剤師：学校薬剤師	11
10	五十嵐	社会保障制度及び医療保障の仕組み	12
11	五十嵐	薬価基準制度、調剤報酬、診療報酬、介護報酬	13
12	五十嵐	薬剤経済評価	14
13	北垣	薬害の社会的な背景及びその後の対応	8, 15
14	湯浅	医薬品による健康被害と対策	8, 16

【アクティブ・ラーニングの取り組み】

講義で取り上げたテーマについて問題演習を行い、問題の解答解説を通して講義内容の中の重要部分を確認する。

【授業で行っている工夫】

予習復習に活用できるように、講義資料は Web Class 上に掲載する。

【成績評価方法】

1) 形式的評価

- a) 知識：演習問題等により自己評価させる。
 - b) 技能：講義中の質問等により技能評価する。
 - c) 態度：出席状況や受講態度について評価する。
- 2) 総括的評価
- a) 知識：定期試験を行い評価する。
 - c) 態度：出席状況、受講態度などを加味して総合的に評価する。

【参考書】

これからの社会薬学第2版（南江堂）
薬事関連法規（改訂第4版）（南江堂）

【オフィスアワー】

北垣邦彦 いつでも可。ただしメールで予約してください。

【所属教室】

社会薬学研究室

【準備学習（予習・復習等）】

Web Class上に掲載する講義資料を簡単でも良いので目を通して頂くこと。

【備考】

非常勤講師

五十嵐 中（東京大学大学院薬学系医療政策講座）
湯浅 和恵（SJS 患者会代表）

物理化学 II

Physical Chemistry II

第2学年 前期 2年必修科目 1単位

分子機能解析学教室 青山 洋史 (A・B、C・D、E・F、G・H)

分子機能解析学教室 伊集院 良祐 (A・B、C・D、E・F、G・H)

薬学基礎実習教育センター 高橋 浩司 (A・B、C・D、E・F、G・H)

学習目標 (GIO) 物質の状態変化や化学反応など自然界で起こっている諸現象において、エネルギーと呼ばれる状態量がどのように変化するか、また、エネルギーの形態はどのように変化するか、どのような時に自発的な変化が起こるのか、熱力学を習得するためにこのような知識を習得する。また、物質は分子の集合体であり、物質の物理的性質は個々の分子の性質だけでなく分子の集合状態および分子間相互作用によって著しい影響を受ける。したがって、複雑な系における物質の状態を解析するために、物質の溶液の状態、相の状態（気相、液相、固相）と相変化、界面現象などに関する基礎的知識を習得する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	定圧過程、定容過程、等温過程、断熱過程を説明できる。	C1-2-2-4
2	エントロピーについて説明できる。	C1-2-3-1
3	熱力学第二法則について説明できる。	C1-2-3-2
4	熱力学第三法則について説明できる。	C1-2-3-3
5	ギブズエネルギーについて説明できる。	C1-2-3-4
6	熱力学関数を使い、自発的な変化の方向と程度を予測できる。	C1-2-3-5
7	ギブズエネルギーと化学ポテンシャルの関係を説明できる。	C1-2-4-1
8	ギブズエネルギーと平衡定数の関係を説明できる。	C1-2-4-2
9	平衡定数に及ぼす圧力および温度の影響について説明できる。	C1-2-4-3
10	共役反応の原理について説明できる。	C1-2-4-4
11	相変化に伴う熱の移動について説明できる。	C1-2-5-1
12	相平衡と相律について説明できる。	C1-2-5-2
13	状態図について説明できる。	C1-2-5-3

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	青山	熱力学第二法則とエントロピーについて	2,3
2	#	カルノーサイクルについて	1,2,3
3	#	熱力学第三法則について	2,4
4	#	自由エネルギーについて	5
5	#	化学反応における自由エネルギー変化について	5,6
6	#	ギブズ自由エネルギーの温度および圧力依存性について	5,6,7,8
7	#	生化学過程における共役反応について	10
8	#	相平衡と相律について	12
9	#	一成分系の相図について	12,13
10	#	二成分および三成分系の相図について	12,13
11	#	結晶多形について	11,13
12	青山・高橋	相変化に伴う熱の移動について	11
13	青山・伊集院	物質の溶解平衡および分配平衡について	8,9

【アクティブ・ラーニングの取り組み】
小テストにおける不完全解答を例示し、講義中に完全回答になるように受講者に考える機会を設ける。

【授業で行っている工夫】
1) それぞれの講義開講日までに web class に講義資料をダウンロードできるようにすることで、受講者が講義の予習を十分に行えるようにしている。
2) それぞれの講義のはじめに、目標とするキーワードを示し、当日の講義に集中できるようにしている。
3) それぞれの講義中に、CBT や国家試験との関連を示し、要点を明確にしている。
4) 抜き打ちで小テストを行い、受講者の緊張感を保つようにしている。

【成績評価方法】
1) 形成的評価
a) 知識: 演習問題にて評価する
b) 技能:
c) 態度: 受講態度で評価する

- d) パフォーマンス:
2) 総合的評価
a) 知識:定期試験
b) 技能:
c) 態度:1)-c)に加え、定期試験の答案内容(やる気や準備状況)も加味して総合的に評価する。
d) パフォーマンス:

【教科書】

物理化学要論 第5版(アトキンス著、千原秀昭・稲葉 章訳 東京化学同人)

【参考書】

ポール物理化学 上下巻(D.W.Ball著、田中一義、阿竹 徹監訳 化学同人)

日本薬学会編 物理系薬学Ⅰ、物質の物理的性質(東京化学同人、スタンダード薬学シリーズ2)

薬学領域の物理化学(渋谷 皓編集、横松 力、湯浅洋子他著 廣川書店)

【オフィスアワー】

青山 洋史 事前予約をとればいつでも可。

伊集院 良祐 事前予約をとればいつでも可。

高橋 浩司 いつでも可。

【所属教室】

青山 洋史 分子機能解析学教室 研究1号館3階303

伊集院 良祐 分子機能解析学教室 研究1号館3階303

高橋 浩司 薬学基礎実習教育センター 教育2号館2階2209

【準備学習(予習・復習等)】

Web Classのプリントを講義日までに一度は学習してください。

【教員からの一言】

前年の物理化学Ⅰが苦手と感じた人は、低学年のうちに物理化学を克服しておかないと高学年で苦労するでしょう。

理解に要する時間∝ 学年× 鍛錬時間です。

臨床分析化学

Clinical Application of Analytical Chemistry

第2学年 前期 2年必修科目 1単位

袴田 秀樹 (A・B、C・D、E・F、G・H)

小谷 明 (A・B、C・D、E・F、G・H)

学習目標 (GIO) 臨床や薬学研究で分析技術を適切に応用するために、代表的な分析法の基本的知識を修得する。具体的には、生体試料の取り扱いと前処理法、光分析法、電気分析法、クロマトグラフィーや電気泳動による分離分析法、免疫学的測定法など、臨床や研究で使用されている分析法の基本を学修する。加えて、最近の生命科学の実験技術や臨床検査の概略を身につけ、更に代表的な画像診断技術の基本を学修する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	分析目的に即した試料の前処理法を説明できる。	C2-6-1-1
2	臨床分析における精度管理および標準物質の意義を説明できる。	C2-6-1-2
3	分析法のバリデーションについて説明できる。	C2-1-1-3
4	紫外可視吸光度測定法の原理および応用例を説明できる。	C2-4-1-1
5	蛍光光度法の原理および応用例を説明できる。	C2-4-1-3
6	原子吸光度法、誘導結合プラズマ (ICP) 発光分光分析法および ICP 質量分析法の原理および応用例を説明できる。	C2-4-1-4
7	電解質溶液の電気伝導率およびモル伝導率の濃度による変化を説明できる。	C1-2-6-3
8	代表的なドライケミストリーについて概説できる。	C2-6-2-4
9	クロマトグラフィーの分離機構を説明できる。	C2-5-1-1
10	液体クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。	C2-5-1-3
11	クロマトグラフィーを用いて試料を定性・定量できる。(知識・技能)	C2-5-1-5
12	電気泳動法の原理および応用例を説明できる。	C2-5-2-1
13	臨床分析で用いられる代表的な分析法を列挙できる。	C2-6-2-1
14	免疫化学的測定法の原理を説明できる。	C2-6-2-2
15	酵素を用いた代表的な分析法の原理を説明できる。	C2-6-2-3
16	代表的な画像診断技術 (X線検査、MRI、超音波、内視鏡検査、核医学検査など) について概説できる。	C2-6-2-5
17	化学発光・生物発光の原理およびそれを利用する測定法を説明できる。	Y-3-11-2
18	質量分析法の生体分子解析への応用例について説明できる。	Y-3-13-1
19	代表的なセンサーを列挙し、原理および応用例を説明できる。	Y-3-18-2
20	薬学領域で繁用されるその他の分析技術 (バイオイメージング、マイクロチップなど) について概説できる。	Y-3-18-3

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	袴田	イントロダクション 臨床における分析化学の役割、臨床検査の目的、臨床検査の種類	13
2	袴田	分析データの取り扱い 検査結果の意味づけ、基準値、病態識別値、精度管理の目的、精度管理の意義	2, 13
3	袴田	分析データの取り扱い 分析法の評価、分析法バリデーション、日常検査の精度管理、標準物質と標準化	3, 13
4	袴田	生体試料 (検体) の取り扱い 分析方法の選択、生体試料の採取、生体試料の保存と前処理	1, 13
5	小谷	紫外可視吸光度法を用いる臨床検査法 光分析総論、紫外可視吸光度法の原理、臨床検査における測定例	4, 6, 8, 13
6	小谷	蛍光光度法又は発光を用いる臨床検査法 蛍光光度法の原理、臨床検査における測定例、発光を用いる分析法	5, 13, 17
7	小谷	電気分析法を用いる臨床検査法 電気分析法の原理、センサーによる臨床検査	7, 13, 19
8	小谷	クロマトグラフィー クロマトグラフィーの原理、HPLC における種々の高感度検出法、HPLC を用いる臨床検査法	9, 10, 11, 13
9	袴田	電気泳動法 ゲル電気泳動、電気泳動を用いる臨床検査法、キャピラリー電気泳動	12, 13
10	袴田	生物学的分析法 バイオアッセイ、酵素化学的分析法、免疫アッセイを用いる臨床検査 (1)	13, 14
11	袴田	生物学的分析法 バイオアッセイ、酵素化学的分析法、免疫アッセイを用いる臨床検査 (2)	13, 15
12	袴田	薬学研究によく使われる実験法 遺伝子解析法の基本、タンパク質解析法の基本	11, 12, 18, 20
13	袴田	画像検査の基本 内視鏡検査、X線 CT (コンピュータ断層撮影)、MRI、核医学検査 (1)	13, 16

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
14	袴田	画像検査の基本 内視鏡検査、X線 CT (コンピュータ断層撮影)、MRI、核医学検査 (2)	13, 16

【アクティブ・ラーニングの取り組み】

各自が興味のある課題を選定し、それについてまとめるレポート提出を1回行っている。

【授業で行っている工夫】

教科書としてプリントを作成し、修得すべき内容をあらかじめ提示している。今年度からパワーポイントの活用を増やす予定である。

【成績評価方法】

1) 形成的評価

- a) 知識：講義に関するレポートに基づき評価する。
- b) 技能：レポートの書き方などで評価する。
- c) 態度：毎回の出席状況、レポートの提出状況などで評価する。
- d) パフォーマンス：講義の終盤に小テストを行い習熟度を確認することがある。

2) 総括的評価

- a) 知識：定期試験に、レポートを加味して評価する。
- b) 技能：レポート提出により評価する。
- c) 態度：受講態度により評価する。
- d) パフォーマンス：形成的評価により判断する。

【教科書】

プリントの webclass での配布

【参考書】

薬学生のための分析化学 第3版 (楠 文代他著 廣川書店)
 第十六改正日本薬局方解説書 (廣川書店)
 薬剤師に必要な臨床機器分析 (秋澤俊史編集 廣川書店)

【オフィスアワー】

いつでも可 分析化学教室 研究2号館406号 但し、要予約

【所属教室】

袴田 分析化学教室 研究2号館406号
 小谷 分析化学教室 研究2号館406号

【準備学習 (予習・復習等)】

1年の化学平衡論と分析化学で取り扱った内容をよく理解してから授業に臨んで下さい。授業前に webclass にある資料をダウンロードして、閲覧できる媒体に保存又はプリントアウトして、講義を受けて下さい。

機器分析学

Instrumental Analysis

第2学年 前期 2年必修科目 1単位

柳田 颯郎

東海林 敦

学習目標 (GIO) 機器分析学は生命科学や医療薬学の基盤となる。主要な機器分析法の原理とその特長を理解し、医療薬学学習の基礎となる知識と技術を修得する。基本的な機器分析法の原理を修得すると同時に、生命科学や医療薬学と密接に関連した最先端技術について、それら技術を今後の医療の進展と的確に結びつけ、高度の薬剤師としての知識・技術を修得する。生体分子、化学物質の姿、かたちをとらえるために、それらの解析に必要な各種の計測法に関する基本的知識と技能修得の基盤を学ぶ。各種の分光法、質量分析、クロマトグラフィーの基本原則と知識を修得する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	紫外可視吸光度測定法の原理および応用例を説明できる。	C2-4-1-1
2	蛍光光度法の原理および応用例を説明できる。	C2-4-1-2
3	原子吸光度法、誘導結合プラズマ (ICP) 発光分光分析法および ICP 質量分析法の原理および応用例を説明できる。	C2-4-1-4
4	旋光度測定法 (旋光分散) の原理および応用例を説明できる。	C2-4-1-5
5	質量分析法の原理および応用例を説明できる。	C2-4-3-1
6	X 線結晶解析の原理および応用例を説明できる。	C2-4-4-1
7	粉末 X 線回折測定法の原理と利用法について概説できる。	C2-4-4-2
8	熱重量分析の原理および応用例を概説できる。	C2-4-5-1
9	示差熱分析法および示差走査熱量測定法について説明できる。	C2-4-5-2
10	クロマトグラフィーの分離機構を説明できる。	C2-5-1-1
11	薄層クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。	C2-5-1-2
12	液体クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。	C2-5-1-3
13	ガスクロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。	C2-5-1-4

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	東海林	紫外可視吸光分析の原理と Lambert-Beer の法則	1
2	東海林	紫外可視吸光分析の応用	1
3	東海林	蛍光分析の原理と応用例	2
4	東海林	原子吸光および原子発光分析	3
5	東海林	誘導結合プラズマ (ICP) 発光分光分析法および ICP 質量分析法	3
6	東海林	旋光度測定法と円二色性測定法	4
7	柳田、東海林	質量分析法の原理と応用	5
8	東海林	X 線結晶解析および粉末 X 線回折測定法	6,7
9	東海林	熱分析	8,9
10	柳田、東海林	クロマトグラフィーの総論	10,11,12,13
11	柳田、東海林	液体クロマトグラフィーの種類とその分離機構	10,12
12	柳田、東海林	ガスクロマトグラフィーの種類とその分離機構	10,13
13	柳田、東海林	クロマトグラフィーの理論	10,11,12,13

【アクティブ・ラーニングの取り組み】
補助プリントを配布し、講義を進行しながら、空欄部分を記入させる。練習問題を実施する。

【授業で行っている工夫】
毎回、講義の最初に前回の講義の復習を行う。講義で使用するスライドや練習問題を WebClass で公開しており、予習、復習に役立つようにしている。

【成績評価方法】

- 1) 形成的評価
 - a) 知識: 講義の初めに前回の講義に関する練習問題を行う。解説でフィードバックする。
 - b) 技能: 練習問題の解決法で評価する。
 - c) 態度: 毎回の出欠状況、課題の提出状況で評価する。
 - d) パフォーマンス:
- 2) 総括的評価
 - a) 知識: 定期試験の結果を評価する。

- b) 技能: レポート提出で評価する。
- c) 態度: 講義の受講態度で評価する。
- d) パフォーマンス: 形成的評価で判断する。

〔教科書〕

薬学生のための分析化学-第3版- (廣川書店)
プリント (webclass で公開)

〔オフィスアワー〕

いつでも可。薬物生体分析学教室 研究2号館4階

〔準備学習 (予習・復習等)〕

予習として指定されたキーワードを授業の前に調査する。復習として、講義内容をまとめ、レポートとして提出する。

授業計画

II
2年次
必修科目

物理化学Ⅲ

Physical Chemistry III

第2学年 後期 2年必修科目 1単位

伊集院良祐 (A・B、C・D、E・F、G・H)

高橋 浩司 (A・B、C・D、E・F、G・H)

青山 洋史 (A・B、C・D、E・F、G・H)

学習目標 (GIO) 物質の状態変化や化学反応など自然界で起こっている諸現象において、変化の過程を時間の関数として取り扱う学問が反応速度論である。本講義では、物質の状態及び相互変換過程を解析できるようにするために反応速度論の基礎知識を修得する。
また、希薄溶液における束一性など、溶液の性質に関する基礎知識の習得を目指す。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	希薄溶液の束一性について説明できる。	C1-2-6-1
2	活量と活量係数について説明できる。	C1-2-6-2
3	反応次数と速度定数について説明できる。	C1-3-1-1
4	微分型速度式を積分型速度式に変換できる。	C1-3-1-2
5	代表的な反応次数の決定法を列挙し、説明できる。	C1-3-1-3
6	代表的な(擬)一次反応の反応速度を測定し、速度定数を求めることができる。	C1-3-1-4
7	代表的な複合反応(可逆反応、平行反応、連続反応など)の特徴について説明できる。	C1-3-1-5
8	反応速度と温度との関係を説明できる。	C1-3-1-6
9	代表的な触媒反応(酸・塩基触媒反応、酵素反応など)について説明できる。	C1-3-1-7

授業内容

回数	担当	内容	対応(SBOs)
1	伊集院・青山	反応速度の表し方と反応次数について	3,5
2	#	基本的な反応速度式について-1	3,4,5
3	#	基本的な反応速度式について-2	3,6,7
4	#	複合反応の反応速度について-1	3,5,7
5	#	複合反応の反応速度について-2	4,7
6	#	反応速度と温度依存性について	7,8
7	#	衝突理論と遷移状態理論について	8,9
8	#	酸・塩基触媒反応について	8,9
9	#	酵素反応とその阻害について	6,7,9
10	高橋・青山	ヘンリーの法則とラウールの法則について	1
11	#	希薄溶液の束一性について(沸点上昇、蒸気圧降下)	1
12	#	希薄溶液の束一性について(浸透圧、凝固点降下)	1
13	#	活量と活量係数について	2

【アクティブ・ラーニングの取り組み】

公式の丸暗記を行うのではなく、考え方を学ぶために講義中に小テストを行う。

【授業で行っている工夫】

講義日までに資料を webclass を用いて配布する。

講義にあたって、キーワードを提示し学ぶポイントを明確にする。

国家試験との関連性を明示し、どのように応用されているかを示す。

薬学部になぜ物理化学が必要かを、他の科目との関連を説明する。

【成績評価方法】

1) 形成的評価

a) 知識: 演習問題にて評価する

c) 態度: 受講態度で評価する

2) 総括的評価

a) 知識: 定期試験にて評価

c) 態度: 受講態度で評価

【教科書】

物理化学要論 第5版(アトキンス著、千原 秀昭・稲葉 章訳 東京化学同人)

【参考書】

薬学領域の物理化学 (渋谷 皓編集 横松 力、湯浅洋子他著 廣川書店)

【オフィスアワー】

伊集院良祐 メールで予約を取ること

高橋 浩司 いつでも可

青山 洋史 メールで予約を取ること

【所属教室】

伊集院良祐 分子機能解析学教室 研究1号館 303

高橋 浩司 薬学基礎実習教育センター 教育2号館 2209

青山 洋史 分子機能解析学教室 研究1号館 303

【準備学習 (予習・復習等)】

webclass の資料を講義日までに予習しておくこと

【教員からの一言】

物理化学で学ぶ内容は、薬学の基礎となるものです。物理という名前に惑わされずにしっかりと勉強してください。

質問に関しては、解らないところを明確に質問すること。ぼんやりと解らない、では対応しかねます。

授業計画

II
2年次
必修科目

有機化学II

Organic Chemistry II

第2学年 前期 2年必修科目 1単位

古石 裕治 (C・D、E・F)

三浦 剛 (A・B、G・H)

学習目標 アルキンの基本構造、物理的性質、合成法の概略、炭素-炭素三重結合の関わる反応について理解する。(GIO) また、有機ハロゲン化合物の構造、性質、製法、反応および立体化学との関連について理解する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	アルキンの構造および性質を、その構成原子の構造、電子配置、結合の形態等に基づいて説明できる。	C3-2-2-3
2	アルキンの代表的な合成法について説明できる。	C3-2-2-3
3	アルキンに対するハロゲン化水素の付加反応の反応機構を記述し、立体化学および位置選択性を説明できる。	C3-2-2-3, C3-1-1-7, C3-1-1-9
4	アルキンのオキシ水銀化を経る水和反応、および、ヒドロホウ素化を経る水和反応の反応機構を記述し、位置選択性を説明できる。	C3-2-2-3, C3-1-1-7, C3-1-1-9
5	アルキンの接触水素化反応および Birch 還元によるアルケンの生成について、反応機構を記述し、立体化学を説明できる。	C3-2-2-3, C3-1-1-7, C3-1-1-9
6	アルキンからのアセチリドアニオンの生成と、そのアルキル化反応およびカルボニル基への付加反応について、反応機構を記述し、説明できる。	C3-2-2-3, C3-1-1-9
7	アルキンの代表的な位置選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。	C3-2-2-3, C3-1-1-7, C3-1-1-9
8	アルケンおよびアルキンの各種反応を駆使した、標的化合物の合成経路を考案できる。	C3-2-2-1, C3-2-2-2, C3-2-2-3
9	有機ハロゲン化合物の構造と基本的性質を理解し、説明できる。	C3-3-2-1
10	アルカンのラジカルハロゲン化によるハロゲン化アルキル生成法の反応機構を記述し、説明できる。	C3-1-1-7, C3-3-2-1
11	ハロゲン化水素を用いる、第三級アルコールからのハロゲン化アルキルの生成法について、反応機構を記述し、立体化学を説明できる。	C3-3-2-1
12	SOCl ₂ または PBr ₃ を用いる、第一級または第二級アルコールからのハロゲン化アルキルの生成法について、反応機構を記述し、立体化学を説明できる。	C3-3-2-1
13	ハロゲン化アルキルと Mg を用いる Grignard 反応剤の生成、および、ハロゲン化アルキルと Li を用いるアルキルリチウム反応剤の生成反応について、反応機構を記述し、説明できる。	C3-3-2-1, C3-1-1-9
14	Grignard 反応剤およびアルキルリチウム反応剤と各種求電子剤との反応について、反応機構を記述し、説明できる。	C3-3-2-1, C3-1-1-9, C3-3-4-1, C3-3-4-3
15	有機化合物の酸化・還元を、酸化数の概念に基づいて説明できる。	C3-3-2-1
16	S _N 2 反応の反応機構を記述し、その立体化学および他の特徴 [基質の構造、求核剤、溶媒等の満たすべき要請] について説明できる。	C3-3-2-2, C3-1-1-9
17	S _N 1 反応の反応機構を記述し、その立体化学および他の特徴 [基質の構造、求核剤、溶媒等の満たすべき要請] について説明できる。	C3-3-2-2, C3-1-1-9
18	E1 反応の反応機構を記述し、その立体化学、位置選択性および他の特徴 [基質の構造、塩基、溶媒等の満たすべき要請] について説明できる。	C3-3-2-3, C3-1-1-9
19	E2 反応の反応機構を記述し、その立体化学、位置選択性および他の特徴 [基質の構造、塩基、溶媒等の満たすべき要請] について説明できる。	C3-3-2-3, C3-1-1-9, C3-2-1-4, C3-2-1-5
20	Walden サイクルの各反応段階の反応機構を記述し、立体化学を説明できる。	C3-3-2-2, C3-1-1-9

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	古石, 三浦	"アルキンの構造、性質 アルキンに対するハロゲン化水素の付加反応およびハロゲンの付加反応：反応機構、位置選択性 アルキンのオキシ水銀化を経る水和反応、およびヒドロホウ素化を経る水和反応：反応機構、位置選択性"	1-4, 7
2	古石, 三浦	アルキンの接触水素化反応および Birch 還元：反応機構、立体化学	5, 7
3	古石, 三浦	"アルキンからのアセチリドアニオンの生成：炭化水素の pKa と S 性 アセチリドアニオンのアルキル化反応：反応機構"	6, 7
4	古石, 三浦	アルケンおよびアルキンの各種反応による標的化合物の合成	1-8

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
5	古石, 三浦	"有機ハロゲン化合物の構造, 基本的性質, 命名 アルカンのラジカルハロゲン化によるハロゲン化アルキル生成法"	9, 10
6	古石, 三浦	"ハロゲン化水素を用いる, 第三級アルコールからのハロゲン化アルキルの生成法 SOCl ₂ または PBr ₃ を用いる, 第一級または第二級アルコールからのハロゲン化アルキルの生成法"	11, 12
7	古石, 三浦	"ハロゲン化アルキルからの Grignard 反応剤およびアルキルリチウム反応剤の生成, 各種求電子剤との反応 有機化学における酸化・還元, 酸化数の概念"	13-15
8	古石, 三浦	S _N 2 反応: 反応機構, 立体化学	16, 20
9	古石, 三浦	S _N 1 反応: 反応機構, 立体化学	17
10	古石, 三浦	E1 反応, E2 反応の概略	18, 19
11	古石, 三浦	E1 反応: 反応機構, 立体化学, 位置選択性	18
12	古石, 三浦	E2 反応: 反応機構, 立体化学, 位置選択性	19
13	古石, 三浦	"脱離反応とシクロヘキサンの立体配座 Walden サイクルとその立体化学"	19, 20
14	古石, 三浦	S _N 1 反応, S _N 2 反応, E1 反応, E2 反応の特徴に関するまとめ: 反応基質の構造が反応経路に与える影響 (立体効果, 脱離基の脱離能), 求核剤および塩基の性質が反応経路に与える影響, 溶媒効果等	16-20

【アクティブ・ラーニングの取り組み】

講義した内容に関する演習問題や薬剤師国家試験問題を実際に問いてもらってから, 解説し, 知識の定着に役立っている。

【授業で行っている工夫】

種々の性質、現象、反応等をもたらす「根本原理」を理解するため、常に、その分子の構成原子の性質、結合形態にまで立ち返り考察することに努めている。また、立体化学を理解するために、分子模型を活用した視覚的に分かり易い講義を実施している。また、新たに学ぶ反応については、反応機構を深く理解し、記述できるようになることに重点をおいている。

【成績評価方法】

1) 形成的評価

- a) 知識: 適宜レポートを課す。
- b) 技能:
- c) 態度: 受講状況 (出欠等) を記録する。
- d) パフォーマンス: 講義中に小テストを行い修熟度を確認する。

2) 総括的評価

- a) 知識: 定期試験にて評価する。再試験を 1 回実施する。
- b) 技能:
- c) 態度: 受講状況 (提出物等) を加味して総合評価する。
- d) パフォーマンス:

【教科書】

マクマリー有機化学 第 8 版 (上, 中, 下) (J. McMurry 著, 伊藤ら 訳, 東京化学同人)

【参考書】

- 「有機化学」ワークブック (奥山格 著, 丸善)
- 有機反応機構 (P. Sykes 著, 久保田尚志 訳, 東京化学同人)
- ウォーレン 有機化学 (W. Warren 著, 野依ら 監訳, 東京化学同人)
- 有機化学 (奥山格 著, 丸善)
- ポルハルト・ショアー 現代有機化学 (K. P. C. Vollhardt, N. E. Schore 著, 古賀ら 監訳, 化学同人)
- 有機化学 基礎の基礎 (山本薫則 編著, 化学同人)

【オフィスアワー】

いつでも可。但し, 要予約。

【所属教室】

古石 裕治 薬化学教室 研究 2 号館 3 階 306
三浦 剛 薬化学教室 研究 2 号館 3 階 306

【準備学習 (予習・復習等)】

演習問題を課し, 予習復習に役立てる。
事前に講義プリントを Web クラスから配布するので, 予習に復習に利用する。

【教員からの一言】

無機化学, 基礎化学, 一般化学, 有機化学 I の学習内容が前提となるので, よく復習し, 修得しておくこと。

【備考】

フィードバック講義は実施する。

有機化学III

Organic Chemistry III

第2学年 後期 2年必修科目 1単位

松本 隆司, 矢内 光

学習目標 芳香族化合物, アルコール, フェノール, エーテル, チオール, スルフィド, アルデヒド, ケトン構造, (GIO) 性質, 反応, 合成法などに関する基本的事項を修得する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	ベンゼン誘導体の性質と反応性を理解し、説明できる。	C3-2-3-1, C3-3-7-1, C3-3-6-1, C3-1-1-4
2	芳香族性の概念を説明できる。	C3-2-3-2, C3-1-1-4
3	ベンゼン誘導体の求電子置換反応の反応性、配向性、置換基の効果について理解し、説明できる。	C3-2-3-3, C3-3-4-2, C3-3-4-3, C3-3-6-1, C3-1-1-4, C3-1-1-9
4	芳香族複素環化合物の性質を芳香族性と関連づけて説明できる。	C3-2-3-4, C3-3-5-1, C3-3-7-2, C3-3-6-1, C3-1-1-4
5	代表的な芳香族複素環の求電子置換反応の反応性、配向性、置換基の効果について理解し、説明できる	C3-2-3-5, C3-3-6-1, C3-1-1-4, C3-1-1-9
6	代表的な官能基を理解し、性質を説明できる。	C3-3-1-1, C3-3-7-1, C3-3-7-2, C3-3-6-1, C3-1-1-4
7	アルコール、フェノール類の性質と反応を理解し、説明できる。	C3-3-3-1, C3-3-7-1, C3-1-1-4, C3-1-1-9
8	アルコール、フェノール類の基本的な合成法を理解し、説明できる。	C3-3-3-1, C3-3-3-2, C3-3-4-1, C3-3-4-3, C3-2-2-1, C3-2-2-2, C3-3-6-1, C3-1-1-4, C3-1-1-9
9	エーテル類の性質と反応を理解し、説明できる。	C3-3-3-2, C3-3-6-1, C3-1-1-9
10	エーテル類の基本的な合成法を理解し、説明できる。	C3-3-3-2, C3-2-2-1, C3-3-2-2, C3-3-6-1, C3-1-1-9
11	チオールおよびスルフィド類の基本的な性質と反応を理解し、説明できる。	C3-3-1-1, C3-3-6-1, C3-1-1-9
12	アルデヒド類およびケトン類の基本的な性質と反応を理解し、説明できる。	C3-3-4-1, C3-3-6-1, C3-1-1-4, C3-1-1-9, C3-3-5-1

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	松本, 矢内	ベンゼンと芳香族性	1, 2
2	松本, 矢内	芳香族イオン, 複素環式芳香族化合物, 多環式芳香族化合物	2, 4
3	松本, 矢内	芳香族求電子置換反応	3, 5
4	松本, 矢内	芳香族求電子置換反応の配向性と置換基効果-1	3
5	松本, 矢内	芳香族求電子置換反応の配向性と置換基効果-2	3
6	松本, 矢内	置換芳香族化合物の変換と合成-1	3, 6
7	松本, 矢内	置換芳香族化合物の変換と合成-2	3, 6
8	松本, 矢内	アルコール、フェノール類の性質と反応, アルケン, アルキン類からのアルコール合成	7, 8
9	松本, 矢内	カルボニル化合物からのアルコール合成-1	7, 8
10	松本, 矢内	カルボニル化合物からのアルコール合成-2	7, 8
11	松本, 矢内	エーテル類の性質, 反応, 合成	9, 10
12	松本, 矢内	チオール, スルフィド類の性質と反応	11
13	松本, 矢内	アルデヒド, ケトン類への求核付加反応-1	12
14	松本, 矢内	アルデヒド, ケトン類への求核付加反応-2	12

[アクティブ・ラーニングの取り組み]
適宜、課題による演習を実施します。

[成績評価方法]
1) 形成的評価

- a) 知識: 課題演習により, 知識の到達レベルの確認する。
b) 技能:

c) 態度: 受講状況, 課題演習の結果を記録する。

d) パフォーマンス:

2) 総括的評価

a) 知識: 定期試験により, 知識の到達レベルの確認する。

b) 技能:

c) 態度: 受講状況, 課題演習の結果を加味して総合評価する。

d) パフォーマンス:

【教科書】

マクマリー有機化学 第8版 (上, 中, 下) (J. McMurry 著, 伊東ら 訳, 東京化学同人)

【参考書】

有機反応機構 (P. Sykes 著, 久保田尚志 訳, 東京化学同人)

最新 全有機化合物名称のつけ方 (藤春栄 著, 三共出版)

ウォーレン 有機化学 (W. Warren 著, 野依ら 訳, 東京化学同人)

ポルハルト・ショアー 現代有機化学 (K. P. C. Volhardt, N. E. Schore 著, 古賀ら 訳, 化学同人)

有機化学 (奥山格 著, 丸善)

【オフィスアワー】

いつでも可。ただし, 要予約。

【所属教室】

松本隆司 薬品製造学教室 研究2号館3階304

矢内 光 薬品製造学教室 研究2号館3階304

【準備学習 (予習・復習等)】

本科目の学習内容を理解するには, これ以前の有機化学系科目を習得していることが必要です。必ず, よく復習しておいて下さい。

【教員からの一言】

全ての内容について, しっかりと「理解し」, 「紙に書いて他人に説明できる」ことを求めます。

まずは, 教科書を隅々まで何度も読み返す癖をつけて下さい。

また, 章末問題は全て解いて, ノートに書くようにして下さい。

植物薬品学

Pharmacognosy

第2学年 前期 2年必修科目 1単位

黒田 明平 (C・D、G・H)

蓮田 知代 (A・B、E・F)

学習目標 (GLO) 日本薬局方に記載されている主として植物性医薬品のうち、国家試験に頻出する重要なものについて理解するために、基原植物の産地、性状、薬用部位、薬効、薬効成分、確認試験などに関する基礎的知識を修得する。また、植物性医薬品が古来からの漢方薬のみならず、現代医療においても重要であることを理解するために、最近の話題、研究成果、植物性医薬品の発展経緯などに関する基礎的知識も修得する。なお、薬用植物や生薬の成分の化学の詳細は2年後期の「生薬学」、漢方系生薬および漢方薬については3年前期の「漢方薬物学」において講義する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	薬用植物の歴史について概説できる。	Y-3-39-1
2	生薬の歴史について説明できる。	Y-3-40-1
3	生薬の生産と流通について説明できる。	Y-3-40-2
4	シーズの探索に貢献してきた伝統医学、民族植物学を例示して概説できる。	Y-3-43-2
5	医薬原料としての天然物質の資源確保に関して問題点を列挙できる。	Y-3-43-3
6	代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを挙げるができる。	C5-1-1-1
7	代表的な薬用植物を外部形態から説明し、区別できる。(知識、技能)	C5-1-1-2
8	法律によって取り扱いが規制されている植物(ケン、アサ)の特徴を説明できる。	C5-1-1-4
9	日本薬局方記載の代表的な生薬(植物、動物、藻類、菌類由来)を列挙し、その基原、薬用部位を説明できる。	C5-1-2-1
10	日本薬局方記載の代表的な生薬(植物、動物、藻類、菌類、鉱物由来)の薬効、成分、用途などを説明できる。	C5-1-3-1
11	副作用や使用上の注意が必要な代表的な生薬を列挙し、説明できる。	C5-1-3-2
12	日本薬局方の生薬総則および生薬試験法について説明できる。	C5-1-4-2
13	代表的な生薬の確認試験を説明できる。	C5-1-4-4

授業内容

回数	担当	内容	対応(SBOs)
1	黒田、蓮田	植物性医薬品と日本薬局方記載生薬について	1-5、12
2	黒田、蓮田	生薬の特殊性と正しい取扱いについて	1-5、12
3	黒田、蓮田	藻類、真菌類、および裸子植物を基原とする生薬(カンテン、マクリ、ブクリョウ、ロジン、マオウなど)について	6、9-13
4~8	黒田、蓮田	離弁花植物を基原とする生薬(ダイオウ、ケイヒ、オウレン、プシ、ジュウヤク、シャクヤク、ボタンビ、アヘン、キョウニン、トウニン、カンゾウ、センナ、オウバク、オンジ、ニンジン、ウイキョウ、サイコなど)について	6、8-13
9~11	黒田、蓮田	合弁花植物を基原とする生薬(ウワウルシ、ゲンチアナ、センブリ、オウゴン、ハッカ、ロートコン、ペラドンナコン、ジギタリス、ソウジュツ、ビャクジュツなど)について	6、9-13
12	黒田、蓮田	単子葉植物を基原とする生薬(アロエ、サフラン、バクモンドウ、ビンロウジ、ハンゲ、ウコン、ショウキョウなど)について	6、9-13
13	黒田、蓮田	動物・鉱物を由来とする生薬(ボレイ、センソ、ユウタン、ゴオウなど)について 植物から医薬品開発の現状について	6、9-13
14	黒田、蓮田	本学薬用植物園での実地観察と調査	7、8

【アクティブ・ラーニングの取り組み】

補助プリントを配布し、講義の進行に伴い、空欄部分を記入させる。

生薬、薬用植物に関連する薬剤師国家試験を例題として取り上げ、出題意図、解答、関連項目を討論してもらおう。

【授業で行っている工夫】

本学薬用植物園に於いて、生薬の基となる植物(基原植物)や薬用植物を観察し、学生の理解度をより深める。

ニュース等で取り上げられた植物(毒草なども含む)、生薬、天然由来化学成分などを解説し、講義で扱っている薬用植物、生薬との関連を示すことで、学生に興味を持たせる。

【成績評価方法】

1) 形成的評価

- a) 知識: 適宜課題演習を行い、解答と解説を提示してフィードバックする。
- b) 技能:
- c) 態度: 受講態度不良者に対して改善の指導をする。
- d) パフォーマンス: 薬剤師国家試験の問題を使用して演習を行い、習熟度を確認する。

2) 総括的評価

- a) 知識: 定期試験により評価する。再試験を1回実施する。
- b) 技能:
- c) 態度: 受講態度(出欠等)により評価する。
出席不良者に対しては受験停止の措置を講ずることがあるので注意すること。
- d) パフォーマンス: 形成的評価により判断する。

【教科書】

パートナー生薬学(改訂第2版)(竹谷、鳥居塚編、南江堂)

【参考書】

日本薬局方解説書 第16改正(廣川書店)

カラーグラフィック薬用植物(滝戸、指田編、廣川書店)

【オフィスアワー】

黒田 原則的にいつでも可であるが、事前に予約することが望ましい

漢方資源応用学教室 研究2号館408室

蓮田 原則的にいつでも可であるが、事前に予約することが望ましい

天然医薬品化学教室 研究1号館201室

【所属教室】

黒田 漢方資源応用学教室 研究2号館408室

蓮田 天然医薬品化学教室 研究1号館201室

【準備学習(予習・復習等)】

講義で学んだ生薬については、必ず基原植物(科名、学名など)、薬用部位、主含有成分(薬効成分)、用途等をしっかり復習し、次回の講義に臨むこと。

【教員からの一言】

植物薬品学は、薬学部に入学者初めての生薬、薬用植物に関する講義である。本講義は、2年後期の「生薬学」、3年前期の「漢方薬物学」につながる重要な科目なので、予習復習を怠らず、聴講すること。

生薬学

Chemistry of Natural Medicines

第2学年 後期 2年必修科目 1単位

一柳 幸生

学習目標 (GIO) 生薬は我が国における医薬品の原点である。医師が薬師（クスシ）と呼ばれていた時代、彼等は専ら生薬を治療に供していた。明治以降、西欧文明の上に立つ学問は分析的な方向に進み、生薬を研究する学問は細分化されて、有機化学、薬理学、生化学、植物栽培学などが関与するようになった。本講義では2年生時の植物薬品学を基に生薬を化学的な側面、更には広い視野から見て、薬効成分、成分の確認、生合成、利用などを修得する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	生薬より薬効成分発見の歴史について概説できる。	C5-2-4-1
2	医薬品として使われている天然有機化合物を、具体例を挙げて説明できる。	C5-2-4-1
3	天然生物活性物質を基に化学修飾等により開発された代表的な医薬品を、具体例を挙げて説明できる。	C5-2-4-2
4	代表的な生薬成分を化学構造から分類し、それらの生合成経路を概説できる。	C5-2-1-1
5	代表的なフェニルプロパノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。	C5-2-1-3 C5-2-4-3
6	代表的なフラボノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。	C5-2-1-3
7	代表的なポリケチドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。	C5-2-1-2 C5-2-1-3
8	代表的なテルペノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。	C5-2-1-4 C5-2-4-3
9	代表的な強心配糖体の構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。	C5-2-1-2 C5-2-1-4
10	代表的なアルカロイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。	C5-2-1-5

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	一柳	生薬学の目的、天然医薬品化学の歴史など	1, 2
2	一柳	新薬開発における生薬及び生薬成分の利用について	2, 3
3	一柳	生薬成分の生合成経路について	4
4~5	一柳	生理活性を有する成分各論 (フェノール性成分: クマリン、フラボン、タンニン、リグナンなど)	2, 3, 5, 6, 7
6	一柳	生理活性を有する成分各論 (キノン類: ベンゾキノン、ナフトキノン、アントラキノン、フェナントラキノンなど)	2, 7
7~8	一柳	生理活性を有する成分各論 (テルペン類・ステロイド)	2, 3, 8
9	一柳	生理活性を有する成分各論 (配糖体: サポニン、強心配糖体、グルコシノレート、有機配糖体など)	2, 9
10~12	一柳	生理活性を有する成分各論 (真正アルカロイド: キニーネ、ニコチン、モルヒネ、ベルベリン、アトロピン、パッカクアルカロイドなど)	2, 3, 10
13	一柳	生理活性を有する成分各論 (プソイドアルカロイド、辛味成分、色素など)	2, 7, 8, 10

【アクティブ・ラーニングの取り組み】
講義中の問いかけに対し、ランダムに指名して口頭で答えさせている。習熟度に懸念のある学生に課題を提出させている。

【授業で行っている工夫】
復習に役立つプリントを配布する。教科書等に記載されていない情報を随時提供する。

【成績評価方法】

- 1) 形成的評価
 - a) 知識: 講義中に質問等を行う。
 - b) 技能: 該当事項なし。
 - c) 態度: 受講態度により評価する。
 - d) パフォーマンス: 該当事項なし。
- 2) 総合的評価
 - a) 知識: 定期試験により評価する。再試験を1回実施する。(95%)

- b) 技能:該当事項なし。
c) 態度:1) -c の該当項目に不備がなければ合とする。(5%)
d) パフォーマンス:該当事項なし。

【教科書】

パートナー天然物化学 (海老塚、森田編 南江堂)

【参考書】

天然物化学 (川崎、西岡編 廣川書店)

生薬学 (北川編 廣川書店)

【オフィスアワー】

原則的にいつでも可

【所属教室】

天然医薬品化学教室 研究1号館2階

【準備学習 (予習・復習等)】

授業を受ける前に講義予定項目のSBOを確認し、教科書の該当範囲を読んでから講義に臨んでください。また、板書した内容を中心に講義後の復習を必ずおこなってください。

授業計画

Ⅱ
2年次
必修科目

機能形態学 III

Human Anatomy and Physiology III

第2学年 前期 2年必修科目 1単位

馬場 広子、山口 宣秀、林 明子

学習目標 (GIO) ヒトの成り立ちを個体、器官、細胞レベルで理解し、ホメオスタシス（恒常性）の維持機構を理解するために、機能形態学Ⅰ（1年前期）、Ⅱ（1年後期）、Ⅲ（2年前期）によって生命体の構造とダイナミックな機能調節機構に関する基本的知識を修得する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	腎臓、膀胱などの泌尿器系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。	C7-1-10-1
2	尿の生成機構、尿量の調節機構を説明できる。	C7-2-7-2
3	体液の調節機構を説明できる。	C7-2-7-1
4	血液、肺、腎における酸塩基平衡の調節を説明できる。	C7-2-7-1
5	血液の pH 変化と酸素解離曲線との関係について説明できる。	C7-2-7-1
6	皮膚の構造と働きを説明できる。	C7-1-6-1
7	皮膚の付属器とそれぞれの働きを説明できる。	C7-1-6-1
8	体温の調節機構を説明できる。	C7-2-8-1
9	脳下垂体、甲状腺 副腎などの主な内分泌系臓器の機能と構造を関連づけて説明できる。	C7-1-12-1, C7-2-2-1
10	主要なホルモンの分泌機および作用機構を説明できる。	C7-1-12-1, C7-2-2-1
11	血糖の調節機構を説明できる。	C7-2-6-1
12	生殖腺と性ホルモン分泌調節を関連づけて説明できる。	C7-1-11-1, C7-2-2-1, C7-2-10-1
13	性ホルモンの種類とそれぞれの働きを説明できる。	C7-1-11-1, C7-2-2-1, C7-2-10-1
14	ヒトの成り立ちとその働きを総合的に関連づけ、ホメオスタシスの維持機構を説明できる。	C7-1-3-1 C7-1-14-1, C7-2-1-1 C7-2-2-1, C7-2-5-1 C7-2-10-1

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	馬場	泌尿器系 (1)	1, 2
2	#	泌尿器系 (2)	1, 2
3	#	泌尿器系 (3)	1, 2
4	#	体液調節、イオンバランス、血圧調節、酸塩基平衡 (1)	3, 4, 5
5	#	体液調節、イオンバランス、血圧調節、酸塩基平衡 (2)	3, 4, 5
6	林	皮膚	6, 7
7	#	体温調節	8
8	山口	内分泌系 (1)	9, 10, 11
9	#	内分泌系 (2)	9, 10, 11
10	#	内分泌系 (3)、生殖器系 (1)	9, 10, 11, 12, 13
11	#	生殖器系 (2)	12, 13
12	馬場、山口、林	ホメオスタシス (まとめ)	14
13	#	ホメオスタシス (まとめ)	14

【アクティブ・ラーニングの取り組み】
補助プリントを使用し、スライドの内容を確認させながら講義を実施している。
リアクションペーパー（アンケート）を実施している。

【授業で行っている工夫】
あらかじめ目標とするキーワードを提示し、目標を明確にしている。予習や復習に役立つ講義資料を作成している。

【成績評価方法】

- 1) 形成的評価
 - a) 知識:
 - b) 技能:
 - c) 態度: 出席や受講態度を評価し、必要により注意を行う。
- 2) 総括的評価

a) 知識: 定期試験にて評価する。再試験を1回実施する。

b) 技能:

c) 態度:

注) 出席や受講態度の不良者に対しては受験停止の措置を講ずることがあるので注意すること。また、定期試験の結果が極めて悪い場合には、再試験の受験を認めないことがある。

【教科書】

グラフィカル機能形態学 (馬場編 京都廣川書店)

入門人体解剖学 (藤田著 南江堂)

【参考書】

標準生理学 (本郷、広重編 医学書院)

人体の正常構造と機能 (坂井、河原編 日本医事新報社)

【オフィスアワー】

いつでも可。但し、あらかじめ教室を訪問し、予約すること。

【準備学習 (予習・復習等)】

講義前に必ず、グラフィカル機能形態学の講義関連部分を読み、予習すること。講義中に補助プリントなどにメモしたものを利用し、再度、教科書を読みながら講義内容を復習すること。

【教員からの一言】

ここで得られる知識は薬理学や病態生理学などに直結します。予習・復習をするだけで講義のおもしろさは変わりますので、必ず実行してください。また講義中は、自分が重要だと思ったことや疑問に思ったことを必ずメモしながら受講し、復習に役立ててください。

生化学 II

Biochemistry II

第 2 学年 前期 2 年必修科目 1 単位

佐藤 隆 (A・B、E・F)

秋元 賢子 (C・D、G・H)

学習目標 (GIO) 生化学 II では、生物 (ヒト) における生命現象を、生体を構成する分子による生体内化学反応と捉え、その一連の反応である代謝を分子レベルで理解することを学習目標とする。当該科目では、生体内化学反応のための生体触媒である酵素の性質と役割に基づき、糖質および脂質の消化吸収と代謝および生体酸化とエネルギー産生について学ぶ。また、これら代謝の異常と疾病との関連性についても学習する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	糖質の消化と吸収について説明できる。	D1-3-1-2
2	解糖系の特徴と経路について説明できる。	C6-5-2-1
3	基質レベルのリン酸化について説明できる。	C6-5-2-1
4	好氣的および嫌氣的条件下におけるピルビン酸の代謝を説明できる。	C6-5-2-1、Y-3-53-2
5	クエン酸回路について説明できる。	C6-5-2-2
6	ペントースリン酸回路やグルクロン酸経路の生理的意義と解糖系との繋がりについて説明できる。	C6-5-5-3
7	糖新生について説明できる。	C6-5-2-5
8	グリコーゲンの代謝調節 (合成と分解) について説明できる。	C6-5-2-4
9	糖質の代謝異常により生じる代表的な疾患を挙げ、その病態を概説できる。	C7-2-6-1
10	電子伝達系 (酸化的リン酸化) における ATP 産生について説明できる。	C6-5-2-3
11	電子伝達系および酸化的リン酸化の阻害物質を列挙し、その阻害機構について説明できる。	Y-3-53-1
12	還元型補酵素 (NADH) のミトコンドリアへの移行機構について説明できる。	Y-3-53-3
13	脂質を分類し、構造の特徴と役割を説明できる。	C6-2-1-1
14	脂質の運搬に関わる血漿リポタンパク質を挙げて、その特性と役割について説明できる。	C6-3-4-2
15	脂肪酸の酸化 (β 酸化) について説明できる。	C6-5-3-1
16	ケトン体の生成とその生体内利用について説明できる。	C6-5-4-1

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1~3	佐藤、秋元	糖質の消化と吸収、嫌氣的条件下での糖代謝 (解糖系)、好氣的条件下での糖代謝 (クエン酸回路)	1, 2, 3, 5
4~5	佐藤、秋元	アルコール発酵と乳酸発酵、ペントースリン酸回路、グルクロン酸経路	4, 6
6~7	佐藤、秋元	糖新生、グリコーゲン合成と分解およびその調節	7, 8, 9
8~9	佐藤、秋元	ミトコンドリアにおける電子伝達系と酸化的リン酸化による ATP の産生、電子伝達系および酸化的リン酸化の阻害物質	10, 11, 12
10~11	佐藤、秋元	脂質の分類、構造および役割、脂質の消化・吸収および運搬	13, 14
12~14	佐藤、秋元	脂肪酸の β 酸化、ケトン体の生成とその利用	15, 16

[アクティブ・ラーニングの取り組み]

1. 補助プリントを配布し、講義を進行しながら、空欄部分を記入させるようにしている。
2. WebClass を利用した振り返り学習として練習問題を課し、各自で自習できるようにしている。

[授業で行っている工夫]

1. 1 年生前期の「生物学」および「細胞生物学」、1 年生後期の「生化学 I」、2 年生の「生化学 III」さらに 3 年生の「バイオ医薬品」を生物系の関連科目、すなわち基礎から応用までステップアップする講義ととらえ一貫性を重視し講義の理解度を上げることを工夫している。一方、限られた講義時間を効率よく利用するために講義の重複部分についても必要・不要等の調整をおこなっている。
2. WebClass では、講義に使用する補助プリントおよびスライド資料 (一部) についても公開している。

[成績評価方法]

- 1) 形成的評価
 - a) 知識: WebClass を活用し、知識レベルの到達度を確認させている。
 - b) 技能:
 - c) 態度: 受講態度や WebClass による課題への取り組みにより評価する。
 - d) パフォーマンス: WebClass による到達度テストを行い、習熟度を確認する。
- 2) 総括的評価

- a) 知識:定期試験にて評価する。再試験を1回実施する。
b) 技能:
c) 態度:受講態度および WebClass 課題への取り組み状況により評価する。講義出席不良者には受験停止の措置を講ずることがある。
d) パフォーマンス:到達度テストによる形成的評価で向上すれば台とする。

〔教科書〕

薬学領域の生化学 第2版 (伊東 晃編集 廣川書店)

〔参考書〕

生物系薬学Ⅰ (スタンダード薬学シリーズⅡ-4) 生命現象の基礎 (日本薬学会編 東京化学同人)

生物系薬学Ⅳ 演習編 (日本薬学会編 東京化学同人)

ハーバー・生化学 (上代 淑人監訳 丸善)

ロスコスキー生化学 (田島 陽太郎監訳 西村書店)

マッキー生化学 (市川 厚監修 福岡 伸一監訳 化学同人)

〔オフィスアワー〕

原則的にいつでも可ですが、あらかじめ時間の確認のため連絡が必要。

〔所属教室〕

佐藤 生化学教室 研究2号館6階605号室

秋元 生化学教室 研究2号館6階605号室

〔準備学習 (予習・復習等)〕

- ・講義プリント (WebClass により事前配布) は事前に読んで、講義に臨んでください。
- ・講義の冒頭に、前回の講義内容について復習をします。

〔教員からの一言〕

教科書を読む習慣をつけてください。WebClass を活用して勉強する癖をつけてください。

微生物学

Basic Microbiology

第2学年 前期 2年必修科目 1単位

野口 雅久	病原微生物学教室	(A・B、C・D、E・F、G・H)
石橋 健一	免疫学教室	(A・B、C・D、E・F、G・H)
中南 秀将	病原微生物学教室	(A・B、C・D、E・F、G・H)
輪島 丈明	病原微生物学教室	(A・B、C・D、E・F、G・H)

学習目標 (GIO) 地球上には、原虫、真菌、細菌、ウイルスなど、多種多様な微生物が存在し、物質循環の一端を担っている。さらに、微生物には、疾病の予防や治療に役立つものもあり、様々な角度からヒトと深く関わっている。このような微生物を理解するために、分類、形態、構造および生活史等の基本的な知識を習得する。さらに、有害な微生物による汚染や感染を予防するために必要な滅菌、消毒や感染症治療薬の基本的知識を習得する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	微生物学の歴史について概説できる。	A-1-4-1、A-1-4-2
2	原核生物、真核生物およびウイルスの特徴を説明できる。	C8-3-1-1
3	細菌の分類や性質（系統学的分類、グラム陽性菌と陰性菌、好気性菌と嫌気性菌など）を説明できる。	C8-3-2-1
4	細菌の構造と増殖機構について説明できる。	C8-3-2-2
5	細菌の異化作用（呼吸と発酵）および同化作用について説明できる。	C8-3-2-3
6	細菌の遺伝子伝達（接合、形質導入、形質転換）について説明できる。	C8-3-2-4
7	代表的な細菌毒素について説明できる。	C8-3-2-6
8	ウイルスの構造、分類、および増殖機構について説明できる。	C8-3-3-1
9	真菌の性状を概説できる。	C8-3-4-1
10	原虫および蠕虫の性状を概説できる。	C8-3-4-2
11	滅菌、消毒および殺菌、静菌の概念を説明できる。	C8-3-5-1
12	主な滅菌法および消毒法について説明できる。	C8-3-5-2
13	ヒトや環境中の常在微生物について説明できる。	C8-4-1-1
14	代表的な抗菌薬の基本構造と薬理作用を概説できる。	E2-7-10-1

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	野口	微生物学の歴史	1
2	中南、輪島	微生物の分類と微生物細胞の形態	2
3	中南、輪島	細菌の細胞構造と染色法	3
4	中南、輪島	細菌の増殖機構と代謝機構	4、5
5	中南、輪島	細菌の遺伝と変異、毒素	6、7
6	中南、輪島	ウイルスの基本構造と増殖機構	8
7	石橋	真菌の形態、構造、生理 (1)	9
8	石橋	真菌の形態、構造、生理 (2)	9
9	石橋	原虫・寄生虫の形態と性状	10
10	中南、輪島	環境と微生物、常在微生物	13
11	中南、輪島	抗菌薬の構造的分類と作用点 (1)	14
12	中南、輪島	抗菌薬の構造的分類と作用点 (2)	14
13	中南、輪島	滅菌法と消毒法	11、12

【アクティブ・ラーニングの取り組み】

講義中に、適宜学生を指名し答えさせる。また、重要なポイントに関しては、メモを取らせるようにする。また、WebClass上に練習問題を掲載し、各自で知識の定着を図らせる。

【授業で行っている工夫】

講義は教科書を中心に行うが、パワーポイント等を用いて最新の感染症情報を随時提供している。また、図や顕微鏡写真を用いて、通常は見えない微生物を視覚的にとらえられるような講義を行っている。講義内容の定着を目的とした、練習問題をWebClassで公開している。

【成績評価方法】

1) 形成的評価

a) 知識：講義中に質問し、要点の確認を行う。また、WebClassに練習問題を掲載し学習の補助としている。

b) 態度：受講態度により評価する。

- c) パフォーマンス：口頭試問により、定着度を確認する。
- 2) 総括的評価
- a) 知識：定期試験にて評価する。再試験を1回実施する。
- b) 態度：受講態度により評価する。
- c) パフォーマンス：形成的評価により判断する。
- 出席不良者（全講義の1/3以上の欠席）に対しては、定期試験の受験停止措置を講ずることがある。欠席や遅刻等で、適切な理由があるものは欠席届を提出すること。

〔教科書〕
新しい微生物学 第5版（廣川書店）

〔参考書〕
戸田新細菌学（吉田 眞一ら編 南山堂）
微生物バイオテクノロジー（斎藤ら著 培風館）
ブラック微生物学（林英生ら監訳 丸善）
イラストレイテッド微生物学（山口憲三ら監訳 丸善）
病原真菌と真菌症（山口英世著 南山堂）

〔オフィスアワー〕
石橋 いつでも可。免疫学教室 研究2号棟505号
野口、中南、輪島 いつでも可。病原微生物学教室 研究2号棟506号

〔所属教室〕
石橋 免疫学教室 研究2号棟505号
野口、中南、輪島 病原微生物学教室 研究2号棟506号

〔準備学習（予習・復習等）〕
講義資料はWebClassに掲載しますので各自ダウンロードし、持参してください。

〔教員からの一言〕
微生物は、我々の周りに広く存在しています。しかし、肉眼で見えない分、理解しにくいかもしれません。分からないことがあれば積極的に質問し解決するようにしてください。

生化学 III

Biochemistry III

第 2 学年 後期 2 年必修科目 1 単位

佐藤 隆 (A・B、E・F)

水野 晃治 (C・D、G・H)

学習目標 (GIO) 生物 (ヒト) における生命活動は、生体に摂取された物質あるいは生体を構成する成分の化学反応から生じる生体エネルギーにより支えられていると捉えることができる。当該科目では、生化学 II で学んだ糖質代謝およびエネルギー産生機構と脂質分解に加えて、脂質の生合成調節、また生体における重要な構成成分であるアミノ酸 (タンパク質) および核酸の代謝とその調節について、基本的な知識を学習する。さらに、生化学 I および II で習得した代謝に関する知識も含めて、生体内における代謝の総合的な調節機構について学習する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	脂肪酸の生合成と変換について説明できる。	C6-5-3-1、C6-5-4-2
2	アラキドン酸代謝経路とその阻害物質について説明できる。	Y-3-59-1
3	グリセリン脂質の生合成経路について説明できる。	Y-3-54-1
4	コレステロールの生合成経路と代謝について説明できる。	C6-5-3-2
5	貯蔵脂肪からの脂肪酸の動員機構について説明できる。	C6-5-4-2
6	脂質の代謝異常により生じる代表的な疾患を挙げ、その病態を概説できる。	E2-5-1-2
7	アミノ基の転移・除去 (酸化的脱アミノ化) について説明できる。	C6-5-5-1
8	ケト原性、糖原性アミノ酸を分類し、それらのクエン酸回路中間体との関連性について説明できる。	Y-3-55-1
9	アンモニアの代謝機構および尿素回路 (オルニチン回路) について説明できる。	C6-5-5-1
10	アミノ酸が関与する特殊な生体成分や生理活性物質 (生理活性アミンなど) の生合成について説明できる。	C6-5-5-1
11	芳香族アミノ酸および分枝アミノ酸の代謝について説明できる。	C6-5-5-1
12	アミノ酸の代謝異常により生じる代表的な疾患を挙げ、その病態を概説できる。	C6-5-5-1
13	DNA と RNA の構造について説明できる。	C6-2-5-1
14	核酸塩基の代謝 (生合成と分解) を説明できる。	C6-5-5-2
15	各生体成分の統合的な代謝系路について概説できる。	C6-5-1-1、X-6-4-1

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1~2	佐藤、水野	脂肪酸の生合成と変換	1、2、5、6
3~4	佐藤、水野	リン脂質の代謝、コレステロールの代謝	3、4
5	佐藤、水野	アミノ酸代謝: アミノ基の転移・除去反応、アミノ酸代謝と糖代謝との関連	7、8
6~7	佐藤、水野	アンモニア代謝と尿素回路	9
8~9	佐藤、水野	アミノ酸が関与する特殊な生体成分および生理活性物質の生合成とその機能	10
10	佐藤、水野	芳香族アミノ酸の代謝、分枝アミノ酸の代謝、生理活性アミンの生合成	11、12
11~13	佐藤、水野	DNA と RNA の構造、核酸の代謝: プリン・ピリミジン骨格の生合成と異化作用	13、14
14	佐藤、水野	生体における代謝の総合的調節機構	15

[アクティブ・ラーニングの取り組み]

1. 補助プリントを配布し、講義を進行しながら、空欄部分を記入させるようにしている。
2. WebClass を利用した振り返り学習として練習問題を課し、各自で自習できるようにしている。

[授業で行っている工夫]

1. 1 年生前期の「生物学」および「細胞生物学」、1 年生後期の「生化学 I」、2 年生の「生化学 III」さらに 3 年生の「バイオ医薬品」を生物系の関連科目、すなわち基礎から応用までステップアップする講義ととらえ一貫性を重視し講義の理解度を上げることを工夫している。一方、限られた講義時間を効率よく利用するために講義の重複部分についても必要・不要等の調整をおこなっている。
2. WebClass では、講義に使用する補助プリントおよびスライド資料 (一部) についても公開している。

[成績評価方法]

- 1) 形成的評価
- a) 知識: WebClass を活用し、知識レベルの到達度を確認させている。

- b) 技能:
c) 態度:受講態度や WebClass による課題への取り組みにより評価する。
d) パフォーマンス:WebClass による到達度テストを行い、習熟度を確認する。
- 2) 総括的評価
a) 知識:定期試験にて評価する。再試験を 1 回実施する。
b) 技能:
c) 態度:受講態度および WebClass 課題への取り組み状況により評価する。講義出席不良者には受験停止の措置を講ずることがある。
d) パフォーマンス:到達度テストによる形成的評価で向上すれば台とする。

【教科書】

薬学領域の生化学 第 2 版 (伊東 晃編集 廣川書店)

【参考書】

生物系薬学Ⅰ(スタンダード薬学シリーズⅡ-4) 生命現象の基礎 (日本薬学会編 東京化学同人)

生物系薬学Ⅳ 演習編 (日本薬学会編 東京化学同人)

ハーバー・生化学 (上代 淑人監訳 丸善)

ロスコスキー生化学 (田島 陽太郎監訳 西村書店)

マッキー生化学 (市川 厚監修 福岡 伸一監訳 化学同人)

【オフィスアワー】

原則的にいつでも可。 但し、要予約。

【所属教室】

佐藤 生化学教室 研究 2 号館 6 階 605 号室

水野 生化学教室 研究 2 号館 6 階 605 号室

【準備学習 (予習・復習等)】

- ・講義プリント (WebClass により事前配布) は事前に読んで、講義に臨んでください。
- ・講義の冒頭に、前回の講義内容について復習をします。

【教員からの一言】

教科書を読む習慣をつけてください。WebClass を活用して勉強する癖をつけてください。

病原微生物学

Pathogenic Microbiology

第2学年 後期 2年必修科目 1単位

野口 雅久	病原微生物学教室	(A・B、C・D、E・F、G・H)
中南 秀将	病原微生物学教室	(A・B、C・D、E・F、G・H)
輪島 丈明	病原微生物学教室	(A・B、C・D、E・F、G・H)

学習目標 (GIO) 感染症は体内に微生物が侵入・増殖し、その結果生じる疾病である。感染症を予防あるいは治療するためには、原因となる微生物の特徴や病原性を理解することが大切である。本講義では感染症の予防と治療について基礎的な理解を深めるために、代表的な感染症とその原因となる微生物の病原性に関する基礎的知識を修得する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	感染の成立（感染源、感染経路、侵入門戸など）と共生（腸内細菌など）について説明できる。	C8-4-1-1
2	日和見感染と院内感染について説明できる。	C8-4-1-2
3	DNA ウイルス（ヒトヘルペスウイルス、アデノウイルス、パピローマウイルス、B 型肝炎ウイルスなど）について概説できる。	C8-4-2-1
4	RNA ウイルス（ノロウイルス、ロタウイルス、ポリオウイルス、コクサッキーウイルス、エコーウイルス、ライノウイルス、A 型肝炎ウイルス、C 型肝炎ウイルス、インフルエンザウイルス、麻疹ウイルス、風疹ウイルス、日本脳炎ウイルス、狂犬病ウイルス、ムンプスウイルス、HIV、HTLV など）について概説できる。	C8-4-2-2
5	グラム陽性球菌（ブドウ球菌、レンサ球菌など）およびグラム陽性桿菌（破傷風菌、ガス壊疽菌、ボツリヌス菌、ジフテリア菌、炭疽菌、セレウス菌、デフィシル菌など）について概説できる。	C8-4-2-3
6	グラム陰性球菌（淋菌、髄膜炎菌など）およびグラム陰性桿菌（大腸菌、赤痢菌、サルモネラ属菌、チフス菌、エルシニア属菌、クレブシエラ属菌、コレラ菌、百日咳菌、腸炎ピブリオ、緑膿菌、レジオネラ、インフルエンザ菌など）について概説できる。	C8-4-2-4
7	グラム陰性らせん菌（ヘリコバクター・ピロリ、カンピロバクター・ジェジュニ/コリなど）およびスピロヘータについて概説できる。	C8-4-2-5
8	抗酸菌（結核菌、らい菌など）について概説できる。	C8-4-2-6
9	マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアについて概説できる。	C8-4-2-7
10	真菌（アスペルギルス、クリプトコックス、カンジダ、ムーコル、白癬菌など）について概説できる。	C8-4-2-8
11	原虫（マラリア原虫、トキソプラズマ、腫トリコモナス、クリプトスポリジウム、赤痢アメーバなど）、蠕虫（回虫、鞭虫、アニサキス、エキノコックスなど）について概説できる。	C8-4-2-9
12	代表的な細菌毒素について説明できる。	C8-3-2-6
13	現代における感染症（日和見感染、院内感染、新興感染症、再興感染症など）の特徴について説明できる。	D1-2-2-1
14	ヘルペスウイルス感染症（単純ヘルペス、水痘・带状疱疹）について、治療薬の薬理作用、機序を説明できる。	E2-7-4-1
15	サイトメガロウイルス感染症について、治療薬の薬理作用、機序を説明できる。	E2-7-4-2
16	インフルエンザについて、治療薬の薬理作用、機序を説明できる。	E2-7-4-3
17	ウイルス性肝炎（HAV、HBV、HCV）について、治療薬の薬理作用、機序を説明できる。	E2-7-4-4
18	後天性免疫不全症候群（AIDS）について、治療薬の薬理作用、機序を説明できる。	E2-7-4-5
19	抗真菌薬の治療薬の薬理作用、機序を説明できる。	E2-7-5-1
20	マラリア、トキソプラズマ症、トリコモナス症、アメーバ赤痢の治療薬の薬理作用、機序を説明できる。	E2-7-6-1
21	回虫症、蠕虫症、アニサキス症の治療薬の薬理作用、機序を説明できる。	E2-7-6-2

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	野口	病原微生物総論（微生物と感染症）	1、2、12、13
2	中南、輪島	病原細菌各論 (1) グラム陽性球菌	5
3	中南、輪島	病原細菌各論 (2) グラム陽性桿菌	5
4	中南、輪島	病原細菌各論 (3) 抗酸菌、その他のグラム陽性菌	5、8
5	中南、輪島	病原細菌各論 (4) グラム陰性球菌	6
6	中南、輪島	病原細菌各論 (5) グラム陰性桿菌 (1)	6

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
7	中南、輪島	病原細菌各論 (6) グラム陰性桿菌 (2)	6
8	中南、輪島	病原細菌各論 (7) 嫌気性菌・ラセン菌、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア	7、9
9	中南、輪島	ウイルス各論 (1) DNA ウイルス 抗ウイルス薬	3、14、15
10	中南、輪島	ウイルス各論 (2) RNA ウイルス 抗ウイルス薬	4、16
11	中南、輪島	ウイルス各論 (3) レトロウイルス、肝炎ウイルス 抗ウイルス薬	4、17、18
12	中南、輪島	病原真菌各論 抗真菌薬	10、19
13	中南、輪島	原虫・寄生虫各論 抗原虫・寄生虫薬	11、20、21

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

講義資料は WebClass 上に掲載するが、重要なポイントは講義中に教え、各自にメモを取らせるようにしている。

また、WebClass 上に練習問題を掲載し、各自で知識の定着を図らせる。

〔授業で行っている工夫〕

講義は教科書を中心に行うが、パワーポイント等を用いて最新の感染症情報を随時提供している。また、図や顕微鏡写真を用いて、通常は見えない微生物を視覚的にとらえられるような講義を行っている。講義内容の定着を目的とした、練習問題を WebClass で公開している。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識：講義中に質問し、要点の確認を行う。また、WebClass に練習問題を掲載し学習の補助としている。

b) 態度：受講態度により評価する。

c) パフォーマンス：口頭試問により、定着度を確認する。

2) 総括的評価

a) 知識：定期試験にて評価する。再試験を 1 回実施する。

b) 態度：受講態度により評価する。

c) パフォーマンス：形成的評価により判断する。

出席不良者（全講義の 1/3 以上の欠席）に対しては、定期試験の受験停止措置を講ずることがある。欠席や遅刻等で、適切な理由があるものは欠席届を提出すること。

〔教科書〕

新しい微生物学 第 5 版（廣川書店）

〔参考書〕

戸田新細菌学（吉田・柳 編 南山堂）

ブランク微生物学（林・岩本・神谷・高橋 監訳 丸善）

イラストレイテッド微生物学 第 2 版（山口・松本 監訳 丸善）

病原真菌と真菌症（山口英世著 南山堂）

医科ウイルス学（高田賢蔵 南江堂）

化学療法学 病原微生物・がんと戦う（田中晴雄・土屋友房編集 南江堂）

〔オフィスアワー〕

野口、中南、輪島 いつでも可。病原微生物学教室 研究 2 号棟 506 号

〔所属教室〕

野口、中南、輪島 病原微生物学教室 研究 2 号棟 506 号

〔準備学習（予習・復習等）〕

講義資料は WebClass 上に掲示します。各自、ダウンロードし、持参してください。

〔教員からの一言〕

病原微生物学では、微生物学で学んだ知識を発展させ、病原体に焦点を当てた講義を行います。微生物学の内容をきちんと理解しておくとともに、わからない点は積極的に質問し、解決するようにしてください。

〔備考〕

モデル・コアカリキュラムに書かれている微生物関連の知識は最小限である。そのため、本講義では、医療現場に必要な知識は全て講義する。

免疫学

Immunology

第2学年 後期 2年必修科目 1単位

大野 尚仁 (E・F、G・H)

安達 禎之 (A・B、C・D)

学習目標 (GIO) 生体はさまざまな仕組みを用いて恒常性を維持している。これらの仕組みの中で、病原微生物によってもたらされる感染症や遺伝子異常等によっておこる悪性腫瘍などに対し、これらを排除するために中心となって働くのは免疫機構（あるいは生体防御機構）である。この免疫機構・生体防御機構は原始的な生物からヒトまで広く備わっている。本講義では、主に高等動物の免疫機構について理解を深めるために、前半は免疫機構の仕組みやそれらを構成する組織、細胞、因子について学習する。さらに、感染、移植、アレルギーなど代表的な免疫関連の疾患について概要を学ぶ。免疫関連疾患については3年次の臨床免疫で詳しく学ぶ。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	異物の侵入に対する物理的、生理的、化学的バリアー、および補体の役割について説明できる。	C8-1-1-1
2	免疫反応の特徴（自己と非自己の識別、特異性、多様性、クローン性、記憶、寛容）を説明できる。	C8-1-1-2
3	自然免疫と獲得免疫、および両者の関係を説明できる。	C8-1-1-3
4	体液性免疫と細胞性免疫について説明できる	C8-1-1-4
5	免疫に関与する組織を列挙し、その役割を説明できる。	C8-1-2-1
6	免疫担当細胞の種類と役割を説明できる。	C8-1-2-2
7	免疫反応における主な細胞間ネットワークについて説明できる。	C8-1-2-3
8	自然免疫および獲得免疫における異物の認識を比較して説明できる。	C8-1-3-1
9	MHC 抗原の構造と機能および抗原提示での役割について説明できる。	C8-1-3-2
10	T 細胞と B 細胞による抗原認識の多様性（遺伝子再構成）と活性化について説明できる。	C8-1-3-3
11	抗体分子の基本構造、種類、役割を説明できる。	C8-1-3-4
12	免疫系に関わる主なサイトカインを挙げ、その作用を概説できる。	C8-1-3-5
13	炎症の一般的症状、担当細胞および反応機構について説明できる。	C8-2-1-1
14	アレルギーを分類し、担当細胞および反応機構について説明できる。	C8-2-1-2
15	自己免疫疾患と免疫不全症候群について概説できる。	C8-2-1-3
16	臓器移植と免疫反応の関わり（拒絶反応、免疫抑制剤など）について説明できる。	C8-2-1-4
17	感染症と免疫応答との関わりについて説明できる。	C8-2-1-5
18	腫瘍排除に関与する免疫反応について説明できる。	C8-2-1-6

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	大野・安達	はじめに、免疫機構全体の概説、講義の到達目標	1,3
2		免疫組織 (1) 中枢リンパ組織、末梢リンパ組織、造血組織	5,6
3		免疫組織 (2) 粘膜面の免疫組織	1,3,5,6
4		免疫担当細胞 (1) 免疫担当細胞の種類	6,7,13,14
5		免疫担当細胞 (2) リンパ球と機能	2,3,4,6
6		免疫担当細胞 (3) 顆粒球、単球と機能	2,3,4,6,7
7		免疫担当細胞 (4) 免疫担当細胞の増殖、分化と活性化	2,3,4,6,7
8		抗原と抗体 (1) 抗原と抗体の基本構造	4,10,11
9		抗原と抗体 (2) 抗体のクラスと機能	4,10,11
10		補体	1,13
11		サイトカインとケモカイン	4,7,12,13,14,15,
12		免疫学的自己の確立と組織適合性抗原	9,16
13		免疫応答	16,17,18
14		免疫疾患	13,14,15

【アクティブ・ラーニングの取り組み】

- 1) プレテスト演習を行っている。
- 2) 講義メモを配布し、講義を聴きながら、要点を各自がメモしやすい環境を作っている。
- 3) 複数回のレポート提出を課し、復習のチャンスを増やすとともに、'問題解決能力の醸成'に努めている。

〔授業で行っている工夫〕

あらかじめ目標とするキーワードを提示し、目標を明確にしている。
前年度の講義資料は Web 公開しており、予習に役立てるようにしている。
教科書への書き込みのチャンスを増やし、講義に集中できる工夫をしている。
講義対応 Web を WebClass に開設し、講義資料ならびに課題提出などに用いている。

〔成績評価方法〕

- 1) 形成的評価
 - a) 知識:小テスト、課題レポート、Web クラス講義資料などにより項目ごとに行う。
 - b) 技能:
 - c) 態度:受講態度(出席状況等)により評価する。
 - d) パフォーマンス:
- 2) 総括的評価
 - a) 知識:定期試験、レポートなどにより総合的に評価する。
 - b) 技能:
 - c) 態度:
 - d) パフォーマンス:

〔教科書〕

免疫学概説(宿前ら 廣川書店)

〔参考書〕

免疫生物学(笹月監訳 南江堂)
免疫学イラストレイテッド(高津監訳 南江堂)
免疫学辞典(大沢利昭ら編 東京化学同人)
医系免疫学(矢田純一著 中外医学社)
医科免疫学(菊池、上出編 南江堂)
標準免疫学(谷口克、宮坂昌之編 医学書院)
臨床に役立つ免疫学(奥村、橋本監訳 メディカルサイエンスインターナショナル)

〔オフィスアワー〕

大野 いつでも可 免疫学教室 研究2号棟505号 ただし、メールにて予約すること。
安達 いつでも可 免疫学教室 研究2号棟505号 ただし、メールにて予約すること。

〔所属教室〕

大野 免疫学教室 研究2号棟505号
安達 免疫学教室 研究2号棟505号

〔準備学習(予習・復習等)〕

予習:年度初めに、提示する各回の講義内容について、事前に教科書を読み、問題点、疑問点を抽出しておくこと。
復習:講義中に配布するメモについて、各自で補足説明を加えること。課題として指示されたものは、期限までに必ず実施し、提出すること。

〔教員からの一言〕

専門用語など難解な点もあるかと思いますが、各項目が各々関連して免疫応答系へと体系化しています。分かり難い項目を放置せずとその都度理解するように努めてください。

健康保持と疾病予防

Health Care and Disease Prevention

第2学年 前期 2年必修科目 1単位

藤原 泰之 (A・B、C・D、E・F、G・H)

篠田 陽 (A・B、C・D、E・F、G・H)

高橋 勉 (A・B、C・D、E・F、G・H)

学習目標 (GIO) 人々の健康と疾病の現状と動向、および疾病や健康障害の発生要因を把握し、さらに、疾病予防と健康保持に貢献するために、保健統計、疫学、および感染症、生活習慣病、職業病の現状とその予防、健康管理に関する基本的知識、技能、態度を修得する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	健康と疾病の概念の変遷と、その理由を説明できる。	D1-1-1-1
2	集団の健康と疾病の現状およびその影響要因を把握する上での人口統計の意義を概説できる。	D1-1-2-1
3	人口統計および傷病統計に関する指標について説明できる。	D1-1-2-2
4	人口動態(死因別死亡率など)の変遷について説明できる。	D1-1-2-3
5	疾病の予防における疫学の役割を説明できる。	D1-1-3-1
6	疫学の三要因(病因、環境要因、宿主要因)について説明できる。	D1-1-3-2
7	疫学の種類(記述疫学、分析疫学など)とその方法について説明できる。	D1-1-3-3
8	リスク要因の評価として、オッズ比、相対危険度、寄与危険度および信頼区間について説明し、計算できる。(知識・技能)	D1-1-3-4
9	疾病の予防について、一次、二次、三次予防という言葉を用いて説明できる。	D1-2-1-1
10	健康増進政策(健康日本21など)について概説できる。	D1-2-1-2
11	現代における感染症(日和見感染、院内感染、新興感染症、再興感染症など)の特徴について説明できる。	D1-2-2-1
12	感染症法における、感染症とその分類について説明できる。	D1-2-2-2
13	代表的な性感染症を列挙し、その予防対策について説明できる。	D1-2-2-3
14	予防接種の意義と方法について説明できる。	D1-2-2-4
15	生活習慣病の種類とその動向について説明できる。	D1-2-3-1
16	生活習慣病の代表的なリスク要因を列挙し、その予防法について説明できる。	D1-2-3-2
17	食生活や喫煙などの生活習慣と疾病の関わりについて討議する。(態度)	D1-2-3-3
18	新生児マススクリーニングの意義について説明し、代表的な検査項目を列挙できる。	D1-2-4-1
19	母子感染する代表的な疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。	D1-2-4-2
20	代表的な労働災害、職業性疾病について説明できる。	D1-2-5-1
21	労働衛生管理について説明できる。	D1-2-5-2

授業内容

回数	担当	内容	対応(SBOs)
1	藤原	健康保持と疾病予防概論	1~21
2~3	#	社会・集団と健康(保健統計)	2, 3
4	#	社会・集団と健康(健康と疾病をめぐる日本の現状)	4
5~6	#	社会・集団と健康(疫学)	5, 6, 7, 8
7	#	疾病の予防(健康とは)	1, 10
8~9	篠田	疾病の予防(疾病の予防とは)	9, 18, 19
10~11	藤原	疾病の予防(感染症の現状とその予防)	11, 12, 13, 14
12	高橋	疾病の予防(生活習慣病とその予防)	15, 16, 17
13	#	疾病の予防(職業病とその予防、など)	20, 21

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕
講義中に課題を配布して問題演習を行う。問題の解答解説を通して、講義内容の重要部分を再度確認する。

〔授業で行っている工夫〕
教科書に沿って体系的に授業を行うように努めている。併せて、保健衛生に関するデータや政策や関連法規の変更点、社会的に注目されている疾病などについて、随時資料を配布し、最新情報を伝えるように努めている。また、常に変化する保健衛生分野の社会情勢について、日常的に自主的に情報収集・学

習し続ける習慣を身につけるように指導している。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

- a) 知識：課題、演習問題を行い評価する。解説にてフィードバックする。
- c) 態度：受講態度により評価する。主体的に授業に参加する機会を多く設定する。

2) 総括的評価

- a) 知識：定期試験（90%）にて評価する。再試験を1回実施する。
- c) 態度：受講態度（10%）により評価する。

〔教科書〕

最新 衛生薬学（別府、平塚編 廣川書店 第3版10刷）

〔参考書〕

国民衛生の動向 2015/2016 年（厚生労働統計協会）

図説 国民衛生の動向 2015/2016（厚生労働統計協会）

〔オフィスアワー〕

在室時は不都合でない限り質問受付

〔所属教室〕

研究1号館401号

〔準備学習（予習・復習等）〕

フィードバック講義を実施する。

授業計画

II
2年次
必修科目

生活環境と健康

Environmental Health

第2学年 後期 2年必修科目 1単位

藤原 泰之 (A・B、C・D、E・F、G・H)

高橋 勉 (A・B、C・D、E・F、G・H)

学習目標 (GIO) 生活環境や生態系を保全、維持するために、それらに影響を及ぼす自然現象、人間の活動を理解し、環境汚染物質の発生源や成因、人体への影響、汚染防止、汚染除去などに関する基本的知識と手法を修得し、環境の改善に向かって努力する態度を身につける。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	地球規模の環境問題の成因、人に与える影響について説明できる。	D2-2-1-1
2	生態系の構成員を列挙し、その特徴と相互関係を説明できる。	D2-2-1-2
3	化学物質の環境内動態（生物濃縮など）について例を挙げて説明できる。	D2-2-1-3
4	地球環境の保全に関する国際的な取り組みについて説明できる。	D2-2-1-4
5	人が生態系の一員であることをふまえて環境問題を討議する。（態度）	D2-2-1-5
6	電離放射線を列挙し、生体への影響を説明できる。	D2-1-4-1
7	代表的な放射性核種（天然、人工）と生体との相互作用を説明できる。	D2-1-4-2
8	電離放射線を防衛する方法について概説できる。	D2-1-4-3
9	非電離放射線（紫外線、赤外線など）を列挙し、生体への影響を説明できる。	D2-1-4-4
10	典型七公害とその現状、および四大公害について説明できる。	D2-2-2-1
11	環境基本法の理念を説明できる。	D2-2-2-2
12	環境汚染（大気汚染、水質汚濁、土壌汚染など）を防止するための法規制について説明できる。	D2-2-2-3
13	原水の種類を挙げ、特徴を説明できる。	D2-2-3-1
14	水の浄化法、塩素処理について説明できる。	D2-2-3-2
15	水道水の水質基準の主な項目を列挙し、測定できる。（知識・技能）	D2-2-3-3
16	下水処理および排水処理の主な方法について説明できる。	D2-2-3-4
17	水質汚濁の主な指標を列挙し、測定できる。（知識・技能）	D2-2-3-5
18	富栄養化の原因とそれによってもたらされる問題点を挙げ、対策を説明できる。	D2-2-3-6
19	主な大気汚染物質を列挙し、その推移と発生源、健康影響について説明できる。	D2-2-4-1
20	主な大気汚染物質を測定できる。（技能）	D2-2-4-2
21	大気汚染に影響する気象要因（逆転層など）を概説できる。	D2-2-4-3
22	室内環境を評価するための代表的な指標を列挙し、測定できる。（知識・技能）	D2-2-5-1
23	室内環境と健康との関係について説明できる。	D2-2-5-2
24	廃棄物の種類と処理方法を列挙できる。	D2-2-6-1
25	廃棄物処理の問題点を列挙し、その対策を説明できる。	D2-2-6-2
26	マニフェスト制度について説明できる。	D2-2-6-3

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	藤原	生活環境と健康概要	1~26
2	#	地球環境の成り立ち、生態系の構造と特徴	1、2
3	#	化学物質の環境内動態と健康（重金属、有機合成化合物、化学物質事前審査制度、POPsによる環境汚染など）	3
4~5	#	地球規模の環境問題（オゾン層破壊、酸性雨、地球温暖化、海洋汚染など）	4、5
6	#	環境中の放射性核種と健康影響（非電離放射線、電離放射線の生体影響）	6、7、8、9
7	#	廃棄物（種類、関連法及び制度、現状が抱える問題点）	24、25、26
8	#	環境保全（公害とその防止対策、環境基本法、各種の法規制）	10、11、12
9~11	高橋	水環境（水の衛生、水質汚濁、下水処理）	13、14、15、16、17、18
12	#	大気環境（大気汚染、発生源）	19、20、21
13	#	室内環境（各種指標）	22、23

【アクティブ・ラーニングの取り組み】

講義中に課題を配布して問題演習を行う。問題の解答解説を通して、講義内容の重要部分を再度確認する。

【授業で行っている工夫】

衛生薬学の視点から、生活環境や地球環境のかつての状況、現在の状況を理解させるとともに、その保全策、改善策についても考えさせる教育を目指している。環境関連分野では法令や各種の制度が頻繁に制定、改廃されるので、速やかに新しい情報を提供するようにしている。例えば、教科書改訂後に行われた環境関連の法改正などについては作成した新資料を配付するようにしている。

【成績評価方法】

1) 形成的評価

- a) 知識：課題、問題演習を行い評価する。解答解説にてフィードバックする。
- c) 態度：受講態度により評価する。主体的に授業に参加する機会を多く設定する。

2) 総括的評価

- a) 知識：定期試験（90%）にて評価する。再試験を1回実施する。
- c) 態度：受講態度（10%）により評価する。

【教科書】

最新 衛生薬学（別府、平塚編 廣川書店 第3版10刷）

【参考書】

衛生試験法・注解 2015（日本薬学会編 金原出版）

必携・衛生試験法（日本薬学会編 金原出版）

図説 国民衛生の動向 2015/2016（財団法人 厚生労働統計協会）

【オフィスアワー】

在室時は不都合でない限り質問受付

【所属教室】

公衆衛生学教室 研究1号館401号

【準備学習（予習・復習等）】

フィードバック講義を実施する。

栄養と食品機能

Nutrition and Food Function

第2学年 後期 2年必修科目 1単位

早川 磨紀男 (A・B、C・D)

安藤 堅 (E・F、G・H)

学習目標 人とその集団の健康維持、向上に貢献できるようになるために、食生活が健康に与える影響について科学的理解を深め、栄養と食品機能および食品衛生についての基本的知識を修得する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	五大栄養素を列挙し、それぞれの役割について説明できる。	C6-2-1-1、C6-2-2-1、C6-2-2-2、C6-2-3-1、C6-2-6-1、C6-2-7-1、D1-3-1-1
2	各栄養素の消化、吸収、代謝のプロセスを概説できる。	D1-3-1-2
3	食品中の三大栄養素の栄養的な価値を説明できる。	D1-3-1-3
4	五大栄養素以外の食品成分（食物繊維、抗酸化物質など）の機能について説明できる。	D1-3-1-4
5	エネルギー代謝に関わる基礎代謝量、呼吸商、推定エネルギー必要量の意味を説明できる。	D1-3-1-5
6	日本人の食事摂取基準について説明できる。	D1-3-1-6
7	栄養素の過不足による主な疾病を列挙し、説明できる。	D1-3-1-7
8	疾病治療における栄養の重要性を説明できる。	D1-3-1-8
9	特別用途食品と保健機能食品について説明できる。	D1-3-2-6
10	食品衛生に関する法的規制について説明できる。	D1-3-2-7

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	早川、安藤	三大栄養素（糖質）	1、3
2	#	三大栄養素（脂質）	1、3
3	#	三大栄養素（タンパク質）	1、3
4	#	栄養素（脂溶性ビタミン）	1、7
5	#	栄養素（水溶性ビタミン）(1)	1、7
6	#	栄養素（水溶性ビタミン）(2)	1、7
7	#	栄養素（ミネラル）	1、7
8	#	栄養素の消化・吸収・代謝	2
9	#	栄養素以外の食品成分	4
10	#	エネルギー代謝、食事摂取基準	5、6
11	#	栄養摂取の現状と問題点	6、7、8
12	#	食品成分の表示と法的規制	10
13	#	新しい形態の食品	9

【アクティブ・ラーニングの取り組み】

学生が栄養と健康に関するテーマを自主的に定めて調査を行い、レポートとして提出させる。また、SBOに掲げられていて授業でも取り上げる重要な項目を網羅した自己点検チェックシートを配布し、受講後、各項目について説明できることを目指すよう指導する。

【授業で行っている工夫】

栄養と健康、食品にまつわる社会問題について、学生自らにテーマを選ばせ、レポートとして報告させることにより、問題意識の確立と客観的判断能力の育成に努めている。

【成績評価方法】

1) 形成的評価

知識：講義の進行とともに Web Class で重要な資料を掲示しており、学生の閲覧状況を随時、把握している。

態度：受講態度、レポートに対する積極的取り組みにより評価する。

2) 総括的評価

知識：レポートと定期試験により評価する。

態度：受講態度、レポート提出状況などから総合的に評価する。

パフォーマンス：自己点検チェックシートを配布し、各 SBO の到達度を学生自身が評価する。

【教科書】

最新衛生薬学（別府正敏、平塚明 編集 廣川書店）

〔参考書〕
特に指定しない。

〔オフィスアワー〕
早川 後期 木曜日 15:00～17:00 衛生化学教室 研究棟1号館402-2号
安藤 後期 金曜日 15:00～17:00 衛生化学教室 研究棟1号館402-2号

〔所属教室〕
早川 衛生化学教室 研究棟1号館402-2号
安藤 衛生化学教室 研究棟1号館402-2号

〔準備学習（予習・復習等）〕
各ビタミンの生理作用、欠乏症、過剰症、所在などについては、表などにまとめて復習すると良いでしょう。構造式については、教科書の図を参照してください。新たに施行された食品表示法、日本人の食事摂取基準（2015年版）については、各自のノートにより復習する他、消費者庁ホームページ（食品表示法）、厚生労働省ホームページ（日本人の食事摂取基準）を参照すると良いでしょう。

〔教員からの一言〕
国家試験で度々出題される領域を扱います。また、法律の改正に伴う制度の改正などの時事問題を授業内でとりあげます。

〔備考〕
D1 健康 (3) 栄養と健康

授業計画

Ⅱ
2年次
必修科目

物理薬剤学

Physical Pharmaceutics

第2学年 後期 2年必修科目 1単位

新橋 幸彦 (A・B、C・D、E・F、G・H)

学習目標 (GIO) 薬物は、錠剤、注射剤などのように製剤化され、医薬品として医療に供される。医学や薬学の目覚ましい進歩・発展により、体の仕組みや疾病発症のメカニズムの詳細が明らかにされ、分子標的薬のような作用部位が明確な医薬品が数多く開発されている。薬物療法の精密化と相まって、薬物を「必要な部位へ」、「必要な量」、「必要な時間」供給することを目的とした、まったく新しいタイプの投与剤形や方法 (DDS 製剤) が開発されている。物理薬剤学では新たな DDS 製剤について紹介するとともに、それら製剤の開発に必須である、溶液論、粉体科学、界面化学、分散系、レオロジー、医薬品の安定性・安定化など、薬剤学の基礎知識を修得する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	Drug delivery system (DDS) の概要について説明できる。	E5-3-1-1, E5-3-4-1
2	プロドラッグについて説明できる。	E4-1-4-4, E5-3-1-2, E5-3-4-2, E5-3-4-3
3	アンテドラッグについて説明できる。	E5-3-1-2
4	放出制御型製剤について説明できる。	E5-3-2-1, E5-3-2-2, E5-3-2-3
5	標的指向型製剤について説明できる。	E5-3-3-1, E5-3-3-2, E5-3-3-3
6	抗体医薬、核酸医薬について説明できる。	E5-3-3-1, E5-3-3-2, E5-3-3-3, C8-2-2-3
7	遺伝子治療について説明できる。	E5-3-1-1, E2-8-2-1
8	理想溶液とラウールの法則について説明できる。	C1-2-6-1
9	希薄溶液の束一的性質について説明できる。	C1-2-6-1
10	電解質溶液の束一的性質について説明できる。	C1-2-6-1, C1-2-6-2, C1-2-6-4
11	高分子溶液と相分離 (コアセルベーション) について説明できる。	E5-1-4-1
12	溶解度相図による複合体形成の説明ができる。	E5-1-1-5, E5-1-1-4
13	表面張力について説明できる。	E5-1-3-1,
14	ミセル形成について説明できる。	E5-1-3-2,
15	界面活性剤の分類、クラフト点、曇点、HLB について説明できる。	E5-1-3-1
16	コロイド、乳剤・懸濁剤について説明できる。	E5-1-3-2
17	クリーミング、ケーキング、ストークスの式に関して説明できる。	E5-1-3-3, E5-1-3-4
18	ニュートン流動と非ニュートン流動について説明できる。	E5-1-2-1, E5-1-2-2
19	チキソトロピーについて説明できる。	E5-1-2-1, E5-1-2-2
20	粘弾性におけるマックスウエルおよびフォークトのモデルについて説明できる。	E5-1-2-2
21	レオロジー的性質の測定法について説明できる。	E5-1-2-2
22	粉体粒子の物理化学的性質について説明できる。	E5-1-1-1, E5-1-1-2
23	粉体粒子の粒子径と粒度分布について説明できる。	E5-1-1-1
24	粉体の密度、流動性、ぬれ、吸湿性について説明できる。	E5-1-1-2
25	薬物溶出・放出における Noyes-Whitney 式、Nernst-Noyes-Whitney 式、Hixson-Crowell 式、Higuchi 式について説明できる。	E5-1-1-3, E5-1-1-4, E5-1-1-5
26	反応速度式と反応機構について説明できる。	E5-1-4-2
27	分解速度定数におよぼす温度、pH、イオン強度、誘電率の影響について説明できる。	E5-1-4-2
28	アレニウス式とアレニウスプロットについて説明できる。	E5-1-4-2
29	複合体形成および化学構造の修飾による製剤の安定化について説明できる。	E5-1-4-3

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	新橋	DDS の概要	1, 2, 3
2	#	放出制御型製剤および標的指向型製剤	4, 5
3	#	抗体医薬、核酸医薬	6, 7
4	#	希薄溶液と束一的性質	8, 9, 10, 11
5	#	界面現象と界面活性剤	13, 14, 15
6	#	分散系 (コロイド、乳剤・懸濁剤) とその安定性	16, 17
7	#	レオロジー	18, 19, 20, 21
8	#	粉体 I	22, 23
9	#	粉体 II	24

回数	担当	内容	対応(SBOs)
10	#	製剤からの薬物の溶出	25
11	#	製剤の安定性Ⅰ	26、27、28
12	#	製剤の安定性Ⅱ	26、27、28
13	#	製剤の安定化	12、29
14	#	総合演習	

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

特に、計算問題に関しては理解力が不足がちな領域であり、必要に応じて国家試験問題等を提示し、学生自らがその場で板書して解説を加えたり、また次回までの宿題を課し、理解力の涵養に努めている。

〔授業で行っている工夫〕

書いて・理解することをモットーに板書を中心とした授業を展開している。2年生になって薬学部の専門科目に、これまで学んできた物理化学を中心とした基礎科学が最新の医薬品開発にどのようにリンクしているかをわかりやすく解説している。授業のはじめに「10分程度の復習時間」を設け、形式的な学習に結びつける。

〔成績評価方法〕

- 1) 形成的評価
- a) 知識：講義の開始時、10分程度を使い前回の講義の重要な点に関して指名して質問を投げかけ、重要な点を明確にするとともに理解を深める。
- b) 態度：出席状況を含めた受講態度で評価する。
- 2) 総括評価
- 定期試験の得点率を原則下記の基準に従い評価する。
- A (80～100%)：合格
- B (65～79%)：合格
- C (55～64%)：合格
- D (55%未満)：不合格
- ※再試験で合格の場合 C

〔教科書〕

最新薬剤学 (第10版) (林、川島、乾 編 廣川書店)

〔参考書〕

物理薬剤学・製剤学-計算問題の解法-(唐澤、坂根編 廣川書店)

わかりやすい物理薬剤学 (辻、川島編 廣川書店)

マーチン フィジカルファーマシー (大塚、瀬崎編 廣川書店)

ベーシック薬学教科書シリーズ 物理化学 (石田寿昌編、化学同人)

製剤への物理化学 (嶋林三郎、廣川書店)

新薬剤学 (原島秀吉、南江堂)

〔オフィスアワー〕

いつでも可。薬物送達学教室 研究1号館3階302号 ただし、要予約。

〔所属教室〕

薬物送達学教室 研究1号館3階302号

〔準備学習(予習・復習等)〕

本科目は、「物理化学」と強く関連していることから、これまで学んだ「物理化学Ⅰ」や「物理化学Ⅱ」をよく復習しておくこと。また、講義中、復習を兼ねて宿題を課しますが、必ず自分で解いて、理解を深めること。

〔教員からの一言〕

薬剤学は薬学部においてのみ唯一開講されている特徴的な講義科目である。応用の学問であり、薬学を修めていくうえで重要な講義内容が多々含まれている。物理薬剤学は、物理化学的な講義内容を多く含んでいることから敬遠されがちであるが、興味を持って学習に臨んでほしい。

薬理学 I

Pharmacology I

第 2 学年 前期 2 年必修科目 1 単位

立川 英一
田村 和広

学習目標 (GIO) 1 年次後期に学んだ「薬と疾病入門」の履修内容をベースにしている科目である。特に、医薬品の作用を理解する上で必要な薬理学の基礎になる総論、生理活性物質の作用を土台にして、「薬理学 I」では、自律神経系並びに内分泌系に作用する薬物について学習する。自律神経系と内分泌系に関わる生理活性物質の作用の理解を深めると共に、これらの系に作用する薬物の薬理作用、作用機序 (治療根拠)、医療用途の他、副作用、相互作用などを中心に学習する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	アドレナリン受容体 (α, β) とムスカリン受容体 (M) について、主要な存在部位と興奮時の生理的効果と薬理学的作用を説明できる。	E2-1-1-1
2	ノルアドレナリンとアドレナリンの静注時に見られる心拍数に対する差異を、アドレナリン β 受容体の特性の観点から説明できる。	E2-1-1-1
3	アドレナリン作動薬を作用様式から大きく 3 つに分類してその代表的薬物をあげ、薬理作用の特性を説明できる。	E2-1-1-1
4	$\alpha 1$ 受容体遮断薬をあげ、それらの薬理作用の特徴、臨床用途、副作用を説明できる。	E2-1-1-1
5	β 受容体遮断薬をあげ、それらの薬理作用の特徴、臨床用途、副作用を説明できる。	E2-1-1-1
6	アドレナリン作動性神経遮断薬の薬理作用、機序、副作用について説明できる。	E2-1-1-1
7	コリン作動薬を 2 つに分類して主要なコリン作動薬をあげ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	E2-1-1-2
8	代表的ムスカリン受容体拮抗薬 (抗コリン薬) をあげ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	E2-1-1-2
9	排尿障害改善薬、頻尿治療薬の作用機序を説明できる。	E2-1-1-2, E2-3-3-4
10	線内障、加齢性黄斑変性の病態の概要およびその主な治療薬の作用機序について説明できる。	E2-1-1-2, E2-6-1-1, E2-6-1-3
11	自律神経節刺激薬および遮断薬をあげて、薬理作用、副作用について説明できる。	E2-1-1-3
12	内分泌系作用薬の作用点と分類について、概要を説明できる。	C7-2-2-1
13	下垂体ホルモンとの関連で視床下部ホルモンの作用を説明でき、また、その関連薬をあげられる。	C7-2-2-1
14	オキシトシンと ADH の作用、また医療用途を説明できる。	E2-5-2-4
15	ACTH 関連薬とその医療応用を説明できる。	C7-2-2-1
16	副腎皮質で生成されるホルモンの生合成経路とその調節因子について説明できる。	C7-2-2-1
17	副腎皮質ホルモン (糖質コルチコイド) の薬理作用と副作用を説明できる。	C7-2-2-1, E2-5-2-5, E2-5-3-1
18	メチラポン、トリロスタン、スピロラクソンの薬物特性と医療用途を説明できる。	E2-5-2-5
19	プロラクチンの作用とその分泌に影響する薬物を説明できる。	E2-5-2-5
20	GH の作用メカニズムとその関連薬を説明できる。	E2-5-2-5
21	TSH, TRH の作用と医療用途を説明できる。	C7-2-2-1
22	甲状腺ホルモンの生理作用とその生合成阻害薬の作用機序と適用を説明できる。	E2-5-2-2
23	甲状腺機能障害の疾患の病態と治療薬の治療根拠を説明できる。	E2-5-2-2
24	血中の Ca^{2+} 調節因子の分泌調節機構と骨、腎臓、腸管への作用を説明できる。	E2-2-3-4
25	骨粗鬆症治療薬の機序別の分類を知っている。	E2-2-3-2
26	月経周期、妊娠の成立・維持・分娩までのホルモンの変動とそれらの生理的意義について、説明できる。	C7-2-10-1
27	GnRH 誘導体の医療用途と副作用を説明できる。	E2-5-2-1
28	代表的な合成卵胞ホルモンと黄体ホルモンをあげ、その作用と適用を説明できる。	E2-5-2-1
29	クロミフェン、タモキシフェン、ファドロゾールの特性と適用を説明できる。	E2-5-2-1
30	経口避妊薬として用いられる化合物とその作用機序、副作用を説明できる。	E2-5-2-1
31	代表的合成男性ホルモン、蛋白同化ホルモンをあげ、その特性と適用を説明できる。	E2-5-2-1
32	男性性腺機能に及ぼす薬物の作用機序を説明できる。	E2-5-2-1
33	女性生殖系疾患 (子宮内膜炎、子宮筋腫、流産治療薬、妊娠高血圧症候群など) に用いる薬物の作用機序を説明できる。	E2-3-3-6

番号	内容	コアカリとの関連コード
34	妊娠、分娩に関連して用いられる薬物について、その作用機序を説明できる。	E2-3-3-7

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	田村	自律神経作用薬 1: アドレナリン作用薬	1~3
2	田村	自律神経作用薬 2: アドレナリン作用性効果遮断薬 (α 遮断薬)	4, 5
3	田村	自律神経作用薬 3: 2 の続き (β 遮断薬)、アドレナリン作用性ニューロン遮断薬	5, 6
4	立川	自律神経作用薬 4: コリン作用薬	7
5	立川	自律神経作用薬 5: 抗コリン薬 (抗ムスカリン薬)、泌尿器系作用薬 (排尿障害・頻尿治療薬)	8, 9
6	立川	自律神経作用薬 6: 眼に作用する薬物 (緑内障、加齢黄斑変性、縮瞳・散瞳薬)	10
7	立川	自律神経作用薬 7: 自律神経節作用薬と自律神経作用薬のまとめ	11
8	立川	内分泌系作用薬 1: 内分泌系作用薬分類、下垂体後葉ホルモン (オキシトシン・ADH) 関連薬、ACTH・副腎皮質ホルモン関連薬	12~18
9	田村	内分泌系作用薬 2: プロラクチン、GH、TSH 関連薬、甲状腺ホルモン関連薬	19~23
10	田村	内分泌系作用薬 3: PTH とカルシトニン関連薬、骨粗鬆症治療薬概要	24, 25
11	田村	内分泌系作用薬 4: 月経周期とホルモン、ゴナドトロピン関連薬	26, 27
12	田村	内分泌系作用薬 5: 卵胞ホルモン関連薬	28, 29
13	田村	内分泌系作用薬 6: 黄体ホルモン (経口避妊薬) 関連薬	30
14	田村	内分泌系作用薬 7: 男性ホルモン関連薬、生殖器系疾患治療薬、内分泌系作用薬のまとめ	31~34

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

第一回目の授業が始まる前に、講義の予習になる簡単な課題を出して、提出させている。予習・復習、試験対策に役立つであろう講義で用いる講義資料 (補助プリント) は、Webclass にアップしており、講義に持参するようにアナウンスしている。定期試験対策用の「最低限の必須薬物名と具体的質問項目リスト」を Webclass に公開している。

〔授業で行っている工夫〕

最重要項目については、パワーポイントのみに頼らず、可能な限り図を用いて板書し、ノートを取らせている。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

- 知識: 試験で問う記憶しておくべき最小限の薬物と具体的項目は、学生に明確化し、各自、ノート整理する。webclass 上に公開した課題項目を各自行う。
- 技能: 各自、SBO 項目別にまとめたノートを作成し、まとめ演習でクラス内で公開する。
- 態度: 受講態度 (約束事、以下の①~④) により評価する。

d) パフォーマンス:

2) 総括的評価

- 知識: 定期試験の結果で評価する。再試験を一回行う。
 - 技能:
 - 態度:
- d) パフォーマンス:

〔教科書〕

最新 薬の効き方 (立川・田野中編 愛智出版) (※1年次・薬と疾病入門のテキストと同じ)

〔参考書〕

基礎から学ぶ内分泌薬学 (厚味編、エルセビア・ジャパン)

薬がみえる vol. 1/2 (メディックメディア)

新しい機能形態学 (小林・馬場・平井編、廣川書店)

薬学生のための新臨床医学 (市田・細山田編、廣川書店)

〔オフィスアワー〕

立川 いつでも可能。事前に連絡があれば確実です。

田村 いつでも可能。

〔準備学習 (予習・復習等)〕

本教科を深く理解・習得するためには、上の SBO 34 項目の予習・復習が望ましい。また、有機化学、機能形態学、生化学などの周辺科目の復習も重要である。薬物の構造活性相関についても重要な項目がある。

次回の講義予定 SBO 項目のテキスト部分を読んでから、講義を受けてください。ノート整理の仕方は、講義中にアドバイスします。

〔教員からの一言〕

授業中の約束事

①私語厳禁、②板書したことはノートにとる(自分で説明できるように理解しておく)、③遅刻は欠席として扱う(途中退出は理由を言ってから)、④内職・漫画・スマホは禁止。

薬理学 II

Pharmacology II

第 2 学年 後期 2 年必修科目 1 単位

高木 教夫 (A・B、C・D、E・F、G・H)

授業計画

学習目標 (GIO) 医薬品の作用する過程を理解するために、代表的な薬物の作用、作用機序、体内での運命、医療用途、および主な副作用に関する基本的知識を修得する。薬理学 II では、薬と疾病入門、薬理学 I の内容に加えて、体性神経系および中枢神経系に作用する薬物について学習する。薬剤師としての職能に直結する重要な科目であり、機能形態学、生化学、免疫学、微生物学などで修得した広範囲の知識と効果的に運動させ、それらを活用して考える能力が要求される。
本講義では、中枢神経系作用薬、局所麻酔薬、筋弛緩薬に関する基本的知識を習得する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	中枢神経系について概説できる。 末梢 (体性・自律) 神経系について概説できる。	C7-1-4-1 C7-1-4-2
2	神経細胞の興奮と伝導、シナプス伝達の調節機構について説明できる。 代表的な神経伝達物質を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。 神経系、感覚器を介するホメオスタシスの調節機構の代表例を列挙し、概説できる。 神経による筋収縮の調節機構について説明できる。	C7-2-1-1 C7-2-1-2 C7-2-1-3 C7-2-1-4
3	代表的な全身麻酔薬を挙げ、薬理作用、機序、適用、主な副作用について説明できる。	E2-1-3-1
4	代表的な催眠薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	E2-1-3-1
5	代表的な統合失調症治療薬を挙げ、薬理作用、機序、適用、主な副作用について説明できる。	E2-1-3-4
6	代表的なうつ病・躁病治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	E2-1-3-5
7	代表的な抗不安薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	E2-1-3-6
8	代表的なてんかん治療薬、中枢性筋弛緩薬を挙げ、薬理作用、機序、適用、主な副作用について説明できる。	E2-1-3-7
9	代表的なパーキンソン病治療薬を挙げ、薬理作用、機序、適用、主な副作用について説明できる。	E2-1-3-9
10	代表的なアルツハイマー病治療薬を挙げ、薬理作用、機序、適用、主な副作用について説明できる。	E2-1-3-10
11	脳血管疾患 (脳内出血、脳梗塞 (脳血栓、脳塞栓、一過性脳虚血)、くも膜下出血) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) を説明できる。	E2-1-3-8
12	麻薬性鎮痛薬、非麻薬性鎮痛薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) を説明できる。	E2-1-3-2
13	中枢興奮薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) を説明できる。	E2-1-3-3
14	片頭痛について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) について説明できる。	E2-1-3-11
15	知覚神経に作用する代表的な薬物 (局所麻酔薬など) を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。	E2-1-2-1
16	運動神経系に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。	E2-1-2-2
17	神経系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効 (薬理・薬物動態) の関連を概説できる。	E2-1-4-1
18	進行性筋ジストロフィー、Guillain-BarreA (ギラン・バレー) 症候群、重症筋無力症 (重複) について説明できる。	E2-1-2-4

II
2 年次
必修科目

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	高木	中枢神経系作用薬 1: 中枢神経系の構成と機能	1, 2
2	"	中枢神経系作用薬 2: 全身麻酔薬	3, 17
3	"	中枢神経系作用薬 3: 催眠薬	4, 17
4	"	中枢神経系作用薬 4: 統合失調症治療薬	5, 17
5	"	中枢神経系作用薬 5: 抗うつ薬、抗そう薬、抗不安薬	6, 7, 17
6	"	中枢神経系作用薬 6: 抗てんかん薬、中枢性筋弛緩薬	8, 17
7	"	中枢神経系作用薬 7: パーキンソン病治療薬	9, 17
8	"	中枢神経系作用薬 8: アルツハイマー病治療薬	10, 17
9	"	中枢神経系作用薬 9: 脳血管疾患治療薬	11, 17
10	"	中枢神経系作用薬 10: 麻薬性・非麻薬性鎮痛薬	12, 17

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
11	#	中枢神経系作用薬 11: 中枢興奮薬	13, 17
12	#	中枢神経系作用薬 12: 片頭痛治療薬	14, 17
13	#	体性神経系作用薬 1: 局所麻酔薬	1, 2, 15, 17
14	#	体性神経系作用薬 2: 末梢性筋弛緩薬	1, 2, 16, 17

【アクティブ・ラーニングの取り組み】

各回に対応する補助プリントを配布し、講義しながら、空欄部分や補足部分を記入させるようにしている。

【授業で行っている工夫】

- 毎回、講義の最初に進行予定範囲とキーワードを示し、何を学ぶか目標を明確にしている。
- 機能形態学、生化学などで得た知識を可能な限り復習し、これら知識と病態、そして薬の効くプロセスを連動させて考え、応用力を養えるよう努めている。
- 教科書等に未掲載の最新の作用機序や副作用情報、および新薬に関する情報は講義用補助プリントに随時反映させ、提供・解説している。

【成績評価方法】

形成的評価

- 知識： 講義内で関連科目に関する質問を行う。関連事項の解説をしてフィードバックする。
- 態度： 質問等の態度で評価する（予め、講義資料を配布するので、予習・復習の仕方も含む）。

総括的評価

- 知識： 定期試験成績で総合的な評価を行う。
- 態度： 受講態度により評価する。

【教科書】

最新 薬の効き方 （愛智出版）

【参考書】

補助プリントを配布

New 薬理学（第5版）（加藤、田中編 南江堂）

新しい機能形態学-ヒトの成り立ちとその働き-（小林、馬場、平井編 廣川書店）

【オフィスアワー】

高木 原則的にいつでも可 応用生化学教室 研究2号館6階606

【所属教室】

高木 応用生化学教室 研究2号館6階606

【準備学習（予習・復習等）】

講義用資料を予め配布しており、それによって予習が行えるように配慮している。復習についてもテキストだけでなく、講義用資料を活用するように指導している。予習よりも復習に重点を置いた指導を行っている。

疾病と薬物治療 I

Diseases and Pharmacotherapy I

第 2 学年 後期 2 年必修科目 1 単位

篠原 佳彦 (A・B・C・D、E・F・G・H)

杉浦 奈敏 (A・B・C・D、E・F・G・H)

授業計画

学習目標 (GIO) 疾病に伴う症状と臨床検査値の変化などの的確な患者情報を取得し、患者個々に応じた薬の選択、用法・用量の設定および各々の医薬品の「使用上の注意」を考慮した適正な薬物治療に参画できるようになるために、薬物治療に関する基本的知識を修得する。疾病と薬物治療 I～VIII のうち本講義では、病態を理解する上で必要な臨床検査の知識および血液・造血器疾患に関して病態生理、臨床症状、検査・診断、治療、患者説明の知識を修得する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	代表的な生理機能検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。	E1-2-2-6
2	尿及び糞便を用いた代表的な検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。	E1-2-2-1
3	血液学的検査の代表的な検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。	E1-2-2-2
4	血液生化学的検査の代表的な検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。	E1-2-2-3
5	感染症・炎症に関する代表的な免疫学的検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。	E1-2-2-4, E1-2-2-7
6	悪性腫瘍に関する代表的な検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。	E2-7-7-2
7	動脈血ガス分析の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。	E1-2-2-5
8	代表的なフィジカルアセスメントの検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。	E1-2-2-8
9	血液・造血器系について概説できる。	C7-1-14-1
10	代表的なサイトカイン、増殖因子を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。	C7-2-4-1
11	血液凝固・線溶系の機構について概説できる。	C7-2-9-1
12	止血薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。	E2-3-2-1
13	抗血栓薬、抗凝固薬および血栓溶解薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。	E2-3-2-2
14	以下の貧血 (鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血 (悪性貧血等)、再生不良性貧血、自己免疫性溶血性貧血 (AIHA)、腎性貧血、鉄芽球性貧血) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。	E2-3-2-3
15	播種性血管内凝固症候群 (DIC) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。	E2-3-2-4
16	以下の疾患 (血友病、血栓性血小板減少性紫斑病 (TTP)、白血球減少症、血栓塞栓症) について治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。	E2-3-2-5

II 2 年次
必修科目

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	篠原	臨床検査-1 基本的検査と基準値、フィジカルアセスメント	1,8
2	篠原	臨床検査-2 尿・便検査	2
3	篠原	臨床検査-3 血液学的検査	3
4	篠原	臨床検査-4 血液生化学的検査 (1)	4
5	篠原	臨床検査-5 血液生化学的検査 (2)	4
6	篠原	臨床検査-6 血液生化学的検査 (3)、動脈血ガス検査	4,7
7	篠原	臨床検査-7 免疫学的検査、腫瘍マーカー検査	5,6
8	杉浦	血液・造血器疾患-1 総論	9-16
9	杉浦	血液・造血器疾患-2 貧血 (1)	9,10,14
10	杉浦	血液・造血器疾患-3 貧血 (2)	9,10,14
11	杉浦	血液・造血器疾患-4 播種性血管内凝固症候群	11,12,13,15
12	杉浦	血液・造血器疾患-5 血友病、血栓性血小板減少性紫斑病	11,12,16
13	杉浦	血液・造血器疾患-6 白血球減少症	10,11,16
14	杉浦	血液・造血器疾患-7 血栓塞栓症	11,13,16

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

症例を利用した演習問題を解くことにより、知識の定着を図る。(篠原)

補助プリントを配布し、講義のなかで空欄部分を記入させ知識の確認を図る。(杉浦)

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識:講義中に補助プリントに示した演習問題を行う。

b) 態度:受講態度により評価する。

2) 総括的評価

a) 知識:定期試験にて評価する。再試験を1回実施する。

b) 態度:受講態度により評価する。

〔教科書〕

疾病と薬物治療Ⅰ(臨床検査)プリント(生協より販売)

血液・造血器疾患 作成中(10月出版予定:3年後期 疾病と薬物療法Ⅵ と共用)

〔オフィスアワー〕

篠原 佳彦 原則いつでも可。事前連絡が望ましい。

杉浦 宗敏 いつでも可。ただし事前に予約が必要。医薬品安全管理学教室 医療棟3階304号室

〔所属教室〕

篠原 佳彦 薬学教育推進センター 教育1号館1階

杉浦 宗敏 医薬品安全管理学教室 医療棟3階304号室

〔準備学習(予習・復習等)〕

次回講義で扱う内容および演習問題を講義プリントで予習しておくことが望ましい。(篠原)

疾病と薬物治療 II

Diseases and Pharmacotherapy II

第 2 学年 後期 2 年必修科目 1 単位

山田 純司 (A・B、C・D、E・F、G・H)

大友 隆之 (A・B、C・D、E・F、G・H)

授業計画

学習目標 (GIO) 疾病に伴う症状と臨床検査値の変化などの確かな患者情報を取得し、患者個々に応じた薬の選択、用法・用量の設定および各々の医薬品の「使用上の注意」を考慮した適正な薬物治療に参画できるようになるために、薬物治療に関する基本的知識を修得する。疾病と薬物治療 I~VIII のうち、本講義では代表的な内分泌疾患、代謝疾患、骨・関節疾患に関して、病態生理、臨床症状、検査・診断、治療および患者説明について学習する。さらに、治療に用いられる代表的な医薬品に関する基本的知識を修得する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	骨粗鬆症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2-2-3-2
2	変形性関節症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2-2-3-3
3	カルシウム代謝の異常を伴う疾患(副甲状腺機能亢進(低下)症、骨軟化症(くる病を含む)、悪性腫瘍に伴う高カルシウム血症)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2-2-3-4
4	糖尿病とその合併症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2-5-1-1
5	脂質異常症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2-5-1-2
6	高尿酸血症・痛風について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2-5-1-3
7	Basedow(バセドウ)病について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2-5-2-2
8	甲状腺炎(慢性(橋本病)、亜急性)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2-5-2-3
9	尿崩症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2-5-2-4
10	以下の疾患について説明できる。 ADH 不適合分泌症候群(SIADH)、副甲状腺機能異常症、Cushing(クッシング)症候群、アルドステロン症、褐色細胞腫	E2-5-2-5

II
2 年次
必修科目

授業内容

回数	担当	内容	対応(SBOs)
1-5	山田	糖尿病	4, 10
6-8	#	脂質異常症、肥満症・メタボリック症候群	5, 6, 10
9-10	#	甲状腺機能異常症、尿崩症	7, 8, 9, 10
11-13	大友	骨粗鬆症、変形性関節症、骨軟化症	1, 2, 3, 10

【アクティブ・ラーニングの取り組み】
講義中に教科書へのマークや書き込みを促し、13回の講義終了後には教科書が学生各自が作成し自らに適した「まとめの学習ノート」として仕上がるように仕向けている。

【授業で行っている工夫】
最新の診療ガイドラインに基づいて講義を行い、症例や処方例を出来るだけ多く紹介することにより具体的なイメージを持たせるようにしている。パワーポイントや書画カメラを利用して写真や医薬パンフレット、医療器具など、視覚に訴える資料を紹介している。また、疾患ごとに最初の講義で、関連する解剖生理学や生化学的知識を十分に復習してから本論に移ることにしている。初学者と言えども現場で直ぐに役立つ講義内容を目指している。

【成績評価方法】
総合的評価 a) 知識：定期試験の結果に基づいて評価する。但し、受講態度によっては受験資格を失うことがある。

【教科書】

ガイドラインで理解する疾病と薬物治療 代謝疾患（山田純司著 オーム社）。
一部、補助プリントを使用する（WebClassに掲載）。

〔参考書〕
治療薬マニュアル（医学書院）
今日の治療指針（医学書院）

〔オフィスアワー〕
山田、大友 いつでも可。但し、メールによる予約が必要。 医療薬学研究棟3階 2131・2136号室

〔所属教室〕
山田 総合医療薬学講座
大友 総合医療薬学講座

〔準備学習（予習・復習等）〕
授業を受ける前に講義予定項目のSBOを確認し、教科書の該当範囲を読んでから講義に臨むようにしてください。また、講義の後は必ず復習してください。分からないことをそのままにしないで、参考書等で調べてください。自分で調べることがとても大切です。それでも理解できなければ、オフィスアワーや次回の講義のときに質問してください。

Ⅲ

(選択)
一般教養

●総合科目

【一般教養】

健康科学	146
地球環境概論	148
障がい論	160
社会学	152
現代経済論	154
国際関係論	155
健康スポーツ	156
数学Ⅱ	157
倫理学	159
哲学概論	161
美術・デザイン	162
文章表現	163
法学	165
基礎情報学演習Ⅱ	167
計算科学	169
基礎栄養学	171

健康科学

Health Sciences

第1学年 前期・後期 (選択) 一般教養 1単位

與那 正栄

学習目標 (GIO) 将来、活力ある生活設計の基本となる健康に関する理論的実践的知識を修得することは大切です。そのために加齢に伴う身体機能の衰退と健康の維持・増進を実現するための知識を習得することで、予防医学の一分野を理解し、自己健康管理能力とその実践的スキルを身につけてください。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	高齢化社会に向けて健康とはなにか、何故健康を維持する必要があるかを理解する。(知識)	A-1-2-6, A-1-2-8, D1-2-1-2, D1-2-3-3, E2-9-1-1, E2-9-6-1
2	現代人が罹りやすい運動不足に伴う身体諸機能の変化と生活習慣病との関わりを理解する。(知識) 健康と体力との関連性を理解する。(知識)	D1-1-2-3, D1-2-3-1, D1-2-3-2, E2-9-6-1
3	各自の1日のエネルギー消費量と摂取量を評価する。(演習)	C6-5-1-1,
4	基本的なエネルギー摂取量と消費量および栄養素を理解する。(知識)	C6-5-1-1, D1-3-1-5, E2-9-6-1
5	身体活動に必要なエネルギーが産生される過程を理解する。(知識)	C6-5-2-1, C6-5-2-2, C6-5-2-3, C6-5-2-5, E2-9-1-1, E2-9-6-1
6	運動の発現機構を神経筋機構から理解する。(知識)	C7-1-4-1, C7-1-4-2, C7-1-5-1, C7-2-2-1
7	筋力発揮のメカニズムを理解し、筋力トレーニングの指導法を習得する。(知識・態度)	C7-1-5-1, C7-2-2-1, E2-9-1-1, E2-9-6-1
8	運動の持久的機構を呼吸機能から理解する。(知識)	C7-1-8-1
9	運動の強さと身体で使われる酸素の量(酸素摂取量)の関係を理解する。(知識)	C7-1-8-1, E2-9-1-1, E2-9-6-1
10	運動の持久的機構を循環機能から理解する。(知識)	C7-1-7-1
11	運動形態の違いによる心拍数・換気量・血圧などの身体機能の応答を理解する。(知識)	C7-1-7-1, E2-9-1-1, E2-9-6-1
12	若年者・中高年者に対する健康維持・増進および運動可能な疾病(糖尿病・軽症高血圧症など)に対し、適切な運動が指導できるようにその原理と方法を理解し、その指導技能を習得する。(知識・態度)	A-1-2-6, A-1-2-8, E2-9-1-1, E2-9-6-1
13	身体諸機能の成長・発達・老化現象を理解する。(知識)	A-1-2-8

授業内容

回数	担当	内容	対応(SBOs)
1	與那	導入(健康とは)	1
2	#	健康と体力の関係 運動不足と生活習慣病について	2, 12
3~4	#	身体活動に関わるエネルギー産生の代謝経路について	3, 4, 5
5	#	代謝系から見た生活習慣病に対する運動処方	4, 5, 12
6	#	身体活動に関わる神経筋機能について	2, 6
7	#	神経筋機能を向上させる運動処方および体力トレーニング	6, 7, 12
8	#	身体活動に関わる呼吸機能について	2, 8
9	#	呼吸機能を向上させる運動処方および体力トレーニング	2, 8, 12
10~11	#	身体活動に関わる循環系機能について	2, 9
12	#	循環機能を向上させる運動処方および体力トレーニング	2, 9, 12
13	#	若年者・中高年者の体力トレーニングおよび種々な疾病に対する運動処方について	12
14	#	成長・発達・老化による身体諸機能の変化について	13

【アクティブ・ラーニングの取り組み】

1日の消費カロリーと摂取カロリーを各自で計算させ、栄養バランスと合わせ自分の生活を見直しさせるとともに、将来にわたっての健康について考えさせている。

【授業で行っている工夫】

1年生前期の「生物学」および「細胞生物学」、1年生後期の「生化学Ⅰ」、2年生の「生化学Ⅱ」、「生化学Ⅲ」および選択科目の「基礎栄養学」を当該科目とともに健康維持・増進の関連科目、すなわち基礎から応用までステップアップする講義と捉え、一貫性を重視して講義の理解度を上げることを工夫している。一方、限られた講義時間を効率よく利用するために講義の重複部分についても必要・不要等の

調整をおこなっている。また、毎時間、健康および薬に関する最新ニュースを提供しながら、最新の研究から得た資料を加え、実践に役立つ内容になるよう努めている。

【成績評価方法】

1) 形成的評価

- a) 知識：カロリー表を用い、自己の生活をフィードバックする。
- b) 技能：栄養表・消費カロリー・摂取カロリー表を活用する。
- c) 態度：授業を通して細やかにフィードバックする。

2) 総括的評価

- a) 知識：出席・態度・レポート・定期試験などを総合的に評価する。
- b) 技能：運動処方・栄養処方を行う。
- c) 態度：2/3 以上に出席することを合格条件とする。

【教科書】

資料を Web class に配信

【参考書】

運動科学（室 増男 理工学社）

【オフィスアワー】

前期、後期ともに原則的に可。 保健体育学研究室 体育館3階

【所属教室】

保健体育学研究室

【準備学習（予習・復習等）】

資料は授業日の3日前に Web Class において配布されるので目を通すことで授業内容を把握できます。また1日の消費カロリーと摂取カロリーを振り返ることで健康の保持増進に役立ちます。

地球環境概論

Introduction to Global Environment

第1学年 前期・後期 (選択) 一般教養 1単位

都筑 幹夫 高橋 勇二 梅村 知也 (生命科学部)

学習目標 (GIO) 今日、人類の活動は、地域の環境や地球全体の環境にさまざまな形で関わっており、社会問題となっていることも多い。生活環境と健康についての理解を深めるため、化学物質や生態系を構成する生物等に視点を置き、水や大気の問題解決に向けて、人類がどう対処すべきであるかを考察する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	地球規模の環境問題の成因について概説でき、人への影響を説明できる。	D2-2-1-1
2	生態系の構成員を列挙し、その特徴と相互関係を説明できる。また、生態系における生物の多様性を理解する。	D2-2-1-2
3	化学物質の環境動態(生物濃縮など)について例をあげて説明できる。	D2-2-1-3
4	環境中に存在する主な放射性核種を挙げ、また、電離放射線を列挙して、人の健康への影響について説明できる。	D2-1-4-1, D2-1-4-2
5	環境保全に関する国際的な取り組みを把握し、人が生態系の一員であることを認識して、環境問題を討議する。	D2-2-1-4, D2-2-1-5
6	主な大気汚染物質を列挙し、その推移と発生源について説明できる。	D2-2-4-1
7	主な大気汚染物質の濃度測定と、健康影響について説明できる。	D2-2-4-2, D2-2-1-1
8	大気環境、大気汚染に影響する気象要因(逆転層など)を概説できる。	D2-2-4-3, D2-2-1-1
9	薬物の乱用による健康への影響について説明し、できる。	D2-1-1-5
10	環境ホルモン(内分泌攪乱化学物質)や重金属などの有害化学物質が人の健康に及ぼす影響を説明し、その予防策を提案する。	D2-1-1-3

授業内容

回数	担当	内容	対応(SBOs)
1	都筑	人と環境、環境との取り組み、放射線について	1, 4
2	都筑	放射性核種と放射線、人の健康への影響	4
3	都筑	生態系を構成する生物、その生き方と生物多様性について	2, 3
4	都筑	生物と環境、生物間の相互作用について	1, 5
5	都筑	生物と遺伝子資源、およびそれを支える環境、その課題について	5
6	梅村	生態系や健康への影響が懸念される化学物質について	3, 10
7	梅村	大気・海洋汚染の現状と汚染物質の輸送・循環・生物濃縮について	2, 5, 6
8	梅村	東アジア地域における越境大気汚染問題について	6, 8
9	梅村	都市部での大気環境汚染問題について	7
10	梅村	水圏環境の汚染問題と改善に向けての取り組みについて	3, 5
11	高橋	人間活動と環境(1)人間活動がもたらした温暖化と気候変動について	1, 8
12	高橋	人間活動と環境(2)人類の進化と適応の過程、人口増加機構について	5
13	高橋	人間活動と環境(3)健康の維持と環境保全の関わりについて	5, 10
14	高橋	人間活動と環境(4)薬害と環境汚染による健康被害について	9, 10

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕
講義中の重要点や疑問点について考える時間を与えるなどの工夫により、積極的な受講姿勢を促す。

〔授業で行っている工夫〕
講義ごとに授業参加の積極度を評価し、学生の習熟状況の把握に努める。また、担当教員ごとに評価することで、問題解決能力に必要な拡大を図る。

〔成績評価方法〕

- 1) 形成的評価
 - a) 知識：出席とともに質問を出させたりすることにより、理解を深める。
 - b) 技能：小レポートや質問等により、技能評価を行う。
 - c) 態度：講義ごとに受講態度を評価する。
- 2) 総括的評価

a) 知識：担当教員によるまとめの試験やレポート、各講義時における受講態度等をもとに総合的に評価する。配点は、3名の担当教員の時間数に応じた配点（都筑と梅村各36%、高橋は29%）とする。

〔教科書〕
指定しない。

〔参考書〕
必要に応じて、講義の中で紹介する。

〔オフィスアワー〕
下記連絡先に連絡して、予約すること。

〔所属教室〕
高橋 生命科学部環境ストレス生理学研究室 研究3号館4階
梅村 生命科学部生命分析化学研究室 研究3号館3階
都筑 生命科学部環境応答植物学研究室 研究3号館2階

〔準備学習（予習・復習等）〕
新聞やTVなどのニュースを見て、環境に関わる記事やニュースに接しておくこと。

〔教員からの一言〕
社会問題となっている環境に関わる記事やニュースを、新聞やTVで理解しておいてください。また、講義で理解したことを、2日以内に確認しなおしてください。

障がい論

Disability Studies

第1学年 前期 (選択) 一般教養 1単位

今野 明子

学習目標 (GIO) これからの医療人にはコミュニケーションが大変重要になってきます。この授業では、見た目ではわかりにくい『聴覚障がい』を取り上げ、聴覚障がいの者のコミュニケーション手段である『手話』を学ぶことにより、自分とは状態の異なる人たちの文化や生活の様子、コミュニケーション方法等について理解を深めていきます。そこから、相手の状態や気持ちを思いやるという真のコミュニケーションの基本を習得し、自分自身のコミュニケーション能力を高めることをめざします。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	手話の基本的な表現技術を習得し、簡単な会話ができる。	A-3-1-1 A-3-I-2
2	手話による歌、ダンス、演劇などの魅力を理解できる。	A-3-1-3
3	聴覚障がいの者のコミュニケーション方法について説明し、実践できる。	A-3-1-1 A-3-I-2 A-3-1-3
4	自分とは状態の異なる人たちに対して、相手の状況や気持ちを配慮し、適切な対応ができる。	A-3-1-3 A-3-1-7 A-3-1-8
5	聴覚障がいの者の生活や文化を理解し、課題を検討できる。	A-3-1-3 A-3-1-9

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	今野	オリエンテーション 手話の魅力 手話シャンソン	1, 2, 5
2	#	基本的な手話表現 (挨拶・名前) デフファミリーの生活	1, 3, 4, 5
3	#	基本的な手話表現 (住所)	1, 3, 4, 5
4	#	指文字表現 聴覚障がいに関する基礎知識	1, 3, 4, 5
5	#	基本的な手話表現 (趣味・好き嫌い) 聴覚障がいの者の生き方	1, 2, 3, 4, 5
6	#	基本的な手話表現 (家族) 聴覚障がいの者の教育	1, 3, 4, 5
7	#	基本的な手話表現 (数字) 聴覚障がいの者の文化	1, 2, 3, 4, 5
8	#	医療現場で役立つ手話 聴覚障がいの者の就労	1, 3, 4, 5
9	#	場面ごとの会話練習 (1) 聴覚障がいの者の情報保障	1, 3, 4, 5
10	#	場面ごとの会話練習 (2) 聴覚障がいの者をサポートする福祉機器	1, 3, 4, 5
11	#	聴覚障がいの者による講演	1, 2, 3, 4, 5
12	#	さまざまなコミュニケーション方法 (筆談、口話、身振り等)	1, 3, 4, 5
13	#	手話実技試験	1, 3, 4, 5

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

- ・学生同士が手話で会話する時間を設けている。
- ・ビデオ視聴時には、感想や疑問点を提出させている。
- ・手話実技試験は、発表会形式で行っている。

〔授業で行っている工夫〕

手話実技の時間を多くとり、一人ひとりの手話をチェックしながら、確実に覚えるようにする。聴覚障がいの者を招いて、生きた手話に触れながら生活体験談を聞く。聴覚障がいの者の生活や教育、就労の様子を収めたビデオを多く視聴して、聴覚障がいの者の生活や文化について理解を深める。

〔成績評価方法〕

- 1) 形成的評価
 - a) 知識：ビデオ視聴時や講演会時には感想や疑問を記録し、提出させている。(50%)
 - b) 技能：手話実技について、こまめにフィードバックしている。(40%)
 - c) 態度：受講態度 (出欠状況、実技への取り組み方、提出物等) を加味する。(10%)
- 2) 総括的評価
 - a) 知識：レポート提出1回。他の提出物とあわせて、総合的に評価する。(50%)
 - b) 技能：手話表現の実技試験を行う。(40%)
 - c) 態度：繰り返しの形成的評価で向上すれば合とする。(10%)

〔教科書〕

特になし (適宜プリント配布)

〔参考書〕

『持ち歩き やさしい手話の本』豊田直子著 日本文芸社

〔オフィスアワー〕

前期 火曜・金曜の授業時間帯前後 薬学事務課にて可。

〔準備学習 (予習・復習等)〕

授業で学習した手話表現をよく復習して覚えること。

授業計画

Ⅲ
〔選択〕
一般教養

社会学

Sociology

第1学年 前期 (選択) 一般教養 1単位

岩館豊

学習目標 (GIO) テーマ：生の基盤をめぐる社会学
 現代世界では、生きるという営みを支える基盤が大きく揺らいでいます。医療をはじめ、教育、家族、労働といった社会的制度から、他者との関係性や生きる意味や価値観といった個人の内面に至るさまざまな領域で、これまでのあり方や枠組みが変化しつつあります。
 この授業では、不安定化する生の基盤とその再構築をめぐる出来事や議論をふまえながら、医療人の社会的役割を考えていきます。生きることの支えをめぐる現代社会の現実から、社会学の基本的な知識を習得し、人間と社会的現象を関係的にとらえていく視点を身につけることを目的にします。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	人の行動がどのような要因によって決定されるのかについて説明できる。	B-1-1-1
2	患者・生活者の健康の回復と維持に積極的に貢献することへの責任感を持つ。	A-1-1-2
3	患者・生活者のために薬剤師が果たすべき役割を自覚する。	A-1-2-1
4	現代社会が抱える課題（少子・超高齢社会等）に対して、薬剤師が果たすべき役割を提案する。	A-1-2-8
5	人・社会の視点から薬剤師を取り巻く様々な仕組みと規制について討議する。	B-1-3-1
6	自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める。	A-4-4-1
7	チームワークと情報共有の重要性を理解し、チームの一員としての役割を積極的に果たすように努める。	A-4-5-1
8	必要な情報を的確に収集し、信憑性について判断できる。	A-5-1-3
9	得られた情報を論理的に統合・整理し、自らの考えとともに分かりやすく表現できる。	A-5-1-4
10	生涯にわたって自ら学習する重要性を認識し、その意義について説明できる。	A-5-3-1

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	岩館	オリエンテーション 日常生活の成り立ち	1, 2, 5
2	岩館	グローバル化と現代社会 (1)	1, 5
3	岩館	グローバル化と現代社会 (2)	1, 5
4	岩館	貧困と格差 (1)	1, 2, 3
5	岩館	貧困と格差 (2)	1, 2, 3
6	岩館	多様化する家族	1, 2, 3
7	岩館	労働の変容 (1)	1, 5, 7, 10
8	岩館	労働の変容 (2)	1, 5, 7, 10
9	岩館	教育の現場から	1, 5, 7, 10
10	岩館	レポートについて 来たるべき生の基盤	8, 9
11	岩館	戦争と生活史	1, 3, 5
12	岩館	現代組織と専門知 (1)	1, 5, 6, 7
13	岩館	現代組織と専門知 (2)	1, 5, 6, 7
14	岩館	まとめ	4, 5, 9, 10

【アクティブ・ラーニングの取り組み】
 各回ごとにリアクションペーパーを提出する。
 授業内外での課題を複数回実施する。
 レポート執筆を通じて、問いを設定し、情報を収集・選択し、論理的にまとめ表現する。

【授業で行っている工夫】
 リアクションペーパーをもとに双方向的な授業を行う。
 課題をこなしながら社会的な思考を身につける。
 映像資料を活用し、関心・理解を高める。
 受講者数によってはグループ討議などを行う。

【成績評価方法】

- 1) 形成的評価
 - a) 知識: 課題をおこない、解説にてフィードバックする。
 - b) 技能: レポート執筆とコメントを通じて技能を習得する。

- c) 態度: リアクションペーパーをもとに確認する。
 d) パフォーマンス: 課題とレポート執筆を通じて習熟度を確認する。
- 2) 総合的評価
- a) 知識: リアクションペーパー (10%)、課題 (40%)、レポート (50%) として評価する。
 b) 技能: レポートにより評価する。
 c) 態度: リアクションペーパーにより評価する。
 d) パフォーマンス: 形成的評価により判断する。

【教科書】

とくに指定しません。
 毎回の授業でレジュメ・資料を配布します。

【参考書】

長谷川公一ほか, 2007, 『社会学』有斐閣。
 藤村正之ほか, 2011, 『いのちとライフコースの社会学』弘文堂。
 豊泉周治, 2014, 『<私>をひらく社会学—若者のための社会学入門』大月書店。
 そのほか、配布するレジュメ・資料のなかで参考となる文献を紹介します。

【オフィスアワー】

授業の前後に質問を受け付けます。

【準備学習（予習・復習等）】

授業で配布されたレジュメ・資料を事前・事後によく読んでください。
 受講者は、講義の内容をもとにレポート執筆に取り組みます。
 計画的に執筆を進めていってください。

【教員からの一言】

受講するなかで感じたことや疑問に思ったことを大事にしてください。
 そして自ら問いを立てて、手足を動かして調べ、考えていってください。
 「問うて学ぶ」のが学問です。

現代経済論

Contemporary Economics

第1・2学年 前期 (選択) 一般教養 1単位

五十嵐 中

大森 正博

学習目標 医療スタッフの一員として必要な、医療経済学と経済学全般の考え方の基礎を習得・理解する。
(GIO)

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	経済学および医療経済学の基礎を理解する。	B(3)
2	日本の医療に関する問題点を概説できる。	B(3)
3	日本の医療制度を概説できる。	B(3) Y-2-2-1
4	医療サービスの性質と、医療制度との関係を概説できる。	B(3)
5	医療保険制度の基本を概説できる。	B(3) Y-2-2-1
6	医療サービスの供給者としての、医療関係者および医療機関の役割を概説できる。	Y-2-2-1
7	医療政策・医療規制・医療技術評価の基本を概説できる。	Y-2-2-1 Y-2-3-6

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	五十嵐	現代経済論・概論	1
2	#	日本の医療の問題点	2
3	#	日本の医療保険制度・概説 (1)	3
4	#	日本の医療保険制度・概説 (2)	3
5	#	医療サービスの性質と医療制度 (1)	4
6	#	医療サービスの性質と医療制度 (2)	4
7	#	競争と規制	5
8	大森	医療保険制度 (1)	5
9	#	医療保険制度 (2)	6
10	#	医療サービスの供給者の行動 (1)	6
11	#	医療サービスの供給者の行動 (2)	7
12	五十嵐	医療経済学から薬剤経済学へ (1)	7
13	#	医療経済学から薬剤経済学へ (2)	7

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕
ワークショップ形式を一部に導入する。

〔授業で行っている工夫〕
一方通行の授業とならないように、書き込みプリントを中心とした講義を行う。

〔成績評価方法〕
試験によって評価する。

〔教科書〕
大森正博, 医療経済論 (シリーズ・現代経済の課題), 岩波書店; 2008.

〔オフィスアワー〕
特になし

〔準備学習 (予習・復習等)〕
授業プリントの内容の復習。

国際関係論

International Relations

第1・2学年 後期 (選択) 一般教養 1単位

五十嵐 中

小久保欣也

宇賀神 文彦

孫 一善

授業計画

学習目標 (GIO) 世界の中での医薬品使用と開発の実態について、諸外国で起きている問題を事例にとって理解を深める。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	医療分野に関する、国際関係の概要を理解する。	B (3) Y-2-2-1
2	世界の医療制度の中での医薬品の現状を理解する。	B (3) Y-2-1-1 Y-2-2-1 Y-2-3-4
3	くすりギャップのうち、途上国における医薬品価格や見捨てられた疾患に対する医薬品の開発手段について理解する。	B (3) Y-2-1-1 Y-2-2-1
4	くすりギャップのうち、先進国における適応外使用やドラッグ・ギャップの現状と対策案を理解する。	B (3) Y-2-1-1 Y-2-2-1

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	五十嵐	国際関係論・概論	1
2	#	諸外国の医療保障制度 (1)	1,2
3	小久保	諸外国の医療保障制度 (2)	1,2
4	#	諸外国の医療保障制度 (3)	1,2
5	#	諸外国の医療保障制度 (4)	2
6	孫	韓国の医薬品問題 (1)	2
7	#	韓国の医薬品問題 (2)	2
8	宇賀神	世界の医薬品市場の概要 (講義)	1,3
9	#	グローバル化について考える (1) (課題設定とケース説明)	1,3
10	#	グローバル化について考える (2) (チーム発表)	1,3
11	五十嵐	くすりギャップ (1)	3,4
12	#	くすりギャップ (2)	3,4
13	#	くすりギャップ (3)	3,4
14	#	まとめ	1,2,3,4

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕
グループディスカッションの場を設ける。

〔授業で行っている工夫〕
一方通行の授業にならないように、書き込みプリントあるいはビデオ教材などを利用した講義を行う。

〔成績評価方法〕
レポートまたは試験による。

〔オフィスアワー〕
特になし

〔準備学習 (予習・復習等)〕
授業配布プリントを復習すること。

III
(選択)
一般教養

健康スポーツ

Health and Physical Education

第1学年 前期 (選択) 一般教養 1単位

與那 正栄

学習目標 (GIO) 生涯にわたって健康で活気に満ちた質の高い生き方を確立するために、スポーツ実践を通じて、身体運動に関する科学的知識を修得することは大切です。この授業で各種スポーツの基本的技術を修得し、生涯スポーツの実践能力を身につけて下さい。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	身体活動を通じて協力して行動することの大切さを理解する。	A-3-1-5, A-3-1-6, A-3-1-7, A-3-1-9
2	競技ルールを遵守することで社会における規則の大切さを理解する。	A-3-1-5, A-3-1-6, A-3-1-7, A-3-1-9
3	生涯スポーツの実践能力を修得する。	

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1~14	與那	硬式テニス (男子)	1~3
1~14	久木	体育館種目 (男子)	1~3
1~14	宮崎	グランド種目 (男子)	1~3
1~14	坂尾	卓球、体カトレーニング (男子)	1~3
1~13	與那	硬式テニス (女子)	1~3
1~13	波多野	体育館種目 (女子)	1~3
1~13	田島	卓球 (女子)	1~3
1~13	鈴木	エアロビックダンス (女子)	1~3

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕
経験者が中心となり、班毎に練習させることで、お互いの技術を高め合うよう学生同士指導が行なわれるようになっている。試合形式は班対抗なので、各班長を中心に作戦を練らしている。

〔授業で行っている工夫〕
生涯スポーツとしての位置付けを重要視し、将来的に健康の保持増進を計るための指導を取り入れている。

〔成績評価方法〕
與那・田島・鈴木・久木・波多野・坂尾・宮崎 A=出席率 85% 以上 B=84%~75% C=74%~60% D=60%未

〔オフィスアワー〕
與那 原則的に可。 保健体育学研究室 体育館3階

〔所属教室〕
與那 保健体育学研究室

〔準備学習 (予習・復習等)〕
授業外においても体力の保持増進に努めて下さい。

〔備考〕
授業内容
履修申請時に、体育館種目 (バスケット・バレー・バドミントン) *・グランド種目 (男子サッカー・ソフトボール)・硬式テニス・卓球 (男子) **・エアロビックダンス+卓球 (女子) ***の4つに分類して、募集する (雨天の場合は、体育館種目とする)。
* 月毎に種目を変えて行なう予定である。
** 男子卓球は4、5時限目で体カトレーニングと組み合わせで行なう。
*** 女子は卓球とエアロビックダンスの組み合わせとなる。4時限目に卓球を行なった学生は、5時限目にエアロビックダンスとなる。逆に4時限目にエアロビックダンスを行なった学生は、5時限目に卓球となる。募集人員は64名とし、最初の授業時間において2つのクラスに分ける。

数学II

Mathematics II

第1学年 後期 (選択) 一般教養 1単位

片野 修一郎

授業計画

学習目標 (GIO) 前期までに学んだ内容を基礎にして、より高度な数学を学ぶ。高等学校のカリキュラムを超える内容は、この数学IIで初めて現れる。具体的には、2年次以降で学習する薬学系専門科目に現れる微分方程式が自力で解けること、それらの教科書の数学的記述の部分がスラスラ読めるようになる(数学を使う2年次以降の専門科目が余裕でわかってしまうこと、結果を覚えるのではなく本に出ている微分方程式が自力で解ける)ことを目標としたい。反応次数・反応速度定数・半減期などを数学的に表現する方法を理解し、自力で計算が進められることも課題の一つとしたい。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	1変数関数の高次導関数が計算できる。Taylor (Mac'Laurin) 展開の意味と意義を理解し、具体的にそれを求めることができる。	X-7-3-2
2	広義積分、特に無限積分の概念を理解し、それらを計算できる。これを理解していると、2年次の統計学に現れる連続型確率変数の確率計算の意味がわかる。	X-7-3-3
3	運動や反応速度に代表される現象が位置関数や濃度関数の微分によって捉えられることを理解する。反応次数・反応速度定数・半減期の数学的表現や意味を理解し、それらを求めることができる。	X-4-2-1 X-5-3-3
4	微分方程式とは何かを理解する。常微分方程式の作り方がわかる。微分方程式の解とは何かを理解する。	X-7-3-4
5	変数分離型微分方程式の意味を理解し、求積法によってそれが解ける。	X-7-3-4
6	1階線型常微分方程式の意味を理解し、求積法によってそれが解ける。	X-7-3-4
7	定数係数齊次2階線型常微分方程式を固有方程式を用いて解くことができる。固有方程式の解のあり方によって、それぞれが特有の物理現象を表現することを知る。	X-7-3-4
8	薬物動態に現れる1-コンパートメントモデルの数学的定式化について理解する。得られた微分方程式が自力で解ける。クリアランスなどの指標を数学的に組み込む方法を理解する。	E4-2-1-2

III (選択) 一般教養

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	片野	前期の1変数関数微分の復習と補足。	1
2	片野	逆3角関数と双曲線関数の定義とそれらの導関数。これらの関数はロジスティック関数として生物学などにしばしば現れる。	1
3~4	片野	1変数関数の高次導関数とTaylor展開。	1
5~6	片野	前期の積分の復習と置換積分・部分積分。	2
7	片野	広義積分(無限積分)。	2
8	片野	物理の運動方程式を微分方程式として捉える。物理現象を微分方程式として捉え、それを具体的に立てる。反応次数・反応速度定数・半減期などの数学的表現や意味を理解し、それを求める。	3, 4
9	片野	常微分方程式の意味と様々な用語の定義。「微分方程式を解く」という言葉の意味を知る。微分方程式を解くことが積分すること(求積法)であることを知る。	3, 4
10~11	片野	変数分離型の常微分方程式の解法。これは薬学で最も頻繁に現れる非常に基本的な微分方程式を含む。指数関数の特徴を微分方程式を通して捉え直す。	5, 6, 7
11~12	片野	正規形の1階線型常微分方程式の解法。これも薬学で頻繁に現れる。	5, 6, 7
13	片野	定数係数齊次2階線型常微分方程式の解法。これは物理の減衰振動などに典型的に現れる。	5, 6, 7
14	片野	薬物動態で最も基本となる1-コンパートメントモデルの微分方程式による数理モデルについて理解する。クリアランスの数学的表現の仕方を学ぶ。	8

[アクティブ・ラーニングの取り組み]

- ・講義を進行しながら、自らの手を動かして演習問題を解いたり、それらを黒板で発表する機会を多く設ける予定です。数学はわいわい議論しながらやった方が絶対楽しいし、理解も深まります。
- ・理解が深まる面白いレポート課題を適宜課します。
- ・Taylor展開やフーリエ展開の様子を数式処理ソフトを使って描画した結果などもスクリーンに映してvisual的に確認してもらいます。

〔授業で行っている工夫〕

- ・授業では、説明と演習を交互に取り入れる。
- ・演習課題を学生が黒板に書いて発表する機会をできるだけ設定します。
- ・とにかく、沢山の言葉を用いて可能な限り丁寧にゆっくり説明しています。
- ・後でノートをひっくり返したときにきちんと読めるように、板書はフルセンテンスを書くように心がけています。
- ・数式処理ソフトによる映像なども適宜ご覧にいます。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

- a) 知識：数学用語の定義や基礎的概念を明確に理解しているかどうかを授業内で常に問う。
- b) 技能：演習問題に取り組んでもらい、その解説を行って知識や理解を深める。
- c) 態度：演習問題の授業時間内での発表やレポート提出、質問などの主体的な取り組みを評価する。

2) 総括的評価

- a) 知識：定期試験により評価する。
- b) 技能：提起試験により評価する。
- c) 態度：日常の積極的な取り組みを総合的に勘案する。

〔教科書〕

片野修一郎著『微分積分学講義』（DTP 出版 ISBN978-4-86211-355-9）。
前期の数学Ⅰで使ったものです。

〔参考書〕

必要に応じて紹介します。

〔オフィスアワー〕

毎週火曜午後学習相談の時間を設けていますが、それとは無関係に質問は 2109 研究室にていつでも受け付けます。予約などは不要。

〔所属教室〕

薬学教育推進センター 2109

〔準備学習（予習・復習等）〕

前期までの学習内容が完全にわかっていること、それに尽きる。

〔教員からの一言〕

前期の数学Ⅰがあまりに基礎的な内容だったので不満を感じた人も、当講義は大学で初めて学ぶ内容がほとんどなのでやり甲斐を感じることでしょう。本格的な数学をやっていると実感することができると思います。

倫理学

Ethics

第1・2学年 前期 (選択) 一般教養 1単位

尾崎 恭一

授業計画

学習目標 (GIO) 目標は、価値多元主義社会で必須の人権尊重の倫理を、近現代の主要な倫理思想に基づいて理解し、具体的な事例に即して活用できるようになることである。

複雑で価値観の多様な現代、何が正しいかは誰でも自分の価値観から判断できるようであるが、それでは互いに合意できないことも少なくない。そこで、「価値観の相違」という聞き直りが橋を利かせもする。しかし、それでは協力的行動が何一つできなくなってしまう。

では、どうしたら皆が納得できる倫理規準を見つけ出せるのか。この課題の解決のために、まず各自が今まで経験してきた様々な倫理観の限界を検討し、次にそれを克服しようとする人権論の支えとなる近現代の倫理思想を学ぶ。その際、いくつかの具体例についてディベートやそれに基づく小論文執筆を行う。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	倫理とは何かを説明できる。	A-2-1-1、A-2-3-1、A-3-1-3
2	倫理の普遍性要請と、価値観を含む世界観の多様性の承認との関係を理解できる。	A-2-3-1、X-1-1-1
3	現存する様々な倫理観について理解し、適切に対処できる。	A-2-3-1、X-1-1-1
4	倫理の諸原則について説明できる。	A-2-1-2
5	人権について理解し、尊重できる。	A-2-1-1、A-2-3-2、A-2-3-3
6	自らの倫理観を人権尊重倫理へと向上させる方法を理解し、努力できる。	A-2-3-3
7	慣習倫理・法令会則・個人道徳の区別を理解し、各々に相応しく尊重できる。	A-2-4-3、B-1-4-1、B1-5-1

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	尾崎	倫理とは何か、どう学ぶか：事実と諸価値と行為規範、社会的な役割経験・人間関係の理解	1、2
2	尾崎	(1) 倫理とは何か ①人間関係行為は何を目的としているのか：戦略的行為・親和的行為・倫理的行為	2
3	尾崎	(1) 倫理とは何か ②倫理はどんな形で存在しているか：慣習・規則・良心	2、3
4	尾崎	(1) 倫理とは何か ③倫理的に善いとはどんなことか：利己、公平・幸福・徳性	2、3、4
5	尾崎	(1) 倫理とは何か ④倫理は時代や文化で違ってよいか：価値観の多様性・公正の普遍性	2、3、4
6	尾崎	(2) 対人倫理 ①格差主義：弱者と強者・素人と専門家 ②取引主義：外的利益、等価交換、打算と倫理の未分化	3
7	尾崎	(2) 対人倫理 ③共感主義：動機重視・価値観共有、親和性と倫理性の未分化	2、3
8	尾崎	(3) 社会維持のための社会倫理 ①秩序主義：組織優先と役割人間 ②文化相対主義：積み分け共存・自文化イデオロギー	2、3、7
9	尾崎	(4) 自律的個人の社会倫理 ①自然権思想：自己所有権原理・原始契約・政治社会と権力分立・革命権	5、6
10	尾崎	(4) 自律的個人の社会倫理 ②功利主義：最大幸福原理・幸福計算・安全確保と平等化	5、6
11	尾崎	(4) 自律的個人の社会倫理 ③人格主義：善意志・道徳法則・自律・人格自己目的原理・尊厳と価値・目的の国	5、6
12	尾崎	(5) 協働主義の実質倫理 原理主義倫理と状況倫理、適正手続きと最大幸福の統一志向・自我の自立と相互依存	2、5、6
13	尾崎	まとめ	

III (選択) 一般教養

【アクティブ・ラーニングの取り組み】

1. 発問を適切に行い、講義内容を主体的に考え理解するよう促す。
2. 積極的な思考を促すため、主要な倫理観をもとにしたディベートを実施する。
3. 次回講義のため、その基礎的な問題を予習課題とする。

【授業で行っている工夫】

1. 冒頭問題：各回の初めに問題を明示し、最小限の講義で理解の核心を確保する。
2. サブノート：講義の核心をサブノート式配布物を活用し、理解を明確にし習得しやすくする。
3. ディベート：抽象的な内容を具体的に理解するため、準備書面をもとにディベートを行う。
4. 小論文：ディベートを振り返り、理解を定着させるために小論文を作成する。
5. 中途模試：講義の全体像を明確にし定着させるため、中間まとめの模擬試験と解説を行う。
6. 中途発問：受講生の参加意識を高めるため、答え易く関心をもつ発問に心がける。

【成績評価方法】

- 1) 形成的評価
 - a) 知識: 模擬テスト、ディベート準備書面、小論文などにより行う。
 - b) 技能: ディベートでの発表、小論文により行う。
 - c) 態度: 授業での応答・出席・ディベート評価表により行う。
 - d) パフォーマンス: ディベート発表により行う。
- 2) 総括的評価
 - a) 知識: 定期テストにより行う。
 - b) 技能: 小論文により行う。
 - c) 態度: 授業出席・ディベート評価表により行う。
 - d) パフォーマンス: ディベートで発表により行う。

【教科書】

プリントを配布する。

【参考書】

- J. ハーパーマス『道徳意識とコミュニケーション行為』岩波書店
- L. コールバーグ『道徳性の発達と教育』新曜社
- J. ロック『市民政府論』岩波書店
- J. ベンサム「道徳および立法の諸原理序説」『世界の名著 (49) ベンサム / J.S. ミル』中央公論社
- 1. カント『道徳形而上学原論』岩波書店

【オフィスアワー】

水曜5時間目前後

【準備学習（予習・復習等）】

1. 予習①各回最後に提示する次回の基本問題
2. 予習②ディベート準備書面（当番）
3. 復習①プリントを手掛かりに、ニュースなどで取り上げられる医療倫理問題を考えてみよう。
4. 復習②学んだ倫理観の特徴を簡潔な文章にまとめてみよう。

【教員からの一言】

倫理学は、自然科学的な因果必然の関係とは次元が異なる、自由な行為とその責任を対象にします。それはとらえどころがない、と感じるかもしれません。しかし、本能的行動類型にとらわれた動物界と異なり、公正な秩序や規範なしには、人間の生活全般が成り立ちません。医療も、社会を支える倫理が守られて初めて安全に行われます。一人の人間として、また医療人としても、意義ある人生を送るために、対立を公正に解決する倫理を学びましょう。

哲学概論

Introduction to philosophy

第1・2学年 後期 (選択) 一般教養 1単位

宮田幸一

授業計画

学習目標 (GIO) 哲学は、人間が自分の行動を反省し、よりよい人生を送るための考え方や知識を参考材料として提供しようとするものである。よりよい人生を送るためには、自分とはどのような存在であるかということに関する自然科学的・社会科学的な考察を行うとともに、どのような生き方がよりよい生き方であるかについて、それなりに思索する必要がある。自然科学、社会科学による人間研究の成果を参照しつつ、総合的な人間学について理解する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	人間についての進化論の意義を理解する。	X-1-1-1
2	人間の心についての多様な見方を理解する。	X-1-1-1
3	近代の心身二元論について理解する。	X-1-1-1
4	哲学的な知識論、真理論について理解する。	X-1-1-1
5	哲学的な言語論について理解する。	X-1-1-1

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	宮田	哲学的人間学の課題	
2	宮田	進化論的人間観	1
3	宮田	人間の心 (1) 近代哲学における心の概念	2
4	宮田	人間の心 (2) 脳科学と心の概念	2
5	宮田	人間の行動 利己的遺伝子説の意義	1
6	宮田	心身二元論とその困難	3
7	宮田	人間の知識 (1) 合理論の考え方 アプリオリ	4
8	宮田	人間の知識 (2) 経験論の考え方 アポステリオリ	4
9	宮田	言語論的展開 フレーゲの言語哲学	5
10	宮田	前期ウィトゲンシュタインの言語哲学 『論理哲学論考』	5
11	宮田	後期ウィトゲンシュタインの言語哲学 『哲学探究』	5
12	宮田	脱構築の思想 デリダの言語思想	5

【アクティブ・ラーニングの取り組み】

レポートを提出させる。

【授業で行っている工夫】

毎時間、プリントを配布して、授業内容を明示している。

【成績評価方法】

定期試験の結果に授業への出席を加味して総合評価する。なお、出席不良者に対しては受験停止の措置を講ずることがあるので注意すること。初回のガイダンスで説明する。

【教科書】

とくに使用しない。(プリント配布)

【参考書】

授業中に紹介する。

【オフィスアワー】

授業の前後の時間。要予約。

【準備学習 (予習・復習等)】

配布プリントをよく理解する。

【教員からの一言】

初回の授業でガイダンス用プリントを配布するので、出席すること。

質問などがあれば、miyata@soka.ac.jp までメールで連絡してください。

III
一般教養
(選択)

美術・デザイン

Art and Design

第1・2学年 前期 (選択) 一般教養 1単位

新倉 慎右

学習目標 (GIO) 西洋美術を中心に、芸術がたどってきた歴史を概観する。作品を見て考えることを通して、想像力や感性といった、人として生きてゆく上で基本的かつ重要な能力を養う。それと同時に芸術がいかに当時の社会や思想と深く関わっていたかを知ること、多様な価値観の存在を認識し、主体的に考察することで柔軟な姿勢を養うことを目指す。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	造形された作品の「かたち」「色彩」「モチーフ」をよく観察し、どのように見えるか、なぜそのような表現が生まれたかについて主体的に考えることができる。	X-1-1-1 X-1-1-2
2	芸術作品が生み出された歴史的状況についての知識を持ち、社会と美術の関わりについて理解できる。	X-1-1-1 X-1-1-2 X-1-1-3

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	新倉	イントロダクション	1, 2
2	新倉	ロマネスク美術	1, 2
3	新倉	ゴシック美術	1, 2
4	新倉	ルネサンス美術 (1)	1, 2
5	新倉	ルネサンス美術 (2)	1, 2
6	新倉	ルネサンス美術 (3)	1, 2
7	新倉	バロック美術	1, 2
8	新倉	ロココ美術	1, 2
9	新倉	新古典主義	1, 2
10	新倉	印象派	1, 2
11	新倉	表現主義	1, 2
12	新倉	シュルレアリスム	1, 2
13	新倉	授業内試験	1, 2

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕
各回に記述用シートを配布し、講義ごとに設定した問題に即して記述をし、提出してもらう。

〔授業で行っている工夫〕
出来る限り数多くの美術作品をスライドにて紹介し、平易な言葉で解説する。漫然と「見る」のではなく、造形イメージに対して能動的に関わることができるよう、講義ごとに作品を1点選び、簡単な記述をしてもらう。目で見たものについて自分なりに考え、さらにそれを表明する機会を設けることで、感性の向上と自己表現力の養成を図る。

〔成績評価方法〕
出席、受講態度および期末試験により総合的に評価する。
記述シートを平常点とし、期末試験と合わせて総合評価とする。
(平常点: 50%、試験: 50%)

〔教科書〕
特になし。適宜、資料を配布する。

〔参考書〕
必要に応じ、講義中に紹介する。

〔オフィスアワー〕
講義終了後

〔準備学習 (予習・復習等)〕
特に必要なし。

〔教員からの一言〕
講義で芸術作品を目にするだけでは受け身のままですが、それについて能動的に考えることで自らの想像力を養い、感性を鍛えることができます。それゆえ、芸術に関心を持ち、主体的にそうしたことに取り組める学生の履修を希望します。

文章表現

Japanese Composition

第1・2学年 前期・後期 (選択) 一般教養 1単位

天野かおり

授業計画

学習目標 (GIO) 「書き方」とは「考え方」です。文章を書くとき、書き手は改めて自分の「考え」や「考え方」を問いただすことになります。自分なりの考えを、誰にでも理解できるように示す—これが、文章の基本です。本講義では、文章を書く際の手順を一つ一つ解説していきます。受講者は実際に作文を提出し、添削例を通して各々の文章力向上を図って下さい。また手順と共に、文章構成法に必要な「日本語表現に関する知識」も学んでいきます。今後の社会生活に要求される「的確に考えを伝える」技術を、文章で実践的に磨く講義です。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	読み手の存在を意識し、取扱説明書などの資料から「読みやすい文章」を考える。	X-9-2-1 X-9-2-2
2	わかりやすく効果的な、言葉の選択方法を学ぶ。辞書という身近な資料について知る。	X-9-2-1 X-9-2-2
3	例文を観察し、読みやすい表記の方法・資料引用の示し方を確認する。	X-9-2-1 X-9-2-2
4	主題を選択し、意見のまとめ方を考える。	X-9-2-1 X-9-2-2
5	事実と意見を識別し、文章を構成する。	X-9-2-1 X-9-2-2
6	主題に沿って、どのように材料を集めればよいかを考える。	X-9-2-1 X-9-2-2
7	材料の並べ方を工夫し、簡潔に伝える方法を探る。	X-9-2-1 X-9-2-2
8	主題と材料を生かし、文章の「設計図」を作成する。	X-9-2-1 X-9-2-2
9	目上の人へ用件を伝える手紙文を通し、敬意表現を学ぶ。	X-9-2-1 X-9-2-2
10	同一の資料をもとに、各自で内容を文章化する。そこから文体という個性を考える。	X-9-2-1 X-9-2-2
11	一般的な「レポート」の基本構成と、それにふさわしい表現を確認する。	X-9-2-1 X-9-2-2
12	小見出し・段落の種類を知り、読みやすく伝わりやすい文章を検討する。	X-9-2-1 X-9-2-2
13	他者の文章から主題・特色を正確に読み解き、自分の意見を出す。そして、それらを第三者にわかりやすく伝える文章を検討する。	X-9-2-1 X-9-2-2

III
(選択)
一般教養

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	天野	はじめに	1
2	#	文章を書くには「手順」がある	1
3	#	ことばの収集・選択—辞書を知る	2
4	#	文・ことば・表記	3
5	#	主題の選択、事実と意見の識別	4、5
6	#	主題を支える材料の収集・選択	6
7	#	材料の適切な配置、わかりやすい説明文とは	7
8	#	アウトラインの作り方	8
9	#	敬意表現と正式な手紙文	9
10	#	個性が表れる「文体」	10
11	#	レポートの基本構成、資料引用の心得	11
12	#	文章を整える「段落・トピックセンテンス」	12
13	#	まとめ	13

【アクティブ・ラーニングの取り組み】

- ・毎回アクションペーパーを配布し、講義内容に関する各自の現状について記入させている。
- ・毎回補助プリントを配布し、様々な書き手・媒体の文章（視点）に触れる機会を設けている。
- ・短い字数の課題を、数回提出させている（添削例は後日、講義内で分かち合う）。

【授業で行っている工夫】

各自の言葉や文章に関する現状について、その場で「考え」て所感を「書く」時間を設けている。これは、自分の現状を分析し、それを他者に「伝える」という行為の訓練である。なお記述内容は、積極的

に講義へ反映させ意見交換を図る。
専門性を有する薬剤師には、どのような言語感覚が求められるのか。それを継続的に自問して欲しい。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識：①講義内容に応じた質問に対し、自身の経験と照合して、具体的に表現する（リアクションペーパー）。

②講義内容が、文章構成法の全体像においてどのような位置付けにあるか理解し実践する（課題）。

2) 総括的評価

a) 知識：出席、平常点（リアクションペーパーの記述内容を含む）、提出課題から総合的に評価する。

c) 態度：繰り返しの形成的評価で向上が認められれば、それを最終評価に加味する。

d) パフォーマンス：数回の課題・最終レポートの提出時、付属の自己評価表に記入することで「他者に渡す文章としてふさわしいか」を客観視させている。

〔教科書〕

「新版文章構成法」（森岡健二、東海大学出版会）

〔参考書〕

「大学生のためのレトリック入門」（速水博司、蒼丘書林）

「理科系の作文技術」（木下是雄、中公新書）

※その他、以下の日本語表現にも積極的に触れて欲しい※

a. 医薬品・化粧品・家電製品の「取扱説明書」の文章

b. 現在、出版・掲載されている国語辞書・類語辞書（内容比較して活用することを勧める。）

c. 雑誌や新聞紙上の「書評」欄

〔オフィスアワー〕

天野 講義終了後 講師控室前にて（あらかじめ、薬学事務課に問合せること。）

〔準備学習（予習・復習等）〕

文章構成を自分はどうの手順で行っているか、自分がよく使う表現は何か、自分の文体特徴は何か、自己分析しておく。そして、それらは「他者に渡す」文章構成に相応しいか、客観的に考える。

〔教員からの一言〕

文章力向上のためにも、課題は必ず全て提出すること。

法学

Jurisprudence

第1・2学年 前期・後期 (選択) 一般教養 1単位

赤羽根 秀宜 (弁護士・薬剤師)

学習目標 (GIO) 私達は、社会生活を営むために法に関わりながら生きています。これは薬学生であっても、薬剤師として働いて行く場合でも変わりはありません。むしろ、薬剤師は、国家資格であり、法により様々な規制を受けるため、法に密接に関わっているといえるでしょう。また、医療従事者であれば、患者の自己決定権の尊重のためにインフォームドコンセントを実施する必要があるなど、人権に関する知識も重要であり、法を理解しておく必要があります。
この講義では、法の基礎知識を学び法的思考を身につけるとともに、薬剤師・薬学・医療従事者特有の法的問題についての知識も習得することを目的とします。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	法や法律とは何か及び主な法の種類 (薬剤師・薬学に関わる法律を含む) について説明できる。	F-2-1-1
2	人権の種類について説明できる。	F-1-2-1
3	人権の制限について説明できる。	F-1-2-5
4	自己決定権について説明できる。	F-1-2-5 F-1-2-6
5	意思表示・契約について説明できる。	
6	契約等の無効・取消・解除について説明できる。	
7	成年後見制度について説明できる。	F-5-1-1
8	損害賠償請求等の民法上の権利について説明できる。	
9	調剤過誤 (医療過誤) について説明できる。	F-2-6-1
10	特許権・著作権等の知的財産権について説明できる。	E3-1-7-3
11	労働法について説明できる。	F-1-3-1
12	行政法 (薬事法・薬剤師法等を含む) について説明できる。	F-2-1-3
13	刑事責任について説明できる。	
14	裁判等の法的手続について説明できる。	
15	家族法について説明できる。	

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	赤羽根	法とは何か	1
2	赤羽根	法の種類について	1
3	赤羽根	人権の種類について	2, 3, 4
4	赤羽根	契約の成立・有効性	5
5	赤羽根	契約の成立	6
6	赤羽根	家族法 (婚姻等)	15
7	赤羽根	家族法 (相続等)	15
8	赤羽根	成年後見制度・民事上の権利行使	7, 8
9	赤羽根	調剤過誤 (医療過誤) ①	9
10	赤羽根	調剤過誤 (医療過誤) ②	9
11	赤羽根	知的財産権・労働法	10, 11
12	赤羽根	行政法・刑事責任	12, 13
13	赤羽根	法的手続及びその種類	14

【アクティブ・ラーニングの取り組み】
適宜、授業中に問題点について考えてもらう時間を作っている。

【授業で行っている工夫】
なるべく具体的事例を用いて解説します。

【成績評価方法】
1) 形成的評価
2) 総括的評価
a) 知識：出席及び学期末テストの総合評価。

【教科書】
適宜レジュメや資料を配付します。

【オフィスアワー】
授業終了後適宜質問を受け付けます。

[準備学習（予習・復習等）]
特に必要ないが、法的に問題になった事件のニュース等を読んでおくとい。また、何が問題の所在になったのかを確認しておくとい

基礎情報学演習 II

Essential Information Science Practice II

第 1 学年 後期 (選択) 一般教養 1 単位

土橋 朗

倉田 香織

授業計画

学習目標 (GIO) アウトラインプロセッシングに基づく文書作成や、意思決定活動に向けた表計算ソフトウェアの利用、分子モデリング、グラフィクスプログラミング、表現ツールとしての Web 活用、医療情報に対する秘匿や認証の方法、構造化文書の作成とインターネットへの公開など Information and Communication Technology (ICT) への理解を深め、その実践能力を身に付ける。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	HTML による文書の表現方法を理解し、文書構造に則した Web ページデータの作成ができる。	X-8-1-3
2	表計算ソフトウェアを用いて汎用的な関数処理や乱数を用いた基礎的なシミュレーションを行うことができる。	X-8-2-2
3	データベース機能を用いてデータの集計処理と視覚化を行い、基礎的なデータマイニングを行うことができる。	X-8-2-2
4	ワードプロセッサのアウトライン機能を用いて、長い文書の作成と文書の構成が変更できる。	X-8-2-2
5	Desk Top Publishing (DTP) に必要な技術について説明できる。	X-8-2-2
6	ChemBioOffice を用いて有機化合物をモデリングし、その安定コンホマーを分子力学法により探索することができる。	X-8-2-3
7	ChemBioOffice を用いて有機化合物をモデリングし、分子動力学法により分子運動をシミュレーションすることができる。	X-8-2-3
8	プロテインデータバンク (PDB) からタンパク質データをダウンロードし、ChemBioOffice を用いて描画することができる。	X-8-2-3
9	グラフィクスプログラム言語である Design by Numbers (DBN) を用いて画像をプログラミングすることができる。	X-8-2-3
10	情報の秘匿と認証の仕組みを説明することができる。	X-8-1-3 X-8-1-4
11	医薬品に関する XNL 形式のデータを作成し、XSLT と CSS の仕組みを使ってインターネット上に公開することができる。	X-8-1-3 X-8-1-4

III
(選択)
一般教養

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	倉田	インターネットの高度の利用法 (1)	1
2	#	インターネットの高度の利用法 (2)	11
3	#	計算ソフトウェアの高度の利用法 (1)	2
4	#	計算ソフトウェアの高度の利用法 (2)	3
5	#	ワードプロセッサの高度の利用法 (1)	4
6	#	ワードプロセッサの高度の利用法 (2)	5
7	土橋・倉田	インターネットの高度の利用法 (3)	10
8	土橋	ChemBioOffice を使って分子モデリングを学ぶ (1)	6
9	#	ChemBioOffice を使って分子モデリングを学ぶ (2)	6、7
10	#	ChemBioOffice を使って分子モデリングを学ぶ (3)	6、8
11	#	ChemBioOffice を使って分子モデリングを学ぶ (4)	6、7、8
12	#	Design by Numbers (DBN) を使ってプログラムを読む、書く (1)	9
13	#	Design by Numbers (DBN) を使ってプログラムを読む、書く (2)	9

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕
作成したレポートで、e ポートフォリオを作成してもらう。

〔授業で行っている工夫〕
基礎情報学演習 II は演習を主体とし、各テーマに沿って操作手順を示したプリントを作成し、演習を行っています。また、各テーマ終了時に課題を課し、各自で PC 活用の習熟度を評価できるようにしています。

すべての講義プリントを WebClass で公開します。
一部の課題を除き、課題は WebClass に提出してもらいます。また、出席カードを用いて講義への感想や質問を収集し、回答を行っています。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

- a) 知識：
b) 技能：演習時間内に、PC 操作の手法についてこまめにフィードバックする。

2) 総括的評価

- a) 知識：単位認定課題の内容（50 %）と提出状況（20 %）、出席状況および自己評価（30 %）を加味して総合的に評価する。
b) 技能：知識に準じる。
なお、出席不良者（1/3 以上の欠席者）および課題提出不良者（1/3 以上の未提出）に対しては単位を認定しない場合がある。

【教科書】

各テーマに沿って操作手順を示したプリントを作成している。

【参考書】

特に指定しない。

【オフィスアワー】

特に設定しませんが、できれば前もって予約をしてください。

【所属教室】

土橋 朗 情報教育研究センター DR 棟 4 階 センター長室
倉田 香織 情報教育研究センター DR 棟 4 階 センター教員室

【準備学習（予習・復習等）】

講義前に Web Class へ講義資料を配布するので、事前に読んでおくこと。
参考資料や課題を配布するので、よく読んで理解に努めること。

計算科学

Computational Science

第1・2学年 後期 (選択) 一般教養 1単位

横島 智、緒方 浩二

授業計画

学習目標 (GIO) 薬学、ひいては科学全体への理解を深めるために、コンピューターを活用して何が出来るのか、その利点と限界を、具体的にソフトウェアを利用しながら学ぶ。主に量子化学計算と分子動力学計算を扱い、この講座の修了後は、興味を持った分子について、この2つの計算手法については、自分で計算していくことが出来るようになることを目標とする。加えて、コンピューターを使っていく上で大事な点は、他の計算科学についても同様であることが多いので、その都度、他の計算科学の話題にも触れていき、コンピューターを主体的に使いこなす上での考え方や技能を習得する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	化学結合の様式について説明できる。	C1-1-1-1
2	分子軌道の基本概念および軌道の混成について説明できる。	C1-1-1-2
3	共役や共鳴の概念を説明できる。	C1-1-1-3
4	分子軌道を計算できる。	
5	分子の振動について説明できる。	
6	赤外吸収スペクトルを計算できる。	
7	紫外可視吸収スペクトルを計算できる。	
8	タンパク質の折りたたみ過程について概説できる。	Y-3-6-2
9	タンパク質の立体構造の自由度について概説できる。	Y-3-6-1
10	分子模型、コンピューターソフトなどを用いて化学物質の立体構造をシミュレートできる。(知識・技能)	Y-3-20-1
11	ドラッグデザインにおけるコンピューターの利用法を説明できる。	Y-3-38-4

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	横島	計算科学の概略	
2	横島	量子化学計算 (分子軌道)	1,2,4
3	横島	量子化学計算 (構造最適化)	
4	横島	量子化学計算 (振動解析)	5,6
5	横島	量子化学計算の計算科学的背景	
6	緒方	創薬における計算科学の役割	11
7	横島	量子化学計算 (励起状態)	3,7
8	横島	分子動力学計算 (構造の作成)	
9	横島	分子動力学計算 (構造最適化)	
10	横島	分子動力学計算の計算科学的背景	8,9
11	横島	分子動力学計算 (温度一定のシミュレーション)	10
12	横島	分子動力学計算 (物理量の計算)	10
13	横島	計算科学の様々な技法と薬学と関係したトピックス	11

【アクティブ・ラーニングの取り組み】

授業中に実際にノートパソコンにソフトをインストールして計算を行ってもらう。また、プログラミングにも少し取り組む。

【授業で行っている工夫】

各单元において、パソコンを用いて具体的な問題に取り組んでもらうことで、パソコンを活用するノウハウを段階を踏みながらその場で身につけることが出来る。また、プログラミングの基礎を少しではあるが学ぶことで、ソフトウェアをただ使うばかりでなく、その背景にあるものを意識できるようになる。

【成績評価方法】

1) 形成的評価

知識、技能:授業中に見回りながら確認していく。

態度:コンピューターを使って計算をしていく上で心がけなければいけないことを授業中に見回りながら指摘していく。

2) 総括的評価

知識:計算課題の提出物の内容を評価する。

技能:計算課題を実行し提出すること自体が技能評価の対象である。

【教科書】

特に教科書は指定せず、適宜資料を与える。

【参考書】

III
一般教養
(選択)

量子化学については
 「量子化学入門（上）、（下） 米沢貞次郎、他著 化学同人」
 がよく書けている。
 分子動力学については
 「コンピューター・シミュレーションの基礎（第2版）分子のミクロな性質を解明するために 岡崎進・吉井範行著 化学同人」
 が詳しい。

【オフィスアワー】
 いつでも可。

【所属教室】
 薬学教育推進センター（研究1号館1階1105）
 普段、医療薬学研究棟2階の一番奥の部屋にいます。

【準備学習（予習・復習等）】
 計算などでコンピューターを使うので、必ず、毎授業コンピューターを持参してきて下さい。また、WebClassに授業で使うスライドを載せますので、予習、復習のために活用して下さい。

【教員からの一言】
 きちんと身につけることができれば、他の授業で出てきた興味ある分子の性質を、自分で計算して調べたりすることもできます。ただ、計算は時間がかかるものなので、何でも簡単に計算できるとは思わないで下さい。

基礎栄養学

Basic Nutrition

第1学年 前期・後期 (選択) 一般教養 1単位

安藤 堅

授業計画

学習目標 (GIO) 栄養の偏りや不規則な食事など、食生活の乱れが肥満や生活習慣病の発症に繋がることを理解する。健康の維持や増進に必要な栄養摂取 (食生活) に関する基本的な知識を習得するとともに、自らの食生活の実態を知ることによって健康を意識し、健康の維持や増進に適切な食習慣の獲得をめざす。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	健康とはなにか、健康の維持増進における栄養摂取の重要性について理解する。	D1-1-1-1, D1-3-1-8
2	栄養素の役割と働き、栄養的な価値を説明できる。	C6-2-1-1, C6-2-2-1, C6-2-2-2, C6-2-3-1, C6-2-6-1, C6-2-7-1, D1-3-1-1, D1-3-1-2, D1-3-1-3
3	食品に含まれる非栄養素成分の機能性と有用性について説明できる。	D1-3-1-4
4	食品のエネルギーの利用やエネルギー代謝について説明できる。	C6-5-1-1, D1-3-1-5
5	自己の必要エネルギー量の概要を知り、食生活に役立てることができる。	C6-5-1-1, D1-3-1-5
6	栄養素の過不足と生活習慣病との関わりについて説明できる。	D1-3-1-7, D1-2-3-1, D1-2-3-2
7	食生活と生活習慣病との関わりについて討議する。	D1-2-3-3
8	我が国の健康増進政策 (食育) について概説できる。	D1-2-1-2
9	食事摂取基準について説明できる。	D1-3-1-6
10	摂食調節に関わる生理活性物質を挙げ、その作用機構について説明できる。	C7-2-2-1, C7-2-6-1
11	栄養補給と日内リズムとの関わりについて説明できる。	C7-2-2-1
12	生活習慣病発症予防のために、個々のライフスタイルに応じた適切な食生活のあり方を提供できる。	F-5-3-4

III (選択) 一般教養

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	安藤	導入 (健康とは、栄養とは) 食生活調査 (プレ調査) (演習)	1
2	"	食品成分 (栄養素) の種類と働き	2
3	"	食品成分 (非栄養素) の機能性と有用性	3
4	"	食品の成分変化と栄養	2, 3
5	"	食品のエネルギーとその利用、ライフスタイル (身体活動) と栄養必要量	4, 5
6	"	小テスト (中間評価)	1-5
7	"	栄養素の過不足と生活習慣病、我が国の栄養摂取の現状	6
8	"	我が国の食育・健康増進対策	8
9	"	食事摂取基準の概念と利用法	9
10	"	食生活調査 (ポスト調査) と討論 (演習)	1-9, 12
11	"	食欲と摂食調節	10
12	"	からだのリズムと栄養	11
13	"	小テスト (総合評価)	1-12

【アクティブ・ラーニングの取り組み】

講義プリントを配布し、講義を進行しながらプリント内の空欄部分を記入させるようにしている。日々の生活活動状況と食事内容 (栄養バランス) を記録することにより継続した健康管理を行うとともに、健康維持のための適切な食生活とは何かを考えてもらう。

【授業で行っている工夫】

食生活調査 (プレ、ポスト) を行い、意識の向上に努めている。授業で学んだことが日々の食生活に活かせるように、普段摂っている食材を題材としてとりあげている。

1年生の「健康科学」「生化学I」「生物学」「細胞生物学」とともに、2年生の「栄養と食品機能」「健康保持と疾病予防」など健康の維持増進に関連する科目の理解度を上げるための導入講義としての役割を意識し、講義の途中で小テストを実施し、基礎的知識を身につけさせている。

【成績評価方法】

1) 形成的評価

知識：講義や演習中に適宜口頭試問やチェックテストなどを行う。

技能：生活活動状況や食事内容が適切に記録できているかどうか評価し、フィードバックする。
 態度：受講態度（演習に対する取り組みや出席状況など）から評価し、フィードバックする。

2) 総合的評価

知識：レポート内容と小テストにより評価する。

技能：生活活動状況や食事内容の記録から、適切な食生活のあり方を考察できるか評価する。

態度：受講態度（演習に対する取り組みや出席状況など）から総合的に評価する。

パフォーマンス：自己点検チェックシートを用いて、各SBOの到達度を学生自身が評価する。

〔教科書〕
 指定しない。

〔参考書〕
 最新衛生薬学（別府正敏、平塚明 編集 廣川書店）
 日本人の食事摂取基準 2015年版（第一出版）

〔オフィスアワー〕
 原則いつでも可。衛生化学教室 研究棟1号館402-2号

〔所属教室〕
 衛生化学教室

〔準備学習（予習・復習等）〕

WebClassに予め講義資料をアップしておくので、しっかり読んで授業に臨んでください。授業は、1年科目の「生化学I」「生物学」「細胞生物学」「健康科学」と並行して進みます。これらの講義で扱う生体分子（糖質、タンパク質、脂質、ビタミン、ミネラル）やエネルギー代謝に関する内容を十分に予習、復習してください。

IV
(選択)
外国語

●総合科目

[外国語]

英語検定Ⅰ	174
英語検定Ⅱ	175
英会話Ⅰ	176
英会話Ⅱ	177
ドイツ語Ⅰ	178
ドイツ語Ⅱ	180
中国語Ⅰ	181
中国語Ⅱ	182
フランス語Ⅰ	183
フランス語Ⅱ	185

英語検定 I

English for Proficiency Tests I

第 1・2 学年 前期 (選択) 外国語 1 単位

大野 真
神田 玲子
首藤 理彩子

学習目標 (GIO) 就職の際にも重要な TOEIC や英検などの英語能力検定試験に対応する基礎力を養うために、問題演習を行って設問形式に慣れながら、リスニング力と速読力を養い、頻出語彙と文法事項を取得する。目標としては、全員が TOEIC550 点あるいは英検二級、上位者は TOEIC700 点以上あるいは英検準一級を目指す。着実な語彙力と文法知識を基盤とした上で、ナチュラルスピードの英文を聞き取り、また、素早く文章の大意を把握する訓練を積む。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	各種検定試験 (TOEIC、英検、TOEFL) の特徴を理解する。	X(3) (薬学の基礎としての英語)
2	ラジオ講座の活用法を理解する。	X-3-3
3	検定試験の問題形式と傾向を理解する。	X-3
4	まとまった文章を聞き取ることができる。	X-3-3
5	まとまった文章を速読して内容を理解できる。	X-3-1
6	検定試験に必要な文法事項を習得する。	X-3-2
7	検定試験に必要な語彙を習得する。	X-3-2

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1		前期授業のイントロダクション	1, 2
2~12		前期テキストの演習	3~7
13		前期試験	3~7

【アクティブ・ラーニングの取り組み】
レポートの提出あるいは小テストを頻繁に実施する。

【授業で行っている工夫】
大学内で TOEIC 試験を定期的に行っているため、その結果を分析し、学生の苦手とする部分を重点的に指導する。

【成績評価方法】

- 1) 形成的評価
 - a) 知識：演習問題を繰り返し行う。
 - b) 態度：提出物、受講態度を評価する。なお、出席不良者に対しては定期試験受験停止の措置を講じることがあるので注意すること。
 - d) パフォーマンス：課題レポートを作成させ、提出させている。
- 2) 総括的評価
 - a) 知識：定期試験、提出物、受講態度を総合的に評価する。
 - c) 態度：繰り返しの形成的評価で改善が認められれば合格とする。なお、受講者は積極的に英検や TOEIC を受験するように心がけて欲しい。
 - d) パフォーマンス：課題レポートを作成させ、提出させている。

【教科書】
鶴岡公幸他『シチュエーションごとに解く TOEIC 完全対策問題集』(松柏社)

【参考書】
「ビジネス英語 (入門、実践)」等のラジオ講座

【オフィスアワー】
大野 真 いつでも可。但し、要予約。
非常勤講師 薬学事務課にて 薬学部事務にて要予約。

【所属教室】
大野 真 第 2 英語研究室 研究 2 号館 207 号

【準備学習 (予習・復習等)】
テキストやプリントの予習・復習を行い、授業内容を着実に消化してください。重要語句・構文を英語で正確に書けるようにすること。

英語検定 II

English for Proficiency Tests II

第1・2学年 後期 (選択) 外国語 1単位

大野 真
神田 玲子
首藤 理彩子

授業計画

学習目標 (GIO) 就職の際にも重要な TOEIC や英検などの英語能力検定試験に対応する基礎力を養うために、問題演習を行って設問形式に慣れながら、リスニング力と速読力を養い、頻出語彙と文法事項を取得する。目標としては、全員が TOEIC550 点あるいは英検二級、上位者は TOEIC700 点以上あるいは英検準一級を目指す。着実な語彙力と文法知識を基盤とした上で、ナチュラルスピードの英文を聞き取り、また、素早く文章の大意を把握する訓練を積む。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	各種検定試験 (TOEIC、英検、TOEFL) の特徴を理解する。	X(3) (薬学の基礎としての英語)
2	ラジオ講座の活用法を理解する。	X-3-3
3	検定試験の問題形式と傾向を理解する。	X-3
4	まとまった文章を聞き取ることができる。	X-3-3
5	まとまった文章を速読して内容を理解できる。	X-3-1
6	検定試験に必要な文法事項を習得する。	X-3-2
7	検定試験に必要な語彙を習得する。	X-3-2

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1		後期授業のイントロダクション	1, 2
2~12		後期テキストの演習	3~7
13		後期試験	3~7

【アクティブ・ラーニングの取り組み】
レポートの提出あるいは小テストを頻繁に実施する。

【授業で行っている工夫】
大学内で TOEIC 試験を定期的実施しているので、その結果を分析し、学生の苦手とする部分を重点的に指導する。

【成績評価方法】

- 1) 形成的評価
 - a) 知識：演習問題を繰り返し行う。
 - b) 態度：提出物、受講態度を評価する。なお、出席不良者に対しては定期試験受験停止の措置を講じることがあるので注意すること。
 - c) パフォーマンス：課題レポートを作成させ、提出させている。
- 2) 総括的評価
 - a) 知識：定期試験、提出物、受講態度を総合的に評価する。
 - b) 態度：繰り返しの形成的評価で改善が認められれば合格とする。なお、受講者は積極的に英検や TOEIC を受験するように心がけて欲しい。
 - c) パフォーマンス：課題レポートを作成させ、提出させている。

【教科書】

鶴岡公幸他『シチュエーションごとに解く TOEIC 完全対策問題集』(松柏社)

【参考書】

「ビジネス英語 (入門、実践)」等のラジオ講座

【オフィスアワー】

大野 真 いつでも可。但し、要予約。
非常勤講師 薬学事務課にて 薬学部事務にて要予約。

【所属教室】

大野 真 第2英語研究室 研究2号館 207号

【準備学習 (予習・復習等)】

テキストやプリントの予習・復習を行い、授業内容を着実に消化してください。重要語句・構文を英語で正確に書けるようにすること。

IV (選択) 外国語

英会話 I

English Conversation I

第 1・2 学年 前期 (選択) 外国語 1 単位

Donna McInnis
Sebastian Brooke
Jack Witt

学習目標 (GIO) The ability to speak English is becoming more and more of a necessity for working professionals in Japan. The aim of the class is to help students with limited speaking skills to become more comfortable and more fluent. Possible ways of learning include: using a textbook, using and making videos, music, global issues, debate, watching DVDs, and public speaking.
Schedule (subject to change depending on students' interests and motivations)

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	Students will learn proper pronunciation.	
2	Students will learn vocabulary and to distinguish between sounds at the word level.	
3	Students will learn vocabulary and to distinguish between sounds at the sentence level.	
4	Students will learn how spoken English naturally sounds and is produced.	
5	Students will practice listening for everyday conversation.	
6	Students will practice asking and answering questions for everyday conversation.	
7	In regard to various themes, students will be asked to think critically and ask and answer questions.	

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1-14		To be determined.	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7

【アクティブ・ラーニングの取り組み】
Students will be expected to actively participate in class and do any necessary homework.

【授業で行っている工夫】
This will be determined in consultation with the students.

【成績評価方法】
1) 形成的評価
a) 知識：提出物を小まめに出させる。
d) パフォーマンス：課題レポートを作成させ、提出させている。
2) 総括的評価
a) 知識：毎回の授業の受講態度、提出物、小テスト、前・後期 2 回の期末試験の成績を総合して評価する。
d) パフォーマンス：課題レポートを作成させ、提出させている。

【教科書】
Brooke: English File (intermediate) Student's Book will be used.
McInnis: A video will be used to highlight global issues.
Witt: To be decided.

【参考書】
Each student must have a good dictionary.

【オフィスアワー】
Donna McInnis, Jack Witt, and Sebastian Brooke 講師控室にて。 薬学事務課に要予約。

【準備学習 (予習・復習等)】
テキストやプリントの予習・復習を行い、授業内容を着実に消化してください。重要語句・構文を英語で正確に書けるようにすること。

英会話 II

English ConversationII

第1・2学年 後期 (選択) 外国語 1単位

Donna McInnis

Sebastian Brooke

Jack Witt

学習目標 (GIO) The ability to speak English is becoming more and more of a necessity for working professionals in Japan. The aim of the class is to help students with limited speaking skills to become more comfortable and more fluent. Possible ways of learning include: using a textbook, using and making videos, music, global issues, debate, watching DVDs, and public speaking.

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	Students will learn proper pronunciation.	
2	Students will learn vocabulary and to distinguish between sounds at the word level.	
3	Students will learn vocabulary and to distinguish between sounds at the sentence level.	
4	Students will learn how spoken English naturally sounds and is produced.	
5	Students will practice listening for everyday conversation.	
6	Students will practice asking and answering questions for everyday conversation.	
7	In regard to various themes, students will be asked to think critically and ask questions.	

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1		Introduction to the course and determination of class content.	7
2-14		We will study about English and how to use it naturally and appropriately. Many of the exercises will be related to healthcare issues, economics, social issues, etc.... In general, the topics covered in the course will be useful to future pharmacists.	1, 2, 3, 4, 5, 6, and 7

【アクティブ・ラーニングの取り組み】

Students will be expected to actively participate in class and do any necessary homework.

【授業で行っている工夫】

This will be determined in consultation with the students.

【成績評価方法】

1) 形成的評価

- a) 知識：提出物を小まめに出させる。
- d) パフォーマンス：課題レポートを作成させ、提出させている。

2) 総括的評価

- a) 知識：毎回の授業の受講態度、提出物、小テスト、前・後期2回の期末試験の成績を総合して評価する。
- d) パフォーマンス：課題レポートを作成させ、提出させている。

【参考書】

Each student must have a good dictionary.

【オフィスアワー】

Donna McInnis, Jack Witt, and Sebastian Brooke 講師控室にて。薬学事務課に要予約。

【準備学習（予習・復習等）】

テキストやプリントの予習・復習を行い、授業内容を着実に消化してください。重要語句・構文を英語で正確に書けるようにすること。

授業計画

IV (選択)
外国語

ドイツ語 I

German I

第1・2学年 前期 (選択) 外国語 1単位

坪谷 準治

渡辺 幸子

学習目標 (GIO) ドイツ語の最初歩をアルファベットから学びます。日本語はもちろん、英語との類似点や相違点を明らかにしながら、基本レベルのドイツ語文法を理解し、ドイツ語で簡単なコミュニケーションをはかれるようになります。また、ドイツ語やドイツ語圏の文化について理解を深めることをあわせて目標とします。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	ドイツ語の発音の特徴を理解し、未知の単語もつづりを見て発音できるようになる。	X-1-1-2
2	ドイツ語の初級文法の仕組みを体系的に理解する。	X-1-1-1, X-1-1-2
3	ドイツ語技能検定4級に合格できる程度の基礎的総合力をつける。	X-1-1-2
4	ドイツ語圏の文化や芸術に親しみ、日本と比較しながら日本やドイツ語圏のありようを考える。	X-1-1-1, X-1-1-2, X-1-1-3, X-1-1-6
5		

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1		前期授業のイントロダクション/アルファベット	1
2		つづりと発音/あいさつ	1, 2, 3, 4
3		ドイツのなかの日本/人称代名詞、動詞の現在人称変化、	2, 3, 4
4		動詞の位置、sein と haben の現在人称変化	2, 3, 4
5~6		ドイツビールとワイン/名詞の性、定冠詞と不定冠詞、名詞の複数形	2, 3, 4
7		ベルリン/名詞の格変化	2, 3, 4
8~9		ドイツとEU/不規則動詞の現在人称変化、命令形	2, 3, 4
10~11		インターンシップ/冠詞類、否定表現	2, 3, 4
12		ドイツのパン/人称代名詞の格変化、前置詞	2, 3, 4
13		まとめと試験	

【アクティブ・ラーニングの取り組み】
文法項目ごとに補助プリントを配布し、講義を進めながら空欄に記入させている。毎回宿題を課し、学生を指名して解答を求めている。また、期末テストとは別に小テストを複数回実施し、学習到達度を学生自身が客観的に確認できるようにしている。

【授業で行っている工夫】
板書はもちろん、空欄補充式の補足プリントによる丁寧な文法解説と問題演習、耳からも発音を習得できるように、繰り返しをいとわない発声練習と聞き取り練習、ドイツ語圏への関心を高めるための映像資料の活用。

【成績評価方法】

- 1) 形成的評価
 - a: 知識 小テスト、提出課題、毎回の宿題などにより行う。
 - c: 態度 受講態度 (出席状況など) により評価する。
- 2) 総括的評価
 - a: 知識 定期試験、平常点 (出席、小テスト、提出物) により総合的に評価する。
 - c: 態度 受講態度 (出席状況など) により評価する。

【教科書】

春日正男、松澤淳 著 『DVD わかるぞドイツ語! みえるぞドイツ!』(朝日出版社)

【参考書】

辞書と合わせて初回の授業で紹介する。

【オフィスアワー】

水曜午後 薬学事務課にて

【準備学習 (予習・復習等)】

毎回の授業で、予習と復習を兼ねた宿題が出ますので、授業内容をきちんと消化できるよう、必ずやってくるようにしてください。

【教員からの一言】

ドイツ語は、ひと昔前のような医療関係者必須の言語ではなくなりましたが、カルテやアレルギーといった、ドイツ語に由来する薬や病名などの名称は、今でもたくさん使われています。英語と同じ系統をもつ言語ですが、その違いをきちんと把握できれば、英語や日本語をもより深く理解できるようになります。わからない部分は積極的に質問してください。

〔備考〕

独和辞典は毎回持参のこと。

授業計画



ドイツ語Ⅱ

German II

第1・2学年 後期 (選択) 外国語 1単位

坪谷 準治

渡辺 幸子

学習目標 ドイツ語Ⅰの学習内容を定着・発展させ、ドイツ語で簡単なコミュニケーションをはかれるようにする。(GIO) また引き続きドイツ語圏の文化について理解を深めることをあわせて目標とする。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	ドイツ語の初級文法の仕組みを体系的に理解する。	X-1-1-2
2	自分の意志や希望を伝え、出来事を報告するなどの易しい会話表現を習得する。	X-1-1-1、X-1-1-2
3	ドイツ語技能検定4級に合格できる程度の基礎的総合力をつける。	X-1-1-2
4	ドイツ語圏の文化や芸術に親しみ、日本と比較しながら日本やドイツ語圏のありようを考える。	X-1-1-1、X-1-1-2、X-1-1-3、X-1-1-6

授業内容

回数	担当	内容	対応(SBOs)
1		後期授業のイントロダクション/前期の復習	1、3
2~3		余暇/話法の助動詞、未来形、従属接続詞	1、2、3、4
4~5		ミュンヘン/分離動詞と非分離動詞、再帰動詞、非人称のes	1、2、3、4
6		オクトーバーフェスト/形容詞	1、2、3、4
7~8		サッカー/三基本形、過去形	1、2、3、4
9~10		環境問題/完了形	1、2、3、4
11~12		クリスマス/比較、zu不定詞	1、2、3、4
13		まとめとテスト	1、2、3、4

【アクティブ・ラーニングの取り組み】

文法ごとに補助プリントを配布し、講義を進めながら空欄に記入させている。宿題を毎回課し、学生を指名して解答を求めている。また、期末テストとは別に小テストを実施し、学習到達度を学生自身も客観的に確認できるようにしている。

【授業で行っている工夫】

板書はもちろん、空所補充式の補足プリントによる丁寧な文法解説と問題演習、耳からも発音を習得できるように繰り返しをいとわない発声練習、ドイツ語圏への関心を高めるための映像資料の活用。

【成績評価方法】

1) 形成的評価

a: 知識 小テスト、提出課題、毎回の宿題などにより行う。

c: 態度 受講態度(出席状況など)により評価する。

2) 総括的評価

a: 知識 定期試験、平常点(出席、小テスト、提出物)により総合的に評価する。

c: 態度 受講態度(出席状況など)により評価する。

【教科書】

春日正男、松澤淳著 『DVD わかるぞドイツ語!みえるぞドイツ!』(朝日出版社)

【オフィスアワー】

水曜午後 薬学事務課にて

【準備学習(予習・復習等)】

毎回の授業で、予習や復習を兼ねた宿題が出ますので、授業内容をきちんと消化できるよう、宿題は必ずやってくるようしてください。

【教員からの一言】

ドイツ語は、ひと昔前のような医療関係者必須の言語ではなくなりましたが、カルテやアレルギーといった、ドイツ語に由来する薬や病名などの名称は今でもたくさん使われています。英語と同じ系統の言語ですが、その違いをきちんと把握できれば、英語や日本語もより深く理解できるようになります。わからない部分は積極的に質問してください。

【備考】

独和辞典は毎回持参のこと。

中国語 I

Chinese I

第 1・2 学年 前期 (選択) 外国語 1 単位

三浦 久仁子

授業計画

学習目標 中国語の初歩的学習事項を理解・習得し、読み書き及び簡単な会話ができる。
(GIO)

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	各回の学習事項に基づき、簡単な読み書き・会話が行なえる。	

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1		授業の説明 / 中国語とは 発音編① 中国語の発音表記 (ピンイン)・音節・アクセント (四声)・母音 (韻母)	
2		発音編② 子音 (声母)・声調変化・アル化 発音練習: 数字①・地名	
3		発音編③ 発音練習: 簡単な会話・数字②・時刻・お金・年齢	
4		第 1 課 人称代詞・主語+述語の文型 (動詞)・疑問文①・否定文	
5~6		第 2 課 指示代詞 (事物)・主語+述語の文型 (形容詞)・疑問文②・疑問詞①	
7~8		第 3 課 助詞「的」・動詞「是」・日付と曜日・疑問詞②	
9~10		第 4 課 目的語をとる動詞述語文・時間	
11~12		第 5 課 数量詞・指示代詞 (場所)・動詞「有」	
13		学期末テスト	

IV (選択)
外国語

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

- ・空欄記入式の補助プリント配布
- ・復習のため各課ごとに小テストを実施
- ・各回できる限り多くの学生に発言させる

〔授業で行っている工夫〕

中国語を学ぶ上で文化的な背景も理解するため視聴覚教材なども使用する。

〔成績評価方法〕

- ・期末試験 (持ち込み不可) の結果と平常点 (出席状況・授業態度・小テストの結果・課題の提出状況) を総合して評価する。
- ・教室に来ているだけで授業に参加していない者は欠席とみなす場合があるので注意すること。また、受講状況不良のものに対しては受験停止の措置などを講ずる場合があるので注意すること。

〔教科書〕

『文法をとおして学ぶ中国語 PLUS』(依藤醇・石田友美・桑野弘美・島田亜美・森山美紀子 共著 / 好文出版)

〔オフィスアワー〕

講義終了後

〔準備学習 (予習・復習等)〕

予習: 授業の前に今回学ぶであろう部分に目を通し何を学ぶのか確認しておいてください。

復習: 中国語は日本の漢字と異なる形のものがあります。きちんと書けるかその都度書いてみてください。また、教科書についている CD を音楽プレーヤーなどに入れ聞くようにし、耳に中国語を印象づけてください。

〔教員からの一言〕

- ・中国語をはじめて学ぶ人を対象とした授業です。(学習経験者・母語話者等には勧められません。)
- ・各自教科書を購入して持参してください。
- ・授業では各自声を出して発音練習をしたり、文章を音読することも求められますので承知のうえで受講してください。

中国語Ⅱ

Chinese II

第1・2学年 後期 (選択) 外国語 1単位

三浦 久仁子

学習目標 前期に引き続き、中国語の初歩的学習事項を理解・習得し、読み書き及び簡単な会話ができる。
(GIO)

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	各回の学習事項に基づき、簡単な読み書き・会話が行なえる。	

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1~2		第6課 方位詞・動詞「在」・介詞「在」	
3~4		第7課：可能の助動詞	
5~6		第8課：願望の助動詞 必要・義務を表す助動詞	
7~8		第9課：動詞の後ろの助詞「了」と文末の助詞「了」	
9~10		第10課：経験を表す助詞・数量補語	
11		第11課：進行を表す「在」 持続を表す「着」	
12		第12課：存現文	
13		学期末テスト	

- 〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕
- ・空欄記入式の補助プリント配布
 - ・復習のため各課ごとに小テストを実施
 - ・各回できる限り多くの学生に発言させる

〔授業で行っている工夫〕
中国語を学ぶ上で文化的な背景も理解するため視聴覚教材なども使用する。

〔成績評価方法〕

- ・期末試験（持ち込み不可）の結果と平常点（出席状況・授業態度・小テストの結果・課題の提出状況）を総合して評価する。
- ・教室に来ているだけで授業に参加していない者は欠席とみなす場合があるので注意すること。また、受講状況不良のものに対しては受験停止の措置などを講ずる場合があるので注意すること。

〔教科書〕
『文法をとおして学ぶ中国語 PLUS』（依藤醇・石田友美・桑野弘美・島田亜美・森山美紀子 共著／好文出版）

〔オフィスアワー〕
講義終了後

〔準備学習（予習・復習等）〕
予習：授業の前に教科書に目を通し前回何を勉強したか思い出しておきましょう。
そして今回学ぶであろう部分に目を通し何を学ぶのか確認しておいてください。
復習：学んだことを身につけるには、授業のあとでよく復習することが必要です。
教科書付属のCDを聞いて、本文を音読して、中国語の発音に耳が慣れるようにしましょう。

〔教員からの一言〕
授業でわかったと思って、あとで発音したり書いたりしてみると難しいことやわからないことに気づくことがあると思います。わからないことがあれば遠慮なくどんどん質問してください。

フランス語Ⅰ
French I

第1・2学年 前期 (選択) 外国語 1単位

森本 信子

学習目標 (GIO) フランス語の運用能力を身につけるために、フランス語のしくみを学習し、全体像を理解する。文法の基礎を理解し、練習問題や会話練習を通して、さまざまな場面に応じた表現を身につける。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	つづり字の規則がわかり発音できる。	X-1-1-2
2	名詞の性と数がわかる。	X-1-1-2
3	適切な冠詞を付けることができる。	X-1-1-2
4	主語代名詞を区別できる。	X-1-1-2
5	動詞の活用ができる。	X-1-1-2
6	提示表現を使うことができる。	X-1-1-2
7	否定文を作ることができる。	X-1-1-2
8	形容詞を正しく使うことができる。	X-1-1-2

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	森本	文字と発音 アルファベ、綴り字記号、発音記号と音	1
2	"	文字と発音 文字の読み方、語群の読み方	1
3, 4, 5	"	Leçon 1 名詞の性と数、冠詞	2, 3
6, 7, 8	"	Leçon 2 主語代名詞、être と avoir の直説法現在形、提示の表現	4, 5, 6
9, 10, 11	"	Leçon 3 否定形、形容詞	7, 8
12	"	学習のまとめと練習	1~8
13	"	期末試験	



- 【アクティブ・ラーニングの取り組み】
- ・綴りと発音の関係を身に着けるために、例文の音読筆写練習を授業内でも行う。
 - ・各回に小テストを実施する。
 - ・各回に学生を指名して練習問題の答えを発表させる。
 - ・学生同士の会話練習を行う。

【授業で行っている工夫】
練習問題や書き込みの豊富な教科書を使用して、自ら参加し考えながら答えを探し授業を展開する。ペアやグループでの会話練習を通して、状況に応じた実用的なフランス語を身につけるよう指導する。小テストによるフィードバックを毎回行い、予習、授業、復習の基本的な語学学習の方法を定着させて、将来の自己研さんに役立つよう指導する。

【成績評価方法】

- 1) 形成的評価
 - a) 知識：練習問題を多く解かせ、小テストを行って螺旋的に知識を定着させる。
 - b) 技能：文章の音読を推奨し、実践的な会話力をつける。
 - c) 態度：積極的な参加を推奨して観察し、こまめにフィードバックをする。
- 2) 総括的評価
 - a) 知識：定期試験、小テストを総合的に評価する。
 - b) 技能：音読、やり取り練習、課題提出を評価する。
 - c) 態度：受講態度を評価する。

【教科書】

『ル・フランセ・クレール』(清岡智比古著、白水社)

【参考書】

- 『プチロワイヤル仏和辞典』(旺文社)
- 『クラウン仏和辞典』(三省堂)
- 『コレクション フランス語3 文法』(西村、曾我、田島著、白水社)
- 『フラ語入門、わかりやすいにもホドがある』(清岡智比古著、白水社)

〔オフィスアワー〕

森本信子 月曜日 2:00～5:00 第4英語研究室 研究2号館609号室

〔所属教室〕

森本信子 第4英語研究室 研究2号館609号室

〔準備学習（予習・復習等）〕

・前回の復習小テストを毎回行います。書き取りもありますので、付属CDも聞くようにすると効果的です。

・Leçon ごとに書き込み式の単語帳がついています。宿題に出されたら埋めてきましょう。

〔教員からの一言〕

新しい言語を学ぶことは、新しいものの見方や考え方を知る第一歩です。
楽しく学んでいきましょう！

フランス語Ⅱ

French II

第1・2学年 後期 (選択) 外国語 1単位

森本 信子

授業計画

学習目標 (GIO) フランス語の運用能力を身につけるために、フランス語のしくみを学習し、全体像を理解する。文法の基礎を理解し、練習問題や会話練習を通して、さまざまな場面に応じた表現を身につける。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	動詞の活用ができる。	X-1-1-2
2	疑問文を作り答えることができる。	X-1-1-2
3	指示形容詞を使うことができる。	X-1-1-2
4	疑問形容詞を使うことができる。	X-1-1-2
5	所有形容詞を使うことができる。	X-1-1-2
6	近接未来を使うことができる。	X-1-1-2
7	近接過去を使うことができる。	X-1-1-2
8	縮約形を使うことができる。	X-1-1-2
9	疑問詞を使うことができる。	X-1-1-2

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	森本	フランス語Ⅰの復習	1
1, 2, 3	#	Leçon 4 -er 動詞の直説法現在、疑問形、疑問文に対する答え	1, 2
4, 5, 6	#	Leçon 5 指示形容詞、疑問形容詞、所有形容詞	3, 4, 5
7, 8, 9	#	Leçon 6 aller, venir の直説法現在、近接未来、近接過去、前置詞と定冠詞の縮約	1, 6, 7, 8
10, 11, 12	#	Leçon 7 finir, partir の直説法現在、疑問形容詞、疑問副詞	1, 9
13	#	期末試験	

Ⅳ
外国語
(選択)

【アクティブ・ラーニングの取り組み】

- ・綴りと発音の関係を身につけるために、例文の音読筆写練習を授業内でも行う。
- ・各回に小テストを実施する。
- ・各回に学生を指名して練習問題の答えを発表させる。
- ・学生同士の会話練習を行う。

【授業で行っている工夫】

練習問題や書き込みの豊富な教科書を使用して、自ら参加し考えながら答えを探す授業を展開する。ペアやグループでの会話練習を通して、状況に応じた実用的なフランス語を身につけるよう指導する。小テストによるフィードバックを毎回行い、予習、授業、復習の基本的な語学学習の方法を定着させて、将来の自己研さんに役立つよう指導する。

【成績評価方法】

- 1) 形成的評価
 - a) 知識：練習問題を多く解かせ、小テストを行って螺旋的に知識を定着させる。
 - b) 技能：文章の音読を推奨し、実践的な会話力をつける。
 - c) 態度：積極的な参加を推奨して観察し、こまめにフィードバックをする。
- 2) 総括的評価
 - a) 知識：定期試験、小テストを総合的に評価する。
 - b) 技能：音読、やり取り練習、課題提出を評価する。
 - c) 態度：受講態度を評価する。

【教科書】

『ル・フランセ・クレール』(清岡智比古著、白水社)

【参考書】

『プチロワイヤル仏和辞典』(旺文社)

『クラウン仏和辞典』(三省堂)

『コレクション フランス語3 文法』(西村、曾我、田島著、白水社)

『フラ語入門、わかりやすいにもホドがある』(清岡智比古著、白水社)

〔オフィスアワー〕

森本信子 月曜日 2:00~5:00 第4英語研究室 研究2号館609号室

〔所属教室〕

森本信子 第4英語研究室 研究2号館609号室

〔準備学習（予習・復習等）〕

・前回の復習小テストを毎回行います。書き取りもありますので、付属CDも聞くようにすると効果的です。

・Leçonごとに書き込み式の単語帳がついています。宿題に出されたら埋めてきましょう。

〔教員からの一言〕

新しい文法事項が増えてきます。

丁寧に1つずつ押さえていきましょう。

そのためにはまず毎回必ず出席して理解することが大切です。



V

(選択)
ゼミナール

●専門科目

[ゼミナール]

ゼミナールⅠ	188
ゼミナールⅡ	194
ゼミナールⅢ	200

ゼミナールI

Group Seminar I

第1学年 後期 (選択) ゼミナール 1単位

薬学部教員ならびに非常勤講師

学習目標 (GIO) 優れた医療人となるためには、必修科目で学ぶ基本的な知識と技能、さらには態度に加え、世の中を取り巻くさまざまな話題、課題、見解などについて、豊富な知識を持ち、的確な見識を持って行動できるようになることが望まれる。ゼミナールは少人数クラス単位で実施する選択科目であり、科目を自らの興味で選んで履修することで自主性を養い、演習、グループ討論、プレゼンテーションなどの能動的な学習方法を実践することで、優れた医療人となるための技能や態度を醸成する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	<p>【①医療人として】</p> <ol style="list-style-type: none"> 常に患者・生活者の視点に立ち、医療の担い手としてふさわしい態度で行動する。(態度) 患者・生活者の健康の回復と維持に積極的に貢献することへの責任感を持つ。(態度) チーム医療や地域保健・医療・福祉を担う一員としての責任を自覚し行動する。(態度) 患者・患者家族・生活者が求める医療人について、自らの考えを述べる。(知識・態度) 生と死を通して、生きる意味や役割について、自らの考えを述べる。(知識・態度) 一人の人間として、自分が生きている意味や役割を問い直し、自らの考えを述べる。(知識・態度) 様々な死生観・価値観・信条等を受容することの重要性について、自らの言葉で説明する。(知識・態度) 	<p>A-1-1-1 A-1-1-2 A-1-1-3 A-1-1-4 A-1-1-5 A-1-1-6 A-1-1-7</p>
2	<p>【②薬剤師が果たすべき役割】</p> <ol style="list-style-type: none"> 患者・生活者のために薬剤師が果たすべき役割を自覚する。(態度) 薬剤師の活動分野(医療機関、薬局、製薬企業、衛生行政等)と社会における役割について説明できる。 医薬品の適正使用における薬剤師の役割とファーマシューティカルケアについて説明できる。 医薬品の効果が確率的であることを説明できる。 医薬品の創製(研究開発、生産等)における薬剤師の役割について説明できる。 健康管理、疾病予防、セルフメディケーション及び公衆衛生における薬剤師の役割について説明できる。 薬物乱用防止、自殺防止における薬剤師の役割について説明できる。 現代社会が抱える課題(少子・超高齢社会等)に対して、薬剤師が果たすべき役割を提案する。(知識・態度) 	<p>A-1-2-1 A-1-2-2 A-1-2-3 A-1-2-4 A-1-2-5 A-1-2-6 A-1-2-7 A-1-2-8</p>
3	<p>【③患者安全と薬害の防止】</p> <ol style="list-style-type: none"> 医薬品のリスクを認識し、患者を守る責任と義務を自覚する。(態度) WHOによる患者安全の考え方について概説できる。 医療に関するリスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を説明できる。 医薬品が関わる代表的な医療過誤やインシデントの事例を列挙し、その原因と防止策を説明できる。 重篤な副作用の例について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。(知識・態度) 代表的な薬害の例(サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブゾン等)について、その原因と社会的背景及びその後の対応を説明できる。 代表的な薬害について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。(知識・態度) 	<p>A-1-3-1 A-1-3-2 A-1-3-3 A-1-3-4 A-1-3-5 A-1-3-6 A-1-3-7</p>
4	<p>【④薬学の歴史と未来】</p> <ol style="list-style-type: none"> 薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割について説明できる。 薬物療法の歴史と、人類に与えてきた影響について説明できる。 薬剤師の誕生から現在までの役割の変遷の歴史(医薬分業を含む)について説明できる。 将来の薬剤師と薬学が果たす役割について討議する。(知識・態度) 	<p>A-1-4-1 A-1-4-2 A-1-4-3 A-1-4-4</p>
5	<p>【①生命倫理】</p> <ol style="list-style-type: none"> 生命の尊厳について、自らの言葉で説明できる。(知識・態度) 生命倫理の諸原則(自律尊重、無危害、善行、正義等)について説明できる。 生と死に関わる倫理的問題について討議し、自らの考えを述べる。(知識・態度) 科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概説できる。 	<p>A-2-1-1 A-2-1-2 A-2-1-3 A-2-1-4</p>
6	<p>【②医療倫理】</p> <ol style="list-style-type: none"> 医療倫理に関する規範(ジュネーブ宣言等)について概説できる。 薬剤師が遵守すべき倫理規範(薬剤師綱領、薬剤師倫理規定等)について説明できる。 医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。 	<p>A-2-2-1 A-2-2-2 A-2-2-3</p>

V (選択) ゼミナール

番号	内容	コアカリとの関連コード
7	<p>【③患者の権利】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。(態度) 2. 患者の基本的権利の内容(リスボン宣言等)について説明できる。 3. 患者の自己決定権とインフォームドコンセントの意義について説明できる。 4. 知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。(知識・技能・態度) 	<p>A-2-3-1 A-2-3-2 A-2-3-3 A-2-3-4</p>
8	<p>【④研究倫理】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床研究における倫理規範(ヘルシンキ宣言等)について説明できる。 2. 「ヒトを対象とする研究において遵守すべき倫理指針」について概説できる。 3. 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規を遵守して研究に取り組む。(態度) 	<p>A-2-4-1 A-2-4-2 A-2-4-3</p>
9	<p>【①コミュニケーション】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 意思、情報の伝達に必要な要素について説明できる。 2. 言語的及び非言語的コミュニケーションについて説明できる。 3. 相手の立場、文化、習慣等によって、コミュニケーションの在り方が異なることを例を挙げて説明できる。 4. 対人関係に影響を及ぼす心理的要因について概説できる。 5. 相手の心理状態とその変化に配慮し、対応する。(態度) 6. 自分の心理状態を意識して、他者と接することができる。(態度) 7. 適切な聞き方、質問を通じて相手の考えや感情を理解するように努める。(技能・態度) 8. 適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることができる。(技能・態度) 9. 他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。(知識・技能・態度) 	<p>A-3-1-1 A-3-1-2 A-3-1-3 A-3-1-4 A-3-1-5 A-3-1-6 A-3-1-7 A-3-1-8 A-3-1-9</p>
10	<p>【②患者・生活者と薬剤師】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者や家族、周囲の人々の心身に及ぼす病気やケアの影響について説明できる。 2. 患者・家族・生活者の心身の状態や多様な価値観に配慮して行動する。(態度) 	<p>A-3-2-1 A-3-2-2</p>
11	<p>【多職種連携協働とチーム医療】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健、医療、福祉、介護における多職種連携協働及びチーム医療の意義について説明できる。 2. 多職種連携協働に関わる薬剤師、各職種及び行政の役割について説明できる。 3. チーム医療に関わる薬剤師、各職種、患者・家族の役割について説明できる。 4. 自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める。(態度) 5. チームワークと情報共有の重要性を理解し、チームの一員としての役割を積極的に果たすように努める。(知識・態度) 	<p>A-4-1-1 A-4-2-1 A-4-3-1 A-4-4-1 A-4-5-1</p>
12	<p>【①学習の在り方】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療・福祉・医薬品に関わる問題、社会的動向、科学の進歩に常に目を向け、自ら課題を見出し、解決に向けて努力する。(態度) 2. 講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。(技能) 3. 必要な情報を的確に収集し、信憑性について判断できる。(知識・技能) 4. 得られた情報を論理的に統合・整理し、自らの考えとともに分かりやすく表現できる。(技能) 5. インターネット上の情報が持つ意味・特徴を知り、情報倫理、情報セキュリティに配慮して活用できる。(知識・態度) 	<p>A-5-1-1 A-5-1-2 A-5-1-3 A-5-1-4 A-5-1-5</p>
13	<p>【②薬学教育の概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「薬剤師として求められる基本的な資質」について、具体例を挙げて説明できる。 2. 薬学が総合科学であることを認識し、薬剤師の役割と学習内容に関連づける。(知識・態度) 	<p>A-5-2-1 A-5-2-2</p>
14	<p>【③生涯学習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生涯にわたって自ら学習する重要性を認識し、その意義について説明できる。 2. 生涯にわたって継続的に学習するために必要な情報を収集できる。(技能) 	<p>A-5-3-1 A-5-3-2</p>
15	<p>【④次世代を担う人材の育成】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬剤師の使命に後輩等の育成が含まれることを認識し、ロールモデルとなるように努める。(態度) 2. 後輩等への適切な指導を実践する。(技能・態度) 	<p>A-5-4-1 A-5-4-2</p>
16	<p>【人と社会に関わる薬剤師】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人の行動がどのような要因によって決定されるのかについて説明できる。 2. 人・社会が医薬品に対して抱く考え方や思いの多様性について討議する。(態度) 3. 人・社会の視点から薬剤師を取り巻く様々な仕組みと規制について討議する。(態度) 4. 薬剤師が倫理規範や法令を守ることの重要性について討議する。(態度) 5. 倫理規範や法令に則した行動を取る。(態度) 	<p>B-1-1-1 B-1-2-1 B-1-3-1 B-1-4-1 B-1-5-1</p>



番 号	内 容	コアカリとの関連コード
17	<p>【①薬剤師の社会的位置づけと責任に係る法規範】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬剤師に関わる法令とその構成について説明できる。 2. 薬剤師免許に関する薬剤師法の規定について説明できる。 3. 薬剤師の任務や業務に関する薬剤師法の規定とその意義について説明できる。 4. 薬剤師以外の医療職種に関する法令の規定について概説できる。 5. 医療の理念と医療の担い手の責務に関する医療法の規定とその意義について説明できる。 6. 医療提供体制に関する医療法の規定とその意義について説明できる。 7. 個人情報取扱いについて概説できる。 8. 薬剤師の刑事責任、民事責任（製造物責任を含む）について概説できる。 	<p>B-2-1-1 B-2-1-2 B-2-1-3 B-2-1-4 B-2-1-5 B-2-1-6 B-2-1-7 B-2-1-8</p>
18	<p>【②医薬品等の品質、有効性及び安全性の確保に係る法規範】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の目的及び医薬品等（医薬品、医薬部外品、化粧品、医療機器、再生医療等製品）の定義について説明できる。 2. 医薬品の開発から承認までのプロセスと法規範について概説できる。 3. 治験の意義と仕組みについて概説できる。 4. 医薬品等の製造販売及び製造に係る法規範について説明できる。 5. 製造販売後調査制度及び製造販売後安全対策について説明できる。 6. 薬局、医薬品販売業及び医療機器販売業に係る法規範について説明できる。 7. 「医薬品等の取扱いに関する医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の規定について説明できる。 8. 日本薬局方の意義と構成について説明できる。 9. 生物由来製品の取扱いと血液供給体制に係る法規範について説明できる。 10. 健康被害救済制度について説明できる。 11. レギュラトリーサイエンスの必要性と意義について説明できる。 	<p>B-2-2-1 B-2-2-2 B-2-2-3 B-2-2-4 B-2-2-5 B-2-2-6 B-2-2-7 B-2-2-8 B-2-2-9 B-2-2-10 B-2-2-11</p>
19	<p>【③特別な管理を要する薬物等に係る法規範】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 麻薬、向精神薬、覚醒剤原料等の取扱いに係る規定について説明できる。 2. 覚醒剤、大麻、あへん、指定薬物等の乱用防止規制について概説できる。 3. 毒物劇物の取扱いに係る規定について概説できる。 	<p>B-2-3-1 B-2-3-2 B-2-3-3</p>
20	<p>【①医療、福祉、介護の制度】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の社会保障制度の枠組みと特徴について説明できる。 2. 医療保険制度について説明できる。 3. 療養担当規則について説明できる。 4. 公費負担医療制度について概説できる。 5. 介護保険制度について概説できる。 6. 薬価基準制度について概説できる。 7. 調剤報酬、診療報酬及び介護報酬の仕組みについて概説できる。 	<p>B-3-1-1 B-3-1-2 B-3-1-3 B-3-1-4 B-3-1-5 B-3-1-6 B-3-1-7</p>
21	<p>【②医薬品と医療の経済性】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医薬品の市場の特徴と流通の仕組みについて概説できる。 2. 国民医療費の動向について概説できる。 3. 後発医薬品とその役割について説明できる。 4. 薬物療法の経済評価手法について概説できる。 	<p>B-3-2-1 B-3-2-2 B-3-2-3 B-3-2-4</p>
22	<p>【①地域における薬局の役割】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域における薬局の機能と業務について説明できる。 2. 医薬分業の意義と動向を説明できる。 3. かかりつけ薬局・薬剤師による薬学的管理の意義について説明できる。 4. セルフメディケーションにおける薬局の役割について説明できる。 5. 災害時の薬局の役割について説明できる。 6. 医療費の適正化に薬局が果たす役割について説明できる。 	<p>B-4-1-1 B-4-1-2 B-4-1-3 B-4-1-4 B-4-1-5 B-4-1-6</p>
23	<p>【②地域における保健、医療、福祉の連携体制と薬剤師】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域包括ケアの理念について説明できる。 2. 在宅医療及び居宅介護における薬局と薬剤師の役割について説明できる。 3. 学校薬剤師の役割について説明できる。 4. 地域の保健、医療、福祉において利用可能な社会資源について概説できる。 5. 地域から求められる医療提供施設、福祉施設及び行政との連携について討議する。（知識・態度） 	<p>B-4-2-1 B-4-2-2 B-4-2-3 B-4-2-4 B-4-2-5</p>
24	<ol style="list-style-type: none"> 3. 食生活や喫煙などの生活習慣と疾病の関わりについて討議する。（態度） 5. 薬物の乱用による健康への影響について説明し、討議する。（知識・態度） <p>1. 個々の化学物質の使用目的に鑑み、適正使用とリスクコミュニケーションについて討議する。（態度）</p> <p>5. 人が生態系の一員であることをふまえて環境問題を討議する。（態度）</p>	<p>D1-2-3-3 D2-1-1-5 D2-1-2-1 D2-2-1-5</p>
25	<ol style="list-style-type: none"> 2. 代表的な疾患における薬物治療の役割について、病態、薬効薬理、薬物動態に基づいて討議する。（知識・技能） 4. 代表的薬害、薬物乱用について、健康リスクの観点から討議する。（態度） 	<p>E1-3-2-1 E1-4-4-1</p>

番号	内容	コアカリとの関連コード
26	<p>【②臨床における心構え】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前) 医療の担い手が守るべき倫理規範や法令について討議する。(態度) 2. 前) 患者・生活者中心の医療の視点から患者・生活者の個人情報や自己決定権に配慮すべき個々の対応ができる。(態度) 3. 前) 患者・生活者の健康の回復と維持、生活の質の向上に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を討議する。(態度) 4. 医療の担い手が守るべき倫理規範を遵守し、ふさわしい態度で行動する。(態度) 5. 患者・生活者の基本的権利、自己決定権について配慮する。(態度) 6. 薬学的管理を実施する際に、インフォームド・コンセントを得ることができる。(態度) 7. 職務上知り得た情報について守秘義務を遵守する。(態度) 	<p>F-1-2-1 F-1-2-2 F-1-2-3 F-1-2-4 F-1-2-5 F-1-2-6 F-1-2-7</p>
27	<p>【①医療機関におけるチーム医療】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前) チーム医療における薬剤師の役割と重要性について説明できる。 2. 前) 多様な医療チームの目的と構成、構成員の役割を説明できる。 3. 前) 病院と地域の医療連携の意義と具体的な方法(連携クリニカルパス、退院時共同指導、病院・薬局連携、関連施設との連携等)を説明できる。 	<p>F-4-1-1 F-4-1-2 F-4-1-3</p>
28	<p>GIO 研究マインドをもって生涯にわたり医療に貢献するために、薬学における研究の位置づけを理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎から臨床に至る研究の目的と役割について説明できる。 2. 研究には自立性と独創性が求められていることを知る。 3. 現象を客観的に捉える観察眼をもち、論理的に思考できる。(知識・技能・態度) 4. 新たな課題にチャレンジする創造的精神を養う。(態度) 	<p>G-1-1-1 G-1-2-1 G-1-3-1 G-1-4-1</p>
29	<p>GIO 自らが実施する研究に係る法令、指針を理解し、それらを遵守して研究に取り組む。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自らが実施する研究に係る法令、指針について概説できる。 2. 研究の実施、患者情報の取扱い等において配慮すべき事項について説明できる。 3. 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規を遵守して研究に取り組む。(態度) A-(2)-④-3 再掲 	<p>G-2-1-1 G-2-2-1 G-2-3-1</p>
30	<p>(1) 人と文化</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人の価値観の多様性が、文化・習慣の違いから生まれることを、実例をあげて説明できる。 2. 言語、歴史、宗教などを学ぶことによって、外国と日本の文化について比較できる。 3. 文化・芸術に幅広く興味を持ち、その価値について討議する。(態度) 4. 文化活動、芸術活動を通して、自らの社会生活を豊かにする。(態度) 5. 日本社会の成り立ちについて、政治、経済、法律、歴史、社会学などの観点から説明できる。 6. 日本の国際社会における位置づけを、政治、経済、地理、歴史などの観点から説明できる。 7. 宇宙・自然現象に幅広く興味を持ち、人との関わりについて説明できる。 8. 地球環境保護活動を通して、地球環境を守る重要性を自らの言葉で表現する。(態度) 	<p>X-1-1-1 X-1-1-2 X-1-1-3 X-1-1-4 X-1-1-5 X-1-1-6 X-1-1-7 X-1-1-8</p>
31	<p>【1. 人の行動とその成り立ち】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 行動と知覚、学習、記憶、認知、言語、思考、性格との関係について概説できる。 2. 行動と人の内的要因、社会・文化的環境との関係について概説できる。 3. 本能行動と学習行動について説明できる。 4. レスポンド条件づけとオペラント条件づけについて説明できる。 5. 社会的学習(モデリング、観察学習、模倣学習)について概説できる。 6. 健康行動の理論(健康信念モデル、変化のステージモデルなど)について概説できる。 	<p>X-2-1-1 X-2-1-2 X-2-1-3 X-2-1-4 X-2-1-5 X-2-1-6</p>
32	<p>【2. 動機づけ】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生理的動機、内発的動機、および社会的動機について概説できる。 2. 欲求とフラストレーション・葛藤との関連について概説できる。 3. 適応(防衛)機制について概説できる。 	<p>X-2-2-1 X-2-2-2 X-2-2-3</p>
33	<p>【3. ストレス】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 主なストレス学説について概説できる。 2. 人生や日常生活におけるストレスラーについて例示できる。 3. ストレスコーピングについて概説できる。 	<p>X-2-3-1 X-2-3-2 X-2-3-3</p>
34	<p>【4. 生涯発達】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. こころの発達の原理について概説できる。 2. ライフサイクルの各段階におけるこころの発達の特徴および発達課題について概説できる。 3. こころの発達にかかわる遺伝的要因と環境的要因について概説できる。 	<p>X-2-4-1 X-2-4-2 X-2-4-3</p>
35	<p>【5. パーソナリティ】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 性格の類型について概説できる。 2. 知能の発達と経年変化について概説できる。 3. 役割理論について概説できる。 4. ジェンダーの形成について概説できる。 	<p>X-2-5-1 X-2-5-2 X-2-5-3 X-2-5-4</p>
36	<p>【6. 人間関係】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間関係における欲求と行動の関係について概説できる。 2. 主な対人行動(援助、攻撃等)について概説できる。 3. 集団の中の人間関係(競争と協同、同調、服従と抵抗、リーダーシップ)について概説できる。 4. 人間関係と健康心理との関係について概説できる。 	<p>X-2-6-1 X-2-6-2 X-2-6-3 X-2-6-4</p>

番号	内容	コアカリとの関連コード
37	<p>[1. 基本操作]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コンピューターを構成する基本的装置の機能と接続方法を説明できる。 2. スマートフォン、タブレット端末などのモバイル機器を安全かつ有効に利用できる。(知識・技能) 3. 電子データの特徴を知り、適切に取り扱うことができる。(技能) 4. インターネットの仕組みを概説できる。 5. 無線 LAN を使用するための注意点について概説できる。 6. マナーを守り、電子メールの送信、受信、転送などができる。(技能・態度) 7. インターネットに接続し、Web サイトを閲覧できる。(技能) 8. 検索サイト、ポータルサイトの特徴に応じて、必要な情報を収集できる。(技能) 	X-8-1-1 X-8-1-2 X-8-1-3 X-8-1-4 X-8-1-5 X-8-1-6 X-8-1-7 X-8-1-8
38	<p>[2. ソフトウェアの利用]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ソフトウェア使用上のルール、マナーを守る。(態度) 2. ワードプロセッサ、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトを用いることができる。(技能) 3. グラフィックソフト、化学構造式描画ソフトを用いることができる。(技能) 4. 画像ファイルの形式とその特徴に応じて、データを適切に取り扱うことができる。(技能) 5. データベースの特徴と活用について概説できる。 	X-8-2-1 X-8-2-2 X-8-2-3 X-8-2-4 X-8-2-5
39	<p>[3. セキュリティと情報倫理]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ネットワークセキュリティについて概説できる。 2. アカウントとパスワードを適切に管理できる。(技能・態度) 3. データやメディアを適切に管理できる。(態度) 4. 著作権、肖像権、引用と転載の違いについて説明できる。 5. ネットワークにおける個人情報の取り扱いに配慮する。(態度) 6. ソーシャルネットワークサービス (SNS) の種類と特徴、留意すべき点について説明できる。 7. 情報倫理、セキュリティに関する情報を収集することができる。(技能) 8. コンピューターウイルスの侵入経路に応じて、適切な予防策を講じることができる。(技能・態度) 	X-8-3-1 X-8-3-2 X-8-3-3 X-8-3-4 X-8-3-5 X-8-3-6 X-8-3-7 X-8-3-8
40	<p>[1. プレゼンテーションの基本]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. プレゼンテーションを行うために必要な要素を列挙できる。 2. 目的に応じて適切なプレゼンテーションを構成できる。(技能) 3. 目的、場所、相手に応じた、わかりやすい資料を作成できる。(技能) 	X-9-1-1 X-9-1-2 X-9-1-3
41	<p>[2. 文書によるプレゼンテーション]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 定められた書式、正しい文法に則って文書を作成できる。(知識・技能) 2. 目的 (レポート、論文、説明文書など) に応じて適切な文書を作成できる。(知識・技能) 	X-9-2-1 X-9-2-2
42	<p>[3. 口頭・ポスターによるプレゼンテーション]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 口頭発表とポスター発表の違いと特徴について説明できる。 2. 課題に関して意見をまとめ、決められた時間内で発表できる。(技能) 3. 効果的なプレゼンテーションを行う工夫をする。(技能・態度) 4. 質問に対して的確な応答ができる。(技能) 5. 他者のプレゼンテーションに対して、優れた点および改良点を指摘できる。(知識・態度) 	X-9-3-1 X-9-3-2 X-9-3-3 X-9-3-4 X-9-3-5

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	委員会メンバー	(前期ならびに後期開始前の時期：ゼミナールガイダンスとして実施) ゼミナールの目指すもの、受動的学習と能動的学習、ゼミナール選択についてなどの総論を講義する。さらに、定期的にゼミナールアンケートを実施する	上記の SBOs ならびに各ゼミナールの分野に関する SBOs
2~15	各ゼミナール担当者	シラバス (別冊) にて指定した内容	上記の SBOs ならびに各ゼミナールの分野に関する SBOs
16	委員会メンバー	(前期ならびに後期開始前の時期：次期ゼミナールガイダンスと同時開催) ゼミナールで実施したアンケートをフィードバックする	上記の SBOs ならびに各ゼミナールの分野に関する SBOs

[アクティブ・ラーニングの取り組み]

1~2 年次に 3 種類のゼミナールを選択することによって、得意分野を伸ばし、不得意分野を克服し、まったく未知の分野に挑戦するなど、必修科目では味わえない、さまざまなことを吸収してくれることを期待しています。少人数、グループ学習を通して、問題解決能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力が徐々に醸成されてきます。3~6 年次さらには社会で求められる重要な能力ばかりです。自らの判断で有益にすごしてもらいたいと願っています。

「選択」は自己責任で行う重要なアクションです。カリキュラムは必修科目が多いので、このようなアクションをする絶好のチャンスです。ガイダンス時に配布される資料を読みこなし最も学んでみた

いゼミナールを選択してください。必修科目には無い醍醐味が味わえます。

〔授業で行っている工夫〕

ゼミナールは約90名の薬学部教員が各々1単位を開講する。テーマは各々の教員が指定する。実施例を以下に示す。テーマならびに履修に関する関連事項はガイダンス時に説明する。受講時期は1年次後期から2年次後期までであり、3単位以上を履修する。集中講義形式を基本とし、前期または後期の実習のない週の午後3週間、合計6日間に実施することを基本とする。

これまで開講されたゼミナールのタイトルを以下に例示する。

1年次後期

物理系ゼミナール（量子力学超々入門、薬剤師としての基本的な計算方法をマスターしよう、物理化学を楽しく学ぼう、物理化学を理解する）、化学系ゼミナール（ハードボイルドドラッグワンダーランド、ベーシック有機化学）、生物系ゼミナール（1年次前期の生物系科目の理解を深める、ヒトはパンのみで生きられるか、サプリメントの有効性を科学しよう、微生物を知ろう）、総合ゼミナール（病いと人間、病院薬剤師について）など

2年次前期

物理系ゼミナール（GC/MSで薬草の成分を分析してみる、日本薬局方を読みましよう）、化学系ゼミナール（ベーシックコース、アドバンスコース）、生物系ゼミナール（病気を知り薬を知り治療を考える、身近にある免疫反応の仕組みを考える、微生物と戦う、脳や神経系の働きや病気に関する科学的な記事や書物の理解に向けて）、総合ゼミナール（村上春樹を読み書き語る、薬を巡る話、DVDを作ろう・薬学生のための実用英語、ボランティア）など

2年次後期

化学系ゼミナール（国家試験対応スペクトル解析演習）、生物系ゼミナール（医学・生物学の進歩に触れる）、薬・疾病ゼミナール（薬理学を学ぶために、日本の臓器移植・何が良くて何がわるいの）、創薬ゼミナール（新聞や雑誌の記事を通してくすりを考える）、総合ゼミナール（統計学の苦手意識をなくそう、薬のデータを集めよう、ビッグファーマのマーケティング戦略を読み解く、科学と人間、低体力者への適切な運動処方およびメタボリックシンドロームに対する予防を学ぼう、米国の薬局を見学しよう、ボランティア）など

〔成績評価方法〕

提出物、参加態度等を総合的に判断する。

〔教科書〕

ゼミナール担当者が指定する。

〔参考書〕

ゼミナール担当者が指定する。

〔オフィスアワー〕

ゼミナール担当者が指定する。

〔準備学習（予習・復習等）〕

ゼミナールのコアタイムに実施されるグループ討議は、各個人のパフォーマンスレベルの高さによって質が左右されます。演習問題の回答でも、皆が十分な予習をしていることによって、質の高い解説が行われることとなります。プレゼンのための資料作りは、コアタイム以外の時間に行っていくことが前提となります。質の高いコアタイムを築くために、予習復習を十分に行ってください。



ゼミナール II

Group Seminar II

第2学年 前期 (選択) ゼミナール 1単位

薬学部教員ならびに非常勤講師

学習目標 (GIO) 優れた医療人となるためには、必修科目で学ぶ基本的な知識と技能、さらには態度に加え、世の中を取り巻くさまざまな話題、課題、見解などについて、豊富な知識を持ち、的確な見識を持って行動できるようになることが望まれる。ゼミナールは少人数クラス単位で実施する選択科目であり、科目を自らの興味で選んで履修することで自主性を養い、演習、グループ討論、プレゼンテーションなどの能動的な学習方法を実践することで、優れた医療人となるための技能や態度を醸成する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	<p>【①医療人として】</p> <ol style="list-style-type: none"> 常に患者・生活者の視点に立ち、医療の担い手としてふさわしい態度で行動する。(態度) 患者・生活者の健康の回復と維持に積極的に貢献することへの責任感を持つ。(態度) チーム医療や地域保健・医療・福祉を担う一員としての責任を自覚し行動する。(態度) 患者・患者家族・生活者が求める医療人について、自らの考えを述べる。(知識・態度) 生と死を通して、生きる意味や役割について、自らの考えを述べる。(知識・態度) 一人の人間として、自分が生きている意味や役割を問い直し、自らの考えを述べる。(知識・態度) 様々な死生観・価値観・信条等を受容することの重要性について、自らの言葉で説明する。(知識・態度) 	<p>A-1-1-1 A-1-1-2 A-1-1-3 A-1-1-4 A-1-1-5 A-1-1-6 A-1-1-7</p>
2	<p>【②薬剤師が果たすべき役割】</p> <ol style="list-style-type: none"> 患者・生活者のために薬剤師が果たすべき役割を自覚する。(態度) 薬剤師の活動分野(医療機関、薬局、製薬企業、衛生行政等)と社会における役割について説明できる。 医薬品の適正使用における薬剤師の役割とファーマシューティカルケアについて説明できる。 医薬品の効果が確率的であることを説明できる。 医薬品の創製(研究開発、生産等)における薬剤師の役割について説明できる。 健康管理、疾病予防、セルフメディケーション及び公衆衛生における薬剤師の役割について説明できる。 薬物乱用防止、自殺防止における薬剤師の役割について説明できる。 現代社会が抱える課題(少子・超高齢社会等)に対して、薬剤師が果たすべき役割を提案する。(知識・態度) 	<p>A-1-2-1 A-1-2-2 A-1-2-3 A-1-2-4 A-1-2-5 A-1-2-6 A-1-2-7 A-1-2-8</p>
3	<p>【③患者安全と薬害の防止】</p> <ol style="list-style-type: none"> 医薬品のリスクを認識し、患者を守る責任と義務を自覚する。(態度) WHOによる患者安全の考え方について概説できる。 医療に関するリスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を説明できる。 医薬品に関わる代表的な医療過誤やインシデントの事例を列挙し、その原因と防止策を説明できる。 重篤な副作用の例について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。(知識・態度) 代表的な薬害の例(サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジン等)について、その原因と社会的背景及びその後の対応を説明できる。 代表的な薬害について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。(知識・態度) 	<p>A-1-3-1 A-1-3-2 A-1-3-3 A-1-3-4 A-1-3-5 A-1-3-6 A-1-3-7</p>
4	<p>【④薬学の歴史と未来】</p> <ol style="list-style-type: none"> 薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割について説明できる。 薬物療法の歴史と、人類に与えてきた影響について説明できる。 薬剤師の誕生から現在までの役割の変遷の歴史(医薬分業を含む)について説明できる。 将来の薬剤師と薬学が果たす役割について討議する。(知識・態度) 	<p>A-1-4-1 A-1-4-2 A-1-4-3 A-1-4-4</p>
5	<p>【①生命倫理】</p> <ol style="list-style-type: none"> 生命の尊厳について、自らの言葉で説明できる。(知識・態度) 生命倫理の諸原則(自律尊重、無危害、善行、正義等)について説明できる。 生と死に関わる倫理的問題について討議し、自らの考えを述べる。(知識・態度) 科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概説できる。 	<p>A-2-1-1 A-2-1-2 A-2-1-3 A-2-1-4</p>
6	<p>【②医療倫理】</p> <ol style="list-style-type: none"> 医療倫理に関する規範(ジュネーブ宣言等)について概説できる。 薬剤師が遵守すべき倫理規範(薬剤師綱領、薬剤師倫理規定等)について説明できる。 医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。 	<p>A-2-2-1 A-2-2-2 A-2-2-3</p>

番号	内容	コアカリとの関連コード
7	<p>【③患者の権利】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。(態度) 2. 患者の基本的権利の内容(リスボン宣言等)について説明できる。 3. 患者の自己決定権とインフォームドコンセントの意義について説明できる。 4. 知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。(知識・技能・態度) 	<p>A-2-3-1 A-2-3-2 A-2-3-3 A-2-3-4</p>
8	<p>【④研究倫理】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床研究における倫理規範(ヘルシンキ宣言等)について説明できる。 2. 「ヒトを対象とする研究において遵守すべき倫理指針」について概説できる。 3. 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規を遵守して研究に取り組む。(態度) 	<p>A-2-4-1 A-2-4-2 A-2-4-3</p>
9	<p>【①コミュニケーション】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 意思、情報の伝達に必要な要素について説明できる。 2. 言語的及び非言語的コミュニケーションについて説明できる。 3. 相手の立場、文化、習慣等によって、コミュニケーションの在り方が異なることを例を挙げて説明できる。 4. 対人関係に影響を及ぼす心理的要因について概説できる。 5. 相手の心理状態とその変化に配慮し、対応する。(態度) 6. 自分の心理状態を意識して、他者と接することができる。(態度) 7. 適切な聞き方、質問を通じて相手の考えや感情を理解するように努める。(技能・態度) 8. 適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることができる。(技能・態度) 9. 他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。(知識・技能・態度) 	<p>A-3-1-1 A-3-1-2 A-3-1-3 A-3-1-4 A-3-1-5 A-3-1-6 A-3-1-7 A-3-1-8 A-3-1-9</p>
10	<p>【②患者・生活者と薬剤師】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者や家族、周囲の人々の心身に及ぼす病気やケアの影響について説明できる。 2. 患者・家族・生活者の心身の状態や多様な価値観に配慮して行動する。(態度) 	<p>A-3-2-1 A-3-2-2</p>
11	<p>【多職種連携協働とチーム医療】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健、医療、福祉、介護における多職種連携協働及びチーム医療の意義について説明できる。 2. 多職種連携協働に関わる薬剤師、各職種及び行政の役割について説明できる。 3. チーム医療に関わる薬剤師、各職種、患者・家族の役割について説明できる。 4. 自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める。(態度) 5. チームワークと情報共有の重要性を理解し、チームの一員としての役割を積極的に果たすように努める。(知識・態度) 	<p>A-4-1-1 A-4-2-1 A-4-3-1 A-4-4-1 A-4-5-1</p>
12	<p>【①学習の在り方】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療・福祉・医薬品に関わる問題、社会的動向、科学の進歩に常に目を向け、自ら課題を見出し、解決に向けて努力する。(態度) 2. 講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。(技能) 3. 必要な情報を的確に収集し、信憑性について判断できる。(知識・技能) 4. 得られた情報を論理的に統合・整理し、自らの考えとともに分かりやすく表現できる。(技能) 5. インターネット上の情報が持つ意味・特徴を知り、情報倫理、情報セキュリティに配慮して活用できる。(知識・態度) 	<p>A-5-1-1 A-5-1-2 A-5-1-3 A-5-1-4 A-5-1-5</p>
13	<p>【②薬学教育の概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「薬剤師として求められる基本的な資質」について、具体例を挙げて説明できる。 2. 薬学が総合科学であることを認識し、薬剤師の役割と学習内容を関連づける。(知識・態度) 	<p>A-5-2-1 A-5-2-2</p>
14	<p>【③生涯学習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生涯にわたって自ら学習する重要性を認識し、その意義について説明できる。 2. 生涯にわたって継続的に学習するために必要な情報を収集できる。(技能) 	<p>A-5-3-1 A-5-3-2</p>
15	<p>【④次世代を担う人材の育成】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬剤師の使命に後輩等の育成が含まれることを認識し、ロールモデルとなるように努める。(態度) 2. 後輩等への適切な指導を実践する。(技能・態度) 	<p>A-5-4-1 A-5-4-2</p>
16	<p>【人と社会に関わる薬剤師】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人の行動がどのような要因によって決定されるのかについて説明できる。 2. 人・社会が医薬品に対して抱く考え方や思いの多様性について討議する。(態度) 3. 人・社会の視点から薬剤師を取り巻く様々な仕組みと規制について討議する。(態度) 4. 薬剤師が倫理規範や法令を守ることの重要性について討議する。(態度) 5. 倫理規範や法令に則した行動を取る。(態度) 	<p>B-1-1-1 B-1-2-1 B-1-3-1 B-1-4-1 B-1-5-1</p>



番号	内容	コアカリとの関連コード
17	<p>【①薬剤師の社会的位置づけと責任に係る法規範】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬剤師に関わる法令とその構成について説明できる。 2. 薬剤師免許に関する薬剤師法の規定について説明できる。 3. 薬剤師の任務や業務に関する薬剤師法の規定とその意義について説明できる。 4. 薬剤師以外の医療職種の仕事に関する法令の規定について概説できる。 5. 医療の理念と医療の担い手の責務に関する医療法の規定とその意義について説明できる。 6. 医療提供体制に関する医療法の規定とその意義について説明できる。 7. 個人情報の取扱いについて概説できる。 8. 薬剤師の刑事責任、民事責任（製造物責任を含む）について概説できる。 	<p>B-2-1-1 B-2-1-2 B-2-1-3 B-2-1-4 B-2-1-5 B-2-1-6 B-2-1-7 B-2-1-8</p>
18	<p>【②医薬品等の品質、有効性及び安全性の確保に係る法規範】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の目的及び医薬品等（医薬品、医薬部外品、化粧品、医療機器、再生医療等製品）の定義について説明できる。 2. 医薬品の開発から承認までのプロセスと法規範について概説できる。 3. 治験の意義と仕組みについて概説できる。 4. 医薬品等の製造販売及び製造に係る法規範について説明できる。 5. 製造販売後調査制度及び製造販売後安全対策について説明できる。 6. 薬局、医薬品販売業及び医療機器販売業に係る法規範について説明できる。 7. 「医薬品等の取扱いに関する医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の規定について説明できる。 8. 日本薬局方の意義と構成について説明できる。 9. 生物由来製品の取扱いと血液供給体制に係る法規範について説明できる。 10. 健康被害救済制度について説明できる。 11. レギュラトリーサイエンスの必要性と意義について説明できる。 	<p>B-2-2-1 B-2-2-2 B-2-2-3 B-2-2-4 B-2-2-5 B-2-2-6 B-2-2-7 B-2-2-8 B-2-2-9 B-2-2-10 B-2-2-11</p>
19	<p>【③特別な管理を要する薬物等に係る法規範】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 麻薬、向精神薬、覚醒剤原料等の取扱いに係る規定について説明できる。 2. 覚醒剤、大麻、あへん、指定薬物等の乱用防止規制について概説できる。 3. 毒物劇物の取扱いに係る規定について概説できる。 	<p>B-2-3-1 B-2-3-2 B-2-3-3</p>
20	<p>【①医療、福祉、介護の制度】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の社会保障制度の枠組みと特徴について説明できる。 2. 医療保険制度について説明できる。 3. 療養担当規則について説明できる。 4. 公費負担医療制度について概説できる。 5. 介護保険制度について概説できる。 6. 薬価基準制度について概説できる。 7. 調剤報酬、診療報酬及び介護報酬の仕組みについて概説できる。 	<p>B-3-1-1 B-3-1-2 B-3-1-3 B-3-1-4 B-3-1-5 B-3-1-6 B-3-1-7</p>
21	<p>【②医薬品と医療の経済性】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医薬品の市場の特徴と流通の仕組みについて概説できる。 2. 国民医療費の動向について概説できる。 3. 後発医薬品とその役割について説明できる。 4. 薬物療法の経済評価手法について概説できる。 	<p>B-3-2-1 B-3-2-2 B-3-2-3 B-3-2-4</p>
22	<p>【①地域における薬局の役割】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域における薬局の機能と業務について説明できる。 2. 医薬分業の意義と動向を説明できる。 3. かかりつけ薬局・薬剤師による薬学的管理の意義について説明できる。 4. セルフメディケーションにおける薬局の役割について説明できる。 5. 災害時の薬局の役割について説明できる。 6. 医療費の適正化に薬局が果たす役割について説明できる。 	<p>B-4-1-1 B-4-1-2 B-4-1-3 B-4-1-4 B-4-1-5 B-4-1-6</p>
23	<p>【②地域における保健、医療、福祉の連携体制と薬剤師】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域包括ケアの理念について説明できる。 2. 在宅医療及び居宅介護における薬局と薬剤師の役割について説明できる。 3. 学校薬剤師の役割について説明できる。 4. 地域の保健、医療、福祉において利用可能な社会資源について概説できる。 5. 地域から求められる医療提供施設、福祉施設及び行政との連携について討議する。（知識・態度） 	<p>B-4-2-1 B-4-2-2 B-4-2-3 B-4-2-4 B-4-2-5</p>
24	<ol style="list-style-type: none"> 3. 食生活や喫煙などの生活習慣と疾病の関わりについて討議する。（態度） 5. 薬物の乱用による健康への影響について説明し、討議する。（知識・態度） 	<p>D1-2-3-3 D2-1-1-5 D2-1-2-1 D2-2-1-5</p>
25	<ol style="list-style-type: none"> 1. 個々の化学物質の使用目的に鑑み、適正使用とリスクコミュニケーションについて討議する。（態度） 5. 人が生態系の一員であることをふまえて環境問題を討議する。（態度） 	<p>E1-3-2-1 E1-4-4-1</p>



番号	内容	コアカリとの関連コード
26	<p>【②臨床における心構え】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前) 医療の担い手が守るべき倫理規範や法令について討議する。(態度) 2. 前) 患者・生活者中心の医療の視点から患者・生活者の個人情報や自己決定権に配慮すべき個々の対応ができる。(態度) 3. 前) 患者・生活者の健康の回復と維持、生活の質の向上に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を討議する。(態度) 4. 医療の担い手が守るべき倫理規範を遵守し、ふさわしい態度で行動する。(態度) 5. 患者・生活者の基本的権利、自己決定権について配慮する。(態度) 6. 薬学的管理を実施する際に、インフォームド・コンセントを得ることができる。(態度) 7. 職務上知り得た情報について守秘義務を遵守する。(態度) 	<p>F-1-2-1 F-1-2-2 F-1-2-3 F-1-2-4 F-1-2-5 F-1-2-6 F-1-2-7</p>
27	<p>【①医療機関におけるチーム医療】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前) チーム医療における薬剤師の役割と重要性について説明できる。 2. 前) 多様な医療チームの目的と構成、構成員の役割を説明できる。 3. 前) 病院と地域の医療連携の意義と具体的な方法(連携クリニカルパス、退院時共同指導、病院・薬局連携、関連施設との連携等)を説明できる。 	<p>F-4-1-1 F-4-1-2 F-4-1-3</p>
28	<p>GIO 研究マインドをもって生涯にわたり医療に貢献するために、薬学における研究の位置づけを理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎から臨床に至る研究の目的と役割について説明できる。 2. 研究には自立性と独創性が求められていることを知る。 3. 現象を客観的に捉える観察眼をもち、論理的に思考できる。(知識・技能・態度) 4. 新たな課題にチャレンジする創造的精神を養う。(態度) 	<p>G-1-1-1 G-1-2-1 G-1-3-1 G-1-4-1</p>
29	<p>GIO 自らが実施する研究に係る法令、指針を理解し、それらを遵守して研究に取り組む。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自らが実施する研究に係る法令、指針について概説できる。 2. 研究の実施、患者情報の取扱い等において配慮すべき事項について説明できる。 3. 正確性、社会性、誠実性に配慮し、法規を遵守して研究に取り組む。(態度) A-(2)-④-3 再掲 	<p>G-2-1-1 G-2-2-1 G-2-3-1</p>
30	<p>(1) 人と文化</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人の価値観の多様性が、文化・習慣の違いから生まれることを、実例をあげて説明できる。 2. 言語、歴史、宗教などを学ぶことによって、外国と日本の文化について比較できる。 3. 文化・芸術に幅広く興味を持ち、その価値について討議する。(態度) 4. 文化活動、芸術活動を通して、自らの社会生活を豊かにする。(態度) 5. 日本社会の成り立ちについて、政治、経済、法律、歴史、社会学などの観点から説明できる。 6. 日本の国際社会における位置づけを、政治、経済、地理、歴史などの観点から説明できる。 7. 宇宙・自然現象に幅広く興味を持ち、人との関わりについて説明できる。 8. 地球環境保護活動を通して、地球環境を守る重要性を自らの言葉で表現する。(態度) 	<p>X-1-1-1 X-1-1-2 X-1-1-3 X-1-1-4 X-1-1-5 X-1-1-6 X-1-1-7 X-1-1-8</p>
31	<p>【1. 人の行動とその成り立ち】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 行動と知覚、学習、記憶、認知、言語、思考、性格との関係について概説できる。 2. 行動と人の内的要因、社会・文化的環境との関係について概説できる。 3. 本能行動と学習行動について説明できる。 4. レスポンデント条件づけとオペラント条件づけについて説明できる。 5. 社会的学習(モデリング、観察学習、模倣学習)について概説できる。 6. 健康行動の理論(健康信念モデル、変化のステージモデルなど)について概説できる。 	<p>X-2-1-1 X-2-1-2 X-2-1-3 X-2-1-4 X-2-1-5 X-2-1-6</p>
32	<p>【2. 動機づけ】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生理的動機、内発的動機、および社会的動機について概説できる。 2. 欲求とフラストレーション・葛藤との関連について概説できる。 3. 適応(防衛)機制について概説できる。 	<p>X-2-2-1 X-2-2-2 X-2-2-3</p>
33	<p>【3. ストレス】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 主なストレス学説について概説できる。 2. 人生や日常生活におけるストレスについて例示できる。 3. ストレスコーピングについて概説できる。 	<p>X-2-3-1 X-2-3-2 X-2-3-3</p>
34	<p>【4. 生涯発達】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. こころの発達の原理について概説できる。 2. ライフサイクルの各段階におけるこころの発達の特徴および発達課題について概説できる。 3. こころの発達にかかわる遺伝的要因と環境的要因について概説できる。 	<p>X-2-4-1 X-2-4-2 X-2-4-3</p>
35	<p>【5. パーソナリティ】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 性格の類型について概説できる。 2. 知能の発達と経年変化について概説できる。 3. 役割理論について概説できる。 4. ジェンダーの形成について概説できる。 	<p>X-2-5-1 X-2-5-2 X-2-5-3 X-2-5-4</p>
36	<p>【6. 人間関係】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間関係における欲求と行動の関係について概説できる。 2. 主な対人行動(援助、攻撃等)について概説できる。 3. 集団の中の人間関係(競争と協同、同調、服従と抵抗、リーダーシップ)について概説できる。 4. 人間関係と健康心理との関係について概説できる。 	<p>X-2-6-1 X-2-6-2 X-2-6-3 X-2-6-4</p>



番号	内容	コアカリとの関連コード
37	<p>[1. 基本操作]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コンピューターを構成する基本的装置の機能と接続方法を説明できる。 2. スマートフォン、タブレット端末などのモバイル機器を安全かつ有効に利用できる。(知識・技能) 3. 電子データの特徴を知り、適切に取り扱うことができる。(技能) 4. インターネットの仕組みを概説できる。 5. 無線LANを使用するための注意点について概説できる。 6. マナーを守り、電子メールの送信、受信、転送などができる。(技能・態度) 7. インターネットに接続し、Webサイトを閲覧できる。(技能) 8. 検索サイト、ポータルサイトの特徴に応じて、必要な情報を収集できる。(技能) 	X-8-1-1 X-8-1-2 X-8-1-3 X-8-1-4 X-8-1-5 X-8-1-6 X-8-1-7 X-8-1-8
38	<p>[2. ソフトウェアの利用]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ソフトウェア使用上のルール、マナーを守る。(態度) 2. ワードプロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトを用いることができる。(技能) 3. グラフィックソフト、化学構造式描画ソフトを用いることができる。(技能) 4. 画像ファイルの形式とその特徴に応じて、データを適切に取り扱うことができる。(技能) 5. データベースの特徴と活用について概説できる。 	X-8-2-1 X-8-2-2 X-8-2-3 X-8-2-4 X-8-2-5
39	<p>[3. セキュリティと情報倫理]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ネットワークセキュリティについて概説できる。 2. アカウントとパスワードを適切に管理できる。(技能・態度) 3. データやメディアを適切に管理できる。(態度) 4. 著作権、肖像権、引用と転載の違いについて説明できる。 5. ネットワークにおける個人情報の取り扱いに配慮する。(態度) 6. ソーシャルネットワークサービス(SNS)の種類と特徴、留意すべき点について説明できる。 7. 情報倫理、セキュリティに関する情報を収集することができる。(技能) 8. コンピューターウイルスの侵入経路に応じて、適切な予防策を講じることができる。(技能・態度) 	X-8-3-1 X-8-3-2 X-8-3-3 X-8-3-4 X-8-3-5 X-8-3-6 X-8-3-7 X-8-3-8
40	<p>[1. プレゼンテーションの基本]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. プレゼンテーションを行うために必要な要素を列挙できる。 2. 目的に応じて適切なプレゼンテーションを構成できる。(技能) 3. 目的、場所、相手に応じた、わかりやすい資料を作成できる。(技能) 	X-9-1-1 X-9-1-2 X-9-1-3
41	<p>[2. 文書によるプレゼンテーション]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 定められた書式、正しい文法に則って文書を作成できる。(知識・技能) 2. 目的(レポート、論文、説明文書など)に応じて適切な文書を作成できる。(知識・技能) 	X-9-2-1 X-9-2-2
42	<p>[3. 口頭・ポスターによるプレゼンテーション]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 口頭発表とポスター発表の違いと特徴について説明できる。 2. 課題に関して意見をまとめ、決められた時間内で発表できる。(技能) 3. 効果的なプレゼンテーションを行う工夫をする。(技能・態度) 4. 質問に対して的確な応答ができる。(技能) 5. 他者のプレゼンテーションに対して、優れた点および改良点を指摘できる。(知識・態度) 	X-9-3-1 X-9-3-2 X-9-3-3 X-9-3-4 X-9-3-5

授業内容

回数	担当	内容	対応(SBOs)
1	委員会メンバー	(前期ならびに後期開始前の時期：ゼミナールガイダンスとして実施) ゼミナールの目指すもの、受動的学習と能動的学習、ゼミナール選択についてなどの総論を講義する。さらに、定期的にゼミナールアンケートを実施する	上記のSBOsならびに各ゼミナールの分野に関するSBOs
2~15	各ゼミナール担当者	シラバス(別冊)にて指定した内容	上記のSBOsならびに各ゼミナールの分野に関するSBOs
16	委員会メンバー	(前期ならびに後期開始前の時期：次期ゼミナールガイダンスと同時開催) ゼミナールで実施したアンケートをフィードバックする	上記のSBOsならびに各ゼミナールの分野に関するSBOs

[アクティブ・ラーニングの取り組み]

1~2年次に3種類のゼミナールを選択することによって、得意分野を伸ばし、不得意分野を克服し、まったく未知の分野に挑戦するなど、必修科目では味わえない、さまざまなことを吸収してくれることを期待しています。少人数、グループ学習を通して、問題解決能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力が徐々に醸成されてきます。3~6年次さらには社会で求められる重要な能力ばかりです。自らの判断で有益にすごしてもらいたいと願っています。

「選択」は自己責任で行う重要なアクションです。カリキュラムは必修科目が多いので、このようなアクションをする絶好のチャンスです。ガイダンス時に配布される資料を読みこなし最も学んでみた

いゼミナールを選択してください。必修科目には無い醍醐味が味わえます。

〔授業で行っている工夫〕

ゼミナールは約90名の薬学部教員が各々1単位を開講する。テーマは各々の教員が指定する。実施例を以下に示す。テーマならびに履修に関する関連事項はガイダンス時に説明する。受講時期は1年次後期から2年次後期までであり、3単位以上を履修する。集中講義形式を基本とし、前期または後期の実習のない週の午後3週間、合計6日間に実施することを基本とする。

これまで開講されたゼミナールのタイトルを以下に例示する。

1年次後期

物理系ゼミナール（量子力学超々入門、薬剤師としての基本的な計算方法をマスターしよう、物理化学を楽しく学ぼう、物理化学を理解する）、化学系ゼミナール（ハードボイルドドラッグワンダーランド、ベーシック有機化学）、生物系ゼミナール（1年次前期の生物系科目の理解を深める、ヒトはパンのみで生きられるか、サプリメントの有効性を科学しよう、微生物を知ろう）、総合ゼミナール（病いと人間、病院薬剤師について）など

2年次前期

物理系ゼミナール（GC/MSで薬草の成分を分析してみる、日本薬局方を読みましよう）、化学系ゼミナール（ベーシックコース、アドバンスコース）、生物系ゼミナール（病気を知り薬を知り治療を考える、身近にある免疫反応の仕組みを考える、微生物と戦う、脳や神経系の働きや病気に関する科学的な記事や書物の理解に向けて）、総合ゼミナール（村上春樹を読み書き語る、薬を巡る話、DVDを作ろう・薬学生のための実用英語、ボランティア）など

2年次後期

化学系ゼミナール（国家試験対応スペクトル解析演習）、生物系ゼミナール（医学・生物学の進歩に触れる）、薬・疾病ゼミナール（薬理学を学ぶために、日本の臓器移植・何が良くて何がわるいの）、創薬ゼミナール（新聞や雑誌の記事を通してくすりを考える）、総合ゼミナール（統計学の苦手意識をなくそう、薬のデータを集めよう、ビッグファーマのマーケティング戦略を読み解く、科学と人間、低体力者への適切な運動処方およびメタボリックシンドロームに対する予防を学ぼう、米国の薬局を見学しよう、ボランティア）など

〔成績評価方法〕

提出物、参加態度等を総合的に判断する。

〔教科書〕

ゼミナール担当者が指定する。

〔参考書〕

ゼミナール担当者が指定する。

〔オフィスアワー〕

ゼミナール担当者が指定する。

〔準備学習（予習・復習等）〕

ゼミナールのコアタイムに実施されるグループ討議は、各個人のパフォーマンスレベルの高さによって質が左右されます。演習問題の回答でも、皆が十分な予習をしていることによって、質の高い解説が行われることとなります。プレゼンのための資料作りは、コアタイム以外の時間に行っていくことが前提となります。質の高いコアタイムを築くために、予習復習を十分に行ってください。

ゼミナール III

Group Seminar III

第2学年 後期 (選択) ゼミナール 1単位

薬学部教員ならびに非常勤講師

学習目標 (GIO) 優れた医療人となるためには、必修科目で学ぶ基本的な知識と技能、さらには態度に加え、世の中を取り巻くさまざまな話題、課題、見解などについて、豊富な知識を持ち、的確な見識を持って行動できるようになることが望まれる。ゼミナールは少人数クラス単位で実施する選択科目であり、科目を自らの興味で選んで履修することで自主性を養い、演習、グループ討論、プレゼンテーションなどの能動的な学習方法を実践することで、優れた医療人となるための技能や態度を醸成する。

行動目標 (SBOs)

番 号	内 容	コアカリとの関連コード
1	<p>【①医療人として】</p> <ol style="list-style-type: none"> 常に患者・生活者の視点に立ち、医療の担い手としてふさわしい態度で行動する。(態度) 患者・生活者の健康の回復と維持に積極的に貢献することへの責任感を持つ。(態度) チーム医療や地域保健・医療・福祉を担う一員としての責任を自覚し行動する。(態度) 患者・患者家族・生活者が求める医療人について、自らの考えを述べる。(知識・態度) 生と死を通して、生きる意味や役割について、自らの考えを述べる。(知識・態度) 一人の人間として、自分が生きている意味や役割を問い直し、自らの考えを述べる。(知識・態度) 様々な死生観・価値観・信条等を受容することの重要性について、自らの言葉で説明する。(知識・態度) 	<p>A-1-1-1 A-1-1-2 A-1-1-3 A-1-1-4 A-1-1-5 A-1-1-6 A-1-1-7</p>
2	<p>【②薬剤師が果たすべき役割】</p> <ol style="list-style-type: none"> 患者・生活者のために薬剤師が果たすべき役割を自覚する。(態度) 薬剤師の活動分野(医療機関、薬局、製薬企業、衛生行政等)と社会における役割について説明できる。 医薬品の適正使用における薬剤師の役割とファーマシューティカルケアについて説明できる。 医薬品の効果が確率的であることを説明できる。 医薬品の創製(研究開発、生産等)における薬剤師の役割について説明できる。 健康管理、疾病予防、セルフメディケーション及び公衆衛生における薬剤師の役割について説明できる。 薬物乱用防止、自殺防止における薬剤師の役割について説明できる。 現代社会が抱える課題(少子・超高齢社会等)に対して、薬剤師が果たすべき役割を提案する。(知識・態度) 	<p>A-1-2-1 A-1-2-2 A-1-2-3 A-1-2-4 A-1-2-5 A-1-2-6 A-1-2-7 A-1-2-8</p>
3	<p>【③患者安全と薬害の防止】</p> <ol style="list-style-type: none"> 医薬品のリスクを認識し、患者を守る責任と義務を自覚する。(態度) WHOによる患者安全の考え方について概説できる。 医療に関するリスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を説明できる。 医薬品が関わる代表的な医療過誤やインシデントの事例を列挙し、その原因と防止策を説明できる。 重篤な副作用の例について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。(知識・態度) 代表的な薬害の例(サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジン等)について、その原因と社会的背景及びその後の対応を説明できる。 代表的な薬害について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。(知識・態度) 	<p>A-1-3-1 A-1-3-2 A-1-3-3 A-1-3-4 A-1-3-5 A-1-3-6 A-1-3-7</p>
4	<p>【④薬学の歴史と未来】</p> <ol style="list-style-type: none"> 薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割について説明できる。 薬物療法の歴史と、人類に与えてきた影響について説明できる。 薬剤師の誕生から現在までの役割の変遷の歴史(医薬分業を含む)について説明できる。 将来の薬剤師と薬学が果たす役割について討議する。(知識・態度) 	<p>A-1-4-1 A-1-4-2 A-1-4-3 A-1-4-4</p>
5	<p>【①生命倫理】</p> <ol style="list-style-type: none"> 生命の尊厳について、自らの言葉で説明できる。(知識・態度) 生命倫理の諸原則(自律尊重、無危害、善行、正義等)について説明できる。 生と死に関わる倫理的問題について討議し、自らの考えを述べる。(知識・態度) 科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概説できる。 	<p>A-2-1-1 A-2-1-2 A-2-1-3 A-2-1-4</p>
6	<p>【②医療倫理】</p> <ol style="list-style-type: none"> 医療倫理に関する規範(ジュネーブ宣言等)について概説できる。 薬剤師が遵守すべき倫理規範(薬剤師綱領、薬剤師倫理規定等)について説明できる。 医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。 	<p>A-2-2-1 A-2-2-2 A-2-2-3</p>

番 号	内 容	コアカリとの関連コード
7	<p>【③患者の権利】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。(態度) 2. 患者の基本的権利の内容(リスボン宣言等)について説明できる。 3. 患者の自己決定権とインフォームドコンセントの意義について説明できる。 4. 知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。(知識・技能・態度) 	<p>A-2-3-1 A-2-3-2 A-2-3-3 A-2-3-4</p>
8	<p>【④研究倫理】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床研究における倫理規範(ヘルシンキ宣言等)について説明できる。 2. 「ヒトを対象とする研究において遵守すべき倫理指針」について概説できる。 3. 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規を遵守して研究に取り組む。(態度) 	<p>A-2-4-1 A-2-4-2 A-2-4-3</p>
9	<p>【①コミュニケーション】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 意思、情報の伝達に必要な要素について説明できる。 2. 言語的及び非言語的コミュニケーションについて説明できる。 3. 相手の立場、文化、習慣等によって、コミュニケーションの在り方が異なることを例を挙げて説明できる。 4. 対人関係に影響を及ぼす心理的要因について概説できる。 5. 相手の心理状態とその変化に配慮し、対応する。(態度) 6. 自分の心理状態を意識して、他者と接することができる。(態度) 7. 適切な聴き方、質問を通じて相手の考えや感情を理解するように努める。(技能・態度) 8. 適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることができる。(技能・態度) 9. 他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。(知識・技能・態度) 	<p>A-3-1-1 A-3-1-2 A-3-1-3 A-3-1-4 A-3-1-5 A-3-1-6 A-3-1-7 A-3-1-8 A-3-1-9</p>
10	<p>【②患者・生活者と薬剤師】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者や家族、周囲の人々の心身に及ぼす病気やケアの影響について説明できる。 2. 患者・家族・生活者の心身の状態や多様な価値観に配慮して行動する。(態度) 	<p>A-3-2-1 A-3-2-2</p>
11	<p>【多職種連携協働とチーム医療】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健、医療、福祉、介護における多職種連携協働及びチーム医療の意義について説明できる。 2. 多職種連携協働に関わる薬剤師、各職種及び行政の役割について説明できる。 3. チーム医療に関わる薬剤師、各職種、患者・家族の役割について説明できる。 4. 自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める。(態度) 5. チームワークと情報共有の重要性を理解し、チームの一員としての役割を積極的に果たすように努める。(知識・態度) 	<p>A-4-1-1 A-4-2-1 A-4-3-1 A-4-4-1 A-4-5-1</p>
12	<p>【①学習の在り方】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療・福祉・医薬品に関する問題、社会的動向、科学の進歩に常に目を向け、自ら課題を見出し、解決に向けて努力する。(態度) 2. 講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。(技能) 3. 必要な情報を的確に収集し、信憑性について判断できる。(知識・技能) 4. 得られた情報を論理的に統合・整理し、自らの考えとともに分かりやすく表現できる。(技能) 5. インターネット上の情報が持つ意味・特徴を知り、情報倫理、情報セキュリティに配慮して活用できる。(知識・態度) 	<p>A-5-1-1 A-5-1-2 A-5-1-3 A-5-1-4 A-5-1-5</p>
13	<p>【②薬学教育の概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「薬剤師として求められる基本的な資質」について、具体例を挙げて説明できる。 2. 薬学が総合科学であることを認識し、薬剤師の役割と学習内容に関連づける。(知識・態度) 	<p>A-5-2-1 A-5-2-2</p>
14	<p>【③生涯学習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生涯にわたって自ら学習する重要性を認識し、その意義について説明できる。 2. 生涯にわたって継続的に学習するために必要な情報を収集できる。(技能) 	<p>A-5-3-1 A-5-3-2</p>
15	<p>【④次世代を担う人材の育成】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬剤師の使命に後輩等の育成が含まれることを認識し、ロールモデルとなるように努める。(態度) 2. 後輩等への適切な指導を実践する。(技能・態度) 	<p>A-5-4-1 A-5-4-2</p>
16	<p>【人と社会に関わる薬剤師】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人の行動がどのような要因によって決定されるのかについて説明できる。 2. 人・社会が医薬品に対して抱く考え方や思いの多様性について討議する。(態度) 3. 人・社会の視点から薬剤師を取り巻く様々な仕組みと規制について討議する。(態度) 4. 薬剤師が倫理規範や法令を守ることの重要性について討議する。(態度) 5. 倫理規範や法令に則した行動を取る。(態度) 	<p>B-1-1-1 B-1-2-1 B-1-3-1 B-1-4-1 B-1-5-1</p>

番号	内容	コアカリとの関連コード
17	<p>【①薬剤師の社会的位置づけと責任に係る法規範】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬剤師に関わる法令とその構成について説明できる。 2. 薬剤師免許に関する薬剤師法の規定について説明できる。 3. 薬剤師の任務や業務に関する薬剤師法の規定とその意義について説明できる。 4. 薬剤師以外の医療職種の任務に関する法令の規定について概説できる。 5. 医療の理念と医療の担い手の責務に関する医療法の規定とその意義について説明できる。 6. 医療提供体制に関する医療法の規定とその意義について説明できる。 7. 個人情報取扱いについて概説できる。 8. 薬剤師の刑事責任、民事責任（製造物責任を含む）について概説できる。 	<p>B-2-1-1 B-2-1-2 B-2-1-3 B-2-1-4 B-2-1-5 B-2-1-6 B-2-1-7 B-2-1-8</p>
18	<p>【②医薬品等の品質、有効性及び安全性の確保に係る法規範】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の目的及び医薬品等（医薬品、医薬部外品、化粧品、医療機器、再生医療等製品）の定義について説明できる。 2. 医薬品の開発から承認までのプロセスと法規範について概説できる。 3. 治験の意義と仕組みについて概説できる。 4. 医薬品等の製造販売及び製造に係る法規範について説明できる。 5. 製造販売後調査制度及び製造販売後安全対策について説明できる。 6. 薬局、医薬品販売業及び医療機器販売業に係る法規範について説明できる。 7. 「医薬品等の取扱いに関する医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の規定について説明できる。 8. 日本薬局方の意義と構成について説明できる。 9. 生物由来製品の取扱いと血液供給体制に係る法規範について説明できる。 10. 健康被害救済制度について説明できる。 11. レギュラトリーサイエンスの必要性と意義について説明できる。 	<p>B-2-2-1 B-2-2-2 B-2-2-3 B-2-2-4 B-2-2-5 B-2-2-6 B-2-2-7 B-2-2-8 B-2-2-9 B-2-2-10 B-2-2-11</p>
19	<p>【③特別な管理を要する薬物等に係る法規範】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 麻薬、向精神薬、覚醒剤原料等の取扱いに係る規定について説明できる。 2. 覚醒剤、大麻、あへん、指定薬物等の乱用防止規制について概説できる。 3. 毒物劇物の取扱いに係る規定について概説できる。 	<p>B-2-3-1 B-2-3-2 B-2-3-3</p>
20	<p>【①医療、福祉、介護の制度】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の社会保障制度の枠組みと特徴について説明できる。 2. 医療保険制度について説明できる。 3. 療養担当規則について説明できる。 4. 公費負担医療制度について概説できる。 5. 介護保険制度について概説できる。 6. 薬価基準制度について概説できる。 7. 調剤報酬、診療報酬及び介護報酬の仕組みについて概説できる。 	<p>B-3-1-1 B-3-1-2 B-3-1-3 B-3-1-4 B-3-1-5 B-3-1-6 B-3-1-7</p>
21	<p>【②医薬品と医療の経済性】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医薬品の市場の特徴と流通の仕組みについて概説できる。 2. 国民医療費の動向について概説できる。 3. 後発医薬品とその役割について説明できる。 4. 薬物療法の経済評価手法について概説できる。 	<p>B-3-2-1 B-3-2-2 B-3-2-3 B-3-2-4</p>
22	<p>【①地域における薬局の役割】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域における薬局の機能と業務について説明できる。 2. 医薬分業の意義と動向を説明できる。 3. かかりつけ薬局・薬剤師による薬学的管理の意義について説明できる。 4. セルフメディケーションにおける薬局の役割について説明できる。 5. 災害時の薬局の役割について説明できる。 6. 医療費の適正化に薬局が果たす役割について説明できる。 	<p>B-4-1-1 B-4-1-2 B-4-1-3 B-4-1-4 B-4-1-5 B-4-1-6</p>
23	<p>【②地域における保健、医療、福祉の連携体制と薬剤師】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域包括ケアの理念について説明できる。 2. 在宅医療及び居宅介護における薬局と薬剤師の役割について説明できる。 3. 学校薬剤師の役割について説明できる。 4. 地域の保健、医療、福祉において利用可能な社会資源について概説できる。 5. 地域から求められる医療提供施設、福祉施設及び行政との連携について討議する。（知識・態度） 	<p>B-4-2-1 B-4-2-2 B-4-2-3 B-4-2-4 B-4-2-5</p>
24	<ol style="list-style-type: none"> 3. 食生活や喫煙などの生活習慣と疾病の関わりについて討議する。（態度） 5. 薬物の乱用による健康への影響について説明し、討議する。（知識・態度） <p>1. 個々の化学物質の使用目的に鑑み、適正使用とリスクコミュニケーションについて討議する。（態度）</p> <p>5. 人が生態系の一員であることをふまえて環境問題を討議する。（態度）</p>	<p>D1-2-3-3 D2-1-1-5 D2-1-2-1 D2-2-1-5</p>
25	<ol style="list-style-type: none"> 2. 代表的な疾患における薬物治療の役割について、病態、薬効薬理、薬物動態に基づいて討議する。（知識・技能） 4. 代表的薬害、薬物乱用について、健康リスクの観点から討議する。（態度） 	<p>E1-3-2-1 E1-4-4-1</p>

番号	内容	コアカリとの関連コード
26	<p>【②臨床における心構え】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前) 医療の担い手が守るべき倫理規範や法令について討議する。(態度) 2. 前) 患者・生活者中心の医療の視点から患者・生活者の個人情報や自己決定権に配慮すべき個々の対応ができる。(態度) 3. 前) 患者・生活者の健康の回復と維持、生活の質の向上に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を討議する。(態度) 4. 医療の担い手が守るべき倫理規範を遵守し、ふさわしい態度で行動する。(態度) 5. 患者・生活者の基本的権利、自己決定権について配慮する。(態度) 6. 薬学的管理を実施する際に、インフォームド・コンセントを得ることができる。(態度) 7. 職務上知り得た情報について守秘義務を遵守する。(態度) 	<p>F-1-2-1 F-1-2-2 F-1-2-3 F-1-2-4 F-1-2-5 F-1-2-6 F-1-2-7</p>
27	<p>【①医療機関におけるチーム医療】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前) チーム医療における薬剤師の役割と重要性について説明できる。 2. 前) 多様な医療チームの目的と構成、構成員の役割を説明できる。 3. 前) 病院と地域の医療連携の意義と具体的な方法(連携クリニカルパス、退院時共同指導、病院・薬局連携、関連施設との連携等)を説明できる。 	<p>F-4-1-1 F-4-1-2 F-4-1-3</p>
28	<p>GIO 研究マインドをもって生涯にわたり医療に貢献するために、薬学における研究の位置づけを理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎から臨床に至る研究の目的と役割について説明できる。 2. 研究には自立性と独創性が求められていることを知る。 3. 現象を客観的に捉える観察眼をもち、論理的に思考できる。(知識・技能・態度) 4. 新たな課題にチャレンジする創造的精神を養う。(態度) 	<p>G-1-1-1 G-1-2-1 G-1-3-1 G-1-4-1</p>
29	<p>GIO 自らが実施する研究に係る法令、指針を理解し、それらを遵守して研究に取り組む。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自らが実施する研究に係る法令、指針について概説できる。 2. 研究の実施、患者情報の取扱い等において配慮すべき事項について説明できる。 3. 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規を遵守して研究に取り組む。(態度) A-(2)-④-3 再掲 	<p>G-2-1-1 G-2-2-1 G-2-3-1</p>
30	<p>(1) 人と文化</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人の価値観の多様性が、文化・習慣の違いから生まれることを、実例をあげて説明できる。 2. 言語、歴史、宗教などを学ぶことによって、外国と日本の文化について比較できる。 3. 文化・芸術に幅広く興味を持ち、その価値について討議する。(態度) 4. 文化活動、芸術活動を通して、自らの社会生活を豊かにする。(態度) 5. 日本社会の成り立ちについて、政治、経済、法律、歴史、社会学などの観点から説明できる。 6. 日本の国際社会における位置づけを、政治、経済、地理、歴史などの観点から説明できる。 7. 宇宙・自然現象に幅広く興味を持ち、人との関わりについて説明できる。 8. 地球環境保護活動を通して、地球環境を守る重要性を自らの言葉で表現する。(態度) 	<p>X-1-1-1 X-1-1-2 X-1-1-3 X-1-1-4 X-1-1-5 X-1-1-6 X-1-1-7 X-1-1-8</p>
31	<p>【1. 人の行動とその成り立ち】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 行動と知覚、学習、記憶、認知、言語、思考、性格との関係について概説できる。 2. 行動と人の内的要因、社会・文化的環境との関係について概説できる。 3. 本能行動と学習行動について説明できる。 4. レスポンド条件づけとオペラント条件づけについて説明できる。 5. 社会的学習(モデリング、観察学習、模倣学習)について概説できる。 6. 健康行動の理論(健康信念モデル、変化のステージモデルなど)について概説できる。 	<p>X-2-1-1 X-2-1-2 X-2-1-3 X-2-1-4 X-2-1-5 X-2-1-6</p>
32	<p>【2. 動機づけ】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生理的動機、内発的動機、および社会的動機について概説できる。 2. 欲求とフラストレーション・葛藤との関連について概説できる。 3. 適応(防衛)機制について概説できる。 	<p>X-2-2-1 X-2-2-2 X-2-2-3</p>
33	<p>【3. ストレス】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 主なストレス学説について概説できる。 2. 人生や日常生活におけるストレスについて例示できる。 3. ストレスコーピングについて概説できる。 	<p>X-2-3-1 X-2-3-2 X-2-3-3</p>
34	<p>【4. 生涯発達】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. こころの発達の原理について概説できる。 2. ライフサイクルの各段階におけるこころの発達の特徴および発達課題について概説できる。 3. こころの発達にかかわる遺伝的要因と環境的要因について概説できる。 	<p>X-2-4-1 X-2-4-2 X-2-4-3</p>
35	<p>【5. パーソナリティー】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 性格の類型について概説できる。 2. 知能の発達と経年変化について概説できる。 3. 役割理論について概説できる。 4. ジェンダーの形成について概説できる。 	<p>X-2-5-1 X-2-5-2 X-2-5-3 X-2-5-4</p>
36	<p>【6. 人間関係】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間関係における欲求と行動の関係について概説できる。 2. 主な対人行動(援助、攻撃等)について概説できる。 3. 集団の中の人間関係(競争と協同、同調、服従と抵抗、リーダーシップ)について概説できる。 4. 人間関係と健康心理との関係について概説できる。 	<p>X-2-6-1 X-2-6-2 X-2-6-3 X-2-6-4</p>



番号	内容	コアカリとの関連コード
37	<p>[1. 基本操作]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コンピューターを構成する基本的装置の機能と接続方法を説明できる。 2. スマートフォン、タブレット端末などのモバイル機器を安全かつ有効に利用できる。(知識・技能) 3. 電子データの特徴を知り、適切に取り扱うことができる。(技能) 4. インターネットの仕組みを概説できる。 5. 無線LANを使用するための注意点について概説できる。 6. マナーを守り、電子メールの送信、受信、転送などができる。(技能・態度) 7. インターネットに接続し、Webサイトを閲覧できる。(技能) 8. 検索サイト、ポータルサイトの特徴に応じて、必要な情報を収集できる。(技能) 	<p>X-8-1-1 X-8-1-2 X-8-1-3 X-8-1-4 X-8-1-5 X-8-1-6 X-8-1-7 X-8-1-8</p>
38	<p>[2. ソフトウェアの利用]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ソフトウェア使用上のルール、マナーを守る。(態度) 2. ワードプロセッサ、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトを用いることができる。(技能) 3. グラフィックソフト、化学構造式描画ソフトを用いることができる。(技能) 4. 画像ファイルの形式とその特徴に応じて、データを適切に取り扱うことができる。(技能) 5. データベースの特徴と活用について概説できる。 	<p>X-8-2-1 X-8-2-2 X-8-2-3 X-8-2-4 X-8-2-5</p>
39	<p>[3. セキュリティと情報倫理]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ネットワークセキュリティについて概説できる。 2. アカウントとパスワードを適切に管理できる。(技能・態度) 3. データやメディアを適切に管理できる。(態度) 4. 著作権、肖像権、引用と転載の違いについて説明できる。 5. ネットワークにおける個人情報の取り扱いに配慮する。(態度) 6. ソーシャルネットワークサービス(SNS)の種類と特徴、留意すべき点について説明できる。 7. 情報倫理、セキュリティに関する情報を収集することができる。(技能) 8. コンピューターウイルスの侵入経路に応じて、適切な予防策を講じることができる。(技能・態度) 	<p>X-8-3-1 X-8-3-2 X-8-3-3 X-8-3-4 X-8-3-5 X-8-3-6 X-8-3-7 X-8-3-8</p>
40	<p>[1. プレゼンテーションの基本]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. プレゼンテーションを行うために必要な要素を列挙できる。 2. 目的に応じて適切なプレゼンテーションを構成できる。(技能) 3. 目的、場所、相手に応じた、わかりやすい資料を作成できる。(技能) 	<p>X-9-1-1 X-9-1-2 X-9-1-3</p>
41	<p>[2. 文書によるプレゼンテーション]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 定められた書式、正しい文法に則って文書を作成できる。(知識・技能) 2. 目的(レポート、論文、説明文書など)に応じて適切な文書を作成できる。(知識・技能) 	<p>X-9-2-1 X-9-2-2</p>
42	<p>[3. 口頭・ポスターによるプレゼンテーション]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 口頭発表とポスター発表の違いと特徴について説明できる。 2. 課題に関して意見をまとめ、決められた時間内で発表できる。(技能) 3. 効果的なプレゼンテーションを行う工夫をする。(技能・態度) 4. 質問に対して的確な応答ができる。(技能) 5. 他者のプレゼンテーションに対して、優れた点および改良点を指摘できる。(知識・態度) 	<p>X-9-3-1 X-9-3-2 X-9-3-3 X-9-3-4 X-9-3-5</p>

授業内容

回数	担当	内容	対応(SBOs)
1	委員会メンバー	(前期ならびに後期開始前の時期：ゼミナールガイダンスとして実施) ゼミナールの目指すもの、受動的学習と能動的学習、ゼミナール選択についてなどの総論を講義する。さらに、定期的にゼミナールアンケートを実施する	上記のSBOsならびに各ゼミナールの分野に関するSBOs
2~15	各ゼミナール担当者	シラバス(別冊)にて指定した内容	上記のSBOsならびに各ゼミナールの分野に関するSBOs
16	委員会メンバー	(前期ならびに後期開始前の時期：次期ゼミナールガイダンスと同時開催) ゼミナールで実施したアンケートをフィードバックする	上記のSBOsならびに各ゼミナールの分野に関するSBOs

【アクティブ・ラーニングの取り組み】

1~2年次に3種類のゼミナールを選択することによって、得意分野を伸ばし、不得意分野を克服し、まったく未知の分野に挑戦するなど、必修科目では味わえない、さまざまなことを吸収してくれることを期待しています。少人数、グループ学習を通して、問題解決能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力が徐々に醸成されてきます。3~6年次さらには社会で求められる重要な能力ばかりです。自らの判断で有益にすごしてもらいたいと願っています。

「選択」は自己責任で行う重要なアクションです。カリキュラムは必修科目が多いので、このようなアクションをする絶好のチャンスです。ガイダンス時に配布される資料を読みこなし最も学んでみた

いゼミナールを選択してください。必修科目には無い醍醐味が味わえます。

〔授業で行っている工夫〕

ゼミナールは約90名の薬学部教員が各々1単位を開講する。テーマは各々の教員が指定する。実施例を以下に示す。テーマならびに履修に関する関連事項はガイダンス時に説明する。受講時期は1年次後期から2年次後期までであり、3単位以上を履修する。集中講義形式を基本とし、前期または後期の実習のない週の午後3週間、合計6日間に実施することを基本とする。

これまで開講されたゼミナールのタイトルを以下に例示する。

1年次後期

物理系ゼミナール（量子力学超々入門、薬剤師としての基本的な計算方法をマスターしよう、物理化学を楽しく学ぼう、物理化学を理解する）、化学系ゼミナール（ハードボイルドドラッグワンダーランド、ベーシック有機化学）、生物系ゼミナール（1年次前期の生物系科目の理解を深める、ヒトはパンのみで生きられるか、サプリメントの有効性を科学しよう、微生物を知ろう）、総合ゼミナール（病いと人間、病院薬剤師について）など

2年次前期

物理系ゼミナール（GC/MSで薬草の成分を分析してみる、日本薬局方を読みましよう）、化学系ゼミナール（ベーシックコース、アドバンスコース）、生物系ゼミナール（病気を知り薬を知り治療を考える、身近にある免疫反応の仕組みを考える、微生物と戦う、脳や神経系の働きや病気に関する科学的な記事や書物の理解に向けて）、総合ゼミナール（村上春樹を読み書き語る、薬を巡る話、DVDを作ろう・薬学生のための実用英語、ボランティア）など

2年次後期

化学系ゼミナール（国家試験対応スペクトル解析演習）、生物系ゼミナール（医学・生物学の進歩に触れる）、薬・疾病ゼミナール（薬理学を学ぶために、日本の臓器移植・何が良くて何がわるいの）、創薬ゼミナール（新聞や雑誌の記事を通してくすりを考える）、総合ゼミナール（統計学の苦手意識をなくそう、薬のデータを集めよう、ビッグファーマのマーケティング戦略を読み解く、科学と人間、低体力者への適切な運動処方およびメタボリックシンドロームに対する予防を学ぼう、米国の薬局を見学しよう、ボランティア）など

〔成績評価方法〕

提出物、参加態度等を総合的に判断する。

〔教科書〕

ゼミナール担当者が指定する。

〔参考書〕

ゼミナール担当者が指定する。

〔オフィスアワー〕

ゼミナール担当者が指定する。

〔準備学習（予習・復習等）〕

ゼミナールのコアタイムに実施されるグループ討議は、各個人のパフォーマンスレベルの高さによって質が左右されます。演習問題の回答でも、皆が十分な予習をしていることによって、質の高い解説が行われることとなります。プレゼンのための資料作りは、コアタイム以外の時間に行っていくことが前提となります。質の高いコアタイムを築くために、予習復習を十分に行ってください。

VI

実習科目

●共通実習科目

[生物系実習Ⅰ]
基礎生物学実習 208

[化学系実習Ⅰ]
基礎有機化学実習 210

[化学系実習Ⅱ]
有機化学実習 212
漢方薬物学実習 214

[物理系実習Ⅰ]
分析化学実習 216

[物理系実習Ⅱ]
物理化学・分析化学実習 219

[生物系実習Ⅱ]
微生物・免疫学実習 222

生物系実習 I

基礎生物学実習

Laboratory Course in Biology I : Introductory Laboratory Course in Biological Science

第 1 学年 後期 実習科目 1.5 単位

病態生化学教室 野水 基義 吉川 大和 保住達太郎 片桐 文彦

機能形態学教室 馬場 広子 山口 宣秀 林 明子 石橋 智子

薬学基礎実習教育センター 稲葉 二郎

学習目標 (GIO) ヒトのからだでは、細胞が互いに影響し合いながら統制の取れた機能を発揮する器官を形成し、さらに個体としての正常な生命活動を維持している。本実習においては、培養細胞および実験動物を用いて細胞、器官を観察することにより、個体構築に関する基礎的な知識を習得する。さらにヒトの各器官系の構造と機能調節および生体のダイナミックな調節機構に関する基本的知識・技能・態度を習得する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	生命の尊厳について、自らの言葉で説明できる。(知識・態度)	A-2-1-1
2	染色体の構造(ヌクレオソーム、クロマチン、セントロメア、テロメアなど)を説明できる。	C6-4-2-1
3	細胞周期とその制御機構について説明できる。	C6-7-1-1
4	細胞の分化における幹細胞、前駆細胞の役割について概説できる。	C7-1-2-2
5	人体を構成する器官、器官系の名称、形態、体内での位置および機能を説明できる。	C7-1-3-1
6	実験動物・人体模型・シミュレーターなどを用いて各種臓器の名称と位置を確認できる。(技能)	C7-1-3-3
7	代表的な器官の組織や細胞を顕微鏡で観察できる。(技能)	C7-1-3-4, X6-9-2
8	心臓について概説できる。	C7-1-7-1
9	血圧の調節機構について概説できる。	C7-2-5-1
10	動物実験における倫理について配慮できる。(態度)	E1-1-2-1, X6-9-3
11	実験動物を適正に取り扱うことができる。(技能)	E1-1-2-2
12	実験動物での代表的な投与方法が実施できる。(技能)	E1-1-2-3
13	実験動物を解剖し、臓器の配置および形態を観察する。(技能)	X-6-9-4
14	実験に使用した廃液を適切に処理する。(態度・技能)	F2-6-11, F2-6-13
15	適切な保護具を付けて実験を行う。(態度・技能)	F2-6-11, F2-6-13
16	周囲の安全に配慮して実験を行う。(態度・技能)	F2-6-11
17	実習の課題に関して適切に報告できる。	X-9-2-1, X-9-3-4

授業内容

回数	担当	内容	対応(SBOs)
1	野水、吉川、保住、片桐、稲葉	基礎生物学概説、染色体標本の作製	1-4, 14-17
2	野水、吉川、保住、片桐、稲葉	染色体標本の観察、動物組織標本の観察	1-4, 14-17
3	担当教員全員	実験動物概論、外部形態の観察、骨格の観察、保定・投与方法	1, 5, 6, 10-17
4	担当教員全員	麻酔、採血、系統解剖(1)	1, 5, 6, 10-17
5	担当教員全員	系統解剖(2)	1, 5, 6, 10-17
6	馬場、山口、林、石橋、稲葉	人体解剖概説	1, 2, 5, 6, 17
7	馬場、山口、林、石橋、稲葉	人体の主要な臓器の肉眼的および顕微鏡的観察	1, 3, 7, 17
8	馬場、山口、林、石橋、稲葉	血圧と心電図の測定	6, 8, 9, 17
9	野水、吉川、保住、片桐、稲葉	実習試験	1-13

【アクティブ・ラーニングの取り組み】

本実習では、2名/1班で実習を行い、多くの体験ができるようにしている。また、常に相互に意見交換をしながら実習を進めている。班ごとに雌雄が異なる系統解剖を行い、隣の班に教えることによって、より理解を深めることができるように工夫している。すなわち、自ら観察し、理解したことを教授することによって、さらに確かな知識になるように工夫している。これらによって、コミュニケーション能力やチームワークの大切さについて気付くように工夫している。

【授業で行っている工夫】

- ・実習専用の実験書を作成し、実験方法、実験の注意点を明確にしている。
- ・実習の課題について、実験書の中に書き込めるページを作っている。このページに課題の結果を書き込み、それを評価しながら口頭試問を行う。
- ・これによって、実習に対する理解度を確認した上で、フィードバックを確実にしている。
- ・心電図や血圧を測定することで、基礎知識として心電図の意味や血圧値が、不整脈や高血圧症を学ぶ上で重要であることが理解できるようにしている。すなわち、基礎知識と臨床薬学との繋がりについても理解できるように工夫している。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

- a) 知識：各項目の課題をチェックする時に、口頭試問を行い、フィードバックする。
- b) 技能：実習時間中に、実験手技についてフィードバックする。
- c) 態度：実習期間中を通じて観察を行い、その場でフィードバックする。
- d) パフォーマンス：実験結果を報告させ、質疑応答を通じてフィードバックする。

2) 総合的評価：日々の課題(技能)と態度(60%)、実習試験の結果(40%)から総合的に評価する。ただし、それぞれの項目(知識・態度・技能)が独立して到達点(55%)以上であることとする。

- a) 知識：実習試験が55%以上で合点とする。
- b) 技能：実習期間中の形成的評価で改善が認められれば合点とする。
- c) 態度：実習期間中の形成的評価で改善が認められれば合点とする。
- d) パフォーマンス：実習期間中の形成的評価で改善が認められれば合点とする。

〔教科書〕

生物系実習1 実験書 基礎生物学実習(薬学基礎実習教育センター編)

〔参考書〕

グラフィカル機能形態学(馬場広子編 京都廣川書店)
入門人体解剖学(藤田恒夫著 南江堂)

〔オフィスアワー〕

本実習担当教員 いつでも可(原則として実習終了後)

〔所属教室〕

野水 基義、吉川 大和、保住建太郎、片桐 文彦 病態生化学教室 研究2号館508号室
馬場 広子、山口 宣秀、林 明子、石橋 智子 機能形態学教室 研究1号館202号室
稲葉 二郎 薬学基礎実習教育センター 教育2号館3階2306号室

〔準備学習(予習・復習等)〕

実習のスケジュールを確認して、該当する実験書の範囲を予習して実習に望むこと。また、実習で行ったことを、関連する授業の教科書やプリントで必ず復習すること。

〔教員からの一言〕

実際に体験することによって、技能を修得し、知識を深めることを目標とする。また、命について自ら考える大切な機会である。
疾病のメカニズムを理解するためや、薬が体内でどのように作用しているかを理解するために、生物学・機能形態学的な知識が必要である。また、実習は自ら体験することによって、知識が深まる。自ら積極的に実習を行い、知識・技能の修得するように努めること。

〔備考〕

出席に関しては、原則、全出席とする(やむを得ない理由以外での欠席は認めない)。
欠席した場合には、欠席届とそれを証明する書類を添付して、薬学基礎実習教育センター 稲葉に提出すること。

化学系実習 I

基礎有機化学実習

Laboratory Course in Organic Chemistry I : Introductory Laboratory Course in Organic Chemistry

第 1 学年 後期 実習科目 1.5 単位

薬品製造学教室	松本 隆司 矢内 光 山口 悟
薬化学教室	三浦 剛 古石 裕治 平島 真一 中島 康介
薬品化学教室	林 良雄 高山 健太郎 田口 晃弘
薬学基礎実習教育センター	土橋 保夫

学習目標 (GIO) 有機化学の学習に必要な基礎的実験を行い、有機化合物の取扱い方法、分離法、精製法、物性値の測定法、構造確認法などについて、原理を理解して基本的な技能を習得する。また、脱離反応などの実験を通じて、有機反応の基本操作手順を学ぶ。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	簡単なガラス器具 (キャピラリー、攪拌棒、沸騰石) を作成できる。(技能)	
2	官能基の性質を利用した分離精製を実施できる。(技能)	C3-3-1-2, X-5-3-1, X-5-3-4, X-5-4-1
3	代表的な官能基の定性試験を実施できる。(技能)	C3-3-1-1
4	反応廃液を適切に処理する。(技能・態度)	Y-3-32-3
5	基本的な化合物を命名し、ルイス構造式で書くことができる。	C3-1-1-3
6	薬学領域で用いられる代表的化合物を慣用名で記述できる	C3-1-1-2, X-5-2-5
7	有機反応機構を、電子の動きを示す矢印を用いて表すことができる。(技能)	C3-1-1-9
8	ハロゲン化アルキルの脱ハロゲン化水素の機構を図示し、E2 反応における立体化学的要請 (ペリプラナー型) を説明できる。	C3-1-2-7, C3-3-2-3, X-5-1-2
9	アルケンへの臭素の付加反応の機構を図示し、反応の立体特異性 (アンチ付加) を説明できる。	C3-1-2-6, C3-2-2-1, X-5-3-3, X-5-4-1
10	薄層クロマトグラフィーを用いて代表的な化学物質を分離分析できる。(技能)	C2-5-1-2, X-5-2-2
11	カラムクロマトグラフィーを用いて化合物の分離を実施し、化合物の溶出パラメーターを算出できる。(技能)	C2-5-1-5
12	常圧蒸留による化合物の精製ができる。	C1-2-5-3

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	薬化学教室 薬品化学教室 薬品製造学教室	ガラス細工	1
2	"	蒸留による有機化合物の精製：インドフェノールブルーを不純物として含むアセトンの常圧蒸留	4, 6, 12
3	"	有機化合物の混合物の抽出分離：分液漏斗を用いた酸性物質、塩基性物質、中性物質の抽出分離	2, 4, 6, 8
4	"	溶媒の減圧濃縮と再結晶による有機化合物の精製：ロータリーエバポレーターを用いたエーテルの減圧下での濃縮、酸性有機化合物の再結晶 (熱時ろ過法) による精製	2, 4
5	"	官能基の定性反応による構造推定、物性値の測定：塩化第二鉄反応によるフェノール性水酸基の検出、ジアゾカップリング反応による芳香族第一級アミンの検出、微量融点測定装置を用いた融点測定	3-7
6	"	薄層クロマトグラフィーによる有機化合物の分離分析：フタル酸ジエステル類の分離、抽出分離した化合物の純度検定と同定	4, 10
7	"	カラムクロマトグラフィーによる有機化合物の分離	4, 11
8	"	脱離反応：メソ-1,2-ジブプロモ-1,2-ジフェニルエタンと水酸化カリウムの反応によるジフェニルアセチレンの合成	4-9
9	"	総合演習 (試験)	

【アクティブ・ラーニングの取り組み】
・毎回の実習終了後に少人数 (実習プラットごと) での口頭試問を行い、解答の是非について学生間で討論してもらう。

【授業で行っている工夫】

毎回の実習終了時に、当日の実験を記録したノートを教員がチェックして実験結果を評価しながら口頭試問を行う。この内容を踏まえて、結果の考察に重点を置いたレポートの提出を求める。さらに、実験の原理、操作に関連した課題を与え、理論に基づいた基本的技能の修得を目標とする。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

- a) 知識：キーワードを提示して課題と演習問題によりチェックする。
 b) 技能および c) 態度：基礎的な化学実験の技能の習得と実験態度については、実験中にチェックしてフィードバックする。d) パフォーマンス：毎回の実験終了報告の際に、実験結果の評価を行いながら、技能と態度、発表能力についても助言する。

2) 総括的評価

- a) 知識：総合演習（試験）、出席、提出レポートを総合的に評価する。
 b) 技能および c) 態度、d) パフォーマンス：形成的評価により判断する。総合演習（試験）で不合格の者に対しては、再試験を1回実施する。なお、実習はすべてに出席すること。やむを得ず病気で欠席する場合は、予め教員に連絡して指示に従うこと。

〔教科書〕

基礎有機化学実習実験書（2016年度版）

〔参考書〕

マクマリー有機化学（上）（中） 第8版 伊東ら訳 東京化学同人
 フィーザー／ウィリアムソン 有機化学実験 原書8版 磯部ら訳 丸善
 新版 基礎有機化学実験 その操作と心得 畑ら著 丸善

〔オフィスアワー〕

土橋 保夫 いつでも可、要予約。 教育1号館2階1205

〔所属教室〕

薬化学教室	三浦 剛	古石 裕治	平島 真一	中島 康介
薬品化学教室	林 良雄	高山 健太郎	田口 晃弘	
薬品製造学教室	松本 隆司	矢内 光	山口 悟	
薬学基礎実習教育センター		土橋 保夫		

〔準備学習（予習・復習等）〕

- ・実習のスケジュールを確認して、該当する実習書の範囲を予習して実習に臨むこと。
- ・実習で行ったことを、関連する授業の教科書等で必ず復習すること。

〔備考〕

- C-2 化学物質の分析 (2) 化学物質の検出と定量 【クロマトグラフィー】
 C-3 化学物質の性質と反応 (1) 化学物質の基本的性質 (2) 有機化合物の骨格 (3) 官能基

化学系実習 II

有機化学実習

Laboratory Course in Organic Chemistry II : Laboratory course in Organic Chemistry

第 2 学年 前期 実習科目 1.5 単位

生物分子有機化学教室 宮岡 宏明、釜池 和太、太田 浩一郎
 薬化学教室 三浦 剛、古石 裕治、平島 真一、中島 康介
 薬学基礎実習教育センター 土橋 保夫

学習目標 (GIO) 有機化学反応の実験を通して一連の実験技術を確実に習得し、さらに実験化学の重要性を認識しながら科学的な視点から実験を観察してその結果を十分に考察する。種々の官能基を有する有機化合物の多様な性質と反応性を効率的に理解して応用力を養う。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	官能基の性質を利用した分離精製を実施できる。(技能)	C3-3-1-2
2	反応廃液を適切に処理する。(技能・態度)	Y-3-32-3
3	化学反応によって官能基変換を実施できる。(技能)	Y-3-29-12
4	課題として与えられた化合物の合成法を立案できる。(知識・技能)	Y-3-32-1
5	代表的な化合物を IUPAC 規則に基づいて命名することができる。	C3-1-1-1
6	薬学領域で用いられる代表的な化合物を慣用名で記述できる。	C3-1-1-2
7	基本的な化合物を、ルイス構造式で書くことができる。	C3-1-1-3
8	基本的な有機反応機構を、電子の動きを示す矢印を用いて表すことができる。(技能)	C3-1-1-9
9	有機化合物の性質に及ぼす共鳴の影響について説明できる。	C3-1-1-4
10	アルデヒド類およびケトン類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	C3-3-4-1
11	アルコール類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	C3-3-3-1
12	カルボン酸誘導体(酸ハロゲン化物、酸無水物、エステル、アミド)の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	C3-3-4-3
13	薄層クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。	C2-5-1-2
14	クロマトグラフィーを用いて試料を分離精製できる。(技能)	C2-5-1-5
15	代表的な芳香族炭化水素化合物の性質と反応性を説明できる。	C3-2-3-1
16	芳香族性の概念を説明できる。	C3-2-3-2
17	アルコールの代表的な合成法について説明できる。	Y-3-29-4
18	カルボン酸誘導体(エステル)の代表的な合成法について説明できる。	Y-3-29-9
19	代表的な炭素-炭素結合生成反応(アルドール反応)について説明できる。	Y-3-30-3

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	生物分子有機化学教室 薬化学教室	還元反応：アセトフェノンと水素化ホウ素ナトリウムの反応	1~10、17
2	#	エステル化反応：1-フェニルエタノールと <i>p</i> -トルオイルクロリドの反応	1~9、11、18
3	#	エステル化反応の粗精製物のクロマトグラフィーによる精製	1、2、13、14、
4	#	芳香族求電子置換反応：安息香酸メチルのニトロ化	1~9、15、16
5	#	カルボニル縮合反応：アセトンとベンズアルデヒドとのアルドール縮合	1~10、12、19
6	#	総合演習(試験)	

【アクティブ・ラーニングの取り組み】
 ・毎回の実習終了後に少人数(実習プラquetteごと)での口頭試問を行い、解答の是非について学生間で討論してもらう。

【授業で行っている工夫】
 2人1組で実験を行うが、全員の実験結果を掲示により発表して比較することにより、実験技術等の問題点を自ら考察して技能のレベルアップを図る。毎回の実習終了時に、当日の実験を記録したノートと教員がチェックして実験結果を評価しながら口頭試問を行う。この内容を踏まえて、結果の考察に重点を置いたレポートの提出を求める。

【成績評価方法】

1) 形成的評価

- a) 知識：キーワードを提示して課題と演習問題によりチェックする。
 b) 技能、c) 態度：基礎的な化学実験の技能の習得と実験態度については、実験中にチェックしてフィードバックする。
 d) パフォーマンス：毎回の実験終了報告の際に、実験結果の評価を行いながら、技能と態度、発表能力についても助言する。

2) 総括的评价

- a) 知識：総合演習（試験）、出席、提出レポートを総合的に評価する。
 b) 技能、c) 態度、d) パフォーマンス：形成的評価により判断する。
 総合演習（試験）で不合格の者に対しては、再試験を1回実施する。なお、実習はすべてに出席すること。やむを得ず病気で欠席の場合は、予め教員に連絡して指示に従うこと。

【教科書】

化学系実習Ⅱ実験書（2016年度版）

【参考書】

マクマリー有機化学（上）（中） 第8版 伊東ら訳 東京化学同人
 フィーザー／ウィリアムソン 有機化学実験 原書8版 磯部ら訳 丸善
 新版 基礎有機化学実験 その操作と心得 畑ら著 丸善

【オフィスアワー】

土橋 保夫 いつでも可、要予約。 教育1号館2階1205

【所属教室】

生物分子有機化学教室 宮岡 宏明、釜池 和夫、太田 浩一朗
 薬化学教室 三浦 剛、古石 裕治、平島 真一、中島 康介
 薬学基礎実習教育センター 土橋 保夫

【準備学習（予習・復習等）】

- ・実習のスケジュールを確認して、該当する実習書の範囲を予習して実習に臨むこと。
- ・実習で行ったことを、関連する授業の教科書やプリントで必ず復習すること。

【備考】

- C2 化学物質の分析
 (5) 分離分析法 【クロマトグラフィー】
 C3 化学物質の性質と反応
 (1) 化学物質の基本的性質 (2) 有機化合物の基本骨格の構造と反応 (3) 官能基の性質と反応

化学系実習 II

漢方薬物学実習

Laboratory Course in Organic Chemistry II ; Laboratory course in Kampo Medicine

第 2 学年 前期 実習科目 1.5 単位

漢方資源応用学教室 三巻 祥浩 黒田 明平 横須賀章人 松尾侑希子
薬学基礎実習教育センター 佐藤 弘人

学習目標 (GIO) 漢方の基礎概念、重要な漢方薬、漢方に配合される生薬（漢方系生薬）を学習した後、代表的な漢方煎じ薬の調製と漢方エキス製剤の品質評価に関する実習を行い、漢方薬の特徴を理解する。また、漢方系生薬の観察、官能的・化学的試験を行い、漢方系生薬の理解を深める。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	漢方の基礎概念および漢方薬の特徴を概説できる。	E2-7-3-1、E2-10-1-1、E2-10-1-3、E2-10-2-1、E2-10-2-2、E2-10-2-3、E2-10-3-1、Y-5-2-1、Y-5-2-2、Y-5-2-3
2	代表的な漢方系生薬を列挙し、それらの基原植物や主要成分、薬理作用を概説できる。	C5-1-1-1、C5-1-2-1、C5-1-3-1
3	かぜ症候群に対して、漢方湯剤を用いた治療方法を説明できる。	E2-7-3-1、E2-10-1-3、E2-10-2-1、E2-10-2-2、F-5-3-6
4	漢方煎じ薬（湯剤）を調製できる。	Y-5-2-3、Y-6-2-2
5	漢方煎じ薬とエキス製剤について、それぞれの長所と短所を説明できる。	Y-5-2-3
6	官能的な試験により漢方系生薬を同定できる。	C5-1-4-3、C5-1-4-4、Y-3-41-1
7	化学的な試験により漢方系生薬を同定できる。	C5-1-4-3、C5-1-4-4、Y-3-41-1
8	形態学的な観察により漢方系生薬を同定できる。	C5-1-4-3、C5-1-1-2、Y-3-41-1
9	漢方湯剤、散剤、丸剤の特徴を概説できる。	E5-2-1-6、Y-5-2-3
10	指標成分に着目した漢方薬の品質試験を実施できる。	C2-5-1-2、C5-1-4-1
11	安全に配慮し、能動的に実習を行う。	東薬独自
12	実験に使用した廃液・廃棄物を適切に処理する。(態度・技能)	Y-3-32-3
13	適切な保護具を付けて実験を行う。(態度・技能)	東薬独自
14	周囲の安全に配慮して実験を行う。(態度・技能)	東薬独自

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	漢方資源応用学	漢方の基礎概念、漢方処方で行われる生薬、重要な漢方処方を解説した後、演習を行い、漢方に関する基礎知識を習得する。	1、2、5
2	漢方資源応用学	かぜ症候群に頻用されている 8 種の漢方湯剤を調剤し、湯剤を調製して、色、におい、味を確認する。その結果を医療用漢方エキス剤と比較し、漢方エキス剤の簡便さ、服用のしやすさを体感して、エキス剤の有用性を理解する。	3-6、11-14
3	漢方資源応用学	医療用漢方製剤として頻用されている 2 種の漢方処方「安中散」と「桂枝茯苓丸」について、配合されている生薬の性状（色、におい、味、形態の特徴）を確認し、また数種の生薬については化学的な確認試験を行い、その結果が日局の規格と一致しているか考察する。	6-9、11-14
4	漢方資源応用学	数社から製造、販売されている医療用および OTC 漢方製剤の「安中散」について、薬効に寄与していると考えられる精油成分「ケイヒアルデヒド」と「アネトール」を指標とした成分分析を行い、各製剤の特徴について考察する。	7、10、11-14
5	漢方資源応用学	「芍薬甘草湯」「半夏厚朴湯」「大黃甘草湯」「大黃牡丹皮湯」「茵陳蒿湯」のいずれかの未知検体について、各処方に配合されている生薬の特徴的な成分を指標に鑑別を行う。	6、7、10、11-14
6	漢方資源応用学	1 回目から 5 回目までのまとめと試験	1-10

【アクティブ・ラーニングの取り組み】
毎回の実習終了後に少人数（実習プラquetteごと）での口頭試問を行い、解答の是非について学生間で討

論してもらう。

〔授業で行っている工夫〕

基礎系実習科目であるが、医療用漢方エキス製剤のにおいや味、服用しやすいか否かを確認するなど、実務に繋がる実習も行っている。実習操作終了後に毎回口頭試問を実施し、形成的評価を行っている。あらかじめフォーマットされたレポート用紙（A3、1枚）を学生に配布し、実習目的、実習内容、実習操作、結果、考察などの記入漏れがないようにしている。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

- a) 知識：毎回の実習終了時に口頭試問を行う。
- b) 技能：正しい実験手技について、繰り返し指導を行う。
- c) 態度：実習に対する取り組み姿勢を観察し、口頭試問時にフィードバックを行う。
- d) パフォーマンス：毎回の実習終了時に口頭試問を行い、習熟度を確認する。

2) 総括的评价

- a) 知識：実習試験の得点、レポート・課題の記述内容を総合して評価する。
- b) 技能：未知検体の鑑別結果の正誤により評価する。
- c) 態度：レポート・課題の提出状況、実習に対する取り組み姿勢を総合して評価する。
- d) パフォーマンス：形成的評価により判断する。

〔教科書〕

化学系実習Ⅱ実験書（薬学基礎実習教育センター編）

〔参考書〕

第十六改正日本薬局方解説書（廣川書店）

薬学生のための漢方薬入門 第3版（指田、三巻著、廣川書店）

パートナー生薬学 第2版（竹谷、鳥居塚編、南江堂）

〔オフィスアワー〕

黒田 明平 原則的にいつでも可であるが、事前に予約することが望ましい。

佐藤 弘人 原則的にいつでも可であるが、事前に予約することが望ましい。

〔所属教室〕

黒田 明平 漢方資源応用学教室 研究2号館408室

佐藤 弘人 薬学基礎実習教育センター 教育2号館2206室

〔準備学習（予習・復習等）〕

実習試験では実習内容はもちろんのこと、関連する知識（漢方薬が適応となる症候と疾患、漢方系生薬の基礎知識（基原植物の科名、和名、使用部位、主要成分とその構造、薬理作用）など）も出題している。本学において漢方薬を取り扱う実習はこれが唯一であるので、しっかりと予習をして実習に臨むこと。また、レポートは実習実施日ごとに、復習も兼ねて完成させること。

〔備考〕

本実習では、2日目、3日目に漢方薬および生薬の味を試験するので、ミネラルウォーターを用意すること。（ジュース、お茶など味のあるものは不可）

物理系実習 I

分析化学実習

Laboratory Course in Physical Chemistry I : Analytical Chemistry Laboratory

第 2 学年 前期 実習科目 1.5 単位

分析化学教室 袴田 秀樹 小谷 明 山本 法央
薬物生体分析学教室 柳田 顕郎 東海林 敦
薬学基礎実習教育センター 高橋 浩司

学習目標 (GIO) 容量分析に主眼を置き、薬学を学ぶ上で必要となる分析化学の基本的な技能を身につける。まず、試料中に存在する物質の種類および濃度を知るために、酸・塩基や酸化還元などの各種の化学平衡に基づいた定量法の基本的知識と技能を修得する。加えて、機器分析法の基本的知識と技能を身につけ、医薬品を含む化学物質をその性質に基づいて分析できるようにする。同時にバリデーションの考え方を身につけ、得られた分析データの評価方法を修得する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	原子量、分子量を説明できる。	X-5-1-2
2	溶液の濃度計算と調製ができる。(知識・技能)	X-5-3-1
3	質量保存の法則について説明できる。	X-5-3-2
4	代表的な化学変化を化学量論的にとらえ、その量的関係を計算できる。(技能)	X-5-3-3
5	分析に用いる器具を正しく使用できる。(知識・技能)	C2-I-1-1
6	化合物の秤量、溶解、抽出、乾燥、ろ過、濃縮を実施できる。(技能)	X-5-4-1
7	測定値を適切に取り扱うことができる。(知識・技能)	C2-1-1-2
8	分析法のバリデーションについて説明できる。	C2-1-1-3
9	電極電位(酸化還元電位)について説明できる。	C1-2-7-2
10	酸・塩基平衡の概念について説明できる。	C2-2-1-1
11	酸と塩基の基本的な性質および強弱の指標を説明できる。	X-5-3-4
12	pH および解離定数について説明できる。(知識・技能)	C2-2-1-2
13	溶液の pH を測定できる。(技能)	C2-2-1-3
14	酸化還元平衡について説明できる。	C2-2-2-3
15	酸化と還元について電子の授受を含めて説明できる。	X-5-3-5
16	Nernst の式が誘導できる。	Y-3-4-1
17	中和滴定(非水滴定を含む)の原理、操作法および応用例を説明できる。	C2-3-2-1
18	酸化還元滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。	C2-3-2-4
19	日本薬局方収載の代表的な医薬品の容量分析を実施できる。(知識・技能)	C2-3-2-5
20	分配平衡について説明できる。	C2-2-2-4
21	クロマトグラフィーの分離機構を説明できる。	C2-5-1-1
22	液体クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。	C2-5-1-3
23	クロマトグラフィーを用いて試料を定性・定量できる。(知識・技能)	C2-5-1-5
24	紫外可視吸光度測定法の原理および応用例を説明できる。	C2-4-1-1
25	分光分析法を用いて、日本薬局方収載の代表的な医薬品の分析を実施できる。(技能)	C2-4-1-6
26	実験に使用した廃液を適切に処理する。(態度・技能)	F-2-6-11, F-2-6-13
27	周囲の安全に配慮して実験を行う。(態度・技能)	F-2-6-11
28	適切な保護具をつけて実験を行う。(態度・技能)	F-2-6-11, F-2-6-13

授業内容

回数	担当	内容	対応(SBOs)
1	薬物生体分析学 分析化学	容量分析用標準液の調製と標定、0.1mol/L の水酸化ナトリウム液のファクターの算出	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 10, 11, 12, 17, 26, 27, 28
2	薬物生体分析学 分析化学	目視指示薬を用いた酸塩基滴定、リン酸の定量	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 10, 11, 12, 13, 17, 26, 27, 28
3	薬物生体分析学 分析化学	電位差滴定法による多塩基酸の滴定曲線の作成、電位差計の装置の理解、リン酸の定量	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 10, 11, 12, 17, 26, 27, 28

回数	担当	内容	対応(SBO#)
4	薬物生体分析学 分析化学	酸化還元滴定、0.1mol/L テオ硫酸ナトリウム液の調製と標定、0.05mol/L ヨウ素液の調製と標定	1、2、3、4、5、 6、7、9、14、 15、16、18、26、 27、28
5	薬物生体分析学 分析化学	日本薬局方収載医薬品の容量分析、アスコルビン酸の定量	1、2、3、4、5、 6、7、9、14、 15、16、18、19、 26、27、28
6	薬物生体分析学 分析化学	分析法バリデーション、日本薬局方収載計量器を用いるときの測定精度の評価	4、5、6、7、8、 27、28
7	薬物生体分析学 分析化学	紫外可視吸光度法、吸光度計の装置の理解、吸収スペクトルの解析、モル吸光係数の算出と食品着色料の定量	1、2、3、4、5、 6、7、24、25、 26、27、28
8	薬物生体分析学 分析化学	高速液体クロマトグラフィー (HPLC) による日本薬局方収載医薬品の定量、HPLC 装置の理解、システム適合性試験、内標準法によるインドメタシンカプセル中のインドメタシンの定量	1、2、3、4、5、 6、7、20、21、 22、23、26、27、 28
9	薬物生体分析学 分析化学	容量分析、機器分析、実験データの取り扱いについて、試験	1、2、3、4、5、 6、7、8、9、10、 11、12、13、14、 15、16、17、18、 19、20、21、22、 23、24、25

【アクティブ・ラーニングの取り組み】

滴定に関する理解度チェックの小テストを2回実施している。

レポートを各実習項目ごとに提出させている。

学生の理解を助けるために補助プリントを配布している。

成績評価では、実習試験だけでなく、実習中の態度、技能(実習結果)について評価し、実習中にフィードバックしている。

【授業で行っている工夫】

各学生が臨床の薬剤師として必要な分析化学の基本的知識や技術をより良く修得できるようにするために、容量分析に必要な溶液濃度の計算や試料調製、滴定操作、得られた実験値からのファクターや目的成分含量の計算、分析法バリデーションに基づいた分析結果の客観的評価を各個人で行う。実験結果は口頭もしくはインターネットを介して報告し、結果に対する評価および実験結果に影響を与える要因について職員からのフィードバックを受ける。

また、これらの結果と各実習項目に関連し出題された課題について小グループで調査、考察を行いレポートにまとめ、提出する。提出されたレポートは職員により評価され、内容に関してフィードバックを受ける。さらに未知検体を用い、その中に含まれる目的成分の定量を行い、定量結果を報告する。報告された定量結果は職員により評価され、評価結果は学生へフィードバックされる。その評価結果から定量結果に影響を与えた要因などを考察し、実習で得られた知識・技術の修得達成度を学生自らも評価する。また、未知検体を取り扱うことにより、実試料を扱うときの注意点や責任に関しても学ぶ。

【成績評価方法】

1) 形成的評価

- a) 知識：各項目ごとにレポートと課題の提出を行う。
- b) 技能：実習中の手技について、実習時間内にフィードバックする。
- c) 態度：実習に取り込む姿勢について観察記録をつけ、実習時間内にフィードバックする。
- d) パフォーマンス：実験結果を報告させ、質疑応答を通じて発表能力をフィードバックする。

2) 総括的評価

- a) 知識：実習態度、試験、レポートを総合的に評価する。
- b) 技能：繰り返しの形成的評価で改善が認められれば合とする。
- c) 態度：繰り返しの形成的評価で改善が認められれば合とする。
- d) パフォーマンス：提出されたレポートの結果・考察の表現力について評価する。

【教科書】

物理系実習Iテキスト

薬学生のための分析化学 第3版 (楠文代/渋澤庸一編集 廣川書店)

演習を中心とした薬学生の分析化学 第5版 (嶋田健次編集 廣川書店)

なるほど分析化学-数字となかよくする本 (楠文代/渋澤庸一編集 廣川書店)

【参考書】

第十六改正日本薬局方解説書(廣川書店)

イラストで見る化学実験の基礎知識(丸善)

【オフィスアワー】

柳田 顕郎 いつでも可。 研究2号館405号
 袴田 秀樹 いつでも可。 研究2号館406号
 高橋 浩司 いつでも可。 教育2号館2階2209

【所属教室】

柳田 顕郎 薬物生体分析学教室
 袴田 秀樹 分析化学教室
 高橋 浩司 薬学基礎実習教育センター

(準備学習(予習・復習等))

実習のスケジュールを確認して、該当する実習書の範囲を予習して実習に臨んでください。また、実習で行ったことを、関連する授業の教科書やプリントで必ず復習してください。

〔備考〕

C2 化学物質の分析 (1) 分析の基礎、(2) 溶液中の化学平衡、(3) 化学物質の定性分析・定量分析、(4) 機器を用いる分析、(5) 分離分析法

物理化学・分析化学実習

Laboratory Course in Physical Chemistry II : Physical and Analytical Chemistry Laboratory

第2学年 後期 実習科目 1.5単位

分子機能解析学教室 青山 洋史 伊集院 良祐 加藤 淳也

薬物生体分析学教室 柳田 顕郎 東海林 敦

薬学基礎実習教育センター 高橋 浩司

学習目標 (GIO) 単位、有効数値の取扱い、濃度計算、機器分析法などに関する分析化学演習を通して、薬学分野における数値的な取り扱いの基本を修得する。日本薬局方一般試験法の物理的試験法に収載の機器分析の基本的な原理、測定法を理解する。さらに、薬学に関連する題材をとりあげた物理化学実習を通して、物質の化学変化や変化の過程、反応速度、エネルギー変化などの物理化学的諸現象の理解を深める。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	溶液の濃度計算と調製ができる。(技能)	X-5-3-1
2	酸・塩基平衡の概念について説明できる。	C2-2-1-1
3	pH および解離定数について説明できる。(知識・技能)	C2-2-1-2
4	溶液の pH を測定できる。(技能)	C2-2-1-3
5	緩衝作用や緩衝液について説明できる。	C2-2-1-4
6	紫外可視吸光度測定法の原理および応用例を説明できる。	C2-4-1-1
7	蛍光光度法の原理および応用例を説明できる。	C2-4-1-2
8	イオン強度について説明できる。	C1-2-6-4
9	クロマトグラフィーの分離機構を説明できる。	C2-5-1-1
10	液体クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。	C2-5-1-3
11	電気泳動法の原理および応用例を説明できる。	C2-5-2-1
12	SI 単位系について説明できる。	X-4-1-2
13	基本単位を組み合わせた組立単位を説明できる。	X-4-1-3
14	反応次数と速度定数について説明できる。	C1-3-1-1
15	微分型速度式を積分型速度式に変換できる。(知識・技能)	C1-3-1-2
16	代表的な(擬)一次反応の反応速度を測定し、速度定数を求めることができる。(技能)	C1-3-1-4
17	旋光度測定法(旋光分散)の原理および応用例を説明できる。	C2-4-1-5
18	相平衡と相律について説明できる。	C1-2-5-2
19	状態図について説明できる。	C1-2-5-3
20	物質の溶解平衡について説明できる。	Y-3-2-1
21	化学変化に伴うエンタルピー変化について説明できる。	C1-2-2-7
22	代表的な物理変化、化学変化に伴う熱力学量(エンタルピー変化、エントロピー変化、ギブスエネルギー変化など)を説明し、求めることができる。(技能)	Y-3-1-1
23	希薄溶液の束一的性質について説明できる。(知識)	C1-2-6-1
24	分析に用いる器具を正しく使用できる。(知識・技能)	C2-1-1-1
25	測定値を適切に取り扱うことができる。(知識・技能)	C2-1-1-2
26	実験に使用した廃液を適切に処理する。(態度・技能)	F-2-6-11, F-2-6-13
27	周囲の安全に配慮して実験を行う。(態度・技能)	F-2-6-11
28	適切な保護具を着けて実験を行う。(態度・技能)	F-2-6-11, F-2-6-13

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	薬物生体分析学	分析化学計算演習(単位・有効数字の取扱い、濃度計算、pH 算出について)	1, 2, 3, 12, 13
2	"	pH 緩衝液の基本的性質の理解、リン酸緩衝液の調製と緩衝能について	3, 4, 5, 24, 25, 26, 27, 28
3	"	紫外可視吸光度測定法、蛍光光度法、旋光度測定法、クロマトグラフィー、電気泳動に関する演習	6, 7, 8, 9, 10, 11, 17
4	分子機能解析学	物理化学実習の内容、原理、目的、基本事項の説明、高分子化合物の粘度測定の実演	12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 26
5	"	シヨ糖の加水分解反応に伴う旋光度変化の測定(反応速度定数と半減期の算出)	12, 13, 14, 15, 16, 17, 24, 25, 26, 27, 28

回数	担当	内容	対応(SBOs)
6	#	相分離温度の測定(水-フェノール相互溶解度曲線の作成)	18、19、24、25、26、27、28
7	#	安息香酸の水に対する溶解度の測定(溶解エンタルピーの算出)	20、21、22、24、25、26、27、28
8	#	凝固点降下度の測定(溶質の分子量を算出)	23、24、25、26、27、28
9	#	実験結果のまとめ、実習試験	12、13、14、15、16、17、18、19、20、21、22、23

【アクティブ・ラーニングの取り組み】

【物理化学実習】

実験方法の原理および実験結果の解釈について、常にグループで討論して意見を纏めさせ、口頭試問で確認し、さらに実習レポートに記載するように指導している。

毎回の実習終了後に少人数での口頭試問を行い、解答の是非について教員を中心として討論を行っている。

成績評価では、実習試験だけでなく、実習中の態度、技能(実習結果)について評価し、実習中にフィードバックしている。さらに、実習レポートを提出させ、各自の理解度を確認し、必要に応じて個別の指導を行う。

【分析化学実習】

実習テキスト内に課した演習問題について、グループで協議しながら解答させている。

演習問題のレポートを職員へ提出させ、その場で評価と内容に関するフィードバックを行っている。

【授業で行っている工夫】

【物理化学実習】

講義(物理化学I、物理化学II、物理化学III)で理解しにくい行動目標について実験を行い、実験終了後に教員を中心とする小グループで実験結果を討論することにより、行動目標が明確に理解できるよう工夫している。また、薬の調剤からめて教授することにより、試料を「正確にはかる」、「移すこと」の重要性が理解できるように工夫している。

【分析化学実習】

分析化学に必要な基礎的知識に対する理解を深めるため、各実習項目に関連した演習問題を、まず各自が考えて解答し、そこで生じた問題点をグループで協議しながら解答へ導く。その解答をまとめたレポートを職員に提出し、その場で評価と内容に関するフィードバックを受ける。また、緩衝液の基本的性質をより深く理解するために、実験も併行して行う。さらに、機器分析の演習問題を通して、分析法についての理解を深める。

【成績評価方法】

1) 形成的評価

- a: 知識: 各項目ごとにレポートと課題の提出を行う。
- b: 技能: 実習中の手技について、実習時間内にフィードバックする。
- c: 態度: 実習に取り込む姿勢について観察記録をつけ、実習時間内にフィードバックする。
- d: パフォーマンス: 口頭試問を通じて発表能力をフィードバックする。

2) 総合的評価

- a: 知識: 実習態度、試験、レポートを総合的に評価する。
- b: 技能: 繰り返しの形成的評価で改善が認められれば合とする。
- c: 態度: 繰り返しの形成的評価で改善が認められれば合とする。実習、演習態度、課題を総合的に評価する。
- d: パフォーマンス: 提出されたレポートの結果・考察の表現力について評価する。

【教科書】

物理系実習IIテキスト
 物理化学要論 第5版(アトキンス著、千原英昭・稲葉 章訳 東京化学同人)
 薬学生のための分析化学 第3版(楠文代/渋澤庸一編集 廣川書店)
 演習を中心とした薬学生の分析化学(嶋田健次編集 廣川書店)
 なるほど分析化学-数字となかよくする本(楠文代/渋澤庸一編集 廣川書店)

【参考書】

第十六改正日本薬局方解説書(廣川書店)
 薬学領域の物理化学(渋谷 皓編集 横松 力、湯浅洋子他著 廣川書店)

【オフィスアワー】

青山 洋史 いつでも可。ただし要事前連絡。 研究1号館 303号室
 柳田 颯郎 いつでも可。 研究2号館 405号室
 高橋 浩司 いつでも可。 教育2号館 2209号室

【所属教室】

青山 洋史 分子機能解析学教室
 柳田 颯郎 分析化学教室
 高橋 浩司 薬学基礎実習教育センター

【準備学習(予習・復習等)】

実習のスケジュールを確認して、該当する実習書の範囲を予習して実習に臨んでください。また、実習で行ったことを、関連する授業の教科書やプリントで必ず復習してください。

【備考】

【物理化学実習】

C1 物質の物理的性質 (1) 物質の構造、(2) 物質のエネルギーと平衡、(3) 物質の変化

[分析化学実習]

C2 化学物質の分析 (1) 分析の基礎、(2) 溶液中の化学平衡、(3) 化学物質の定性分析・定量分析、
(4) 機器を用いる分析、(5) 分離分析法

授業計画



生物系実習 II

微生物・免疫学実習

Laboratory Course in Biology II : Laboratory Course in Microbiology and Immunology

第 2 学年 後期 実習科目 1.5 単位

病原微生物学教室 野口 雅久 中南 秀将 輪島 文明 中瀬 恵亮

免疫学教室 大野 尚仁 安達 禎之 石橋 健一 山中大輔

薬学基礎実習教育センター 安藤 堅

学習目標 (GIO) 薬学の微生物に関する研究は、病原体の研究から医薬品の開発へ進み、さらに感染症の予防・診断に関わる免疫学へと発展してきた。本実習においては、基礎的な細菌、細菌ウイルスの取り扱いからスタートし、抗生物質の効力測定などを習得した後、免疫学に関する抗体の凝集反応、白血球の抗菌反応、アレルギー反応などについて学ぶ。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	感染予防の基本的考え方とその方法が説明できる。	F-2-6-4
2	施設内で衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施する。	F-2-6-12
3	臨床検体・感染性廃棄物を適切に取り扱うことができる。	F-2-6-13
4	滅菌、消毒および殺菌、静菌の概念を説明できる。	C8-3-5-1
5	主な滅菌法および消毒法について説明できる。	C8-3-5-2
6	代表的な消毒薬の用途、使用濃度および調製時の注意点を説明できる。	F-2-6-6
7	主な滅菌法および消毒法を実施できる。	Y-3-64-1
8	学校薬剤師の業務を体験する。	F-5-2-3
9	地域住民の衛生管理（消毒、食中毒の予防、日用品に含まれる化学物質の誤嚥誤飲の予防等）における薬剤師活動を体験する。	F-5-2-4
10	無菌操作を実施できる。	C8-3-6-2
11	代表的な細菌または真菌の分離培養、純培養を実施できる。	C8-3-6-3
12	細菌の構造と増殖機構について説明できる。	C8-3-2-2
13	グラム染色を実施できる。	C8-3-6-1
14	細菌の分類や性質（系統学的分類、グラム陽性菌と陰性菌、好気性菌と嫌気性菌など）を説明できる。	C8-3-2-1
15	細菌の同定に用いる代表的な試験法（生化学的性状試験、血清型別試験、分子生物学的試験）について説明できる。	Y-3-65-1
16	代表的な細菌を同定できる。	Y-3-65-2
17	抗体分子の基本構造、種類、役割を説明できる。	C8-1-3-4
18	抗原抗体反応を利用した検査方法（ELISA 法、ウエスタンブロット法など）を実施できる。（技能）	C8-2-2-4
19	免疫担当細胞の種類と役割を説明できる。	C8-1-2-2
20	アレルギーを分類し、担当細胞および反応機構について説明できる。	C8-2-1-2
21	動物実験における倫理について配慮できる。	E1-1-2-1
22	実験動物を適正に取り扱うことができる。	E1-1-2-2
23	実験動物での代表的な投与方法が実施できる。	E1-1-2-3
24	実験動物・人体模型・シミュレーターなどを用いて各種臓器の名称と位置を確認できる。	C7-1-3-3
25	代表的な器官の組織や細胞を顕微鏡で観察できる。	C7-1-3-4
26	脂質、糖質、アミノ酸、タンパク質、もしくは核酸の定性または定量試験を実施できる。	C6-2-8-1
27	適切な保護具を付けて実験を行う。（態度・技能）	東薬独自
28	周囲の安全に配慮して実験を行う。（態度・技能）	東薬独自
29	実験に使用した廃液・廃棄物を適切に処理する。（態度・技能）	東薬独自

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	病原微生物学教室	衛生的手洗いの実践、無菌試験（直接法・メンブランフィルター法）、細菌の培養、バクテリオファージの観察（増殖試験）	1-11
2	病原微生物学教室	細菌の同定、細菌の培養、手指付着細菌の検出、空中落下細菌の検出、鼻腔内グラム陽性細菌の検出、バクテリオファージの宿主特異性試験、細菌の増殖曲線の作成	3、8、10-12
3	病原微生物学教室	グラム染色法、細菌の生化学的試験、薬剤感受性ディスク試験	13-16
4	病原微生物学教室	薬剤感受性ディスク試験、演習	1、4-6、12、14、15

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
5	免疫学教室	凝集反応の観察、ELISA (1)	17、18
6	免疫学教室	免疫組織の抗菌作用、マクロファージの貪食作用 (1)、ELISA (2)	18、19、22、24、25
7	免疫学教室	マクロファージの貪食作用 (2)、ELISA (3)	18、19、26
8	免疫学教室	ラットを用いた PCA 反応の観察、イムノクロマトグラフィーを用いたヒト血中 IgE の検出	17-24、26
9	病原微生物学教室 免疫学教室	実習試験	

【アクティブ・ラーニングの取り組み】

- ・毎回の実習終了後に少人数（実習プラッテごと）での口頭試問を行い、解答の是非について学生間で討論してもらう。
- ・レポートを各実習項目ごとに提出させている。
- ・グループ毎に実習結果を討議する時間を設けている。
- ・各実習終了毎に、レポートを作成させ、提出させている。
- ・補助プリントを配布し、実習説明をしながら、空欄部分を記入させるようにしている。
- ・学生を指名して、実験結果を発表させている。
- ・学生の理解を助けるためにプリントを作成し、実習の解説を進めながら、課題に対処させている。
- ・成績評価では、実習試験だけでなく、実習中の態度、技能（実習結果）について評価し、実習中にフィードバックしている。さらに、実習レポートを提出させ、各自の理解度を確認し、必要に応じて個別の指導を行う。

【授業で行っている工夫】

微生物学実習では、できる限り一人一人の学生が興味を持って微生物を取り扱い、観察できるように代表的な細菌を含め身体に付着している微生物も実習材料として用いている。さらに、学校薬剤師の業務の一部を実習に取り入れ、実務への応用も配慮している。また、実習で取り扱う一部の材料はグループ毎に変え、得られる結果が異なるようにし、個々の実験データに責任を持たせる実習を行っている。さらに、日々の実習終了時に必ず各班毎の各学生に口頭で質問することで、実習の習得を確認、指導している。

免疫学実習では、実習書に加えて実験内容を図示したスライドを別途掲載し、実験方法や原理をイメージしやすいよう配慮している。項目によっては測定対象の検体もグループごとに変え、得られる結果が異なるようにし、個々の実験データに責任を持たせる実習を行っている。さらに、項目毎に各学生に口頭質問することで、実習の習熟度を確認、指導している。

【成績評価方法】

1) 形成的評価

- a) 知識：各実習項目毎に、個別あるいはグループ毎に口頭試問を兼ねた面談を行い、フィードバックする。
- b) 技能：実習時間に、実験手技について、こまめにフィードバックする。
- c) 態度：実習期間中を通じて観察を行い、その場でフィードバックする。
- d) パフォーマンス：グループワーク能力の到達度を共通の評価表を使用して、実習終了時にグループ毎に評価している。

2) 総括的評価

- a) 知識：実習レポート、出席および最終日に行う実習試験から総合的に評価する。
- b) 技能：実習期間中の形成的評価におけるフィードバックで改善されれば合とする。
- c) 態度：繰り返しの形成的評価で改善が認められれば合とするが、総合評価に含める。
- d) パフォーマンス：実習レポートを提出させ、結果・考察の表現力について評価する。

評価基準

- ・ A (80~100%) : 合格
- ・ B (70~79%) : 合格
- ・ C (60~69%) : 合格
- ・ D (60%未満) : 不合格

【教科書】

薬学実習書 生物系実習 II

【参考書】

新しい微生物学 (廣川書店)、戸田新細菌学 (南山堂)、ブラック微生物学 (丸善)、免疫学概説 (廣川書店)、免疫学イラストレイテッド (南江堂)、免疫学実習スライド
配布プリント

【オフィスアワー】

病原微生物学教室 (野口、中瀬、輪島、中瀬) いつでも可。 研究2号棟5階、病原微生物学教室
免疫学教室 (安達、石橋、山中) いつでも可。 研究2号棟5階、免疫学教室

【所属教室】

野口 病原微生物学教室
安達 免疫学教室

【準備学習 (予習・復習等)】

微生物学実習では、2年で講義した微生物学と病原微生物学の体験の場所です。講義した微生物の内容をもう一度復習し、生きた微生物の形態や臭い、そして抗菌薬の働き方を体験してください。また、薬剤感受性試験や抗菌薬の作用は、3年の感染制御学にも関連していることを覚えておいてください。免疫学実習では、2年後期に受講する必修科目「免疫学」と並行して行われます。実験を通して免疫学の基礎を理解することを目標の一つにしています。講義と実習により、免疫の奥深さ・免疫反応の面白さを知り、3年の「臨床免疫学」に向けた基礎固めとしてください。

〔教員からの一言〕

微生物実習は、「滅菌に始まり、滅菌で終わります」。普段、見ることができない身近な微生物の世界を覗いてください。

免疫学実習は、ナノグラムオーダーでの物質測定から動物実験まで、精細かつ熟練を必要とする手技もあります。手技の良し悪しが実験結果を大きく左右するなど難しい実習項目もありますが、積極的にチャレンジして実験の面白さを体験してください。

〔備考〕

C8 生体防御と微生物

基礎分析化学集中講義	226
基礎生物学集中講義	228
基礎物理学集中講義	230
化学入門演習	232



自由科目



基礎分析化学集中講義

Intensive Class in Basic Analytical Chemistry

第1学年 前期 自由科目 0.5単位

小谷 明 (A, B, C, D, E, F, G, H)

桐野 正 (A, B, C, D, E, F, G, H)

吉田 君成 (A, B, C, D, E, F, G, H)

山本 法央 (A, B, C, D, E, F, G, H)

学習目標 (GIO) 薬の専門家として医療に関わるには、薬物や生体成分の量あるいは濃度に関する取り扱いを的確に行い、適正に表現する能力が不可欠となる。この基盤を入学早期で身につけ、分析化学系科目を修得するための導入として、基本的な計算の仕組みと関連の基礎知識を集中的に学修する。

行動目標 (SBOs)

番 号	内 容	コアカリとの関連コード
1	原子量、分子量を説明できる。	X-5-1-2
2	溶液の濃度計算ができる。	X-5-3-1
3	大きな数や小さな数をSI接頭語、べき、および対数を使い、的確に表すことができる。	X-7-1-1
4	溶液のpHを計算できる。	C2-2-1-3

授業内容

回 数	担 当	内 容	対 応 (SBOs)
1~4	小谷・桐野・吉田・山本	物質を構成する原子と分子について 化学物質の量や濃度とその単位について	1, 3
5~7	小谷・桐野・吉田・山本	溶液の濃度とその表し方、溶液の調製方法について 水溶液中の水素イオン濃度とその表し方について	2, 3, 4

【アクティブ・ラーニングの取り組み】
小テストを行い、問題を解くことを通じて理解を深めるようにしている。

【授業で行っている工夫】
小テストによって個人の一般化学の修得度合いを評価し、不合格者には理解できるまで個別の指導を行う。

【成績評価方法】

1) 形成的評価

a) 知識： 毎回授業の最初に小テストを行う。教員が小テストの解説をしている間に採点を行い、解説終了後に合格者を発表する。不合格者は、後日または直後に行う再小テストおよび個別指導を受け、教員が全問理解したと判断したら、合格とする。

c) 態度： 受講態度により評価する。

d) パフォーマンス： 講義中に小テストを行い、習熟度を確認する。

2) 総括的評価

a) 知識： 講義すべての合格をもって、評価する。

c) 態度： 受講態度により評価する。

d) パフォーマンス： 形成的評価により判断する。

【教科書】

なるほど分析化学-数字となかよくする本- (楠 文代/茨澤 庸一 編集 廣川書店)

【参考書】

高校の時に使用していた教科書および参考書等

【オフィスアワー】

いつでも可。ただし、要予約

【所属教室】

小谷・山本 分析化学教室 研究2号館4階 406

桐野 薬学教育推進センター 教育2号館1階 2110・学習相談室

吉田 薬学教育推進センター 教育2号館1階 2109

【準備学習 (予習・復習等)】

ガイダンス資料および掲示で案内した授業内容の範囲を予習して講義に臨んで下さい。教科書、ノート、小テストを活用して復習を必ず行なって下さい。

【教員からの一言】

1年必修科目である「化学平衡論」「分析化学」の基礎中の基礎であるので、自由科目であるが全員受講すること。

【備考】
基本的に、すべて出席すること。やむを得ず病気等で欠席する場合は、予め教員に連絡して指示に従うこと。

授業計画

VII
自由
科目

基礎生物学集中講義

Intensive Class in Basic Biological Science

第1学年 前期 自由科目 0.5単位

石橋 健一 (A、B、C、D、E、F、G、H)

渡邊 隼三 (A、B、C、D、E、F、G、H)

成井 浩二 (A、B、C、D、E、F、G、H)

学習目標 (GIO) 大学での学修をスムーズに行うために、入学早期に薬学を学ぶために必要な基礎科目(生物)を学ぶことによって、「勉強に取り組む心構え」、「薬学専門教科を学ぶための基礎知識の重要性」を理解し、専門教科を学ぶための正しい学習法を身につける。特に、基礎生物学実習を学ぶための基礎知識の修得を目標とする。また、小グループ討議を行うことによって、チームワークの大切さを理解し、コミュニケーション能力の醸成を行う。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コチガリとの関連コード
1	光合成(二酸化炭素と水と光エネルギー)によって作り出されたグルコースから、生体がエネルギーを取り出す過程が説明できる。	C6-5-1-1
2	細胞小器官の役割が説明できる。	C6-1-2-1
3	細胞の物質の移動方法について概説できる。	C6-1-1-1
4	神経細胞についてその特徴について概説できる。	C7-2-1-1 C7-2-1-2
5	神経系について概説できる。	C7-2-1-3 C7-2-1-4
6	インスリンと血糖値の関係が説明できる。	C7-2-2-1 C7-2-6-1
7	デンプンやタンパク質の分解にかかわる消化酵素(アミラーゼやタンパク質分解酵素(ペプシン))について概説できる。	C6-3-3-1 C6-3-3-3
8	グループディスカッションで得られた意見を、統合して発表できる。(技能)	A-5-1-4
9	他者のプレゼンテーションに対して、優れた点および改良点を指摘できる。(技能)	A-3-1-7
10	効果的なプレゼンテーションを行う工夫をする。(態度)	A-3-1-8
11	病気の症候から、生体反応を説明できる。	C4-2-4-1 C4-2-4-2
12	症候を伝える患者と薬剤師のコミュニケーションにおいて、生物学的知識の重要性とコミュニケーション能力の重要性を説明できる。	A-3-1-1 A-3-1-2 A-3-1-3

授業内容

回数	担当	内容	対応(SBOs)
1~3	石橋	生物の異化・同化およびホメオスタシスについて概説する。	1~7
4~6	石橋	生物の異化・同化およびホメオスタシスについて小グループ討議(SGD)を行って、学習内容について発表会を行う。	1~10
7~10	石橋/渡辺/成井	症候について説明することによって、患者と薬剤師の医療コミュニケーションを学ぶ。	11,12
11	石橋	試験	1~12

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

講義では、まず、ひとり一人で問題に対する解答を考えてもらい、次に小グループ討議を行い、教科書等で調べながら正しい解答を導き出す。すなわち、問題を解決するために、グループで話し合いながら自ら学ぶことの大切さを理解することを目標としている。さらに、各課題に対して小グループ討議を行い、小グループごとにプロダクトを作成し、発表してもらおう。チームの大切さを理解し、コミュニケーション能力や発表能力の醸成を行う。

〔授業で行っている工夫〕

①小グループ討議(SGD)、②演習方式(プリントに書き込み提出)、③高校レベルの知識や基礎知識が、薬学的知識修得に重要であることが理解できるようにしている。④大学の別の授業で使用する教科書を活用する(機能形態学と生物学の教科書)。

〔成績評価方法〕

- 1) 形成的評価
 - a) 知識: レポート提出、小テスト
 - b) 技能: プロダクト作成等、こまめに指導する。
 - c) 態度: 受講態度・SGDへの積極的な参加について、こまめに指導する。
 - d) パフォーマンス: 各班でまとめたもらったプロダクト、それに基づく発表について、フィードバックを行う。

2) 総合的評価

- a) 知識: 授業内テストにて総合的に評価する。
- b) 技能: 班で作成したプロダクトを評価する。
- c) 態度: 受講態度 (授業の出席、レポート提出、SGD への積極的な参加) により評価する。
- d) パフォーマンス: 各班でまとめてもらったプロダクト、それに基づく発表について、評価を行う。

〔教科書〕

新しい機能形態学-ヒトの成り立ちとその動きー (小林、馬場、平井編 廣川出版)
視覚でとらえるフォトサイエンス生物図録 (監修 数研出版)

〔参考書〕

高校の時に使用していた生物学の教科書および参考書等

〔オフィスアワー〕

いつでも可。ただし、要予約。

〔所属教室〕

石橋 健一 免疫学教室 研究2号館5階 505号室
渡邊 謹三、成井 浩二 一般用医薬品学教室 ドラックラショナル研究開発センター3階

〔準備学習 (予習・復習等)〕

視覚でとらえるフォトサイエンス生物図録および高校の生物学の教科書 (植物の範囲を除く) を使って予習をしてください。小グループで討議しながら、教科書等を調べながら問題の解答を作ってもらいます。教科書のどこに何が書いてあるかを全体的に見直してください。また、高学年の薬学部生物系の基礎知識として重要な内容ばかりなので、必ず復習して自分の知識として身につけてください。復習しても判らない場合は、積極的に教員に質問しましょう。

〔教員からの一言〕

基礎生物学実習・生物系の薬学的教科を学ぶために、必須の知識です。積極的に参加してください。

〔備考〕

基本的に、すべて出席すること。やむを得ず病気等で欠席する場合は、予め教員に連絡して指示に従うこと。

基礎物理学集中講義

Intensive Class in Basic Physics

第1学年 前期 自由科目 0.5単位

横島 智 (A, B, C, D, E, F, G, H)

学習目標 (GIO) 大学での学修をスムーズ行うために、入学早期に薬学を学ぶために必要な基礎科目(物理)を学ぶことによって、「勉強に取り組む心構え」、「薬学専門教科を学ぶための基礎知識の重要性」を理解し、専門教科を学ぶための正しい学習法を身につける。特に、物理学、物理化学、分析化学、有機化学、無機化学を学ぶための物理の基礎知識の修得を目標とする。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	物理量の基本単位の定義を説明できる。	X-4-1-1
2	SI単位について説明できる。	X-4-1-2
3	基本単位を組み合わせた組み立て単位を説明できる。	X-4-1-3
4	物理量として、スカラー量とベクトル量を区別できる。	X-4-1-4
5	有効数字を考慮した計算ができる。	X-7-1-2
6	速度、加速度、時間の関係からグラフを用いて進んだ距離の関係を説明できる。	X-4-2-1
7	運動の3法則について、力、質量、速度、加速度の関係を定量的に説明できる。	X-4-2-1
8	気体についてのボイル、シャルル、ボイル・シャルルの諸法則について説明できる。	
9	理想気体の状態方程式を使って、圧力、体積、温度の関係を計算できる。	
10	光、音、電磁波などが波であることを理解し、波の性質を表す物理量について説明できる。	X-4-4-1
11	波を特徴付ける量を理解し、グラフ等から読み取れる。	X-4-4-1
12	レーザーの性質を概説し、代表的な応用例を列挙できる。	X-4-5-1
13	電荷と電流、電圧、電力、オームの法則などを説明できる。	X-4-6-1
14	抵抗とコンデンサーを含んだ回路の特性を説明できる。	X-4-6-2
15	光の粒子性と波動性について概説できる。	X-4-8-2
16	電子の粒子性と波動性について概説できる。	X-4-8-3
17	水素原子の軌道を説明できる。	X-5-1-3

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	横島	物理を学ぶ上での注意点と勉強法について、単位、スカラーとベクトル、有効数字	1,2,3,4,5
2	横島	物体の運動と運動の3法則、理想気体の状態方程式	6,7,8,9
3	横島	中間試験1	
4	横島	波の性質、レーザー	10,11,12
5	横島	電気回路、ミクロな世界の法則	13,14,15,16,17
6	横島	中間試験2	
7	横島	総括試験	

【アクティブ・ラーニングの取り組み】
授業中に全員に質問を出し、クリッカーを使って解答を集計・発表・コメントすることで、授業参加しているという意識をもてる環境を作っていく。

【授業で行っている工夫】
簡単な実験が可能なものについてはデモをおこない、そうでないものについては、動画などを使って、物理現象を直感的に理解できるようにする。

【成績評価方法】

- 1) 形成的評価
 - a) 知識:小テスト
 - b) 技能:小テスト
 - c) 態度:受講態度 (授業の出席)
- 2) 総括的評価
 - a) 知識:授業内テストにて総合的に評価する
 - c) 態度:受講態度 (授業の出席) により評価する。

【教科書】

薬学のための物理学 (宇野正宏著 愛智出版)

【参考書】

高校の時に使用していた教科書および参考書等

【オフィスアワー】

いつでも可。

【所属教室】

薬学教育推進センター（研究1号館1階1105）

普段、医療薬学研究棟2階の一番奥の部屋にあります。

【準備学習（予習・復習等）】

基本的に、すべて出席すること。やむを得ず病気等で欠席する場合は、予め教員に連絡して指示に従って下さい。また、WebClassに授業で使うスライドを載せますので、復習のために活用して下さい。

【教員からの一言】

物理学の授業は、基礎物理学集中講義を受けていることを前提として進められます。また、有機化学、無機化学ですぐに必要な内容も含まれています。必ず受講するようにして下さい。

化学入門演習

Introductory Seminar in Chemistry

第1学年 前期 自由科目 0.5単位

森川 勉

学習目標 (GIO) 「有機化学」の学力は薬学を学ぶために必須であり、生体分子・医薬品を化学で理解するための基盤になる。特に初年次前期に学修する「有機化学の基礎」は、その礎となる大変重要な内容を含んでおり、確実に修得することが求められる。本演習では、必修科目である「基礎化学」と連携して、重要なポイントを演習形式の授業で自ら学ぶことを目標とする。初学者が感じやすい「有機化学の難しさ」に対して、平易に論理的な考え方を示して基礎学力を醸成する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	基本的な化合物をルイス構造式、ケクレ構造式、骨格構造式で書くことができる。	C3-1-1-3
2	分子軌道の基本概念および軌道の混成について説明できる。	C1-1-1-2
3	代表的な官能基を列挙することができる。	C3-3-1-1
4	アルカンの構造異性体を図示することができる。	C3-2-1-2
5	代表的な化合物をIUPAC規則に基づいて命名することができる。	C3-1-1-1
6	薬学領域で用いられる代表的な化合物を慣用名で記述できる。	C3-1-1-2
7	極性共有結合について説明できる。	C3-3-6-1
8	分子の中の原子に形式電荷を付けることができる。	C1-1-1-3、 C3-1-1-3
9	代表的な化合物やイオンの共鳴構造と電子の移動を示す矢印を書くことができる。	C1-1-1-3、 C3-1-1-4
10	ブレンステッド酸・塩基を定義することができる。	C3-1-1-5
11	誘起効果と酸・塩基の強さの関係を説明することができる。	C3-3-6-1、 C3-3-7-1

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	森川	有機化合物の構造1：骨格と官能基、混成軌道	1, 2, 3
2	森川	有機化合物の構造2：炭化水素、有機ハロゲン化物の命名法	4, 5
3	森川	有機化合物の構造3：アルコール化合物、カルボニル化合物、カルボン酸およびその誘導体の命名法	5, 6
4	森川	化学結合の基礎1：有機化合物中の共有結合	7
5	森川	化学結合の基礎2：形式電荷の発生	8
6	森川	化学結合の基礎3：共鳴の考え方	9
7	森川	有機化合物の構造と酸性度	10, 11

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕
演習問題を与え、理解度を自身で確認できるように指導する。

〔授業で行っている工夫〕
必修科目である基礎化学・無機化学との連携を重視して、特に理解不足の陥りやすい項目に焦点をあてる。

〔成績評価方法〕

- 1) 形成的評価
 - a) 知識: 演習問題の学習
 - c) 態度: 演習問題への取り組みの態度で評価
- 2) 総括的評価
 - a) 知識: 演習問題の学習状況を総合的に評価
 - c) 態度: 出欠の状況を含めて、自ら学ぶ姿勢を総合的に評価

〔教科書〕

マクマリー有機化学 第8版 (上、中、下) (J. McMurry 著 伊東ら訳 東京化学同人)

〔参考書〕

化合物命名法-IUPAC 勧告に準拠- (日本化学会 命名法専門委員会編 東京化学同人)
電子の動きでみる有機反応のしくみ (奥山 格、杉村高志著 東京化学同人)
困ったときの有機化学 (D. R. クライン著 竹内敬人、山口和夫訳 化学同人)

〔オフィスアワー〕

在室の時はいつでも可。長時間の場合は事前連絡。

〔所属教室〕

薬学教育推進センター

〔準備学習（予習・復習等）〕

必修科目である基礎化学・無機化学の講義で、理解不足に陥っている部分を予め自分で探し出しておくこと。

〔教員からの一言〕

高校で学んできた化学に比較して大学の化学では、知識として覚える学習に依存するよりも、考えて理解する学習が効果的である。ここで培われる思考力は、他の薬学専門科目の勉強にも波及するものであるので地道な努力を重ねて頂きたい。

〔備考〕

6月に開講する予定である。5月に、無機化学の講義担当教員から本演習科目を自由単位として履修することが望ましい学生について説明をした後、掲示にて受講申請の手続きを連絡する。

薬学教育モデル・コアカリキュラム

平成25年度改訂版

目 次

○ 薬学教育モデル・コアカリキュラムの基本理念と利用上の留意点について	239
○ 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂概要	243
○ 薬剤師として求められる基本的な資質	248
A 基本事項	249
(1) 薬剤師の使命	249
(2) 薬剤師に求められる倫理観	249
(3) 信頼関係の構築	250
(4) 多職種連携協働とチーム医療	250
(5) 自己研鑽と次世代を担う人材の育成	250
B 薬学と社会	250
(1) 人と社会に関わる薬剤師	250
(2) 薬剤師と医薬品等に係る法規範	251
(3) 社会保障制度と医療経済	251
(4) 地域における薬局と薬剤師	251
C 薬学基礎	252
C 1 物質の物理的性質	252
(1) 物質の構造	252
(2) 物質のエネルギーと平衡	252
(3) 物質の変化	253
C 2 化学物質の分析	253
(1) 分析の基礎	253
(2) 溶液中の化学平衡	253
(3) 化学物質の定性分析・定量分析	253
(4) 機器を用いる分析法	254
(5) 分離分析法	254
(6) 臨床現場で用いる分析技術	254
C 3 化学物質の性質と反応	254
(1) 化学物質の基本的性質	254
(2) 有機化合物の基本骨格の構造と反応	255
(3) 官能基の性質と反応	255
(4) 化学物質の構造決定	256
(5) 無機化合物・錯体の構造と性質	256
C 4 生体分子・医薬品の化学による理解	256
(1) 医薬品の標的となる生体分子の構造と化学的な性質	256
(2) 生体反応の化学による理解	256
(3) 医薬品の化学構造と性質、作用	257
C 5 自然が生み出す薬物	257
(1) 薬になる動植物	257

(2) 薬の宝庫としての天然物	258
C 6 生命現象の基礎	258
(1) 細胞の構造と機能	258
(2) 生命現象を担う分子	258
(3) 生命活動を担うタンパク質	259
(4) 生命情報を担う遺伝子	259
(5) 生体エネルギーと生命活動を支える代謝系	260
(6) 細胞間コミュニケーションと細胞内情報伝達	260
(7) 細胞の分裂と死	260
C 7 人体の成り立ちと生体機能の調節	261
(1) 人体の成り立ち	261
(2) 生体機能の調整	262
C 8 生体防御と微生物	262
(1) 身体をまもる	262
(2) 免疫系の制御とその破綻・免疫系の応用	263
(3) 微生物の基本	263
(4) 病原体としての微生物	263
D 衛生薬学	264
D 1 健康	264
(1) 社会・集団と健康	264
(2) 疾病の予防	264
(3) 栄養と健康	264
D 2 環境	265
(1) 化学物質・放射線の生体への影響	265
(2) 生活環境と健康	265
E 医療薬学	266
E 1 薬の作用と体の変化	266
(1) 薬の作用	266
(2) 身体の病的変化を知る	266
(3) 薬物治療の位置づけ	267
(4) 医薬品の安全性	267
E 2 薬理・病態・薬物治療	267
(1) 神経系の疾患と薬	267
(2) 免疫・炎症・アレルギーおよび骨・関節の疾患と薬	268
(3) 循環器系・血液系・造血器系・泌尿器系・生殖器系の疾患と薬	269
(4) 呼吸器系・消化器系の疾患と薬	269
(5) 代謝系・内分泌系の疾患と薬	270
(6) 感覚器・皮膚の疾患と薬	270
(7) 病原微生物（感染症）・悪性新生物（がん）と薬	271
(8) バイオ・細胞医薬品とゲノム情報	272
(9) 要指導医薬品・一般用医薬品とセルフメディケーション	273
(10) 医療の中の漢方薬	273
(11) 薬物治療の最適化	273

E 3	薬物治療に役立つ情報	273
(1)	医薬品情報	273
(2)	患者情報	274
(3)	個別化医療	275
E 4	薬の生体内運命	275
(1)	薬物の体内動態	275
(2)	薬物動態の解析	276
E 5	製剤化のサイエンス	276
(1)	製剤の性質	276
(2)	製剤設計	276
(3)	DDS (Drug Delivery System: 物送達システム)	277
F	薬学臨床	277
(1)	薬学臨床の基礎	277
(2)	処方せんに基づく調剤	278
(3)	薬物療法の実践	279
(4)	チーム医療への参画	280
(5)	地域の保健・医療・福祉への参画	280
G	薬学研究	281
(1)	薬学における研究の位置づけ	281
(2)	研究に必要な法規範と倫理	281
(3)	研究の実践	281
○	薬学準備教育ガイドライン (例示)	282
(1)	人と文化	282
(2)	人の行動と心理	282
(3)	薬学の基礎としての英語	282
(4)	薬学の基礎としての物理	283
(5)	薬学の基礎としての化学	283
(6)	薬学の基礎としての生物	284
(7)	薬学の基礎としての数学・統計学	284
(8)	情報リテラシー	285
(9)	プレゼンテーション	285
○	薬学アドバンスト教育ガイドライン (例示)	287
A	基本事項	287
B	薬学と社会	287
C	薬学基礎	287
D	衛生薬学	292
E	医療薬学	292
F	薬学臨床	293

薬学教育モデル・コアカリキュラムの 基本理念と利用上の留意点について

1. モデル・コアカリキュラムの基本理念と位置付け

【基本理念】

大学における各分野の社会的要請に応えた人材養成のためのカリキュラム構築は、本来、各大学が独自の理念や特色に基づいて設定すべきものである。しかし、修業年限6年の薬学教育プログラムを実施する学部又は学科（以下、「6年制学部・学科」という。）の場合は、学生に大学卒業時に薬剤師としてふさわしい基本的な資質や能力を身に付けさせる教育が行われることが求められる。一方、薬学や医学、生命科学等に関わる科学技術の進歩は著しく、科学を基盤として医療に貢献する薬剤師の職責に求められる薬学の知識や技能は増え、専門分化されると同時に高度化しており、限られた大学教育の中で、これらの膨大な知識や技能等を網羅して修得することは困難である。そこで、学生は6年制学部・学科の学士課程教育の段階では、将来どのような分野に進んだ場合にも共通に必要な薬剤師の基本的な資質と能力を修得し、その上で、生涯にわたって常に研鑽し、社会に貢献することが求められる。薬学教育モデル・コアカリキュラムは、このような状況を踏まえ、6年制学部・学科としての教育内容を精選し、卒業時まで学生が身に付けておくべき必須の能力（知識・技能・態度）の到達目標を分かりやすく提示したものである。

【位置付け】

薬学教育モデル・コアカリキュラムは、6年制学部・学科におけるカリキュラム作成の参考となる教育内容ガイドラインとして提示したものである。項目立てや記載内容は、各大学における授業科目名を意味するものではなく、また、履修の順序を示すものではないことに留意すべきであり、具体的な授業科目等の設定や教育手法等は各大学の裁量に委ねられている。

また、モデル・コアカリキュラムに示された教育内容だけで薬学の学士課程教育が完成するものではなく、6年制学部・学科の教育課程の全てを画一化したモデル・コアカリキュラムの履修にあてるとは正しくない。6年制学部・学科のカリキュラムは大別すると、教養教育を含む薬学準備教育、モデル・コアカリキュラムに準拠した教育、各大学独自の薬学専門教育から構成されるが、これらの履修時期、時間は教育研究上の目的に沿って学習成果を評価しながら、バランスよく配当される必要がある。改訂後の薬学教育モデル・コアカリキュラムは到達目標数の上で、従前のものに比してスリム化されていることもあり、およそ教育課程の時間数の7割を、モデル・コアカリキュラムに示された内容の履修に充てることが妥当と考えられる。

各大学においては、それぞれの教育理念等に基づいて、薬学アドバンス教育ガイドラインを含む特色ある大学独自のカリキュラムを設定することが必須であり、学生のニーズや将来の進路に合わせて自由に選択できる多様なカリキュラムを提供することが重要である。このモデル・コアカリキュラムに示された内容を確実に修得した上で、残りの3割程度の時間数で個性ある各大学独自のカリキュラムを準備することが必要である。（4ページ【選択的な大学独自のカリキュラムの設定】を参照。）

今回の改訂は、大学が主体的で実効性のある充実した薬学教育を展開することにより、6年制薬学教育の質の向上を目指すために行うものであり、各大学の教育カリキュラムが薬学共用試験や薬剤師国家

試験に合格することのみを目標とする教育に偏ることのないよう留意すべきである。

2. 表示の方法と利用上の留意点等

【基本的資質】

薬学教育モデル・コアカリキュラムの基本理念や医療全体を取り巻く情勢の変化等を踏まえ、「薬剤師として求められる基本的な資質」を、①薬剤師としての心構え、②患者・生活者本位の視点、③コミュニケーション能力、④チーム医療への参画、⑤基礎的な科学力、⑥薬物療法における実践的能力、⑦地域の保健・医療における実践的能力、⑧研究能力、⑨自己研鑽、⑩教育能力の10の視点より明確にした。

【一般目標と到達目標】

薬学教育モデル・コアカリキュラムでは、卒業時までには修得されるべき「薬剤師として求められる基本的な資質」を前提とした学習成果基盤型教育（outcome-based education）に力点を置いている。すなわち、最終的に「基本的な資質」を身に付けるための一般目標（GIO_{※1}）（学生が学修することによって得る成果）を設定し、GIOを達成するための到達目標（SBO_{※2}）（学生がGIOに到達するために身に付けておくべき個々の実践的能力）を明示した。SBOの総数は1,073項目であり、これらは客観的に評価できるよう、可能な限り明確な表現とした。

【A～Gの項目立て】

項目A～Gは、各大学におけるカリキュラム作成の参考として利用しやすくし、学修者に学習内容の全体像を把握しやすいよう構成した。薬学生が薬剤師として身につけるべき生命・医療の倫理、チーム医療とコミュニケーション、患者中心の医療、医療安全、薬学の歴史および生涯学習などを学ぶ【A基本事項】、人、社会の視点から薬剤師を取り巻く様々な仕組みと規制、および薬剤師と医薬品等に関わる法規制、地域における保健、医療、福祉などを学ぶ【B薬学と社会】は、入学後早期から卒業までに継続して修得していくべき内容である。

また、薬学生がいずれの分野に進むにせよ必要である薬や化学物質と生命に関わる物理系薬学、化学系薬学、生物系薬学の知識と技能を学ぶ【C薬学基礎】、人々の健康・公衆衛生、生活環境・環境保全を学ぶ【D衛生薬学】、薬の作用・体内動態・疾病治療、製剤化を学ぶ【E医療薬学】では、それぞれの項目の知識・技能のみにとらわれることなく、薬剤師に必要な人の命と健康を守る使命感、責任感及び倫理観を養えるよう十分な教育上の工夫が必要である。

【F薬学臨床】は、薬学実務実習前に、大学において調剤、製剤、服薬指導など薬剤師としての職務に必要な基本的知識、技能、態度を学んでおくSBO（事前学習）と、病院及び薬局で行う参加型の薬学実務実習のSBO（薬学実務実習）からなっている。薬学実務実習のSBOは、病院又は薬局に勤務する場合に必要な内容について効果的に履修できるよう、これまで重複して履修していたものを整理している。ただし、すべての内容を適切な医療提供施設的环境と実習先の指導薬剤師及び大学教員のもとで効果的に実施するためには、別途方略を設定することが必要である。

さらに、AからFまでの履修を基盤にして【G薬学研究】を学ぶことにより、研究課題を通して科学

※1 general instructional objective
※2 specific behavioral objective

的根拠に基づいて問題点を解決する能力及び研究倫理を修得し、それを生涯にわたって高め続ける知識、技能、態度を養うことも必要である。

【「知識」、「技能」、「態度」の記述についての基本的な考え方】

各SBOの後の「(知識・技能)、(態度)」等の記述については、基本的に以下の考え方により付している。

- 1) 括弧書きが付されていない場合：「○○について説明できる。」等の知識を主とするSBOを示す。
この場合、「説明する」ための勉強態度等も当然含まれるが、評価の対象が主に知識となることを意味する。
- 2) (技能) が付されている場合：技能を行う上での知識や態度は当然含まれるが、技能が主に評価の対象となるSBOを示す。
例：代表的な化合物の部分構造を¹HNMRから決定できる。(技能) 代表的な生薬を鑑別できる。(技能)
- 3) (態度) が付されている場合：知識や技能を有したうえでの態度が主に評価対象となるSBOを示す。
例：患者・生活者のために薬剤師が果たすべき役割を自覚する。(態度)
- 4) (技能・態度) が付されている場合：知識を前提とするが主に技能と態度が評価の対象となるSBOを示す。
例：前) 処方せん等に基づき疑義照会ができる。(技能・態度)
- 5) 上記に関わらず、技能、態度、あるいは両方を評価の対象とするが、知識も評価の対象となる場合には「知識」をともに付す。例：油脂が変敗する機構を説明し、油脂の変質試験を実施できる。(知識・技能) 天然生物活性物質の代表的な抽出法、分離精製法を概説し、実施できる。(知識・技能) インターネット上の情報が持つ意味・特徴を知り、情報倫理、情報セキュリティに配慮して活用できる。(知識・態度)

【薬学アドバンスト教育ガイドライン】

コアカリキュラムとは別に、薬学アドバンスト教育ガイドラインを提示した。

薬学アドバンスト教育ガイドラインのSBOは、すべての学生に一律に履修を求めるのではなく、大学の特色や学生の進路に応じて履修することが望まれる内容を示す。また、履修時期についても各大学のカリキュラム体系の中で、適当な時期を選ぶことが望まれる。

【薬学教育における実習】

薬学教育では、知識だけでなく、実習を通じて技能、態度を学修することが重要である。したがって、薬学教育における実習を充実するとともに、その実習について適正な評価を行わなければならない。薬学教育モデル・コアカリキュラムの実習内容は、①【C薬学基礎】、【D衛生薬学】、【E医療薬学】、②【F薬学臨床】の「早期臨床体験」、「実務実習事前学習」、「病院・薬局における実務実習」、③【G薬学研究】において、SBO(技能)、SBO(技能・態度)として例示されている。これらの例示を基にして大学の特色ある実習カリキュラムを構築して、それを6年間の教育課程のなかで体系的に関連づけて実施することにより、効果的に技能・態度を蓄積していくことが必要である。また、その実施時期については、講義及び演習等の授業内容と緊密に連携させるように設定すべきである。

なお、実習においては、予測されるリスクを回避、低減させるためのマネジメントとともに、学生が常に安全を確認しながら学修を行う習慣が身につくように指導することが必要である。また、化学物質、実験動物、培養細胞や細菌などを用いた実習においては、それぞれの取扱いに関わる国内外の法令

や国際条約の遵守とともに、生命倫理、生物多様性や自然環境保全を規範とする態度を学修することの重要性を指導する。

【薬学準備教育ガイドライン】

医療の担い手としての薬剤師を目指す6年制薬学教育の前提として身につけておくべき基本的事項を、コアカリキュラムとは別に、ガイドラインとして提示した。薬学準備教育では、人文科学、社会科学及び自然科学などを広く学び、知識を獲得し、様々な考え方、感じ方に触れ、物事を多角的に見る能力と医療社会のグローバル化に対応するための国際的感覚を養うことを目的とした専門性の高い語学能力を養う。そして、見識ある人間としての基礎を築くために、自分自身について洞察を深め、生涯にわたって自己研鑽に努める習慣を身につけておくべき基本的事項を〈1 人と文化〉、〈2 人の行動と心理〉、〈3 薬学の基礎としての英語〉、〈4 薬学の基礎としての物理〉、〈5 薬学の基礎としての化学〉、〈6 薬学の基礎としての生物〉、〈7 薬学の基礎としての数学・統計学〉、〈8 情報リテラシー〉、〈9 プレゼンテーション〉として整理し、提示した。薬学教育の準備という視点から提示されたものであるが、これらは薬剤師となる上で不可欠となる素養を培っていくものである。

【選択的な大学独自のカリキュラムの設定】

各大学は、それぞれの理念や教育研究上の目的に基づいて、学生の興味や将来の専門分野への志向に応じて、学生自身が自由に選択できる特色あるカリキュラムを準備し実践することや、学生段階からの研究志向を涵養することが重要である。カリキュラムとしては、薬剤師業務の医療現場でのニーズの変化や医療の国内外の動向に対応、あるいはそれらを取捨選択することも重要である。また、科学的・論理的思考の修得や、高度で応用的な基礎研究や臨床研究の実施、探求心旺盛な学生の将来の展望にも配慮した授業、病院及び薬局における薬学実務実習と経験した研究の取りまとめ、海外派遣研修等の多様な教育を行う必要もある。

これらの実施に当たっては、各大学の状況に合わせて、多様な授業形態を用意するとともに、成果の発表やその評価等の修了要件も明確にすることが必要である。

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂概要

今回の改訂は、「薬学系人材養成の在り方に関する検討会」(以下、「検討会」という。)において、各大学の現状や寄せられた要望、大学団体及び職能団体等からの改訂に対する強い要望を踏まえて審議された結果、行うことと決定した。平成23年に恒常的なカリキュラムの検討を行う組織として設置された薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂に関する専門研究委員会(以下、「専門研究委員会」という。)において、①6年制学部・学科の学士課程教育に特化した内容とすること、②現在の薬学教育モデル・コアカリキュラム及び実務実習モデル・コアカリキュラムの二つを関連づけて一つのコアカリキュラムとして作成すること、③薬剤師として求められる資質を明確にし、その資質を身につけるために学ぶという形で編成すること、という方針を決定し、検討会においてその方針が了承され作業が開始された。その後、専門研究委員会において「薬剤師として求められる基本的な資質」(案)が作成され、また、具体的な作業チームとして日本薬学会に薬学教育モデル・コアカリキュラムおよび実務実習モデル・コアカリキュラムの改訂に関する調査研究委員会が設置され、大学へのニーズ調査や具体的な改訂作業が行われた。

以下、具体的な内容を概説する。

【A 基本事項】

「基本事項」には、薬学生が薬剤師として身につけるべき生命・医療の倫理、チーム医療とコミュニケーション、患者中心の安全な医療などを含めることとした。「基本事項」の内容(目標)は、複数の基本的資質と関連しており、6年間かけて到達すべきもので、各学年における学修を積み重ね、年次進行にとまらぬ、医療人である薬剤師として理解を深め、態度を醸成していくべきものである。SBOの表現は、詳細すぎると各大学での実施を制限することが懸念されるため、具体性を少しおさえて、各大学での考えを反映できるように配慮した。

また、全学年を通して学修する内容であることから、6年間かけて到達するレベルを記載した。「基本事項」の内容は薬剤師になるために6年間かけて身につけるべきものであり、「B薬学と社会」や「F薬学臨床」と関連している内容も多い。

薬学教育モデル・コアカリキュラム(以下、「コアカリ」という。)の旧「Bイントロダクション(1)薬学への招待」の内容は、初年次だけでなく全学年を通して到達度を高めることが望ましい内容が含まれていることから「基本事項」に組み込み、旧「Bイントロダクション(2)早期体験学習」の臨床体験に関する内容は「F薬学臨床」に移動した。

【B 薬学と社会】

旧コアカリの「Bイントロダクション」の内容を「A基本事項」および「F薬学臨床」に移動した後、Bには旧コアカリの「C18薬学と社会」および「C17医薬品の開発と生産」の一部((1)、(4))を統合した「薬学と社会」を置いた。

「薬学と社会」は、薬剤師に関わる社会の仕組みを理解するための内容(目標)が主であり、「A基本事項」と同様に6年間かけて到達すべきものである。

旧C18の倫理と薬害に関する項目は「A基本事項」にまとめた。旧C18の(1)、(2)、(3)の中で重複している項目を整理・統合し、法律については、法律ごとに一つのSBOにまとめるのではなく、修得すべ

き内容から整理した。旧C17の(1)と(4)の内容は「(2)薬剤師と医薬品等に係る法規範」に含め、そのうちの治験に関わる具体的内容は「E医療薬学」に含めた。「旧C18(3)コミュニティファーマシー」は、薬局に限定せず、地域の保健・医療と関わる内容を含めることとし、そのうちの「OTC薬・セルフメディケーション」は、薬物治療として重要であることから「E医療薬学」の薬物治療として項目を新設し、Bでは役割の記載にとどめた。また、薬学アドバンスト教育ガイドライン（以下、「アドバンスト」という。）に移行してよいもの（薬剤経済の一部など）を除外するとともに、旧コアカリにはない重要な項目（個人情報の取扱い、血液供給体制、地域連携など）を追加した。

【C 薬学基礎：全般】

「薬学基礎」に関しては「薬剤師として求められる基本的な資質」のすべてのアウトカムのベースとなる「基礎的な科学力」を醸成することを念頭に改訂を行った。SBOはコアカリとなる項目を厳選し、約3割減のスリム化を図った。技能（実習項目）は、すべての大学で実施可能な項目を選定することとした。また他分野との重複を避けるように調整を行った。

【C 薬学基礎：物理】

「薬学基礎：物理」では、医薬品を含む化学物質を構成する原子、分子の性質や挙動を司る基本的な原理を主に取り扱うこととした。さらに、学生が修得する基本的な知識や技能が、将来、医療現場などのチームの中で応用されることを想定して、基礎から応用への橋渡しも考慮しながら、改訂作業を実施した。旧C1の【放射線と放射能】にある「放射線の測定原理」は「薬学基礎：物理」で、「放射線の生体への影響」は「D衛生薬学」で学ぶようにすみ分けた。また、旧C1の【物質の移動】の内容は「E医療薬学」へ、旧C2の【薬毒物の分析】の内容は「D衛生薬学」へ移行した。旧C3「生体分子の姿・かたちをとらえる」は、基本的な事項として必要なものはC1およびC2に取り込み、アドバンストとするものは移行し、全体としては、旧C3を削除した。さらに、機器分析のうち、構造解析のための分析法については、基本的な原理は「薬学基礎：物理」で、その応用は「薬学基礎：化学」で学ぶようにすみ分けた。

【C 薬学基礎：化学】

旧コアカリC4、C6、C7、C17(2)を、「薬剤師として求められる基本的な資質」の中で「基礎的な科学力」を主に取り扱うとの共通認識のもと、C3、C4、C5にまとめた。「薬剤師として求められる基本的な資質」の充実のため旧C6を拡充し、旧C5は基本的にアドバンストに移行した。ただし、医薬品合成としての旧C5の内容の一部（C-C結合生成など）は、生体反応の観点から「C4(2)生体反応の化学による理解【生体内で起こる有機反応】」に含めた。また、「基礎的な科学力」として必要なもののみをコアカリとし、学問上、対比して教育するのが望ましいものに関してはコアカリとはせず、各大学の判断で講義に組み込むこととした。（例：芳香族求電子置換反応はコアカリに含め、芳香族求核置換反応はアドバンストに掲載した。）

C3は基本的（代表的）有機、無機化合物（無機医薬品は含む）、C4は生体分子、医薬品を取り扱うこととした。命名法はC3(1)にまとめ、無機化学関連を新規にC3(5)に集約、さらに複素環の性質等は旧C6からC3に移し芳香族としてまとめた。C3(4)は基本的に構造解析のみとして物理系との重複をなくし、構造決定で用いられることが少ない項目は削除した（なお、講義はC2(4)と統合してもかまわない。）。C4には医薬品の構造のもととなる酵素阻害剤や受容体アゴニスト、アンタゴニストの構造を理解する(2)を追加し、ここに生体内反応を理解するための有機化学も加えた。(3)は旧C6(2)に対応しており、酵素、受容体に作用する医薬品は構造、化学的性質に特徴があるものを選択した。

C5は、東洋医学的な概念での生薬、薬用植物を中心とした(1)と、西洋医学的な概念での薬：天然物由来の医薬品、農薬、化粧品などに用いられる天然活性物質、およびそのシズ化合物を中心とした(2)に再編した。日本薬局方に記載されている内容を最低限理解できるように考慮した。病院または薬局の薬剤師に必要な項目を削除し、生合成経路は概説できるように変更した。旧C7(3)漢方は「E2薬理・病態・薬物治療」に移動した。

【C 薬学基礎：生物】

生命体の理解（C6-8）は、病態の理解や薬物治療の基盤として重要である。「薬剤師として求められる基本的な資質」のアウトカムを意識し、コアカリとなる項目を厳選した。また旧コアカリでは、教育課程のなかで内容的に前後する項目等を並べ替え、体系化した。すなわち旧コアカリC9とC8を一部入れ替え、薬剤師として修得すべき「C6生命現象の基礎」を生物の初めに移動した。生命の基本単位である細胞、その構成成分の構造と機能、タンパク質の働き、遺伝のプロセスから生体エネルギー、細胞間コミュニケーションへと展開される。生物化学の基礎を修得した後に、「C7人体の成り立ちと生体機能の調節」を通してヒトの器官、組織について修得し、血圧や血糖の調節を含めた生体の機能調節を修得することとした。またC7の初めに、「遺伝」と「発生」を修得することとした。旧C10「生体防御」に旧C8「小さな生き物たち」を統合し「C8生体防御と微生物」とした。すなわち生体防御・免疫系に関する項目の次に「微生物の基本」を修得し、病原体としての微生物へと繋げることにより、微生物の基本から医療薬学で学ぶ感染症へのスムーズな理解を促進することとした。免疫系については、関連する疾患やその治療は「E医療薬学」で修得するので、ここでは基礎的な機構・機能を扱うこととした。なお、旧C8の遺伝子操作技術（技能）はアドバンストに移行したが、今後、薬剤師にはバイオ医薬品や再生医療に関する知識等が欠かせなくなることを鑑み、C6のなかで組換えDNAの概略を修得するように改めた。

【D 衛生薬学】

「D衛生薬学」は「D1健康」および「D2環境」で構成され、「薬剤師として求められる基本的な資質」の中で、主に「基礎的な科学力」と「地域の保健・医療における実践的能力」を取り扱うとの共通認識のもと、健康と環境に関する基本的事項を選定している。医療人養成教育において必要な健康に関する事項、環境に関する事項を取り入れることによって、将来、医療現場において役に立つことを想定して構成している。健康に関する旧コアカリとは順番が異なっているが、学生が理解しやすいという観点から並べ替えている。具体的には(1)社会・集団と健康、(2)疾病の予防、(3)栄養と健康の順である。また、D2においては新たに「化学物質の安全性評価と適正使用」の項目を追加している。栄養の中のSBOとして疾病治療との関連を追加している。

【E 医療薬学】

Eは「薬剤師として求められる基本的な資質」の「6. 薬物療法における実践的能力」「7. 地域の保健・医療における実践的能力」の2項目に直結する「薬理、病態、薬物治療、医薬品情報、患者情報、薬物動態、製剤」について基本的な知識、技能、態度を修得するためのカリキュラムである。改訂の方針としてはコアカリとして必要なものに整理しつつも、医療の進歩を反映し重要なものは追加するという方針で作業した。

薬理、病態・薬物治療については、従来別々の項目として扱ってきたが、今回は学生の思考プロセスに沿う形で器官別にこれらの3項目をまとめた。また、薬理と薬物動態が同じ中項目に入っていたものを分離し、「E2薬理・病態・薬物治療」の後に配置し分かりやすくした。なお、薬物動態の変動につい

ては、「E3薬物治療に役立つ情報(3)個別化医療」に含めた。

製剤に関連する内容は物理系薬学から「E5製剤化のサイエンス」に移し、学生に関連が分かるようにした。製剤に関する技能（製剤を作ることや製剤試験を行うこと）は削除し、アドバンストへ移行する。また、「旧C17医薬品の開発と生産」の治験・バイオスタティスティクスのうち、法規・制度は「B薬学と社会」に移動し、開発から市販後に行われる各種調査・試験とそのために必要な知識である研究デザインおよび生物統計は医薬品情報に配置した。さらに、近年の薬剤師の役割の変化を反映させ、「旧C18薬学と社会(3)コミュニティファーマシー」の「OTC薬・セルフメディケーション」は薬理・病態・薬物治療に移動し、内容を充実させ、症候に関する知識を解釈のレベル（患者情報をもとに疾患を推測できる）まで求めた。全体を通じて「医薬品の安全性」に注目し、副作用とその対処法、安全性の研究で重要な観察研究の手法などについても新設し、また内容を充実させた。動物実験については必要最小限を残した。

漢方は化学系薬学領域に盛り込まれていたが、実務実習のコアカリでは「薬局実習」の薬局製剤として扱われ、国家試験では「実務」の領域から出題されていた。治療薬としての観点から、漢方を「E2薬理・病態・薬物治療」のユニットとして記述することとした。

漢方独自の用語で説明される概念の理解が必要なので、漢方の基本用語を加え、局方に収載される24処方について適応となる証、症状や疾患を加えた。

【F 薬学臨床】

実務実習事前学習、病院実習、薬局実習と3領域に分かれていた目標を統一して、「薬剤師として求められる基本的な資質」を臨床の場で確実に身につけることを大前提とした目標の分類・提示を行った。目標修得の過程が分かりやすいように、病院・薬局での実務実習実施前に大学の授業で修得しておくべき目標については「前）」と表記した。「前）」が付されているSBOのうち技能・態度に係る授業は、各大学においてシミュレーション等の対応可能な方法により学修するものである。

薬剤師になるための準備として2年次修了までに学修しておくことが望ましい「早期臨床体験」の目標を、医療の担い手に必要な態度を身につける薬学臨床の基礎の目標として提示した。

本領域は6年制薬学教育の最終時点で修得すべき目標がほとんどで、AからE領域までの目標を修得した上で学修する目標が多い。そのため、特にその項目と関連の深い他領域の項目は参照として提示した。

薬剤師の貢献が特に期待されている目標については、より積極的に学修することを目指して目標を設定した。さらに、薬学臨床において幅広く薬物療法を学修するよう、学修すべき「代表的な疾患」を冒頭に提示し、実習施設で「代表的な疾患」を持つ患者に広く関わりそれらの薬物療法を実際に体験することを促している。また、大学・実習施設での学習方略の自由度を確保するため、目標は幅広い解釈が可能な表現を多く含んでいるが、最低限共通して確保したい学習内容について括弧内に例示している。大学や施設によっては「代表的な疾患」や例示以外にもさらに多くの目標の修得が可能と思われる。別記アドバンストの目標を参考にさらに進んだ学修も積極的に行っていくことが望ましい。

目標として掲げたものは全ての大学・実習施設で修得が必要な目標であるが、現状では全国共通に修得できるとは言えない目標もあると考えられる。それらは本コアカリで学修する学生達が卒業するまでに是非修得してほしい目標であり、今後の薬剤師業務の進歩を想定しての目標であって、単独施設での履修が難しい場合は、複数施設での学修も視野に入れてのものである。

【G 薬学研究】

旧「卒業実習カリキュラム」の「E1総合薬学研究」を参考に改訂・策定作業を行った。本項目の内

容は、薬学における研究の位置づけを理解し、研究に必要な法規範と倫理を遵守して研究を実施し、問題解決能力を培うこととした。研究は“基礎と臨床”、“ウェット研究とドライ研究”など多種多様であることから、小項目、GIO、SBOは「薬学研究」に共通するコアな内容にしぼって作成した。対応する主な「薬剤師に求められる基本的な資質」は、「研究能力」、「薬剤師としての心構え」、「自己研鑽」などである。「(2)研究に必要な法規範と倫理」の3は、「A基本事項(2)薬剤師に求められる倫理観④研究倫理」の3と同一であるが、その重要性を考慮して再掲した。

薬剤師として求められる基本的な資質

豊かな人間性と医療人としての高い使命感を有し、生命の尊さを深く認識し、生涯にわたって薬の専門家としての責任を持ち、人の命と健康な生活を守ることを通して社会に貢献する。

6年卒業時に必要とされている資質は以下のとおりである。

(薬剤師としての心構え) 医療の担い手として、豊かな人間性と、生命の尊厳についての深い認識を持ち、薬剤師の義務及び法令を遵守するとともに、人の命と健康な生活を守る使命感、責任感及び倫理観を有する。

(患者・生活者本位の視点) 患者の人権を尊重し、患者及びその家族の秘密を守り、常に患者・生活者の立場に立って、これらの人々の安全と利益を最優先する。

(コミュニケーション能力) 患者・生活者、他職種から情報を適切に収集し、これらの人々に有益な情報を提供するためのコミュニケーション能力を有する。

(チーム医療への参画) 医療機関や地域における医療チームに積極的に参画し、相互の尊重のもとに薬剤師に求められる行動を適切にとる。

(基礎的な科学力) 生体及び環境に対する医薬品・化学物質等の影響を理解するために必要な科学に関する基本的知識・技能・態度を有する。

(薬物療法における実践的能力) 薬物療法を主体的に計画、実施、評価し、安全で有効な医薬品の使用を推進するために、医薬品を供給し、調剤、服薬指導、処方設計の提案等の薬学的管理を実践する能力を有する。

(地域の保健・医療における実践的能力) 地域の保健、医療、福祉、介護及び行政等に参画・連携して、地域における人々の健康増進、公衆衛生の向上に貢献する能力を有する。

(研究能力) 薬学・医療の進歩と改善に資するために、研究を遂行する意欲と問題発見・解決能力を有する。

(自己研鑽) 薬学・医療の進歩に対応するために、医療と医薬品を巡る社会的動向を把握し、生涯にわたり自己研鑽を続ける意欲と態度を有する。

(教育能力) 次世代を担う人材を育成する意欲と態度を有する。

A 基本事項

(1) 薬剤師の使命

G10 医療と薬学の歴史を認識するとともに、国民の健康管理、医療安全、薬害防止における役割を理解し、薬剤師としての使命感を身につける。

【①医療人として】

1. 常に患者・生活者の視点に立ち、医療の担い手としてふさわしい態度で行動する。(態度)	AA1-1-1
2. 患者・生活者の健康の回復と維持に積極的に貢献することへの責任感を持つ。(態度)	AA1-1-2
3. チーム医療や地域保健・医療・福祉を担う一員としての責任を自覚し行動する。(態度)	AA1-1-3
4. 患者・患者家族・生活者が求める医療人について、自らの考えを述べる。(知識・態度)	AA1-1-4
5. 生と死を通して、生きる意味や役割について、自らの考えを述べる。(知識・態度)	AA1-1-5
6. 一人の人間として、自分が生きている意味や役割を問い直し、自らの考えを述べる。(知識・態度)	AA1-1-6
7. 様々な死生観・価値観・信条等を受容することの重要性について、自らの言葉で説明する。(知識・態度)	AA1-1-7

【②薬剤師が果たすべき役割】

1. 患者・生活者のために薬剤師が果たすべき役割を自覚する。(態度)	AA1-2-1
2. 薬剤師の活動分野(医療機関、薬局、製薬企業、衛生行政等)と社会における役割について説明できる。	AA1-2-2
3. 医薬品の適正使用における薬剤師の役割とファーマシューティカルケアについて説明できる。	AA1-2-3
4. 医薬品の効果が確率的であることを説明できる。	AA1-2-4
5. 医薬品の創製(研究開発、生産等)における薬剤師の役割について説明できる。	AA1-2-5
6. 薬害管理、疫病予防、セルフメディケーション及び公衆衛生における薬剤師の役割について説明できる。	AA1-2-6
7. 薬物乱用防止、自殺防止における薬剤師の役割について説明できる。	AA1-2-7
8. 現代社会が抱える課題(少子・超高齢社会等)に対して、薬剤師が果たすべき役割を提案する。(知識・態度)	AA1-2-8

【③患者安全と薬害の防止】

1. 医薬品のリスクを認識し、患者を守る責任と義務を自覚する。(態度)	AA1-3-1
2. WHOによる患者安全の考え方について概説できる。	AA1-3-2
3. 医療に関するリスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を説明できる。	AA1-3-3
4. 医薬品に関わる代表的な医薬品誤用やインシデントの事例を列挙し、その原因と防止策を説明できる。	AA1-3-4
5. 重篤な副作用の例について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。(知識・態度)	AA1-3-5
6. 代表的な薬害の例(サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジン等)について、その原因と社会的背景及びその後の対応を説明できる。	AA1-3-6
7. 代表的な薬害について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。(知識・態度)	AA1-3-7

【④薬学の歴史と未来】

1. 薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割について説明できる。	AA1-4-1
2. 薬物療法の歴史と、人類に与えてきた影響について説明できる。	AA1-4-2
3. 薬剤師の誕生から現在までの役割の変遷の歴史(医薬分業を含む)について説明できる。	AA1-4-3
4. 将来の薬剤師と薬学が果たす役割について討議する。(知識・態度)	AA1-4-4

(2) 薬剤師に求められる倫理観

G10 倫理的問題に配慮して主体的に行動するために、生命・医療に係る倫理観を身につけ、医療の担い手としての感性を養う。

【①生命倫理】

1. 生命の尊厳について、自らの言葉で説明できる。(知識・態度)	AA2-1-1
2. 生命倫理の諸原則(自律尊重、無危害、善行、正義等)について説明できる。	AA2-1-2
3. 生と死に関する倫理的問題について討議し、自らの考えを述べる。(知識・態度)	AA2-1-3
4. 科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概説できる。	AA2-1-4

【②医療倫理】

1. 医療倫理に関する規範(ジュネーブ宣言等)について概説できる。	AA2-2-1
2. 薬剤師が遵守すべき倫理規範(薬剤師綱領、薬剤師倫理規定等)について説明できる。	AA2-2-2
3. 医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。	AA2-2-3

【③患者の権利】

1. 患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。(態度)	AA2-3-1
2. 患者の基本的権利の内容(リスボン宣言等)について説明できる。	AA2-3-2
3. 患者の自己決定権とインフォームドコンセントの意義について説明できる。	AA2-3-3
4. 知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。(知識・技能・態度)	AA2-3-4

【④研究倫理】

1. 臨床研究における倫理規範(ヘルシンキ宣言等)について説明できる。	AA2-4-1
2. ヒトを対象とする研究において遵守すべき倫理指針について概説できる。	AA2-4-2
3. 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。(態度)	AA2-4-3

(3) 信頼関係の構築

G10 患者・生活者、他の職種との対話を通じて相手の心理、立場、環境を理解し、信頼関係を構築するために役立つ能力を身につける。

【①コミュニケーション】

1. 意思、情報の伝達に必要な要素について説明できる。	
2. 言語的及び非言語的コミュニケーションについて説明できる。	
3. 相手の立場、文化、習慣等によって、コミュニケーションの在り方が異なることを例を挙げて説明できる。	
4. 対人関係に影響を及ぼす心理的要因について概説できる。	
5. 相手の心理状態とその変化に配慮し、対応する。(態度)	
6. 自分の心理状態を認識して、他者と接することができる。(態度)	
7. 適切な聞き方、質問を通じて相手の考えや感情を理解するように努める。(技能・態度)	
8. 適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることができる。(技能・態度)	
9. 他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。(知識・技能・態度)	

【②患者・生活者と薬剤師】

1. 患者や家族、周囲の人々の心身に及ぼす病気やケアの影響について説明できる。	
2. 患者・家族・生活者の心身の状態や多様な価値観に配慮して行動する。(態度)	

(4) 多職種連携協働とチーム医療

G10 医療・福祉・行政・教育機関及び関連職種の連携の必要性を理解し、チームの一員としての在り方を身につける。

1. 保健、医療、福祉、介護における多職種連携協働及びチーム医療の意義について説明できる。	
2. 多職種連携協働に関わる薬剤師、各職種及び行政の役割について説明できる。	
3. チーム医療に関わる薬剤師、各職種、患者・家族の役割について説明できる。	
4. 自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める。(態度)	
5. チームワークと情報共有の重要性を理解し、チームの一員としての役割を積極的に果たすように努める。(知識・態度)	

(5) 自己研鑽と次世代を担う人材の育成

G10 生涯にわたって自ら学ぶことの必要性・重要性を理解し、修得した知識・技能・態度を確実に次世代へ継承する意欲と行動力を身につける。

【①学習の在り方】

1. 医療・福祉・医薬品に関わる問題、社会的動向、科学の進歩に常に目を向け、自ら課題を見出し、解決に向けて努力する。(態度)	A5-1-1
2. 講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。(技能)	A5-1-2
3. 必要な情報を的確に収集し、信頼性について判断できる。(知識・技能)	A5-1-3
4. 得られた情報を論理的に統合・整理し、自らの考えとともに分かりやすく表現できる。(技能)	A5-1-4
5. インターネット上の情報が持つ意味・特徴を知り、情報倫理、情報セキュリティに配慮して活用できる。(知識・態度)	A5-1-5

【②薬学教育の概要】

1. 「薬剤師として求められる基本的な学習」について、具体例を挙げて説明できる。	A5-2-1
2. 薬学が総合科学であることを認識し、薬剤師の役割と学習内容を関連づける。(知識・態度)	A5-2-2

【③生涯学習】

1. 生涯にわたって自ら学習する重要性を認識し、その意義について説明できる。	A5-3-1
2. 生涯にわたって継続的に学習するために必要な情報を収集できる。(技能)	A5-3-2

【④次世代を担う人材の育成】

1. 薬剤師の使命に後輩等の育成が含まれることを認識し、ロールモデルとなるように努める。(態度)	A5-4-1
2. 後輩等への適切な指導を実践する。(技能・態度)	A5-4-2

B 薬学と社会

G10 人と社会に関わる薬剤師として自覚を持って行動するために、保健・医療・福祉に係る法規・制度・経済、及び地域における薬局と薬剤師の役割を理解し、職務及び法令を遵守する態度を身につける。

(1) 人と社会に関わる薬剤師

G10 人の行動や考え方、社会の仕組みを理解し、人・社会と薬剤師の関わりを認識する。

1. 人の行動がどのような要因によって決定されるのかについて説明できる。	理解関係
2. 人・社会が医薬品に対して抱く考え方や思いの多様性について討議する。(態度)	理解関係
3. 人・社会の視点から薬剤師を取り巻く様々な仕組みと規則について討議する。(態度)	理解関係
4. 薬剤師が倫理規範や法令を守ることの重要性について討議する。(態度)	理解関係
5. 倫理規範や法令に則した行動を取る。(態度)	理解関係

(2) 薬剤師と医薬品等に係る法規範

G10 調剤、医薬品等(医薬品、医薬部外品、化粧品、医療機器、再生医療等製品)の供給、その他薬事衛生に係る任務を薬剤師として適正に遂行するために必要な法規範とその意義を理解する。

【①薬剤師の社会的位置づけと責任に係る法規範】

1. 薬剤師に関わる法令とその構成について説明できる。	B-2-1-1
2. 薬剤師免許に関する薬剤師法の規定について説明できる。	B-2-1-2
3. 薬剤師の任務や業務に関する薬剤師法の規定とその意義について説明できる。	B-2-1-3
4. 薬剤師以外の医療職種に関する法令の規定について概説できる。	B-2-1-4
5. 医療の理念と医療の担い手の責務に関する医療法の規定とその意義について説明できる。	B-2-1-5
6. 医療提供体制に関する医療法の規定とその意義について説明できる。	B-2-1-6
7. 個人情報取扱について概説できる。	B-2-1-7
8. 薬剤師の刑事責任、民事責任(製造物責任を含む)について概説できる。	B-2-1-8

【②医薬品等の品質、有効性及び安全性の確保に係る法規範】

1. 「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の目的及び医薬品等(医薬品、医薬部外品、化粧品、医療機器、再生医療等製品)の定義について説明できる。	B-2-2-1
2. 医薬品の開発から承認までのプロセスと法規範について概説できる。	B-2-2-2
3. 治験の意義と仕組みについて概説できる。	B-2-2-3
4. 医薬品等の製造販売及び製造に係る法規範について説明できる。	B-2-2-4
5. 製造販売後調査制度及び製造販売後安全対策について説明できる。	B-2-2-5
6. 薬局、医薬品販売業及び医療機器販売業に係る法規範について説明できる。	B-2-2-6
7. 「医薬品等の取扱いに関する医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の規定について説明できる。	B-2-2-7
8. 日本薬局方の意義と構成について説明できる。	B-2-2-8
9. 生物由来製品の取扱いと血液供給体制に係る法規範について説明できる。	B-2-2-9
10. 健康被害救済制度について説明できる。	B-2-2-10
11. レギュラトリーサイエンスの必要性と意義について説明できる。	B-2-2-11

【③特別な管理を要する薬物等に係る法規範】

1. 麻薬、向精神薬、覚醒剤原料等の取扱いに係る規定について説明できる。	B-2-3-1
2. 覚醒剤、大麻、あへん、指定薬物等の乱用防止規制について概説できる。	B-2-3-2
3. 毒物劇物の取扱いに係る規定について概説できる。	B-2-3-3

(3) 社会保障制度と医療経済

G10 社会保障制度のもとで提供される医療と福祉について、現状と課題を認識するとともに、薬剤師が担う役割とその意義を理解する。

【①医療、福祉、介護の制度】

1. 日本の社会保障制度の枠組みと特徴について説明できる。	B-3-1-1
2. 医療保険制度について説明できる。	B-3-1-2
3. 療養担当規則について説明できる。	B-3-1-3
4. 公費負担医療制度について概説できる。	B-3-1-4
5. 介護保険制度について概説できる。	B-3-1-5
6. 薬師免許制度について概説できる。	B-3-1-6
7. 調剤報酬、診療報酬及び介護報酬の仕組みについて概説できる。	B-3-1-7

【②医薬品と医療の経済性】

1. 医薬品の市場の特徴と流通の仕組みについて概説できる。	B-3-2-1
2. 国民医療費の動向について概説できる。	B-3-2-2
3. 後発医薬品とその役割について説明できる。	B-3-2-3
4. 薬物療法の経済評価手法について概説できる。	B-3-2-4

(4) 地域における薬局と薬剤師

G10 地域の保健、医療、福祉について、現状と課題を認識するとともに、その質を向上させるための薬局及び薬剤師の役割とその意義を理解する。

【①地域における薬局の役割】

1. 地域における薬局の機能と業務について説明できる。	B-4-1-1
2. 医薬分業の意義と動向を説明できる。	B-4-1-2
3. かかりつけ薬局・薬剤師による薬学的管理の意義について説明できる。	B-4-1-3
4. セルフメディケーションにおける薬局の役割について説明できる。	B-4-1-4
5. 災害時の薬局の役割について説明できる。	B-4-1-5
6. 医療費の適正化に薬局が果たす役割について説明できる。	B-4-1-6

【②地域における保健、医療、福祉の連携体制と薬剤師】

1. 地域包括ケアの理念について説明できる。	B-4-2-1
2. 在宅医療及び在宅介護における薬局と薬剤師の役割について説明できる。	B-4-2-2
3. 学校薬剤師の役割について説明できる。	B-4-2-3
4. 地域の保健、医療、福祉において利用可能な社会資源について概説できる。	B-4-2-4
5. 地域から求められる医療提供施設、福祉施設及び行政との連携について討議する。(知識・態度)	B-4-2-5

C 薬学基礎

C1 物質の物理的性質

G10 物質の物理的性質を理解するために、原子・分子の構造、熱力学、反応速度論などに関する基本的事項を身につける。

(1) 物質の構造

G10 物質を構成する原子・分子の構造、および化学結合に関する基本的事項を修得する。

【①化学結合】

1. 化学結合の様式について説明できる。	C11113
2. 分子軌道の基本概念および軌道の混成について説明できる。	C11115
3. 共役や共鳴の概念を説明できる。	C11116

【②分子間相互作用】

1. ファンデルワールス力について説明できる。	C11121
2. 静電相互作用について例を挙げて説明できる。	C11122
3. 双極子間相互作用について例を挙げて説明できる。	C11123
4. 分散力について例を挙げて説明できる。	C11124
5. 水素結合について例を挙げて説明できる。	C11125
6. 電荷移動相互作用について例を挙げて説明できる。	C11126
7. 疎水性相互作用について例を挙げて説明できる。	C11127

【③原子・分子の挙動】

1. 電磁波の性質および物質との相互作用を説明できる。	C11131
2. 分子の振動、回転、電子遷移について説明できる。	C11132
3. 電子や核のスピンとその磁気共鳴について説明できる。	C11133
4. 光の屈折、偏光、および陰光性について説明できる。	C11134
5. 光の散乱および干渉について説明できる。	C11135
6. 結晶構造と回折現象について概説できる。	C11136

【④放射線と放射能】

1. 原子の構造と放射線について説明できる。	C11141
2. 電離放射線の種類を列挙し、それらの性質および物質との相互作用について説明できる。	C11142
3. 代表的な放射性核種の物理的性質について説明できる。	C11143
4. 核反応および放射平衡について説明できる。	C11144
5. 放射線測定の方法と利用について概説できる。	C11145

(2) 物質のエネルギーと平衡

G10 物質の状態を理解するために、熱力学に関する基本的事項を修得する。

【①気体の微視的状態と巨視的状態】

1. ファンデルワールスの状態方程式について説明できる。	C12111
2. 気体の分子運動とエネルギーの関係について説明できる。	C12112
3. エネルギーの量子化とボルツマン分布について説明できる。	C12113

【②エネルギー】

1. 熱力学における系、外界、境界について説明できる。	C12211
2. 熱力学第一法則を説明できる。	C12212
3. 状態関数と経路関数の違いを説明できる。	C12213
4. 定圧過程、定容過程、等温過程、断熱過程を説明できる。	C12214
5. 定容熱容量および定圧熱容量について説明できる。	C12215
6. エンタルピーについて説明できる。	C12216
7. 化学変化に伴うエンタルピー変化について説明できる。	C12217

【③自発的な変化】

1. エントロピーについて説明できる。	C12221
2. 熱力学第二法則について説明できる。	C12222
3. 熱力学第三法則について説明できる。	C12223
4. ギブズエネルギーについて説明できる。	C12224
5. 熱力学関数を使い、自発的な変化の方向と程度を予測できる。	C12225

【④化学平衡の原理】

1. ギブズエネルギーと化学ポテンシャルの関係を説明できる。	C12231
2. ギブズエネルギーと平衡定数の関係を説明できる。	C12232
3. 平衡定数に及ぼす圧力および温度の影響について説明できる。	C12233
4. 共役反応の原理について説明できる。	C12234

【⑤相平衡】

1. 相変化に伴う熱の移動について説明できる。	C12241
-------------------------	--------

2. 相平衡と相律について説明できる。	C12252
3. 状態図について説明できる。	C12253

【⑥溶液の性質】

1. 希薄溶液の束一的性質について説明できる。	C12261
2. 活量と活量係数について説明できる。	C12262
3. 電解質溶液の電気伝導率およびモル伝導率の濃度による変化を説明できる。	C12263
4. イオン強度について説明できる。	C12264

【⑦電気化学】

1. 起電力とギブズエネルギーの関係について説明できる。	C12271
2. 電極電位(酸化還元電位)について説明できる。	C12272

(3) 物質の変化

G10 物質の変換過程を理解するために、反応速度論に関する基本的事項を修得する。

【①反応速度】

1. 反応次数と速度定数について説明できる。	C13314
2. 微分速度式を積分速度式に変換できる。(知識・技能)	C13312
3. 代表的な反応次数の決定法を列挙し、説明できる。	C13313
4. 代表的な(単)一次反応の反応速度を測定し、速度定数を求めることができる。(技能)	C13314
5. 代表的な複合反応(可逆反応、平行反応、連鎖反応など)の特徴について説明できる。	C13315
6. 反応速度と温度との関係を説明できる。	C13318
7. 代表的な触媒反応(酸・塩基触媒反応、酵素反応など)について説明できる。	C13317

C2 化学物質の分析

G10 化学物質(医薬品を含む)を適切に分析できるようになるために、物質の定性、定量に関する基本的事項を修得する。

(1) 分析の基礎

G10 化学物質の分析に用いる器具の使用法と得られる測定値の取り扱いに関する基本的事項を修得する。

【①分析の基本】

1. 分析に用いる器具を正しく使用できる。(知識・技能)	C23111
2. 測定値を適切に取り扱うことができる。(知識・技能)	C23112
3. 分析法のバリデーションについて説明できる。	C23113

(2) 溶液中の化学平衡

G10 溶液中の化学平衡に関する基本的事項を修得する。

【①酸・塩基平衡】

1. 酸・塩基平衡の概念について説明できる。	C23211
2. pHおよび解離定数について説明できる。(知識・技能)	C23212
3. 溶液のpHを測定できる。(技能)	C23213
4. 緩衝作用や緩衝液について説明できる。	C23214

【②各種の化学平衡】

1. 錯体・キレート生成平衡について説明できる。	C23221
2. 沈殿平衡について説明できる。	C23222
3. 酸化還元平衡について説明できる。	C23223
4. 分配平衡について説明できる。	C23224

(3) 化学物質の定性分析・定量分析

G10 化学物質の定性分析および定量分析に関する基本的事項を修得する。

【①定性分析】

1. 代表的な無機イオンの定性反応を説明できる。	C23311
2. 日本薬局方収載の代表的な医薬品の確認試験を列挙し、その内容を説明できる。	C23312

【②定量分析(容量分析・重量分析)】

1. 中和滴定(非水滴定を含む)の原理、操作法および応用例を説明できる。	C23321
2. キレート滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。	C23322
3. 沈殿滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。	C23323
4. 酸化還元滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。	C23324
5. 日本薬局方収載の代表的な医薬品の容量分析を実施できる。(知識・技能)	C23325
6. 日本薬局方収載の代表的な測定試験を列挙し、その内容を説明できる。	C23326
7. 日本薬局方収載の重量分析法の原理および操作法を説明できる。	C23327

(4) 機器を用いる分析法

G10 機器を用いる分析法の原理とその応用に関する基本的事項を修得する。

【①分光分析法】

1. 紫外可視吸光光度法の原理および応用例を説明できる。	G24111
2. 蛍光光度法の原理および応用例を説明できる。	G24112
3. 赤外線吸収(IR)スペクトル測定法の原理および応用例を説明できる。	G24113
4. 原子吸光光度法、誘導結合プラズマ(ICP)発光分光分析法およびICP質量分析法の原理および応用例を説明できる。	G24114
5. 旋光度測定法(旋光分散)の原理および応用例を説明できる。	G24115
6. 分光分析法を用いて、日本薬局方取載の代表的な医薬品の分析を実施できる。(技能)	G24116

【②核磁気共鳴(NMR)スペクトル測定法】

1. 核磁気共鳴(NMR)スペクトル測定法の原理および応用例を説明できる。	G24211
---------------------------------------	--------

【③質量分析法】

1. 質量分析法の原理および応用例を説明できる。	G24311
--------------------------	--------

【④X線分析法】

1. X線結晶解析の原理および応用例を概説できる。	G24411
2. 粉末X線回折測定法の原理と利用法について概説できる。	G24412

【⑤熱分析】

1. 熱重量測定法の原理を説明できる。	G24511
2. 示差熱分析法および示差走査熱重量測定法について説明できる。	G24512

(5) 分離分析法

G10 分離分析法に関する基本的事項を修得する。

【①クロマトグラフィー】

1. クロマトグラフィーの分離機構を説明できる。	G24611
2. 薄層クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。	G24612
3. 液体クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。	G24613
4. ガスクロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。	G24614
5. クロマトグラフィーを用いて試料を定性・定量できる。(知識・技能)	G24615

【②電気泳動法】

1. 電気泳動法の原理および応用例を説明できる。	G24711
--------------------------	--------

(6) 臨床現場で用いる分析技術

G10 臨床現場で用いる代表的な分析技術に関する基本的事項を修得する。

【①分析の準備】

1. 分析目的に即した試料の前処理法を説明できる。	G24811
2. 臨床分析における精度管理および標準物質の意義を説明できる。	G24812

【②分析技術】

1. 臨床分析で用いられる代表的な分析法を列挙できる。	G24911
2. 免疫化学的測定法の原理を説明できる。	G24912
3. 酵素を用いた代表的な分析法の原理を説明できる。	G24913
4. 代表的なドライケミストリーについて概説できる。	G24914
5. 代表的な画像診断技術(X線検査、MRI、超音波、内視鏡検査、核医学検査など)について概説できる。	G24915

C3 化学物質の性質と反応

G10 化学物質を理解できるようになるために、代表的な有機化合物の構造、性質、反応、分離法、構造決定法、および無機化合物の構造と性質に関する基本的事項を修得する。

(1) 化学物質の基本的性質

G10 基本的な有機化合物の命名法、電子配置、反応、立体構造などに関する基本的事項を修得する。

【①基本事項】

1. 代表的な化合物をIUPAC規則に基づいて命名することができる。	G25111
2. 化学領域で用いられる代表的な化合物を慣用名で記述できる。	G25112
3. 基本的な化合物を、ルイス構造式で書くことができる。	G25113
4. 有機化合物の性質と共鳴の関係について説明できる。	G25114
5. ルイス酸・塩基、ブレンステッド酸・塩基を定義することができる。	G25115
6. 基本的な有機反応(置換、付加、脱離)の特徴を理解し、分類できる。	G25116

7. 炭素原子を含む反応中間体(カルボカチオン、カルボアニオン、ラジカル)の構造と性質を説明できる。	C3-1-17
8. 反応の過程を、エネルギー図を用いて説明できる。	C3-1-18
9. 基本的な有機反応機構を、電子の動きを示す矢印を用いて表すことができる。(技能)	C3-1-19

【②有機化合物の立体構造】

1. 構造異性体と立体異性体の違いについて説明できる。	C3-2-1
2. キラリティーと光学活性の関係を概説できる。	C3-2-2
3. エナンチオマーとジアステレオマーについて説明できる。	C3-2-3
4. ラセミ体とメソ体について説明できる。	C3-2-4
5. 絶対配置の表示法を説明し、キラル化合物の構造を書くことができる。(知識、技能)	C3-2-5
6. 炭素-炭素二重結合の立体異性(cis-transならびにE,Z異性)について説明できる。	C3-2-6
7. フィッシャー投影式とニューマン投影式を用いて有機化合物の構造を書くことができる。(技能)	C3-2-7
8. エタン、ブタン の立体配座とその安定性について説明できる。	C3-2-8

(2) 有機化合物の基本骨格の構造と反応

G10 有機化合物の基本骨格となる脂肪族および芳香族化合物の構造、性質、反応性などに関する基本的事項を修得する。
--

【①アルカン】

1. アルカンの基本的な性質について説明できる。	C3-2-11
2. アルカンの構造異性体を図示することができる。(技能)	C3-2-12
3. シクロアルカンの環のひずみを決定する要因について説明できる。	C3-2-13
4. シクロヘキサンのいす形配座における水素の結合方向(アキシアル、エクアトリアル)を図示できる。(技能)	C3-2-14
5. 置換シクロヘキサンの安定な立体配座を決定する要因について説明できる。	C3-2-15

【②アルケン・アルキン】

1. アルケンへの代表的な付加反応を列挙し、その特徴を説明できる。	C3-2-21
2. アルケンの代表的な酸化、還元反応を列挙し、その特徴を説明できる。	C3-2-22
3. アルキンの代表的な反応を列挙し、その特徴を説明できる。	C3-2-23

【③芳香族化合物】

1. 代表的な芳香族炭化水素化合物の性質と反応性を説明できる。	C3-2-31
2. 芳香族性の概念を説明できる。	C3-2-32
3. 芳香族炭化水素化合物の求電子置換反応の反応性、配向性、置換基の効果について説明できる。	C3-2-33
4. 代表的な芳香族複素環化合物の性質を芳香族性と関連づけて説明できる。	C3-2-34
5. 代表的な芳香族複素環の求電子置換反応の反応性、配向性、置換基の効果について説明できる。	C3-2-35

(3) 官能基の性質と反応

G10 官能基を有する有機化合物の性質、反応性に関する基本的事項を修得する。
--

【①概説】

1. 代表的な官能基を列挙し、性質を説明できる。	C3-3-11
2. 官能基の性質を利用した分離精製を実施できる。(技能)	C3-3-12

【②有機ハロゲン化合物】

1. 有機ハロゲン化合物の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	C3-3-21
2. 求核置換反応の特徴について説明できる。	C3-3-22
3. 脱離反応の特徴について説明できる。	C3-3-23

【③アルコール・フェノール・エーテル】

1. アルコール、フェノール類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	C3-3-31
2. エーテル類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	C3-3-32

【④アルデヒド・ケトン・カルボン酸・カルボン酸誘導体】

1. アルデヒド類およびケトン類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	C3-3-41
2. カルボン酸の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	C3-3-42
3. カルボン酸誘導体(酸ハロゲン化物、酸無水物、エステル、アミド)の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	C3-3-43

【⑤アミン】

1. アミン類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	C3-3-51
------------------------------	---------

【⑥電子効果】

1. 官能基が及ぼす電子効果について概説できる。	C3-3-61
--------------------------	---------

【⑦酸性度・塩基性度】

1. アルコール、フェノール、カルボン酸、炭素酸などの酸性度を比較して説明できる。	C3-3-71
2. 含窒素化合物の塩基性度を比較して説明できる。	C3-3-72

(4) 化学物質の構造決定

G10 代表的な機器分析としての核磁気共鳴 (NMR)、赤外吸収 (IR)、質量分析による構造決定法の基本的事項を修得する。

【①核磁気共鳴 (NMR)】

1. ¹ H および ¹³ C NMR スペクトルより得られる情報を概説できる。	03-4-3-1
2. 有機化合物中の代表的プロトンについて、おおよその化学シフト値を示すことができる。	03-4-3-2
3. ¹ H NMR の積分値の意味を説明できる。	03-4-3-3
4. ¹ H NMR シグナルが近接プロトンにより分裂 (カップリング) する基本的な分裂様式を説明できる。	03-4-3-4
5. 代表的な化合物の部分構造を ¹ H NMR から決定できる。(技能)	03-4-3-5

【②赤外吸収 (IR)】

1. IR スペクトルより得られる情報を概説できる。	03-4-3-1
2. IR スペクトル上の基本的な官能基の特性吸収を列挙し、帰属することができる。(知識・技能)	03-4-3-2

【③質量分析】

1. マススペクトルより得られる情報を概説できる。	03-4-3-1
2. 測定化合物に適したイオン化法を選択できる。(技能)	03-4-3-2
3. ピークの種類 (基峰ピーク、分子イオンピーク、同位体ピーク、フラグメントピーク) を説明できる。	03-4-3-3
4. 代表的な化合物のマススペクトルを解析できる。(技能)	03-4-3-4

【④総合演習】

1. 代表的な機器分析法を用いて、代表的な化合物の構造決定ができる。(技能)	03-4-3-5
--	----------

(5) 無機化合物・錯体の構造と性質

G10 代表的な無機化合物・錯体(医薬品を含む)の構造、性質に関する基本的事項を修得する。

【①無機化合物・錯体】

1. 代表的な典型元素と遷移元素を列挙できる。	03-4-3-1
2. 代表的な無機酸化物、オキソ化合物の名称、構造、性質を列挙できる。	03-4-3-2
3. 活性酸素と窒素酸化物の名称、構造、性質を列挙できる。	03-4-3-3
4. 代表的な錯体の名称、構造、基本的な性質を説明できる。	03-4-3-4
5. 医薬品として用いられる代表的な無機化合物、および錯体を列挙できる。	03-4-3-5

C4 生体分子・医薬品の化学による理解

G10 医薬品の生体内での作用を化学的に理解できるようになるために、医薬品標的および医薬品の構造と性質、生体反応の化学に関する基本的事項を修得する。

(1) 医薬品の標的となる生体分子の構造と化学的な性質

G10 医薬品の標的となる生体分子の基本構造と、その化学的な性質に関する基本的事項を修得する。

【①医薬品の標的となる生体高分子の化学構造】

1. 代表的な生体高分子を構成する小分子 (アミノ酸、糖、脂質、ヌクレオチドなど) の構造に基づく化学的性質を説明できる。	04-1-1-1
2. 医薬品の標的となる生体高分子 (タンパク質、核酸など) の立体構造とそれを規定する化学結合、相互作用について説明できる。	04-1-1-2

【②生体内で機能する小分子】

1. 細胞膜受容体および細胞内 (核内) 受容体の代表的な内因性リガンドの構造と性質について概説できる。	04-1-2-1
2. 代表的な補酵素が酵素反応で果たす役割について、有機反応機構の観点から説明できる。	04-1-2-2
3. 活性酸素、一酸化窒素の構造に基づく生体内反応を化学的に説明できる。	04-1-2-3
4. 生体内に存在する代表的な金属イオンおよび錯体の機能を化学的に説明できる。	04-1-2-4

(2) 生体反応の化学による理解

G10 医薬品の作用の基礎となる生体反応の化学的理解に関する基本的事項を修得する。

【①生体内で機能するリン、硫黄化合物】

1. リン化合物 (リン酸誘導体など) および硫黄化合物 (チオール、ジスルフィド、チオエステルなど) の構造と化学的性質を説明できる。	04-2-1-1
2. リン化合物 (リン酸誘導体など) および硫黄化合物 (チオール、ジスルフィド、チオエステルなど) の生体内での機能を化学的性質に基づき説明できる。	04-2-1-2

【②酵素阻害剤と作用様式】

1. 不可逆的酵素阻害剤の作用を酵素の反応機構に基づいて説明できる。	04-2-2-1
2. 基質アナログが競合阻害剤となることを酵素の反応機構に基づいて説明できる。	04-2-2-2
3. 過剰状態アナログが観合阻害剤となることを酵素の反応機構に基づいて説明できる。	04-2-2-3

【③受容体のアゴニストおよびアンタゴニスト】

1. 代表的な受容体のアゴニスト(作用薬、作動薬、刺激薬)とアンタゴニスト(拮抗薬、遮断薬)との相違点について、内因性リガンドの構造と比較して説明できる。	C412311
2. 低分子内因性リガンド誘導体が医薬品として用いられている理由を説明できる。	C412312

【④生体内で起こる有機反応】

1. 代表的な生体分子(脂肪酸、コレステロールなど)の代謝反応を有機化学の観点から説明できる。	C412411
2. 異物代謝の反応(強がん性物質の代謝的活性化など)を有機化学の観点から説明できる。	C412422

(3) 医薬品の化学構造と性質、作用

G10 医薬品に含まれる代表的な構造およびその性質を医薬品の作用と関連づける基本的事項を修得する。

【①医薬品と生体分子の相互作用】

1. 医薬品と生体分子との相互作用を化学的な観点(結合親和性と自由エネルギー変化、電子効果、立体効果など)から説明できる。	C413111
---	---------

【②医薬品の化学構造に基づく性質】

1. 医薬品の構造からその物理化学的性質(酸性、塩基性、親水性、親油性など)を説明できる。	C413211
2. プロドラッグなどの薬物動態を考慮した医薬品の化学構造について説明できる。	C413222

【③医薬品のコンポーネント】

1. 代表的な医薬品のファーマコフォアについて概説できる。	C413311
2. バイオアイソスター(生物学的等価体)について、代表的な例を挙げて概説できる。	C413322
3. 医薬品に含まれる代表的な複素環を構造に基づいて分類し、医薬品コンポーネントとしての性質を説明できる。	C413333

【④酵素に作用する医薬品の構造と性質】

1. ヌクレオシドおよび核酸塩基アナログを有する代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。	C413411
2. フェニル酢酸、フェニルプロピオン酸構造などをもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。	C413422
3. スルホニアミド構造をもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。	C413433
4. キノロン骨格をもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。	C413444
5. β -ラクタム構造をもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。	C413455
6. ペプチドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。	C413466

【⑤受容体に作用する医薬品の構造と性質】

1. カテコールアミン骨格を有する代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。	C413511
2. アセチルコリンアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。	C413522
3. ステロイドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。	C413533
4. ベンゾジアゼピン骨格およびバルビタール骨格を有する代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。	C413544
5. オピオイドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。	C413555

【⑥DNAに作用する医薬品の構造と性質】

1. DNAと結合する医薬品(アルキル化剤、シスプラチン類)を列挙し、それらの化学構造と反応機構を説明できる。	C413611
2. DNAにインターカレートする医薬品を列挙し、それらの構造上の特徴を説明できる。	C413622
3. DNA鎖を切断する医薬品を列挙し、それらの構造上の特徴を説明できる。	C413633

【⑦イオンチャンネルに作用する医薬品の構造と性質】

1. イオンチャンネルに作用する医薬品の代表的な基本骨格(ジヒドロピリジンなど)の特徴を説明できる。	C413711
--	---------

C5 自然が生み出す薬物

G10 自然界に存在する物質を医薬品として利用できるようになるために、代表的な生薬の基原、特色、臨床応用および天然生物活性物質の単離、構造、物性、作用などに関する基本的事項を修得する。
--

(1) 薬になる動植物

G10 基原、性状、含有成分、品質評価などに関する基本的事項を修得する。

【①薬用植物】

1. 代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを挙げるができる。	C51111
2. 代表的な薬用植物を外部形態から説明し、区別できる。(知識、技能)	C51112
3. 植物の主な内部形態について説明できる。	C51113
4. 法律によって取り扱いが規制されている植物(ケシ、アサ)の特徴を説明できる。	C51114

【②生薬の基原】

1. 日本薬局方収載の代表的な生薬(植物、動物、藻類、菌類由来)を列挙し、その基原、薬用部位を説明できる。	
---	--

【③生薬の用途】

1. 日本薬局方収載の代表的な生薬(植物、動物、藻類、菌類、鉱物由来)の薬効、成分、用途などを説明できる。	
2. 副作用や使用上の注意が必要な代表的な生薬を列挙し、説明できる。	

【④生薬の同定と品質評価】

1. 生薬の同定と品質評価法について概説できる。	
2. 日本薬局方の生薬総則および生薬試験法について説明できる。	
3. 代表的な生薬を鑑別できる。(技能)	
4. 代表的な生薬の確認試験を説明できる。	
5. 代表的な生薬の純度試験を説明できる。	

(2) 薬の宝庫としての天然物

G10 医薬品資源としての天然生物活性物質を構造によって分類・整理するとともに、天然生物活性物質の利用に関する基本的事項を修得する。
--

【①生薬由来の生物活性物質の構造と作用】

1. 生薬由来の代表的な生物活性物質を化学構造に基づいて分類し、それらの生合成経路を概説できる。	G5-2-1-1
2. 脂質や糖質に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。	G5-2-1-2
3. 芳香族化合物に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。	G5-2-1-3
4. テルペノイド、ステロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。	G5-2-1-4
5. アルカロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。	G5-2-1-5

【②微生物由来の生物活性物質の構造と作用】

1. 微生物由来の生物活性物質を化学構造に基づいて分類できる。	G5-2-2-1
2. 微生物由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。	G5-2-2-2

【③天然生物活性物質の取扱い】

1. 天然生物活性物質の代表的な抽出法、分離精製法を概説し、実施できる。(知識、技能)	G5-2-3
---	--------

【④天然生物活性物質の利用】

1. 医薬品として使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。	G5-2-4-1
2. 天然生物活性物質を基に化学修飾等により開発された代表的な医薬品を列挙し、その用途、リード化合物を説明できる。	G5-2-4-2
3. 農薬や香料品などとして使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。	G5-2-4-3

C6 生命現象の基礎

G10 生命現象を細胞レベル、分子レベルで理解できるようになるために、生命体の最小単位である細胞の成り立ちや生命現象を担う分子に関する基本的事項を修得する。
--

(1) 細胞の構造と機能

G10 細胞膜、細胞小器官、細胞骨格などの構造と機能に関する基本的事項を修得する。

【①細胞膜】

1. 細胞膜を構成する代表的な生体成分を列挙し、その機能を分子レベルで説明できる。	G6-1-1-1
2. エンドサイトーシスとエキソサイトーシスについて説明できる。	G6-1-1-2

【②細胞小器官】

1. 細胞小器官(核、ミトコンドリア、小胞体、リソソーム、ゴルジ体、ペルオキシソームなど)やリボソームの構造と機能を説明できる。	G6-1-2
--	--------

【③細胞骨格】

1. 細胞骨格の構造と機能を説明できる。	G6-1-3
----------------------	--------

(2) 生命現象を担う分子

G10 生命現象を担う分子の構造、性質、役割に関する基本的事項を修得する。

【①脂質】

1. 代表的な脂質の種類、構造、性質、役割を説明できる。	G6-2-1-1
------------------------------	----------

【②糖質】	
1. 代表的な単糖、二糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。	C6-2-2-1
2. 代表的な多糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。	C6-2-2-2
【③アミノ酸】	
1. アミノ酸を列挙し、その構造に基づいて性質を説明できる。	C6-2-3-1
【④タンパク質】	
1. タンパク質の構造(一次、二次、三次、四次構造)と性質を説明できる。	C6-2-4-1
【⑤ヌクレオチドと核酸】	
1. ヌクレオチドと核酸(DNA、RNA)の種類、構造、性質を説明できる。	C6-2-5-1
【⑥ビタミン】	
1. 代表的なビタミンの種類、構造、性質、役割を説明できる。	C6-2-6-1
【⑦微量元素】	
1. 代表的な必須微量元素の種類、役割を説明できる。	C6-2-7-1
【⑧生体分子の定性、定量】	
1. 脂質、糖質、アミノ酸、タンパク質、もしくは核酸の定性または定量試験を実施できる。(技能)	C6-2-8-1
(3) 生命活動を担うタンパク質	
GIO 生命活動を担うタンパク質の構造、性質、機能、代謝に関する基本的事項を修得する。	
【①タンパク質の構造と機能】	
1. 多彩な機能をもつタンパク質(酵素、受容体、シグナル分子、膜輸送体、運搬・輸送タンパク質、貯蔵タンパク質、構造タンパク質、接着タンパク質、防御タンパク質、調節タンパク質)を列挙し概説できる。	C6-3-1-1
【②タンパク質の成熟と分解】	
1. タンパク質の翻訳後の成熟過程(細胞小器官間の輸送や翻訳後修飾)について説明できる。	C6-3-2-1
2. タンパク質の細胞内での分解について説明できる。	C6-3-2-2
【③酵素】	
1. 酵素反応の特性と反応速度論を説明できる。	C6-3-3-1
2. 酵素反応における補酵素、微量金属の役割を説明できる。	C6-3-3-2
3. 代表的な酵素活性調節機構を説明できる。	C6-3-3-3
4. 酵素反応速度を測定し、解析できる。(技能)	C6-3-3-4
【④酵素以外のタンパク質】	
1. 膜輸送体の種類、構造、機能を説明できる。	C6-3-4-1
2. 血凝りタンパク質の種類、構造、機能を説明できる。	C6-3-4-2
(4) 生命情報を担う遺伝子	
GIO 生命情報を担う遺伝子の複製、発現と、それらの制御に関する基本的事項を修得する。	
【①概論】	
1. 遺伝情報の保存と発現の流れを説明できる。	C6-4-1-1
2. DNA、遺伝子、染色体、ゲノムとは何かを説明できる。	C6-4-1-2
【②遺伝情報を担う分子】	
1. 染色体の構造(ヌクレオソーム、クロマチン、セントロメア、テロメアなど)を説明できる。	C6-4-2-1
2. 遺伝子の構造(プロモーター、エンハンサー、エキソン、イントロンなど)を説明できる。	C6-4-2-2
3. RNAの種類(mRNA、mRNA、rRNA、tRNAなど)と機能について説明できる。	C6-4-2-3
【③遺伝子の複製】	
1. DNAの複製の過程について説明できる。	C6-4-3-1
【④転写・翻訳の過程と調節】	
1. DNAからRNAへの転写の過程について説明できる。	C6-4-4-1
2. エピジェネティックな転写制御について説明できる。	C6-4-4-2
3. 転写因子による転写制御について説明できる。	C6-4-4-3
4. RNAのプロセシング(キャップ構造、スプライシング、snRNP、ポリA鎖など)について説明できる。	C6-4-4-4
5. RNAからタンパク質への翻訳の過程について説明できる。	C6-4-4-5

【⑤遺伝子の変異・修復】

1. DNA の変異と修復について説明できる。	063496
-------------------------	--------

【⑥組換えDNA】

1. 遺伝子工学技術(遺伝子クローニング、cDNA クローニング、PCR、組換えタンパク質発現法など)を概説できる。	063497
2. 遺伝子改変生物(遺伝子導入・欠損動物、クローン動物、遺伝子組換え植物)について概説できる。	063498

(5) 生体エネルギーと生命活動を支える代謝系

G10 生体エネルギーの産生、貯蔵、利用、およびこれらを支える糖質、脂質、タンパク質、核酸の代謝に関する基本的事項を修得する。

【①概論】

1. エネルギー代謝の概要を説明できる。	063501
----------------------	--------

【②ATP の産生と糖質代謝】

1. 解糖系及び乳酸の生成について説明できる。	063502
2. クエン酸回路(TCA サイクル)について説明できる。	063503
3. 電子伝達系(酸化リン酸化)とATP 合成酵素について説明できる。	063504
4. グリコーゲンの代謝について説明できる。	063505
5. 糖新生について説明できる。	063506

【③脂質代謝】

1. 脂肪酸の生合成と β 酸化について説明できる。	063507
2. コレステロールの生合成と代謝について説明できる。	063508

【④肌細胞状態と飽食状態】

1. 肌細胞状態のエネルギー代謝(ケトン体の利用など)について説明できる。	063509
2. 余剰のエネルギーを蓄えるしくみを説明できる。	063510

【⑤その他の代謝系】

1. アミノ酸分子中の炭素および窒素の代謝(尿素回路など)について説明できる。	063511
2. ヌクレオチドの生合成と分解について説明できる。	063512
3. ペントースリン酸回路について説明できる。	063513

(6) 細胞間コミュニケーションと細胞内情報伝達

G10 細胞間コミュニケーション及び細胞内情報伝達の方法と役割に関する基本的事項を修得する。
--

【①概論】

1. 細胞間コミュニケーションにおける情報伝達様式を説明できる。	063514
----------------------------------	--------

【②細胞内情報伝達】

1. 細胞膜チャネル内産型受容体を介する細胞内情報伝達について説明できる。	063521
2. 細胞膜受容体からGタンパク系を介する細胞内情報伝達について説明できる。	063522
3. 細胞膜受容体タンパク質などのリン酸化を介する細胞内情報伝達について説明できる。	063523
4. 細胞内情報伝達におけるセカンドメッセンジャーについて説明できる。	063524
5. 細胞内(核内)受容体を介する細胞内情報伝達について説明できる。	063525

【③細胞間コミュニケーション】

1. 細胞間の接着構造、主な細胞接着分子の種類と特徴を説明できる。	063531
2. 主な細胞外マトリックス分子の種類と特徴を説明できる。	063532

(7) 細胞の分裂と死

G10 細胞周期と分裂、細胞死に関する基本的事項を修得する。

【①細胞分裂】

1. 細胞周期とその制御機構について説明できる。	063541
2. 体細胞と生殖細胞の細胞分裂について説明できる。	063542

【②細胞死】

1. 細胞死(アポトーシスとネクローシス)について説明できる。	063543
---------------------------------	--------

【③がん細胞】

1. 正常細胞とがん細胞の違いについて説明できる。	063544
2. がん遺伝子とがん抑制遺伝子について概説できる。	063545

C7 人体の成り立ちと生体機能の調節

G10 人体の成り立ちを個体、器官、細胞の各レベルで理解できるようになるために、人体の構造、機能、調節に関する基本的事項を修得する。

(1) 人体の成り立ち

G10 遺伝、発生、および各器官の構造と機能に関する基本的事項を修得する。

【①遺伝】

- | | |
|-------------------------|----------|
| 1. 遺伝子と遺伝のしくみについて概説できる。 | C7-1-1-1 |
| 2. 遺伝子多型について概説できる。 | C7-1-1-2 |
| 3. 代表的な遺伝疾患を概説できる。 | C7-1-1-3 |

【②発生】

- | | |
|-----------------------------------|----------|
| 1. 個体発生について概説できる。 | C7-1-2-1 |
| 2. 細胞の分化における幹細胞、前駆細胞の役割について概説できる。 | C7-1-2-2 |

【③器官系概論】

- | | |
|--|----------|
| 1. 人体を構成する器官、器官系の名称、形態、体内での位置および機能を説明できる。 | C7-1-3-1 |
| 2. 組織、器官を構成する代表的な細胞の種類(上皮、内皮、間葉系など)を列挙し、形態的および機能的特徴を説明できる。 | C7-1-3-2 |
| 3. 実験動物・人体標本・シミュレーターなどを用いて各種臓器の名称と位置を確認できる。(技能) | C7-1-3-3 |
| 4. 代表的な器官の組織や細胞を顕微鏡で観察できる。(技能) | C7-1-3-4 |

【④神経系】

- | | |
|---------------------------|----------|
| 1. 中枢神経系について概説できる。 | C7-1-4-1 |
| 2. 末梢(体性・自律)神経系について概説できる。 | C7-1-4-2 |

【⑤骨格系・筋肉系】

- | | |
|------------------------------------|----------|
| 1. 骨、筋肉について概説できる。 | C7-1-5-1 |
| 2. 代表的な骨格筋および関節の名称を挙げ、位置を示すことができる。 | C7-1-5-2 |

【⑥皮膚】

- | | |
|-----------------|----------|
| 1. 皮膚について概説できる。 | C7-1-6-1 |
|-----------------|----------|

【⑦循環器系】

- | | |
|--------------------|----------|
| 1. 心臓について概説できる。 | C7-1-7-1 |
| 2. 血管系について概説できる。 | C7-1-7-2 |
| 3. リンパ管系について概説できる。 | C7-1-7-3 |

【⑧呼吸器系】

- | | |
|--------------------|----------|
| 1. 肺、気管支について概説できる。 | C7-1-8-1 |
|--------------------|----------|

【⑨消化器系】

- | | |
|----------------------------|----------|
| 1. 胃、小腸、大腸などの消化管について概説できる。 | C7-1-9-1 |
| 2. 肝臓、膵臓、胆嚢について概説できる。 | C7-1-9-2 |

【⑩泌尿器系】

- | | |
|-------------------|-----------|
| 1. 泌尿器系について概説できる。 | C7-1-10-1 |
|-------------------|-----------|

【⑪生殖器系】

- | | |
|-------------------|-----------|
| 1. 生殖器系について概説できる。 | C7-1-11-1 |
|-------------------|-----------|

【⑫内分泌系】

- | | |
|-------------------|-----------|
| 1. 内分泌系について概説できる。 | C7-1-12-1 |
|-------------------|-----------|

【⑬感覚器系】

- | | |
|-------------------|-----------|
| 1. 感覚器系について概説できる。 | C7-1-13-1 |
|-------------------|-----------|

【⑭血液・造血器系】

- | | |
|----------------------|-----------|
| 1. 血液・造血器系について概説できる。 | C7-1-14-1 |
|----------------------|-----------|

(2) 生体機能の調節

G10 生体の維持に関わる情報ネットワークを担う代表的な情報伝達物質の種類、作用発現機構に関する基本的事項を修得する。

【①神経による調節機構】

1. 神経細胞の興奮と伝導、シナプス伝達の調節機構について説明できる。	C7/2/1
2. 代表的な神経伝達物質を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。	C7/2/2
3. 神経系、感覚器を介するホメオスタシスの調節機構の代表例を列挙し、概説できる。	C7/2/3
4. 神経による筋収縮の調節機構について説明できる。	C7/2/4

【②ホルモン・内分泌系による調節機構】

1. 代表的なホルモンを挙げ、その産生器官、生理活性および作用機構について概説できる。	C7/2/2/1
---	----------

【③オータコイドによる調節機構】

1. 代表的なオータコイドを挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。	C7/2/3/1
--	----------

【④サイトカイン・増殖因子による調節機構】

1. 代表的なサイトカイン、増殖因子を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。	C7/2/4/1
---	----------

【⑤血圧の調節機構】

1. 血圧の調節機構について概説できる。	C7/2/5/1
----------------------	----------

【⑥血糖の調節機構】

1. 血糖の調節機構について概説できる。	C7/2/6/1
----------------------	----------

【⑦体液の調節】

1. 体液の調節機構について概説できる。	C7/2/7/1
2. 尿の生成機構、尿量の調節機構について概説できる。	C7/2/7/2

【⑧体温の調節】

1. 体温の調節機構について概説できる。	C7/2/8/1
----------------------	----------

【⑨血液凝固・線溶系】

1. 血液凝固・線溶系の機構について概説できる。	C7/2/9/1
--------------------------	----------

【⑩性周期の調節】

1. 性周期の調節機構について概説できる。	C7/2/10/1
-----------------------	-----------

C8 生体防御と微生物

G10 生体の恒常性が崩れたときに生ずる変化を理解できるようになるために、免疫反応による生体防御機構とその破綻、および代表的な病原微生物に関する基本的事項を修得する。

(1) 身体をまもる

G10 ヒトの主な生体防御反応としての免疫応答に関する基本的事項を修得する。

【①生体防御反応】

1. 異物の侵入に対する物理的、生理的、化学的バリアー、および補体の役割について説明できる。	C8/1/1
2. 免疫反応の特徴(自己と非自己の識別、特異性、多様性、クローン性、記憶、寛容)を説明できる。	C8/1/2
3. 自然免疫と獲得免疫、および両者の関係を説明できる。	C8/1/3
4. 体液性免疫と細胞性免疫について説明できる。	C8/1/4

【②免疫を担当する組織・細胞】

1. 免疫に関与する組織を列挙し、その役割を説明できる。	C8/1/2/1
2. 免疫担当細胞の種類と役割を説明できる。	C8/1/2/2
3. 免疫反応における主な細胞間ネットワークについて説明できる。	C8/1/2/3

【③分子レベルで見た免疫のしくみ】

1. 自然免疫および獲得免疫における異物の認識を比較して説明できる。	C8/1/3/1
2. MHC 抗原の構造と機能および抗原提示での役割について説明できる。	C8/1/3/2
3. T 細胞と B 細胞による抗原認識の多様性(遺伝子再構成)と活性化について説明できる。	C8/1/3/3
4. 抗体分子の基本構造、種類、役割を説明できる。	C8/1/3/4
5. 免疫系に関わる主なサイトカインを挙げ、その作用を概説できる。	C8/1/3/5

(2) 免疫系の制御とその破綻・免疫系の応用

G10 免疫応答の制御とその破綻、および免疫反応の臨床応用に関する基本的事項を修得する。

① 免疫応答の制御と破綻

1. 発症の一般的症状、抗原細胞および反応機構について説明できる。	CG2-1-1
2. アレルギンを分類し、担当細胞および反応機構について説明できる。	CG2-1-2
3. 自己免疫疾患と免疫不全症候群について概説できる。	CG2-1-3
4. 臓器移植と免疫反応の関わり(拒絶反応、免疫抑制剤など)について説明できる。	CG2-1-4
5. 感染症と免疫応答との関わりについて説明できる。	CG2-1-5
6. 腫瘍排除に関与する免疫反応について説明できる。	CG2-1-6

② 免疫反応の利用

1. ワクチンの原理と種類(生ワクチン、不活化ワクチン、トキシイド、混合ワクチンなど)について説明できる。	CG2-2-1
2. モノクローナル抗体とポリクローナル抗体について説明できる。	CG2-2-2
3. 血清療法と抗体医薬について概説できる。	CG2-2-3
4. 抗原抗体反応を利用した検査方法(ELISA法、ウエスタンブロット法など)を実施できる。(技能)	CG2-2-4

(3) 微生物の基本

G10 微生物の分類、構造、生活環などに関する基本的事項を修得する。

① 総論

1. 原核生物、真核生物およびウイルスの特徴を説明できる。	CG3-1-1
-------------------------------	---------

② 細菌

1. 細菌の分類や性質(系統学的分類、グラム陽性菌と陰性菌、好気性菌と嫌気性菌など)を説明できる。	CG3-2-1
2. 細菌の構造と増殖機構について説明できる。	CG3-2-2
3. 細菌の異化作用(呼吸と発酵)および同化作用について説明できる。	CG3-2-3
4. 細菌の遺伝子伝達(接合、形質導入、形質転換)について説明できる。	CG3-2-4
5. 薬剤耐性菌および薬剤耐性化機構について概説できる。	CG3-2-5
6. 代表的な細菌毒素について説明できる。	CG3-2-6

③ ウイルス

1. ウイルスの構造、分類、および増殖機構について説明できる。	CG3-3-1
---------------------------------	---------

④ 真菌・原虫・蠕虫

1. 真菌の性状を概説できる。	CG3-4-1
2. 原虫および蠕虫の性状を概説できる。	CG3-4-2

⑤ 消毒と滅菌

1. 滅菌、消毒および殺菌、静菌の概念を説明できる。	CG3-5-1
2. 主な滅菌法および消毒法について説明できる。	CG3-5-2

⑥ 検出方法

1. グラム染色を実施できる。(技能)	CG3-6-1
2. 菌落操作を実施できる。(技能)	CG3-6-2
3. 代表的な細菌または真菌の分離培養、純培養を実施できる。(技能)	CG3-6-3

(4) 病原体としての微生物

G10 ヒトと微生物の関わりおよび病原微生物に関する基本的事項を修得する。

① 感染の成立と共生

1. 感染の成立(感染源、感染経路、侵入門戸など)と共生(腸内細菌など)について説明できる。	CG4-1-1
2. 日和見感染と院内感染について説明できる。	CG4-1-2

② 代表的な病原体

1. DNAウイルス(ヒトヘルペスウイルス、アデノウイルス、パピローマウイルス、B型肝炎ウイルスなど)について概説できる。	CG4-2-1
2. RNAウイルス(ノロウイルス、ロタウイルス、ポリオウイルス、コクサッキーウイルス、エコーウイルス、ライノウイルス、A型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス、インフルエンザウイルス、麻疹ウイルス、風疹ウイルス、日本脳炎ウイルス、狂犬病ウイルス、ムンプスウイルス、HIV、HTLVなど)について概説できる。	CG4-2-2
3. グラム陽性球菌(ブドウ球菌、レンサ球菌など)およびグラム陽性桿菌(破傷風菌、ガス壊疽菌、ボツリヌス菌、ジフテリア菌、炭疽菌、セレウス菌、デフィシル菌など)について概説できる。	CG4-2-3
4. グラム陰性球菌(淋菌、髄膜炎菌など)およびグラム陰性桿菌(大腸菌、赤痢菌、サルモネラ属菌、チフス菌、エルシニア属菌、クレブシエラ属菌、コレラ菌、百日咳菌、腸炎ピブリオ、緑膿菌、レジオネラ、インフルエンザ菌など)について概説できる。	CG4-2-4
5. グラム陰性らせん菌(ヘリコバクター・ピロリ、カンピロバクター・ジェジュニ/コリなど)およびスピロヘータについて概説できる。	CG4-2-5

6. 抗酸菌(結核菌、らい菌など)について概説できる。	
7. マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアについて概説できる。	
8. 真菌(アスペルギルス、クリプトコックス、カンジダ、ムーコル、白癬菌など)について概説できる。	
9. 原虫(マラリア原虫、トキソプラズマ、陰トリコモナス、クリプトスポリジウム、赤痢アメーバなど)、蠕虫(回虫、鞭虫、アニサキス、エキノコックスなど)について概説できる。	

D 衛生薬学

D1 健康

G10 人々の健康増進、公衆衛生の向上に貢献できるようになるために、現代社会における疾病とその予防、栄養と健康に関する基本的知識、技能、態度を修得する。

(1) 社会・集団と健康

G10 人々(集団)の健康と疾病の現状およびその影響要因を把握するために、保健統計と疫学に関する基本的事項を修得する。
--

【①健康と疾病の概念】

1. 健康と疾病の概念の変遷と、その理由を説明できる。	
-----------------------------	--

【②保健統計】

1. 集団の健康と疾病の現状およびその影響要因を把握する上での人口統計の意義を概説できる。	
2. 人口統計および保健統計に関する指標について説明できる。	
3. 人口動態(死因別死亡率など)の変遷について説明できる。	

【③疫学】

1. 疾病の予防における疫学の役割を説明できる。	
2. 疫学の三要因(病因、環境要因、宿主要因)について説明できる。	
3. 疫学の種類(記述疫学、分析疫学など)とその方法について説明できる。	
4. リスク要因の評価として、オッズ比、相対危険度、寄与危険度および罹患区間について説明し、計算できる。(知識・技能)	

(2) 疾病の予防

G10 健康を理解し疾病の予防に貢献できるようになるために、感染症、生活習慣病、職業病などについての現状とその予防に関する基本的事項を修得する。

【①疾病の予防とは】

1. 疾病の予防について、一次、二次、三次予防という言葉をを用いて説明できる。	
2. 健康増進政策(健康日本21など)について概説できる。	

【②感染症とその予防】

1. 現代における感染症(日和見感染、院内感染、新興感染症、再興感染症など)の特徴について説明できる。	
2. 感染症法における、感染症とその分類について説明できる。	
3. 代表的な感染症を列挙し、その予防対策について説明できる。	
4. 予防接種の意義と方法について説明できる。	

【③生活習慣病とその予防】

1. 生活習慣病の種類とその動向について説明できる。	
2. 生活習慣病の代表的なリスク要因を列挙し、その予防法について説明できる。	
3. 食生活や喫煙などの生活習慣と疾病の関わりについて討議する。(態度)	

【④母子保健】

1. 新生児マススクリーニングの意義について説明し、代表的な検査項目を列挙できる。	
2. 母子感染する代表的な疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。	

【⑤労働衛生】

1. 代表的な労働災害、職業性疾患について説明できる。	
2. 労働衛生管理について説明できる。	

(3) 栄養と健康

G10 食生活が健康に与える影響を科学的に理解するために、栄養と食品機能、食品衛生に関する基本的事項を修得する。

【①栄養】

1. 五大栄養素を列挙し、それぞれの役割について説明できる。	
2. 各栄養素の消化、吸収、代謝のプロセスを概説できる。	
3. 食品中の三大栄養素の栄養的な価値を説明できる。	
4. 五大栄養素以外の食品成分(食物繊維、抗酸化物質など)の機能について説明できる。	
5. エネルギー代謝に関わる基礎代謝量、呼吸商、推定エネルギー必要量の意味を説明できる。	

6. 日本人の食事摂取基準について説明できる。	D1-3-1-6
7. 栄養素の過不足による主な疾病を列挙し、説明できる。	D1-3-1-7
8. 疾病治療における栄養の重要性を説明できる。	D1-3-1-8

【②食品機能と食品衛生】

1. 炭水化物・タンパク質が変質する機構について説明できる。	D1-3-2-1
2. 油脂が変敗する機構を説明し、油脂の変質試験を実施できる。(知識・技能)	D1-3-2-2
3. 食品の変質を防ぐ方法(保存法)を説明できる。	D1-3-2-3
4. 食品成分由来の発がん性物質を列挙し、その生成機構を説明できる。	D1-3-2-4
5. 代表的な食品添加物を用途別に列挙し、それらの働きを説明できる。	D1-3-2-5
6. 特別用途食品と保健機能食品について説明できる。	D1-3-2-6
7. 食品衛生に関する法的規制について説明できる。	D1-3-2-7

【③食中毒と食品汚染】

1. 代表的な細菌性・ウイルス性食中毒を列挙し、それらの原因となる微生物の性質、病状、原因食品および予防方法について説明できる。	D1-3-3-1
2. 食中毒の原因となる代表的な自然毒を列挙し、その原因物質、作用機構、症状の特徴を説明できる。	D1-3-3-2
3. 化学物質(重金属、残留農薬など)やカビによる食品汚染の具体例を挙げ、ヒトの健康に及ぼす影響を説明できる。	D1-3-3-3

D2 環境

G10 人々の健康にとってより良い環境の維持と公衆衛生の向上に貢献できるようになるために、化学物質などのヒトへの影響、適正な使用、および地球生態系や生活環境と健康との関わりにおける基本的知識、技能、態度を修得する。

(1) 化学物質・放射線の生体への影響

G10 化学物質などの生体への有害作用を回避し、適正に使用できるようになるために、化学物質の毒性などに関する基本的事項を修得する。

【①化学物質の毒性】

1. 代表的な有害化学物質の吸収、分布、代謝、排泄の基本的なプロセスについて説明できる。	D2-1-1-1
2. 肝臓、腎臓、神経などに特異的に毒性を示す代表的な化学物質を列挙できる。	D2-1-1-2
3. 重金属、PCB、ダイオキシンなどの代表的な有害化学物質や農薬の急性毒性、慢性毒性の特徴について説明できる。	D2-1-1-3
4. 重金属や活性酸素による障害を防ぐための生体防御因子について具体例を挙げて説明できる。	D2-1-1-4
5. 薬物の乱用による健康への影響について説明し、討議する。(知識・態度)	D2-1-1-5
6. 代表的な中毒原因物質の解毒処置法を説明できる。	D2-1-1-6
7. 代表的な中毒原因物質(乱用薬物を含む)の試験法を列挙し、概説できる。	D2-1-1-7

【②化学物質の安全性評価と適正使用】

1. 個々の化学物質の使用目的に鑑み、適正使用とリスクコミュニケーションについて討議する。(態度)	D2-1-2-1
2. 化学物質の毒性を評価するための主な試験法を列挙し、概説できる。	D2-1-2-2
3. 急性試験の結果を評価するのに必要な量-反応関係、閾値、無作用量 (NOAEL) などについて概説できる。	D2-1-2-3
4. 化学物質の安全摂取量(1日許容摂取量など)について説明できる。	D2-1-2-4
5. 有害化学物質による人体影響を防ぐための法的規制(化審法、化管法など)を説明できる。	D2-1-2-5

【③化学物質による発がん】

1. 発がん性物質などの代謝的活性化の機構を列挙し、その反応機構を説明できる。	D2-1-3-1
2. 遺伝毒性試験(Ames試験など)の原理を説明できる。	D2-1-3-2
3. 発がんに至る過程(イニシエーション、プロモーションなど)について概説できる。	D2-1-3-3

【④放射線の生体への影響】

1. 電離放射線を列挙し、生体への影響を説明できる。	D2-1-4-1
2. 代表的な放射線核種(天然、人工)と生体との相互作用を説明できる。	D2-1-4-2
3. 電離放射線を防御する方法について概説できる。	D2-1-4-3
4. 非電離放射線(紫外線、赤外線など)を列挙し、生体への影響を説明できる。	D2-1-4-4

(2) 生活環境と健康

G10 地球生態系や生活環境を保全、維持できるようになるために、環境汚染物質などの成因、測定法、生体への影響、汚染防止、汚染除去などに関する基本的事項を修得する。

【①地球環境と生態系】

1. 地球規模の環境問題の成因、人に与える影響について説明できる。	D2-2-1-1
2. 生態系の構成員を列挙し、その特徴と相互関係を説明できる。	D2-2-1-2
3. 化学物質の環境内動態(生物濃縮など)について例を挙げて説明できる。	D2-2-1-3
4. 地球環境の保全に関する国際的な取り組みについて説明できる。	D2-2-1-4
5. 人が生態系の一員であることをふまえて環境問題を討議する。(態度)	D2-2-1-5

【②環境保全と法的規制】

1. 典型七公害とその現状、および四大公害について説明できる。	D2-2-2-1
2. 環境基本法の理念を説明できる。	D2-2-2-2

3. 環境汚染(大気汚染、水質汚濁、土壌汚染など)を防止するための法規制について説明できる。 B2223

【③水環境】

1. 原水の種類を挙げ、特徴を説明できる。	B2223
2. 水の浄化法、汚濁処理について説明できる。	B2223
3. 水道水の水質基準の主な項目を列挙し、測定できる。(知識・技能)	B2223
4. 下水処理および排水処理の主な方法について説明できる。	B2223
5. 水質汚濁の主な指標を列挙し、測定できる。(知識・技能)	B2223
6. 富栄養化の原因とそれによってもたらされる問題点を挙げ、対策を説明できる。	B2223

【④大気環境】

1. 主な大気汚染物質を列挙し、その推移と発生源、健康影響について説明できる。	B2221
2. 主な大気汚染物質を測定できる。(技能)	B2222
3. 大気汚染に影響する気象要因(逆転層など)を概説できる。	B2223

【⑤室内環境】

1. 室内環境を評価するための代表的な指標を列挙し、測定できる。(知識・技能)	B2223
2. 室内環境と健康との関係について説明できる。	B2223

【⑥廃棄物】

1. 廃棄物の種類と処理方法を列挙できる。	B2226
2. 廃棄物処理の問題点を列挙し、その対策を説明できる。	B2227
3. マニフェスト制度について説明できる。	B2228

E 医療薬学

E1 薬の作用と体の変化

G10 疾病と薬物の作用に関する知識を修得し、医薬品の作用する過程を理解する。

(1) 薬の作用

G10 医薬品を薬効に基づいて適正に使用できるようになるために、薬物の生体内における作用に関する基本的事項を修得する。

【①薬の作用】

1. 薬の用量と作用の関係を説明できる。	B1112
2. アゴニスト(作用薬、作動薬、刺激薬)とアンタゴニスト(拮抗薬、遮断薬)について説明できる。	B1112
3. 薬物が作用するしくみについて、受容体、酵素、イオンチャネルおよびトランスポーターを例に挙げて説明できる。	B1113
4. 代表的な受容体を列挙し、刺激あるいは遮断された場合の生理反応を説明できる。	B1114
5. 薬物の作用発現に関連する代表的な細胞内情報伝達系を列挙し、活性化あるいは抑制された場合の生理反応を説明できる。(C6(6)【②細胞内情報伝達】1~5参照)	B1118
6. 薬物の体内動態(吸収、分布、代謝、排泄)と薬効発現の関わりについて説明できる。(E4(1)【②吸収】、【③分布】、【④代謝】、【⑤排泄】参照)	B1116
7. 薬物の選択(禁忌を含む)、用法、用量の変更が必要となる要因(年齢、疾病、妊娠等)について具体例を挙げて説明できる。	B1117
8. 薬理作用に由来する代表的な薬物相互作用を列挙し、その機序を説明できる。(E4(1)【②吸収】5【④代謝】5【⑤排泄】5参照)	B1118
9. 薬物依存性、耐性について具体例を挙げて説明できる。	B1119

【②動物実験】

1. 動物実験における倫理について配慮できる。(態度)	B1121
2. 実験動物を適正に取り扱うことができる。(技能)	B1122
3. 実験動物での代表的な投与方法が実施できる。(技能)	B1123

【③日本薬局方】

1. 日本薬局方記載の生物学的定量法の特徴を説明できる。 B1123

(2) 身体の病的変化を知る

G10 身体の病的変化から疾患を推測できるようになるために、代表的な症候、病態・臨床検査に関する基本的事項を修得する。

【①症候】

1. 以下の症候・病態について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を挙げ、患者情報をもとに疾患を推測できる。 ショック、高血圧、低血圧、発熱、けいれん、意識障害・失神、チアノーゼ、脱水、全身倦怠感、肥満・やせ、黄疸、発疹、貧血、出血傾向、リンパ節腫脹、浮腫、心悸亢進・動悸、胸痛、胸痛、呼吸困難、咳・痰、血痰・咯血、めまい、頭痛、運動麻痺・不随意運動・筋力低下、腹痛、悪心・嘔吐、嚥下困難・障害、食欲不振、下痢・便秘、吐血・下血、腹部膨満(腹水を含む)、タンパク尿、血尿、尿量・排尿の異常、月経異常、関節痛・関節腫脹、腰部部痛、記憶障害、知覚異常(しびれを含む)・神経痛、視力障害、聴力障害	B1115
--	-------

【②病態・臨床検査】

1. 尿検査および糞便検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。	E1-2-2-1
2. 血液検査、血液凝固機能検査および脳脊髄液検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。	E1-2-2-2
3. 血液生化学検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。	E1-2-2-3
4. 免疫学的検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。	E1-2-2-4
5. 動脈血ガス分析の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。	E1-2-2-5
6. 代表的な生理機能検査(心機能、腎機能、肝機能、呼吸機能等)、病理組織検査および画像検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。	E1-2-2-6
7. 代表的な微生物検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。	E1-2-2-7
8. 代表的なフィジカルアセスメントの検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。	E1-2-2-8

(3) 薬物治療の位置づけ

G10 医療チームの一員として薬物治療に参画できるようになるために、代表的な疾患における治療と薬物療法に関する基本的事項を修得する。

1. 代表的な疾患における薬物治療、食事療法、その他の非薬物治療(外科手術など)の位置づけを説明できる。	E1-3-2-1
2. 代表的な疾患における薬物治療の役割について、病態、薬効薬理、薬物動態に基づいて討議する。(知識・技能)	E1-3-2-2

(4) 医薬品の安全性

G10 医療における医薬品のリスクを回避できるようになるために、有害事象(副作用、相互作用)、薬害、薬物乱用に関する基本的事項を修得する。

1. 薬物の主作用と副作用、毒性との関連について説明できる。	E1-4-1-1
2. 薬物の副作用と有害事象の違いについて説明できる。	E1-4-1-2
3. 以下の障害を呈する代表的な副作用疾患について、推定される原因医薬品、身体所見、検査所見および対処方法を説明できる。 血液障害・電解質異常、肝障害、腎障害、消化器障害、循環器障害、精神障害、皮膚障害、呼吸器障害、薬物アレルギー(ショックを含む)、代謝障害、筋障害	E1-4-1-3
4. 代表的な薬害、薬物乱用について、徳康リスクの観点から討議する。(態度)	E1-4-1-4

E2 薬理・病態・薬物治療

G10 患者情報に応じた薬の選択、用法・用量の設定および医薬品情報・安全性や治療ガイドラインを考慮した適正な薬物治療に参画できるようになるために、疾病にガイドラインを考慮した適正な薬物治療に参画できるようにするために、疾病に伴う症状などの患者情報を解析し、最適な治療を実施するための薬理、病態・薬物治療に関する基本的事項を修得する。

(1) 神経系の疾患と薬

G10 神経系・筋に作用する医薬品の薬理および疾患の病態・薬物治療に関する基本的知識を修得し、治療に必要な情報収集・解析および医薬品の適正使用に関する基本的事項を修得する。

【①自律神経系に作用する薬】

1. 交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。	E2-1-1-1
2. 副交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。	E2-1-1-2
3. 神経節に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。	E2-1-1-3
4. 自律神経系に作用する代表的な薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)	E2-1-1-4

【②体性神経系に作用する薬・筋の疾患の薬、病態、治療】

1. 知覚神経に作用する代表的な薬物(局所麻酔薬など)を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。	E2-1-2-1
2. 運動神経系に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。	E2-1-2-2
3. 知覚神経、運動神経に作用する代表的な薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)	E2-1-2-3
4. 以下の疾患について説明できる。 進行性筋ジストロフィー、Guillain-Barré(ギラン・バレー)症候群、重症筋無力症(重複)	E2-1-2-4

【③中枢神経系の疾患の薬、病態、治療】

1. 全身麻酔薬、催眠薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。	E2-1-3-1
2. 麻薬性鎮痛薬、非麻薬性鎮痛薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用(WHO 三段階除痛ラダーを含む)を説明できる。	E2-1-3-2
3. 中枢興奮薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。	E2-1-3-3
4. 統合失調症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2-1-3-4
5. うつ病、躁うつ病(双極性障害)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2-1-3-5
6. 不安神経症(パニック障害と全般性不安障害)、心身症、不眠症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2-1-3-6
7. てんかんについて、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2-1-3-7
8. 脳血管疾患(脳内出血、脳梗塞(脳血栓、脳塞栓、一過性脳虚血)、くも膜下出血)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2-1-3-8

9. Parkinson (パーキンソン) 病について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。	
10. 認知症 (Alzheimer (アルツハイマー) 型認知症、脳血管性認知症等) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。	
11. 片頭痛について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) について説明できる。	
12. 中枢神経系に作用する薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)	
13. 中枢神経系疾患の社会生活への影響および薬物治療の重要性について討議する。(態度)	
14. 以下の疾患について説明できる。 脳炎・髄膜炎 (重複)、多発性硬化症 (重複)、筋萎縮性側索硬化症、Narcolepsy (ナルコレプシー)、薬物依存症、アルコール依存症	

【④化学構造と薬効】

1. 神経系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効 (薬理・薬物動態) の関連を概説できる。	
--	--

(2) 免疫・炎症・アレルギーおよび骨・関節の疾患と薬

GI0 免疫・炎症・アレルギーおよび骨・関節に作用する医薬品の薬理および疾患の病態・薬物治療に関する基本的知識を修得し、治療に必要な情報収集・解析および医薬品の適正使用に関する基本的事項を修得する。

【①抗炎症薬】

1. 抗炎症薬 (ステロイド性および非ステロイド性) および解熱性鎮痛薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。	
2. 抗炎症薬の作用機序に基づいて変症について説明できる。	
3. 創傷治癒の過程について説明できる。	

【②免疫・炎症・アレルギー疾患の薬、病態、治療】

1. アレルギー治療薬 (抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬等) の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。	
2. 免疫抑制薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。	
3. 以下のアレルギー疾患について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、接触性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎、花粉症、消化管アレルギー、気管支喘息 (重複)	
4. 以下の薬物アレルギーについて、原因薬物、病態 (病態生理、症状等) および対処法を説明できる。 Stevens-Johnson (ステイブンス-ジョンソン) 症候群、中毒性表皮壊死症 (重複)、薬剤性過敏症候群、薬疹	
5. アナフィラキシーショックについて、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。	
6. 以下の疾患について、病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 尋常性乾癬、水痘症、光線過敏症、ペーチェット病	
7. 以下の臓器特異的自己免疫疾患について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 バセドウ病 (重複)、橋本病 (重複)、悪性貧血 (重複)、アジソン病、1型糖尿病 (重複)、重症筋無力症、多発性硬化症、特発性血小板減少性紫斑病、自己免疫性溶血性貧血 (重複)、シェーグレン症候群	
8. 以下の全身性自己免疫疾患について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 全身性エリテマトーデス、強皮症、多発筋炎/皮膚筋炎、関節リウマチ (重複)	
9. 臓器移植 (腎臓、肝臓、骨髄、臍帯血、輸血) について、拒絶反応および移植片対宿主病 (GVHD) の病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。	

【③骨・関節・カルシウム代謝疾患の薬、病態、治療】

1. 関節リウマチについて、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。	
2. 骨粗鬆症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。	
3. 変形性関節症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。	
4. カルシウム代謝の異常を伴う疾患 (副甲状腺機能亢進 (低下) 症、骨軟化症 (くる病を含む)、悪性腫瘍に伴う高カルシウム血症) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。	

【④化学構造と薬効】

1. 免疫・炎症・アレルギー疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効 (薬理・薬物動態) の関連を概説できる。	
---	--

(3) 循環器系・血液系・造血器系・泌尿器系・生殖器系の疾患と薬

GIO 循環器系・血液・造血器系・泌尿器系・生殖器系に作用する医薬品の薬理および疾患の病態・薬物治療に関する基本的知識を修得し、治療に必要な情報収集・解析および医薬品の適正使用に関する基本的事項を修得する。

【①循環器系疾患の薬、病態、治療】

1. 以下の不整脈および関連疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 不整脈の例示: 上室性期外収縮(PAC)、心室性期外収縮(PVC)、心房細動(Af)、発作性上室頻拍(PSVT)、WPW症候群、心房頻拍(VT)、心室細動(Vf)、房室ブロック、QT延長症候群	E2-3-1-1
2. 急性および慢性心不全について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2-3-1-2
3. 虚血性心疾患(狭心症、心筋梗塞)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2-3-1-3
4. 以下の高血圧症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 本態性高血圧症、二次性高血圧症(腎性高血圧症、腎血管性高血圧症を含む)	E2-3-1-4
5. 以下の疾患について概説できる。 閉塞性動脈硬化症(ASO)、心原性ショック、弁膜症、先天性心疾患	E2-3-1-5
6. 循環器系に作用する薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)	E2-3-1-6

【②血液・造血器系疾患の薬、病態、治療】

1. 止血薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。	E2-3-2-1
2. 抗血栓薬、抗凝固薬および血栓溶解薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。	E2-3-2-2
3. 以下の貧血について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血(悪性貧血等)、再生不良性貧血、自己免疫性溶血性貧血(ATHA)、腎性貧血、鉄芽球性貧血	E2-3-2-3
4. 播種性血管内凝固症候群(DIC)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2-3-2-4
5. 以下の疾患について治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 白血病、血栓性血小板減少性紫斑病(TTP)、白血球減少症、血栓性血小板減少症、白血病(重複)、悪性リンパ腫(重複)(E2-(7)【⑧悪性腫瘍の薬、病態、治療】参照)	E2-3-2-5

【③泌尿器系、生殖器系疾患の薬、病態、薬物治療】

1. 利尿薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。	E2-3-3-1
2. 急性および慢性腎不全について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2-3-3-2
3. ネフローゼ症候群について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2-3-3-3
4. 過活動膀胱および低活動膀胱について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2-3-3-4
5. 以下の泌尿器系疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 慢性腎臓病(CKD)、糸球体腎炎(重複)、糖尿病性腎症(重複)、薬剤性腎症(重複)、腎盂腎炎(重複)、膀胱炎(重複)、尿路感染症(重複)、尿路結石	E2-3-3-5
6. 以下の生殖系疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 前立腺肥大症、子宮内腺症、子宮筋腫	E2-3-3-6
7. 妊娠・分娩・産後に関連して用いられる薬物について、薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2-3-3-7
8. 以下の生殖系疾患について説明できる。 異常妊娠、異常分娩、不妊症	E2-3-3-8

【④化学構造と薬効】

1. 循環系・泌尿器系・生殖器系疾患の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。	E2-3-4-1
--	----------

(4) 呼吸器系・消化器系の疾患と薬

GIO 呼吸器系・消化器系に作用する医薬品の薬理および疾患の病態・薬物治療に関する基本的知識を修得し、治療に必要な情報収集・解析および医薬品の適正使用に関する基本的事項を修得する。

【①呼吸器系疾患の薬、病態、治療】

1. 気管支喘息について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2-4-1-1
2. 慢性閉塞性肺疾患および喫煙に関連する疾患(ニコチン依存症を含む)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2-4-1-2
3. 間質性肺炎について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2-4-1-3
4. 鎮咳薬、去痰薬、呼吸興奮薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。	E2-4-1-4

【②消化器系疾患の薬、病態、治療】

1. 以下の上部消化器疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 胃食道逆流症(逆流性食道炎を含む)、消化性潰瘍、胃炎	E2.4.2.1
2. 炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎、クローン病等)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2.4.2.2
3. 肝疾患(肝炎、肝硬変(ウイルス性を含む)、薬剤性肝障害)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2.4.2.3
4. 膵炎について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2.4.2.4
5. 胆道疾患(胆石症、胆道炎)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2.4.2.5
6. 機能性消化管障害(過敏性腸症候群を含む)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2.4.2.6
7. 便秘・下痢について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2.4.2.7
8. 悪心・嘔吐について、治療薬および関連薬物(催吐薬)の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2.4.2.8
9. 痔について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2.4.2.9

【③化学構造と薬効】

1. 呼吸器系・消化器系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。	E2.4.3.1
--	----------

(5) 代謝系・内分泌系の疾患と薬

G10 代謝系・内分泌系に作用する医薬品の薬理および疾患の病態・薬物治療に関する基本的知識を修得し、治療に必要な情報収集・解析および医薬品の適正使用に関する基本的事項を修得する。

【①代謝系疾患の薬、病態、治療】

1. 糖尿病とその合併症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2.5.1.1
2. 脂質異常症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2.5.1.2
3. 高尿酸血症・痛風について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2.5.1.3

【②内分泌系疾患の薬、病態、治療】

1. 性ホルモン関連薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。	E2.5.2.1
2. Basedow(バセドウ)病について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2.5.2.2
3. 甲状腺炎(慢性(橋本病)、亜急性)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2.5.2.3
4. 尿崩症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2.5.2.4
5. 以下の疾患について説明できる。 先端性大症、高プロラクチン血症、下垂体機能低下症、ADH 不適合分泌症候群(SIADH)、副甲状腺機能亢進症・低下症、Cushing(クッシング)症候群、アルドステロン症、褐色細胞腫、副腎不全(急性、慢性)、子宮内腺症(重複)、アジソン病(重複)	E2.5.2.5

【③化学構造と薬効】

1. 代謝系・内分布系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。	E2.5.3.1
---	----------

(6) 感覚器・皮膚の疾患と薬

G10 感覚器・皮膚の疾患と薬の薬理作用・機序および副作用に関する基本的知識を修得し、治療に必要な情報収集・解析および医薬品の適正使用に関する基本的事項を修得する。
--

【①眼疾患の薬、病態、治療】

1. 緑内障について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2.6.1.1
2. 白内障について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2.6.1.2
3. 加齢性黄斑変性について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2.6.1.3
4. 以下の疾患について概説できる。 結膜炎(重複)、網膜症、ぶどう膜炎、網膜色素変性症	E2.6.1.4

【②耳鼻咽喉疾患の薬、病態、治療】

1. めまい(動揺病、Meniere(メニエール)病等)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2.6.2.1
---	----------

2. 以下の疾患について概説できる。 アレルギー性鼻炎(重複)、花粉症(重複)、副鼻腔炎(重複)、中耳炎(重複)、口内炎・咽頭炎・扁桃炎(重複)、喉頭蓋炎	E2-6-2-2
--	----------

【③皮膚疾患の薬、病態、治療】

1. アトピー性皮膚炎について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。(E2 (2)【②免疫・炎症・アレルギーの薬、病態、治療】参照)	E2-6-3-1
2. 皮膚真菌症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。(E2 (7)【③真菌感染症の薬、病態、治療】参照)	E2-6-3-2
3. 痔瘻について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2-6-3-3
4. 以下の疾患について概説できる。 蕁麻疹(重複)、薬疹(重複)、水疱症(重複)、乾癬(重複)、接触性皮膚炎(重複)、光線過敏症(重複)	E2-6-3-4

【④化学構造と薬効】

1. 感覚器・皮膚の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。	E2-6-4-1
---	----------

(7) 病原微生物(感染症)・悪性新生物(がん)と薬

GI0 病原微生物(細菌、ウイルス、真菌、原虫)、および悪性新生物に作用する医薬品の薬理および疾患の病態・薬物治療に関する基本的知識を修得し、治療に必要な情報収集・解析および医薬品の適正使用に関する基本的事項を修得する。
--

【①抗菌薬】

1. 以下の抗菌薬の薬理(薬理作用、機序、抗菌スペクトル、主な副作用、相互作用、組織移行性)および臨床適用を説明できる。 β-ラクタム系、テトラサイクリン系、マクロライド系、アミノ配糖体(アミノグリコシド)系、キノロン系、グリコペプチド系、抗結核薬、サルファ剤(ST合剤を含む)、その他の抗菌薬	E2-7-1-1
2. 細菌感染症に関係する代表的な生物学的製剤(ワクチン等)を挙げ、その作用機序を説明できる。	E2-7-1-2

【②抗菌薬の耐性】

1. 主要な抗菌薬の耐性獲得機構および耐性菌出現への対応を説明できる。	E2-7-2-1
-------------------------------------	----------

【③細菌感染症の薬、病態、治療】

1. 以下の呼吸器感染症について、病態(病態生理、症状等)、感染経路と予防方法および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 上気道炎(かぜ症候群(大部分がウイルス感染症)を含む)、気管支炎、扁桃炎、細菌性肺炎、肺結核、レジオネラ感染症、百日咳、マイコプラズマ肺炎	E2-7-3-1
2. 以下の消化器感染症について、病態(病態生理、症状等)および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 急性虫垂炎、胆嚢炎、胆管炎、病原性大腸菌感染症、食中毒、ヘリコバクター・ピロリ感染症、赤痢、コレラ、腸チフス、パラチフス、偽膜性大腸炎	E2-7-3-2
3. 以下の感覚器感染症について、病態(病態生理、症状等)および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 副鼻腔炎、中耳炎、結膜炎	E2-7-3-3
4. 以下の尿路感染症について、病態(病態生理、症状等)および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎	E2-7-3-4
5. 以下の性感染症について、病態(病態生理、症状等)、予防方法および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 梅毒、淋病、クラミジア症等	E2-7-3-5
6. 膣炎、髄膜炎について、病態(病態生理、症状等)および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2-7-3-6
7. 以下の皮膚細菌感染症について、病態(病態生理、症状等)および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 伝染性膿痂疹、丹毒、癬、毛嚢炎、ハンセン病	E2-7-3-7
8. 感染性心内膜炎、胸膜炎について、病態(病態生理、症状等)および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2-7-3-8
9. 以下の薬剤耐性菌による院内感染について、感染経路と予防方法、病態(病態生理、症状等)および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 MRSA、VRE、セラチア、緑膿菌等	E2-7-3-9
10. 以下の全身性細菌感染症について、病態(病態生理、症状等)、感染経路と予防方法および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 ジフテリア、劇症型A群β溶血性連鎖球菌感染症、新生児B群連鎖球菌感染症、破傷風、敗血症	E2-7-3-10

【④ウイルス感染症およびプリオン病の薬、病態、治療】

1. ヘルペスウイルス感染症(単純ヘルペス、水痘・帯状疱疹)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、予防方法および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2-7-4-1
2. サイトメガロウイルス感染症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2-7-4-2
3. インフルエンザについて、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、感染経路と予防方法および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2-7-4-3
4. ウイルス性肝炎(HAV、HBV、HCV)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、感染経路と予防方法および病態(病態生理、急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、肝細胞がん、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。(重複)	E2-7-4-4
5. 後天性免疫不全症候群(AIDS)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、感染経路と予防方法および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2-7-4-5

6. 以下のウイルス感染症(プリオン病を含む)について、感染経路と予防方法および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 伝染性紅斑(リンゴ病)、手足口病、伝染性単核球症、突発性発疹、咽頭結膜熱、ウイルス性下痢症、麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、風邪症候群、Creutzfeldt-Jakob(クロイツフェルトヤコブ)病	E27-8-11
--	----------

【⑥真菌感染症の薬、病態、治療】

1. 抗真菌薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。	E27-8-12
2. 以下の真菌感染症について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 皮膚真菌症、カンジダ症、ニューモシスチス肺炎、肺アスペルギルス症、クリプトコックス症	E27-8-12

【⑥原虫・寄生虫感染症の薬、病態、治療】

1. 以下の原虫感染症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 マラリア、トキソプラズマ症、トリコモナス症、アメーバ赤痢	E27-8-11
2. 以下の寄生虫感染症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 回虫症、蟯虫症、アニサキス症	E27-8-12

【⑦悪性腫瘍】

1. 腫瘍の定義(良性腫瘍と悪性腫瘍の違い)を説明できる。	E27-8-1
2. 悪性腫瘍について、以下の項目を概説できる。 組織型分類および病期分類、悪性腫瘍の検査(細胞診、組織診、画像診断、腫瘍マーカー(腫瘍関連の変異遺伝子、遺伝子産物を含む))、悪性腫瘍の疫学(がん罹患の現状およびがん死亡の現状)、悪性腫瘍のリスクおよび予防要因	E27-8-2
3. 悪性腫瘍の治療における薬物治療の位置づけを概説できる。	E27-8-3

【⑧悪性腫瘍の薬、病態、治療】

1. 以下の抗悪性腫瘍薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用、相互作用、組織移行性)および臨床適用を説明できる。 アルキル化薬、代謝拮抗薬、抗腫瘍抗生物質、微小管阻害薬、トポイソメラーゼ阻害薬、抗腫瘍ホルモン関連薬、白金製剤、分子標的治療薬、その他の抗悪性腫瘍薬	E27-8-1
2. 抗悪性腫瘍薬に対する耐性獲得機構を説明できる。	E27-8-2
3. 抗悪性腫瘍薬の主な副作用(下痢、悪心・嘔吐、白血球減少、皮膚障害(手足症候群を含む)、血小板減少等)の軽減のための対処法を説明できる。	E27-8-3
4. 代表的ながん化学療法レジメン(FOLFOX等)について、構成薬物およびその役割、副作用、対象疾患を概説できる。	E27-8-4
5. 以下の白血病について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 急性(慢性)骨髄性白血病、急性(慢性)リンパ性白血病、成人T細胞白血病(ATL)	E27-8-5
6. 悪性リンパ腫および多発性骨髄腫について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E27-8-6
7. 骨肉腫について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E27-8-7
8. 以下の消化器系の悪性腫瘍について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 胃癌、食道癌、肝癌、大腸癌、胆管・胆管癌、肺癌	E27-8-8
9. 前癌について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E27-8-8
10. 以下の頭頸部および感覚器の悪性腫瘍について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 脳腫瘍、鼻咽癌細胞腫、喉頭癌、鼻咽癌、鼻癌・副鼻腔癌、口腔癌の悪性腫瘍	E27-8-10
11. 以下の生殖系の悪性腫瘍について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 前立腺癌、子宮癌、卵巣癌	E27-8-11
12. 腎・尿路系の悪性腫瘍(腎癌、膀胱癌)について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E27-8-12
13. 乳房について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E27-8-13

【⑨がん終末期医療と緩和ケア】

1. がん終末期の病態(病態生理、症状等)と治療を説明できる。	E27-9-1
2. がん性疼痛の病態(病態生理、症状等)と薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E27-9-2

【⑩化学構造と薬効】

1. 病原微生物・悪性新生物が関わる疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。	E27-10-1
---	----------

(8) バイオ・細胞医薬品とゲノム情報

G10 医薬品としてのタンパク質、遺伝子、細胞を適正に利用するために、それらを用いる治療に関する基本的知識を修得し、倫理的態度を身につける。併せて、ゲノム情報の利用に関する基本的事項を修得する。

【①組織代替医薬品】

1. 組織代替医薬品の特色と有用性を説明できる。	E27-8-12
2. 代表的な組織代替医薬品を列挙できる。	E27-8-12
3. 組織代替医薬品の安全性について概説できる。	E27-8-13

【②遺伝子治療】

1. 遺伝子治療の原理、方法と手順、現状および倫理的問題点を概説できる。(知識・態度)	E2-9B2-10
---	-----------

【③細胞、組織を利用した移植医療】

1. 移植医療の原理、方法と手順、現状およびゲノム情報の取り扱いに関する倫理的問題点を概説できる。(知識・態度)	E2-9-3-1
2. 摘出および培養組織を用いた移植医療について説明できる。	E2-9-3-2
3. 臍帯血、末梢血および骨髄に由来する血液幹細胞を用いた移植医療について説明できる。	E2-9-3-3
4. 胚性幹細胞 (ES 細胞)、人工多能性幹細胞 (iPS 細胞) を用いた細胞移植医療について概説できる。	E2-9-3-4

(9) 要指導医薬品・一般用医薬品とセルフメディケーション

G10 適切な薬物治療および地域の保健・医療に貢献できるようになるために、要指導医薬品・一般用医薬品およびセルフメディケーションに関する基本的知識を修得する。併せて、薬物治療実施に必要な情報を自ら収集するための基本的事項を修得する。
--

1. 地域における疾病予防、健康維持増進、セルフメディケーションのために薬剤師が果たす役割を概説できる。	E2-9-4-1
2. 要指導医薬品および一般用医薬品 (リスクの程度に応じた区分 (第一類、第二類、第三類) も含む) について説明し、各分類に含まれる代表的な製剤を列挙できる。	E2-9-4-2
3. 代表的な症候について、関連する頻度の高い疾患、見逃してはいけない疾患を列挙できる。	E2-9-4-3
4. 要指導医薬品・一般用医薬品の選択、受診勧奨の要否を判断するために必要な患者情報を収集できる。(技能)	E2-9-4-4
5. 以下の疾患・症候に対するセルフメディケーションに用いる要指導医薬品・一般用医薬品等に含まれる成分・作用・副作用を列挙できる。 発熱、痛み、かゆみ、消化器症状、呼吸器症状、アレルギー、細菌・真菌感染症、生活習慣病等	E2-9-4-5
6. 主な養生法 (運動・食事療法、サプリメント、保健機能食品を含む) とその健康の保持・促進における意義を説明できる。	E2-9-4-6
7. 要指導医薬品・一般用医薬品と医療用医薬品、サプリメント、保健機能食品等との代表的な相互作用を説明できる。	E2-9-4-7
8. 要指導医薬品・一般用医薬品等による治療効果と副作用を判定するための情報を収集し評価できる。(技能)	E2-9-4-8

(10) 医療の中の漢方薬

G10 漢方の考え方、疾患概念、代表的な漢方薬の適応、副作用や注意事項などに関する基本的事項を修得する。
--

【①漢方薬の基礎】

1. 漢方の特徴について概説できる。	E2-10-1-1
2. 以下の漢方の基本用語を説明できる。 陰陽、虚実、寒熱、表裏、気血水、証	E2-10-1-2
3. 配合生薬の組み合わせによる漢方薬の体系的な分類が説明できる。	E2-10-1-3
4. 漢方薬と西洋薬、民間薬、サプリメント、保健機能食品などとの相違について説明できる。	E2-10-1-4

【②漢方薬の応用】

1. 漢方医学における診断法、体質や病態の捉え方、治療法について概説できる。	E2-10-2-1
2. 日本薬局方に収載される漢方薬の適応となる証、症状や疾患について例示して説明できる。	E2-10-2-2
3. 現代医療における漢方薬の役割について説明できる。	E2-10-2-3

【③漢方薬の注意点】

1. 漢方薬の副作用と使用上の注意点を例示して説明できる。	E2-10-3-1
-------------------------------	-----------

(11) 薬物治療の最適化

G10 最適な薬物治療の実現に貢献できるようになるために、治療に必要な情報収集・解析および医薬品の適正使用に関する基本的事項を修得する。
--

【①総合演習】

1. 代表的な疾患の症例について、患者情報および医薬品情報などの情報に基づいて薬物治療の最適化を討議する。(知識・態度)	E2-11-1-1
2. 過剰量の医薬品による副作用への対応 (解毒薬を含む) を討議する。(知識・態度)	E2-11-1-2
3. 長期療養に付随する合併症を列挙し、その薬物治療について討議する。(知識・態度)	E2-11-1-3

E3 薬物治療に役立つ情報

G10 薬物治療に必要な情報を医療チームおよび患者に提供したり、処方設計を提案したり、臨床上的問題解決ができるようになるために、医薬品情報ならびに患者情報の収集・評価・加工、臨床研究デザイン・解析などに関する基本的知識を修得し、それらを活用するための基本的事項を身につける。

(1) 医薬品情報

G10 医薬品情報の収集・評価・加工・提供・管理・評価、EBM の実践、生物統計ならびに臨床研究デザイン・解析に関する基本的事項を修得する。
--

【①情報】

1. 医薬品を使用したり取り扱う上で、必須の医薬品情報を列挙できる。	E3-1-1
------------------------------------	--------

2. 医薬品情報に関わっている職種を列挙し、その役割について概説できる。	E3-1-12
3. 医薬品（後発医薬品等を含む）の開発過程で行われる試験（非臨床試験、臨床試験、安定性試験等）と得られる医薬品情報について概説できる。	E3-1-13
4. 医薬品の市販後に行われる調査・試験と得られる医薬品情報について概説できる。	E3-1-14
5. 医薬品情報に関係する代表的な法律・制度（「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」、GCP、GVP、GPSP、RMP など）とレギュラトリーサイエンスについて概説できる。	E3-1-15

【②情報源】

1. 医薬品情報源の一次資料、二次資料、三次資料の分類について概説できる。	E3-2-1
2. 医薬品情報源として代表的な二次資料、三次資料を列挙し、それらの特徴について説明できる。	E3-2-2
3. 厚生労働省、医薬品医療機器総合機構、製薬企業などの発行する資料を列挙し、概説できる。	E3-2-3
4. 医薬品添付文書（医療用、一般用）の法的位置づけについて説明できる。	E3-2-4
5. 医薬品添付文書（医療用、一般用）の記載項目（警告、禁忌、効能・効果、用法・用量、使用上の注意など）を列挙し、それらの意味や記載すべき内容について説明できる。	E3-2-5
6. 医薬品インタビュフォームの位置づけと医薬品添付文書との違いについて説明できる。	E3-2-6

【③収集・評価・加工・提供・管理】

1. 目的（効能効果、副作用、相互作用、薬剤鑑別、妊婦への投与、中毒など）に合った適切な情報源を選択し、必要な情報を検索、収集できる。（技能）	E3-3-1
2. MEDLINE などの医学・薬学文献データベース検索におけるキーワード、シソーラスの重要性を理解し、検索できる。（知識・技能）	E3-3-2
3. 医薬品情報の信頼性、科学的妥当性などを評価する際に必要な基本的項目を列挙できる。	E3-3-3
4. 臨床試験などの原著論文および三次資料について医薬品情報の質を評価できる。（技能）	E3-3-4
5. 医薬品情報をソースに合わせて加工・提供し管理する際の方法と注意点（知的所有権、守秘義務など）について説明できる。	E3-3-5

【④EBM (Evidence-based Medicine)】

1. EBM の基本概念と実践のプロセスについて説明できる。	E3-4-1
2. 代表的な臨床研究法（ランダム化比較試験、コホート研究、ケースコントロール研究など）の長所と短所を挙げ、それらのエビデンスレベルについて概説できる。	E3-4-2
3. 臨床研究論文の批判的吟味に必要な基本的項目を列挙し、内的妥当性（研究結果の正確度や再現性）と外的妥当性（研究結果の一般化の可能性）について概説できる。（E3-1）【③収集・評価・加工・提供・管理】参照）	E3-4-3
4. メタアナリシスの概念を理解し、結果を説明できる。	E3-4-4

【⑤生物統計】

1. 基本的な統計量（平均値、中央値、標準偏差、標準誤差、信頼区間など）を説明できる。	E3-5-1
2. 帰無仮説の概念および検定と推定の違いを説明できる。	E3-5-2
3. 代表的な分布（正規分布、t分布、二項分布、ポアソン分布、 χ^2 分布、F分布）について概説できる。	E3-5-3
4. 主なパラメトリック検定とノンパラメトリック検定を列挙し、それらの使い分けを説明できる。	E3-5-4
5. 二群間の差の検定（t検定、 χ^2 検定など）を実施できる。（技能）	E3-5-5
6. 主な回帰分析（直線回帰、ロジスティック回帰など）と相関係数の検定について概説できる。	E3-5-6
7. 基本的な生存時間解析法（ Kaplan-Meier 曲線など）について概説できる。	E3-5-7

【⑥臨床研究デザインと解析】

1. 臨床研究（治験を含む）の代表的な手法（介入研究、観察研究）を列挙し、それらの特徴を概説できる。	E3-6-1
2. 臨床研究におけるバイアス・交絡について概説できる。	E3-6-2
3. 観察研究での主な疫学研究デザイン（症例報告、症例集積、コホート研究、ケースコントロール研究、ネステッドケースコントロール研究、ケースコホート研究など）について概説できる。	E3-6-3
4. 副作用の因果関係を評価するための方法（副作用判定アルゴリズムなど）について概説できる。	E3-6-4
5. 優越性試験と非劣性試験の違いについて説明できる。	E3-6-5
6. 介入研究の計画上の技法（症例選定法、ランダム化、盲検化など）について概説できる。	E3-6-6
7. 統計解析時の注意点について概説できる。	E3-6-7
8. 介入研究の効果指標（真のエンドポイントと代用のエンドポイント、主要エンドポイントと副次的エンドポイント）の違いを、例を挙げて説明できる。	E3-6-8
9. 臨床研究の結果（有効性、安全性）の主なパラメータ（相対リスク、相対リスク減少、絶対リスク、絶対リスク減少、治療必要数、オッズ比、発生率、発生割合）を説明し、計算できる。（知識・技能）	E3-6-9

【⑦医薬品の比較・評価】

1. 病院や薬局において医薬品を採用・選択する際に検討すべき項目を列挙し、その意義を説明できる。	E3-7-1
2. 医薬品情報にもとづいて、代表的な同種同効薬の有効性及び安全性について比較・評価できる。（技能）	E3-7-2
3. 医薬品情報にもとづいて、先発医薬品と後発医薬品の品質、安全性、経済性などについて、比較・評価できる。（技能）	E3-7-3

(2) 患者情報

GI0 患者からの情報の収集、評価に必要な基本的事項を修得する。

【①情報と情報源】

1. 薬物治療に必要な患者基本情報を列挙できる。	E3-2-1
2. 患者情報源の種類を列挙し、それぞれの違いを説明できる。	E3-2-2

【②収集・評価・管理】

1. 問診志向型システム (POS) を説明できる。	E3-2-3
----------------------------	--------

2. SOAP形式などの患者情報の記録方法について説明できる。	E3322
3. 医薬品の効果や副作用を評価するために必要な患者情報について概説できる。	E3323
4. 患者情報の取扱いにおける守秘義務と管理の重要性を説明できる。(A (2) (3)患者の権利 参照)	E3324

(3) 個別化医療

G10 薬物治療の個別化に関する基本的事項を修得する。

【①遺伝的素因】

1. 薬物の主作用および副作用に影響する代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。	E3311
2. 薬物動態に影響する代表的な遺伝的素因(薬物代謝酵素・トランスポーターの遺伝子変異など)について、例を挙げて説明できる。	E3312
3. 遺伝的素因を考慮した薬物治療について、例を挙げて説明できる。	E3313

【②年齢的要因】

1. 低出生体重児、新生児、乳児、幼児、小児における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。	E3321
2. 高齢者における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。	E3322

【③臓器機能低下】

1. 腎疾患・腎機能低下時における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。	E3331
2. 肝疾患・肝機能低下時における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。	E3332
3. 心臓疾患を伴った患者における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。	E3333

【④その他の要因】

1. 薬物の効果に影響する生理的素因(性差、閉経、日内変動など)を列挙できる。	E3341
2. 妊娠・授乳期における薬物動態と、妊娠・授乳期の薬物治療で注意すべき点を説明できる。	E3342
3. 栄養状態の異なる患者(肥満、低アルブミン血症、腹水など)における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。	E3343

【⑤個別化医療の計画・立案】

1. 個別の患者情報(遺伝的素因、年齢的要因、臓器機能など)と医薬品情報をもとに、薬物治療を計画・立案できる。(技能)	E3351
2. コンパニオン診断にもとづく薬物治療について、例を挙げて説明できる。	E3352

E4 薬の生体内運命

G10 薬物の生体内運命を理解し、個々の患者の投与設計ができるようになるために、薬物の体内動態およびその解析に関する基本的知識を修得し、それらに応用する基本的技能を身につける。
--

(1) 薬物の体内動態

G10 吸収、分布、代謝、排泄の各過程および薬物動態学的相互作用に関する基本的事項を修得する
--

【①生体膜透過】

1. 薬物の生体膜透過における単純拡散、促進拡散および能動輸送の特徴を説明できる。	E4111
2. 薬物の生体膜透過に関わるトランスポーターの例を挙げ、その特徴と薬物動態における役割を説明できる。	E4112

【②吸収】

1. 経口投与された薬物の吸収について説明できる。	E4121
2. 非経口的に投与される薬物の吸収について説明できる。	E4122
3. 薬物の吸収に影響する因子(薬物の物性、生理学的要因など)を列挙し、説明できる。	E4123
4. 薬物の吸収過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。	E4124
5. 初回通過効果について説明できる。	E4125

【③分布】

1. 薬物が結合する代表的な血漿タンパク質を挙げ、タンパク結合の強い薬物を列挙できる。	E4131
2. 薬物の組織移行性(分布容積)と血漿タンパク結合ならびに組織結合との関係を、定量的に説明できる。	E4132
3. 薬物のタンパク結合および結合阻害の測定・解析方法を説明できる。	E4133
4. 血液-組織間門の構造・機能と、薬物の脳や胎児等への移行について説明できる。	E4134
5. 薬物のリンパおよび乳汁中への移行について説明できる。	E4135
6. 薬物の分布過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。	E4136

【④代謝】

1. 代表的な薬物代謝酵素を列挙し、その代謝反応が起こる組織ならびに細胞内小器官、反応様式について説明できる。	E4141
2. 薬物代謝の第Ⅰ相反応(酸化・還元・加水分解)、第Ⅱ相反応(抱合)について、例を挙げて説明できる。	E4142
3. 代表的な薬物代謝酵素(分子種)により代謝される薬物を列挙できる。	E4143
4. フロドリックと活性代謝物について、例を挙げて説明できる。	E4144
5. 薬物代謝酵素の阻害および誘導のメカニズムと、それらに関連して起こる相互作用について、例を挙げ、説明できる。	E4145

【⑤排泄】

1. 薬物の尿中排泄機構について説明できる。	E4-2-1-1
2. 腎クリアランスと、糸球体ろ過、分泌、再吸収の関係を定量的に説明できる。	E4-2-1-2
3. 代表的な腎排泄型薬物を列挙できる。	E4-2-1-3
4. 薬物の胆汁中排泄と腸肝循環について説明できる。	E4-2-1-4
5. 薬物の排泄過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。	E4-2-1-5

(2) 薬物動態の解析

G10 薬物動態の理論的解析ならびに投与設計に関する基本的事項を修得する。

【①薬物速度論】

1. 線形コンパートメントモデルと、関連する薬物動態パラメータ(全身クリアランス、分布容積、消失半減期、生物学的利用能など)の概念を説明できる。	E4-2-1-1
2. 線形1-コンパートメントモデルに基づいた解析ができる(急速静注・経口投与[単回および反復投与]、定速静注)。(知識、技能)	E4-2-1-2
3. 体内動態が非線形性を示す薬物の例を挙げ、非線形モデルに基づいた解析ができる。(知識、技能)	E4-2-1-3
4. モーメント解析の意味と、関連するパラメータの計算法について説明できる。	E4-2-1-4
5. 組織クリアランス(肝、腎)および固有クリアランスの意味と、それらの関係について、数式を使って説明できる。	E4-2-1-5
6. 薬物動態学-薬力学解析(PK-PD解析)について概説できる。	E4-2-1-6

【②TDM (Therapeutic Drug Monitoring) と投与設計】

1. 治療薬物モニタリング(TDM)の意義を説明し、TDMが有効な薬物を列挙できる。	E4-2-2-1
2. TDMを行う際の採血ポイント、試料の取り扱い、測定法について説明できる。	E4-2-2-2
3. 薬物動態パラメータを用いて患者ごとの薬物投与設計ができる。(知識、技能)	E4-2-2-3
4. ポピュレーションファーマコキネティクス概念と応用について概説できる。	E4-2-2-4

E5 製剤化のサイエンス

G10 製剤化の意義と製剤の性質を理解するために、薬物と製剤材料の物性、製剤設計、および薬物送達システムに関する基本的事項を修得する。

(1) 製剤の性質

G10 薬物と製剤材料の物性に関する基本的事項を修得する。

【①固形材料】

1. 粉体の性質について説明できる。	E5-1-1-1
2. 結晶(安形および準安形)や非晶質、無水物や水合物の性質について説明できる。	E5-1-1-2
3. 固形材料の溶解現象(溶解度、溶解平衡など)や溶解した物質の拡散と溶解速度について説明できる。(C2 (2)【①酸・塩基平衡】1及び【②各種の化学平衡】2参照)	E5-1-1-3
4. 固形材料の溶解に影響を及ぼす因子(pHや温度など)について説明できる。	E5-1-1-4
5. 固形材料の溶解度や溶解速度を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。	E5-1-1-5

【②半固形・液状材料】

1. 流動と変形(レオロジー)について説明できる。	E5-1-2-1
2. 高分子の構造と高分子溶液の性質(粘度など)について説明できる。	E5-1-2-2

【③分散系材料】

1. 界面の性質(界面張力、分配平衡、吸着など)や代表的な界面活性剤の種類と性質について説明できる。(C2 (2)【②各種の化学平衡】4参照)	E5-1-3-1
2. 代表的な分散系(分子集合体、コロイド、乳剤、懸濁剤など)を列挙し、その性質について説明できる。	E5-1-3-2
3. 分散した粒子の安定性と分離現象(沈降など)について説明できる。	E5-1-3-3
4. 分散安定性を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。	E5-1-3-4

【④薬物及び製剤材料の物性】

1. 製剤分野で汎用される高分子の構造を理解し、その物性について説明できる。	E5-1-4-1
2. 薬物の安定性(反応速度、複合反応など)や安定性に影響を及ぼす因子(pH、温度など)について説明できる。(C1 (3)【①反応速度】1~7参照)	E5-1-4-2
3. 薬物の安定性を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。	E5-1-4-3

(2) 製剤設計

G10 製剤の種類、製造、品質などに関する基本的事項を修得する。

【①代表的な製剤】

1. 製剤化の概要と意義について説明できる。	E5-2-1-1
2. 経口投与する製剤の種類とその特性について説明できる。	E5-2-1-2
3. 粘膜に適用する製剤(点眼剤、吸入剤など)の種類とその特性について説明できる。	E5-2-1-3
4. 注射により投与する製剤の種類とその特性について説明できる。	E5-2-1-4
5. 皮膚に適用する製剤の種類とその特性について説明できる。	E5-2-1-5
6. その他の製剤(生薬関連製剤、透析に用いる製剤など)の種類と特性について説明できる。	E5-2-1-6

【②製剤化と製剤試験法】

1. 代表的な医薬品添加物の種類・用途・性質について説明できる。	E5-3-2-1
2. 製剤化の単位操作、汎用される製剤機械および代表的な製剤の具体的な製造工程について説明できる。	E5-3-2-2
3. 汎用される容器、包装の材質や特徴について説明できる。	E5-3-2-3
4. 製剤に関連する試験法を列挙し、説明できる。	E5-3-2-4

【③生物学的同等性】

1. 製剤の特性（適用部位、製剤からの薬物の放出性など）を理解した上で、生物学的同等性について説明できる。	E5-3-3
---	--------

(3) DDS (Drug Delivery System：薬物送達システム)

GIO 薬物の投与形態や薬物体内動態の制御法などを工夫したDDSに関する基本的事項を修得する。

【①DDSの必要性】

1. DDSの概念と有用性について説明できる。	E5-3-3-1
2. 代表的なDDS技術を列挙し、説明できる。(プロドラッグについては、E4(1)【④代謝】4も参照)	E5-3-3-2

【②コントロールリリース(放出制御)】

1. コントロールリリースの概要と意義について説明できる。	E5-3-3-3
2. 投与部位ごとに、代表的なコントロールリリース技術を列挙し、その特性について説明できる。	E5-3-3-4
3. コントロールリリース技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。	E5-3-3-5

【③ターゲティング(標的指向化)】

1. ターゲティングの概要と意義について説明できる。	E5-3-3-6
2. 投与部位ごとに、代表的なターゲティング技術を列挙し、その特性について説明できる。	E5-3-3-7
3. ターゲティング技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。	E5-3-3-8

【④吸収改善】

1. 吸収改善の概要と意義について説明できる。	E5-3-3-9
2. 投与部位ごとに、代表的な吸収改善技術を列挙し、その特性について説明できる。	E5-3-3-10
3. 吸収改善技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。	E5-3-3-11

F 薬学臨床

GIO 患者・生活者本位の視点に立ち、薬剤師として病院や薬局などの臨床現場で活躍するために、薬物療法の実践と、チーム医療・地域保健医療への参画に必要な基本的事項を修得する。
--

※F薬学臨床における代表的な疾患は、がん、高血圧症、糖尿病、心疾患、脳血管障害、精神神経疾患、免疫・アレルギー疾患、感染症とする。病院・薬局の実務実習においては、これら疾患を持つ患者の薬物治療に継続的に広く関わること。

前)：病院・薬局での実務実習履修前に修得すべき事項

(1) 薬学臨床の基礎

GIO 医療の担い手として求められる活動を適切な態度で実践するために、薬剤師の活躍する臨床現場に必要な心構えと薬学的管理の基本的な流れを把握する。

【①早期臨床体験】※原則として2年次修了までに学習する事項

1. 患者・生活者の視点に立って、様々な薬剤師の業務を見聞し、その体験から薬剤師業務の重要性について討議する。(知識・態度)	E1-1-1
2. 地域の保健・福祉を見聞した具体的な体験に基づきその重要性や課題を討議する。(知識・態度)	E1-1-2
3. 一次救命処置(心肺蘇生、外傷対応等)を説明し、シミュレータを用いて実施できる。(知識・技能)	E1-1-3

【②臨床における心構え】【A(1)、(2)参照】

1. 前) 医療の担い手が守るべき倫理規範や法令について討議する。(態度)	E1-2-1
2. 前) 患者・生活者中心の医療の視点から患者・生活者の個人情報や自己決定権に配慮すべき個々の対応ができる。(態度)	E1-2-2
3. 前) 患者・生活者の健康の回復と維持、生活の質の向上に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を討議する。(態度)	E1-2-3
4. 医療の担い手が守るべき倫理規範を遵守し、ふさわしい態度で行動する。(態度)	E1-2-4
5. 患者・生活者の基本的権利、自己決定権について配慮する。(態度)	E1-2-5
6. 薬学的管理を実施する際に、インフォームド・コンセントを得ることができる。(態度)	E1-2-6
7. 職務上知り得た情報について守秘義務を遵守する。(態度)	E1-2-7

【③臨床実習の基礎】

1. 前) 病院・薬局における薬剤師業務全体の流れを概説できる。	E1-3-1
2. 前) 病院・薬局で薬剤師が実践する薬学的管理の重要性について説明できる。	E1-3-2
3. 前) 病院薬剤師部門を構成する各セクションの業務を列挙し、その内容と関連を概説できる。	E1-3-3
4. 前) 病院に所属する医療スタッフの職種名を列挙し、その業務内容を相互に関連づけて説明できる。	E1-3-4

5. 前) 薬剤師の関わる社会保障制度(医療、福祉、介護)の概略を説明できる。[B(3)①参照]	2-3-35
6. 病院における薬剤部門の位置づけと業務の流れについて他部門と関連付けて説明できる。	2-3-36
7. 代表的な疾患の入院治療における適切な薬学的管理について説明できる。	2-3-37
8. 入院から退院に至るまで入院患者の医療に継続して関わることができる。(態度)	2-3-38
9. 急性期医療(救急医療・集中治療・外傷治療等)や周術期医療における適切な薬学的管理について説明できる。	2-3-39
10. 周産期医療や小児医療における適切な薬学的管理について説明できる。	2-3-40
11. 終末期医療や緩和ケアにおける適切な薬学的管理について説明できる。	2-3-41
12. 外来化学療法における適切な薬学的管理について説明できる。	2-3-42
13. 保険評価要件を薬剤師業務と関連付けて概説することができる。	2-3-43
14. 薬局における薬剤師業務の流れを相互に関連付けて説明できる。	2-3-44
15. 薬局者の調剤に対して、処方せんの受付から薬剤の交付に至るまで継続して関わることができる。(知識・態度)	2-3-45

(2) 処方せんに基づく調剤

G10 処方せんに基づいた調剤業務を安全で適正に遂行するために、医薬品の供給と管理を含む基本的調剤業務を修得する。

【①法令・規則等の理解と遵守】[B(2)、(3)参照]

1. 前) 調剤業務に関わる事項(処方せん、調剤録、疑義照会等)の意義や取り扱いを法的根拠に基づいて説明できる。	2-2-1
2. 調剤業務に関わる法的文書(処方せん、調剤録等)の適切な記載と保存・管理ができる。(知識・技能)	2-2-2
3. 法的根拠に基づき、一連の調剤業務を適正に実施する。(技能・態度)	2-2-3
4. 保険薬局として必要な条件や設備等を具体的に関連付けて説明できる。	2-2-4

【②処方せんと疑義照会】

1. 前) 代表的な疾患に使用される医薬品について効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用を列挙できる。	2-2-5
2. 前) 処方オーダーリングシステムおよび電子カルテについて概説できる。	2-2-6
3. 前) 処方せんの様式と必要記載項目、記載方法について説明できる。	2-2-7
4. 前) 処方せんの監査の意義、その必要性と注意点について説明できる。	2-2-8
5. 前) 処方せんを監査し、不適切な処方せんについて、その理由が説明できる。	2-2-9
6. 前) 処方せん等に基づき疑義照会ができる。(技能・態度)	2-2-10
7. 処方せんの記載事項(医薬品名、分量、用法・用量等)が適切であるか確認できる。(知識・技能)	2-2-11
8. 注射薬処方せんの記載事項(医薬品名、分量、投与速度、投与ルート等)が適切であるか確認できる。(知識・技能)	2-2-12
9. 処方せんの正しい記載方法を例示できる。(技能)	2-2-13
10. 薬歴、診療録、患者の状態から処方処方が妥当であるか判断できる。(知識・技能)	2-2-14
11. 薬歴、診療録、患者の状態から判断して適切に疑義照会ができる。(技能・態度)	2-2-15

【③処方せんに基づく医薬品の調製】

1. 前) 薬袋、薬札(ラベル)に記載すべき事項を適切に記入できる。(技能)	2-2-16
2. 前) 主な医薬品の成分(一般名)、商標名、剤形、規格等を列挙できる。	2-2-17
3. 前) 処方せんに従って、計数・計量調剤ができる。(技能)	2-2-18
4. 前) 後発医薬品選択の手順を説明できる。	2-2-19
5. 前) 代表的な注射剤・散剤・水剤等の配合変化のある組合せとその理由を説明できる。	2-2-20
6. 前) 無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。(知識・技能)	2-2-21
7. 前) 抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的な手技を実施できる。(技能)	2-2-22
8. 前) 処方せんに基づき調剤された薬剤の監査ができる。(知識・技能)	2-2-23
9. 主な医薬品の一般名・剤形・規格から該当する製品を選択できる。(技能)	2-2-24
10. 適切な手順で後発医薬品を選択できる。(知識・技能)	2-2-25
11. 処方せんに従って計数・計量調剤ができる。(技能)	2-2-26
12. 錠剤の粉砕、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる。(知識・技能)	2-2-27
13. 一回量(一包化)調剤の必要性を判断し、実施できる。(知識・技能)	2-2-28
14. 注射処方せんに従って注射薬調剤ができる。(技能)	2-2-29
15. 注射剤・散剤・水剤等の配合変化に関して実施されている回避方法を列挙できる。	2-2-30
16. 注射剤(高カロリー輸液等)の無菌的混合操作を実施できる。(技能)	2-2-31
17. 抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の手技を実施できる。(知識・技能)	2-2-32
18. 特別な注意を要する医薬品(劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬・抗悪性腫瘍薬等)の調剤と適切な取扱いができる。(知識・技能)	2-2-33
19. 調剤された薬剤に対して、監査を実施できる。(知識・技能)	2-2-34

【④患者・薬局者対応、服薬指導、患者教育】

1. 前) 適切な態度で、患者・薬局者と対応できる。(態度)	2-2-35
2. 前) 妊婦・授乳婦、小児、高齢者などへの対応や服薬指導において、配慮すべき事項を具体的に列挙できる。	2-2-36
3. 前) 患者・薬局者から、必要な情報(症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等)を適切な手順で聞き取ることができる。(知識・態度)	2-2-37
4. 前) 患者・薬局者に、主な医薬品の効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用、保存方法等について適切に説明できる。(技能・態度)	2-2-38
5. 前) 代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。	2-2-39
6. 前) 患者・薬局者に使用上の説明が必要な製剤(眼軟膏、坐剤、吸入剤、自己注射剤等)の取扱い方法を説明できる。(技能・態度)	2-2-40
7. 前) 薬歴・診療録の基本的な記載事項とその意義・重要性について説明できる。	2-2-41
8. 前) 代表的な疾患の症例についての患者対応の内容を適切に記録できる。(技能)	2-2-42
9. 患者・薬局者に合わせて適切な対応ができる。(態度)	2-2-43
10. 患者・薬局者から、必要な情報(症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等)を適切な手順で聞き取ることができる。(知識・態度)	2-2-44
11. 医師の治療方針を理解した上で、患者への適切な服薬指導を実施する。(知識・態度)	2-2-45

12. 患者・来局者の病状や背景に配慮し、医薬品を安全かつ有効に使用するための服薬指導や患者教育ができる。(知識・態度)	F-2-4-12
13. 妊婦・授乳婦、小児、高齢者等特別な配慮が必要な患者への服薬指導において、適切な応対ができる。(知識・態度)	F-2-4-13
14. お薬手帳、健康手帳、患者向け説明書等を使用した服薬指導ができる。(態度)	F-2-4-14
15. 収集した患者情報を薬歴や診療録に適切に記録することができる。(知識・技能)	F-2-4-15

【⑥医薬品の供給と管理】

1. 前) 医薬品管理の意義と必要性について説明できる。	F-2-5-1
2. 前) 医薬品管理の流れを概説できる。	F-2-5-2
3. 前) 創薬、毒薬、麻薬、向精神薬および覚醒剤原料等の管理と取り扱いについて説明できる。	F-2-5-3
4. 前) 特定生物由来製品の管理と取り扱いについて説明できる。	F-2-5-4
5. 前) 代表的な放射性医薬品の種類と用途、保管管理方法を説明できる。	F-2-5-5
6. 前) 院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。	F-2-5-6
7. 前) 薬局製剤・漢方製剤について概説できる。	F-2-5-7
8. 前) 医薬品の品質に影響を与える因子と保存条件を説明できる。	F-2-5-8
9. 医薬品の供給・保管・廃棄について適切に実施できる。(知識・技能)	F-2-5-9
10. 医薬品の適切な在庫管理を実施する。(知識・技能)	F-2-5-10
11. 医薬品の適正な採用と採用中止の流れについて説明できる。	F-2-5-11
12. 創薬・毒薬・麻薬・向精神薬および覚醒剤原料の適切な管理と取り扱いができる。(知識・技能)	F-2-5-12
13. 特定生物由来製品の適切な管理と取り扱いを体験する。(知識・技能)	F-2-5-13

【⑥安全管理】

1. 前) 処方から服薬(投薬)までの過程で誤りを生じやすい事例を列挙できる。	F-2-6-1
2. 前) 特にリスクの高い代表的な医薬品(抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等)の特徴と注意点を列挙できる。	F-2-6-2
3. 前) 代表的なインシデント(ヒヤリハット)、アクシデント事例を解析し、その原因、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を討議する。(知識・態度)	F-2-6-3
4. 前) 感染予防の基本的考え方とその方法が説明できる。	F-2-6-4
5. 前) 衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施できる。(技能)	F-2-6-5
6. 前) 代表的な消毒薬の用途、使用濃度および調製時の注意点を説明できる。	F-2-6-6
7. 前) 医薬品のリスクマネジメントプランを概説できる。	F-2-6-7
8. 特にリスクの高い代表的な医薬品(抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等)の安全管理を体験する。(知識・技能・態度)	F-2-6-8
9. 調剤ミスを防止するために工夫されている事項を具体的に説明できる。	F-2-6-9
10. 施設内のインシデント(ヒヤリハット)、アクシデントの事例をもとに、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を提案することができる。(知識・態度)	F-2-6-10
11. 施設内の安全管理指針を遵守する。(態度)	F-2-6-11
12. 施設内で衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施する。(技能)	F-2-6-12
13. 臨床検体・感染性廃棄物を適切に取り扱うことができる。(技能・態度)	F-2-6-13
14. 院内での感染対策(予防、蔓延防止など)について具体的な提案ができる。(知識・態度)	F-2-6-14

(3) 薬物療法の実践

G10 患者に安全・最適な薬物療法を提供するために、適切に患者情報を収集した上で、状態を正しく評価し、適切な医薬品情報を基に、個々の患者に適した薬物療法を提案・実施・評価できる能力を修得する。

【①患者情報の把握】

1. 前) 基本的な医療用語、略語の意味を説明できる。	F-3-1-1
2. 前) 患者および種々の情報源(診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等)から、薬物療法に必要な情報を収集できる。(技能・態度)[E3(2)①参照]	F-3-1-2
3. 前) 身体所見の観察・測定(フィジカルアセスメント)の目的と得られた所見の薬学的管理への活用について説明できる。	F-3-1-3
4. 前) 基本的な身体所見を観察・測定し、評価できる。(知識・技能)	F-3-1-4
5. 基本的な医療用語、略語を適切に使用できる。(知識・態度)	F-3-1-5
6. 患者・来局者および種々の情報源(診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等)から、薬物療法に必要な情報を収集できる。(技能・態度)	F-3-1-6
7. 患者の身体所見を薬学的管理に活かすことができる。(技能・態度)	F-3-1-7

【②医薬品情報の収集と活用】[E3(1)参照]

1. 前) 薬物療法に必要な医薬品情報を収集・整理・加工できる。(知識・技能)	F-3-2-1
2. 施設内において使用できる医薬品の情報源を把握し、利用することができる。(知識・技能)	F-3-2-2
3. 薬物療法に対する問い合わせに対し、根拠に基づいた報告書を作成できる。(知識・技能)	F-3-2-3
4. 医療スタッフおよび患者のニーズに合った医薬品情報提供を体験する。(知識・態度)	F-3-2-4
5. 安全で有効な薬物療法に必要な医薬品情報の評価、加工を体験する。(知識・技能)	F-3-2-5
6. 緊急安全性情報、安全性速報、不用品回収、製造中止などの緊急情報を施設内で適切に取扱うことができる。(知識・態度)	F-3-2-6

【③処方設計と薬物療法の実践(処方設計と提案)】

1. 前) 代表的な疾患に対して、疾患の重症度等に応じて科学的根拠に基づいた処方設計ができる。	F-3-3-1
2. 前) 病態(肝・腎障害など)や生理的特性(妊婦・授乳婦、小児、高齢者など)等を考慮し、薬剤の選択や用法・用量設定を立案できる。	F-3-3-2
3. 前) 患者のアドヒアランスの評価方法、アドヒアランスが良くない原因とその対処法を説明できる。	F-3-3-3
4. 前) 皮下注射、筋肉内注射、静脈内注射・点滴等の基本的な手技を説明できる。	F-3-3-4
5. 前) 代表的な輸液の種類と適応を説明できる。	F-3-3-5
6. 前) 患者の栄養状態や体液量、電解質の過不足などが評価できる。	F-3-3-6
7. 代表的な疾患の患者について、診断名、病態、科学的根拠等から薬物治療方針を確認できる。	F-3-3-7
8. 治療ガイドライン等を確認し、科学的根拠に基づいた処方立案ができる。	F-3-3-8

9. 患者の状態(疾患、重症度、合併症、肝・腎機能や全身状態、遺伝子の特性、心理・希望等)や薬剤の特徴(作用機序や薬理的性質等)に基づき、適切な処方提案ができる。(知識・態度)	2-3-3
10. 処方設計の提案に際し、薬物投与プロトコルやクリニカルパスを活用できる。(知識・態度)	2-3-10
11. 入院患者の持参薬について、経路・変更・中止の提案ができる。(知識・態度)	2-3-11
12. アドヒアランス向上のために、処方変更、調剤や用法の工夫が提案できる。(知識・態度)	2-3-12
13. 処方提案に際して、医薬品の経済性等を考慮して、適切な後発医薬品を選択できる。	2-3-13
14. 処方提案に際し、薬剤の選択理由、投与量、投与方法、投与期間等について、医師や看護師等に判りやすく説明できる。(知識・態度)	2-3-14

【④処方設計と薬物療法の実践(薬物療法における効果と副作用の評価)】

1. 前) 代表的な疾患に用いられる医薬品の効果、副作用に関してモニタリングすべき症状と検査所見等を具体的に説明できる。	2-3-1
2. 前) 代表的な疾患における薬物療法の評価に必要な患者情報収集ができる。(知識・技能)	2-3-2
3. 前) 代表的な疾患の症例における薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で記録できる。(知識・技能)	2-3-3
4. 医薬品の効果と副作用をモニタリングするための検査項目とその実施を提案できる。(知識・態度)	2-3-4
5. 薬物血中濃度モニタリングが必要な医薬品が処方されている患者について、血中濃度測定提案ができる。(知識・態度)	2-3-5
6. 薬物血中濃度の推移から薬物療法の効果および副作用について予測できる。(知識・技能)	2-3-6
7. 臨床検査値の変化と使用医薬品の関連性を説明できる。	2-3-7
8. 薬物治療の効果について、患者の症状や検査所見などから評価できる。	2-3-8
9. 副作用の発現について、患者の症状や検査所見などから評価できる。	2-3-9
10. 薬物治療の効果、副作用の発現、薬物血中濃度等に基づき、医師に対し、薬剤の種類、投与量、投与方法、投与期間等の変更を提案できる。(知識・態度)	2-3-10
11. 報告に必要な要素(SWIH)に留意して、収集した患者情報を正確に記載できる。(技能)	2-3-11
12. 患者の薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で適切に記録する。(知識・技能)	2-3-12
13. 医薬品・医療機器等安全性情報報告用紙に、必要事項を記載できる。(知識・技能)	2-3-13

(4) チーム医療への参画 [A (4) 参照]

G10 医療機関や地域で、多職種が連携・協力する患者中心のチーム医療に積極的に参画するために、チーム医療における多職種の役割と意義を理解するとともに、情報を共有し、より良い医療の検討、提案と実施ができる。

【①医療機関におけるチーム医療】

1. 前) チーム医療における薬剤師の役割と重要性について説明できる。	2-3-1
2. 前) 多様な医療チームの目的と構成、構成員の役割を説明できる。	2-3-2
3. 前) 病院と地域の医療連携の意義と具体的な方法(連携クリニカルパス、退院時共同指導、病院・薬局連携、関連施設との連携等)を説明できる。	2-3-3
4. 薬物療法上の問題点を解決するために、他の薬剤師および医師・看護師等の医療スタッフと連携できる。(態度)	2-3-4
5. 医師・看護師等の他職種と患者の状態(病状、検査値、アレルギー歴、心理、生活環境等)、治療開始後の変化(治療効果、副作用、心理状態、QOL等)の情報を共有する。(知識・態度)	2-3-5
6. 医療チームの一員として、医師・看護師等の医療スタッフと患者の治療目標と治療方針について討議(カンファレンスや患者回診への参加等)する。(知識・態度)	2-3-6
7. 医師・看護師等の医療スタッフと連携・協力して、患者の最善の治療・ケア提案を体験する。(知識・態度)	2-3-7
8. 医師・看護師等の医療スタッフと連携して退院後の治療・ケアの計画を検討できる。(知識・態度)	2-3-8
9. 病院内の多様な医療チーム(ICT、NST、緩和ケアチーム、褥瘡チーム等)の活動に薬剤師の立場で参加できる。(知識・態度)	2-3-9

【②地域におけるチーム医療】

1. 前) 地域の保健、医療、福祉に関わる職種とその連携体制(地域包括ケア)およびその意義について説明できる。	2-3-1
2. 前) 地域における医療機関と薬局薬剤師の連携の重要性を討議する。(知識・態度)	2-3-2
3. 地域における医療機関と薬局薬剤師の連携を体験する。(知識・態度)	2-3-3
4. 地域医療を担う職種間で地域住民に関する情報共有を体験する。(技能・態度)	2-3-4

(5) 地域の保健・医療・福祉への参画 [B (4) 参照]

G10 地域での保健・医療・福祉に積極的に貢献できるようになるために、在宅医療、地域保健、福祉、プライマリケア、セルフメディケーションの仕組みと意義を理解するとともに、これらの活動に参加することで、地域住民の健康の回復、維持、向上に関わることができる。

【①在宅(訪問)医療・介護への参画】

1. 前) 在宅医療・介護の目的、仕組み、支援の内容を具体的に説明できる。	2-3-1
2. 前) 在宅医療・介護を受ける患者の特色と背景を説明できる。	2-3-2
3. 前) 在宅医療・介護に関わる薬剤師の役割とその重要性について説明できる。	2-3-3
4. 在宅医療・介護に関する薬剤師の管理業務(訪問薬剤管理指導業務、居宅療養管理指導業務)を体験する。(知識・態度)	2-3-4
5. 地域における介護サービスや介護支援専門員等の活動と薬剤師との関わりを体験する。(知識・態度)	2-3-5
6. 在宅患者の病状(症状、疾患と重症度、栄養状態等)とその変化、生活環境等の情報収集と報告を体験する。(知識・態度)	2-3-6

【②地域保健（公衆衛生、学校薬剤師、啓発活動）への参入】

1. 前) 地域保健における薬剤師の役割と代表的な活動（薬物乱用防止、自殺防止、感染予防、アンチドーピング活動等）について説明できる。	F-5-2-1
2. 前) 公衆衛生に求められる具体的な感染防止対策を説明できる。	F-5-2-2
3. 学校薬剤師の業務を体験する。(知識・技能)	F-5-2-3
4. 地域住民の衛生管理（消毒、食中毒の予防、日用品に含まれる化学物質の誤嚥誤飲の予防等）における薬剤師活動を体験する。(知識・技能)	F-5-2-4

【③プライマリケア、セルフメディケーションの実践】(E2(9)参照)

1. 前) 現在の医療システムの中でのプライマリケア、セルフメディケーションの重要性を認識する。(態度)	F-5-3-1
2. 前) 代表的な症候（頭痛・腹痛・発熱等）を示す来局者について、適切な情報収集と疾患の推測、適切な対応の選択ができる。(知識・態度)	F-5-3-2
3. 前) 代表的な症候に対する要指導医薬品・一般用医薬品の適切な取り扱いと説明ができる。(技能・態度)	F-5-3-3
4. 前) 代表的な生活習慣の改善に対するアドバイスができる。(知識・態度)	F-5-3-4
5. 薬局製剤（漢方製剤含む）、要指導医薬品・一般用医薬品、健康食品、サプリメント、医療機器等をリスクに応じ適切に取り扱い、管理できる。(技能・態度)	F-5-3-5
6. 来局者から収集した情報や身体所見などに基づき、来局者の病状（疾患、重症度等）や体調を推測できる。(知識・態度)	F-5-3-6
7. 来局者に対して、病状に合わせた適切な対応（医師への受診勧奨、救急対応、要指導医薬品・一般用医薬品および検査薬などの推奨、生活指導等）を選択できる。(知識・態度)	F-5-3-7
8. 選択した薬局製剤（漢方製剤含む）、要指導医薬品・一般用医薬品、健康食品、サプリメント、医療機器等の使用方法や注意点を来局者に適切に判りやすく説明できる。(知識・態度)	F-5-3-8
9. 疾病の予防および健康管理についてのアドバイスを体験する。(知識・態度)	F-5-3-9

【④災害時医療と薬剤師】

1. 前) 災害時医療について概説できる。	F-5-4-1
2. 災害時における地域の医薬品供給体制・医療救護体制について説明できる。	F-5-4-2
3. 災害時における病院・薬局と薬剤師の役割について討議する。(態度)	F-5-4-3

G 薬学研究

G10 薬学・医療の進歩と改善に資するために、研究を遂行する意欲と問題発見・解決能力を身につける。

(1) 薬学における研究の位置づけ

G10 研究マインドをもって生涯にわたり医療に貢献するために、薬学における研究の位置づけを理解する。

1. 基礎から臨床に至る研究の目的と役割について説明できる。	G-1-1-1
2. 研究には自立性と独創性が求められていることを知る。	G-1-1-2
3. 現象を客観的に捉える観察眼をもち、論理的に思考できる。(知識・技能・態度)	G-1-1-3
4. 新たな課題にチャレンジする創造的精神を養う。(態度)	G-1-1-4

(2) 研究に必要な法規範と倫理

G10 自らが実施する研究に係る法令、指針を理解し、それらを遵守して研究に取り組む。

1. 自らが実施する研究に係る法令、指針について概説できる。	G-2-1-1
2. 研究の実施、患者情報の取扱い等において配慮すべき事項について説明できる。	G-2-1-2
3. 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。(態度) A-(2)-(4)-3 再掲	G-2-1-3

(3) 研究の実践

G10 研究のプロセスを通して、知識や技能を総合的に活用して問題を解決する能力を培う。

1. 研究課題に関する国内外の研究成果を調査し、読解、評価できる。(知識・技能)	G-3-1-1
2. 課題達成のために解決すべき問題点を抽出し、研究計画を立案する。(知識・技能)	G-3-1-2
3. 研究計画に沿って、意欲的に研究を実施できる。(技能・態度)	G-3-1-3
4. 研究の各プロセスを適切に記録し、結果を考察する。(知識・技能・態度)	G-3-1-4
5. 研究成果の効果的なプレゼンテーションを行い、適切な質疑応答ができる。(知識・技能・態度)	G-3-1-5
6. 研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。(技能)	G-3-1-6

薬学準備教育ガイドライン(例示)

(1) 人と文化

GI0 人文科学、社会科学および自然科学などを広く学び、物事を多角的にみる能力を養う。

下記の到達目標のうち複数のものをバランスよく達成する。

1. 人の価値観の多様性が、文化・習慣の違いから生まれることを、実例をあげて説明できる。	X2311
2. 言語、歴史、宗教などを学ぶことによって、外国と日本の文化について比較できる。	X2312
3. 文化・芸術に幅広く興味を持ち、その価値について討議する。(態度)	X2313
4. 文化活動、芸術活動を通して、自らの社会生活を豊かにする。(態度)	X2314
5. 日本社会の成り立ちについて、政治、経済、法律、歴史、社会学などの観点から説明できる。	X2315
6. 日本の国際社会における位置づけを、政治、経済、地理、歴史などの観点から説明できる。	X2316
7. 宇宙・自然現象に幅広く興味を持ち、人との関わりについて説明できる。	X2317
8. 地球環境保護活動を通して、地球環境を守る重要性を自らの言葉で表現する。(態度)	X2318

※到達目標達成のための学問領域の例示

宗教、倫理、哲学、文学、外国語、芸術、文化人類学、社会学、政治、法律、経済、地理、歴史、科学史、宇宙、環境

(2) 人の行動と心理

GI0 人の行動と心理に関する基本的な知識と考え方を修得する。

【1. 人の行動とその成り立ち】

1. 行動と知覚、学習、記憶、認知、言語、思考、性格との関係について概説できる。	X2321
2. 行動と人の内的要因、社会・文化的環境との関係について概説できる。	X2322
3. 本能行動と学習行動について説明できる。	X2323
4. レスポンデント条件づけとオペラント条件づけについて説明できる。	X2324
5. 社会的学習(モデリング、観察学習、模倣学習)について概説できる。	X2325
6. 健康行動の理論(健康信念モデル、変化のステージモデルなど)について概説できる。	X2326

【2. 動機づけ】

1. 生理的動機、内発的動機、および社会的動機について概説できる。	X2331
2. 欲求とフラストレーション、喜劇との関連について概説できる。	X2332
3. 適応(防御)機制について概説できる。	X2333

【3. ストレス】

1. 主なストレス学説について概説できる。	X2341
2. 人生や日常生活におけるストレスラーについて例示できる。	X2342
3. ストレスコーピングについて概説できる。	X2343

【4. 生涯発達】

1. こころの発達の原理について概説できる。	X2351
2. ライフサイクルの各段階におけるこころの発達の特徴および発達課題について概説できる。	X2352
3. こころの発達にかかわる遺伝的要因と環境的要因について概説できる。	X2353

【5. パーソナリティー】

1. 性格の類型について概説できる。	X2361
2. 知能の発達と経年変化について概説できる。	X2362
3. 役割理論について概説できる。	X2363
4. ジェンダーの形成について概説できる。	X2364

【6. 人間関係】

1. 人間関係における欲求と行動の関係について概説できる。	X2371
2. 主な対人行動(援助、攻撃等)について概説できる。	X2372
3. 集団の中での人間関係(競争と協同、同調、服従と抵抗、リーダーシップ)について概説できる。	X2373
4. 人間関係と健康心理との関係について概説できる。	X2374

(3) 薬学の基礎としての英語

GI0 薬学分野で必要とされる英語に関する基本的事項を修得する。

【1. 読む】

1. 科学、医療に関連する英語の代表的な用語を列挙し、その内容を説明できる。	X2381-1
2. 科学、医療に関して英語で書かれた文章を読んで、内容を説明できる。	X2381-2

【2. 書く】

1. 自己紹介文、手紙文などを英語で書くことができる。(知識・技能)	X2391
2. 自然科学各分野における基本的単位、数値、現象の英語表現を列記できる。	X2392
3. 科学、医療に関連する英語の代表的な用語、英語表現を列記できる。	X2393
4. 科学、医療に関連する簡単な文章を英語で書くことができる。(知識・技能)	X2394

【3. 聞く・話す】

1. 英語の基礎的音声を聞き分けることができる。(技能)	X	4-1-1
2. 英語の会話を聞いて内容を理解して要約できる。(技能)	X	4-1-2
3. 英語による簡単なコミュニケーションができる。(技能・態度)	X	4-1-3
4. 科学、医療に関連する代表的な用語を英語で発音できる。(技能)	X	4-1-4

(4) 薬学の基礎としての物理

GIO 薬学を学ぶ上で必要な物理学の基礎力を身につけるために、物質および物体間の相互作用などに関する基本的事項を修得する。

【1. 基本概念】

1. 物理量の基本単位の定義を説明できる。	X	4-2-1
2. SI単位系について説明できる。	X	4-2-2
3. 基本単位を組み合わせた組立単位を説明できる。	X	4-2-3
4. 物理量にはスカラー量とベクトル量があることを説明できる。	X	4-2-4

【2. 運動の法則】

1. 運動の法則について理解し、力、質量、加速度、仕事などの相互関係を説明できる。	X	4-2-1
2. 直線運動、円運動、単振動などの運動を数式を用いて説明できる。	X	4-2-2
3. 慣性モーメントについて説明できる。	X	4-2-3

【3. エネルギー】

1. エネルギーと仕事の関係について説明できる。	X	4-3-1
2. エネルギーの種々の形態(熱エネルギー、化学エネルギー、電気エネルギーなど)の相互変換について、例を挙げて説明できる。	X	4-3-2

【4. 波動】

1. 光、音、電磁波などが波であることを理解し、波の性質を表す物理量について説明できる。	X	4-4-1
--	---	-------

【5. レーザー】

1. レーザーの性質を概説し、代表的な応用例を列挙できる。	X	4-5-1
-------------------------------	---	-------

【6. 電荷と電流】

1. 電荷と電流、電圧、電力、オームの法則などを説明できる。	X	4-6-1
2. 抵抗とコンデンサーを含んだ回路の特性を説明できる。	X	4-6-2

【7. 電場と磁場】

1. 電場と磁場の相互関係を説明できる。	X	4-7-1
2. 電場、磁場の中における荷電粒子の運動を説明できる。	X	4-7-2

【8. 量子化学入門】

1. 原子のボーアモデルと電子雲モデルの違いについて概説できる。	X	4-8-1
2. 光の粒子性と波動性について概説できる。	X	4-8-2
3. 電子の粒子性と波動性について概説できる。	X	4-8-3

(5) 薬学の基礎としての化学

GIO 薬学を学ぶ上で必要な化学の基礎力を身につけるために、原子の構造から分子の成り立ちなどに関する基本的事項を修得する。

【1. 物質の基本概念】

1. 原子、分子、イオンの基本的構造について説明できる。	X	5-1-1
2. 原子が、分子が、を説明できる。	X	5-1-2
3. 原子の電子配置について説明できる。	X	5-1-3
4. 周期表に基づいて原子の諸性質(イオン化エネルギー、電気陰性度など)を説明できる。	X	5-1-4
5. 同素体、同位体について、例を挙げて説明できる。	X	5-1-5

【2. 化学結合と分子】

1. イオン結合、共有結合、配位結合、金属結合の成り立ちと違いについて説明できる。	X	5-2-1
2. 分子の極性について概説できる。	X	5-2-2
3. 共有結合性の化合物とイオン結合性の化合物の性質(融点、沸点など)の違いを説明できる。	X	5-2-3
4. 代表的な結晶構造について説明できる。	X	5-2-4
5. 代表的な化合物の名称と構造を列挙できる。	X	5-2-5

【3. 化学反応を定量的に捉える】

1. 溶液の濃度計算と調製ができる。(技能)	X	5-3-1
2. 質量保存の法則について説明できる。	X	5-3-2
3. 代表的な化学変化を化学量論的に捉え、その量的関係を計算できる。(技能)	X	5-3-3
4. 酸と塩基の基本的な性質および強弱の指標を説明できる。	X	5-3-4

5. 酸化と還元について電子の授受を含めて説明できる。	X:5:3:5
【4. 化学反応の基本操作】	
1. 化合物の秤量、溶解、抽出、乾燥、ろ過、濃縮を実施できる。(技能)	X:5:3:6
(6) 薬学の基礎としての生物	
GI0 薬学を学ぶ上で必要な生物学の基礎力を身につけるために、細胞、組織、器官、個体、集団レベルでの生命現象と、誕生から死への過程に関する基本的事項を修得する。	
【1. 生体の基本的な構造と機能】	
1. 多細胞生物である高等動物の成り立ちを、生体高分子、細胞、組織、器官、個体に関係づけて概説できる。	X:6:1:1
2. 動物、植物、微生物の細胞について、それらの構造の違いを説明できる。	X:6:1:2
3. 細胞内器官の構造と働きについて概説できる。	X:6:1:3
4. 細胞膜の構造と性質について概説できる。	X:6:1:4
5. ウイルスとファージについて概説できる。	X:6:1:5
【2. 生体の調節機構】	
1. 生体の持つホメオスタシス(恒常性)について概説できる。	X:6:2:1
2. 生体の情報伝達系、防衛機構(神経系、内分泌系、免疫系)について概説できる。	X:6:2:2
【3. エネルギー】	
1. 運動エネルギー、ポテンシャルエネルギー、熱エネルギー、化学エネルギーなどの相互変化について例をあげて説明できる。	X:6:3:1
【4. 代謝】	
1. 代謝(異化、同化)について説明できる。	X:6:4:1
2. 独立栄養生物と従属栄養生物について説明できる。	X:6:4:2
3. 嫌気呼吸および酸素呼吸について概説できる。	X:6:4:3
4. 光合成について概説できる。	X:6:4:4
【5. 細胞分裂・遺伝・進化】	
1. 細胞の増殖、死について概説できる。	X:6:5:1
2. 遺伝とDNAについて概説できる。	X:6:5:2
3. 遺伝の基本法則(メンデルの法則など)を説明できる。	X:6:5:3
4. 遺伝子の組換え、連鎖を説明し、組換え価を求めることができる。	X:6:5:4
5. 染色体地図について説明できる。	X:6:5:5
6. 減数分裂について概説できる。	X:6:5:6
7. 性染色体による性の決定と伴性遺伝を説明できる。	X:6:5:7
8. 進化の基本的な考え方を説明できる。	X:6:5:8
【6. 発生・分化】	
1. 卵割について説明できる。	X:6:6:1
2. 個体と器官が形成される発生過程を概説できる。	X:6:6:2
3. 外胚葉、中胚葉、内胚葉から分化する組織を特定できる。	X:6:6:3
4. 細胞の分化の機構について概説できる。	X:6:6:4
5. 多細胞生物における、細胞の多様性と幹細胞の性質について概説できる。	X:6:6:5
【7. 誕生・成長・老化】	
1. 生殖の過程(性周期、妊娠、出産など)を概説できる。	X:6:7:1
2. ヒトの成長、老化に関する基本的現象を説明できる。	X:6:7:2
3. 老化に関する学説を概説できる。	X:6:7:3
【8. 生態系】	
1. 個体群の変動と環境変化との関係について例示できる。	X:6:8:1
2. 生態系の構成について概説できる。	X:6:8:2
【9. 総合演習】	
1. 植物組織の切片を作製し、顕微鏡で観察しながら構造を説明できる。(技能)	X:6:9:1
2. 動物の組織標本を顕微鏡で観察し、構造を説明できる。(技能)	X:6:9:2
3. 倫理に配慮して実験動物を取扱う。(技能・態度)	X:6:9:3
4. 実験動物を解剖し、臓器の配置および形態を観察する。(技能)	X:6:9:4
(7) 薬学の基礎としての数学・統計学	
GI0 薬学を学ぶ上で基礎となる数学・統計学に関する基本的知識を修得し、それらを薬学領域で応用するための基本的技能を身につける。	
【1. 数値の扱い】	
1. 大きな数や小さな数をSI接頭語、べき、および対数を使い、的確に表すことができる。(知識・技能)	X:7:1:1
2. 有効数字の概念を説明し、有効数字を含む値の計算ができる。(知識・技能)	X:7:1:2

【2. 種々の関数】

1. 指数関数および対数関数を、式およびグラフを用いて説明できる。(知識・技能)	X7-2-1
2. 三角関数を、式およびグラフを用いて説明できる。(知識・技能)	X7-2-2

【3. 微分と積分】

1. 極限の基本概念を概説できる。	X7-3-1
2. 導関数の基本概念を理解し、代表的な関数の微分ができる。(知識・技能)	X7-3-2
3. 原始関数の基本概念を理解し、代表的な関数の不定積分および定積分ができる。(知識・技能)	X7-3-3
4. 微分方程式の成り立ちを理解し、基本的な微分方程式(変数分離型)の一般解と特殊解を求めることができる。(知識・技能)	X7-3-4
5. 偏微分について概説できる。	X7-3-5

【4. 確率】

1. 場合の数、順列、組合せの基本概念を理解し、それを用いた計算ができる。(知識・技能)	X7-4-1
2. 二項分布および正規分布について概説できる。	X7-4-2
3. 確率の定義と性質を理解し、計算ができる。(知識・技能)	X7-4-3

【5. 統計の基礎】

1. 測定尺度(間隔、比率尺度、順序尺度、名義尺度)について説明できる。	X7-5-1
2. 大量のデータに対して、適切な尺度を選び、表やグラフを用いて的確に表すことができる。(技能)	X7-5-2
3. 平均値、分散、標準偏差、標準偏差などの基本的な統計量について説明し、求めることができる。(知識・技能)	X7-5-3
4. データの相関と、それに基づく基本的な回帰分析(直線(線形)回帰)ができる。(知識・技能)	X7-5-4
5. 母集団と標本の関係について説明できる。	X7-5-5
6. 検定の意義について説明できる。	X7-5-6

(8) 情報リテラシー

G10 情報伝達技術(ICT)の発展に合わせた効果的なコンピューターの利用法とセキュリティの知識を身に付け、必要な情報を活用する能力を修得する。

【1. 基本操作】

1. コンピューターを構成する基本的装置の機能と接続方法を説明できる。	X8-1-1
2. スマートフォン、タブレット端末などのモバイル機器を安全かつ有効に利用できる。(知識・技能)	X8-1-2
3. 電子データの特徴を知り、適切に取り扱うことができる。(技能)	X8-1-3
4. インターネットの仕組みを概説できる。	X8-1-4
5. 無線LANを使用するための注意点について概説できる。	X8-1-5
6. マナーを守り、電子メールの送信、受信、転送などができる。(技能・態度)	X8-1-6
7. インターネットに接続し、Webサイトを閲覧できる。(技能)	X8-1-7
8. 検索サイト、ポータルサイトの特徴に応じて、必要な情報を収集できる。(技能)	X8-1-8

【2. ソフトウェアの利用】

1. ソフトウェア使用上のルール、マナーを守る。(態度)	X8-2-1
2. ワードプロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトを用いることができる。(技能)	X8-2-2
3. グラフィックソフト、化学構造式描画ソフトを用いることができる。(技能)	X8-2-3
4. 画像ファイルの形式とその特徴に応じて、データを適切に取り扱うことができる。(技能)	X8-2-4
5. データベースの特徴と活用について概説できる。	X8-2-5

【3. セキュリティと情報倫理】

1. ネットワークセキュリティについて概説できる。	X8-3-1
2. アカウントとパスワードを適切に管理できる。(技能・態度)	X8-3-2
3. データやメディアを適切に管理できる。(態度)	X8-3-3
4. 著作権、肖像権、引用と転載の扱いについて説明できる。	X8-3-4
5. ネットワークにおける個人情報の取り扱いに配慮する。(態度)	X8-3-5
6. ソーシャルネットワークサービス(SNS)の種類と特徴、留意すべき点について説明できる。	X8-3-6
7. 情報倫理、セキュリティに関する情報を収集することができる。(技能)	X8-3-7
8. コンピューターウイルスの侵入経路に応じて、適切な予防策を講じることができる。(技能・態度)	X8-3-8

(9) プレゼンテーション

G10 情報をまとめ、他者へわかりやすく伝達するための基本的事項を修得する。

【1. プレゼンテーションの基本】

1. プレゼンテーションを行うために必要な要素を列挙できる。	X9-1-1
2. 目的に応じて適切なプレゼンテーションを構成できる。(技能)	X9-1-2
3. 目的、場所、相手に応じた、わかりやすい資料を作成できる。(技能)	X9-1-3

【2. 文書によるプレゼンテーション】

1. 定められた書式、正しい文法に則って文書を作成できる。(知識・技能)	X9-2-1
2. 目的(レポート、論文、説明文書など)に応じて適切な文書を作成できる。(知識・技能)	X9-2-2

【3. 口頭・ポスターによるプレゼンテーション】

1. 口頭発表とポスター発表の違いと特徴について説明できる。	
2. 課題に関して意見をまとめ、決められた時間内で発表できる。(技能)	
3. 効果的なプレゼンテーションを行う工夫をする。(技能・態度)	
4. 質問に対して的確な応答ができる。(技能)	
5. 他者のプレゼンテーションに対して、優れた点および改良点を指摘できる。(知識・態度)	

薬学アドバンスト教育ガイドライン(例示)

※ 薬学教育モデル・コアカリキュラムに関連する項目がある場合には、「[関連コアカリ]」として、該当項目を記載している。

A 基本事項

【1. 患者安全と薬害の防止】 [関連コアカリ：(1) 3.]

1. WHOの患者安全の考え方に基づき、医療提供プロセスや患者環境における潜在的なリスクを見出し、対応策を提案できる。	Y-1-1-1
---	---------

【2. コミュニケーション】 [関連コアカリ：(3) 1.]

1. 心理療法の基礎理論(精神分析、認知行動療法、来談者中心療法など)とその活用法について説明できる。	Y-1-2-1
2. 代表的な精神障害(統合失調症、うつ病など)・パーソナリティ障害(境界性パーソナリティ障害、自己変性パーソナリティ障害など)・発達障害の症状およびコミュニケーションの特徴について概説できる。	Y-1-2-2

B 薬学と社会

【1. 医薬品等の品質、有効性及び安全性の確保に係る法規制】 [関連コアカリ：(2) 2.]

1. レギュラトリーサイエンスに基づく医薬品等の品質、有効性及び安全性の評価法について説明できる。	Y-2-1-1
2. 医薬品等の開発と規制における国際調和の動向について説明できる。	Y-2-1-2

【2. 医療、福祉、介護の制度】 [関連コアカリ：(3) 1.]

1. 諸外国の医療、福祉、介護の制度について、日本と比較しながら説明できる。	Y-2-2-1
--	---------

【3. 医薬品と医療の経済性】 [関連コアカリ：(3) 2.]

1. 医薬品等に係る知的財産権保護の仕組み(申請、承認など)について説明できる。	Y-2-3-1
2. 日本と諸外国における知的財産権保護に対する考え方の違いについて説明できる。	Y-2-3-2
3. 医薬品の創製に関わる仕組みについて、日本と諸外国でどのように異なるかを説明できる。	Y-2-3-3
4. 国際的な医薬品市場の動向と企業展開について説明できる。	Y-2-3-4
5. 希少疾病に対する医薬品(オーファンドラッグ)開発の現状と問題点について説明できる。	Y-2-3-5
6. 代表的な薬剤経済評価手法を用いて、薬物治療の効率性を評価できる。	Y-2-3-6

【4. 地域における薬局の役割】 [関連コアカリ：(4) 1.]

1. 諸外国における薬局の機能と業務について、日本と比較しながら説明できる。	Y-2-4-1
--	---------

【5. 地域における保健、医療、福祉の連携体制と薬剤師】 [関連コアカリ：(4) 2.]

1. 地域社会における保健、医療、福祉の現状と問題点を調査し、地域による違いについて討議する。	Y-2-5-1
2. 諸外国における薬剤師の活動分野について、日本と比較しながら説明できる。	Y-2-5-2

C 薬学基礎

C1 物質の物理的性質

【1. エネルギー、自発的な変化】 [関連コアカリ：(2) 2.、3.]

1. 代表的な物理変化、化学変化に伴う熱力学量(エンタルピー変化、エントロピー変化、ギブズエネルギー変化など)を説明し、求めることができる。(技能)	Y-3-1-1
2. 各種熱力学量の値から、物理変化、化学変化の過程を推測することができる。	Y-3-1-2

【2. 物理平衡】 [関連コアカリ：(2)]

1. 物質の溶解平衡について説明できる。	Y-3-2-1
2. 界面における平衡について説明できる。	Y-3-2-2
3. 吸着平衡について説明できる。	Y-3-2-3
4. 代表的な物理平衡の観測結果から平衡定数を求めることができる。(技能)	Y-3-2-4

【3. 溶液の化学】 [関連コアカリ：(2)]

1. イオンの輸率と移動度について説明できる。	Y-3-3-1
2. 電解質の活量係数の濃度依存性(Debye-Hückelの式)について説明できる。	Y-3-3-2

【4. 電気化学】 [関連コアカリ：(2) 7.]

1. Nernstの式が誘導できる。	Y-3-4-1
2. 膜電位と能動輸送について説明できる。	Y-3-4-2

【5. 相互作用の解析法】 [関連コアカリ：(2)]

1. 生体分子間相互作用の解析法を概説できる。	Y-3-5-1
-------------------------	---------

【6. 立体構造】 【関連コアカリ：(2)】

1. タンパク質の立体構造の自由度について概説できる。	Y3301
2. タンパク質の折りたたみ過程について概説できる。	Y3302

【7. 相互作用】 【関連コアカリ：(2)】

1. 転写・翻訳、シグナル伝達における代表的な生体分子間相互作用について、具体例を挙げて説明できる。	Y3303
2. 生体高分子と医薬品の相互作用における立体構造的要因の重要性を、具体例を挙げて説明できる。	Y3304

C2 化学物質の分析

【1. 酸・塩基平衡】 【関連コアカリ：(2) 1.】

1. 代表的な緩衝液の特徴とその調製法を説明できる。	Y3305
----------------------------	-------

【2. 定性分析】 【関連コアカリ：(3) 1.】

1. 日本薬局方収載の代表的な医薬品の確認試験を実施できる。(技能)	Y3306
------------------------------------	-------

【3. 定量分析 (容量分析・重量分析)】 【関連コアカリ：(3) 2.】

1. 日本薬局方収載の重量分析法を実施できる。(技能)	Y3307
-----------------------------	-------

【4. 分光分析法】 【関連コアカリ：(4) 1.】

1. ラマンスペクトル法の原理および応用例を説明できる。	Y3308
2. 化学発光・生物発光の原理およびそれを利用する測定法を説明できる。	Y3309
3. 円偏光二色性測定法の原理および応用例を説明できる。	Y3310
4. 電子スピン共鳴スペクトル測定法の原理および応用例を説明できる。	Y3311
5. 代表的な分光分析法を用いて、代表的な生体分子(核酸、タンパク質)の分析を実施できる。(技能)	Y3312

【5. 核磁気共鳴 (NMR) スペクトル測定法】 【関連コアカリ：(4) 2.】

1. 核磁気共鳴 (NMR) スペクトル測定法の生体分子解析への応用例について説明できる。	Y3313
---	-------

【6. 質量分析法】 【関連コアカリ：(4) 3.】

1. 質量分析法の生体分子解析への応用例について説明できる。	Y3314
2. LC/MSやLC/MS/MSを用いて、医薬品や生体分子の分析を実施できる。(技能)	Y3315

【7. X線結晶解析】 【関連コアカリ：(4) 4.】

1. X線結晶解析を用いた生体分子の構造決定法について説明できる。	Y3316
-----------------------------------	-------

【8. クロマトグラフィー】 【関連コアカリ：(5) 1.】

1. 超臨界流体クロマトグラフィーの特徴を説明できる。	Y3317
-----------------------------	-------

【9. 電気泳動法】 【関連コアカリ：(5) 2.】

1. 電気泳動法を用いて試料を分離分析できる。(技能)	Y3318
-----------------------------	-------

【10. 分析の準備】 【関連コアカリ：(6) 1.】

1. 分析目的に即した試料の前処理法を実践できる。(技能)	Y3319
-------------------------------	-------

【11. 分析技術】 【関連コアカリ：(6) 2.】

1. 臨床分析で用いられる代表的な分析法を実践できる。(技能)	Y3320
2. 代表的なセンサーを列挙し、原理および応用例を説明できる。	Y3321
3. 薬学領域で採用されるその他の分析技術 (バイオイメージング、マイクロチップなど) について概説できる。	Y3322
4. 同位体を利用した分析法の原理を説明できる。	Y3323

C3 化学物質の性質と反応

【1. 基本事項】 【関連コアカリ：(1) 1.】

1. 反応中間体(カルベン)の構造と性質を説明できる。	Y3324
2. 転位反応の特徴を述べることができる。	Y3325
3. ハードソフト理論について説明できる。	Y3326

【2. 有機化合物の立体構造】 【関連コアカリ：(1) 2.】

1. 分子模型、コンピュータソフトなどを用いて化学物質の立体構造をシミュレートできる。(知識・技能)	Y3327
--	-------

【3. アルケン・アルキン】 【関連コアカリ：(2) 1.】

1. 共役化合物の物性と反応性を説明できる。	Y3328
------------------------	-------

【4. 芳香族化合物】 (関連コアカリ：(2) 3.)

1. 芳香族化合物の求核置換反応の反応性、配向性、置換基の効果について説明できる。	Y-3-22-1
2. 代表的芳香族置換基の求核置換反応の反応性、配向性、置換基の効果について説明できる。	Y-3-22-2

【5. 概説】 (関連コアカリ：(3) 1.)

1. 代表的な官能基の定性試験を実施できる。(技能)	Y-3-23-1
----------------------------	----------

【6. アルデヒド・ケトン・カルボン酸・カルボン酸誘導体】 (関連コアカリ：(3) 4.)

1. ニトリル類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	Y-3-24-1
-------------------------------	----------

【7. 核磁気共鳴 (NMR)】 (関連コアカリ：(4) 1.)

1. 重水添加による重水素置換の意味を説明できる。	Y-3-25-1
2. 有機化合物中の代表的カーボンについて、おおよその化学シフト値を示すことができる。	Y-3-25-2
3. 代表的な化合物の部分構造を ¹ H NMRと併せて ¹³ C NMRから決定できる。(技能)	Y-3-25-3

【8. 質量分析】 (関連コアカリ：(4) 3.)

1. 代表的なフラグメンテーションを説明できる。	Y-3-26-1
2. 高分解能マススペクトルにおける分子式の決定法を説明できる。	Y-3-26-2

【9. 旋光度】 (関連コアカリ：(4))

1. 比旋光度測定による光学純度決定法を説明できる。	Y-3-27-1
2. 比旋光度と絶対配置の関係を説明できる。	Y-3-27-2

【10. 無機化合物・錯体】 (関連コアカリ：(5) 1.)

1. 錯体の安定度定数について説明できる。	Y-3-28-1
2. 錯体の安定性に対する配位子の構造的要素(キレート効果)について説明できる。	Y-3-28-2

【有機化合物の合成】

【11. 官能基の導入・変換】

1. アルケンの代表的な合成法について説明できる。	Y-3-29-1
2. アルキンの代表的な合成法について説明できる。	Y-3-29-2
3. 有機ハロゲン化合物の代表的な合成法について説明できる。	Y-3-29-3
4. アルコールの代表的な合成法について説明できる。	Y-3-29-4
5. フェノールの代表的な合成法について説明できる。	Y-3-29-5
6. エーテルの代表的な合成法について説明できる。	Y-3-29-6
7. アルデヒドおよびケトンの代表的な合成法について説明できる。	Y-3-29-7
8. カルボン酸の代表的な合成法について説明できる。	Y-3-29-8
9. カルボン酸誘導体(エステル、アミド、ニトリル、酸ハロゲン化物、酸無水物)の代表的な合成法について説明できる。	Y-3-29-9
10. アミンの代表的な合成法について説明できる。	Y-3-29-10
11. 代表的な官能基選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。	Y-3-29-11
12. 化学反応によって官能基変換を実施できる。(技能)	Y-3-29-12

【12. 炭素骨格構築反応】

1. Diels-Alder反応について説明できる。	Y-3-30-1
2. 駆位反応を用いた代表的な炭素骨格の構築法を列挙し、説明できる。	Y-3-30-2
3. 代表的な炭素-炭素結合生成反応(アルドール反応、マロン酸エステル合成、アセト酢酸エステル合成、Michael付加、Mannich反応、Grignard反応、Wittig反応など)について説明できる。	Y-3-30-3

【13. 精密有機合成】

1. 代表的な位置選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。	Y-3-31-1
2. 代表的な立体選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。	Y-3-31-2
3. 官能基毎に代表的な保護基を列挙し、その応用例を説明できる。	Y-3-31-3
4. 光学活性化合物を得るための代表的な手法(光学分割、不斉合成など)を説明できる。	Y-3-31-4
5. 固相合成法の特徴を説明できる。	Y-3-31-5
6. グリーンケミストリーについて説明できる。	Y-3-31-6

【14. 総合演習】

1. 課題として与えられた化合物の合成法を立案できる。(知識・技能)	Y-3-32-1
2. 基本的な医薬品を合成できる。(技能)	Y-3-32-2
3. 反応廃液を適切に処理する。(技能・態度)	Y-3-32-3

【15. プロセスケミストリー】

1. 医薬品製造に用いられる試薬、溶媒、反応装置が持つべき条件を列挙できる。	Y-3-33-1
2. 工業的生産における精製法を列挙し、その特徴を説明できる。	Y-3-33-2
3. 医薬品製造における原子経済(原子効率)について説明できる。	Y-3-33-3
4. 医薬品製造において環境保全に配慮すべき点を列挙し、その対処法を概説できる。	Y-3-33-4

C4 生体分子・医薬品の化学による理解

【1. 生体内で機能する小分子】 【関連コアカリ：(1) 2.】

1. 生体内に存在する代表的な複素環化合物を列挙し、構造式を書くことができる。	
2. 代表的な生体内アミンを列挙し、化学的性質を説明できる。	

【2. 生体内で起こる有機反応】 【関連コアカリ：(2) 4.】

1. 薬物代謝酵素の反応機構を説明できる。	
2. 化学構造から代謝物を予測できる。	

【創薬探索研究—医薬品リード化合物の探索と最適化—】

【3. 概説】

1. 古典的な医薬品開発から理論的な創薬への歴史について説明できる。	
------------------------------------	--

【4. リード化合物の探索】

1. スクリーニングの対象となる化合物の起源について説明できる。	
2. 代表的スクリーニング法を列挙し、説明できる。	
3. コンビナトリアルケミストリーについて説明できる。	

【5. リード化合物の最適化】

1. 定量的構造活性相関のパラメータを列挙し、その薬理活性等に及ぼす効果について説明できる。	
2. 体内動態・薬物代謝を考慮したドラッグデザインについて説明できる。	
3. 副作用・毒性の軽減を目的としたドラッグデザインについて説明できる。	
4. ドラッグデザインにおけるコンピューターの利用法を説明できる。	

C5 自然が生み出す薬物

【1. 薬用植物】 【関連コアカリ：(1) 1.】

1. 薬用植物の歴史について概説できる。	
2. 代表的な有毒植物について説明できる。	

【2. 生薬とは】 【関連コアカリ：(1)】

1. 生薬の歴史について説明できる。	
2. 生薬の生産と流通について説明できる。	

【3. 生薬の同定と品質評価】 【関連コアカリ：(1) 3.】

1. 代表的な生薬の確認試験を実施できる。(技能)	
---------------------------	--

【4. 生薬由来の生物活性物質の構造と作用】 【関連コアカリ：(2) 1.】

1. 脂質や糖質に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質の構造を生合成経路に基づいて説明できる。	
2. 芳香族化合物に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質の構造を生合成経路に基づいて説明できる。	
3. テルペノイド、ステロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質の構造を生合成経路に基づいて説明できる。	
4. アルカロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質の構造を生合成経路に基づいて説明できる。	

【5. 天然生物活性物質の利用】 【関連コアカリ：(2) 4.】

1. 天然資源から医薬品の種(シーズ)の探索法について、具体的に説明できる。	
2. シーズの探索に貢献してきた伝統医学、民族植物学を例示して説明できる。	
3. 医薬原料としての天然物質の資源確保に関して問題点を列挙できる。	
4. サプリメントや健康食品などとして使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を挙げることができる。	

【6. 海洋生物由来の生物活性物質の構造と作用】 【関連コアカリ：(2)】

1. 海洋生物由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その基原、作用を説明できる。	
---	--

C6 生命現象の基礎

【1. 細胞小器官】 【関連コアカリ：(1) 2.】

1. オートファジーについて分子レベルで説明できる。	
2. 細胞核を構成する核膜、核小体の構造と機能を分子レベルで説明できる。	

【2. ヌクレオチドと核酸】 【関連コアカリ：(2) 5.】

1. DNAを抽出できる。(技能)	
-------------------	--

【3. 生体分子の定性、定量】 【関連コアカリ：(2) 8.】

1. 脂質の定性および定量試験を実施できる。(技能)	
2. 糖質の定性および定量試験を実施できる。(技能)	

3. アミノ酸の定性および定量試験を実施できる。(技能)	Y-3-47-1
4. タンパク質の定性および定量試験を実施できる。(技能)	Y-3-47-2
5. 核酸の定性および定量試験を実施できる。(技能)	Y-3-47-3

【4. タンパク質の構造と機能】 (関連コアカリ：(3) 1.)

1. タンパク質の分離、精製と分子量の測定法を説明し、実施できる。(知識・技能)	Y-3-48-1
2. タンパク質のアミノ酸配列決定法を説明できる。	Y-3-48-2
3. タンパク質の代表的な二次構造(モチーフ)や機能領域(ドメイン)を説明できる。	Y-3-48-3
4. タンパク質発現プロファイルを解析するための技術(2次元電気泳動法、ペプチド質量分析に基づくタンパク質の同定方法など)を説明できる。	Y-3-48-4
5. タンパク質間相互作用の解析に用いられる主な方法(免疫沈降、two-hybrid法など)について説明できる。	Y-3-48-5
6. プロテオーム、メタボロームについて説明できる。	Y-3-48-6

【5. 遺伝情報を担う分子】 (関連コアカリ：(4) 2.)

1. 3種類のDNAにみられるB型以外の二重らせんの構造(A型、Z型)について説明できる。	Y-3-49-1
2. バイオインフォマティクスについて説明できる。	Y-3-49-2
3. トランスクリプトームについて説明できる。	Y-3-49-3

【6. 転写・翻訳の過程と調節】 (関連コアカリ：(4) 4.)

1. 低分子RNA (siRNA、miRNA) による遺伝子発現の調節機構について分子レベルで説明できる。	Y-3-50-1
---	----------

【7. 遺伝子の変異・修復】 (関連コアカリ：(4) 5.)

1. 一塩基変異 (SNPs) が機能におよぼす影響について説明できる。	Y-3-51-1
2. 遺伝子多型 (SNPs) の解析に用いられる方法 (RFLP、SSCP法など) について説明できる。	Y-3-51-2
3. 遺伝子多型 (欠損、増幅) の解析に用いられる方法 (ゲノミックサザンプロット法など) について説明できる。	Y-3-51-3

【8. 組換えDNA】 (関連コアカリ：(4) 6.)

1. 遺伝子ライブラリーについて説明できる。	Y-3-52-1
2. PCR法による遺伝子増幅の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)	Y-3-52-2
3. PCRを実施できる。(技能)	Y-3-52-3
4. RNAの逆転写と逆転写酵素について説明できる。	Y-3-52-4
5. DNA塩基配列の決定法を説明できる。	Y-3-52-5
6. コンピューターを用いて特徴的な塩基配列を検索できる。(技能)	Y-3-52-6
7. 細胞(組織)における特定のDNAおよびRNAを抽出する方法を説明できる。	Y-3-52-7
8. 外来遺伝子を細胞中で発現させる方法を概説できる。	Y-3-52-8
9. 遺伝子発現を細胞中で人工的に抑制する方法を概説できる。	Y-3-52-9
10. 遺伝子改変生物(遺伝子導入・欠損動物、クローン動物、遺伝子組換え植物)の作製法について概説できる。	Y-3-52-10
11. 遺伝子改変生物(遺伝子導入・欠損動物、クローン動物、遺伝子組換え植物)の利用法について概説できる。	Y-3-52-11
12. ゲノム情報の創薬への利用について、創薬ターゲットの探索の代表例(イマチニブなど)を挙げ、ゲノム創薬の流れについて説明できる。	Y-3-52-12
13. ゲノムの生物種間多様性とその創薬での重要性を説明できる。	Y-3-52-13

【9. ATPの産生と糖質代謝】 (関連コアカリ：(5) 2.)

1. ATP産生阻害物質を列挙し、その阻害機構を説明できる。	Y-3-53-1
2. アルコール発酵、乳酸発酵の生理的役割を説明できる。	Y-3-53-2
3. ATP以外の高エネルギー化合物について、化学構造をもとに高エネルギーを説明できる。	Y-3-53-3

【10. 脂質代謝】 (関連コアカリ：(5) 3.)

1. リン脂質の生合成を説明できる。	Y-3-54-1
--------------------	----------

【11. 飢餓状態と飽食状態】 (関連コアカリ：(5) 4.)

1. ケト原性アミノ酸と糖原性アミノ酸の種類やエネルギー変換経路について説明できる。	Y-3-55-1
--	----------

【12. 細胞間コミュニケーション】 (関連コアカリ：(6) 3.)

1. 主な細胞外マトリックス分子の構造と機能を分子レベルで説明できる。	Y-3-56-1
-------------------------------------	----------

【13. がん細胞】 (関連コアカリ：(7) 3.)

1. がん幹細胞について分子レベルで説明できる。	Y-3-57-1
2. がん細胞の浸潤、転移について分子レベルで概説できる。	Y-3-57-2

C7 人体の成り立ちと生体機能の調節

【1. ホルモン・内分泌系による調節機構】 (関連コアカリ：(2) 2.)

1. 代表的なホルモンを挙げ、その生合成経路、および分泌調節機構を分子レベルで説明できる。	Y-3-58-1
---	----------

【2. オータコイドによる調節機構】 (関連コアカリ：(2) 3.)

1. 代表的なオータコイドの生合成経路、および分泌調節機構を分子レベルで説明できる。	Y-3-59-1
--	----------

【3. 神経伝達物質】 【関連コアカリ：(2) 4.】

1. 代表的な神経伝達物質の生合成経路、分泌調節機構、および分解経路を分子レベルで説明できる。	Y-3-60
C8 生体防御と微生物	
【1. 免疫応答の制御と破綻】 【関連コアカリ：(2) 1.】	
1. 代表的な免疫賦活療法について分子レベルで説明できる。	Y-3-61
【2. 免疫反応の利用】 【関連コアカリ：(2) 2.】	
1. モノクローナル抗体とポリクローナル抗体の作成方法を説明できる。	Y-3-62
【3. ウイルス】 【関連コアカリ：(3) 1.】	
1. 代表的な動物ウイルスの培養法、定量法について説明できる。	Y-3-63
【4. 消毒と滅菌】 【関連コアカリ：(3) 5.】	
1. 主な滅菌法を実施できる。(技能)	Y-3-64
【5. 検出方法】 【関連コアカリ：(3) 6.】	
1. 細菌の同定に用いる代表的な試験法(生化学的性状試験、血清型別試験、分子生物学的試験)について説明できる。	Y-3-65-1
2. 代表的な細菌を同定できる。(技能)	Y-3-65-2
【6. 代表的な病原体】 【関連コアカリ：(4) 2.】	
1. プリオンの構造と感染機構について分子レベルで説明できる。	Y-3-66

D 衛生薬学

D1 健康

【1. 食品機能と食品衛生】 【関連コアカリ：(3) 2.】

1. 食品の劣変を引き起こす主な反応とその機構を説明できる。	Y-4-1-1
2. 主な食品添加物の試験法を実施できる。(技能)	Y-4-1-2
3. 遺伝子組換え食品の現状を説明し、その問題点について討議する。(知識・態度)	Y-4-1-3

D2 環境

【1. 化学物質の毒性】 【関連コアカリ：(1) 1.】

1. 環境ホルモン(内分泌攪乱化学物質)が人の健康に及ぼす影響を説明し、健康影響に対する予防策を提案する。(態度)	Y-4-2-1
【2. 化学物質の安全性評価と適正使用】 【関連コアカリ：(1) 2.】	
1. 化学物質の中毒量、作用器官、中毒症状、救急処置法、解毒法を検索することができる。(技能)	Y-4-3-1
2. 薬物中毒における生体試料の取扱いについて説明できる。	Y-4-3-2
3. 代表的な中毒原因物質を分析できる。(技能)	Y-4-3-3

E 医療薬学

E2 薬理・病態・薬物治療

【1. 漢方薬の基礎】 【関連コアカリ：(10) 1.】

1. 漢方の歴史について概説できる。	Y-5-1-1
2. 漢方と中医学の特徴について説明できる。	Y-5-1-2
【2. 漢方薬の応用】 【関連コアカリ：(10) 2.】	
1. 漢方薬の薬効を構成生薬の薬能(古典的薬効)で説明できる。	Y-5-2-1
2. 日本薬局方に収載されていない頻用漢方処方(麻黄湯や五苓散など)の適応となる証、症状や疾患について例示して説明できる。	Y-5-2-2
3. 漢方薬の剤形と特徴について説明できる。	Y-5-2-3

E3 薬物治療に役立つ情報

【1. 情報源】 【関連コアカリ：(1) 2.】

1. 収集・評価した臨床研究論文を用いて、メタアナリシスを実施できる。(技能)	Y-5-3-1
---	---------

【2. 収集・評価・加工・提供・管理】 [関連コアカリ：(1) 3.]

1. 臨床上的問題を定式化し、その解決のための情報を収集・評価し、それに基づいて解決法を提案できる。(技能)	Y-5-4-1
--	---------

【3. 生物統計】 [関連コアカリ：(1) 5.]

1. 多群間の差の検定(分散分析、多重比較)を実施できる。(技能)	Y-5-5-1
2. 主な多変量解析(ロジスティック回帰分析、重回帰分析など)の概要を説明し、実施できる。(知識・技能)	Y-5-5-2
3. 点推定と区間推定を実施できる。(技能)	Y-5-5-3
4. 研究計画上の技法(症例数設定、ランダム化、盲検化など)に配慮して、有効性や安全性を評価するための臨床研究を立案できる。(技能)	Y-5-5-4
5. 観察研究における交絡を制御するための計画上の技法(マッチングなど)、統計解析上の技法(層化など)について説明できる。	Y-5-5-5

【4. 特殊な患者】 [関連コアカリ：(3)]

1. 胃ろう造設者、人工肛門造設者、気管切開患者における薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。	Y-5-6-1
--	---------

E4 薬の生体内運命

【1. TDM (Therapeutic Drug Monitoring) と投与設計】 [関連コアカリ：(2) 2.]

1. 薬物のタンパク結合、代謝および生体膜輸送の測定・解析結果に基づいて、薬物動態学的特徴を説明できる。(知識・技能)	Y-5-7-1
2. 2コンパートメントモデルに基づいた薬物速度論解析ができる。(知識・技能)	Y-5-7-2
3. 非線形最小二乗法を用いた速度論パラメータの算出ができる。(知識・技能)	Y-5-7-3
4. ベイジアン法やポピュレーションファーマコキネティクスの理論に基づいた投与設計ができる。(知識・技能)	Y-5-7-4
5. 生理学的薬物速度論モデルに基づく薬物濃度推移のシミュレーションができる。(知識・技能)	Y-5-7-5

E5 製剤化のサイエンス

【1. 製剤化】 [関連コアカリ：(2) 2.]

1. 代表的な製剤の処方設計ができる。(知識・技能)	Y-5-8-1
2. 単位操作を組み合わせて代表的な製剤を調製できる。(技能)	Y-5-8-2
3. 製剤に関連する代表的な試験法を実施し、製剤の物性を測定できる。(技能)	Y-5-8-3
4. 製剤の物性値から、製剤の品質を判定できる。(知識・技能)	Y-5-8-4
5. 製剤の物性測定に使用される装置の原理について説明できる。	Y-5-8-5

【2. 生物学的同等性】 [関連コアカリ：(2) 3.]

1. 生物学的同等性のレギュレーションについて説明できる。	Y-5-9-1
2. 異なる製剤処方間(先発品と後発品、開発途中の製剤処方変更など)の生物学的同等性を評価できる。(知識・技能)	Y-5-9-2

F 薬学臨床

【1. 臨床実習の基礎】 [関連コアカリ：(1) 3.]

1. 治験実施計画書の事前審査を体験する。(知識・技能・態度)	Y-6-1-1
2. 治験薬の処方監査、調剤、服薬指導を体験する。(知識・態度)	Y-6-1-2
3. 適正な治療の実施・管理を体験する。(知識・態度)	Y-6-1-3

【2. 医薬品の供給と管理】 [関連コアカリ：(2) 5.]

1. 院内製剤の調製を体験する。(技能・態度)	Y-6-2-1
2. 薬局製剤、漢方製剤の製造・調製を体験する。(技能・態度)	Y-6-2-2
3. 調製した製剤の品質試験を体験する。(技能・態度)	Y-6-2-3

【3. 患者情報の把握】 [関連コアカリ：(3) 1.]

1. フィジカルアセスメントを実施し、薬学的判断に活かすことができる。(技能・態度)	Y-6-3-1
--	---------

【4. 処方設計と薬物療法の実践(処方設計と提案)】 [関連コアカリ：(3) 3.]

1. 患者の栄養状態や体液量、電解質などの評価を基に適切な栄養療法や輸液療法を提案できる。(知識・態度)	Y-6-4-1
--	---------

【5. 処方設計と薬物療法の実践(薬物療法における効果と副作用の評価)】 [関連コアカリ：(3) 4.]

1. 薬物血中濃度モニタリングが必要な医薬品が処方されている患者について、血中濃度測定を体験する。(技能)	Y-6-5-1
---	---------

【6. 移植医療における薬物療法】 [関連コアカリ：(3)]

1. 移植(心・肝・腎・肺・骨髄・皮膚など)患者への薬物療法の設計を体験する。(技能・態度)	Y-6-6-1
--	---------

【7. 専門領域で活動する薬剤師】 [関連コアカリ：(3)]

1. がん化学療法において専門的に対応する薬剤師の薬物療法を体験する。(技能・態度)	Y-6-7-1
--	---------

コアカリとの関連コード(一覧表)

2. 精神科領域において専門的に対応する薬剤師の薬物療法を体験する。(技能・態度)	2672
3. 感染制御領域(HIVを含む)において専門的に対応する薬剤師の薬物療法を体験する。(技能・態度)	2673
4. 妊婦・授乳期に専門的に対応する薬剤師の薬物療法を体験する。(技能・態度)	2674
5. 緩和ケア、終末期医療において専門的に対応する薬剤師の薬物療法を体験する。(技能・態度)	2675
6. 施設において専門領域(救急医療、腎臓病薬物療法、褥瘡治療、医薬品情報等)で活動する薬剤師業務を体験する。(技能・態度)	2676

【8. 在宅(訪問)医療・介護への参画】 【関連コアカリ:(5) 1.】

1. 在宅患者の病態や生理的特性、療養環境等を考慮し、より適切な薬物療法を提案できる。(知識・態度)	2681
--	------

【9. 地域保健(公衆衛生、学校薬剤師、啓発活動)への参画】 【関連コアカリ:(5) 2.】

1. 地域保健において専門的な領域で対応する薬剤師の活動(プライマリケア、サプリメントのアドバイス、糖尿病療養指導、漢方医療、アンチドーピング活動等)を体験する。(技能・態度)	2691
--	------

【10. プライマリケア、セルフメディケーションの実践】 【関連コアカリ:(5) 3.】

1. 対応した求職者の病状や健康状態に関して、継続的な観察や指導を体験する。(技能・態度)	2701
---	------

薬学実務実習に関するガイドラインは以下のURLよりご参照ください。

http://www.mext.go.jp/a_menu/01_d/08091815.htm

五十音順索引

五十音順索引

イ

一般化学	74
医療コミュニケーション	96

エ

英会話Ⅰ	176
英会話Ⅱ	177
英語検定Ⅰ	174
英語検定Ⅱ	175
英語(講読)Ⅰ	48
英語(講読)Ⅱ	51
英語(コミュニケーション)Ⅰ	49
英語(コミュニケーション)Ⅱ	52
栄養と食品機能	132

カ

化学入門演習	232
化学平衡論	62
漢方薬物学実習	214

キ

機器分析学	104
基礎栄養学	171
基礎化学	72
基礎情報学	44
基礎情報学演習Ⅰ	46
基礎情報学演習Ⅱ	167
基礎生物学実習	208
基礎生物学集中講義	228
基礎統計学	92
基礎物理学集中講義	230
基礎分析化学集中講義	226
基礎有機化学実習	210
機能形態学Ⅰ	78
機能形態学Ⅱ	84
機能形態学Ⅲ	116

ク

薬と疾病入門	88
--------	----

ケ

計算科学	169
健康科学	146
健康スポーツ	156
健康保持と疾病予防	128
現代経済論	154

コ

国際関係論	155
-------	-----

サ

細胞生物学	80
-------	----

シ

疾病と薬物治療Ⅰ	141
疾病と薬物治療Ⅱ	143
社会学	152
社会と薬学	98
障がい論	150
生薬学	114
植物薬品学	112

ス

数学Ⅰ	42
数学Ⅱ	157

セ

生化学Ⅰ	86
生化学Ⅱ	118
生化学Ⅲ	122
生活環境と健康	130
生物学	82
ゼミナールⅠ	188
ゼミナールⅡ	194
ゼミナールⅢ	200

テ

地球環境概論	148
中国語Ⅰ	181
中国語Ⅱ	182

ト

哲学概論	161
------	-----

ト

ドイツ語Ⅰ	178
ドイツ語Ⅱ	180

ニ

人間と薬学Ⅰ	54
人間と薬学Ⅱ	57

ネ

美術・デザイン	162
微生物・免疫学実習	222
微生物学	120
病原微生物学	124

ノ

物理化学・分析化学実習	219
物理化学Ⅰ	66

物理化学Ⅱ	100
物理化学Ⅲ	106
物理学	60
物理薬剤学	134
フランス語Ⅰ	183
フランス語Ⅱ	185
文章表現	163
分析化学	68
分析化学実習	216
示	
法学	165
放射化学	70
△	
無機化学	64
×	
免疫学	126
▽	
薬学英语入門Ⅰ	94
薬学英语入門Ⅱ	95
薬理学Ⅰ	136
薬理学Ⅱ	139
□	
有機化学Ⅰ	76
有機化学Ⅱ	108
有機化学Ⅲ	110
有機化学実習	212
⓵	
臨床分析化学	102
倫理学	159

